



V40

CROSS COUNTRY

WEB EDITION
OWNER'S MANUAL



ボルボオーナーの皆様へ

この度はボルボ車をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

ボルボ社では、末永くお車をご愛顧いただけることを願っております。お買い上げいただいた車両は、運転者および同乗者の方々に安全で快適なドライビングをご提供できるように設計されています。ボルボ車は世界でもっとも安全な車の1つです。ボルボ車は、現在の安全・環境基準も満たしています。

このオーナーズマニュアルには、各装備の取り扱い方法や車のお手入れ方法などが記載されています。安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、ご使用前にこのマニュアルを必ずお読みください。





01 イン트로ダクション

オーナーズインフォメーション.....	13
オーナーズマニュアルを読む.....	13
車載のデジタルオーナーズマニュアル...	16
データの記録.....	18
アクセサリおよび追加装備.....	19
インターネット上のインフォメーション...	20
Volvo ID.....	20
ボルボ社の環境フィロソフィー.....	21
オーナーズマニュアルと環境.....	23
ラミネーテッドガラス.....	23



02 重要です。必ずお読みください。

ご使用に際して！.....	25
重要な安全上のご注意！.....	26
火災および排気ガスに関する注意.....	31
エンジン始動時のご注意！.....	34
発進時のご注意！.....	35
重要な操作上のご注意！.....	35
してはいけないこと！.....	39
その他使用上のご注意！.....	47
踏切などで動けなくなったとき！.....	48
万が一、事故を起こしてしまったら.....	48
冬道での安全走行のポイント！.....	49
タイヤ・ホイールについて！.....	50
タイヤ・チェーンについて！.....	51
燃料補給時のご注意！.....	51
保証とアフターサービス.....	52



03 セーフティ

シートベルトについて.....	54
シートベルト - 着用.....	55
シートベルト - 外す.....	56
シートベルト - 妊娠中.....	56
シートベルトリマインダー.....	57
シートベルトテンショナー.....	57
セーフティ - 警告灯.....	58
エアバッグシステム.....	59
運転席側エアバッグ.....	60
助手席エアバッグ.....	60
助手席エアバッグ - 作動/解除*.....	62
サイドエアバッグ (SIPS).....	63
サイドエアバッグ (SIPS) - チャイルド	
シート/プースタークッション.....	64
インフレーターダブルカーテン (IC).....	65
WHIPS (後部衝撃吸収リクライニング機構 付フロントシート) について.....	66
WHIPS - チャイルドシート.....	67
WHIPS - 着座姿勢.....	67
システムの作動.....	68
セーフティモードについて.....	69
セーフティモード - 車両の始動を試行 する.....	70
セーフティモード - 車両の移動.....	71



歩行者エアバッグ*	71
歩行者エアバッグ* - 車両の移動	72
歩行者エアバッグ* - たたみ方	72
お子様の安全について	73
チャイルドシート	74
チャイルドシート - 位置	78
チャイルドシート - ISOFIX	79
ISOFIX - サイズ等級	79
ISOFIX - チャイルドシートの種類	80
チャイルドシート - アッパーマウンティングポイント	82



04 計器およびコントロール装置

計器およびコントロール装置、左ハンドル車 - 概要	84
計器およびコントロール装置、右ハンドル車 - 概要	87
コンパインド・メーター・パネル	90
アナログ式コンパインド・メーター・パネル - 概要	90
液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル - 概要	91
エコガイドおよびパワーガイド*	94
コンパインド・メーター・パネル - インジケーター・シンボルの意味	95
コンパインド・メーター・パネル - 警告灯の意味	97
外気温計	99
トリップメーター(走行距離計)	99
時計	100
コンパインド・メーター・パネル - ライセンス	100
ディスプレイのシンボル	101
ボルボ・センサス	104
キー位置	105
キー位置 - 各レベルでの機能	106
シート、フロント	107
シート、フロント - 電動	109



シート、リア	110
ステアリングホイール	112
ライトスイッチ	113
ポジションランプ/テールランプ	115
トンネルの検知*	115
ハイ/ロービーム	115
アクティブハイビーム*	116
アクティブキセノンヘッドライト*	118
リアフォグランプ	118
ブレーキランプ	119
非常点滅表示灯	119
方向指示器	120
ルームランプ	121
ホームセーフライト点灯	122
アブローチライト点灯	122
ヘッドライト - 車両通行帯ヘッドライト照射パターン	123
ワイパー/ウォッシャー	126
パワーウインド	128
ドアミラー	130
ウインド、ルームミラー、ドアミラー - ヒーター	131
ルームミラー	132
パノラマ・ガラスルーフ*	132



目次



コンパス.....	133
メニューナビゲーション - コンパインド・メーター・パネル.....	134
メニュー概要 - アナログ式コンパインド・メーター・パネル.....	135
メニュー概要 - 液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル.....	135
メッセージ.....	135
メッセージ - 取り扱い.....	136
MY CAR.....	137
トリップコンピューター.....	138
トリップコンピューター - アナログ式コンパインド・メーター・パネル.....	139
トリップコンピューター - 液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル.....	143
トリップコンピューター - 補足情報...	147
トリップコンピューター - 走行統計*..	148



05 エアコンディショナー

エアコンディショナーご使用にあたって	150
実際の温度.....	151
センサー - エアコンディショナー.....	151
エア・クオリティ.....	151
エア・クオリティ - クリーンエアフィルター.....	152
エア・クオリティ - クリーン・ゾーン・インテリア・パッケージ(CZIP)*.....	152
エア・クオリティ - IAQS*.....	153
エア・クオリティ - 素材.....	153
メニュー設定 - エアコンディショナー	153
車内のエアディストリビューション...	154
オートマチック・エアコンディショナー - ECC*.....	156
エレクトロニック・テンパレチャ・コントロール - ETC.....	157
フロントシートヒーター*.....	158
リアシートヒーター*.....	158
ファン.....	159
自動調節.....	160
車内の温度コントロール.....	160
エアコンディショナー.....	161
ウインドスクリーンの曇りおよび霜の除去.....	161



エアディストリビューション - リサーチレーション.....	162
エアディストリビューション - 一覧表.....	163
エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター*.....	165
エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - ダイレクトスタート.....	166
エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - 即時停止.....	167
エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - タイマー.....	167
エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - メッセージ.....	168
アディショナルヒーター*.....	169
フューエルドリブンアディショナルヒーター*.....	169
電気アディショナルヒーター*.....	170



06 荷物の積み込みおよび収納

収納スペース.....	172
収納ボックス、運転席側.....	174
トンネルコンソール.....	174
トンネルコンソール - アームレスト.....	174
トンネルコンソール - シガレットライターおよび灰皿*.....	175
グローブボックス.....	175
グローブボックス - 冷却.....	175
フロアマット*.....	176
メイクアップミラー.....	176
トンネルコンソール - 12V 電源ソケット.....	176
荷物の積み込み.....	177
荷物の積み込み - 長い荷物.....	178
ルーフの荷物.....	178
荷物固定用アイレット.....	179
荷物の積み込み - バッグホルダー.....	179
荷物の積み込み - 折りたたみ式バッグホルダー*.....	179
12V 電源ソケット - カーゴスペース.....	180
カーゴネット.....	181
ハットシェルフ.....	183



07 ロックおよびアラーム

リモートコントロールキー.....	185
リモートコントロールキー - 紛失.....	185
リモートコントロールキー - パーソナライズ*.....	186
ロック/ロック解除 - インジケータ.....	187
ロックインジケータ.....	187
リモートコントロールキー - 電子式イモビライザー.....	187
追跡システム搭載の遠隔操作式イモビライザー*.....	188
リモートコントロールキー - 機能.....	188
リモートコントロールキー - 作動範囲.....	190
PCC 付きリモートコントロールキー* - 独自機能.....	190
PCC 付きリモートコントロールキー* - 作動範囲.....	191
脱着式キーブレード.....	192
脱着式キーブレード - 取り外し/取り付け.....	192
脱着式キーブレード - ドアロック解除.....	193
リモートコントロールキー/PCC - 電池の交換.....	193
キーレスドライブ*.....	195
キーレスドライブ* - 作動範囲.....	195



キーレスドライブ* - リモートコントロールキーの安全な取り扱い.....	196
キーレスドライブ* - リモートコントロールキー機能への干渉.....	196
キーレスドライブ* - ロック.....	196
キーレスドライブ* - ロック解除.....	197
キーレスドライブ* - キーブレードによるロック解除.....	197
キーレスドライブ* - ロック設定.....	198
キーレスドライブ* - アンテナ位置.....	198
ロック/ロック解除 - 車外から.....	199
手動ドアロック.....	200
ロック/ロック解除 - 車内から.....	200
グローバルオープニング.....	201
ロック/ロック解除 - グローブボックス.....	202
ロック/ロック解除 - テールゲート.....	202
ロック/ロック解除 - 燃料給油口ラップ.....	204
デッドロック*.....	204
チャイルドロック - 手動による作動.....	206
チャイルドロック - 電動ロック*.....	206
アラーム.....	207
アラーム表示灯.....	208
アラーム - 自動再セット.....	208



アラーム - 自動セット.....	209
アラーム - リモートコントロールキーが 使用できない.....	209
アラームシグナル.....	209
アラームの機能解除.....	210
型式認定 - リモートコントロールキーシ ステム.....	210



08 運転者サポート

エレクトロニック・スタビリティ・コント ロール (ESC) - 概要.....	212
エレクトロニック・スタビリティ・コント ロール (ESC) - 操作.....	213
エレクトロニック・スタビリティ・コント ロール (ESC) - シンボルおよびメッ セージ.....	214
ロード・サイ ン・インフォメーション (RSI).....	216
ロード・サイン・インフォメーション (RSI)* - 操作.....	216
ロード・サイン・インフォメーション (RSI)* - 制限事項.....	218
速度リミッター*.....	219
速度リミッター* - 開始する.....	219
速度リミッター* - 速度変更.....	220
速度リミッター - 一時的解除およびスタ ンバイモード*.....	221
速度リミッター* - 速度超過時のア ラーム.....	222
速度リミッター* - 解除.....	222
クルーズコントロール*.....	222
クルーズコントロール* - 速度の管理.....	223
クルーズコントロール*の一時的解除およ びスタンバイモード.....	225



クルーズコントロール* - 設定速度の 再開.....	226
クルーズコントロール* - 解除.....	227
アダプティブクルーズコントロール (ACC)*.....	227
アダプティブクルーズコントロール* - 機能.....	228
アダプティブクルーズコントロール* - 概要.....	230
アダプティブクルーズコントロール* - 速度の管理.....	231
アダプティブクルーズコントロール* - 車間時間設定.....	232
アダプティブクルーズコントロール* - 一時的解除およびスタンバイモード.....	233
アダプティブクルーズコントロール* - 追い越し.....	234
アダプティブクルーズコントロール* - 解除.....	234
アダプティブクルーズコントロール* - 渋滞アシスタント.....	234
アダプティブクルーズコントロール* - クルーズコントロール機能に切り替える レーダーセンサー.....	237
レーダーセンサー - 制限事項.....	238



アダプティブクルーズコントロール* - 故障点検および対処.....	240
アダプティブクルーズコントロール* - シンボルおよびメッセージ.....	241
車間警告機能*.....	243
車間警告機能* - 制限事項.....	244
車間警告機能* - シンボルおよびメッセージ.....	245
City Safety™.....	246
City Safety™ - 機能.....	247
City Safety™ - 操作.....	247
City Safety™ - 制限事項.....	248
City Safety™ - レーザーセンサー.....	250
City Safety™ - シンボルおよびメッセージ.....	252
衝突警告システム*.....	253
衝突警告システム* - 機能.....	254
衝突警告システム* - サイクリストの検知.....	255
衝突警告システム* - 歩行者の検知....	256
衝突警告システム* - 操作.....	257
衝突警告システム* - 制限事項.....	259
衝突警告システム* - カメラセンサー制限事項.....	260



衝突警告システム* - シンボルおよびメッセージ.....	261
ドライバー・アラート・システム - DAC*.....	263
Driver Alert Control (DAC)*.....	263
Driver Alert Control (DAC)* - 操作... ..	264
Driver Alert Control (DAC)* - シンボルおよびメッセージ.....	265
レーン・キープ・エイド*.....	266
レーン・キープ・エイド - 機能... ..	266
レーン・キープ・エイド - 作動... ..	268
レーン・キープ・エイド - 制限事項.....	268
レーン・キープ・エイド - シンボルおよびメッセージ.....	270
パークアシスト*.....	271
パークアシスト* - 機能.....	271
パークアシスト* - リア.....	272
パークアシストシステム* - フロント..	273
パークアシスト* - 異常表示.....	274
パークアシスト* - センサーの清掃....	274
パークアシスト・カメラ.....	275
パークアシスト・カメラ - 設定.....	278
パークアシスト・カメラ - 制限事項... ..	279
パークアシスト・パイロット (PAP)*....	279



パークアシスト・パイロット (PAP)* - 機能.....	280
パークアシスト・パイロット (PAP)* - 操作.....	281
パークアシスト・パイロット (PAP)* - 制限事項.....	282
パークアシスト・パイロット (PAP)* - シンボルおよびメッセージ.....	284
BLIS (ブラインド・スポット・インフォメーション・システム).....	284
BLIS - 操作.....	285
CTA*.....	287
BLIS および CTA - シンボルおよびメッセージ.....	289
ステアリングホイール操舵力の調節....	289
型式認定 - レーダーシステム.....	290



09 運転操作の要領

アルコールロック*	292
アルコールロック* - 機能および操作	292
アルコールロック* - 保管	293
アルコールロック* - エンジン始動前	293
アルコールロック* - 注意事項	295
アルコールロック* - シンボルおよびメッセージ	296
エンジンの始動	297
エンジンを切る	298
ステアリングホイールロック	298
ジャンプスタート	299
トランスミッション	300
マニュアルトランスミッション	300
ギヤシフトインジケーター*	301
オートマチックトランスミッション - Geartronic(ギヤトロニック)*	301
オートマチックトランスミッション - Powershift(パワーシフト)*	305
ギヤセクターインヒビター	308
坂道発進支援機能 - (HSA)*	309
Start/Stop*	309
Start/Stop* - 機能と操作	310
Start/Stop* - エンジンが停止しない	312
Start/Stop* - エンジンが自動始動する	313



Start/Stop* - エンジンが自動始動しない	314
Start/Stop* - 不意の停止(マニュアルトランスミッション)	314
Start/Stop* - 設定	315
Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ	316
ECO*	318
全輪駆動(AWD)*	320
Hill Descent Control(HDC)	320
フットブレーキ	321
フットブレーキ - アンチロックブレーキシステム	323
フットブレーキ - アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅表示灯	323
フットブレーキ - エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス	323
パーキングブレーキ	324
水溜りでの運転	325
オーバーヒート	325
テールゲートを開けたままの走行	326
過負荷 - メインバッテリー	326
長距離走行の前に	327
冬季の運転	327
燃料給油口フラップ - 開閉	328



燃料給油口フラップ - 手動	328
適切な給油方法	328
燃料 - 取り扱い	329
燃料 - ガソリン	330
燃料 - ディーゼル	330
触媒コンバーター	332
燃料容器での給油	332
ディーゼル微粒子除去フィルター(DPF)	332
経済走行	333
トレーラーなどのけん引	334
トレーラーを使用した走行 - マニュアルトランスミッション	335
トレーラーを使用した走行 - オートマチックトランスミッション	335
トローイングブラケット	336
脱着式トウバー* - 保管	337
脱着式トウバー* - 仕様	337
脱着式トウバー* - 取り付け/取り外し	338
トレーラー・スタビリティ・アシスト - TSA	340
けん引	341
けん引フック	343
車両の回収	344



10 ホイールおよびタイヤ

タイヤ - メンテナンス.....	346
タイヤ - 回転方向.....	347
タイヤ - トレッド磨耗インジケーター.....	347
タイヤ - 空気圧.....	348
ホイールおよびホイールリム寸法.....	349
タイヤ - 寸法.....	349
タイヤ - ロードインデックス.....	349
タイヤ - 速度記号.....	350
ホイールナット.....	350
ウインタータイヤ.....	351
スペアタイヤ*.....	352
ホイールの交換 - スペアタイヤ*の取り出し.....	352
ホイールの交換 - ホイールを取り外す.....	353
ホイールの交換 - スペアタイヤ*取り付け.....	355
三角警告板(停止表示板).....	357
ジャッキ.....	358
救急用品キット*.....	358
タイヤ・プレッシャー・モニタリング*.....	358
タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 概要.....	359
タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 調節(再校正).....	360



タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 状態.....	361
タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 起動/解除.....	362
タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 推奨事項.....	362
タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - ランフラットタイヤ*.....	363
タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 低すぎるタイヤ空気圧の修正.....	363
タイヤ・プレッシャー・モニタリング (TM)*.....	364
緊急パンクリペアーキット*.....	366
緊急パンクリペアーキット* - 位置.....	366
緊急パンクリペアーキット* - 概要.....	368
緊急パンクリペアーキット* - 操作.....	368
緊急パンクリペアー* - 再点検.....	370
緊急パンクリペアーキット*による空気注入.....	371
緊急パンクリペアー* - コンポーネントの後片付け.....	372
緊急パンクリペアーキット* - シーリングリキッド.....	372
型式認定 - タイヤ・プレッシャー・モニタリング (TPMS).....	373



11 保守点検

ボルボメンテナンスサービスプログラム	380
サービスと修理の予約*.....	380
車両リフトアップ.....	383
ボンネット - 開閉.....	385
エンジンルーム - 概要.....	385
エンジンルーム - 点検.....	387
エンジンオイル - 一般.....	387
エンジンオイル - 点検および補充.....	388
クーラント - レベル.....	392
ブレーキおよびクラッチフルード - レベル.....	393
エアコンディショナーシステム - トラブルシューティングと修理.....	394
ランプ交換 - 一般.....	394
ランプ交換 - フロントランプの位置.....	395
ランプ交換 - ヘッドライト.....	395
ランプ交換 - ハイ/ロービームバルブ用カバー.....	396
ランプ交換 - ロービーム.....	396
ランプ交換 - ハイビーム.....	397
ランプ交換 - エクストラハイビーム.....	397
ランプ交換 - フロント方向指示器.....	398
ランプ交換 - ポジションランプ.....	398
ランプ交換 - リアランプの位置.....	398



目次



ランプ交換 - リア方向指示器、ブレーキランプ、後退灯.....	399
ランプ交換 - リアフォグランプ.....	399
ランプ交換 - メイクアップミラーランプ.....	400
ランプ - 仕様.....	400
ワイパーブレード.....	401
ウォッシュャー液 - 補充.....	403
メインバッテリー - 一般.....	404
バッテリー - シンボル.....	405
メインバッテリー - 交換.....	406
バッテリー - Start/Stop.....	406
電気系統.....	408
ヒューズ - 一般.....	409
ヒューズ - エンジンルーム内.....	410
ヒューズ - グローブボックス下.....	414
ヒューズ - 右側フロントシート下.....	417
洗車.....	420
磨きおよびワックスがけ.....	421
撥水/防塵加工コーティング.....	422
防錆.....	423
内装の清掃.....	423
塗装の損傷.....	424



12 仕様

タイプの表示.....	427
寸法.....	429
重量.....	430
けん引重量およびトウボール荷重.....	431
エンジンの仕様.....	434
エンジンオイル - 過酷な走行条件.....	435
エンジンオイル - グレードおよび容量.....	436
クーラント - グレードおよび容量.....	438
トランスミッションフルード - グレードおよび容量.....	439
ブレーキフルード - グレードおよび容量.....	441
ウォッシュャー液 - 品質および容量.....	441
燃料タンク - 容量.....	442
エアコンディショナー、フルード - 容量およびグレード.....	443
燃料消費量およびCO2 排出量.....	445
タイヤ - 承認された空気圧.....	446



13 50 音順索引

50 音順索引.....	448

13

01



イントロダクション



オーナーズインフォメーション

車両には車両に関する情報を参照できる画面が装備されています¹。

画面にオーナーズインフォメーション(オーナー様への情報)が表示される車両の場合、印刷版オーナーズマニュアルは補足として使用されるものであり、最新の更新内容、重要な情報の他に、(実用的な理由で)画面を確認できないときに役立つ可能性のある指示が収録されています。

画面上の言語は変更できますが、情報が国や地域の法令に該当しないことがあります。

重要

安全運転を行い、適用される法律や規則に従う責任は、つねに運転者にあります。また、オーナーズマニュアルに記載されているボルボの推奨事項に従って、車両の維持および取り扱いを行うことも重要です。

万が一、画面の情報とマニュアル(印刷版)の情報が異なる場合、必ず印刷版のマニュアルに記載されている情報に従ってください。

オーナーズマニュアルを読む

運転の前に、ボルボ車についてご理解いただくため、オーナーズマニュアルを十分にお読みください。

オーナーズマニュアルをお読みになると、新しい機能をご理解いただけると共に、さまざまな状況で適切な判断ができ、また車両の色々な機能を十分にご活用いただけます。オーナーズマニュアルに記載されている、注意、警告指示を厳守してください。

このオーナーズマニュアルに記載されている車両の仕様、諸元および図は参考です。製造者(メーカー)が予告なく変更する場合があります。

© Volvo Car Corporation

モバイル機器対応のオーナーズマニュアル



注意

オーナーズマニュアルはモバイルアプリケーションとしてダウンロードすることができます(一部の車両モデルおよびモバイル機器向けに限定)。 www.volvocars.com を参照してください。

モバイルアプリケーションは、動画や検索可能なコンテンツが含まれているだけでなく、セクション間の移動も簡単です。

オプション/アクセサリ

このオーナーズマニュアルでは、オプション装備には* マークが付いています。

標準装備の他に、オプション装備(メーカーオプション)やアクセサリ装備(ディーラーオプション)などについても記載されています。

オーナーズマニュアルに記載されていても、車両にその装備がない場合があります。車両の装備は、各市場でのニーズや、国、地域の法規に適合するようになっています。

標準装備またはオプション/アクセサリ装備についてご不明な点は、ボルボ指定のディーラーにお問い合わせください。

¹一部の車両モデルに適用されます。



01 イン트로ダクション



特別なテキスト

警告

ケガのおそれがあれば、警告テキストが表示されます。

重要

損傷のおそれがあれば、「重要」と表示されます。

注意

「注意」には、装備や機能を使いやすくするためのヒントなどが記載されています。

脚注

このオーナーズマニュアルでは、ページの下に脚注が記載されている場合があります。これは、本文中の番号に対応した補足情報です。表内の記載に対応した脚注の場合は、参照先の番号ではなく文字が使用されています。

ディスプレイテキスト

車内には、メニューテキストとディスプレイテキストを表示する画面があります。オーナーズマニュアルでは、ディスプレイに表示されるテキストと通常のテキストは書体が異なります。メニューテキストおよびディスプレイテキストの例：**メディア**、**場所を送信中**。

表示ラベル

重要な情報を簡潔かつ明確な方法で表示するように、車内にはさまざまな表示ラベルが使用されています。表示ラベルは、警告/情報の重要度に応じて次のように分類されています。

ケガに対する警告



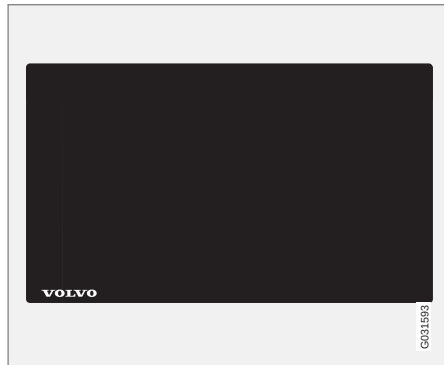
黄色地に黒の ISO シンボル、メッセージ欄は黒地に白字テキスト/イメージ。危険な状況であることを示すために使用。この警告を無視した場合、大ケガや死亡にいたるおそれがあります。

重大な損傷のおそれ



黒地または青地の警告欄およびメッセージ欄に、白の ISO シンボルおよび白字テキスト/イメージ。危険な状況であることを示すために使用。この警告を無視した場合、物品などが損傷を受けるおそれがあります。

インフォメーション



黒地のメッセージ欄に、白の ISO シンボルおよび白字テキスト/イメージ。

注意

オーナーズマニュアルに掲載されている表示ラベルは、車両の表示ラベルと若干異なっている場合があります。ラベル掲載の目的は、ラベルの概観と車両に貼られている位置を示すことです。お客様の車両に当てはまる情報は、車両内の各ラベルをご確認ください。

作業手順のリスト

このオーナーズマニュアルでは、指定の順番で行うべき作業手順には、番号が付いています。

1 作業手順がステップ・バイ・ステップで図示されている場合は、図の中に手順に対応した番号が付いています。

A 作業手順を指定の順番で行う必要がない場合は、行頭に ABC が付いた箇条書きの説明が図の近くにあります。

➡ 矢印(番号付きの矢印、番号のない矢印の両方があります)は、稼動部分の動きを示すためのものです。

A➡ 順序を変えても問題がない場合には、動きをはっきりさせるために文字を伴った矢印が使用されています。

作業手順がステップ・バイ・ステップで図示されていない場合は、手順を示す番号には普通の字体が使われています。

位置リスト

1 図の中の色々なコンポーネントを指し示すには、赤丸付きの番号が使用されています。図のそばに位置リストがあり、それぞれの番号は図の中の番号と対応しています。

箇条書き

順不同のものを表記するときは、黒丸付きの箇条書きが使用されています。

例：

- ・ クーラント
- ・ エンジンオイル

関連情報

密接に関連している情報を含む他の記事を指しています。

図

本書の図には略図が使用されていることがあるため、装備レベルや市場によっては、実際の車両と外観が異なる場合があります。

次ページに続く

▶▶ このシンボルは、記事が次ページに続いている場合、ページの右下に表示されます。

前ページから続く

◀◀ このシンボルは、記事が前ページから続いている場合、ページの左上に表示されます。

関連情報

- ・ オーナーズマニュアルと環境 (p. 23)
- ・ インターネット上のインフォメーション (p. 20)

車載のデジタルオーナーズマニュアル

車内²の画面でオーナーズマニュアルを読むことができます。コンテンツは検索可能で、セクション間の移動も簡単です。

デジタルオーナーズマニュアルを見る - センターコンソールの **MY CAR** ボタンを押し、**OK/MENU** を押して、**オーナーズマニュアル** を選択します。

ナビゲーションの基本操作については、「システムの操作」を参照してください。詳しくは以下を参照してください。



オーナーズマニュアル、スタートページ

デジタル版オーナーズマニュアルの中で目的の情報を見つけるには、以下の4通りの方法があります。

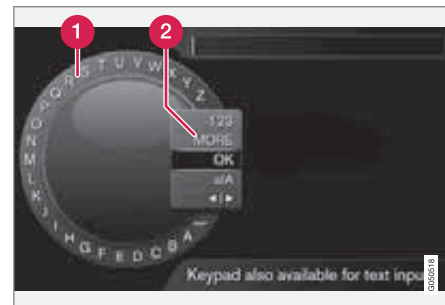
- **検索** - 記事を見つけるための検索機能
- **カテゴリ** - すべての記事がカテゴリ別に分類されています。
- **お気に入り** - ブックマークに登録したお気に入りの記事を素早く表示できます。
- **Quick Guide** - よく使う機能の記事が集められています。

デジタルオーナーズマニュアルに関する情報入手するには、右下隅のインフォメーションシンボルを選択してください。

注意

走行中にデジタルオーナーズマニュアルを利用することはできません。

検索



テキストホイールによる検索

① 文字リスト

② 入力モードの変更(次の表を参照してください)。

テキストホイールを使用して、検索語(「シートベルト」など)を入力します。

1. 入力したい文字まで **TUNE** を回して、**OK/MENU** を押して確定します。センターコンソールのコントロールパネルの番号や文字ボタンも使用できます。
2. 同様に順々に次の文字に進みます。

² 一部の車両モデルに適用されます。

3. 入力モードを数字や特殊文字に変える場合、または検索を実行するには、**TUNE** を入力モードの変更(2)のリストにあるオプションのいずれか(以下の一覧表の説明を参照)まで戻し、**OK/MENU** を押します。

123/A BC	OK/MENU で文字と番号を切り替えます。
MORE	OK/MENU で特殊文字に切り替えます。
OK	検索を実行します。 TUNE を回して検索結果記事を選択し、 OK/MENU を押して記事に移動します。
a A	OK/MENU を押して、小文字と大文字を切り替えます。
◀ ▶	テキストホイールから検索フィールドに変わります。 TUNE でカーソルを動かします。 EXIT を押して、スペルミスを削除します。テキストホイールに戻るには、 OK/MENU を押します。 コントロールパネルの数字ボタンおよび文字ボタンは、検索フィールドでの編集にも使用することができます。

番号キーで入力する



番号キー

文字の入力方法には、センターコンソールのボタン **0~9**、*****、**#**を使用する方法もあります。

例えば、**9**を押すと、パーが表示され、そのボタンに関連付けられている文字³(**W**、**x**、**y**、**z**、**9**)がすべて表示されます。ボタンを軽く押すと、カーソルがこれらの文字を移動します。

- 目的の文字でカーソルを止めると、その文字が選択され、入力ラインに表示されます。
- **EXIT** を使用すると、削除する/元に戻すことができます。

番号を入力するには、対応する番号キーを押したままにします。

カテゴリ

オーナーズマニュアルの記事は、メインカテゴリおよびサブカテゴリの形式に構成されて

います。検索性を向上させるために、同じ記事が複数の適切なカテゴリに分類されています。

TUNE を回すとカテゴリツリー内を移動でき、**OK/MENU** を押すとカテゴリ(選択された **■**)または記事(選択された **□**)が開きます。**EXIT** を押すと、前のビューに戻ります。

お気に入り

ここには、お気に入りとして保存されている記事があります。任意の記事をお気に入りとして選択する方法については、「記事内での移動」の項を参照してください。

TUNE を回すとお気に入りリスト内を移動でき、**OK/MENU** を押すと記事が開きます。**EXIT** を押すと、前のビューに戻ります。

Quick Guide

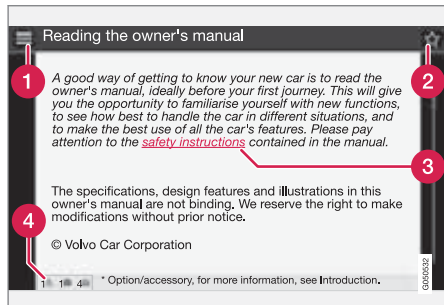
ここには、車両のよく使われる機能を理解するための記事が集められています。記事はカテゴリを使用して閲覧することもできますが、ここでは、素早く閲覧できるようにまとめられています。

TUNE を回すと Quick Guide 内を移動でき、**OK/MENU** を押すと記事が開きます。**EXIT** を押すと、前のビューに戻ります。

³ 各ボタンの文字は、市場/国/言語により異なる場合があります。



記事内での移動



- 1 **ホーム** - オーナーズマニュアルのスタートページに移動します。
- 2 **お気に入り** - 記事をお気に入りに追加/お気に入りから削除します。記事をお気に入りに追加/お気に入りから削除するには、センターコンソールの **FAV** ボタンを押す方法もあります。
- 3 **ハイライト表示のリンク** - リンクされている記事に移動します。
- 4 **特別なメッセージ** - 記事に警告、重要メッセージまたは参考メッセージが含まれている場合、該当するシンボルと記事に含まれている当該メッセージの数がここに表示されます。

TUNE を回すと、リンク間の移動、または記事内でのスクロール移動ができます。画面を記事の先頭/末尾までスクロールした後、さらに1ステップ上/下にスクロールすると、ホームおよびお気に入りオプションが表示されます。**OK/**

MENU を押すと、選択項目/ハイライト表示のリンク先にジャンプできます。**EXIT** を押すと、前のビューに戻ります。

関連情報

- インターネット上のインフォメーション (p. 20)

データの記録

車両の作動状況や機能の一部の情報および事故のデータが車両に記録されます。

車両の作動状況や機能を継続的に点検し、監視するために、複数のコンピューターが車両に搭載されています。これらのコンピューターの中には、エラーを検知すると通常走行中に関連情報を記録できるものがあります。さらに、衝突や事故が発生したときにも情報が記録されます。整備点検時に技術者が診断を実施し、車両の不具合を是正できるように、記録された情報の一部が使用されます。またこれらの情報は、ボルボ社が法律その他で定められた要件を満たすためにも必要となります。これに加え、こうした情報は品質や安全性を絶えず向上させるため、研究目的でも使用されます。こうした情報を通して、事故やケガの要因をよりよく理解できるようになるためです。記録される情報には、エンジンやスロットル、ステアリングシステムやブレーキシステムなど、車両内のさまざまなシステムおよびモジュールのステータスや機能に関する詳細情報が含まれます。また、この情報には、車速、ブレーキペダルやアクセルペダルの使用状況、ステアリングホイールの動き、運転者や助手席乗員がシートベルトを使用したかどうかなど、運転者が車両を運転する様子に関する詳細が含まれる場合があります。上述のような理由のため、この情報は車両のコンピューターに一定期間保存されますが、衝突や事故の結果として保存される場合もあります。また、開発を重ね、安全性や品質をさらに向上させるためにこうした情報が有用である期間、

また法的要件によりこうした情報が必要とされるとボルボが考える期間、ボルボ社が該当情報を記録しておく場合もあります。

車両所有者の同意なしに、ボルボが上述の情報を第三者に開示することはありません。しかし、国の法律などにより、警察など情報にアクセスする法的権利を行使する当局に対して、情報を開示することが求められる場合もあります。

車両のコンピューターに記録された情報を読み取り、解釈するためには特殊な機器が必要です。ボルボ社およびボルボ社と契約を結んでいるサービス工場は、そのような機器を利用しています。ボルボ社は、点検整備時にボルボに転送される情報が、安全な方法で保管ならびに処理され、その処理が適用される法的要件を満たすものであるように保証する責任を負っていません。詳しくはボルボディーラーにお問い合わせください。

アクセサリおよび追加装備

アクセサリの接続不良または取り付け不良は、車両の電気系統に悪影響をおよぼす可能性があります。

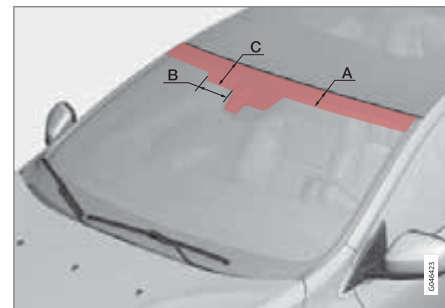
一部のアクセサリは、車両のコンピューターシステムに関連ソフトウェアをインストールしないと正常に作動しません。このため、ボルボは、電気系統に接続または影響するアクセサリを取り付ける前には、ボルボ指定のサービス工場へのお問い合わせを推奨します。

熱反射ウインドスクリーン*

ウインドスクリーンには、熱を反射するフィルム(IR)が装備され、車内に入り込む太陽熱放射を削減します。

トランスポンダーなどの電子機器を熱反射フィルムの後ろなどに配置すると、機能や性能を低下させる場合があります。

電子機器の機能を最適に保つためには、機器はウインドスクリーンの、熱反射フィルムが貼られていない場所に配置してください(図のハイライトされた場所を参照)。



IR フィルムが貼付されていない範囲

	寸法
A	65 mm
B	150 mm
C	125 mm

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。

インターネット上のインフォメーション

www.volvocars.com には、車両に関するさらに詳しい情報が掲載されています。

個人用 Volvo ID を使用すると、お客様と車両のパーソナルウェブサイトである、My Volvo にログインすることができます。



QR コード

QR コードを読み取るためには、QR コードリーダーが必要です。QR コードリーダーは、一部の携帯電話で補助プログラム(アプリ)として利用できます。App Store、Windows Phone、Google Play などからダウンロードできます。

Volvo ID

Volvo ID は、さまざまなサービス⁴ へアクセスするときに使用する個人用 ID です。

サービスの例：

- My Volvo - お客様とお客様の車両のパーソナルウェブサイト。
- インターネット接続車両* - 一部の機能およびサービスを利用するには、車両を個人の Volvo ID に登録する必要があります。例えば、インターネット上の地図サービスから住所を車両へ直接送信するサービスなどがこれに含まれます。
- Volvo On Call、VOC* - Volvo On Call モバイルアプリへのログイン時に Volvo ID が使用されます。

Volvo ID の利点

- ユーザー名 1 つとパスワード 1 つでオンラインサービスにアクセスできます。ユーザー名 1 つとパスワード 1 つを覚えておくだけです。
- 1 つのサービス (VOC など) のユーザー名/パスワードを変更すると、その他のサービス (My Volvo など) についても自動的に変更されます。

Volvo ID の作成

Volvo ID を作成するには、個人用メールアドレスを入力する必要があります。次に、指定のメールアドレスに自動的に送信されてきたメールメッセージの指示に従って、登録を完了しま

す。Volvo ID は、以下のサービスのいずれかを使用して作成することができます。

- My Volvo ウェブ - メールアドレスを入力して、指示に従います。
- インターネット接続車両* - Volvo ID の必要なアプリでメールアドレスを入力して、指示に従います。または、センターコンソールの接続ボタン  を押して、**アプリ → 設定** を選択し、指示に従う方法もあります。
- Volvo On Call、VOC* - 最新バージョンの VOC アプリをダウンロードします。スタートページから Volvo ID の作成を選択し、メールアドレスを入力して、指示に従います。

関連情報

- インターネット上のインフォメーション (p. 20)

⁴ 利用できるサービスは、時間の経過とともに変化することがあります。また、装備レベルや市場によっても異なります。

ボルボ社の環境フィロソフィー

ボルボ車は、厳しい国際環境基準にも適合する製品で、世界でもっとも清潔で資源を有効利用する工場で製造されています。



環境への配慮は、ボルボ・カー・コーポレーションの活動を導くコア・バリューです。お客様ご自身も環境への配慮という価値観に共感されていると思います。

ボルボ・カー・コーポレーションは、すべての工場および社内部署の多くに適用される環境基準(ISO 14001)を含む、ISO の国際認定を取得しています。ボルボ社は関連企業に対しても、環境活動を組織的に実践するように条件を定めています。

燃費

ボルボ車は、非常に効率のよい燃費を誇っています。燃費が良ければよいほど、温室効果の原因となる二酸化炭素の排出量が少なくなります。

運転者の工夫により、燃費をよくすることができます。詳しくは、**環境への影響を低減する**をご覧ください。

効率のよいエミッションコントロール

ボルボ車は「内も外もクリーン」というコンセプトの基に設計されています。このコンセプトは、車内の空気を清浄に保ち、なおかつ車外に

排出されるガスをできるだけ効率よくコントロールすることを指しています。ボルボ車の排気ガスは、現在の排気ガス規制値のほとんどを大幅に下回ります。

車内の空気を清浄に保つ

クリーンエアフィルターは、空気取入口から埃や花粉が車内に侵入することを防ぎます。

高性能の空気清浄システム、IAQS*(インテリア・エア・クオリティ・システム)が、車内に取り入れられる空気を外気よりも清浄に保ちます。



01 イントロダクション



システムは、エレクトロニックセンサーおよび活性炭フィルターで構成されています。車内に取り入れられる空気をつねにモニターし、人体に有害な特定のガス（一酸化炭素など）が著しく増えたことを感知すると、空気取入口を閉じます。このような状況は、渋滞走行時やトンネル通過時などに発生する場合があります。

活性炭フィルターが、窒素酸化物、地表面オゾンおよび炭化水素の侵入を防ぎます。

インテリア

ボルボ車のインテリアは、快適な車内居住性を追求したもので、接触アレルギーや喘息にお悩みの方にも快適にドライブしていただけるように設計されています。ボルボ車の内装やテキスタイルは、環境に対する細心の注意をはらって厳選されています。

ボルボのサービス工場と環境

定期的にメンテナンスを受けることにより、車両の耐用年数が長くなるだけでなく、燃料消費量も低減します。これは、環境保全への貢献にもつながります。ボルボ指定のサービス工場に修理やメンテナンスをご依頼いただければ、ボルボ社のシステムに基づいて適切な整備を実施します。ボルボ社では、サービス工場から出るガス、廃液、廃棄物などではできるだけ環境に悪影響を与えない方法で処理するなど、環境対策を徹底させています。ボルボ指定のサービス工場には、環境対策に関するボルボの教育・訓練を受けたメカニックがおり、必要な機器や工具も揃っておりますので、最善の環境対策をご提供することができます。

環境への影響を低減する

容易な心がけで、環境への影響を低減することができます。いくつかの例をご紹介します。

- 無用なアイドリングは避けてください。長時間停車するときは、エンジンを停止してください。地域の規則に従って、交通法規を遵守してください。
- 先を見越して、経済走行を心がけましょう。
- オーナーズマニュアルの指示通りにサービスおよびメンテナンスを実施してください。別冊のメンテナンスノート（整備手帳）が推奨する間隔に従ってください。
- 車両にエンジンブロックヒーター*が装着されている場合は、冷寒時始動の前に使用してください。始動しやすくなり、寒冷時の摩耗を低減させます。また通常の作動温度に到達できるまでの時間も短縮されます。このため、燃費が向上し、排気ガスを低減できます。
- 高速走行を行うと空気抵抗が増加し、燃費が著しく増加します。車速が倍になると、空気抵抗は4倍になります。
- 使用済みのバッテリーやオイルなど、環境に有害な廃棄物は、環境に配慮した適切な方法で処理してください。この種の廃棄物の処理についてご不明な点は、ボルボ指定のサービス工場にご相談ください。

このようなアドバイスに従うことで、俊約でだけでなく、地球の資源も節約でき、車両の寿命も長くなります。さらに詳しい情報、およびアドバイスに関してはエコガイド(p. 94) 経済走行(p. 333)および燃費(p. 445)を参照してください。

リサイクル

ボルボの環境への取り組みでは、車両が環境に優しい方法でリサイクルされることが重要です。車両のほとんどの部品がリサイクルできます。車両を廃車にされるオーナーの皆様には、ディーラーから認定/承認リサイクル施設の紹介を受けていただくようお願いいたします。

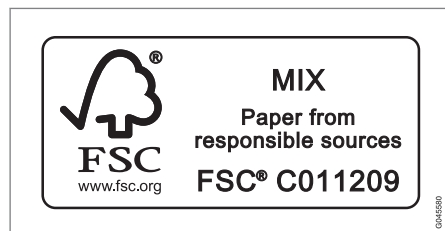
関連情報

- オーナーズマニュアルと環境 (p. 23)

オーナーズマニュアルと環境

オーナーズマニュアルは、FSC® が認証した森またはその他の管理資源からの紙パルプを使用しています。

森林管理協議会® のシンボルは、オーナーズマニュアルに使用されている紙パルプが FSCFSC® が認証した森やその他の管理資源から使用されていることを示します。



関連情報

- ボルボ社の環境フィロソフィー (p. 21)

ラミネーテッドガラス

ラミネーテッドガラス



ガラスは補強されているため、不法侵入に対する保護が強化され、車内の防音効果も高くなっています。ウインドスクリーンとすべてのウインド*に、ラミネーテッドガラスが使用されています。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。

02



重要です。必ずお読みください。





ご使用に際して！

このオーナーズマニュアルは、標準で取り付けられていない装備品、機能および日本仕様以外の装備品、機能についても記載されています。
このオーナーズマニュアルで説明されていても、車にその装備などが装着されていない/装着できない場合がありますのでご了承ください。

スウェーデン・ボルボ社の原稿を元に、日本語版を作成していますが、現車と記述内容などが異なる場合は現車が優先されます。

後付けのオプションパーツおよびアクセサリパーツなどの使用方法、あるいは取付方法については、各製品毎に添付されている取扱説明書（または取付説明書）の指示に従ってください。

ご不明な点がございましたら、ボルボ指定のディーラーにお尋ねください。

このオーナーズマニュアルに記載されている取扱説明は、一般的な使用状況を想定したものです。従って、車の使用場所、使用環境、取扱方法により異なる場合がありますので、十分ご注意ください。

このマニュアルに記載してあるすべての情報、イラスト、および仕様は、最新の製品情報に基づいていますが、製造者が予告なく変更する場合があります。

マニュアル内のイラストは、大まかなものであり正確な描写を目的とするものではありませんので、実際の車両と一致しない場合があります。

また、安全・快適なドライブのために知っておいていただきたい項目が、次ページから説明されていますので、必ずお読みください。

このマニュアルは、車両の一部とみなされます。

車を売却される場合は、次のオーナーの方のためにこのマニュアルとメンテナンスノート（整備手帳）および点検整備記録簿を車内に保管しておいてください。

道路運送車両法により、点検整備と日常点検が義務付けられています。

車を適切な状態に維持し、安心してご使用いただくために点検整備を必ず実施してください。

また、お客様ご自身で日常点検も必ず実施してください。

このオーナーズマニュアルに記載されている取扱方法と異なる使用や、点検整備を実施していないなどの場合は、ボルボ社の保証が適用されないことがありますので十分ご注意ください。

また、このオーナーズマニュアルの記載事項を守らなかったために生じた損傷、事故などに関しては、弊社は責任を負うことができませんのでご了承ください。

（オーナーズマニュアル掲載の写真、イラスト、文章の無断転載、複写を禁じます。）

© Volvo Car Corporation

警告

このオーナーズマニュアルは、ボルボ・カー・ジャパンによる正規の販売ルートで輸入および販売された車両にのみ適用されます。

追加装備品の取り付けについて：

追加装備品を装着する場合は、製品に付属の取付要領書および注意事項に従って装着を行ってください。

ご不明な点がございましたら、ボルボ指定のディーラーにお尋ねください。

警告

ボルボ純正以外の追加装備品の装着や、装置の不適切な取り付けは、運転に悪影響をおよぼし故障や火災の原因となります。

無線機などについて：

無線機など、アンテナを介して通信する通信機器を車内で使用すると、車両の電子機器（エンジンマネジメントシステム、ABS、エアバッグなど）に影響をおよぼすおそれがあります。

詳しくは、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。



02 重要です。必ずお読みください。

重要な安全上のご注意！



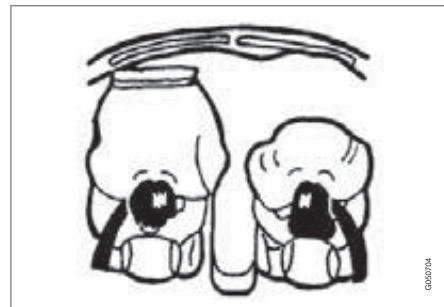
ドアを開ける際は、必ず周囲の安全を確認してください。特に路上では、後続車や他の交通に十分注意してください。

- ドアを確実に閉めてください。ドアが確実に閉められていないと、走行中にドアが突然開いて思わぬ事故につながるおそれがあります。



シートベルトは正しい姿勢で、必ず正しく着用してください。シートベルトを正しく着用できない場所に、同乗者を乗車させないでください。

- シートベルトのロックタブを、バックルに確実にロックしてください。同乗者のシートベルトも正しく着用しているか、必ず確認してください。



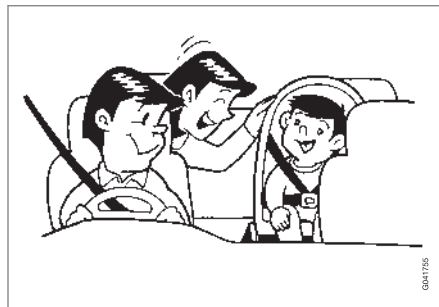
エアバッグは、シートベルトの補助装置です。エアバッグが取り付けられていても、シートベルトは必ず着用してください。

- シートベルトを着用していないと、エアバッグが作動した際の衝撃で大ケガをするおそれがあります。
- 同乗者にもエアバッグシステムについての注意事項を、十分に説明してください。
- エアバッグは膨張速度が極めて速く、また、布でできているため、エアバッグ作動時に摩擦熱で皮膚にヤケドや擦過傷を負うおそれがあります。



お子様は、後席に乗車させてください。走行中は絶対に、ひざの上に幼児を抱えないでください。

- お様が助手席に乗車中にエアバッグが作動すると、エアバッグが作動した際に衝撃を受け、大ケガをするおそれがあり大変危険です。
- お子様を助手席に乗車させると、不意の動作が気になって運転の妨げになるばかりか、ドアインナーハンドルやスイッチ類に触れて思いがけない事故につながるおそれがあります。また、お子様の手の届くところに、マッチやライターなどを置かないでください。



後席であってもシートベルトは必ず正しく着用し、お子様にもシートベルトを着用させてください。

- シートベルトが首やあごに当たるような小さなお子様や幼児を乗車させる際は、チャイルドシートを必ずご使用ください。
- シートベルトが合わないまま使用すると、衝突の際に頭部や腹部などに強い衝撃を受けて大ケガをするおそれがあります。



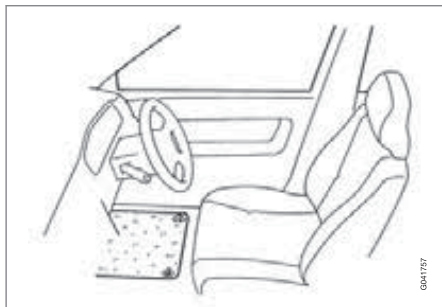
チャイルドシートは、後席に取り付けてください。助手席に取り付けると、エアバッグが作動したときの衝撃で、幼児が大ケガをするおそれがあります。

- チャイルドシート、または小児用の安全装置を取り付ける際は、使用する製品の取扱説明書の指示と警告に従って、確実に取り付けてください。
- 指示に従わないと、大ケガをする危険性が高くなります。



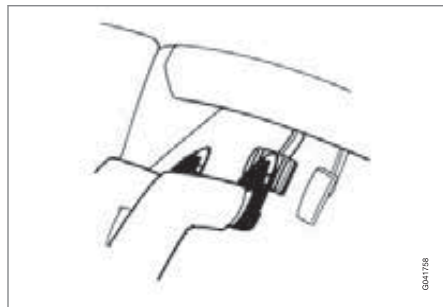
02 重要です。必ずお読みください。

02



フロアマットは敷く前に運転席用、助手席用を必ず確認し、アクセルペダルに引っかからない位置に正しく敷いてください。

- エンジンを始動する前にフロアマットが正しく固定されているか確認してください。
- フロアマットを固定していない状態で使用したり、二重に敷いたり正しく敷かれていないと、運転中にフロアマットが移動してペダルと干渉し、暴走などのおそれがあります。
- アクセルペダルの上に、フロアマットを乗せないでください。ペダルが戻らなくなり、大変危険です。



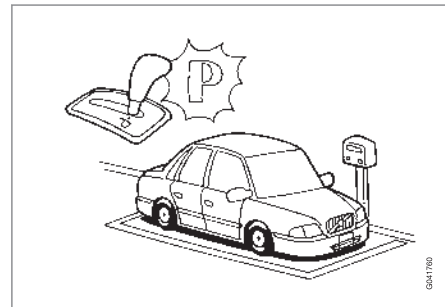
ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンを始動する前に右足で各ペダルを踏み、ペダルの位置を確認してください。



タバコやマッチなどは、完全に火を消してから灰皿に入れてください。使用後は、必ず灰皿を閉めてください。

開けたままにしたり、火を消さずに入れると火災になるおそれがあり、大変危険です。

- 灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、紙などの可燃物は入れないでください。
- タバコの火などによって、引火するおそれがあり大変危険です。



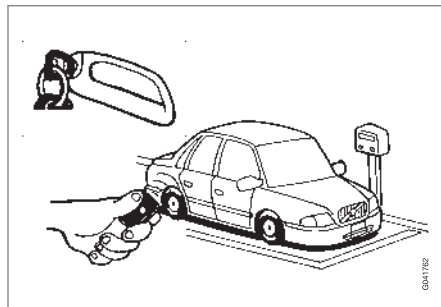
駐・停車する場合は傾斜した場所を避け、パーキングブレーキを確実にかけ、セレクターレバーがP(パーキング)の位置に入っていることを確認してください。

- エンジンを止めてください。



車から離れる場合は、お子様も一緒にお連れください。

- お子様だけを車内に残すことは危険です。特に炎天下に駐車した場合は、車内およびシートベルトやシートは高温になり、熱射病/熱中症やヤケドなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子様パワーウインドやその他の装置を動かしたり、あるいは車を発進させてしまう場合があります、大ケガをしたり火災や事故につながるおそれがあります。



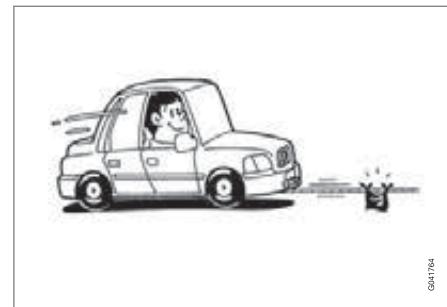
盗難やいたずらを未然に防ぐためにも車から離れる際は、パーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止してキーを抜き、施錠してください。

- 車内に、貴重品を置いたままにしないでください。



悪路や未舗装路の走行は、十分ご注意ください。

- タイヤ、床下、サスペンションなどを損傷し、さらには障害物に挟まれたり、ぬかるみにはまって脱出できなくなるおそれがあります。
- やむをえず走行する場合は、低速でゆっくり走行してください。
- 走行後、すみやかに車の点検を行ってください。
- AWD 車といっても、万能車ではありません。



けん引が必要な場合は、オーナーズマニュアルの“けん引”の項を参照して、事故を起こさないように十分注意してください。また、周囲の交通状況にも注意してください。



02 重要です。必ずお読みください。

02



ヒューズを交換する場合は必ず同じ色、同じアンペアのヒューズと交換してください。高アンペアのヒューズを使用すると過大な電流が流れてもヒューズが切れず、配線や電装品を損傷させて発火し火災が発生するおそれがあり大変危険です。



深い水たまりや、極端な冠水路を走行、また、突然の大雨などにより水しぶきを上げて走行した場合は、エンジンルーム内の電気配

線やドライブベルト、タイミングベルトに水分が付着しているおそれがありますので、早めに点検を受けてください。

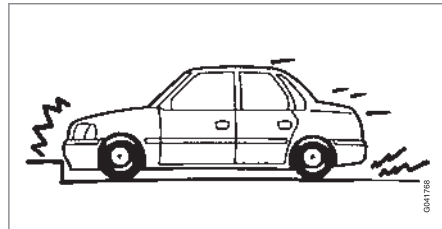
- 水分が付着していると、エンジン不調やベルト類の損傷劣化の原因となります。



高速道路や自動車専用道路を走行中に故障したときなどは、急ブレーキをかけずに情力で路肩に車を止めてください。

- 故障やパンクで驚き、急ブレーキを踏むと、追突されたりスリップするおそれがあります。
- 車を惰性で直進させて、路肩に止めてください。
- 前輪がパンクしたときは、ハンドルが取られて大変危険です。
- 路肩に停車したときは、後続車にわかるように、停止表示器材を置いてください。なお、夜間の場合は、非常点滅灯およびリアランプを点灯してください。

- 非常電話は1 km おき(トンネル内は200 m おき)に設置されています。
- 近い場所の非常電話で通報しようとして、反対車線へ横断しないでください。
- 通報後は、必ず全員安全な場所に避難してください。

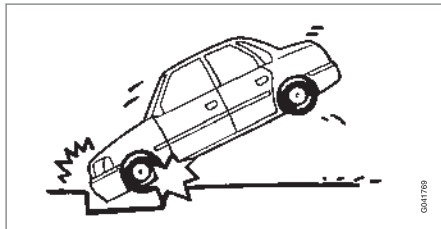


エアバッグ(運転席、助手席、サイドエアバッグ、インフレーターカーテン)が作動しない場合があります。

- 衝突の位置/角度、衝撃の度合いによっては、エアバッグが作動しない場合があります。
- 斜めに塀や、ガードレール、車などに衝突したとき。
- トラックなどの荷台の下に潜り込み衝突したとき。
- 追突されたり、転覆、横転したとき。
- 衝突の方向が、車の中心からずれていたとき。
- 電柱、道路標識などのポールに衝突したとき。
- 前後フェンダー部など、車室以外に側面から衝突されたとき。



- 電柱などに側面をぶつけたとき。
- 客室部に斜めに衝突されたとき。
- 側面にバイクなどが衝突したとき。



車の外見上の損傷が少なくても、エアバッグが作動する場合があります。

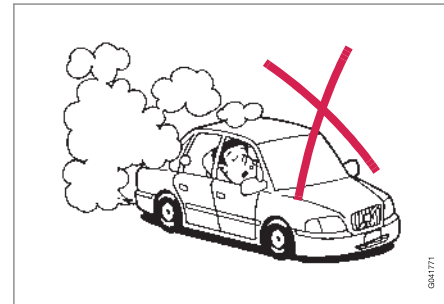
- 道路上の物や車止めなどの縁石にぶつかったとき。
- 穴や溝に落ちる、またはジャンプしたとき。
- 車両の下面に強い衝撃を受けたとき。
- その他、中央分離帯などに衝突したとき。



もしも、川や海などに転落した場合は…
水中に車が転落したときの脱出方法：

- 水中ではドアロックやパワーウィンドが使用できず、閉じ込められるおそれがあります。このような場合は、脱出用ハンマーなどを使用してください。(脱出用ハンマーは、カーショップなどで購入することができます。)
- 浮いている車のドアは、水圧で開きません。落ち着いてシートベルトを外し、窓が開けられる状態であれば、窓を開けて脱出してください。
- 窓が開けられない場合は、水面より高い位置の割りやすい側面の窓ガラスを脱出用ハンマーなどで割って脱出します。ドアをロック解除できる場合などには、車両内と車両外の水位がほぼ同じ高さになるまで待ち、ドアを開けて脱出します。

火災および排気ガスに関する注意



エンジンをかけたまま、車内で仮眠をとることは大変危険です。

- 仮眠中に無意識にアクセルペダルを踏んだり、セレクターレバーを動かすおそれがあり、排気系統の過熱による車両火災や車が走り出して事故が発生する場合があります。
- やむをえず仮眠するときは、必ずエンジンを止めてください。



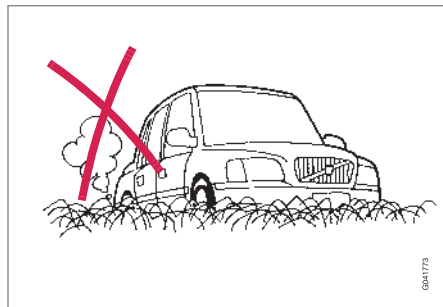
02 重要です。必ずお読みください。

02



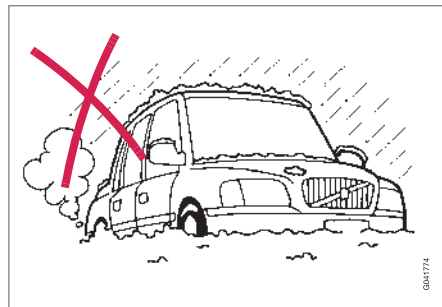
ガレージのような換気の悪い場所や密閉された場所で、エンジンをアイドリングしないでください。

- 人体に有害な排気ガスが充満し、一酸化炭素(CO)中毒を起こすおそれがあります。
- このような場所でエンジンを始動する場合は、その前に必ずガレージのドアや窓を開放してください。



車内を閉めきった状態で、エンジンをアイドリングしないでください。

- 排気ガスが車体の水抜き穴や溶接の隙間、マフラーの腐食部から車内に侵入し、一酸化炭素(CO)中毒を起こすおそれがあります。
- 広い場所でも、しばらくアイドリングする必要があるときは、換気のため窓などを開けるか、エアコンディショナーを作動させてください。
- 熱せられた排気系統に接触するような枯れ草や枯葉、紙、木材など燃えやすい物の上に車を駐・停車しないでください。風や気象条件によって、排気管や排気ガスの熱により火災になるおそれがあります。



大雪で停車してしまった場合は、排気ガスの侵入に注意してください。

- 車の周囲に積もった雪や、特に排気管の出口を塞いでいる雪を取りはらってください。



排気ガスの臭いがしたり、排気ガスが車内に侵入している疑いがある場合は、すべての窓

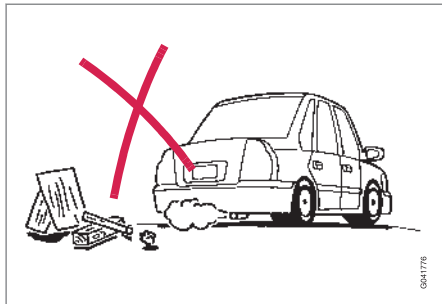


を開放してエアコンディショナーを動作させて換気してください。

ただちに車の点検、または整備を受けてください。そのまま放置すると、一酸化炭素(CO)中毒を起こすおそれがあります。

次のような場合も車内に排気ガスが侵入する原因となりますので、排気系統はときどき点検してください。

- 排気管などの排気系統に異常音が聞こえるとき。
- 車の床下まわりに錆が発生しているとき。
- 衝突などにより車が損傷を受けたとき。
- 走行中、路上の障害物などにより損傷を受けたとき。
- 修理や整備が正しく行われていなかったとき。
- その他、車や排気系統が不適切に改造されているとき。



可燃物の近くに、車を止めないでください。

- 車両後方や排気管付近に燃えやすい物があると、火災になるおそれがあり危険です。
- 木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を 60 cm 以上離して止めてください。隙間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあります。

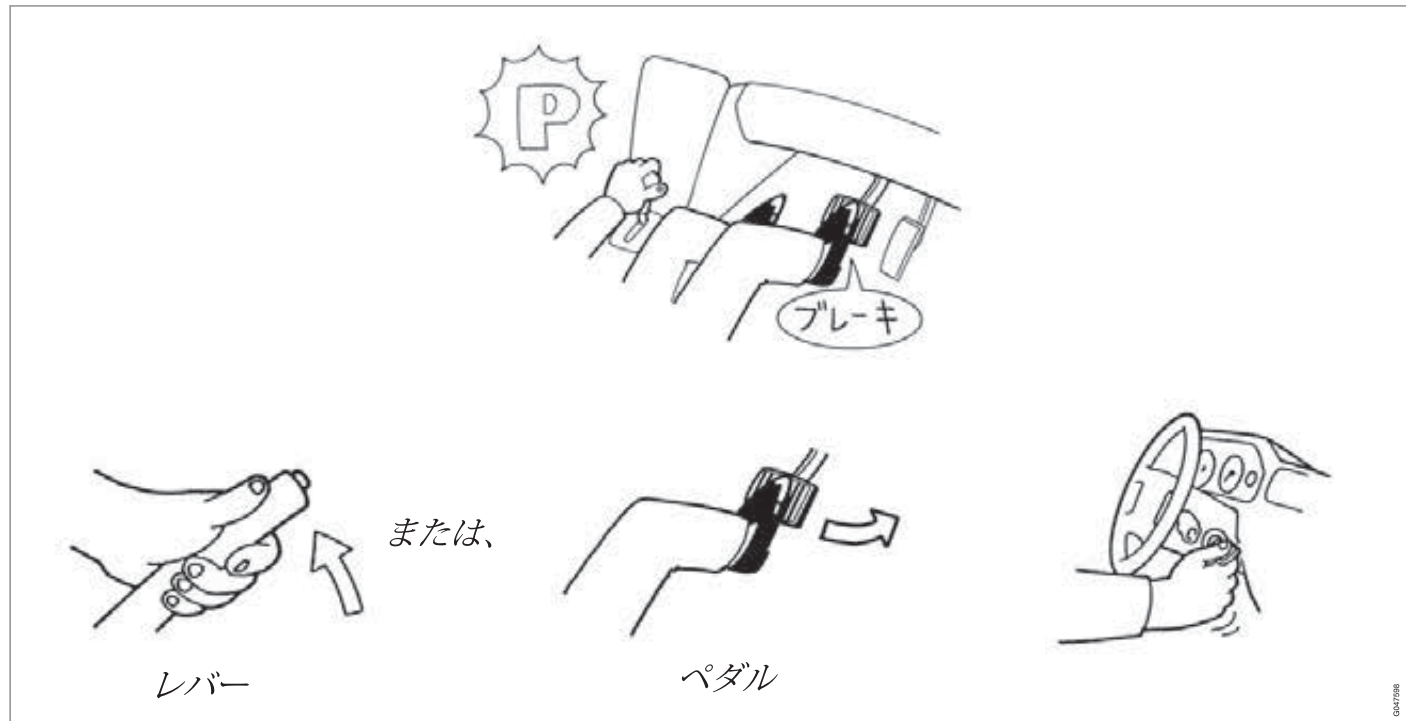
エンジンルーム内に可燃物などがない事を確認してください。

- 走行前にエンジンルーム内に可燃物の置き忘れがないか確認してください。エンジンや排気管の熱により火災になるおそれがあります。
- 車両を長期間使用しなかった場合は、エンジンルーム内に小動物や鳥類によって持ち込まれた小枝などがいないことを確認してください。エンジンや排気管の熱により火災になるおそれがあります。
- 走行中に焦げたような異臭などを感じたときは、ただちにエンジンを止めて車両から離れてください。



02 重要です。必ずお読みください。

エンジン始動時のご注意！



エンジン始動時は、ブレーキペダルを踏み、パーキング(駐車)ブレーキをかけて、トランスミッションのセクターレバーをP(パーキング)の位置にしてください。



発進時のご注意！

オートマチック車を発進させるときは、以下の点に注意して正しい方法で操作してください。

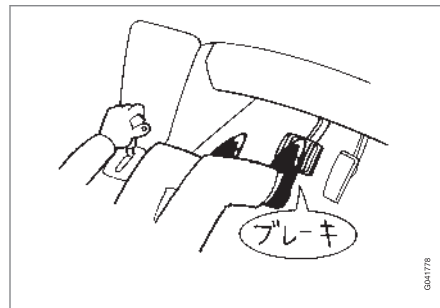
誤った方法で操作すると、思わぬ事故につながります。

セレクトレバーをP(パーキング)またはN(ニュートラル)から他ヘシフトするときは、アクセルペダルは踏まずに**必ずブレーキペダルを確実に踏みながら**行ってください。

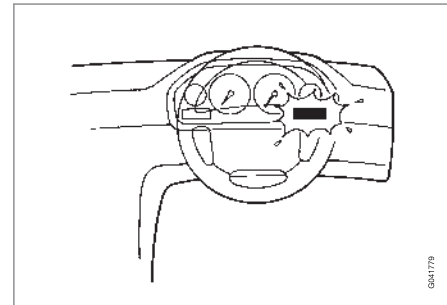
- ブレーキペダルを踏まずに、セレクトレバーをD(ドライブ)またはR(リバース)にシフトすると、アクセルペダルを踏まなくても車は動き出しますのでご注意ください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時など、アイドル回転が高いときは、車が動こうとする力が強くなるので特にご注意ください。

発進時はブレーキペダルを、ゆっくり緩めることをつねに心がけてください。ブレーキペダルを徐々に緩めてアクセルペダルに踏み換え、パーキングブレーキを解除します。

- 急発進を防ぐために、アクセルペダルは徐々に踏み込んでください。ルームミラーやドアミラーで、確認できない死角範囲があります。
- 発進するときは、周りの状況にも十分ご注意ください。
- 適切な始動方法と運転操作をご理解いただくために、“運転操作の要領”の説明もあわせてご覧ください。



重要な操作上のご注意！



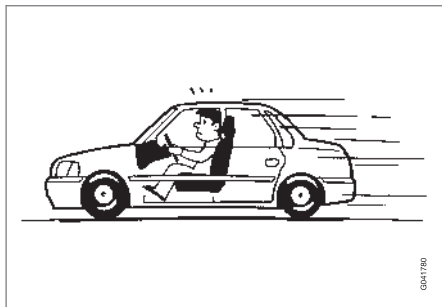
走行中にメーター・パネルにある警告灯が点灯したときは、**ただちに安全な場所に停車し、オーナーズマニュアルに従って処置を講じてください。**

- 走行中の車の状態にも注意し、いつもと違うエンジン、排気系統からの異音、臭い、運転感覚などの違いを感じた場合は、すみやかに点検を行ってください。そのまま走行を続けると、重大な事故につながるおそれがあります。



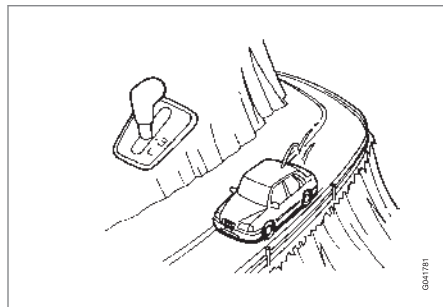
02 重要です。必ずお読みください。

02



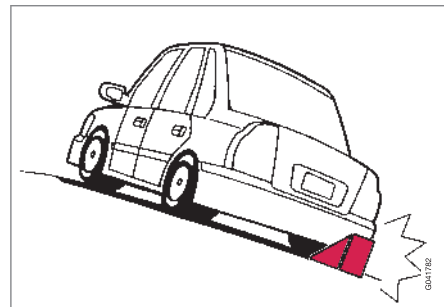
走行中にエンジンが停止した場合は、安全な場所に停車してください。

- 特に高速道路などで停車する場合は、後続車両に十分注意してください。
- 走行中にエンジンが停止すると、ブレーキの倍力装置やパワーステアリング装置の倍力補助が正常に作動しなくなるので、ブレーキペダルの踏み込みが硬くなり、ハンドルが重くなります。

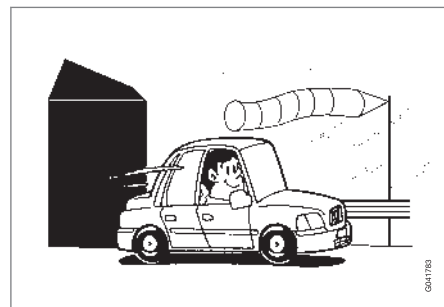


長い下り坂や急な坂道を下る場合は、低いシフトレンジにシフトダウンしてエンジンブレーキを併用してください。

- ブレーキペダルを踏み続けたり急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが過熱して効が悪くなり、最悪の場合は停止できなくなるおそれもあります。
- エンジンブレーキを使用する際は、車のコントロールを失ってしまうような過度な効かせ方をしないでください。



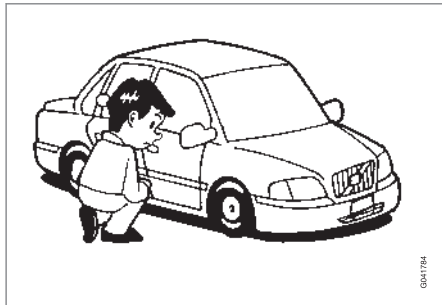
坂道で駐車する場合は、パーキングブレーキを確実にかけ、セレクトレバーをP(パーキング)に入れてください。さらに急な坂道では、タイヤに輪止めをしてください。



強風で車が横に流されるようなときは、ハンドルを確実に握りスピードはひかえめに走行してください。

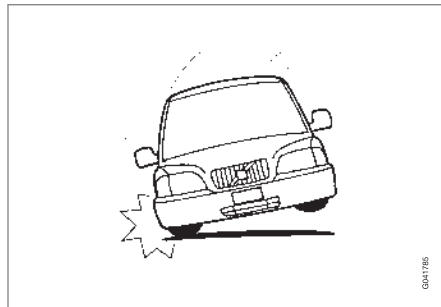


- 特にトンネルの出口や橋、土手の上、山の切り通し、大型車を追い越したり追い越されたりする場合、強い横風が発生しやすいので十分ご注意ください。



走行中に路上の障害物で、車の床下に衝撃を受けた場合は、安全な場所に停車し、車の下にブレーキオイルや燃料などの漏れがないか、また各部に損傷がないかも必ず確認してください。

- そのまま走行を続けると、大変危険です。



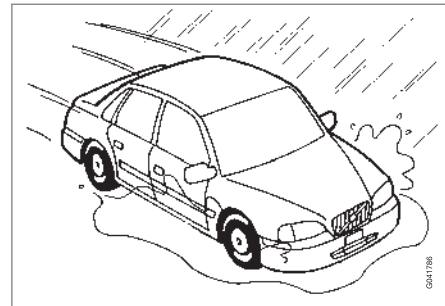
走行中にタイヤがパンクした場合は、タイヤ、ホイールを損傷させないように徐々にブレーキをかけてゆっくり減速してください。急ブレーキをかけると、ハンドルを取られて大変危険です。



水たまり走行後や洗車後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

- ブレーキペダルを軽く踏み、効き具合を確認してください。ブレーキの効きが悪いとき

は、しばらく低速で走行しながらブレーキペダルを軽く数回踏み、ブレーキを乾かしてください。



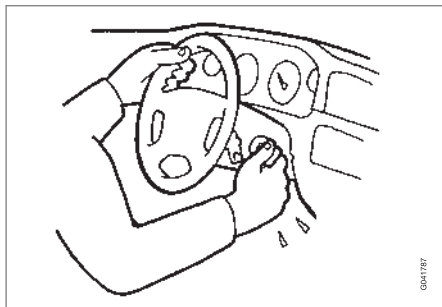
雨天時は路面が滑りやすくなっているので急加速、急ブレーキ、急ハンドルを避け、スピードをひかえめにして走行してください。

- 積雪路や凍結路など、普段と異なる環境で走行する場合は、特に慎重に運転してください。



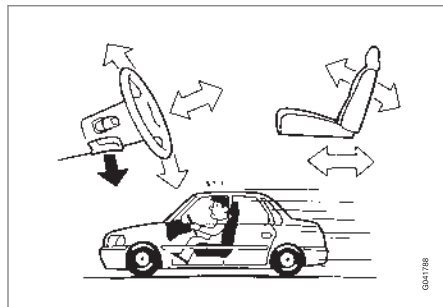
02 重要です。必ずお読みください。

02



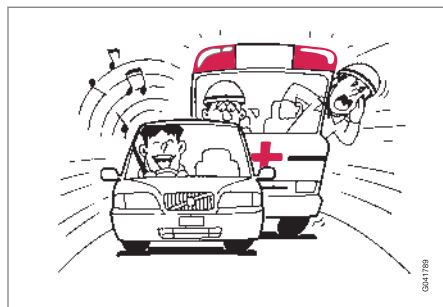
走行中は、エンジンを止めないでください。

- 走行中にエンジンを止めると、ブレーキペダルの踏み込みが硬くなり、ハンドル操作も非常に重くなって事故につながるおそれがあります。
- リモートコントロールキーをロック位置にしてキーを抜くと、ハンドルがロックされてハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



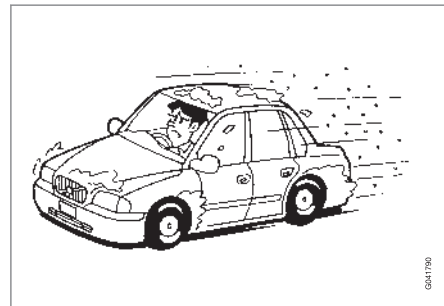
走行中は、ハンドルやシートの位置を調節しないでください。

- 走行中に調節すると、正しい運転操作ができず重大な事故につながるおそれがあります。大変危険です。



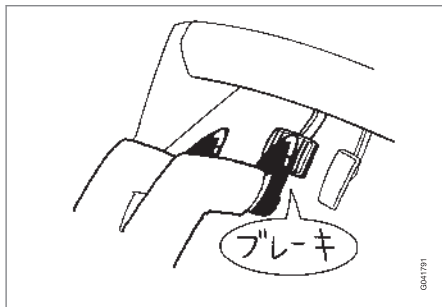
オーディオの音量はほどほどに、テレビやカーナビを見ながらの運転はおやめください。

- 過大な音量で聞いていると、緊急車両が近づいてもわからない場合があります。
- テレビやカーナビを見ながら、あるいは携帯電話を使用しながらの運転も事故につながるおそれがあります。また、道路交通法違反にもなります。



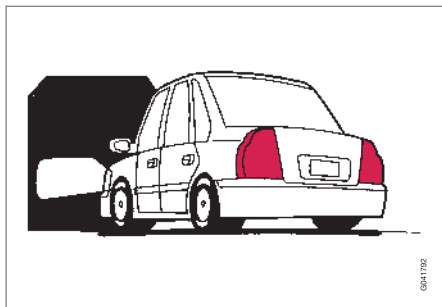
雪路を走行中は、はね上げた雪や氷が車のフェンダーの裏側に少しずつ溜まって氷結し、ハンドルの切れを悪くします。ときどき確認し、着氷が大きくなる前に取り除いてください。

- ブレーキ装置に付着して、ブレーキの効きが悪くなる場合がありますので、ときどき軽くブレーキペダルを踏み、ブレーキの効き具合を確認してください。



ブレーキペダルはアクセルペダルのように、右足で踏む習慣をつけてください。

- 左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど適切なブレーキ操作ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

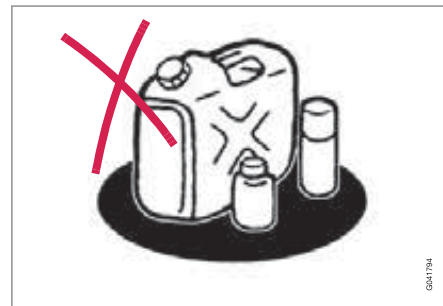


トンネル内を走行する際は、ライトを点灯して速度を落として進入してください。

- 照明が悪いトンネルでは、進入直後に急に視界が悪くなる場合がありますので注意して

ください。また、トンネルを出た後は、ライトの消し忘れにもご注意ください。

してはいけないこと！

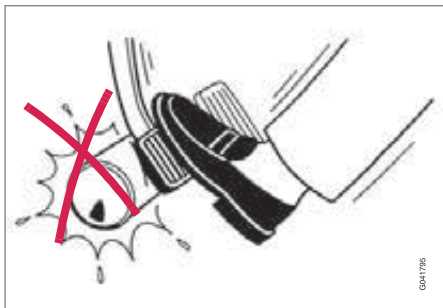


車内やラゲッジルーム内などに、燃料の入った容器やスプレー缶などの可燃物を載せないでください。

- 特に夏期には可燃物が気化しやすく、膨張して引火、爆発するおそれがあり大変危険です。



02 重要です。必ずお読みください。



運転席の足元付近に、物を置かないでください。

- 空き缶などが足元にあると、アクセルペダルやブレーキペダルの下に挟まって操作の妨げとなり、重大な事故につながるおそれがあります。



荷物を、シートバックよりも高く積み上げないでください。また、後席のシートバックの

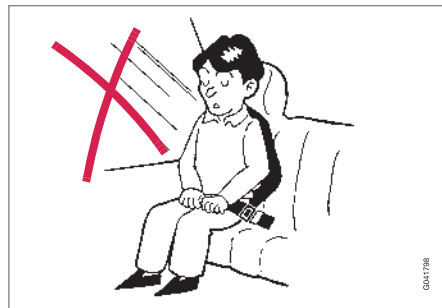
後方にあるハットシェルフの上に、荷物を置かないでください。

- 急ブレーキや衝突の際に物が移動したり飛び出してケガをしたり、荷物が損傷してしまう事故につながるおそれがあります。
- 運転視界を妨げないためにも、荷物はできるだけラゲッジルームに載せ、あるいはシートバックの高さよりも低く水平に積み、走行中に荷物が動かないように確実に固定してください。



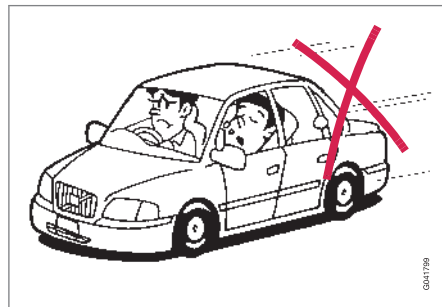
二人で、同一のシートベルトを使用しないでください。

- 衝突した際に二人が互いにぶつかり合い、大ケガをするおそれがあります。また、シートベルトが本来の機能を発揮しません。



ショルダーベルトを、肩の後ろに通さないでください。また、脇の下に通したり、ベルトをねじったり、たるみをつけて着用することもしないでください。

- 衝突の際に、上半身が前方へ移動してベルトの力が直接腹部にかかり、大ケガをするおそれがあります。



走行中はシートバックを、大きくリクライニングさせないでください。



- リクライニングしていると、衝突した際にシートベルトが十分に機能しないため、大ケガをするおそれがあります。



お子様をエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。

エアバッグが作動した際に衝撃を受け、大ケガをするおそれがあり大変危険です。乗車させる場合は、チャイルドシートを必ず使用してください。



お子様にドアやパワーウインドの操作をさせないでください。

- 閉めるときに手や頭などを挟んで、思わぬケガをするおそれがあり大変危険です。
- 走行中、あるいは後方を確認しないでドアを開けると、大変危険です。



走行中にウインドから顔や手を出さないでください。

- 車外の障害物に当たったり、急ブレーキの際に車外に投げ出されて、大ケガをするおそれがあります。



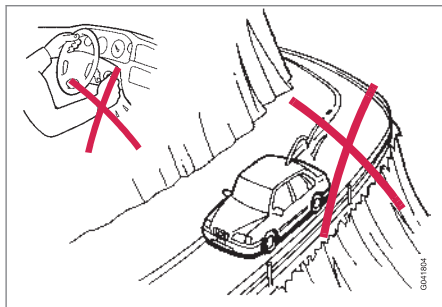
リモートコントロールキーを付けたまま、お子様を車内に残さないでください。

- お子様がパワーウインドやその他の装置を動かしたり、あるいは車を発進させてしまう場合があります。大ケガをしたり火災や事故につながるおそれがあります。
- 車から離れる場合は、お子様も一緒にお連れください。また、リモートコントロールキーを必ず抜いてください。



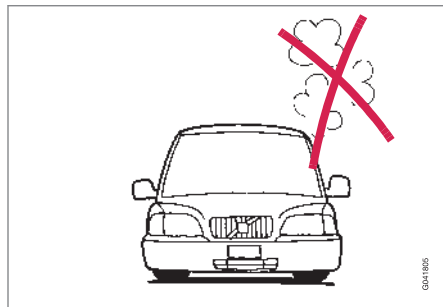
02 重要です。必ずお読みください。

02

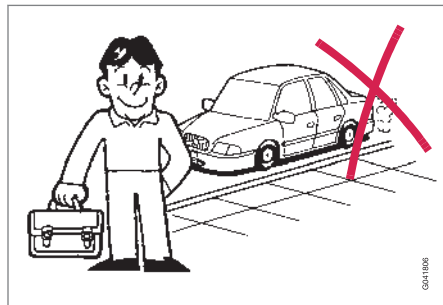


エンジンが停止しているときは、車を移動させないでください。車を少しでも移動する場合は、必ずエンジンを始動してください。

- エンジンが作動していないと、ブレーキペダルの踏み込みが硬くなり、ハンドル操作も重くなってしまう事故につながるおそれがあります。
- 特に坂道を利用した移動は、事故を起こす可能性が高く危険です。



エンジンを始動したら、長時間アイドリングをしないでください。エンジンに悪影響を与え、燃費も悪くなります。



エンジンが作動しているときは、車から離れないでください。

- パーキングブレーキが完全にかかけられていない場合や、セクターレバーがP(パーキ

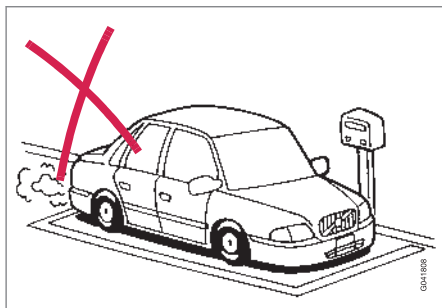
ング)に確実に入っていない場合、車が急に動き出すおそれがあります。

- 「短い時間…」でも、車から離れたときに車内の貴重品を盗まれたり、車ごと盗難されるおそれがあります。



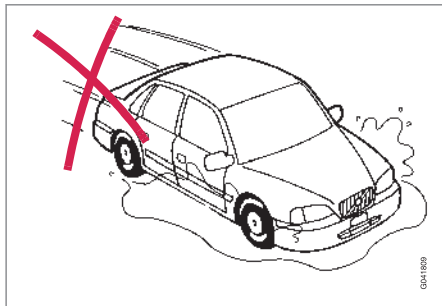
枯れ草や紙、木材など、燃えやすい物があるところで駐・停車したり、走行しないでください。

- 排気管や排気ガスの熱により着火し、火災が発生するおそれがあります。
- 木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を60 cm以上離して止めてください。隙間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあります。



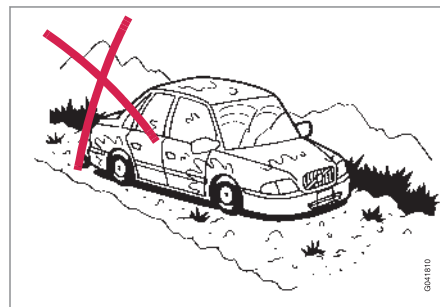
停車中に、エンジンを空吹かししないでください。

- セレクトレーバーがP(パーキング)またはN(ニュートラル)以外にあると、車が動き出して思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。近隣の方の迷惑にもなります。



深い水たまりや冠水路は、走行しないでください。

- 水が吸気口や排気管からエンジンに侵入して、エンジンを損傷させるおそれがあります。
- 車内の床面に少しでも水が入ってしまった場合は、ただちに運転を中止してください。浸水した水が車の電子システムの作動に悪影響を与えて、誤作動するおそれがあり大変危険です。
- 冠水してエンジンが停止した場合は、絶対にエンジンを再始動させずに修理を依頼してください。エンジン内部が損傷する原因となります。



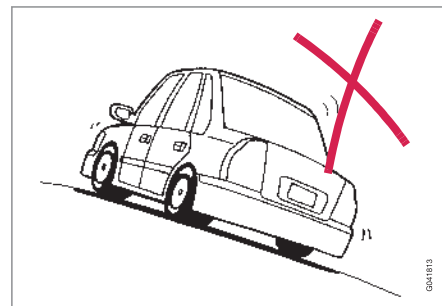
河原や砂地は、できる限り走行しないでください。

- タイヤ、床下、サスペンションなどを損傷し、さらには砂利石など障害物に挟まれたり、砂地にはまって脱出できなくなるおそれがあります。
- AWD 車といっても、万能車ではありません。



車が新雪やぬかるみにはまり込んでしまった場合は、脱出するときに高速でホイールスピンをさせないでください。

- タイヤを高速で回転させると、タイヤが破裂したり、車体や駆動系統が損傷して思わぬ事故につながるおそれがあります。



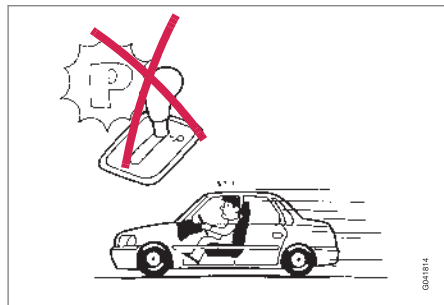
上り坂の途中で、ブレーキの代わりにアクセルペダルを踏んで、車を停止状態に保つことはしないでください。



02 重要です。必ずお読みください。

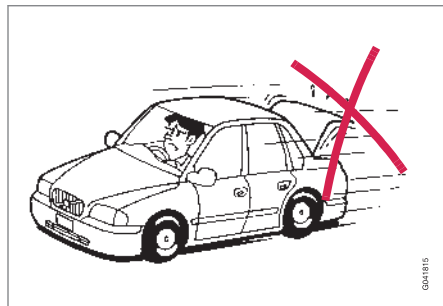


- トランスミッションが損傷する原因となります。



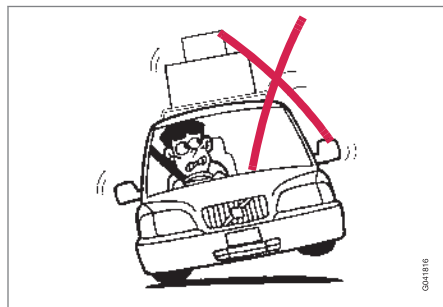
車が動いているときは、セレクトレバーをP(パーキング)に入れないうでください。

- 車が停止しているときにのみ、P(パーキング)にシフトしてください。走行中にPにシフトすると、トランスミッションが損傷します。
- 前進中に、R(リバース)にシフトしないでください。また、後退中に前進位置にシフトしないでください。トランスミッションが損傷する原因となります。



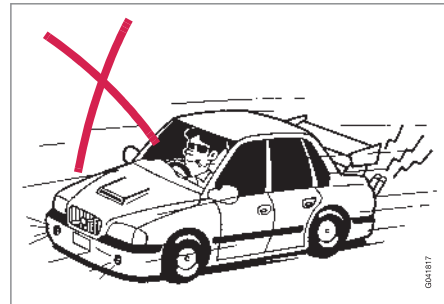
トランクリッドまたはテールゲートを開けたまま、走行しないでください。排気ガスが車内に侵入するおそれがあり大変危険です。

- トランクリッドまたはテールゲートを開けたまま走行すると、車外の物などに当たったり、車内の物が落ちて、思わぬ事故につながるおそれがあります。



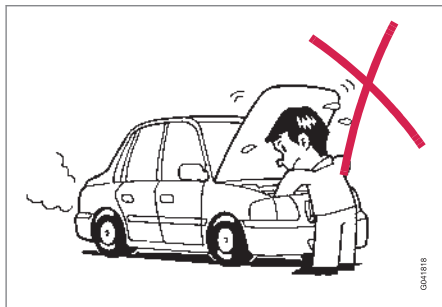
ルーフには直接、物を載せないでください。

- 荷崩れなどを起こして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ロードキャリアなどを付けた場合でも、重い物や大きな物は載せないでください。重心が高くなり、走行不安定になり大変危険です。



違法改造はしないでください。

- 車の性能や機能に適さない部品を装着すると故障の原因となったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ボルが純正部品を、必ずご使用ください。



エンジン作動中は、ドライブベルトなど回転している部分に手や衣服、髪毛などを近付けないでください。

- 電動クーリングファンは、エンジン停止中でも自動的に回転する場合があります。大変危険です。ご注意ください。



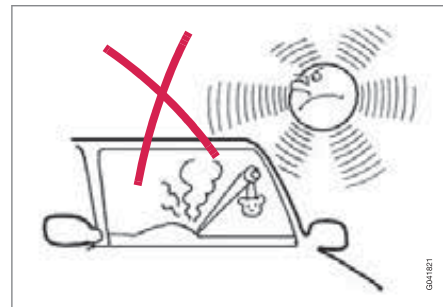
過熱したエンジンから噴き出す蒸気によって、ボンネットを開けただけでも大ヤケドをするおそれがあります。蒸気が噴き出すの

が見えたり、噴き出す音が聞こえた場合は、エンジンに近寄らないでください。



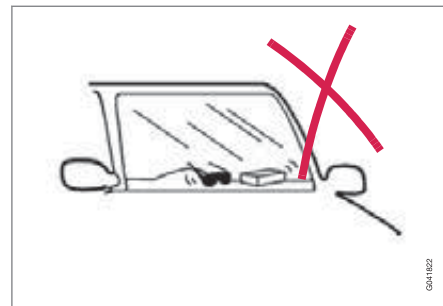
エンジンやラジエータが熱いときは、エキスパンションタンクキャップを開けないでください。

- 沸騰した液体と蒸気が噴き出して、ヤケドをするおそれがあります。冷えるまでお待ちください。



ウインドスクリーンに、アクセサリなどを取り付けしないでください。

- 運転視界を妨げたり、吸盤などがレンズの役目をして火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。



メーター・パネルやダッシュボードの上に、物を置いたまま走行しないでください。



02 重要です。必ずお読みください。

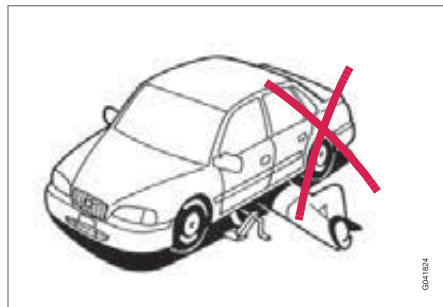
02

- 運転視界を妨げたり、発進時や走行中にそれらが移動して、安全運転の妨げになります。
- 衝突の際にエアバッグが正常に作動せず、大ケガをするおそれがあります。



車内にライターやスプレー缶、炭酸飲料などの缶類を、放置しないでください。

- 炎天下などに駐車していると、車内が高温になり、ライターなどの可燃物が自然発火したり、缶類が破裂するおそれがあり大変危険です。



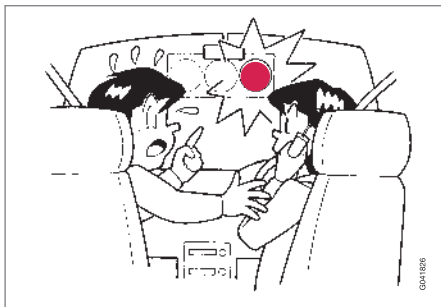
ジャッキアップした車の下には、絶対に入らないでください。

- ジャッキが突然外れて、大ケガをするおそれがあり危険です。また、ジャッキは必ず水平な場所で、正しいジャッキ取り付け位置にあてがってください。
- ジャッキをかけたまま、エンジンをかけないでください。車が突然動き出して、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤ交換の際、車が動き出さないようにパーキングブレーキをかけ、地面に接しているタイヤの前後に輪止めをしてください。



エアバッグ装置を、ご自分で修理・交換しないでください。

- エアバッグ装置の修理・交換は、必ずボルボ指定のサービス工場にお任せください。ご自分で不適切な修理・交換を行うと、誤って作動して大ケガをしたり、正常に作動しないおそれがあり大変危険です。



運転中はナビゲーションシステムを眺め続けたり、携帯電話を使用したりしないでください。

- 運転中のナビゲーションシステム(RTI など)の注視/使用により前方不注意となり、事故を起こす原因となります。
- 携帯電話を探したり、電話の操作に気をとられる、また、会話に夢中になるなどして、運転に集中できず大変危険で、事故を起こす原因となります。また、道路交通法違反にもなります。

その他使用上のご注意！



車に無線機、自動車電話などの電子機器を取り付けると、エンジンなどを制御する電子システムの作動に障害を与える場合があります、正常な走行ができなくなったり最悪の場合、火災など、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

- このような装置を取り付ける際は、必ずボルボ指定のサービス工場にご相談ください。



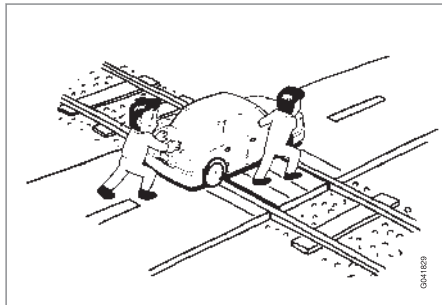
走行中の飛び石などによるボディーの傷は、すみやかに補修をしてください。また、酸性雨、塩害、鳥糞、薬品、鉄粉、煤煙、降灰などがボディーにかかった場合も、すみやかに洗い流すなどして取り除いてください。

- ボディーの傷をそのままにしておくと、塗装面ばかりではなくボディーそのものを腐食させてしまいます。
- 鳥の糞などの成分で塗装を急速に変色させ、洗っただけでは取れないシミが残ります。



02 重要です。必ずお読みください。

踏切などで動けなくなったとき！



安全な場所まで押し出してください。(シフトレバーは、N(ニュートラル)位置にしてください)ただし、列車が近づいている場合は、ただちに全員安全な場所に避難してください。

- ただちに、車から全員降りて安全な場所に避難してください。
- 踏切から脱出できない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。非常ボタンがない所では、非常信号用具/懐中電灯や目立ちやすい赤い布などで、安全な場所から列車に合図してください。

万が一、事故を起こしてしまったら…



事故現場での対処法は、次の通りです。

事故発生

ケガ人を救助する：

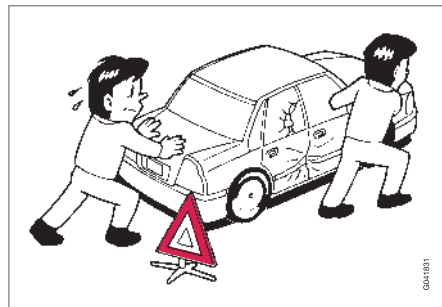
- どんなに軽いケガでも病院へ。ただし、むやみにケガ人を動かさない方がよい場合があります。必要なら救急車を呼んでください。(警察・消防に連絡するときは、場所や目印になるもの、ケガ人の状況、事故の様子などを伝える)

加害者、被害者に関わらず、相手を確認する：

- 氏名、住所、勤務先、車の登録番号(ナンバープレート)、相手の加入先の保険会社名、証券番号、契約者名などを確認する。

可能であれば、車を安全な場所に移動する：

- 渋滞や二次災害を起こさないように。



事故状況を確認してメモをとる：

- スピード、信号、停車位置などを確認します。目撃者の証言も重要です。忘れないうちにメモしましょう。



必ず警察に連絡をする：

- 警察に事故届を、必ず出してください。



冬道での安全走行のポイント！



路面の積雪、雪質、凍結状況に応じた適切な運転を行ってください。

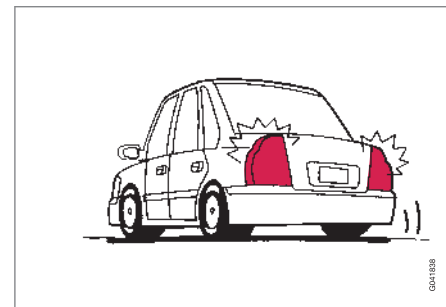
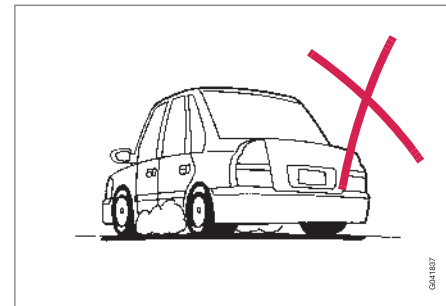
- 車に雪が積もっている場合は、雪を落としてから走行してください。
- 車に雪が積もっている場合、ドアの開閉時に車内に入らないように注意してください。
- 降雪時や前走車で巻き上げられる雪煙などで、視界が妨げられるので注意してください。また、ヘッドライトやテールランプに付着した雪は、こまめに取り除いてください。



- ペダル操作を誤らないように、靴底の雪などを落としてください。
- ブレーキは一度に強く踏み込まずに、ソフトに踏んでください。
- 急ハンドルは避けて、スムーズなハンドル操作をしてください。
- 交差点付近やカーブの手前では、早めに減速してください。



- 急なアクセル操作によるスリップを避けるため、カーブは一定の速度で走行してください。
- 橋の上や山間部では、凍結やスリップに注意してください。
- 日中でも、日陰などは雪や氷が残っている場合がありますので、十分注意してください。



急発進は避け、ゆっくり発進してください。



02 重要です。必ずお読みください。

- ブレーキは早めに、急ブレーキは避けて、エンジンブレーキを上手に使用してください。
- 下り坂では、エンジンブレーキを有効に使用してください。状況に応じて、シフトダウンしてください。
- 車間距離は十分にとり、車線変更は慎重に行ってください。
- つねに、2〜3 台前の車の動き・状況を見て、判断するようにしてください。
- 車両前部を風下に向けて、**パーキング(駐車)ブレーキ**はかけずに、**P 位置**に入れてください。パーキング(駐車)ブレーキを使用すると、凍り付くおそれがあります。
- ワイパーブレードがウインドスクリーンに凍り付いてしまわないように、注意してください。
- ドアキーシリンダーが凍り付いてしまう場合がありますので、注意してください。

タイヤ・ホイールについて！

- タイヤローテーションをする場合、タイヤのサイドウォール部にタイヤの回転方向(→)が表示されている際には、前進方向のタイヤの回転方向に合わせて、すべてのタイヤの(→)が前進方向になるように装着してください。
- 積雪路など走行時は、ウインタータイヤの残り溝が新品時の 50 %以上ある(トレッドに残り溝マークが出ていない)ことを確認してください。溝の深さが 50 %未満のウインタータイヤは、ウインタータイヤとしての機能を十分発揮しません。
- スチールおよびアルミホイールに、亀裂、変形などの損傷や著しい腐食があるもの、また溶接や手直した物は絶対に使用しないでください。
- タイヤやリムの側面を縁石に接触させたり、道路上の物体や段差を乗り越えたりすることを避けてください。タイヤやリムに傷が付くおそれがあります。
- 急発進、急加速、急停止、急旋回は、大変危険ですので絶対にしないでください。特に、積雪路など滑りやすい道路では、事故を起こすおそれがありますので、カーブでは減速するなど道路状況に応じた適切な運転をしてください。
- 走行中は、つねに走行速度に応じた車間距離を取ってください。特に、積雪路など滑りやすい道路走行時は、十分な車間距離を取ってください。
- 走行中に操縦不安定、または異常な音および振動を感じたときは、すみやかに安全な場所

に停車して、車両およびタイヤなどを点検してください。外観上、異常が見当たらなくても、早い時期にボルボ指定のサービス工場に点検を依頼してください。

- 瞬間パンク修理剤、またはタイヤ艶出し剤などで、タイヤに劣化など有害な影響を及ぼすおそれのあるものは、使用しないでください。
- タイヤのタイプやサイズを変更したとき(ウインタータイヤ↔夏タイヤ)などの場合は、タイヤの運動特性・操縦特性が変化しますので、十分注意して運転してください。
- ウインタータイヤで乾燥舗装路を走行する場合は、急発進、急加速、急停止、急旋回を避けて、安全運転を心がけてください。
- 車体と接触する状態で、タイヤを装着しないでください。また、フェンダーからはみ出すタイヤ・ホイールの装着は、違法改造となりますので、絶対にしないでください。なお、フェンダーからはみ出さない場合でも、ホイールハウスの内側、フェンダーの折り返しなどとの干渉にも注意してください。
- タイヤを取り外して保管する場合は、直射日光、雨および水、油類、その他熱源、火花などがかからないようにしてください。
- ホイールバランス調整時は、必ず 4 本調整してください。
- 定期的にホイールボルト・ナットの締め付け状態、ホイールバランスウェートの取り付け状態を確認してください。
- 自動洗車機を使用するとアルミホイールに傷が付くおそれがありますので、なるべく手作業で行ってください。



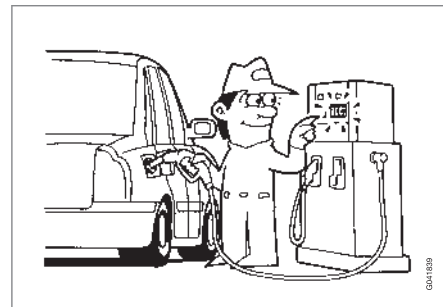
タイヤ・チェーンについて！

- 装着するタイヤとサイズが合ったタイヤチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンの装着を、事前に練習してください。
- タイヤチェーンは、必ず前輪左右に同じ物を装着してください。
- タイヤチェーン装着時、車体との隙間が十分にある事を確認してください。（詳しくは、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。）
- タイヤチェーンの脱着は、安全な場所で行ってください。
- タイヤチェーンを脱着する際に車を動かす場合は、チェーンの金具類をタイヤで踏まないでください。
- タイヤチェーン装着後、約 200 m ほど走行して異常な音、振動などがないか確認し、安全な場所で停車して再度、タイヤチェーンの取り付け状態を確認してください。
- タイヤチェーン装着時は、時速 50 km/h 以下で走行してください。
- タイヤチェーン装着時は、急発進、急加速、急停止、急旋回やタイヤを空転させる運転は絶対にしないでください。
- タイヤチェーン装着走行中、異常な音や振動がしたら、安全な場所に車を止めて点検してください。
- 雪のない舗装路面を、タイヤチェーンを装着して連続走行しないでください。

燃料補給時のご注意！

燃料補給時は、次の事項を必ず守ってください。
身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があります、ヤケドをするおそれがあります。

- エンジンは、必ず止めてください。
- 車のドア、窓を閉めてください。
- タバコなどの火気を、近付けないでください。
- 燃料の給油口にポンプのノズルを挿入する前に、車両のボディまたは給油機などの金属部分に触れて、必ず身体の静電気除去を行ってください。
- 給油口のフラップを開くなどの給油操作はすべて、必ず一人で行ってください。（複数で行うと、静電気が除去できない場合があります。）
- 給油中、再び車内のシートに戻らないでください。（座ることで再帯電する場合があります）
- 給油口に、他の人を近付けないでください。
- ガソリンスタンドの計量器が、最初に自動停止した時点で給油をやめてください。過度に給油すると、気温が高いときに燃料が外に漏れ出すおそれがあり、大変危険です。



- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を必ず守ってください。
- アルコール系燃料や不適切な燃料添加剤を給油/使用すると、走行性能の悪化、およびエンジン/燃料系統に重大な障害を与え、燃料漏れなどの不具合や火災などの事故にいたる危険性があり、また車を長期間ご使用されずにいた場合、燃料が劣化するおそれがあります。必ず、**適正なガソリン**をご使用ください。



02 重要です。必ずお読みください。

保証とアフターサービス

保証書(別冊)

- 保証書は、必ず「お名前、ご住所、ディーラー名」などの必要事項が記入され、ディーラー印が押印されていることをご確認の上、保証規定の内容をよくお読みください。保証書は、大切に保管してください。**保証期間、保証内容などは、保証書(別冊)に記載しています。**

修理を依頼されるとき

- お買い上げいただいたボルボディーラー、またはボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。なお、保証期間中に修理を依頼される際は、保証書/メンテナンスノート(整備手帳)、点検整備記録簿をご提示ください。保証規定に示す条件に従って、ボルボ指定のサービス工場で修理させていただきます。

ご不明な点や修理に関するご相談

- 修理などに関するご相談、ご不明な点は、お買い上げいただいたボルボディーラー、またはボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。

なお、故障などの緊急時にボルボディーラー、またはボルボ指定のサービス工場に連絡が取れない場合(定休日など)は、ロードサイド・アシスタンスサービス、JAF などに対応を依頼してください。

03

セーフティ





03 セーフティ

シートベルトについて

シートベルトを着用していないと、急ブレーキの際に大ケガをしたり、生命に危険がおよぶおそれがあります。走行中は、乗員全員が必ずシートベルトを着用してください。



斜めにかかった肩ベルトを肩の方に引き上げて、腰ベルトを締めてください。腰ベルトは、腹部を避け、必ず腰の低い位置にかけてください。

シートベルトの保護機能が最大の効果を発揮するためには、シートベルトが体に密着していることが重要です。バックレストはできるだけ倒さずに、立てた位置で使用してください。シートベルトは、通常の着座姿勢のときに効果を発揮するようにできています。

シートベルトを着用していない乗員に対して、警告音と警告灯 (p. 57) でシートベルトの着用 (p. 55) を促します。

リマインダー

- シートベルトにクリップなどを取り付けしないでください。正常な着用ができなくなるおそれがあります。
- シートベルトがねじれていたり、なにかに引っかかっているはいけません。

警告

シートベルトとエアバッグの作動は、連動しています。シートベルトを着用していない場合、または着用方法が正しくない場合は、衝突の際にエアバッグの保護機能が最大限に働かないおそれがあります。

警告

各シートベルトは 1 人用です。

警告

ご自身で、シートベルトの改造や修理を絶対にしないでください。必ずボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

衝突などが原因でシートベルトに大きな力が加わった場合は、必ずシートベルト装置全体を交換してください。シートベルトに損傷が見当たらなくても、体を保持する力が失われているおそれがありますのでご注意ください。シートベルトがすり切れていたり損傷している場合は、新しいシートベルトと交換してください。新しいシートベルトは必ず認定されたタイプを使用し、交換前と同じ位置に取り付けてください。

関連情報

- シートベルト - 妊娠中 (p. 56)
- シートベルト - 外す (p. 56)
- シートベルトテンショナー (p. 57)



シートベルト - 着用

走行を開始する前にシートベルト (p. 54) を着用してください。

シートベルトをゆっくり引き出し、ロックタブをシートベルトバックルに押し込んでください。ロックすると、カチッと音がします。



正しく装着されたシートベルト



不適切に装着されたシートベルト。シートベルトは必ず肩にかけてください。



シートベルト高さ調節ボタンを押して、ベルトを上下に動かしてください。ベルトがのどにかからない範囲で、ベルトをできるだけ高い位置に配置してください。

中央リアシートのシートベルトのロックタブは、専用のバックルにのみロックできるようになっています。

リマインダー

以下のような場合には、シートベルトがロックして引き出せなくなります：

- シートベルトを急激に引き出したとき
- ブレーキ時や加速時
- 車体が大きく傾いたとき

関連情報

- シートベルト - 妊娠中 (p. 56)
- シートベルト - 外す (p. 56)
- シートベルトテンショナー (p. 57)
- シートベルトリマインダー (p. 57)



シートベルト - 外す

車両が停止しているときにシートベルト (p. 54) を外してください。

シートベルトバックルの赤いリリースボタンを押すと、シートベルトは自動的に巻き取られます。シートベルトが完全に巻き取られない場合は、手で押し戻して、ゆるみが残らない状態で完全に巻き取らせてください。

関連情報

- シートベルト - 着用 (p. 55)
- シートベルトリマインダー (p. 57)

シートベルト - 妊娠中

妊娠中もシートベルト (p. 54) をつねに着用してください。シートベルトは正しく着用することが重要です。



肩ベルトは肩から胸の中央を通り、腹部の横にくるようにかけてください。

腰ベルトは、骨盤のできる限り下の位置にかけてください。絶対に腹部を圧迫しないように注意してください。シートベルトはゆるみがない状態で、体に確実に密着させてください。さらに、シートベルトがねじれていないことを点検してください。

妊娠中の運転では、妊娠月が進むにしたがって、フットブレーキやステアリングホイールの操作など車両の操作がしやすいようにシート (p. 107) およびステアリングホイール (p. 112) を調節してください。シートを腹部とステアリングホイールの間の距離が最大となる場所に配置してください。

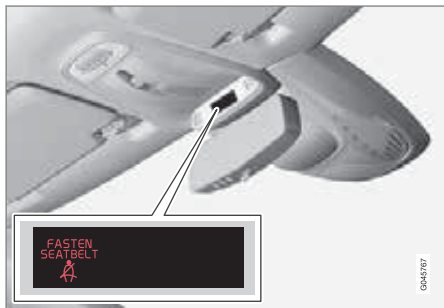
関連情報

- シートベルト - 着用 (p. 55)
- シートベルト - 外す (p. 56)



シートベルトリマインダー

シートベルトを着用していない乗員に対して、警告音と警告灯でシートベルトの着用 (p. 55) を促します。



警告音は車速に応じて作動し、また時間に応じて作動する場合もあります。警告灯は、ルーフコンソールおよびコンパインド・メーター・パネル (p. 90) にあります。

チャイルドシートは、シートベルトリマインダーの対象外となります。

リアシート

リアシートのシートベルトリマインダーには、2つの補助機能があります：

- リアシートのシートベルト (p. 54) の使用状況を、インフォメーション・ディスプレイに表示します。シートベルトが使用されている場合、またはリアドアのいずれかが開かれた場合には、コンパインド・メーター・パネルにメッセージが表示されます。メッセー

ジは、約 30 秒走行すると自動的に消えます。または、方向指示器レバーの **OK** ボタン (p. 134) を押して確認すると消えます。シートベルトを着用していない乗員がいる場合には、方向指示器レバーの **OK** ボタンを押して手動で確認した場合のみ消えます。

- 走行中に、いずれかのリアシートベルトが外されると作動します。コンパインド・メーター・パネルにメッセージが表示され、警告音/警告灯が作動します。この警告は、シートベルトを再び着用するか、または **OK** ボタンを押して確認すると停止します。

コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイには、どのシートベルトが使用中かが表示されます。この情報はいつでも利用できます。

シートベルトテンショナー

運転席および助手席、外側リアシートのシートベルト (p. 54) には、シートベルトテンショナーが装備されています。衝突により一定レベル以上の衝撃を受けると、シートベルトのゆるみを素早く取り除きます。衝突の際に、乗員をより効果的に保護します。

警告

助手席側シートベルトを、運転席側シートベルトバックルに絶対に差し込まないでください。シートベルトは、必ず正しい側のバックルに差し込んでください。シートベルトに傷を付けたり、バックルの中に異物を入れたりしないでください。衝突時にシートベルトやバックルが正常に機能しないおそれがあります。大ケガを負うおそれがあります。

関連情報

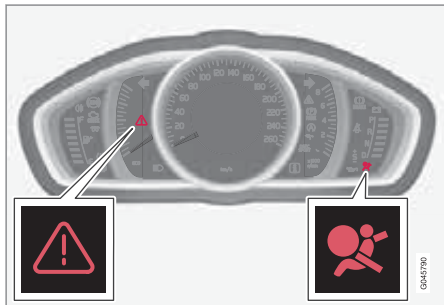
- シートベルトについて (p. 54)



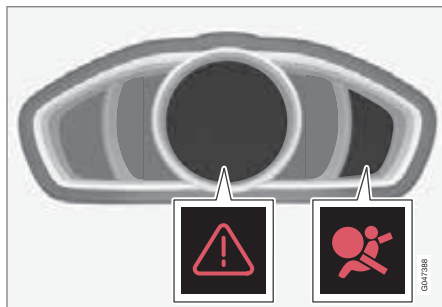
03 セーフティ

セーフティ - 警告灯

警告灯は、故障診断中に不具合が検出されるか、システムが既に起動されている場合に表示されます。必要な場合には、警告灯がメッセージと共にコンパインド・メーター・パネル(p. 90)のインフォメーション・ディスプレイに表示されます。



アナログ式コンパインド・メーター・パネルのエアバッグシステム三角警告灯および警告灯



液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネルのエアバッグシステム三角警告灯および警告灯

リモートコントロールキーのキー位置が II (p. 106) であればコンパインド・メーター・パネルに警告灯が点灯し、イグニッションがオンにされるたびに故障診断が実行されます。システムに不具合がなければ、警告灯は約 6 秒後に消灯します。

警告灯は、故障診断中に不具合が検出されるか、システムが既に起動されている場合に表示されます。必要な場合には、警告灯がメッセージと共に表示されます。警告灯に不具合がある場合は、三角警告灯が点灯して、ディスプレイに **SRS エアバッグ サービスが必要です** または **SRS エアバッグ 直ちにサービスが必要です** が表示されます。ただし、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

警告

エアバッグシステムの警告灯が点灯し続けたり、走行中に点灯した場合は、エアバッグシステムの機能に不具合があることを示しています。エアバッグの警告灯が点灯した場合、シートベルトテンショナーシステム、SIPS、IC システム、またはその他のシステムに不具合が発生しているおそれがあります。すみやかに、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

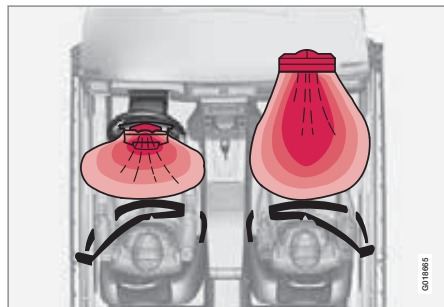
関連情報

- セーフティモードについて (p. 69)

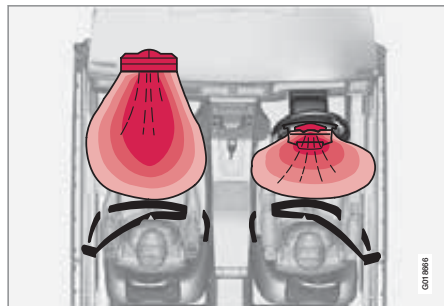


エアバッグシステム

前面衝突の際、エアバッグシステムが運転者と助手席乗員の頭部、顔面、胸部を衝撃から保護します。



上から見たエアバッグ、左ハンドル車



上から見たエアバッグ、右ハンドル車

このシステムは、エアバッグとセンサーで構成されています。衝突事故により一定レベル以上の衝撃を受けると、センサーが反応してエアバッグが膨張し、高温になります。エアバッグにより、衝突時に乗員に対する当初の衝撃が緩和されます。エアバッグは、衝突による圧力がかかると内部のガスが抜け、収縮します。このとき、車内に煙が放出されますが、これは異常ではありません。エアバッグが膨張・収縮する一連の動作は、瞬間的に行われます。

警告

修理は、必ずボルボ指定のサービス工場に依頼してください。エアバッグシステムへの作業に不具合があると、誤作動につながり、大ケガをするおそれがあります。

注意

センサーは、衝突の性質やシートベルトが着用されているかどうかを判断し、それに応じて反応します。これは、センターリアシート以外の全席に該当します。

そのためエアバッグが1つだけが作動する場合や、1つも作動しない場合があります。センサーは、車両が受けた衝撃の強さを感じて、必要なエアバッグだけを作動させます。

関連情報

- 運転席側エアバッグ (p. 60)
- 助手席エアバッグ (p. 60)
- セーフティ - 警告灯 (p. 58)

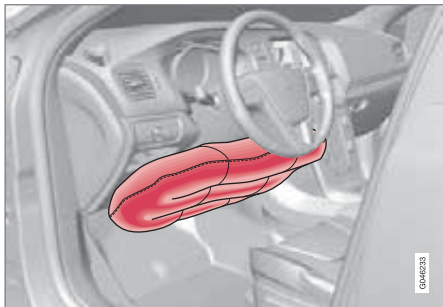


03 セーフティ

運転席側エアバッグ

シートベルト (p. 54) の補助として、運転席側にエアバッグ (p. 59) が2つ装着されています。

ひとつはステアリングホイールの中央に収納されています。ステアリングホイールに **AIRBAG** の文字が表示されています。



左ハンドル車の運転席側ニー(膝)エアバッグ

もうひとつのエアバッグ(膝の高さ)は運転席側ダッシュボードの下側にあり、このパネルには **AIRBAG** と表示されています。

警告

シートベルトとエアバッグの作動は、連動しています。シートベルトを着用していない場合、または着用方法が正しくない場合は、衝突の際にエアバッグの保護機能が最大限に働かないおそれがあります。

関連情報

- 助手席エアバッグ (p. 60)

助手席エアバッグ

シートベルト (p. 54) を補助する目的で、助手席にエアバッグ (p. 59) が装備されています。

このエアバッグは、グローブボックス上のパネル内に収納されています。パネルに、**AIRBAG** の文字が表示されています。



助手席側エアバッグの位置(左ハンドル車)



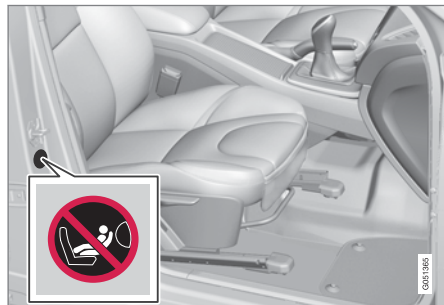
助手席側エアバッグの位置(右ハンドル車)



助手席側エアバッグの警告ラベルは、車内の次の2箇所のいずれかに貼ってあります。



位置1：助手席側サンバイザーのエアバッグラベルの位置



位置2：助手席側ドアピラーのエアバッグラベルの位置ラベルは助手席側ドアを開くと見えます

警告

後ろ向きのチャイルドシートはエアバッグが作動可能状態のシート上で絶対使用しないでください。この指示を守らないと、お子様が死亡するまたは重傷を負う可能性があります。

警告

シートベルトとエアバッグの作動は、連動しています。シートベルトを着用していない場合、または着用方法が正しくない場合は、衝突の際にエアバッグの保護機能が最大限に働かないおそれがあります。

エアバッグ作動時にケガをする危険を減らすため、乗員は背中全体がバックレストに接するように背筋を伸ばしてまっすぐに座り、足はフロアに置いてください。シートベルトを必ず着用してください。

警告

助手席側エアバッグが装着されているダッシュボードの前や上には、絶対に物を置いたりアクセサリなどを取り付けないでください。

警告

助手席側エアバッグが作動可能状態のときは、チャイルドシートやブースタークッションを使用してお子様を、助手席に絶対に座らせないでください。

助手席シートの前には、絶対に誰も立たせたり座らせたりしないでください。

助手席側エアバッグが作動可能状態のときは、身長が140 cm未満の方を助手席に絶対に座らせないでください。

この指示を守らないと、生命に危険が及ぶおそれがあります。

スイッチ - PACOS*

車両にPACOS (Passenger Airbag Cut Off Switch) が装着されている場合は、助手席側エアバッグの作動をオフ (p. 62) にすることができます。

警告

車両に助手席側エアバッグが装着されており、PACOS スイッチ (パッセンジャー・エアバッグ・カットオフ・スイッチ) が装着されていない場合は、助手席側エアバッグはつねに作動可能状態です。

関連情報

- 運転席側エアバッグ (p. 60)
- チャイルドシート (p. 74)

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



03 セーフティ

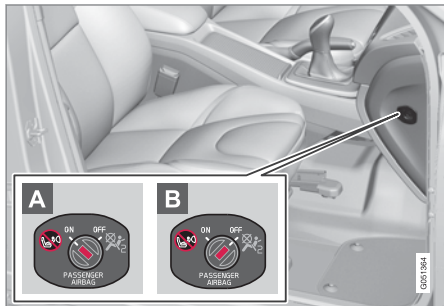
助手席エアバッグ - 作動/解除*

車両に助手席エアバッグ・カットオフ・スイッチ、PACOS (Passenger Airbag Cut Off Switch) が装着されている場合は、助手席側エアバッグ (p. 60) を非作動状態にすることができます。

スイッチ - PACOS

助手席側エアバッグの PACOS スイッチは、メーター・パネルの助手席側端にあります。助手席ドアを開けて操作します。

スイッチが希望の位置になっているか確認してください。リモートコントロールキーのキーブレード (p. 192) を使用して位置を変更してください。



エアバッグスイッチの位置

A エアバッグが作動可能状態。スイッチをこの位置にすると、身長が 140 cm 以上の方は助手席に座ることができます。ただし、チャイルドシートやブースタークッションを使

用してお子様を、助手席に絶対に座らせないでください。

B エアバッグが非作動状態。スイッチをこの位置にすると、チャイルドシートやブースタークッションを使用してお子様を助手席に座らせることができますが、身長が 140 cm 以上の方は助手席に絶対に座らないでください。

警告

助手席エアバッグが作動可能状態の場合：

助手席側エアバッグが作動可能状態のときは、チャイルドシートやブースタークッションを使用してお子様を、助手席に絶対に座らせないでください。これは、身長が 140 cm 未満の方に当てはまります。

助手席エアバッグが非作動状態の場合：

エアバッグが非作動状態の場合には、身長が 140 cm 以上の方は、助手席に絶対に座らないでください。

この指示を守らないと、生命に危険が及ぶおそれがあります。

注意

リモートコントロールキーをキー位置 II (p. 106) にすると、コンバインド・メーター・パネルのエアバッグ警告灯 (p. 58) が約 6 秒間点灯します。

続いてルーフコンソールのインジケーターが点灯し、助手席側エアバッグの作動可能/非作動状態を表示します。



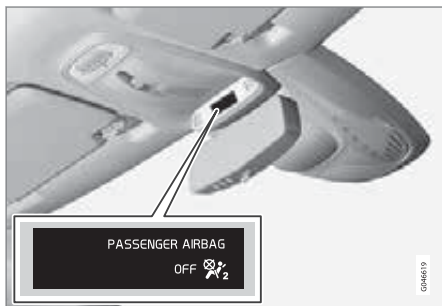
助手席側エアバッグが作動状態であることを表示するインジケーター

ルーフコンソールにディスプレイテキストおよび警告表示が表示されれば、助手席側エアバッグが作動状態であることを示します (前図参照)。



警告

助手席側エアバッグが作動可能状態で、ルーフコンソールに  が表示されているときは、チャイルドシートやブースタークッションを使用して、お子様を助手席に絶対に座らせないでください。この指示を守らないと、お子様の生命に危険が及ぶおそれがあります。



助手席側エアバッグが非作動状態であることを表示するインジケータ

ルーフコンソールにディスプレイテキストおよびシンボルが表示されれば、助手席側エアバッグが非作動状態であることを示します(前図参照)。

警告

ルーフコンソールにエアバッグ非作動のメッセージが表示され、コンバインド・メーター・パネルのエアバッグ 警告灯 (p. 58) も点灯しているときは、助手席に誰も座らせないでください。重大な故障が発生しているおそれがあります。すみやかに、サービス工場で点検を受けてください。必ずボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

警告

この指示を守らないと、乗員の生命に危険が及ぶおそれがあります。

関連情報

- チャイルドシート (p. 74)

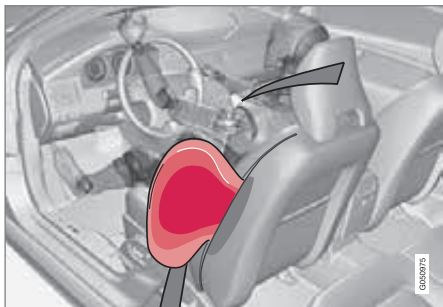
サイドエアバッグ(SIPS)

側面衝突時にかかる衝撃の大部分が、側面衝撃吸収システム、SIPS (Side Impact Protection System) によって、ビーム、ピラー、フロア、ルーフ、車体のその他の構造部分へ分散されます。運転席と助手席のサイドエアバッグは、胸部および腰を保護する SIPS の重要なシステムです。

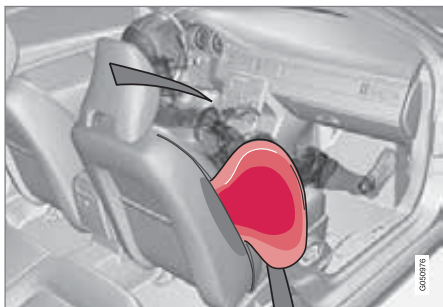


SIPS バッグシステムは、サイドエアバッグおよびセンサーで構成されています。サイドエアバッグは、フロントシートバックレスト内に取り付けられています。

側面からの衝突によって一定レベル以上の衝撃を受けるとセンサーが反応し、サイドエアバッグが膨張します。サイドエアバッグは、乗員とドアの間に膨張して衝突の衝撃を和らげます。エアバッグは、衝突による圧力がかかると内部のガスが抜け、収縮します。作動するのは、側面から衝撃を受けた側のエアバッグのみです。



運転席シート(左ハンドル車)



助手席シート(左ハンドル車)

警告

- 修理は必ず、ボルボ指定のサービス工場に依頼してください。SIPS バッグシステムへの作業に不具合があると、誤作動につながり、大ケガをするおそれがあります。
- シートの外側とドアパネルの間に、なにも物を置かないでください。このスペースは、サイドエアバッグの作動に必要です。
- シートカバーは、ボルボ社が認可した製品以外は使用しないでください。それ以外のシートカバーは、サイドエアバッグの作動の妨げになるおそれがあります。
- サイドエアバッグは、シートベルトの補助装置です。シートベルトを必ず着用してください。

関連情報

- 運転席側エアバッグ (p. 60)
- 助手席エアバッグ (p. 60)
- サイドエアバッグ(SIPS)- チャイルドシート/ブースタークッション (p. 64)
- インフレーターブルカーテン(IC) (p. 65)

サイドエアバッグ(SIPS)- チャイルドシート/ブースタークッション

サイドエアバッグ(p. 63)は、チャイルドシートやブースタークッションに座っているお様への保護効果を損なうものではありません。

チャイルドシートやブースタークッション(p. 74)は、助手席に取り付けることができません。ただし、その場合は助手席側エアバッグを非作動状態(p. 62)にしておく必要があります。

関連情報

- 助手席エアバッグ (p. 60)
- お子様の安全について (p. 73)



インフレータブルカーテン(IC)

インフレータブルカーテンは、ドア側の乗員の頭部を衝突の衝撃から保護します。



IC インフレータブルカーテン(Inflatable Curtain)は、SIPS システム (p. 63) の一部です。これは、ルーフの両側面に沿ってヘッドライニング内側に装着されており、ドア側の乗員を衝突の衝撃から保護します。衝突によって一定レベル以上の衝撃を受けると、センサーが作動してインフレータブルカーテンが展開します。

警告

ルーフのハンドルに、絶対に重い物を吊り下げたり取り付けないでください。ハンドルに付いているフックは、軽量の衣服のみをかけるために設計されたものです(傘などの硬い物はかけないでください)。

ヘッドライニング、ドアピラー、およびサイドパネルに、スクリューをねじ込んだり物を取り付けしないでください。保護効果が損なわれるおそれがあります。この部分への取り付けが認められている、ボルボ純正品以外の物を取り付けしないでください。

警告

ドア内のウインドの上端から 50 mm 下の位置に達するまで、荷物を積み上げないでください。荷物を積むと、ヘッドライニングの内側に装着されているインフレータブルカーテンの保護効果が損なわれるおそれがあります。

警告

インフレータブルカーテンは、シートベルトの補助装置です。

シートベルトを必ず着用してください。

関連情報

- シートベルトについて (p. 54)
- エアバッグシステム (p. 59)

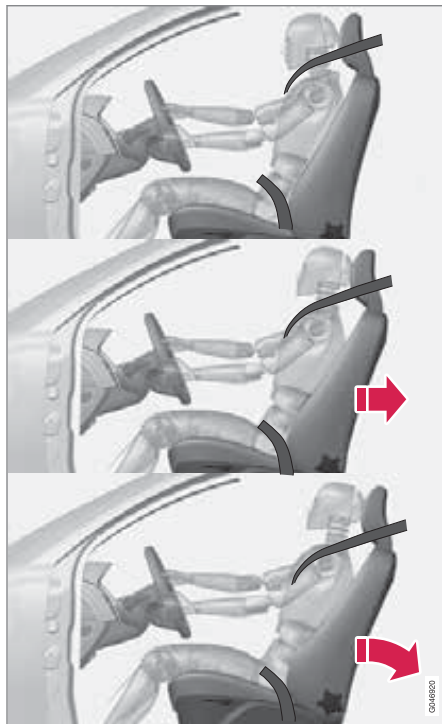
- サイドエアバッグ(SIPS) (p. 63)



03 セーフティ

WHIPS(後部衝撃吸収リクライニング機構付フロントシート)について

WHIPS(後部衝撃吸収リクライニング機構付フロントシート)はむち打ち症を防ぐ機能です。このシステムは、衝撃を吸収するバックレストおよび特別な機構を持つフロントシートのヘッドレストで構成されています。



WHIPSは追突時に起動します。この際、追突の角度、速度、および追突車の状態などが作動条件に合うと作動します。

警告

WHIPS システムは、シートベルトの補助装置です。シートベルトを必ず着用してください。

シートの特性

WHIPS システムが作動すると、フロントシートバックレストを後方に傾斜させて運転席および助手席の乗員の着座姿勢を変えます。この機能は、むち打ち症になる危険性を低減します。

警告

ご自身で、シートや WHIPS システムの改造や修理を絶対にしないでください。必ずボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

関連情報

- WHIPS - チャイルドシート (p. 67)
- WHIPS - 着座姿勢 (p. 67)
- シートベルトについて (p. 54)



WHIPS - チャイルドシート

WHIPS システム (p. 66) はチャイルドシートやブースタークッションに座っているお子様への保護効果を損なうものではありません。

チャイルドシートやブースタークッション (p. 74) は、助手席に取り付けることができます。ただし、その場合は助手席側エアバッグを非作動状態 (p. 62) にしておく必要があります。

関連情報

- お子様の安全について (p. 73)

WHIPS - 着座姿勢

WHIPS システム (p. 66) の最大の保護効果を得るために、運転者と助手席乗員は正しい着座姿勢を保ち、システムの機能を妨げないようにすることが必要です。

着座姿勢

走行を開始する前に、フロントシート (p. 107) での正しい着座姿勢を確認してください。

運転者と助手席乗員は、頭部とヘッドレストの間の隙間ができるだけ小さくなるような姿勢で、シートの中央に座ってください。

機能



WHIPS システムの作動が妨げられないよう、運転席および助手席の後ろの床にはなにも置かないようにしてください。

警告

リアシートクッションとフロントシートバックレストの間に、硬い物を置かないでください。WHIPS システムの作動が妨げられていないことを確認してください。



WHIPS システムの作動が妨げられないよう、リアシートに物を置かないようにしてください。

警告

リアシートバックレストを倒す場合は、倒したバックレストとフロントシートバックレストが接触しないように、フロントシートを前方に移動させてください。



警告

追突などでシートが衝撃を受けた後は、WHIPS システムの点検を受けてください。点検は、ボルボ指定のサービス工場で行ってください。

衝突に遭った後では、シートに損傷が見当たらなくても WHIPS システムの保護機能が失われているおそれがあります。

軽い追突の後でも、ボルボ指定のサービス工場で行ってください。

システムの作動

衝突の際には、被害を最小限にとどめるため、ボルボの各種のセーフティシステムが連携して作動します。

システム	作動要因
シートベルトテンショナー (p. 57) フロントシート	前面衝突時、側面衝突時、追突されたとき、横転時
シートベルトテンショナー (p. 57) リアシート ^A	前面衝突時、側面衝突時、横転時
エアバッグ (ステアリングホイール、ニー (p. 60) および助手席エアバッグ (p. 60))	前面衝突時 ^B
サイドエアバッグ (SIPS) (p. 63)	側面衝突時 ^B
インフレーターブルカーテン (IC) (p. 65)	側面衝突時、横転時、前面衝突時 ^B
むち打ち症対策機構 (WHIPS) (p. 66)	追突されたとき

^A 中央のリアシートには、シートベルトテンショナーはありません。

^B ボディが大きく変形するような衝突でも、エアバッグが作動しない場合があります。車両のセーフティシステムの作

動は、衝突物の硬さや重量、車両の走行速度、衝突の角度など、さまざまな要素が影響します。

エアバッグ (p. 59) が展開した場合は、次の指示に従ってください。

- 車両のけん引。車両をボルボ指定のサービス工場に搬送してください。エアバッグ作動後は、絶対に自走しないでください。
- ボルボ指定のサービス工場に、車両のセーフティシステム部品の交換を依頼してください。
- 医師の診察を必ず受けてください。

注意

エアバッグおよびシートベルトテンショナーシステムは、衝突時に一度だけ作動します。

警告

エアバッグコントロールモジュールは、センターコンソールの中にあります。センターコンソールに、水その他の液体が入った場合は、バッテリーケーブルの接続を外してください。エアバッグが展開するおそれがありますので、エンジンを始動しないでください。車両の回収をし、車両をボルボ指定のサービス工場に搬送してください。

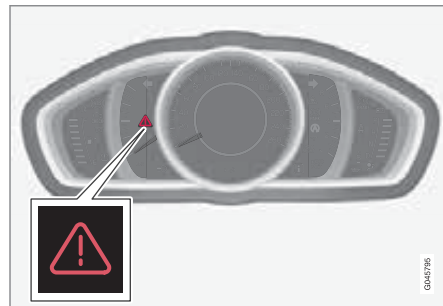


警告

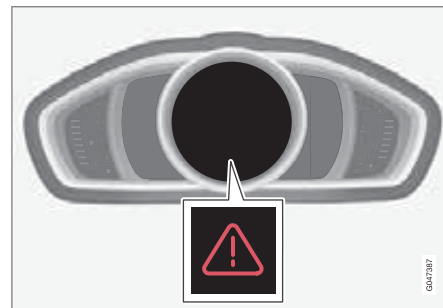
エアバッグ作動後は、絶対に自走しないでください。エアバッグによってハンドル操作が妨げられるおそれがあります。他のセーフティシステムも損傷を受けているおそれがあります。エアバッグ作動時に放出された煙や埃が原因で、目や皮膚に傷や炎症を起こす場合があります。炎症を起こした場合は、冷水でよく洗ってください。エアバッグの展開速度は極めて速く、エアバッグの布との摩擦熱で皮膚にヤケドや擦過傷を負うおそれがあります。

セーフティモードについて

セーフティモードは、燃料パイプ、セーフティシステムのセンサー、ブレーキシステムなどの重要な機能が損傷を受けた場合に作動するセーフティ機能です。



アナログ式コンパインド・メーター・パネルの三角警告灯



液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネルの三角警告灯

衝突の際、セーフティモード マニュアルを参照して 下さいのテキストがコンパインド・メーター・パネル (p. 90) のインフォメーション・ディスプレイに表示されることがあります。この表示は、車両の機能が低下していることを意味します。

警告

車両がセーフティモードになっているときは、絶対にご自身で車を修理したり、電子機器のリセットをしないでください。ケガをするおそれがあり、また不具合の原因となります。セーフティモード マニュアルを参照して 下さいが表示された場合には、ボルボ指定のサービス工場 で車両の点検修理を必ず行ってください。



03 セーフティ



関連情報

- セーフティモード - 車両の始動を試行する (p. 70)
- セーフティモード - 車両の移動 (p. 71)

セーフティモード - 車両の始動を試行する

車両がセーフティモード (p. 69) になっている場合、車両全体が正常なように見え、燃料漏れがないことが確認できた場合、始動を試行することができます。

始めに、車両から燃料が漏れていないか確認してください。燃料の臭いがしていないことを、必ず確認してください。

なにも異常が見られず、燃料漏れもなければ、エンジンを始動してください。

リモートコントロールキーを取り出して、運転席ドアを開けてください。イグニッションがオンであるというメッセージが表示されたら、スタートボタンを押してください。その後、ドアを閉め、もう一度リモートコントロールキーを挿入してください。これにより、車両の電子機器が、ノーマルモードへのリセットを試みます。エンジンを始動します。

セーフティモード マニュアルを参照して 下さい のメッセージがまだ表示されている場合は、絶対に走行またはけん引をしないでください。レッカーサービス (p. 344) を使用してください。隠れた損傷があった場合、移動中に車両を制御できなくなるおそれがあります。



警告

セーフティモード マニュアルを参照して 下さいが表示されているときに燃料の臭いを感じた場合は、エンジンを絶対に始動しないでください。ただちに、車両から離れてください。



警告

車両がセーフティモードになっているときは、絶対に車両をけん引しないでください。ボルボ指定のサービス工場に積載車に載せて搬送してください。

関連情報

- セーフティモード - 車両の移動 (p. 71)



セーフティモード - 車両の移動

車両の始動を試行 (p. 70) した後で **セーフティモード*** **マニュアル**を参照して **下さい** がリセットされ、**Normal mode** が表示された場合は、車両を危険な場所から注意しながら移動させることが可能です。

必要以上に移動させないでください。

関連情報

- セーフティモードについて (p. 69)

歩行者エアバッグ*

歩行者エアバッグ (Pedestrian Airbag) は、特定の前面衝突の際、歩行者が受ける衝撃を軽減するのに役立ちます。



この歩行者エアバッグ (Pedestrian Airbag) はボンネットの下、ウインドスクリーン付近に装着されています。万が一、歩行者と前面衝突した場合には、フロントバンパー内のセンサーが反応し、衝撃の大きさに基づいてエアバッグが必要に応じて膨張します。このセンサーは速度が約 20~50 km/h、外気温-20~+70 °C で作動します。

このセンサーは「人の足」の特徴を持つ物体との衝突を感知するように設計されています。

注意

歩行者との衝突時と同様のセンサー信号が発生させる物体が、交通環境に存在する場合があります。このような物体と衝突したときに、システムが起動する可能性があります。

エアバッグ (Pedestrian Airbag) が作動すると

- ボンネットの後部が上昇し、この位置でロックされます。
- 非常点滅表示灯が点滅します。
- ブレーキ装置が来るべき急ブレーキの準備をします。

警告

車両にエアバッグ (Pedestrian Airbag) が装備されている場合には、車両のフロント部分にアクセサリを取り付けたり、変更を加えたりしないでください。前部に不適切な改変を行うと、システムが正しく動作せず、大ケガや車両への損傷につながります。

ボルボでは、純正のワイパーアームや純正の部品を使用するよう推奨します。

警告

バンパーが損傷を受けたとき、システムが無傷であることを確認するために、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



関連情報

- 歩行者エアバッグ* - 車両の移動 (p. 72)
- 歩行者エアバッグ* - たたみ方 (p. 72)

歩行者エアバッグ* - 車両の移動

車両がセーフティモード (p. 69) になっている場合には、車両を移動することができます。

車内の他のエアバッグが作動した場合には、車両はセーフティモードになります。

歩行者エアバッグ (Pedestrian Airbag) (p. 71) のみが作動した場合は：

1. できる限り安全な場所に車両を移動させます。
2. エアバッグを説明 (p. 72) に従って折りたたみます。
3. 最寄りのサービス工場にご連絡ください。



警告

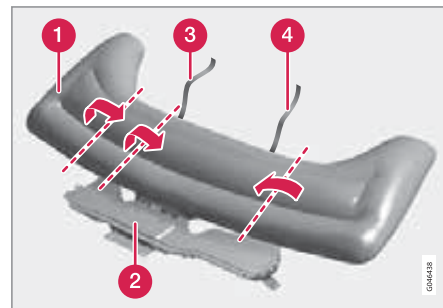
ボルボでは、エアバッグが作動した場合には、すみやかにボルボ指定のサービス工場にご連絡いただくよう推奨しています。

関連情報

- 歩行者エアバッグ* (p. 71)

歩行者エアバッグ* - たたみ方

歩行者エアバッグ (p. 71) (Pedestrian Airbag) は、車両を動かす前に折りたたむ必要があります。



- 1 エアバッグ
- 2 エアバッグハウジング
- 3 マジックテープストラップ、右側
- 4 マジックテープストラップ、左側

エアバッグが温かく感じられることや、煙が出ることがありますが、これは不具合ではありません。次のようにエアバッグをたたみます：

1. 左側 (4) のマジックテープストラップを見つめます。



2. 左側でエアバッグの布地を長辺に沿って寄せ集めます。それを中央に向けて折りたたみます。エアバッグの布地をできるだけ覆うように、布地周囲にマジックテープストラップ(両面)を巻きつけ、固定します。
3. たたんだエアバッグをエアバッグハウジング(2)に押し入れます。
4. 1〜3を右側でも行います。助手席側では、たたんだ布地を2回折らないとマジックテープストラップを巻きつけられない場合があります。
5. エアバッグハウジングカバーは少し開いたままになります。これは異常ではありません。

関連情報

- 歩行者エアバッグ* - 車両の移動 (p. 72)

お子様の安全について

お子様は、年齢や体格に関わらず、必ず適切な固定装置を使用して正しく座らせてください。お子様を、けっして乗員のひざの上に座らせないでください。

ボルボでは、小さいお子様(少なくとも3〜4歳ごろまで)に対しては、できるだけ後ろ向きに装着するチャイルドシートのご使用を推奨しています。その後10歳ごろまで、前向きのブースタークッション/チャイルドシートをご使用ください。

お子様が車内で座る位置や、チャイルドシートの種類を決める際には、お子様の体重と身長が重要な条件となります。チャイルドシート(p. 74)を参照してください。

注意

お子様を乗せる位置に関する規則は、国により異なります。適用される法律や規則を確認してください。

ボルボでは、ボルボ車専用に設計されたお子様用のチャイルドセーフティ製品(チャイルドシート、ブースタークッションと取付アタッチメント)を取りそろえております。ボルボのチャイルドセーフティ製品をご利用いただくことで、お子様のためにもっとも安全な車内環境を整えることができます。その上、弊社チャイルドセーフティ製品はお車に確実にフィットし、使いやすくなっています。

注意

チャイルドセーフティ製品の取り付けに関してご不明な点は、その用具の製造元(メーカー)にお問い合わせください。

チャイルドロック

リアドアのパワーウィンドの操作スイッチやリアドアのハンドルがロック(p. 206)されて、内側から開けられないようになります。

関連情報

- チャイルドシート (p. 74)
- チャイルドシート - 位置 (p. 78)
- チャイルドシート - ISOFIX (p. 79)
- チャイルドシート - アップーマウンティンクポイント (p. 82)



03 セーフティ

チャイルドシート

お子様が、快適で安全な姿勢になるように座らせてください。チャイルドシートの正しい使用を確認してください。



助手席側エアバッグが作動可能状態のときは、助手席にチャイルドシートを取り付けないでください。

注意

チャイルドセーフティ用具をご使用になる場合は、付属の取付説明書をよくお読みください。

警告

チャイルドシートのストラップは、シートの前後方向調節バー、スプリング、またはシート下のレールやビームに取り付けしないでください。これらの部分には鋭い角があるため、ストラップが損傷するおそれがあります。

正しい取り付け方法に関しては、チャイルドシートの取付説明書をご覧ください。

推奨チャイルドシート¹

体重	フロントシート(エアバッグは非作動状態)	リアシート(ドア側)	リアシート(中央)
グループ 0 10 kg 以下 グループ 0+ 13 kg 以下		ボルボ純正ベビーシート(Volvo Infant Seat) - 後ろ向きに装着し、ISOFIX フィクスチャーシステムで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E1 04301146 (L)	
グループ 0 10 kg 以下 グループ 0+ 13 kg 以下	ボルボ純正ベビーシート(Volvo Infant Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E1 04301146 (U)	ボルボ純正ベビーシート(Volvo Infant Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E1 04301146 (U)	ボルボ純正ベビーシート(Volvo Infant Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E1 04301146 (U)
グループ 0 10 kg 以下 グループ 0+ 13 kg 以下	一般に承認されているチャイルドシート。 ^A (U)	一般に承認されているチャイルドシート (U)	

¹ この表に記載されていないチャイルドシートをご使用になる場合は、車両とチャイルドシートが適合するか、必ず確認してください。チャイルドシートの製造元(メーカー)が提供する適合車種一覧表に該当車種が掲載されている、あるいはチャイルドシートが欧州基準 ECE R44 に合格したものであることを確認してください。



03 セーフティ



体重	フロントシート(エアバッグは非作動状態)	リアシート(ドア側)	リアシート (中央)
グループ 1 9～18 kg	ボルボ純正チャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトおよびストラップで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E5 04192 (L)	ボルボ純正チャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトおよびストラップで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E5 04192 (L)	
グループ 1 9～18 kg	一般に承認されているチャイルドシート ^A (U)	一般に承認されているチャイルドシート (U)	
グループ 2 15～25 kg	ボルボ純正チャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトおよびストラップで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E5 04192 (L)	ボルボ純正チャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトおよびストラップで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E5 04192 (L)	
グループ 2 15～25 kg	ボルボ純正チャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 前向きに装着し、シートベルトで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E5 04191 (U)	ボルボ純正チャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 前向きに装着し、シートベルトで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E5 04191 (U)	
グループ 2/3 15～36 kg	ボルボ純正ブースタークッション - バックレスト付き (Volvo Booster Seat with backrest)。 型式認定 : E1 04301169 (UF)	ボルボ純正ブースタークッション - バックレスト付き (Volvo Booster Seat with backrest)。 型式認定 : E1 04301169 (UF)	

03



体重	フロントシート(エアバッグは非作動状態)	リアシート(ドア側)	リアシート(中央)
グループ 2/3 15～36 kg	ブースタークッション - バックレスト付き/なし (Booster Cushion with and without backrest)。 型式認定 : E5 04216 (UF)	ブースタークッション - バックレスト付き/なし (Booster Cushion with and without backrest)。 型式認定 : E5 04216 (UF)	

L : 特定のチャイルドシートに適しています。この種のチャイルドシートは、限定カテゴリーや特殊性の高いカテゴリーの特殊車種で使用するを意図している場合があります。

U : この体重等級で一般的に承認されているチャイルドシートに適しています。

UF : この体重等級で一般的に承認されている前向きのチャイルドシートに適しています。

B : この体重等級用に承認されているビルトインチャイルドシート。

A 後ろ向きに装着するチャイルドシートのみ。シートのバックレストを直立位置にセットしてください。

関連情報

- チャイルドシート - 位置 (p. 78)
- チャイルドシート - アップーマウンティン
グポイント (p. 82)
- チャイルドシート - ISOFIX (p. 79)
- お子様の安全について (p. 73)



03 セーフティ

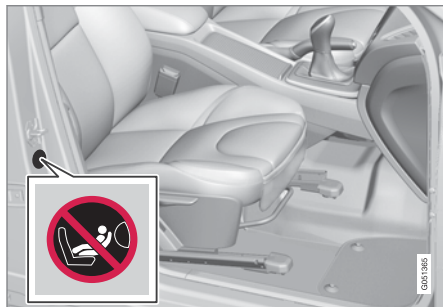
チャイルドシート - 位置

助手席エアバッグが作動可能状態 (p. 62) のときは、チャイルドシート/ブースタークッション (p. 74) を必ずリアシートに装着してください。お子様を助手席に座らせると、エアバッグ作動時に大ケガを負うおそれがあります。

助手席側エアバッグの警告ラベルは、車内の次の2箇所のいずれかに貼ってあります。



位置1：助手席側サンバイザーのエアバッグラベルの位置



位置2：助手席側ドアピラーのエアバッグラベルの位置ラベルは助手席側ドアを開くと見えます

使用できる位置：

- 助手席にチャイルドシートまたはブースタークッション(助手席側エアバッグが非作動状態の場合)。
- リアシートに1つ以上のチャイルドシート/ブースタークッション。

警告

後ろ向きのチャイルドシートはエアバッグが作動可能状態のシート上で絶対使用しないでください。この指示を守らないと、お子様が死亡するまたは重傷を負う可能性があります。

警告

助手席側エアバッグが作動可能状態のときは、チャイルドシートやブースタークッションを使用してお子様を、助手席に絶対に座らせないでください。

助手席シートの前には、絶対に誰も立たせたり座らせたりしないでください。

助手席側エアバッグが作動可能状態のときは、身長が140 cm未満の方を助手席に絶対に座らせないでください。

この指示を守らないと、生命に危険がおよぶ恐れがあります。

警告

シートベルトバックルのリリースボタンに当たるようなタイプのスチール製ブレース付きブースタークッション/チャイルドシートなどは、絶対に使用しないでください。シートベルトバックルが、突然外れるおそれがあります。

チャイルドシート上部を、ウインドスクリーンに当てないでください。

関連情報

- お子様の安全について (p. 73)
- チャイルドシート - アップーマウンティングポイント (p. 82)
- チャイルドシート - ISOFIX (p. 79)



チャイルドシート - ISOFIX

ISOFIX は国際標準規格に基づくチャイルドシート (p. 74) 固定システムです。



ISOFIX フィクスチャーシステム用のマウンティングポイントは、外側リアシートのバックレストの下側にあります。

マウンティングポイントの位置は、バックレストのトリムにシンボルで表示されています(前図参照)。

チャイルドシートを ISOFIX 対応マウンティングポイントに取り付けるときは、シートの製造元(メーカー)の取扱説明書に必ず従ってください。

関連情報

- ISOFIX - サイズ等級 (p. 79)
- ISOFIX - チャイルドシートの種類 (p. 80)
- お子様の安全について (p. 73)

ISOFIX - サイズ等級

ISOFIX (p. 79) 対応のチャイルドシートにはサイズ等級があります。サイズ等級は、正しいタイプのチャイルドシート (p. 80) を選択するための参考にすることができます。

サイズ等級	説明
A	フルサイズ、前向きに装着するチャイルドシート
B	小型サイズ(タイプ 1)、前向きに装着するチャイルドシート
B1	小型サイズ(タイプ 2)、前向きに装着するチャイルドシート
C	フルサイズ、後ろ向きに装着するチャイルドシート
D	小型サイズ、後ろ向きに装着するチャイルドシート
E	後ろ向きに装着するベビーシート
F	横置きベビーシート(左側用)
G	横置きベビーシート(右側用)

警告

助手席側エアバッグが作動可能状態のときは、お子様を助手席に絶対に座らせないでください。

注意

ISOFIX チャイルドシートにサイズ等級がない場合は、チャイルドシートの製造元(メーカー)が提供する適合車種一覧表に該当車種が掲載されている必要があります。

注意

ボルボが推奨する ISOFIX チャイルドシートに関して、ボルボディーラーにお問い合わせください。

関連情報

- ISOFIX - チャイルドシートの種類 (p. 80)



ISOFIX - チャイルドシートの種類

チャイルドシートにはさまざまなサイズがあり、車両の寸法も異なります。そのため、モデル

により取り付けることができないチャイルドシートがあります。

チャイルドシートのタイプ	体重	サイズ等級	ISOFIX ^A アタッチメントによるチャイルドシートの取り付け	
			フロントシート	リアシート(ドア側)
横置きベビーシート	10 kg 以下	F	X	X
		G	X	X
後ろ向きに装着するベビーシート	10 kg 以下	E	X	OK (IL)
後ろ向きに装着するベビーシート	13 kg 以下	E	X	OK (IL)
		D	X	OK (IL)
		C	X	OK (IL)
後ろ向きに装着するチャイルドシート	9~18 kg	D	X	OK (IL)
		C	X	OK (IL)



チャイルドシートのタイプ	体重	サイズ等級	ISOFIX ^A アタッチメントによるチャイルドシートの取り付け	
			フロントシート	リアシート(ドア側)
前向きに装着するチャイルドシート	9～18 kg	B	X	OK ^B (IUF)
		B1	X	OK ^B (IUF)
		A	X	OK ^B (IUF)

X：この ISOFIX ポジションは、この体重等級やサイズ等級の ISOFIX チャイルドシートには適していません。

IL：特定の ISOFIX チャイルドシートに適しています。この種のチャイルドシートは、限定カテゴリーや特殊性の高いカテゴリーの特殊車種で使用することを意図している場合があります。

IUF：この体重等級用に一般的に承認されている前向きの ISOFIX チャイルドシートに適しています。

^A ISOFIX は国際標準規格に基づくチャイルドシート固定システムです。

^B ボルボ社は、このグループに後ろ向きに装着するチャイルドシートをお薦めします。

ISOFIX 対応の適切なサイズ等級 (p. 79) のチャイルドシートを選択してください。

関連情報

- チャイルドシート - ISOFIX (p. 79)

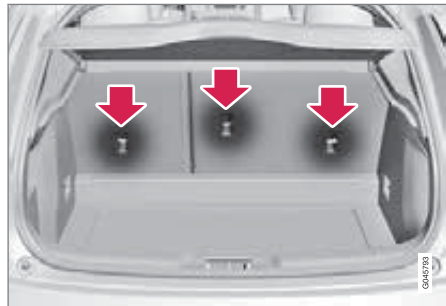


03 セーフティ

チャイルドシート - アップーマウンティングポイント

車両には、前向きに装着する一部のチャイルドシート (p. 74) 用のアップーマウンティングポイントが装備されています。マウンティングポイントは、シートの裏側にあります。

アップーマウンティングポイント



アップーマウンティングポイントは、前向きに装着するチャイルドシート用です。ボルボ社は、小さいお子様には、できるだけ後ろ向きに装着するチャイルドシートをご使用になることをお勧めします。

注意

外側シートに折りたたみ式ヘッドレストが装備されている場合には、このタイプのチャイルドシートが取り付けやすくなるように、ヘッドレストを折りたたんでください。

注意

カーゴスペースにラゲッジカバーが付いている車両は、マウンティングポイントにチャイルドシートを取り付ける前に、ラゲッジカバーを取り外してください。

アップーマウンティングポイントにチャイルドシートを固定する方法については、シートの製造元(メーカー)の取扱説明書を参照してください。

警告

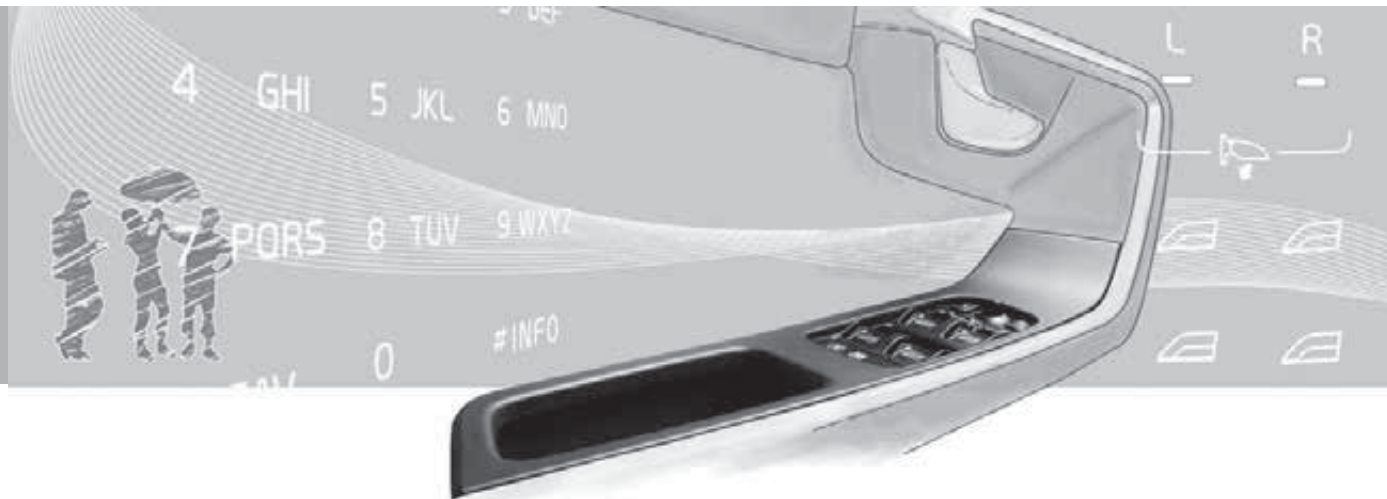
チャイルドシートのストラップは、必ずヘッドレスト脚部の穴を通してから、取り付け地点で張力を調節してください。

関連情報

- お子様の安全について (p. 73)
- チャイルドシート - 位置 (p. 78)
- チャイルドシート - ISOFIX (p. 79)

04

計器およびコントロール装置





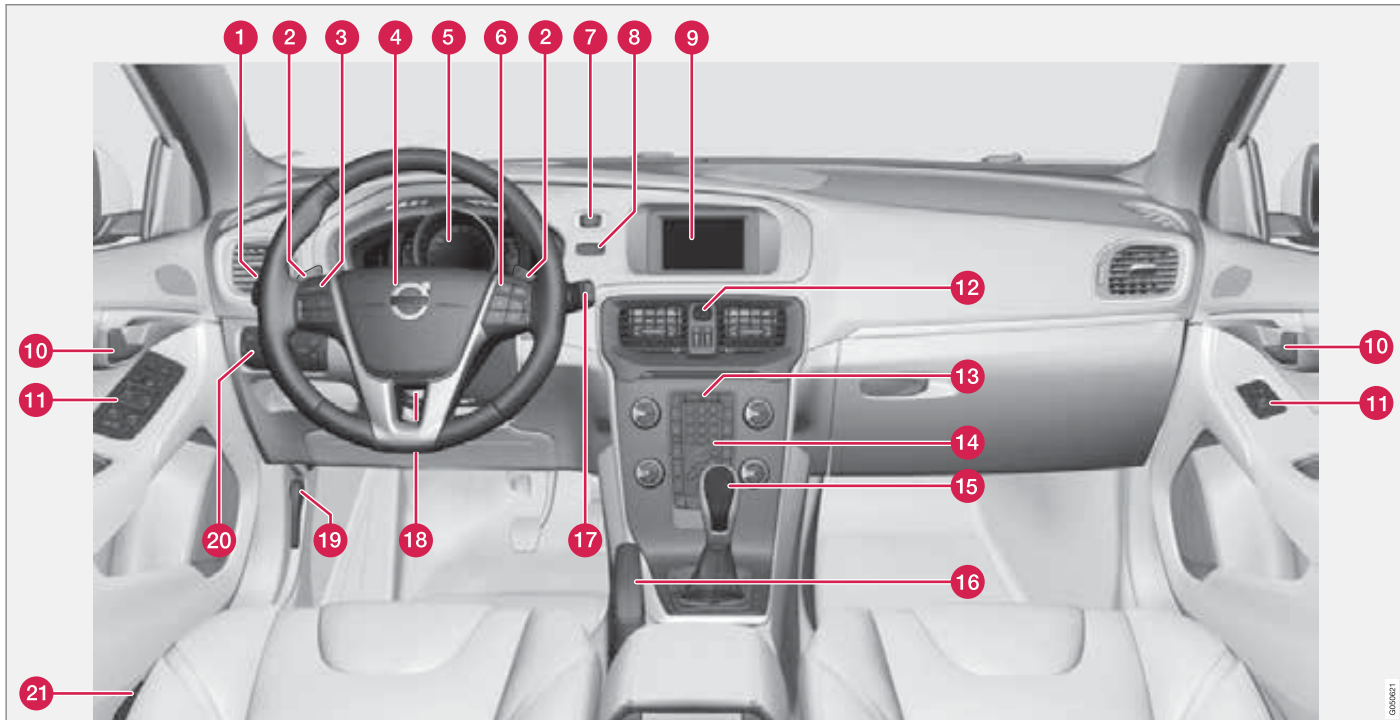
04 計器およびコントロール装置

計器およびコントロール装置、左ハンドル車 - 概要

車両のディスプレイとコントロール装置の位置を示します。



左ハンドル車の各配置



04



04 計器およびコントロール装置

04

	機能	参照
1	メニューおよびメッセージ、方向指示器、ハイ/ロービーム、トリップコンピュータ	(p. 134)、 (p. 136)、 (p. 120)、 (p. 115) およ び (p. 147)。
2	オートマチックトランスミッションのマニュアルギヤチェンジ*	(p. 301)。
3	クルーズコントロール*	(p. 222) およ び (p. 227)。
4	ホーン、エアバッグ	(p. 112) およ び (p. 59)。
5	コンパインド・メーター・パネル	(p. 90)。
6	メニューナビゲーション、オーディオコントロール、電話コントロール*	(p. 137) およ び 付録「センサ スイ インフォ テイメン ト」。
7	START/STOP ENGINE ボタン	(p. 297)。
8	イグニッションス イッチ	(p. 105)。

	機能	参照
9	インフォテイメン トおよびメニュー 表示用画面	(p. 137) およ び 付録「センサ スイ インフォ テイメン ト」。
10	ドアハンドル	-
11	コントロールパネ ル	(p. 200)、 (p. 206)、 (p. 128) およ び (p. 130)。
12	非常点滅表示灯	(p. 119)。
13	インフォテイメン トシステムおよび メニューナビゲー ション用コント ロールパネル	(p. 137) およ び 付録「センサ スイ インフォ テイメン ト」。
14	エアコンディショ ナー用コントロー ルパネル	(p. 156) また は (p. 157)。
15	ギヤセクターレ バー	(p. 300)、 (p. 301) また は (p. 305)。
16	パーキングブレー キ	(p. 324)。
17	ワイパー/ウォッ シャー	(p. 126)。

	機能	参照
18	ステアリングホ イールの調節	(p. 112)。
19	ボンネットオープ ナー	(p. 385)。
20	テールゲートオー プン・ライトスイ ッチ	(p. 113) およ び (p. 202)。
21	シート調節*	(p. 109)。

関連情報

- 外気温計 (p. 99)
- トリップメーター (走行距離計) (p. 99)
- 時計 (p. 100)

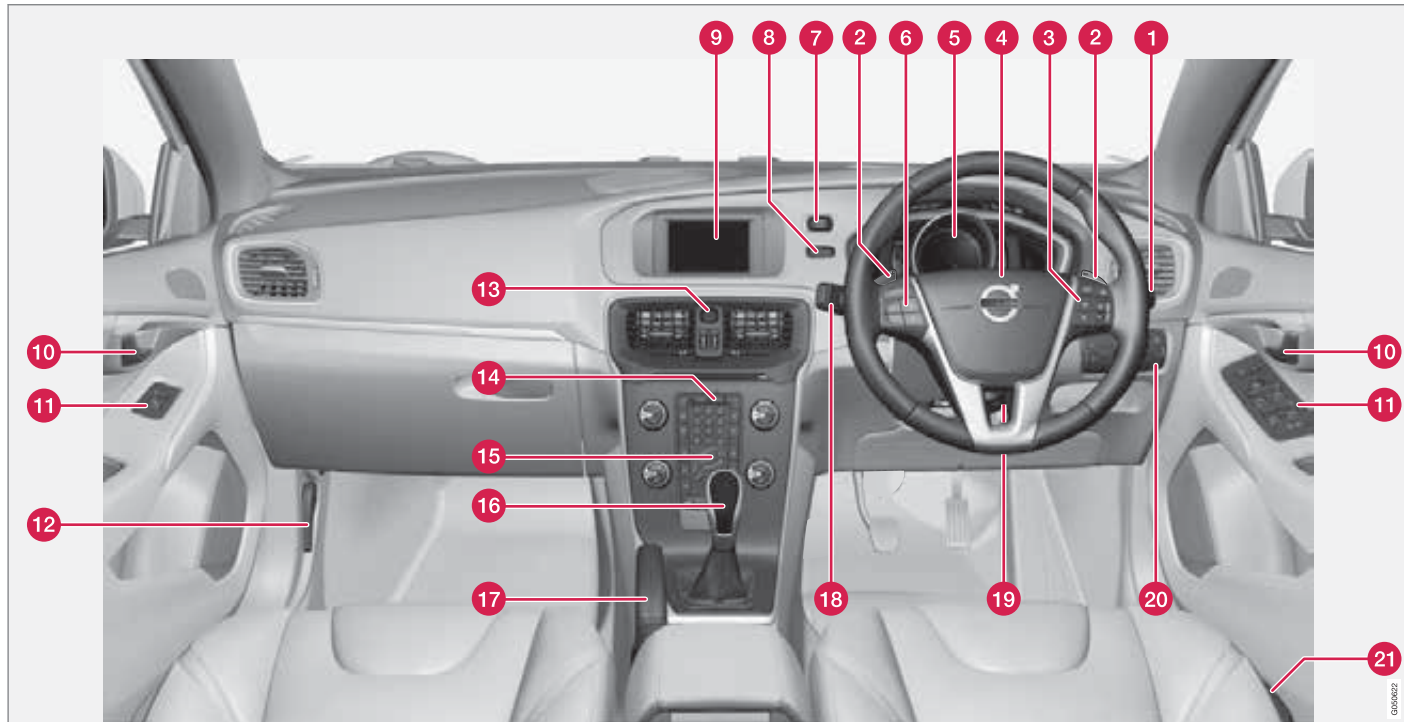


計器およびコントロール装置、右ハンド ル車 - 概要

車両のディスプレイとコントロール装置の位置
を示します。



右ハンドル車の各配置





	機能	参照
①	ワイパー/ウォッシュャー	(p. 126)。
②	オートマチックトランスミッションのマニュアルギヤチェンジ*	(p. 301)。
③	メニューナビゲーション、オーディオコントロール、電話コントロール*	(p. 137)および付録「センサスイنفォテイメント」。
④	ホーン、エアバッグ	(p. 112) および (p. 59)。
⑤	コンパインド・メーター・パネル	(p. 90)。
⑥	クルーズコントロール*	(p. 222) および (p. 227)。
⑦	START/STOP ENGINE ボタン	(p. 297)。
⑧	イグニッションスイッチ	(p. 105)。
⑨	インフォテイメントおよびメニュー表示用画面	(p. 137)および付録「センサスイنفォテイメント」。

	機能	参照
⑩	ドアハンドル	-
⑪	コントロールパネル	(p. 200)、(p. 206)、(p. 128) および (p. 130)。
⑫	ボンネットオープナー	(p. 385)。
⑬	非常点滅表示灯	(p. 119)。
⑭	インフォテイメントシステムおよびメニューナビゲーション用コントロールパネル	(p. 137)および付録「センサスイنفォテイメント」。
⑮	エアコンディショナー用コントロールパネル	(p. 156) または (p. 157)。
⑯	ギヤセクターレバー	(p. 300)、(p. 301) または (p. 305)。
⑰	パーキングブレーキ	(p. 324)。

	機能	参照
⑱	メニューおよびメッセージ、方向指示器、ハイ/ロービーム、トリップコンピューター	(p. 134)、(p. 136)、(p. 120)、(p. 115) および (p. 147)。
⑲	ステアリングホイールの調節	(p. 112)。
⑳	テールゲートオープン・ライトスイッチ	(p. 113) および (p. 202)。
㉑	シート調節*	(p. 109)。

関連情報

- 外気温計 (p. 99)
- トリップメーター (走行距離計) (p. 99)
- 時計 (p. 100)



04 計器およびコントロール装置

コンパインド・メーター・パネル

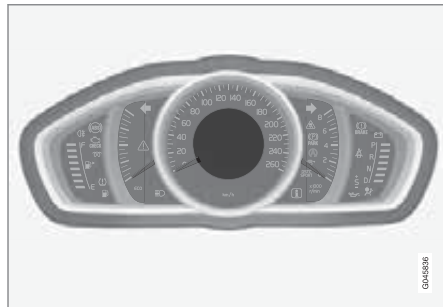
コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイは、車両の一部の機能に関する情報やメッセージを表示します。

- アナログ式コンパインド・メーター・パネル - 概要 (p. 90)
- 液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル - 概要 (p. 91)
- コンパインド・メーター・パネル - インジケーター・シンボルの意味 (p. 95)
- コンパインド・メーター・パネル - 警告灯の意味 (p. 97)

アナログ式コンパインド・メーター・パネル - 概要

コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイは、車両の一部の機能に関する情報やメッセージを表示します。

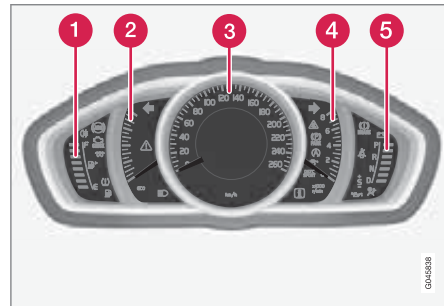
インフォメーション・ディスプレイ



インフォメーション・ディスプレイ、アナログ式メーター・パネル

ディスプレイを使用する機能については、該当の章にさらに詳しい説明があります。

計器およびインジケーター類



- 1 燃料計。インジケーターが白のマーク¹ 1本まで下がると、燃料の残量低下を示す黄色のインジケーター・シンボルが点灯します。トリップコンピューター - 補足情報 (p. 147) および適切な給油方法 (p. 328) も参照してください。
- 2 Eco meter。この計器は、車両の経済走行がどの程度達成されているかを表示します。目盛りが高いほど、経済性の高い走行であることを意味します。
- 3 スピードメーター
- 4 タコメーター(エンジン回転計)。1分あたりのエンジン回転数(rpm)を表示します。
- 5 ギヤシフトインジケーター²/ギヤポジションインジケーター³。ギヤシフトインジ

¹ ディスプレイのメッセージ 走行可能距離: が ——— を示すようになると、マーキングが赤く表示されます。

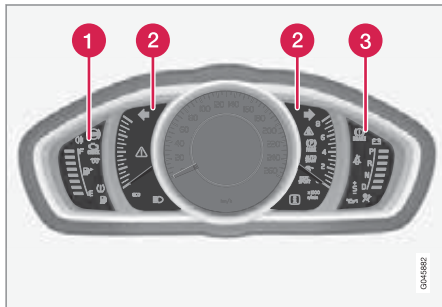
² マニュアルトランスミッション

³ オートマチックトランスミッション



ケーター* (p. 301)、オートマチックトランスミッション - Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 301)、またはオートマチックトランスミッション - Powershift(パワースhift)* (p. 305)も参照してください。

インジケーターおよび警告灯



表示灯および警告灯、アナログ式メーター・パネル

- ① インジケーター・シンボル
- ② インジケーターおよび警告灯
- ③ 警告灯⁴

機能点検

インフォメーション・ディスプレイの中央にあるシンボルの他に、すべてのインジケーターおよび警告灯が、キー位置 II のとき、またはエンジンの始動時に点灯します。エンジン始動

後、パーキングブレーキ作動表示灯以外はすべて消灯します。パーキングブレーキ作動表示灯は、パーキングブレーキを解除すると消灯します。

エンジンが始動しない場合、あるいは機能点検がキー位置 II で実施された場合には、エミッションシステム警告灯および油圧低下警告灯以外はすべて数秒以内に消灯します。

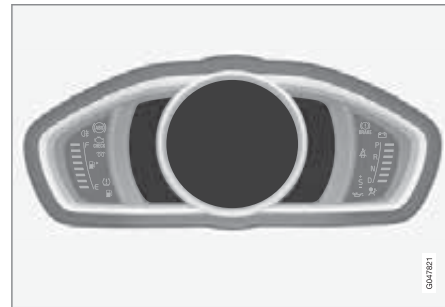
関連情報

- コンバインド・メーター・パネル (p. 90)
- コンバインド・メーター・パネル - インジケーター・シンボルの意味 (p. 95)
- コンバインド・メーター・パネル - 警告灯の意味 (p. 97)
- 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル - 概要 (p. 91)

液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル - 概要

コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイは、車両の一部の機能に関する情報やメッセージを表示します。

インフォメーション・ディスプレイ



インフォメーション・ディスプレイ、液晶デジタル式メーター・パネル*

ディスプレイを使用する機能については、該当の章にさらに詳しい説明があります。

計器およびインジケーター類

液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネルでは、さまざまなテーマを選択できます。選択可能なテーマは、「Elegance」、「Eco」、「Performance」です。

テーマはエンジン作動中にのみ選択することができます。

⁴ エンジンタイプによっては、油圧低下の警告システムが搭載されていない場合があります。このようなタイプのエンジンが搭載されている車両では、油圧低下のシンボルは使用されません。オイルレベル低下の警告は、ディスプレイテキストを介して表示されます。詳しくは、エンジンオイル - 一般 (p. 387)を参照してください。



04 計器およびコントロール装置



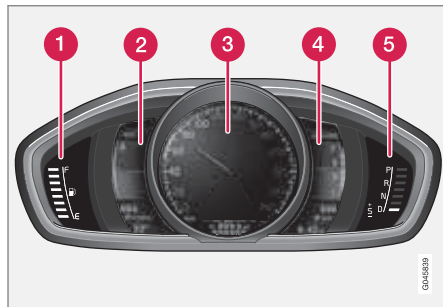
テーマを選択するには、左側レバースイッチの **OK** ボタンを押し、レバー上のコントロールダイヤルを回して、**テーマ** メニューオプションを選択します。**OK** ボタンを押します。コントロールダイヤルを回してテーマを選択し、**OK** ボタンを押して選択を確定します。

一部のモデルでは、センターコンソール画面の外観はコンパインド・メーター・パネルのテーマ設定に応じて変わります。

左側レバースイッチを使用すると、インストールのコントラストモードおよびカラーモードを設定することもできます。

メニューナビゲーションについては、メニューナビゲーション - コンパインド・メーター・パネル (p. 134) を参照してください。

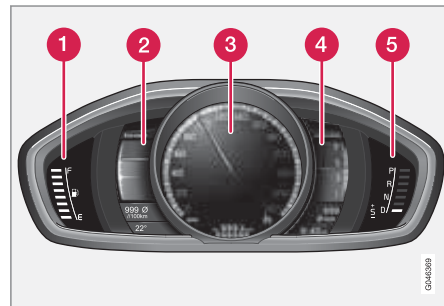
テーマの選択とコントラストモードおよびカラーモードの設定は、リモートコントロールキーごとにカーキーメモリー*に保存することができます。リモートコントロールキー - パーソナライズ* (p. 186) を参照してください。



メーターおよびインジケーター、テーマ「Elegance」

- ① 燃料計。インジケーターが白のマーク⁵ 1本まで下がると、燃料の残量低下を示す黄色のインジケーター・シンボルが点灯します。トリップコンピューター - 補足情報 (p. 147) および適切な給油方法 (p. 328) も参照してください。
- ② エンジン冷却水用水温計
- ③ スピードメーター
- ④ タコメーター(エンジン回転計)。1分あたりのエンジン回転数(rpm)を表示します。
- ⑤ ギヤシフトインジケーター⁶/ギヤポジションインジケーター⁷。ギヤシフトインジケーター* (p. 301)、オートマチックトランスミッション - Geartronic(ギヤトロ

ニック)* (p. 301)、またはオートマチックトランスミッション - Powershift(パワースhift)* (p. 305) も参照してください。



メーターおよびインジケーター、テーマ「Eco」

- ① 燃料計インジケーターが白のマーク⁵ 1本まで下がると、燃料タンクのレベル低下を示す黄色のインジケーター・シンボルが点灯します。トリップコンピューター - 補足情報 (p. 147) および適切な給油方法 (p. 328) も参照してください。
- ② Eco guide。エコガイドおよびパワーガイド* (p. 94) も参照してください。
- ③ スピードメーター

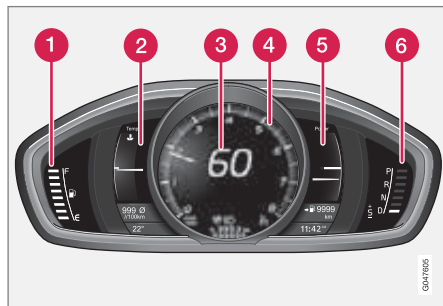
⁵ ディスプレイのメッセージ 走行可能距離: が ——— を示すようになると、マーキングが赤く表示されます。

⁶ マニュアルトランスミッション

⁷ オートマチックトランスミッション



- ④ タコメーター(エンジン回転計)。1 分あたりのエンジン回転数(rpm)を表示します。
- ⑤ ギヤシフトインジケータ⁶/ギヤポジションインジケータ⁷。ギヤシフトインジケータ^{*} (p. 301)、オートマチックトランスミッション - Geartronic(ギヤトロニック)^{*} (p. 301)、またはオートマチックトランスミッション - Powershift(パワーシフト)^{*} (p. 305)も参照してください。

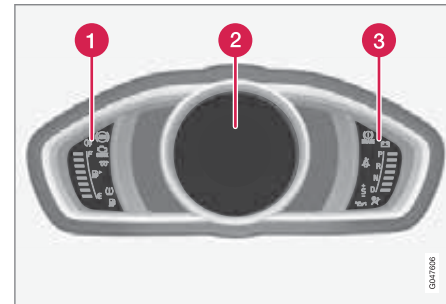


メーターおよびインジケータ、テーマ「Performance」

- ① 燃料計インジケータが白のマーク⁵ 1 本まで下がると、燃料タンクのレベル低下を示す黄色のインジケータ・シンボルが点灯します。トリップコンピューター - 補足情報

- (p. 147)および適切な給油方法 (p. 328)も参照してください。
- ② エンジン冷却水水温計
- ③ スピードメーター
- ④ タコメーター(エンジン回転計)。1 分あたりのエンジン回転数(rpm)を表示します。
- ⑤ Power guide。エコガイドおよびパワーガイド^{*} (p. 94)も参照してください。
- ⑥ ギヤシフトインジケータ⁶/ギヤポジションインジケータ⁷。ギヤシフトインジケータ^{*} (p. 301)、オートマチックトランスミッション - Geartronic(ギヤトロニック)^{*} (p. 301)、またはオートマチックトランスミッション - Powershift(パワーシフト)^{*} (p. 305)も参照してください。

インジケータおよび警告灯



表示灯および警告灯、デジタル式メーター・パネル

- ① インジケータ・シンボル
- ② インジケータおよび警告灯
- ③ 警告灯⁸

⁶ マニュアルトランスミッション

⁷ オートマチックトランスミッション

⁵ ディスプレイのメッセージ 走行可能距離: が ——— を示すようになると、マーキングが赤く表示されます。

⁸ エンジンタイプによっては、油圧低下の警告システムが搭載されていない場合があります。このようなタイプのエンジンが搭載されている車両では、油圧低下のシンボルは使用されません。オイルレベル低下の警告は、ディスプレイテキストを介して表示されます。詳しくは、エンジンオイル - 一般 (p. 387)を参照してください。



04 計器およびコントロール装置

11

機能点検

インフォメーション・ディスプレイの中央にあるシンボルの他に、すべてのインジケーターおよび警告灯が、キー位置 **II** のとき、またはエンジンの始動時に点灯します。エンジン始動後、パーキングブレーキ作動表示灯以外はすべて消灯します。パーキングブレーキ作動表示灯は、パーキングブレーキを解除すると消灯します。

エンジンが始動しない場合、あるいは機能点検がキー位置 **II** で実施された場合には、エミッションシステム警告灯および油圧低下警告灯以外はすべて数秒以内に消灯します。

関連情報

- コンパインド・メーター・パネル (p. 90)
- コンパインド・メーター・パネル - インジケーター・シンボルの意味 (p. 95)
- コンパインド・メーター・パネル - 警告灯の意味 (p. 97)
- アナログ式コンパインド・メーター・パネル - 概要 (p. 90)

エコガイドおよびパワーガイド*

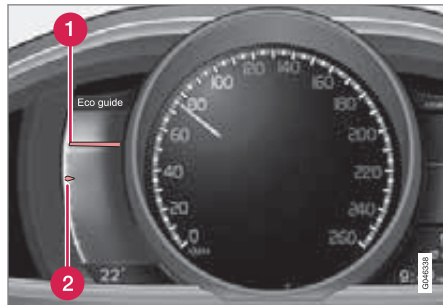
Eco guide および *Power guide* は、経済走行できるように運転者をサポートするコンパインド・メーター・パネル (p. 90) の2つの計器です。

車両にはその時点までの走行統計も保存されています。これはブロック図で確認することができます。トリップコンピューター - 走行統計 (p. 148) を参照してください。

Eco guide

この計器は、車両の経済走行がどの程度達成されているかを表示します。

この機能を表示するには、「Eco」のテーマを選択します。液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル - 概要 (p. 91) を参照してください。



① 瞬間値

② 平均値

瞬間値

瞬間値が表示されます。値が大きいほどよいことを表します。

瞬間値は車速、エンジン回転数、現在の出力値、フットブレーキの使用に基づいて計算されます。

最適速度 (50-80 km/h) と低エンジン回転数が推奨されます。ポインターは加速中および減速中に下がります。

瞬間値が非常に小さいと、(少し遅れてから) 計器のレッドゾーンが点灯します。これは、経済走行ができていないことを意味するため、避ける必要があります。

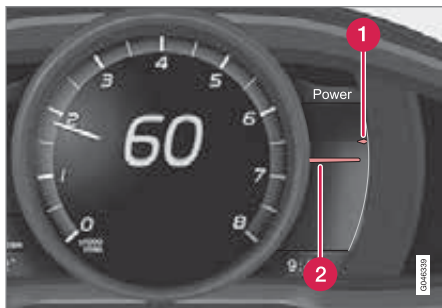
平均値

平均値は瞬間値にゆっくりと従い、車両の最新の走行状況を示します。ポインターが高い値を指している場合は、経済走行ができていていることを示しています。

Power guide

この計器はエンジンからの出力の使用量 (Power) と使用可能な出力の関係を示します。

この機能を表示するには、「Performance」のテーマを選択します。液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル - 概要 (p. 91) を参照してください。



① 最高出力値

② 現在の出力値

最高出力値

小さい上側のポインターは最高出力値⁹を示します。この値が高ければ高いほど、現在のギヤで使用できる出力量が多いことを示しています。

現在の出力値

大きい下側のポインターは現在の出力値⁹を示します。この値が高ければ高いほど、エンジン出力を多く使用していることを示しています。

これら2つのポインターの差が大きいほど、予備の出力量がたくさん残っていることを表します。

コンパインド・メーター・パネル - インジケーター・シンボルの意味

インジケーター・シンボルは、機能の作動、システムの作動、異常や故障の発生を運転者に知らせます。

インジケーター・シンボル

シンボル	意味
	ABL 不具合
	エミッションシステム
	ABS 不具合
	リアフォグランプオン
	スタビリティシステム、エレクトロニック・スタビリティ・コントロール (ESC) - 概要 (p. 212) 参照
	スタビリティシステム、スポーツモード、エレクトロニック・スタビリティ・コントロール (ESC) - 操作 (p. 213) 参照
	エンジンプレヒーター(ディーゼル)

シンボル	意味
	燃料残量低下
	インフォメーション(ディスプレイテキストをお読みください)
	ハイビーム作動
	左右方向指示インジケーター (左)
	左右方向指示インジケーター (右)
	Eco- 機能オン、ECO* (p. 318) 参照
	Start/Stop、エンジンが自動停止しました: Start/Stop* - 機能と操作 (p. 310)を参照
	タイヤ空気圧システム、タイヤ・プレッシャー・モニタリング* (p. 358) 参照

ABL 不具合

ABL 機能(アクティブベンディングランプ)に不具合が発生すると、このシンボルが点灯します。

⁹ 出力はエンジン回転数に応じて変化します。



04 計器およびコントロール装置

44

エミッションシステム

エンジン始動後にこの警告灯が点灯した場合、車両のエミッションシステムに不具合が発生したおそれがあります。サービス工場まで走行し、点検を受けてください。点検は、ボルボ指定のサービス工場にお任せください。

ABS 不具合

この警告灯が点灯した場合は、システムが機能していません。この状態でもブレーキ装置は通常通り作動しますが、ABS 機能は働きません。

1. 安全な場所に停車して、エンジンを停止してください。
2. エンジンを再始動してください。
3. 警告灯が点灯し続ける場合は、最寄りのボルボ指定のサービス工場まで走行し ABS システムの点検を受けてください。

リアフォグランプオン

リアフォグランプがオンのときに点灯します。リアフォグランプは運転席側に 1 つだけ装備されています。

スタビリティシステム

スタビリティシステムが作動すると、点滅します。点灯し続ける場合は、システムに不具合があります。

スタビリティシステム、スポーツモード

スポーツモードを選択すると、よりアクティブな運転が可能になります。システムがアクセルペダルやステアリングホイールの動き、さらにコーナリングをモニターし、通常よりもアク

ティブに運転しているとシステムが判断すると、一定範囲内で後輪の意図的なスキッドを許容します。スキッドが一定レベルを超えると、システムが介入し、車両を安定させます。スポーツモードがオンのときには、シンボルが点灯します。

エンジンプレヒーター(ディーゼル)

エンジンプレヒーター作動中に点灯します。予熱は多くの場合、低温時に実施されます。

燃料残量低下

燃料の残量が少なくなると点灯します。すみやかに給油してください。

インフォメーション(ディスプレイテキストをお読みください)

車両のシステムに不具合が発生すると点灯し、インフォメーション・ディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージは、OK ボタンを押すと消えます(メニューナビゲーション - コンパインド・メーター・パネル (p. 134) を参照)。または、しばらくするとメッセージは自動的に消えます。(メッセージが消えるまでの時間はその機能によって異なります。)インフォメーションシンボルは、他の表示灯と共に点灯する場合もあります。

注意

サービスメッセージが表示されたとき、OK ボタンを押すとシンボルおよびメッセージを消去できます。または一定時間が経過すると自動的に消えます。

ハイビーム作動

このシンボルは、ハイビーム使用時またはパッシングライト位置で点灯します。

左/右方向指示器

非常点滅表示灯が点滅している間は、方向指示インジケーターが両方とも点滅します。

Eco 機能オン

このシンボルは、Eco 機能がオンのときに点灯します。

Start/Stop

エンジンが自動停止するとシンボルが点灯します。

タイヤ空気圧システム

タイヤ空気圧が低下するか、タイヤ空気圧システムに不具合が発生すると、このシンボルが点灯します。



リマインダー(半ドア警告)

正常に閉まっていないドアがあるとインフォメーションシンボルまたは警告灯が点灯し、同時にインフォメーション・ディスプレイにシンボルが表示されます。ただちに安全な場所に停車して、開いているドアを閉めてください。

 車速が約 7 km/h 以下のときは、インフォメーションシンボルが点灯します。

 車速が約 7 km/h 以上のときは、警告灯が点灯します。

ボンネット¹⁰が正常に閉まっていないときは警告灯が点灯し、同時にインフォメーション・ディスプレイにシンボルが表示されます。ただちに安全な場所に停車して、ボンネットを閉めてください。

テールゲートが正常に閉まっていないときはインフォメーションシンボルが点灯し、同時にインフォメーション・ディスプレイにシンボルが表示されます。ただちに安全な場所に停車して、テールゲートを閉めてください。

関連情報

- コンバインド・メーター・パネル (p. 90)
- コンバインド・メーター・パネル - 警告灯の意味 (p. 97)
- アナログ式コンバインド・メーター・パネル - 概要 (p. 90)
- 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル - 概要 (p. 91)

コンバインド・メーター・パネル - 警告灯の意味

警告灯は、重要な機能の作動や、重大な異常や故障の発生を運転者に知らせます。

警告灯

シンボル	意味/対処
	油圧低下 ^A
	パーキングブレーキ作動、液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル
	パーキングブレーキ作動、アナログ式メーター・パネル
	エアバッグ - SRS
	シートベルトリマインダー
	充電不良
	ブレーキ系統の不具合
	警告

^A エンジンタイプによっては、油圧低下の警告システムが搭載されていない場合があります。このようなタイプのエンジンが搭載されている車両では、油圧低下のシンボルは使用されません。オイルレベル低下の警告は、ディスプレイ

テキストを介して表示されます。詳しくは、エンジンオイル - 一般 (p. 387) を参照してください。

油圧低下

この警告灯が走行中に点灯した場合は、エンジンオイルの油圧が低下しています。ただちにエンジンを停止して、エンジンオイルのレベルを点検し、必要に応じて補充してください。オイルレベルが正常であるにも関わらず警告灯が点灯する場合は、サービス工場にご連絡ください。点検は、ボルボ指定のサービス工場にお任せください。

パーキングブレーキ作動

パーキングブレーキがかかっているときに、警告灯が点灯します。この警告灯はパーキングブレーキ作動中点灯します。詳しくは、パーキングブレーキ (p. 324) を参照してください。

エアバッグ - SRS

この警告灯がエンジン始動後も点灯し続けたら、走行中に点灯した場合は、シートベルトバックル、SRS、SIPS、または IC システムに不具合が検知されたことを示しています。ただちに、サービス工場で点検を受けてください。点検は、ボルボ指定のサービス工場にお任せください。

シートベルトリマインダー

この警告灯は、運転席/助手席の乗員がシートベルトを着用していないとき、またはリアシート

¹⁰ アラーム*装着車両のみ。



04 計器およびコントロール装置

44

充電不良

走行中に電気系統に不具合が発生すると点灯します。サービス工場にご連絡ください。点検は、ボルボ指定のサービス工場にお任せください。

ブレーキ系統の不具合

この警告灯が点灯したときは、ブレーキフルード量が規定量以下に減っているおそれがあります。安全な場所に停車して、リザーバータンクのブレーキフルードレベルを点検してください。ブレーキおよびクラッチフルード - レベル (p. 393)を参照してください。

ブレーキ系統と ABS の警告灯が両方同時に点灯した場合は、制動力(ブレーキ力)分配システムに不具合が発生しているおそれがあります。

1. 安全な場所に停車して、エンジンを停止してください。

2. エンジンを再始動してください。

- 両方の警告灯が消灯した場合は、走行を続けられます。
- 警告灯が消灯しない場合は、リザーバータンクのブレーキフルードレベルを点検してください。ブレーキおよびクラッチフルード - レベル (p. 393)を参照してください。ブレーキフルードレベルが正常であるにも関わらず点灯し続ける場合は、サービス工場まで慎重に走行し、ブレーキ系統の点検を受けてください。点検は、ボルボ指定のサービス工場にお任せください。



警告

ブレーキフルードレベルがリザーバータンクの **MIN** マークより低い場合は、ブレーキフルードを補充するまで絶対に運転しないでください。

サービス工場でブレーキフルードが減った原因を点検してもらってください。ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。



警告

ブレーキ系統と ABS の警告灯が両方同時に点灯しているときは、急ブレーキをかけた際に車体後部が横滑りするおそれがありますので、ご注意ください。

警告

車両の安全性または操縦安定性に関わるような不具合が発生すると、赤色の警告灯が点灯します。同時に、インフォメーション・ディスプレイにテキストが表示されます。異常が修正されるまで警告灯は点灯を続けますが、ディスプレイテキストは **OK** で消去することができます。メニューナビゲーション - コンパインド・メーター・パネル (p. 134)を参照してください。警告灯は、他の表示灯と共に点灯する場合があります。

対処:

1. 安全な場所に停車してください。停車後は、走行しないでください。
2. インフォメーション・ディスプレイの表示をお読みください。ディスプレイのメッセージに従って処置を行います。**OK** ボタンを使用して、メッセージを消去します。



リマインダー(半ドア警告)

正常に閉まっていないドアがあるとインフォメーションシンボルまたは警告灯が点灯し、同時にインフォメーション・ディスプレイにシンボルが表示されます。ただちに安全な場所に停車して、開いているドアを閉めてください。

1 車速が約 7 km/h 以下のときは、インフォメーションシンボルが点灯します。

2 車速が約 7 km/h 以上のときは、警告灯が点灯します。

ボンネット¹¹ が正常に閉まっていないときは警告灯が点灯し、同時にインフォメーション・ディスプレイにシンボルが表示されます。ただちに安全な場所に停車して、ボンネットを閉めてください。

テールゲートが正常に閉まっていないときはインフォメーションシンボルが点灯し、同時にインフォメーション・ディスプレイにシンボルが表示されます。ただちに安全な場所に停車して、テールゲートを閉めてください。

関連情報

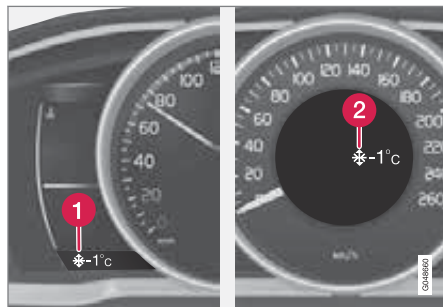
- コンバインド・メーター・パネル (p. 90)
- コンバインド・メーター・パネル - インジケーター・シンボルの意味 (p. 95)
- アナログ式コンバインド・メーター・パネル - 概要 (p. 90)
- 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル - 概要 (p. 91)

¹¹ アラーム*装着車両のみ。

¹² 外観はメーターのタイプによって異なります。

外気温計

外気温計のディスプレイはコンバインド・メーター・パネルに表示されます。



1 外気温計のディスプレイ、液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル

2 外気温計のディスプレイ、アナログ式メーター・パネル

外気温が+2℃～-5℃のときは、低温警告のため雪の結晶マークが表示され、路面が凍結してスリップする危険があることを警告します。これにより、凍った路面に関する警告が得られません。車両が停止している場合、温度計は高すぎる値を示すことがあります。

関連情報

- コンバインド・メーター・パネル (p. 90)

トリップメーター(走行距離計)

トリップメーター(走行距離計)のディスプレイはコンバインド・メーター・パネルに表示されます。



トリップメーター(走行距離計)、液晶デジタル式メーター・パネル

1 トリップメーター(走行距離計)¹²のディスプレイ

トリップメーター(走行距離計)T1 と T2 は短距離を測定するために使用されます。ディスプレイに距離が表示されます。

左側レバースイッチのコントロールダイヤルを回して、お好みのメーターを表示します。

左側レバースイッチの **RESET** ボタンを(変化するまで)長押しすると、表示されているトリップメーターがリセットされます。詳しくは、ト



04 計器およびコントロール装置



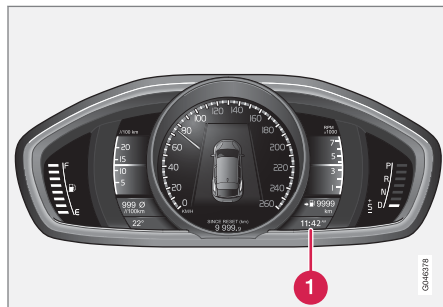
リップコンピューター - 補足情報 (p. 147)
を参照してください。

関連情報

- コンバインド・メーター・パネル (p. 90)

時計

時計のディスプレイはコンバインド・メーター・パネルに表示されます。



クロック、液晶デジタル式メーター・パネル

- 1 ディスプレイの時刻表示¹³

時計の設定

時計は、メニューシステム MY CAR で調節できます。MY CAR (p. 137) を参照してください。

関連情報

- コンバインド・メーター・パネル (p. 90)

コンバインド・メーター・パネル - ライセンス

ライセンスとは、特定のアクティビティを操作する権利、または他人の権利を契約条件に基づいて使用する権利の許諾契約です。以下はボルボ社と製造元/開発元との使用許諾契約で、英語で記載されています。

Combined Instrument Panel Software Open Source Software Notice

This product uses certain free / open source and other software originating from third parties, that is subject to the GNU Lesser General Public License version 2 (LGPLv2), The FreeType Project License ("FreeType License") and other different and/or additional copy right licenses, disclaimers and notices. The links to access the exact terms of LGPLv2, and the other open source software licenses, disclaimers, acknowledgements and notices are provided to you below. Please refer to the exact terms of the relevant License, regarding your rights under said licenses. Volvo Car Corporation (VCC) offers to provide the source code of said free/open source software to you for a charge covering the cost of performing such distribution, such as the cost of media, shipping and handling, upon written

¹³ アナログ式メーター・パネルが装備されている場合には、メーター・パネルの中央に時刻が表示されます。



request. Please contact your nearest Volvo Dealer.

The offer is valid for a period of at least three (3) years from the date of the distribution of this product by VCC / or for as long as VCC offers spare parts or customer support.

Portions of this product uses software copyrighted © 2007 The FreeType Project (www.freetype.org). All rights reserved.

Portions of this product uses software with Copyright © 1994-2013 Lua.org, PUC-Rio (<http://www.lua.org/>)



This product includes software under following licenses:

LGPL v2.1: <http://www.gnu.org/licenses/old-licenses/lgpl-2.1.html>

- GNU FriBidi
- DevIL

The FreeType Project License: <http://git.savannah.gnu.org/cgit/freetype/freetype2.git/tree/docs/FTL.TXT>

- FreeType 2

MIT License: <http://opensource.org/licenses/mit-license.html>

- Lua

ディスプレイのシンボル

車両のディスプレイには、さまざまなシンボルが表示されます。これらのシンボルは、警告灯、インジケーター・シンボル、インフォメーション・シンボルに分類されます。

以下に列挙されているのはもっとも一般的なシンボルで、その意味と、マニュアル内の詳細情報の記載場所に関する情報が表示されています。

 - 車両の安全性や操縦安定性に関わるような不具合が発生すると、赤色の警告灯が点灯します。同時に、コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに説明テキストが表示されます。

 - 車両のシステムに不具合が発生すると、このインフォメーションシンボルが点灯し、コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイにテキストが表示されます。黄色いインフォメーションシンボルは、他のインフォメーションシンボルと共に点灯する場合もあります。



04 計器およびコントロール装置

04

コンパインド・メーター・パネルの警告灯

シンボル	意味	参照
	油圧低下	(p. 97)
	パーキングブレーキ作動、液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル	(p. 97)、 (p. 324)
	パーキングブレーキ作動、アナログ式メーター・パネル	(p. 97)
	エアバッグ - SRS	(p. 58)、 (p. 97)
	シートベルトリマインダー	(p. 54)、 (p. 97)
	充電不良	(p. 97)
	ブレーキ系統の不具合	(p. 97)、 (p. 321)
	警告、セーフティモード	(p. 58)、 (p. 69)、 (p. 97)

コンパインド・メーター・パネルのコントロールシンボル

シンボル	意味	参照
	ABL 不具合*	(p. 95)、 (p. 118)
	エミッションシステム	(p. 95)
	ABS 不具合	(p. 95)、 (p. 321)
	リアフォグランプオン	(p. 95)、 (p. 118)
	エレクトロニック・スタビリティ・コントロール ESC(Electronic Stability Control)、トレーラー・スタビリティ・アシスト*	(p. 95)、 (p. 214)、 (p. 340)
	スタビリティシステム、スポーツモード	(p. 95)、 (p. 214)
	エンジンプレヒーター(ディーゼル)	(p. 95)
	燃料残量低下	(p. 95)、 (p. 168)

シンボル	意味	参照
	インフォメーション(ディスプレイテキストをお読みください)	(p. 95)
	ハイビーム作動	(p. 95)、 (p. 115)
	左右方向指示器インジケーター(左)	(p. 95)
	左右方向指示器インジケーター(右)	(p. 95)
	Start/Stop*、エンジンが自動停止しました	(p. 95)、 (p. 310)
	ECO 機能*オン	(p. 95)、 (p. 318)
	タイヤ空気圧システム*	(p. 95)、 タイヤ・プレッシャー・モニタリング*

103



シンボル	意味	参照
	ドライバー・アラート・システム*、レーン・キープ・エイド*	(p. 270)
	ドライバー・アラート・システム*、レーン・キープ・エイド*	(p. 265)、 (p. 270)
	ドライバー・アラート・システム*、休憩してください	(p. 264)
	ドライバー・アラート・システム*、休憩してください	(p. 265)
	ギヤシフトインジケータ	(p. 301)
	ギヤポジション	(p. 301)

シンボル	意味	参照
	感知された速度情報*	(p. 216)
	オイルレベルの測定	(p. 388)

センターコンソール画面のインフォメーション・シンボル

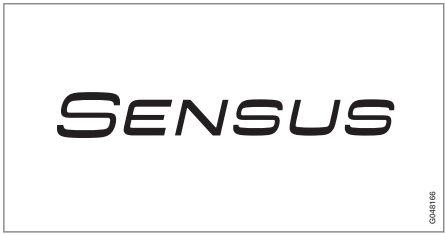
シンボル	意味	参照
	シートベルトリマインダー	(p. 57)
	エアバッグ、助手席、作動可能状態	(p. 62)
	エアバッグ、助手席、非作動状態	(p. 62)

関連情報

- コンバインド・メーター・パネル - インジケータ・シンボルの意味 (p. 95)
- コンバインド・メーター・パネル - 警告灯の意味 (p. 97)
- メッセージ - 取り扱い (p. 136)

ボルボ・センサス

ボルボ・センサスは、ボルボ体験の中心をなすシステムです。情報、エンターテインメントおよび機能を提供し、使い勝手を向上させるのがセンサスの役目です。



車内で座席に座っていると、なんでもご自分の思い通りにしたくなります。現代のように相互接続されている世界では、ご自分にぴったりのタイミングで情報、通信、エンターテインメントを手に入れたくなるものです。センサスは、外部とのつながりを実現する*、あらゆるソリューションに対応すると同時に、車両のすべての機能を直感的に制御するシステムです。

ボルボ・センサスは、車両システムのさまざまな機能を組み合わせて、センターコンソールの画面に表示します。ボルボ・センサスがあれば、直観的なインターフェースにより、車両をパーソナライズすることができます。カー設定、オーディオ・メディア、エアコンディショナーなどの設定が可能です。



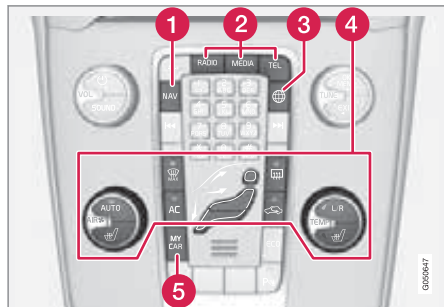
センターコンソールのボタンやコントロールスイッチ、またはステアリングホイール右側のキーパッドを使用すると、機能を起動または解除し、さまざまな設定を行うことができます。

MY CAR を押すと、City Safety、ロックおよびアラーム、自動ファン速度、時計の設定など、走行や車両の制御に関する全設定が表示されます。

RADIO、MEDIA、TEL*、、**NAV*** および **CAM*** など、関連のボタンを押すと、AM、FM、CD、DVD、TV*、Bluetooth®、ナビゲーション*、パークアシスト・カメラ*など、他のソースやシステム、機能が起動できます。

すべての機能/システムの詳細については、オーナーズマニュアルまたはその追補版の該当セクションを参照してください。

概要



センターコンソール内のコントロールパネル図には略図が使用されています。選択した装備や

市場により、機能の数やボタンの配置が異なります。

- ① ナビゲーション* - **NAV**、別冊付録「Sensus Navigation」を参照してください。
- ② オーディオ・メディア - **RADIO、MEDIA、TEL**、別冊付録「センサスインフォテイメント」を参照してください。
- ③ 機能設定 - **MY CAR**、**MY CAR** (p. 137)を参照してください。
- ④ インターネット接続車両 - 、別冊付録「センサスインフォテイメント」を参照してください。
- ⑤ エアコンディショナーシステム (p. 150)

キー位置

リモートコントロールキーは、車両の電気系統を各モード/レベルに設定し、各種機能を使用できるようにします。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 106)を参照してください。



リモートコントロールキーを抜いた/差し込んだ状態のイグニッションスイッチ

注意

キーレスドライブ*機能装備の車両では、キーをイグニッションスイッチに挿入する必要はなく、ポケットなどに入れておくことができます。キーレスドライブ機能についての詳細は、キーレスドライブ* (p. 195)を参照してください。

キーを差し込む

1. リモートコントロールキーの端をつかみ、キーをイグニッションスイッチに入れます。
2. キーを奥まで押し込みます。



04 計器およびコントロール装置



重要

イグニッションスイッチに異物を入れないでください。ロックが破損し、機能が正常に作動しくなります。

リモートコントロールキーを不適切な向きで差し込まないでください。脱着式キーブレードが付いた側を持つようにしてください。脱着式キーブレード - 取り外し/取り付け (p. 192)を参照してください。

キーを引き出す

リモートコントロールキーを差し込み、イジェクトさせ、イグニッションスイッチから抜き出します。

キー位置 - 各レベルでの機能

エンジンがオフの間もいくつかの機能が利用できるように、車両の電気系統はリモートコントロールキーにより3つのレベル、**0**、**I**および**II**に設定できます。このオーナーズマニュアルではこれらのレベルを「キー位置」として表現しています。

次の表は、各キー位置/レベルで利用できる機能を示しています。

レベル	機能
0	オドメーター(積算距離計)、時計、水温計が点灯します。 パワーシートが調節できます。 オーディオシステムは短時間使用することができます。付録「センサスインプォテイメント」を参照してください。
I	パノラマ・ガラスルーフ用サンバイザー、パワーウインド、車内の12V電源ソケット、RTI、電話、ベンチレーションファンおよびウインドスクリーンワイパーが使用できます。
II	ヘッドライトを点灯させることができます。 表示灯/警告灯が5秒間点灯します。 他にもいくつかのシステムが作動可能状態です。しかし、シートクッションおよびリアウインドの電熱器はエンジン始動後にしか起動できません。 このキー位置では、バッテリーから大量の電流を消費するため、使用をひかえてください。



キー位置/レベルの選択

- **キー位置 0** - 車両のロックを解除します。車両の電気系統はレベル **0** です。

i 注意

エンジンを始動**せずに** **I** または **II** にアクセスするには、これらのキー位置を選択する際にブレーキ/クラッチペダルを**踏み込まない**でください。

- **キー位置 I** - リモートコントロールキーがイグニッションスイッチ¹⁴の奥まで差し込まれている状態で、**START/STOP ENGINE** を短く押します。
- **キー位置 II** - リモートコントロールキーがイグニッションスイッチ¹⁴の奥まで差し込まれている状態で、**START/STOP ENGINE** を長押し¹⁵します。
- **キー位置 0 へ戻す** - キー位置 **0** へ **II** および **I** から戻すには、**START/STOP ENGINE** を短く押します。

オーディオシステム

リモートコントロールキーを抜いているときのオーディオシステムの機能については、付録「センサスインフォテイメント」を参照してください。

エンジンの始動と停止

エンジンの始動/停止については、エンジンの始動 (p. 297) を参照してください。

¹⁴ キーレス*機能装備の車両では、不要です。

¹⁵ 約 2 秒間。

けん引

けん引中のリモートコントロールキーに関する重要な情報があります。けん引 (p. 341) を参照してください。

関連情報

- キー位置 (p. 105)

シート、フロント

車両のフロントシートには、最適な座り心地を提供するためにさまざまな設定オプションがあります。



- ① ランバーサポート*を調整するには、ホイール¹⁶を回してください。
- ② 前後の調節：レバーハンドルを持ち上げて、ステアリングホイールおよびペダルからの位置を調節します。調節後は、シートが確実に固定されているか確認してください。
- ③ シートクッションの前端の上げ下げ*には、レバーを繰り返し上下に操作します。
- ④ バックレストの傾き：ダイヤルを回して、傾きの角度を調節します。
- ⑤ シートの高さ調節*：上げるときは、希望の高さになるまでレバーを繰り返し引き上げ



04 計器およびコントロール装置

44

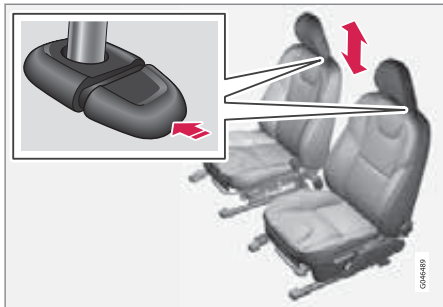
ます。下げるときは、希望の高さになるまでレバーを繰り返し押し下げます。

- ⑥ パワーシート用コントロールパネル*、シート、フロント - 電動 (p. 109) を参照してください。

警告

運転席シートの調節は、必ず走行前に行ってください。走行中は絶対に調節しないでください。急ブレーキや事故の際に、ケガをすることがないように、シートが確実に固定されていることを確認してください。

フロントシートヘッドレストの調整



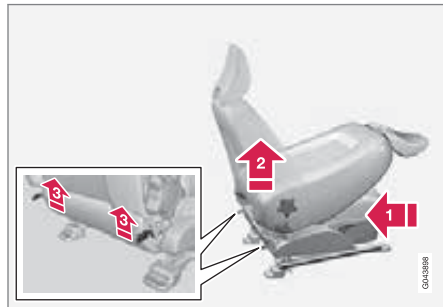
ヘッドレストの高さは調整できます。

ヘッドレストが頭全体を支えるよう、できる限り乗員の身長に合わせてヘッドレストを調節してください。

高さを調節するには、ボタン(図を参照)を押した状態で、ヘッドレストを上下に動かしてください。

ヘッドレストの高さは、3 段階に調節することができます。

助手席のバックレストを倒す*



長い荷物を載せる場合など、助手席のバックレストを前方に倒すことができます。

- ① シートを一番後方の、一番低い位置にします。
- ② バックレストを立てた位置にします。
- ③ バックレストの後部下側にあるキャッチを持ち上げて、バックレストを前方に倒します。

4. シートを前方に押し、ヘッドレストがグローブボックス下に「固定」されるようにします。

起こす場合は、逆の手順で行ってください。

警告

助手席シートのバックレストを倒しているときには、助手席後ろのシートまたはリアセンターシートを使用しないでください。

警告

フロントシートバックレストを起こした後は、急ブレーキや事故の際にケガをすることがないように、バックレストをつかみ、バックレストが確実に固定されていることを、確認してください。

関連情報

- シート、フロント - 電動 (p. 109)
- シート、リア (p. 110)

16 パワーシートにも適用されます。

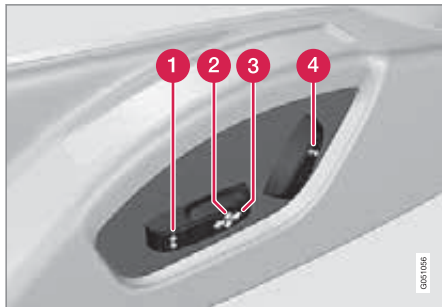
* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



シート、フロント - 電動

車両のフロントシートには、最適な座り心地を提供するためにさまざまな設定オプションがあります。電動シートは前後上下に動かすことができます。シートクッションの前部を上下させることができます。バックレストの角度を変えることができます。

パワーシート*



- ① シートクッション前端の高さ調節
- ② シートの上下調節
- ③ シートの前後の位置調節
- ④ バックレストの傾き

パワーシートの動きが妨げられると、オーバーロードプロテクションが作動します。オーバーロードプロテクションが作動した場合、車両の電気系統をキー位置 **1** または **0** にして、しば

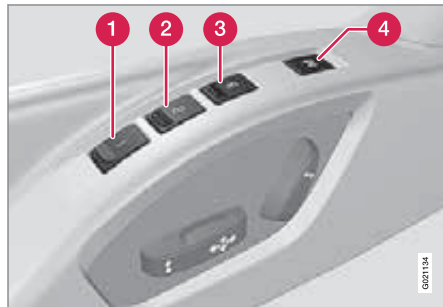
らく待ってから再度シートの調節を行ってください。

一度に1つのシート設定(前/後/上/下)のみ、調節することができます。

準備

シートは、ドアをリモートコントロールキーでロック解除した後、リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込んでいない状態でも、一定時間内は調節することができます。通常、シートの調節はキー位置が **1** のときに行います。エンジン作動中はいつでも調節することができます。

メモリー機能付シート*



メモリー機能は、シートおよびドアミラーの設定を保存します。

設定を保存する

- ① メモリーボタン
- ② メモリーボタン
- ③ メモリーボタン
- ④ 設定保存ボタン

1. シートおよびドアミラーの位置を調節します。
2. **M** を押しながら、ボタン **1**、**2** または **3** を押します。作動音が鳴り、コンパインド・メーター・パネルにテキストが表示されるまでボタンを押したままにします。

新しいメモリーを設定するには、シートを再調節する必要があります。

メモリー位置に移動する

シートとドアミラーが停止するまで、メモリーボタン **1** - **3** のいずれかを押します。途中でボタンから指を放すと、シートおよびドアミラーの動きは中断します。

リモートコントロールキーのキーメモリー*

全リモートコントロールキーとも、異なる運転者によって使用でき、各運転者用のシートとドアミラー¹⁷の設定を記憶させることができます。リモートコントロールキー - パーツナライズ* (p. 186)を参照してください。

¹⁷ 車両にメモリー付きパワーシートと電動格納式ルームミラー/ドアミラーが装備されている場合にのみ機能します。



04 計器およびコントロール装置



非常停止

シートが不意に動き出した場合は、シート用設定ボタンまたはメモリーボタンいずれか1つを押すと停止します。

警告

挟まれるおそれがあります。お子様にシートの操作をさせないでください。シートの調節は、シートの前後や下になにも物がない状態で行ってください。リアシートの乗員が挟まれないように注意してください。

シートヒーター

シートヒーターについては、フロントシートヒーター* (p. 158) およびリアシートヒーター* (p. 158) を参照してください。

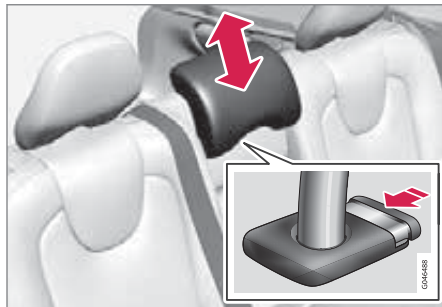
関連情報

- シート、フロント (p. 107)
- シート、リア (p. 110)

シート、リア

リアシートのバックレストと外側シートのヘッドレストは折りたたむことができます。センターシートのヘッドレストは乗員の座高に合わせて調節することができます。

リアセンターシート、ヘッドレスト



リアセンターシートヘッドレストは、ヘッドレストが頭全体を支えるよう、乗員の身長に合わせて調節することができます。必要に応じて、持ち上げます。

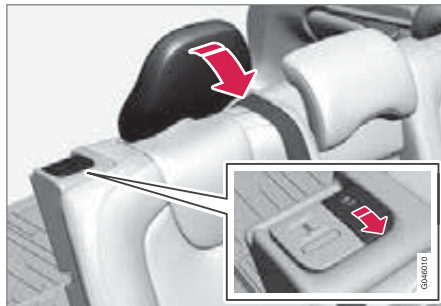
ヘッドレストを再び下げるには、ボタン(図参照)を押しながら、ヘッドレストを注意深く押し下げてください。

ヘッドレストの高さは、5段階に調節することができます。

注意

ヘッドレストを一番下に下げた状態で中央シートに座らないでください。

ドア側のリアシートヘッドレストを手で倒す



ヘッドレストの横のロックハンドルを引き、ヘッドレストを前に倒します。

ヘッドレストは手で元に戻してください。

警告

ヘッドレストを持ち上げた場合には、必ずロック位置に固定してください。



リアシートバックレストを倒す

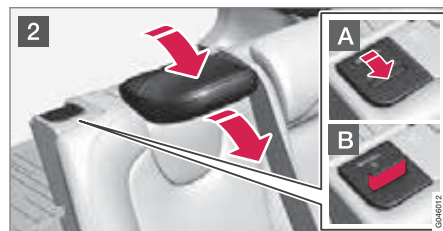
❗ 重要

バックレストを倒す際には、リアシートカップホルダーが開いており、リアシートになにも置かれていないことが必要です。また、シートベルトも接続しないでください。リアシートの内装を傷付けるおそれがあります。

ⓘ 注意

リアシートバックレストを前方に完全に倒す際は、フロントシートを前方に移動するかバックレストを立てる、またはその両方の作業をする必要があります。

- 左右どちらの部分も個別に倒すことができます。
- バックレスト全体を倒す場合には、各部分を別々に倒してください。



- 1 右側セクションを倒している場合は、センターシートのヘッドレストを解除して調節します。前述の「ヘッドレスト、センターシート、リア」の項を参照してください。
- 2 ドア側ヘッドレストは、バックレストを倒すと自動的に倒れます。バックレストのロックハンドル **A** を持ち上げながら、バックレストを前方に倒します。ロックキャッチ **B** の赤いインジケーターが見える場合は、バックレストが固定されていません。

ⓘ 注意

バックレストをたたむ場合には、シートクッションと接触しないように、ヘッドレストをわずかに前に動かす必要があります。

起こす場合は、逆の手順で行ってください。

ⓘ 注意

バックレストを起こして固定すると、赤いインジケーターは見えなくなります。それでも見える場合は、バックレストが正しく固定されていません。

⚠ 警告

リアシートバックレストが倒されていた場合には、バックレストおよびヘッドレストが確実に固定されているか確認してください。

関連情報

- シート、フロント (p. 107)
- シート、フロント - 電動 (p. 109)

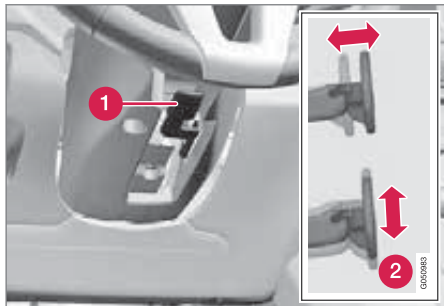


04 計器およびコントロール装置

ステアリングホイール

ステアリングホイールは位置の調節が可能です。ステアリングホイールには、ホーン、クルーズコントロール、メニュー、オーディオ、電話のコントロール装置が備わっています。

調節



ステアリングホイールの調節

- ① ステアリングホイールリリースレバー
 - ② 調節可能なステアリングホイールの位置
- ステアリングホイールは、高さや前後の調節が可能です：
1. ステアリングホイールのロックを解除するときは、レバーを前方に押します。
 2. ステアリングホイールの位置を調節します。

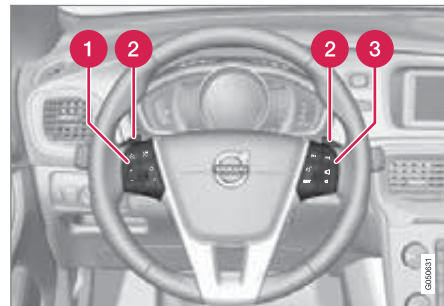
3. リリースレバーを元の位置に引き戻して、ステアリングホイールをロックします。レバーが動かしにくいときは、レバーを押し戻すと同時にステアリングホイールを少し押すようにしてロックしてください。

警告

ステアリングホイールの調節およびロックは、走行前に行ってください。

速度感应式パワーステアリング*では、ステアリングホイールを回すために必要な力を調節することができます。ステアリングホイール操舵力の調節 (p. 289)を参照してください。

キーパッド*およびパドル*



ステアリングホイールのキーパッドおよびパドル

- ① クルーズコントロール* (p. 222)
アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 227)
- ② オートマチックトランスミッションのマニュアルギヤチェンジ用パドル。オートマチックトランスミッション - Geartronic (ギヤトロニック)* (p. 301)を参照してください。
- ③ オーディオおよび電話コントロール、付録「センサスインフォテイメント」を参照してください。



ホーン



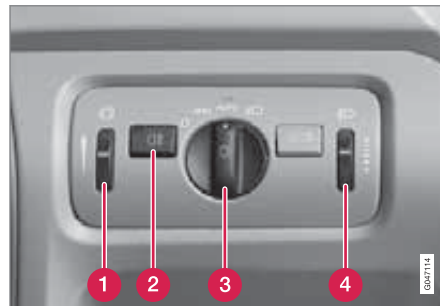
ホーン

ステアリングホイールのセンターパッドを押すと、ホーンが鳴ります。

ライトスイッチ

ヘッドライトスイッチを操作して、車外の照明の点灯、調節を行います。また、ディスプレイやメーターパネルライト、インテリア・シアター・ライト (p. 121) の調節にも使用します。

概要、ライトスイッチ



ライトスイッチの概要

- ① ディスプレイおよびメーター・パネルライト、さらにアンビエントライトのコントロールダイヤル*
- ② リアフォグランプ用ボタン
- ③ デイタイムランニングライトおよびテールランプ用ノブ
- ④ ヘッドライト光軸補正コントロールダイヤル¹⁸

ノブ位置

位置	意味
0	パッシングライトを使用することができます。
≡0≡	リアサイドマーカーランプおよびポジションランプ/テールランプが点灯します。 パッシングライトを使用することができます。
AUTO	日中、車両の電気系統がキー位置 II のとき、またはエンジンが作動しているとき、リアサイドマーカーランプおよびポジションランプ/テールランプが点灯します。 薄暗いときや暗闇、またはリアフォグランプまたはウインドスクリーンワイパー (連続作動) が作動したとき、ロービーム、リアサイドマーカーランプおよびポジションランプ/テールランプが点灯します。アクティブキセノンヘッドライト* (p. 118) 装備車の場合、フロントバンパー内または下にあるランプが点灯します。 トンネル検知 (p. 115)* 機能が作動します。

¹⁸ アクティブキセノンヘッドライト* 装備の車両には、装着されていません。

04

位置	意味
	アクティブハイビーム (p. 116)* 機能を使用することができます。 ロービームがオンのとき、ハイ ビームを作動させることができま す。 バッシングライトを使用すること ができます。
	ロービーム、リアサイドマーカー ランプおよびポジションランプ/ テールランプが点灯します。 ハイビーム を作動させることが できます。 バッシングライトを使用すること ができます。 アクティブキセノンヘッドライト 装備車の場合、フロントバンパー 内または下にあるランプが点灯し ます。

ボルボは、交通状況や気象条件でアクティブハイビーム*機能の使用に支障がない限り、走行中は **AUTO** モードの使用を推奨します。

メーター・パネルライト

キー位置に応じて各ディスプレイおよびメーター・パネルライトが点灯します。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 106)を参照してください。

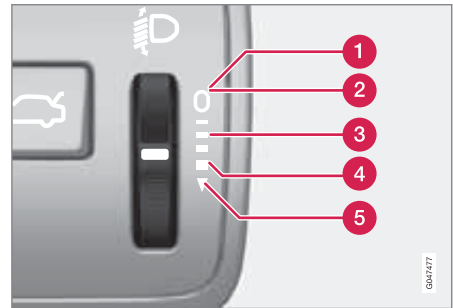
周囲が暗くなると、ディスプレイの照度も自動的に低くなります。この感度はコントロールダイヤルで調節することができます。

メーター・パネルライトの照度は、コントロールダイヤルで調節することができます。

ヘッドライト光軸補正

荷重によって車体前後の傾きが変わり、ヘッドライトの光が対向車の視界を妨げることがあります。こうした状態を防ぐため、ヘッドライトの光軸を調節してください車両に重い荷物を積載しているときは、光軸を低くしてください。

1. エンジンを始動させるか、車両の電気系統をキー位置 **I** にします。
2. コントロールダイヤルを上/下に回して、ヘッドライトの光軸を調節します。



車内の乗員や積荷の状態に合わせたコントロールダイヤルの位置

- 1 運転者のみ
 - 2 運転者と助手席乗員
 - 3 全シートに乗員がいる
 - 4 全シートに乗員がいて、カーゴスペースも満載の状態
 - 5 カーゴスペースが満載の状態で運転者のみ
- アクティブキセノンヘッドライト*装着車は、ヘッドライト光軸補正が自動的に行われるため、コントロールダイヤルは装着されていません。

関連情報

- ポジションランプ/テールランプ (p. 115)
- ハイ/ロービーム (p. 115)



ポジションランプ/テールランプ

ポジションランプ/テールランプはヘッドライトスイッチノブで操作します。



ヘッドライトスイッチノブがポジションランプ/テールランプの位置

ノブを **DRL** の位置に回します(同時にナンバープレートランプが点灯します)。

周囲が暗いときにテールゲートを開けた場合には、後続の車両に注意を促すために、リアランプが点灯します。これは、ノブの位置や車両の電気系統のキー位置に関係なく作動します。

関連情報

- ライトスイッチ (p. 113)

トンネルの検知*

車両がトンネルに入ると、トンネル検知機能によりロービームが点灯します。車両がトンネルを出てから約 20 秒後に、ロービームは消灯します。

トンネルに入ったことをレーンセンサー横のセンサーが検出し、ロービームを点灯させます。車両がトンネルを出てから約 20 秒後に、ロービームは消灯します。この間に車両が別のトンネルに入った場合には、ロービームが引き続き点灯します。これによって車両のヘッドライトが繰返し切り替わるのを防ぎます

注意 - トンネル検知が機能するには、ヘッドライトスイッチノブが **AUTO** 位置であることが必要です。

関連情報

- ハイ/ロービーム (p. 115)
- ライトスイッチ (p. 113)

ハイ/ロービーム



ヘッドライトスイッチノブおよびレバースイッチ

1▶ パッシングライト位置

2▶ ハイビーム位置

ロービーム

ノブが **AUTO** 位置の場合、夕方などに明りが十分でなくなると、ロービームが自動的に点灯します。ロービームはリアフォグランプまたはウインドスクリーンワイパー(連続作動)が作動したときにも自動的に点灯します。

ノブが **II** 位置の場合、エンジン始動中またはキー位置が **II** のときには、ロービームが常時点灯します。

04

パッシングライト

レバーを手前に軽く引くと、パッシングライト位置になります。レバーを放すまで、ハイビームが点灯します。

ハイビーム

ハイビームは、ノブが **AUTO**¹⁹ または  位置のときに作動させることができます。レバースイッチをステアリングホイール側へいっぱいまで引いてから放してハイビームを点灯/消灯します。代わりに、レバースイッチをステアリングホイール側に軽く引いて、ハイビームを解除することができます。

ハイビームが点灯すると、コンパインド・メーター・パネルにシンボル  が点灯します。

関連情報

- アクティブキセノンヘッドライト*
(p. 118)
- アクティブハイビーム* (p. 116)
- ライトスイッチ (p. 113)
- ヘッドライト - 車両通行帯ヘッドライト照射パターン (p. 123)
- トンネルの検知* (p. 115)

アクティブハイビーム*

アクティブハイビーム機能は、対向車のヘッドライトや先行車のリアランプを検知し、ハイビームからロービームに切り替える機能です。光を検知しなくなるとハイビームに戻ります。

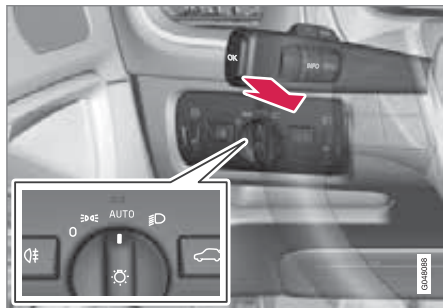
アクティブハイビーム - AHB

アクティブハイビーム(Active High Beam - AHB)はウインドスクリーンの上端にあるカメラセンサーを利用して、対向車のヘッドライトや先行車のリアランプを検出し、ハイビームからロービームに切り替える機能です。この機能では街路灯も検知対象になることがあります。

カメラセンサーが対向車のヘッドライトや先行車両のリアランプを検知しなくなってから約1秒経過後に、ライトはハイビームに戻ります。

作動/非作動

AHB は、ヘッドライトのスイッチノブが **AUTO** 位置のとき作動させることができます。(メニューシステム MY CAR でこの機能を解除している場合は除きます。MY CAR (p. 137)を参照してください。)



レバースイッチおよびヘッドライトスイッチノブ、**AUTO** 位置

この機能は、暗闇を 20 km/h 以上の速度で走行しているときに作動させることができます。

AHB をオン/オフするときは、左側レバースイッチを手前にいっぱいまで引いてから放します。ハイビーム点灯中に解除すると、ライトはすぐロービームに戻ります。

アナログ式コンパインド・メーター・パネル装備車

AHB 作動中はインストルメントのインフォメーション・ディスプレイにシンボル  が点灯します。

ハイビームが点灯すると、コンパインド・メーター・パネルにシンボル  も点灯します。

液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル装備車

¹⁹ ロービームが作動すると。



AHB 作動中はインストルメントのインフォメーション・ディスプレイにシンボル  が白く点灯します。

ハイビーム作動中は、このシンボルは青く点灯します。

マニュアル操作

注意

カメラセンサー前方のウインドスクリーン表面に付着した氷、雪、曇り、汚れなどはよく取り除き、きれいな状態を保ってください。

カメラセンサー前方のウインドスクリーンに、なにも貼り付けたり、取り付けたりしないでください。カメラの効力に支障が出て、カメラを使用している各システムが作動しなくなる原因となります。

コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイにメッセージ **ハイビーム 一時的に利用できません 手動で操作して下さい** が表示された場合には、ハイビームとロービームの切り替えは手動で行う必要があります。ただし、ヘッドライトスイッチのノブは **AUTO** の位置のままでかまいません。メッセージ **ウインドスクリーンセンサーが 遮られています** **マニュアル参照** と  シンボルが表示されている場合にも同じことが当てはまります。 シンボルはこれらのメッセージが表示されると消灯します。

AHB は、濃い霧や激しい雨の中では一時的に利用できなくなる場合があります。AHB が再度利用できるようになるか、ウインドスクリーンセンサーを遮っていたものがなくなると、メッセージが消え、 シンボルが点灯します。

警告

AHB は、好条件の下で最適なヘッドライトの使用をサポートする機能です。

運転手は、交通状況や天候により必要に応じて、ハイビームとロービームを手動で切り替える責任がありますので、ご注意ください。

重要

ハイビームとロービームの手動切り替えが必要になる場合の例:

- 激しい雨や霧の中を走行するとき
- 着氷性のある雨の中を走行するとき
- 雪嵐や溶けかかった雪の中を走行するとき
- 月明りで走行するとき
- 明りの乏しい建物密集地域を走行するとき
- 前方の車両のライトが暗いとき
- 道路上や道路脇に歩行者がいる場合
- 道路周辺に看板など反射性の高い物体があるとき
- 中央分離帯などにより、対向車のライトが遮られているとき
- 連絡道路に走行中の車両があるとき
- 稜線や谷底を走行するとき
- 急カーブを走行するとき

カメラセンサーの制限事項については、衝突警告システム* - カメラセンサー制限事項 (p. 260)を参照してください。

関連情報

- ハイ/ロービーム (p. 115)
- ライトスイッチ (p. 113)

アクティブキセノンヘッドライト*

アクティブキセノンヘッドライトは、カーブや交差点で最大の照明を提供して安全が高まるように設計されています。

アクティブキセノンヘッドライト - ABL



アクティブヘッドライトを解除したときの照射パターン(左)と作動したときの照射パターン(右)

アクティブキセノンヘッドライト Active Bending Lights - ABL - 装備車は、カーブや交差点などで明るさを十分に確保して安全性を高めるために、ヘッドライトがステアリングホイールの動きにが追従します。

この機能は、エンジンを始動すると自動的に作動します。(メニューシステム MY CAR で解除されている場合を除きます。MY CAR (p. 137)を参照してください。)この機能に不具合が発生す

ると、コンパインド・メーター・パネルに  の警告灯が点灯すると共に、インフォメーション・ディスプレイに説明のテキストが表示され、シンボルが点灯します。

シンボル	メッセージ	意味
	ヘッドライトシステム故障 サービスが必要です	システムが解除されています。メッセージが消えない場合は、サービス工場にご連絡ください。ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

この機能は、夕方や夜間、および車両走行時のみ作動します。

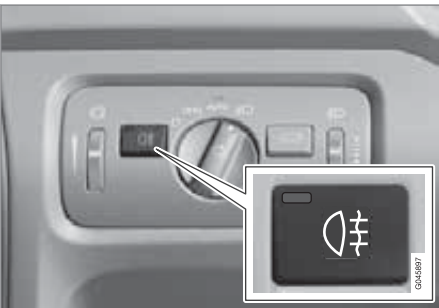
この機能²⁰は、メニューシステム MY CAR で解除/作動可能にすることができます。MY CAR (p. 137)を参照してください。

関連情報

- ハイ/ロービーム (p. 115)
- アクティブハイビーム* (p. 116)
- ライトスイッチ (p. 113)
- ヘッドライト - 車両通行帯ヘッドライト照射パターン (p. 123)

リアフォグランプ

霧で視界が悪い場合は、リアフォグランプを使用して他の道路利用者に車両の存在を早めに知らせます。



リアフォグランプボタン

リアフォグライトは1個のリアランプで構成され、キー位置 **II** のとき、またはエンジンが回転していて、ヘッドライトスイッチノブが **AUTO** または  位置のときにのみ点灯させることができます。

ボタンで点灯/消灯させます。リアフォグランプが点灯すると、コンパインド・メーター・パネルのリアフォグランプのシンボル  およびボタンのランプが点灯します。

²⁰ 工場からの出荷時に起動。



リアフォグランプは、エンジンを停止するか、ヘッドライトスイッチノブを **0** または **☞☞** 位置に回すと自動的にオフになります。

i 注意

リアフォグランプの使用に関する規則は、国によって異なります。

関連情報

- ライトスイッチ (p. 113)

ブレーキランプ

ブレーキペダルを踏むと、ブレーキランプが点灯します。

ブレーキランプは、ブレーキペダルを踏み込むと点灯します。また、ブレーキランプはアダプティブクルーズコントロール (p. 227)、City Safety (p. 246)、衝突警告システム (p. 253) のいずれかのドライバーサポートシステムが車両にブレーキをかけると点灯します。

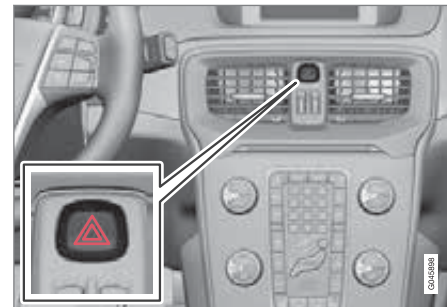
関連情報

- フットブレーキ - アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅表示灯 (p. 323)

非常点滅表示灯

非常点滅表示灯は、車両のすべての方向指示器を同時に点滅させて他の道路利用者に注意を促します。

非常点滅表示灯を作動させると、コンバインド・メーター・パネルの両側の方向指示器のシンボルが点滅します。



非常点滅表示灯ボタン

ボタンを押すと、非常点滅表示灯が点滅します。非常点滅表示灯を使用すると、コンバインド・メーター・パネルの方向指示インジケーターが両方とも点滅します。

急ブレーキをかけるとアダプティブブレーキランプが作動し、速度が 10 km/h 未満で非常点滅表示灯が自動的に作動します。非常点滅表示灯は、車両が停車した後も、再び走行するまで作動しますが、ボタンを押して解除することもできます。



04 計器およびコントロール装置



関連情報

- 方向指示器 (p. 120)
- フットブレーキ - アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅表示灯 (p. 323)

方向指示器

車両の方向指示器は左側レバースイッチで操作します。レバーの位置に応じて、方向指示器が3回または連続で点滅します。



方向指示器

ワンタッチ方向指示位置

- 1▶ レバーを上または下に、1段目の位置まで動かして放します。方向指示器が3回点滅します。この機能は、メニューシステム MY CAR で起動/解除できます。MY CAR (p. 137)を参照してください。

方向指示位置

- 2▶ レバーを上または下に、いっぱいまで動かします。

レバーはこの位置で止まります。手で元の中立位置に戻すか、右折または左折終了後にステアリングホイールを直進位置に戻すと、自動的に中立位置に戻ります。

方向指示器

方向指示器のシンボルについては、コンパインド・メーター・パネル - インジケーター・シンボルの意味 (p. 95)を参照してください。

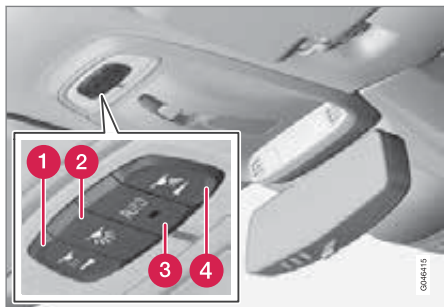
関連情報

- 非常点滅表示灯 (p. 119)



ルームランプ

ルームランプはフロントシートおよびリアシートの上のスイッチから点灯/消灯します。



ルーフコンソールの読書灯およびルームランプのスイッチ

- ① 左側読書灯
- ② ルームランプ(フロアライト*およびシーリングランプ) - オン/オフ
- ③ ルームランプの自動機能
- ④ 右側読書灯

次の場合、30 分以内ならルームランプを手動で点灯/消灯させることができます：

- エンジンを停止して、車両の電気系統をキー位置 **0** にした場合
- ドアをロック解除して、エンジンを始動していない場合

フロント読書灯*

読書灯は、ルーフコンソールのボタンを軽く押して点灯/消灯します。

ボタンを押したままにすると明るさを調整できます。

リア読書灯*



リア読書灯

ライトは、それぞれに対応したボタンを軽く押して点灯/消灯します。

ボタンを押したままにすると明るさを調整できます。

アンビエントライトとしてのフロアライト*

車内を明るくするために、走行中でも光度を下げてフロアライトを点灯させることができます。

フロアライトの輝度はメニューシステム MY CAR で変更できます。MY CAR (p. 137)を参照してください。

フロントドア収納ボックスの照明*

フロントドア収納ボックスの照明はエンジンが始動すると点灯します。

グローブボックスランプ

グローブボックスランプは、グローブボックスリッドの開閉と連動して点灯/消灯します。

メイクアップミラーランプ

メイクアップミラー(p. 176)のランプは、カバーの開閉と連動して点灯/消灯します。

カーゴスペースランプ

カーゴスペースランプは、テールゲートの開閉と連動して点灯/消灯します。

ルームランプの自動機能

AUTO ボタン内のランプが点灯していると、自動機能が作動しています。

その場合、ルームランプは以下のように点灯/消灯します。

ルームランプは次の場合に点灯し、30 秒後に消灯します：

- リモートコントロールキーまたはキーブレードで、ドアをロック解除した場合。リモートコントロールキー - 機能 (p. 188)、または脱着式キーブレード - ド



04 計器およびコントロール装置



アロック解除 (p. 193)を参照してください。

- エンジンを停止して、車両の電気系統をキー位置 **0** にした場合

ルームランプは、次の場合に消灯します：

- エンジンを始動したとき
- 車両をロックしたとき

ルームランプは、ドアの開閉と連動して点灯/消灯します。

いずれかのドアが開いていると、ライトは2分間点灯したままになります。

いずれかのランプを手動で点灯させてドアをロックすると、ランプは2分後に自動的に消灯します。

インテリア・シアター・ライト*

通常のルームランプがオフにされたときにエンジンが作動している場合には、フロントおよびリアのルーフコンソールのLEDが点灯してわずかな明かりを提供し、走行中のムードを高めます。外が暗い時間帯には、このランプにより小物入れの中なども見やすくなります。エンジンを停止すると、このランプは消灯します。ライトの輝度と色はメニューシステム MY CAR で変更できます。MY CAR (p. 137)を参照してください。

ホームセーフライト点灯

ホームセーフライトは、ロービーム、テールランプ、ドアミラーランプ、ナンバープレートランプ、インテリアアルーフランプ、フロアライトから構成されています。

夜間に車両をロックした後、エクステリアランプの一部をホームセーフライトとして点灯させておくことができます。

1. イグニッションスイッチからリモートコントロールキーを抜きます。
2. 左側レバースイッチを、いっぱいまで手前に引いてから放します。パッシングライトと同様の操作方法で作動させることができます。ハイ/ロービーム (p. 115)を参照してください。
3. 車外に出てドアをロックします。

この機能を作動すると、ロービーム、ポジションランプ/テールランプ、ドアミラーランプ、ナンバープレートランプ、インテリアアルーフランプ、およびフロアライトが点灯します。

ホームセーフライトの点灯時間は、メニューシステム MY CAR で設定することができます。MY CAR (p. 137)を参照してください。

関連情報

- アプローチライト点灯 (p. 122)

アプローチライト点灯

アプローチライトは、テールランプ、ドアミラーランプ、ナンバープレートランプ、インテリアアルーフランプ、フロアライトから構成されています。

アプローチライトはリモートコントロールキーで点灯させます(リモートコントロールキー機能 (p. 188)を参照)。車両から少し離れた場所からライトを点灯させることができます。

この機能をリモートコントロールで作動させると、ポジションランプ/テールランプ、ドアミラーランプ、ナンバープレートランプ、インテリアアルーフランプ、およびフロアライトが点灯します。

アプローチライトの点灯時間は、メニューシステム MY CAR で設定することができます。MY CAR (p. 137)を参照してください。

関連情報

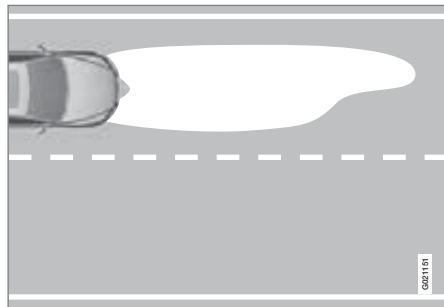
- ホームセーフライト点灯 (p. 122)

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。

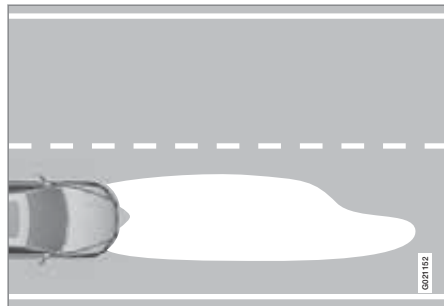


ヘッドライト - 車両通行帯ヘッドライト照射パターン

ヘッドライトの光が対向車の視界を妨げないように、左側通行帯または右側通行帯に合わせてヘッドライト照射パターンを調節してください。



左側通行帯ヘッドライト照射パターン



右側通行帯ヘッドライト照射パターン

アクティブキセノンヘッドライト*

ヘッドライト照射パターンは調整する必要がありません。ヘッドライトの照射パターンは、対向車にまぶしくないように設計されています。

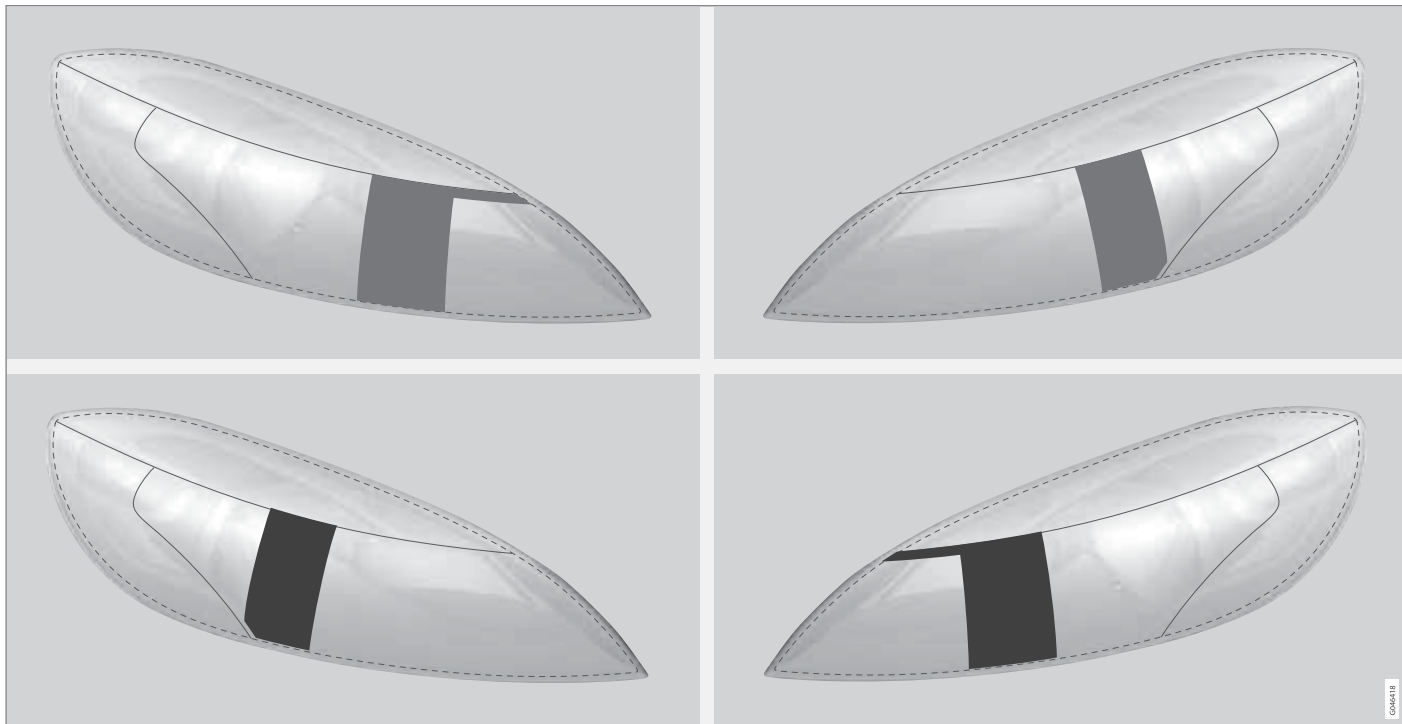
ハロゲンヘッドライト

ハロゲンヘッドライトは、ヘッドライトレンズをマスキングして、ヘッドライト照射パターンを調節します。ヘッドライト照射パターンは、マスキングしていないときよりも劣る場合があります。

ヘッドライトのマスキング

1. A と B のテンプレートは左ハンドル車用、C と D のテンプレートは右ハンドル車用です（後の「ハロゲンヘッドライト用テンプレート」を参照）。テンプレートの縮尺は 1:2 になっています。該当するテンプレートをコピー機で 200 % に拡大コピーして使用します。
 - A = LHD 右(左ハンドル、右レンズ)
 - B = LHD 左(左ハンドル、左レンズ)
 - C = RHD 右(右ハンドル、右レンズ)
 - D = RHD 左(右ハンドル、左レンズ)
2. テンプレートを、シールタイプの防水ビニールシートなどに転写して切り抜きます。
3. ヘッドライトのレンズのラインから始めます。以下の図のラインを確認してください。図を参考にシールタイプのシートに複写したテンプレートをデザインラインに貼り付けます。

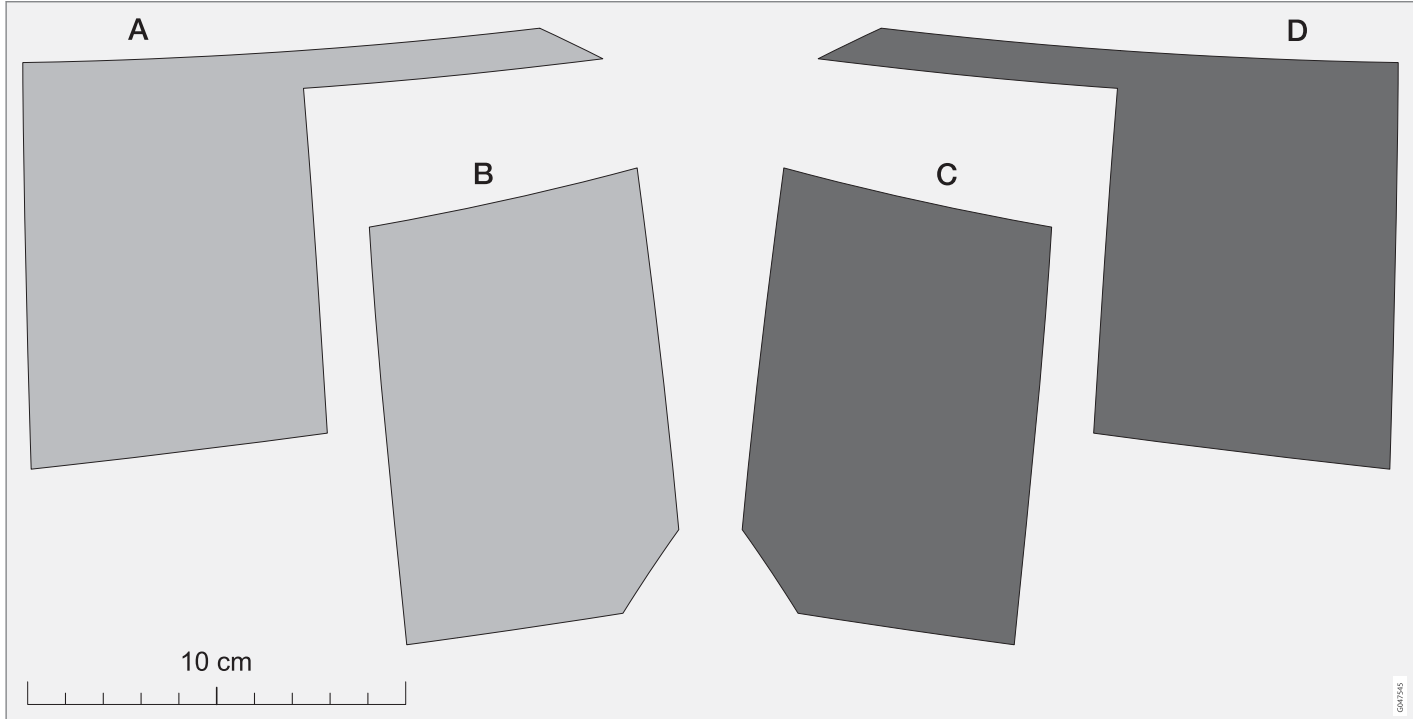
* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



上図：左ハンドル車用、テンプレートAおよびB。次図：右ハンドル車用、テンプレートCおよびD。



ハロゲンヘッドライト用テンプレート



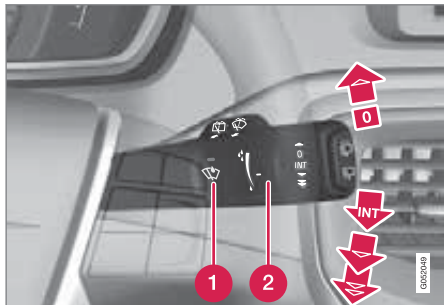


04 計器およびコントロール装置

ワイパー/ウォッシャー

ワイパーおよびウォッシャーはウインドスクリーンおよびリアウインドを洗浄します。ヘッドライトは高压洗浄で洗浄します。

ウインドスクリーンワイパー²¹



ウインドスクリーンワイパーおよびウインドスクリーンウォッシャー

- ① レインセンサー - オン/オフ
- ② コントロールダイヤルによる感度/作動回数の調節

ウインドスクリーンワイパー オフ

0 ワイパーレバーを **0** 位置に戻すと、ワイパーが停止します。

シングルストローク

 ワイパーレバーを上を押して放すと、ワイパーが 1 回だけ作動します。

間欠ワイパー

INT 間欠ワイパー位置のときには、コントロールダイヤルを使用してワイパーの作動間隔を調節することができます。

ワイパー連続作動

 ワイパーが通常速度で作動します。

 ワイパーが高速で作動します。

！ 重要

冬期は、ワイパーを作動させる前に、ウインドスクリーン(およびリアウインド)とワイパーブレードが凍結していないか確認してください。積もった雪を取り除く、または凍結を取り除いてからワイパーを作動させてください。

！ 重要

ワイパーを作動させるときは、ウォッシャー液を十分に使用してください。ウインドスクリーンが濡れている状態であることが必要です。

ワイパーブレード、サービスポジション

ウインドスクリーン/ワイパーブレードの清掃およびワイパーブレードの交換については、ワ

イパーブレード (p. 401) および洗車 (p. 420) を参照してください。

レインセンサー*

レインセンサーはウインドスクリーンに付着した水滴の量を感じて、フロントワイパーを自動的に作動・停止させます。レインセンサーの感度は、コントロールダイヤルで設定することができます。

レインセンサー作動時、ボタンの表示灯およびコンパインド・メーター・パネルのレインセンサーシンボル  が点灯し、レインセンサーが作動していることを示します。

作動/感度設定

レインセンサーを作動させる場合は、車両走行中またはリモートコントロールキーが **I** または **II** 位置のときに、ウインドスクリーンワイパーレバーを **0** 位置またはシングルストローク作動位置にします。

ボタン  を押して、レインセンサーを作動させます。ワイパーが 1 回作動します。

ワイパーレバーを上側に上げると、ワイパーがもう 1 回作動します。

コントロールダイヤルを上に戻すと感度が増し、下に戻すと感度が低下します(コントロールダイヤルを上に戻すごとに、ワイパーが 1 回多く作動します)。

²¹ ワイパーブレードの交換およびワイパーブレードのサービスポジションについては、ワイパーブレード (p. 401) を参照してください。ウォッシャー液の補充については、ウォッシャー液 - 補充 (p. 403) を参照してください。



解除する

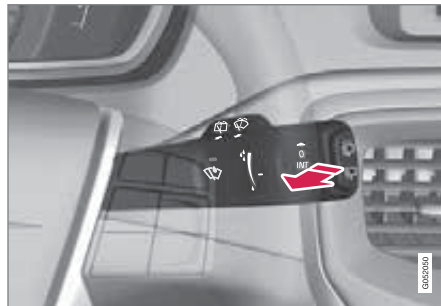
ボタン  を押すか、レバーを下げたワイパーの作動プログラムを変更すると、レインセンサーが解除されます。

レインセンサーは、イグニッションスイッチからリモートコントロールキーを抜いたとき、またはエンジンを停止してから5分後に、自動的に解除されます。

重要

自動洗車機で洗車する際、洗車中にレインセンサーが作動してワイパーが動き出し、ワイパー機構が損傷するおそれがあります。走行中またはリモートコントロールキーが **I** または **II** 位置のときには、レインセンサーを OFF にしてください。コンパインド・メーター・パネル内のシンボルとボタン内のランプが消灯します。

ヘッドライトウォッシャー/ウインドウォッシャー



ウォッシャー機能

ウインドスクリーンウォッシャー

レバーを手前に引くと、ウインドスクリーンおよびヘッドライトのウォッシャーが作動して、ウォッシャー液が噴射されます。

レバースイッチから手を離れたあともワイパーが数回作動し、ヘッドライトの洗浄が実施されます。

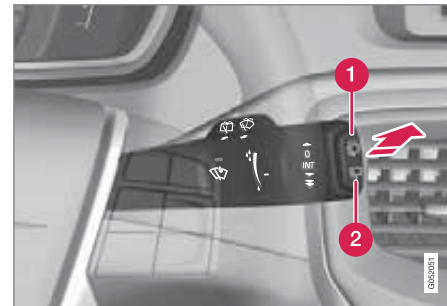
高圧ヘッドライトウォッシャー*

高圧ヘッドライトウォッシャーは、大量のウォッシャー液を消費します。ウォッシャー液を節約するため、ウインドスクリーンウォッシャーが5回作動する毎に、ヘッドライトウォッシャーが自動的に1回作動します。

節約洗浄

リザーバータンク内のウォッシャー液の残量が約1リットルになると、ウォッシャー液の補充を促すメッセージがコンパインド・メーター・パネルに表示され、ヘッドライトへのウォッシャー液の供給がオフになります。これは、ウインドスクリーンを洗浄し、視界を確保することを優先するためです。

リアウインドのワイピングと洗浄



- ① リアウインドワイパー - 間欠作動
 - ② リアウインドワイパー - 通常速度で作動
- レバーを前方に押すと(上図矢印参照)、リアウインドワイパー/ウォッシャーが作動します。



04 計器およびコントロール装置



注意

リアウインドワイパーには過熱保護が装備されているため、過熱した場合にはモーターが停止します。リアウインドワイパーは、しばらくすると(モーター内の熱と外気温により 30 秒以上)再び作動し始めます。

ワイパー - 後退時

ウインドスクリーンワイパーを作動させているときにリバースギヤにシフトすると、リアウインドワイパーは間欠作動します²²。この機能は、リバースギヤを解除すると停止します。

リアウインドワイパーが既に通常速度で作動している場合、作動モードは変更されません。

注意

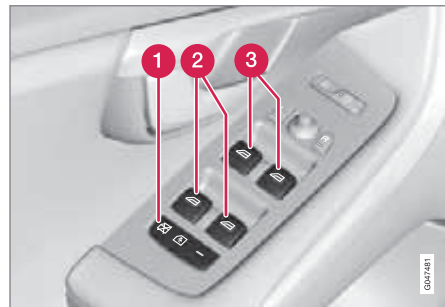
レインセンサー装着車では、レインセンサーが起動していて雨天の場合には、後退時にリアウインドワイパーが作動します。

関連情報

- ウォッシャー液 - 補充 (p. 403)
- ウォッシャー液 - 品質および容量 (p. 441)

パワーウインド

運転席ドアのコントロールパネルからはすべてのパワーウインドを操作することができます。他のドアのコントロールパネルからはそのドアのパワーウインドのみが操作できます。



運転席側ドアのコントロールパネル

- 1 パワー・チャイルドロックのスイッチ*およびリアパワーウインドボタンの機能解除については、チャイルドロック - 電動ロック* (p. 206)を参照してください。
- 2 リアパワーウインドスイッチ
- 3 フロントウインドスイッチ

警告

運転席ドアからウインドを閉める際は、リアシートの乗員が挟み込まれることがないように注意してください。

警告

リモートコントロールキーを使用する際でも、ウインドを閉めるときにはお子様などの乗員が挟まれることがないようにご注意ください。

警告

車内にお子様を残して車から離れる場合は、忘れずにキー位置を **0** にしてパワーウインドの電源を切り、リモートコントロールキーを必ず抜いて、キーを携帯してください。キー位置については、キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 106)を参照してください。

²² 後退時の間欠ワイパー機能は、解除することができます。ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。



操作



パワーウインドの操作

1 マニュアル作動

2 オート作動

運転席ドアのコントロールパネルからはすべてのパワーウインドが操作できます。他のドアのコントロールパネルからはそのドアのパワーウインドのみが操作できます。同時に複数のコントロールパネルを操作することはできません。

パワーウインドを使用するには、キー位置が **I** 以上の位置にある必要があります。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 106) を参照してください。エンジンをオフにし、リモートコントロールキーを取り出した後も数分間はパワーウインドが操作できますが、いったんドアを開けると操作できなくなります。

ウインドを閉めているときにその動きが妨げられると、ウインドが停止して自動的に開きます。

氷などにより、ウインドが閉まらなくなった場合には、ピンチプロテクションを強制解除することができます。2 回続けて閉じる動作が中断された場合には、ピンチプロテクションがオーバーライドされ、自動保護機能が短時間解除されます。これにより、ボタンを持ち上げたままにすると、ウインドを閉めることができます。

注意

リアパワーウインドが開いているときに発生する風圧音は、フロントウインドを少し開けると低減させることができます。

マニュアル作動

スイッチを上/下に軽く動かします。パワーウインドは、スイッチを保持している間上/下に動きます。

オート作動

スイッチを上/下いっぱいまで動かして、手を放します。ウインドは自動的にエンドポジションまで上/下します。

リモートコントロールキーおよびセントラルロックで操作

パワーウインドをリモートコントロールキーで外側から操作する場合、またはセントラルロックで内側から操作する場合については、リモートコントロールキー (p. 185) およびロック/ロック解除 - 車内から (p. 200) を参照してください。

リセット

バッテリーの接続を外した後は、パワーウインドのオート機能が正しく作動するようにリセットする必要があります。

1. ボタンの前端を軽く引き上げて、ウインドをいっぱいまで上げ、そこでボタンを 1 秒間保持します。
2. 少しの間、ボタンから手を放します。
3. ボタンの前端を再度引き上げ、1 秒間保持します。

警告

ピンチプロテクションが作動するためにはリセットする必要があります。



04 計器およびコントロール装置

ドアミラー

ドアミラーの位置は運転席ドアのコントロールのレバーで調節します。



ドアミラースイッチ

調節

1. 左側のミラーを調節するときは **L**、右側のミラーを調節するときは **R** ボタンを押します。ボタンの LED が点灯します。
2. 中央のノブを使用して、位置を調節します。
3. **L** または **R** ボタンを再度押します。ボタンの LED が消灯します。

警告

両側のミラーは、最適な視野が得られるように、広角タイプになっています。後続車や物体は、実際よりも遠くに見える場合がありますのでご注意ください。

設定の保存²³

ルームミラー/ドアミラーと運転席シートの位置の設定は、リモートコントロールキーごとにカーキーメモリーに保存することができます*。リモートコントロールキー - パーソナライズ* (p. 186) を参照してください。

駐車時にドアミラーを傾ける²³

駐車するときなどに路面がよく見えるように、ドアミラーを下向きに傾けることができます。

- リバースギヤに入れ、**L** または **R** ボタンを押します。

リバースギヤを解除すると、ドアミラーは約 10 秒後に元の位置に戻ります。あるいは、**L** または **R** ボタンを押すとただちに元の位置に戻ります。

駐車時に自動的にドアミラーを傾ける²³

リバースギヤを選択すると、駐車するときなどに路面がよく見えるように、ドアミラーが自動的に下向きに傾きます。リバースギヤを解除すると、ドアミラーは数秒後に元の位置に戻ります。

この機能は、メニューシステム MY CAR で起動/解除できます。MY CAR (p. 137) を参照してください。

ロック時の自動格納²³

リモートコントロールキーでロック/ロック解除すると、ドアミラーは自動的に格納位置/使用位置に動きます。

この機能は、メニューシステム MY CAR で起動/解除できます。MY CAR (p. 137) を参照してください。

中立位置へセットし直す

外部からの影響でドアミラー本体の位置が動いてしまったときは、電動格納機能を正常に機能させるため、ドアミラーを基本位置に戻してリセットする必要があります。

1. **L** と **R** ボタンを同時に押して、ドアミラーを格納します。
2. **L** と **R** ボタンを再度同時に押して、ドアミラーを使用位置に戻します。
3. 必要に応じてこの手順を繰り返します。

ドアミラー本体が中立位置にリセットされます。

²³ メモリー機能付きパワーシートが装備されている場合のみ。シート、フロント - 電動 (p. 109) を参照してください。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



電動格納式ドアミラー*

狭い場所に駐車するときや狭い場所を通過するときは、ドアミラーを格納することができます。

1. **L** ボタンと **R** ボタンを同時に押してください(キー位置は **I** 以上であることが必要です)。
2. 約 1 秒間押してから放します。ミラーは自動的に格納位置まで動いて停止します。

ドアミラーを使用位置に戻すときは、**L** と **R** ボタンを同時に押します。ミラーは自動的に、使用位置まで動いて停止します。

ホームセーフライト/アプローチライト

ドアミラーのランプはアプローチライト (p. 122) またはホームセーフライト (p. 122) 使用時に点灯します。

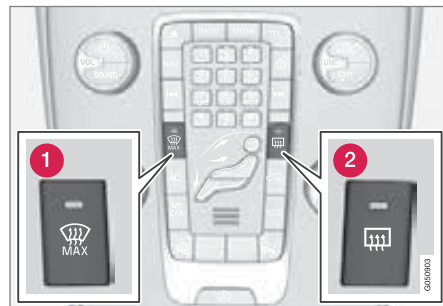
関連情報

- ルームミラー (p. 132)
- ウインド、ルームミラー、ドアミラー - ヒーター (p. 131)

ウインド、ルームミラー、ドアミラー - ヒーター

ウインドスクリーン、リアウインドおよびドアミラーの霜や曇りを素早く取る場合は、デフロスターを使用します。

ヒートッドウインドスクリーン*、リアウインド、ドアミラー



1 ウインドスクリーンヒーター

2 リアウインドおよびドアミラーヒーター

この機能は、ウインドスクリーン、リアウインドおよびドアミラーの氷や曇りを取り除くために使用されます。

各ボタンを 1 回押すと、ヒーターが作動します。ボタンが点灯すると、機能がオンであることがわかります。バッテリーに不必要な負担がかからないように、霜や曇りが取れたらすぐに停止してください。ただし、この機能は一定時間が経過すると自動的にオフになります。

ウインドスクリーンの曇りおよび霜の除去 (p. 161) も参照してください。

外気温が +7 °C 未満のときにエンジンを始動すると、ドアミラーやリアウインドの熱線が自動的にオンになり、ウインドの曇りを取り除きます。自動設定は、メニューシステム MY CAR で選択できます。MY CAR (p. 137) を参照してください。

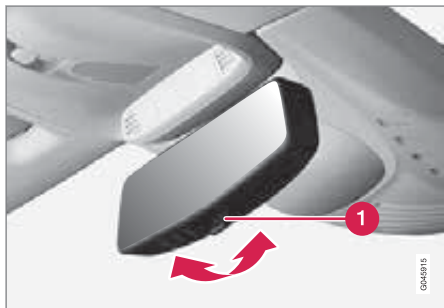
ウインドスクリーンヒーターがオンになると、コンパス (p. 133) 機能は解除されます。ウインドスクリーンヒーターがオフになると、コンパスが再起動します。



04 計器およびコントロール装置

ルームミラー

ルームミラーは、ミラー下側のコントロールを使用して眩しさを調節することができます。または、自動的に眩しさが調節されます。



① 防眩切替レバー

手動防眩機能

ルームミラーに反射する後続車のヘッドライトの光を、自動的に和らげます。後続車のライトがルームミラーに反射して眩しいときは、防眩機能を使用してください：

1. 防眩機能を使用する場合は、防眩切替レバーを手前に引きます。
2. 防眩切替レバーを押して、通常位置に戻します。

自動防眩機能*

ルームミラーに反射する後続車のライトを、自動的に和らげます。自動防眩機能付ミラーには手動防眩機能のコントロールはありません。

ルームミラーにはセンサーが2つあり、1つは前方を、もう1つは後方を向いています。これらのセンサーが連動して眩しい光を判別および除去します。前向きのセンサーは周囲の光を感知します。後ろ向きのセンサーは後続車のヘッドライトの光を感知します。

① 注意

駐車証、トランスポンダー、サンバイザー、シートやカーゴスペースの荷物などで、センサーが遮られ、光がセンサーに届かない場合は、ルームミラーの防眩機能が低下します。

自動防眩機能付ルームミラーのみにコンパス(p. 133)を装備することができます。

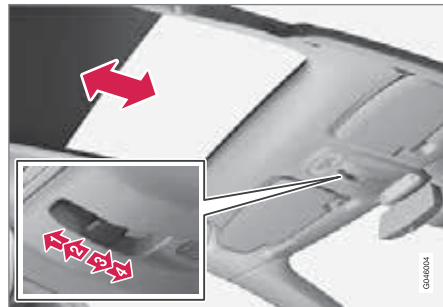
関連情報

- ドアミラー (p. 130)

パノラマ・ガラスルーフ*

ガラスルーフは、ルーフコンソールのスイッチで操作することができます。

パノラマ・ガラスルーフは固定されていますが、キー位置が **I** または **II** のときにルーフコンソールのスイッチを操作すると、電動スライドカーテンを開閉することができます。キー位置については、キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 106) を参照してください。



- ① エンドポジションまでの自動オープン
- ② ボタンを放すまで手動でオープン
- ③ ボタンを放すまで手動でクローズ
- ④ エンドポジションまでの自動クローズ



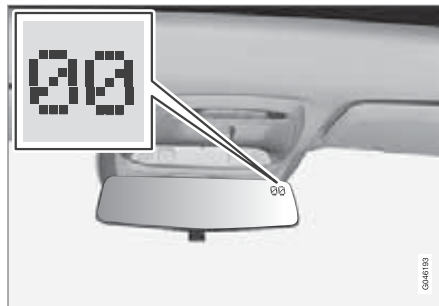
重要

- 損傷するおそれがあるため、電動スライドカーテンには触らないでください。
- 電動スライドカーテンを操作するときには、必ずルーフコンソールのスイッチを使用してください。

コンパス

ルームミラーには、車両が向く方位を示すディスプレイが組み込まれています。

操作



コンパス付きルームミラー

ルームミラー右上の部分に、車両の進行方向を表示するディスプレイが組み込まれています。8種類の方位が、英語の略字で表示されます：**N**(北)、**NE**(北東)、**E**(東)、**SE**(南東)、**S**(南)、**SW**(南西)、**W**(西)、**NW**(北西)。

コンパス*は、エンジンが始動すると、あるいはキー位置 **II** になると自動的に起動します。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 106) を参照してください。コンパスを解除/起動するには、ミラー裏側のボタンをペーパークリップなどで押してください。

ウインドスクリーンヒーターがオンになると、コンパスは非作動状態になります。ウインドス

クリーンヒーターがオフになると、コンパスが再起動します。

較正

地球は地表の磁場により、15の地域に分けることができます。コンパスは、車両が納品される地域に合わせて設定されています。他の磁場ゾーンに移動する場合は、コンパスを較正し直す必要があります。次の手順に従ってください：

1. 鉄骨を使用した建物や高压送電線などのない、広く安全な場所(屋外)に停車します。
2. エンジンを始動します。

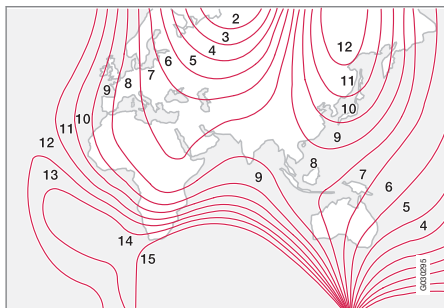
注意

較正が正しく行われるように、電装機器(エアコンディショナー、ワイパーなど)をすべてオフにして、ドアをすべて閉めてください。

3. ルームミラー裏側のボタンを、ペーパークリップなどの細い物で約3秒押し続けます。ディスプレイに現在の地域の番号が表示されます。



04 計器およびコントロール装置

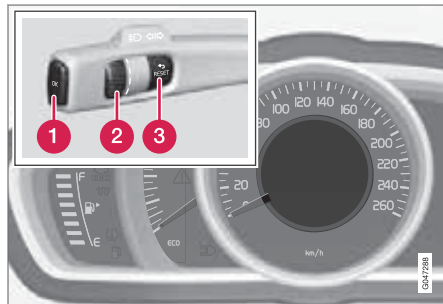


磁場の分布

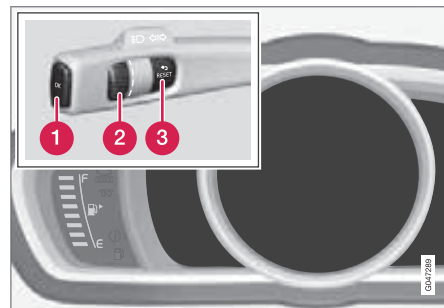
4. 希望する地域の番号(1-15)が表示するまで、ボタンを繰り返し押します。コンパス用の磁場分布図を参照してください。
5. ディスプレイが文字 **C** の表示に戻るまで待つか、またはルームミラーの下部にあるボタンを約 6 秒間(ペーパークリップなどを使用して)押したままにして、文字 **C** を表示させます。
6. 10 km/h 以下の低速で、ゆっくりと円を描くように走行します。ディスプレイにコンパスの方位が表示されれば較正終了です。較正を微調整するために、さらに 2 周走行してください。
7. 必要に応じてこの手順を繰り返します。

メニューナビゲーション - コンバインド・メーター・パネル

コンバインド・メーター・パネル(p. 90)のインフォメーション・ディスプレイに表示されるメニューは左側レバースイッチで操作します。表示されるメニューはキー位置 (p. 106) によって異なります。



インフォメーション・ディスプレイ(アナログ式コンバインド・メーター・パネル)およびメニューナビゲーションコントロール



インフォメーション・ディスプレイ(液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル)およびメニューナビゲーションコントロール

- ① **OK** - メニューへのアクセス、メッセージの確認、メニュー選択の確定に使用します。
- ② **コントロールダイヤル** - メニューオプションを参照するときに使用します。
- ③ **RESET** - 選択したトリップコンピューターのデータをリセットし、1 つ前のメニュー構成に戻ります。

メッセージ(p. 135)が表示されたときは、**OK** を押して確認すると、メニューが表示されます。

関連情報

- メッセージ - 取り扱い (p. 136)
- メニュー概要 - アナログ式コンバインド・メーター・パネル (p. 135)
- メニュー概要 - 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル (p. 135)



メニュー概要 - アナログ式コンパインド・メーター・パネル

コンパインド・メーター・パネルに表示されるメニューはキー位置 (p. 106) によって異なります。

以下のメニューオプションの中には、機能およびハードウェアを車両にインストールすることが必要なものもあります。

デジタル速度

ヒーター*

補助ヒーター*

TCオプション

サービス状態

オイルレベル²⁴

メッセージ (##)²⁵

関連情報

- メニューナビゲーション - コンパインド・メーター・パネル (p. 134)
- メニュー概要 - 液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル (p. 135)
- コンパインド・メーター・パネル (p. 90)

メニュー概要 - 液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル

コンパインド・メーター・パネルに表示されるメニューはキー位置 (p. 106) によって異なります。

以下のメニューオプションの中には、機能およびハードウェアを車両にインストールすることが必要なものもあります。

設定*

テーマ

コントラストモード/カラーモード

サービス状態

メッセージ²⁶

オイルレベル²⁷

パーキングヒーター*

トリップコンピューターリセット

関連情報

- メニューナビゲーション - コンパインド・メーター・パネル (p. 134)
- メニュー概要 - アナログ式コンパインド・メーター・パネル (p. 135)
- コンパインド・メーター・パネル (p. 90)

メッセージ

警告灯、インフォメーション・シンボル、あるいはインジケーター・シンボルが点灯すると、関連したメッセージがインフォメーション・ディスプレイに表示されます。

メッセージ	意味/対処
安全に停車 ^A	停車してエンジンを停止してください。重大な損傷のおそれがあります。サービス工場 ^B にご相談ください。
エンジンを停止してください ^A	停車してエンジンを停止してください。重大な損傷のおそれがあります。サービス工場 ^B にご相談ください。
ただちにサービスが必要 ^A	ただちにサービス工場 ^B に連絡し、点検を受けてください。
サービスが必要です ^A	すみやかにサービス工場 ^B に連絡し、点検を受けてください。
マニュアルを参照 ^A	オーナーズマニュアルをお読みください。

²⁴ 一部のエンジン。

²⁵ メッセージの数が () 内に表示されています。

²⁶ メッセージの数が () 内に表示されています。

²⁷ 一部のエンジン。



メッセー ジ	意味/対処
メンテナンスを予 約して下さい	定期点検整備を予約する時期 です。サービス工場 ^B にご連 絡ください。
定期メンテナンス の時期です	定期点検整備の時期です。 サービス工場 ^B にご連絡くだ さい。定期点検整備の時期 は、走行距離、前回の点検整 備からの経過月数、エンジン 作動時間およびオイルグレー ドに基づいて算出されます。
メンテナンスの時 期を過ぎて います	ボルボ社の保証が適用される ためには、メンテナンスノー ト(整備手帳)に従った点検を 行う必要があります。サービ ス工場 ^B にご連絡ください。
トランスミッション オ イル交換が必要 です	すみやかにサービス工場 ^B に 連絡し、点検を受けてくださ い。
トランスミッション 性能が低下 しています	トランスミッションは全機能 を処理できません。メッセー ジ ^C が消灯するまで慎重に運 転してください。 繰り返し表示される場合に は、サービス工場 ^B にご連絡 ください。

メッセー ジ	意味/対処
トランスミッション高 温 減速して 下さい	より穏やかに走行、または安 全に停車してください。Nま たは、P位置にしてメッセー ジが消えるまでエンジンをアイ ドリングさせてください ^C 。
トランスミッション高 温 安全に停 車し 冷却す るまで待機	重大な不具合が発生している おそれがあります。ただちに 安全に停車し、サービス工 場 ^B にご連絡ください。
一時解除 ^A	機能が一時的に解除されてい ることを示します。この機能 は、走行中またはエンジン再 始動後に、自動的にリセット されます。
バッテリー電圧 低下 パワーセ ーブモード ^D	節電のため、オーディオシス テムのスイッチがオフになり ます。バッテリーを充電して ください。

^A メッセージの一部では、問題が発生した場所に関する情報
が表示されます。
^B ボルボ指定のサービス工場にお任せください。
^C オートマチックトランスミッションに関するさらなるメッ
セージ。

関連情報

- メッセージ - 取り扱い (p. 136)
- メニューナビゲーション - コンパインド・
メーター・パネル (p. 134)

メッセージ - 取り扱い

コンパインド・メーター・パネルのインフォメー
ション・ディスプレイに表示されるメッセージ
(p. 135)は、左側レバースイッチを使用して閲
覧、確認します。

警告灯、インジケーターランプ、あるいはイン
ジケーター・シンボルが点灯すると、関連した
メッセージがディスプレイに表示されます。エ
ラーメッセージは、不具合が修正されるまでメ
モリーに記録されています。

左側レバースイッチの **OK** を押してメッセー
ジ²⁸を確認します。コントロールダイヤル
(p. 134)を使用してメッセージをスクロールし
ます。

 **注意**

トリップコンピューター使用中に警告メッ
セージが表示されたときは、必ず**OK**(押し
て)その警告メッセージを読み、今までの機
能に戻ってください。

関連情報

- メニュー概要 - アナログ式コンパインド・
メーター・パネル (p. 135)
- メニュー概要 - 液晶デジタル式コンパイン
ド・メーター・パネル (p. 135)



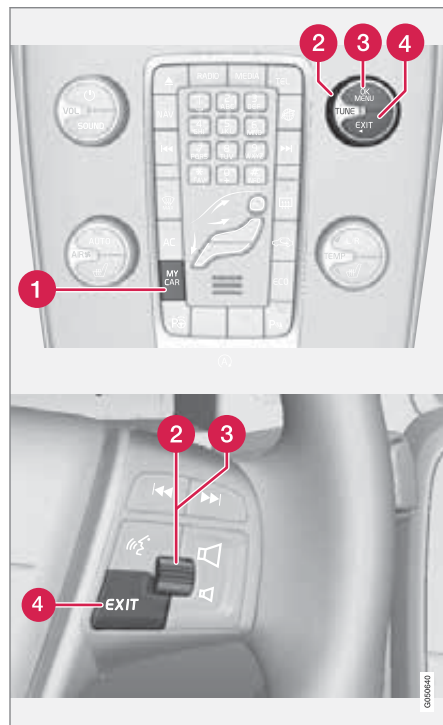
MY CAR

MY CAR は、City Safety™、ロックおよびアラーム、自動ファン速度、時計の設定など、車両の多くの機能を設定するためのメニューソースです。

一部機能は標準装備されていますが、オプション機能もあります。装備は、市場により異なります。

操作

メニュー内のナビゲーションは、センターコンソール上のボタンやステアリングホイール右側のキーパッド*を使用して操作できます。



センターコンソールのコントロールパネルおよびステアリングホイールキーパッド図には略図

が使用されています。選択した装備や市場により、機能の数やボタンの配置が異なります。

- ① **MY CAR** – メニューシステム MY CAR を開きます。
- ② **OK/MENU** – センターコンソールのボタンまたはステアリングホイールのコントロールダイヤルを押すと、ハイライト表示されているメニューオプションの選択/チェックマーク付け、または選択した機能のメモリーへの保存を行うことができます。
- ③ **TUNE** – センターコンソールのノブまたはステアリングホイールのコントロールダイヤルを回すと、メニューオプションを上下にスクロールできます。

④ EXIT

EXIT 機能

EXIT を短く押したときにカーソルが置かれていた機能とメニュー階層によって、次のいずれかが発生する場合があります。

- 通話が拒否される
- 現在の機能が中断される
- 入力された文字が削除される
- 直前の選択がキャンセルされる
- メニューシステムのひとつ前の画面に戻る

EXIT を長押しすると、MY CAR の通常ビューになり、通常ビューの場合には、トップのメニュー階層(メインソースメニュー)が表示されます。

28 メッセージはコントロールダイヤルまたは RESET ボタンによっても確認できます。



04 計器およびコントロール装置



メニューオプションおよびサーチパス

MY CAR のメニューオプションおよびサーチパスの説明については、付録「センサスインフォテイメント」を参照してください。

トリップコンピューター

車両のトリップコンピューターは、記録、計算、情報の表示が可能です。

概要

ロック解除でコンパインド・メーター・パネルが自動点灯するとすぐに確認および設定が可能です。運転席ドアが開いてから約 30 秒以内にいずれのトリップコンピューターのコントロールの操作がない場合はメーターが消灯します。その場合、トリップコンピューターを操作するには、キー位置 **II** (p. 106) にするか、エンジンを始動させる必要があります。



注意

トリップコンピューターを使用する際に警告メッセージが表示されたら、トリップコンピューターを再起動する前に、まずメッセージを確認してください。

- 方向指示器レバーの **OK** ボタンを軽く押し、メッセージを確認してください。

グループメニュー

トリップコンピューターには以下の 2 つのグループメニューがあります。

- 機能
- コンパインド・メーター・パネルの項目

トリップコンピューターの**機能**または**項目**はそれぞれ無限ループで表示されます。

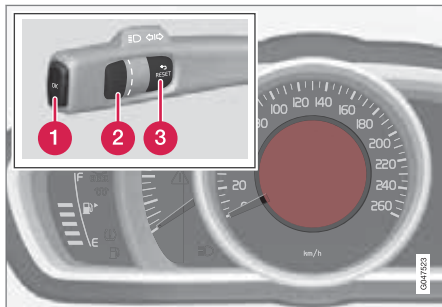
関連情報

- トリップコンピューター - アナログ式コンパインド・メーター・パネル (p. 139)
- トリップコンピューター - 液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル (p. 143)
- トリップコンピューター - 補足情報 (p. 147)
- トリップコンピューター - 走行統計* (p. 148)



トリップコンピューター - アナログ式 コンパインド・メーター・パネル

トリップコンピューターのメニューは、可変ループになっています。トリップコンピューターのループに、無表示のメニューを設定することができます。これはループの始まりと終わりの目安になります。



インフォメーション・ディスプレイおよびメ
ニューコントロール

- ① **OK** - トリップコンピューターの機能のループを開く + 選択したオプションを起動する
- ② **コントロールダイヤル** - トリップコンピューターの項目のループを開く + オプションをスクロールする
- ③ **RESET** - 選択後、機能を解除またはリセットする、元へ戻る

機能

機能は、以下のように開いたり、確認/調節したりします。

1. 操作中のコントロールがないことを確認するために、まず **RESET** を2回押してコントロールをリセットします。
2. **OK** を押します。すべての機能のループが開きます。
3. **コントロールダイヤル**で機能をスクロールし、**OK** で選択/決定します。
4. 確認/調節が終わったら、**RESET** を2回押して終了します。

トリップコンピューターのさまざまな機能は次の表に記載されています。



04 計器およびコントロール装置



機能	インフォメーション
デジタル速度 - km/h - mph - ディスプレイなし	車速をコンパインド・メーター・パネルの中央にデジタル表示します。 OK で開き、コントロールダイヤル で選択し、OK で決定し、ENTER で戻ります。
ヒーター* - ダイレクトスタート – タイマー 1 – 時間を選択するためのメニューが表示されます。 – タイマー 2 – 時間を選択するためのメニューが表示されます。	タイマーのプログラミングについては、エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* – タイマー (p. 167) を参照してください。
補助ヒーター* - オートON - OFF	詳しくは、アディショナルヒーター* (p. 169) を参照してください。
TCオプション - 走行可能距離 - 燃費 - 平均速度 - トリップメーター(走行距離計) T1 総距離 - トリップメーター(走行距離計) T2 総距離	ここから、トリップコンピューターで選択可能にしたいオプションを選択/起動することができます。すでに選択している項目のシンボルは白で表示され、チェックマークが入っています。その他の項目はグレーで表示され、チェックマークは入っていません。 OK で機能を開き、コントロールダイヤル でオプションをスクロールし、希望するオプションで選択/ストップします。 OK で決定します。シンボルの色がグレーから白に変わり、チェックマークが入ります。 - 続けてコントロールダイヤル で機能を選択するか、RESET で終了します。
サービス状態	次のサービスまでの月数および走行距離を表示します。

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



機能	インフォメーション
オイルレベル ^A	詳しくは、エンジンオイル - 点検および補充 (p. 388)を参照してください。
メッセージ [*] (##)	詳しくは、メッセージ (p. 135)を参照してください。

A 一部のエンジン。

- 項目**
以下の表内の項目のひとつをコンバインド・メーター・パネルにつねに表示するように選択することができます。以下に従って決定します。
1. 操作中のコントロールがないことを確認するために、まず **RESET** を2回押してコントロールをリセットします。
 2. **コントロールダイヤル**を回します。トリップコンピューターの選択可能な項目がループで表示されます。
 3. 希望の項目でストップします。

コンバインド・メーター・パネルのトリップコンピューターの項目	インフォメーション
トリップメーター(走行距離計)T1 総距離	• RESET を長押しするとトリップメーター T1 がリセットされます。
トリップメーター(走行距離計)T2 総距離	• RESET を長押しするとトリップメーター T2 がリセットされます。
走行可能距離	詳細は「走行可能距離」(p. 147)を参照してください。
燃料消費	現在の燃費。
平均速度	• RESET を長押しすると 平均速度 がリセットされます。
トリップコンピューターインフォメーションなし。	このオプションではディスプレイになにも表示されません。また、ループの最初/最後を示します。

コンバインド・メーター・パネルのトリップコンピューターは、走行中にいつでも別のオプ

ションに変えることができます。次の手順に従ってください：

- **コントロールダイヤル**を回します。希望の項目でストップします。



04 計器およびコントロール装置



リセット - トリップメーターおよび平均速度

現在のトリップコンピューターの項目 - **T1 総距離**、**T2 総距離** または **平均速度** - がコンバインド・メーター・パネルに表示されている状態で、次の操作を行ってください。

- **RESET** を長押しします。選択の項目がリセットされます。

それぞれ項目はひとつずつリセットする必要があります。

関連情報

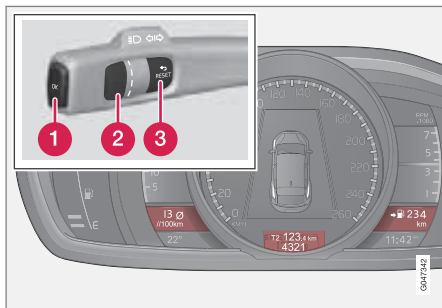
- トリップコンピューター (p. 138)
- トリップコンピューター - 液晶デジタル式
コンバインド・メーター・パネル
(p. 143)
- トリップコンピューター - 補足情報
(p. 147)
- トリップコンピューター - 走行統計*
(p. 148)

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



トリップコンピューター - 液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル

トリップコンピューターのメニューは、可変ループになっています。トリップコンピューターの3つの表示それぞれに、無表示のメニューを設定することができます。これはループの始まりと終わりの目安になります。



インフォメーション・ディスプレイおよびコントロール

- ① **OK** - トリップコンピューターの機能のループを開く + 選択したオプションを起動する
- ② **コントロールダイヤル** - トリップコンピューターの項目のループを開く + オプションをスクロールする
- ③ **RESET** - 選択後、機能を解除またはリセットする、元へ戻る

機能

機能は、以下のように開いたり、確認/調節したりします。

1. 操作中のコントロールがないことを確認するために、まず **RESET** を2回押してコントロールをリセットします。
2. **OK** を押します。すべての機能のループが開きます。
3. **コントロールダイヤル**で機能をスクロールし、**OK** で選択/決定します。
4. 確認/調節が終わったら、**RESET** を2回押して終了します。

トリップコンピューターのさまざまな機能は次の表に記載されています。



04 計器およびコントロール装置



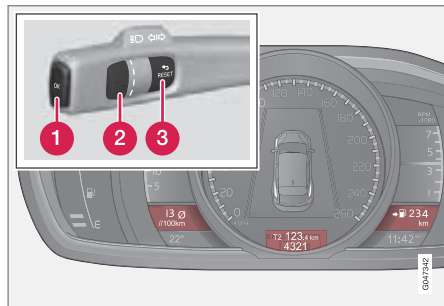
機能	インフォメーション
トリップコンピューター リセット - 平均燃費 - 平均速度	注意 この機能はトリップメーター T1 および T2 の両方をリセット しません 。詳しい手順については、次の項「項目」の表および「リセット - 平均速度/燃料消費量」を参照してください。
メッセージ	詳しくは、メッセージ (p. 135)を参照してください。
テーマ	ここで、コンパインド・メーター・パネルの外観を選択します(液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル - 概要 (p. 91)参照)。
設定*	オートON または OFF を選択します。 詳しくは、アディショナルヒーター* (p. 169)を参照してください。
コントラストモード/カラーモード	コンパインド・メーター・パネルの輝度と色の強度の調節。
パーキングヒーター* ダイレクトスタート - シンボル タイマー 1 - 時間を選択するためのメニューが表示されます。 - シンボル タイマー 2 - 時間を選択するためのメニューが表示されます。	タイマーのプログラミングについては、エンジンプロックヒーターおよび車内ヒーター* - タイマー (p. 167)を参照してください。
サービス状態	次のサービスまでの月数および走行距離を表示します。
オイルレベル^A	詳しくは、エンジンオイル - 点検および補充 (p. 388)を参照してください。

A 一部のエンジン。

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



項目



トリップコンピューターの3つの項目を同時に
(各「ウィンドウ」に1つずつ)表示することが
できます。

以下の表内の項目の組み合わせをコンパイン
ド・メーター・パネルにつねに表示するよう選
択することができます。以下に従って決定しま
す。

1. 操作中のコントロールがないことを確認す
るために、まず **RESET** を2回押してコン
トロールをリセットします。
2. **コントロールダイヤル**を回します。選択可
能な項目の組み合わせがループで表示され
ます。
3. 希望の組み合わせでストップします。

項目の組み合わせ			インフォメーション
平均燃費	トリップメーター T1 + メー ター値	平均速度	• RESET を長押しするとトリップメーター T1 がリセットされます。
瞬間燃費	トリップメーター T2 + メー ター値	走行可能距離	• RESET を長押しするとトリップメーター T2 がリセットされます。
瞬間燃費	メーター値	kmh<>mph	kmh<>mph - 「デジタル速度表示」、トリップコンピューター - 補足情報 (p. 147)を参 照してください。
	トリップコンピューターイン フォメーションなし。		このオプションはトリップコンピューターの3つすべてのディスプレイを消灯します。 また、ループの最初/最後を示します。

コンパインド・メーター・パネルのトリップコ
ンピューターの項目の組み合わせは、走行中に

いつでも別のオプションに変えることができま
す。次の手順に従ってください：

- **コントロールダイヤル**を回します。希望の
項目でストップします。



04 計器およびコントロール装置



リセット - トリップメーター

リセットするトリップメーターを含む項目の組み合わせへ**コントロールダイヤル**を回します。

- **RESET** を長押しします。選択のトリップメーターがリセットされます。

リセット - 平均速度/燃料消費量

1. 機能 **トリップコンピューターリセット**を選択し、**OK**で起動します。
2. **コントロールダイヤル**で以下のオプションのひとつを選択し、**OK**で起動します。
 - 1/100 km
 - km/h
 - 両方をリセット
3. **RESET** で終了します。

関連情報

- トリップコンピューター (p. 138)
- トリップコンピューター - アナログ式コンパインド・メーター・パネル (p. 139)
- トリップコンピューター - 補足情報 (p. 147)
- トリップコンピューター - 走行統計* (p. 148)

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



トリップコンピューター - 補足情報

さまざまな機能に関する補足情報。

平均燃費

リセットした後の平均燃費を表示します。

注意

フューエルドリブンヒーター*が使用されている場合には、若干の誤差が生じる場合があります。

平均速度

平均速度は最後に 0 にリセットしてからの走行距離で計算されます。

瞬間燃費

現在の燃費の情報はつねに更新されます(約 1 秒間に 1 回)。車両が低速で走行している際には、燃費は時間単位ごとの値として表示されません。高速走行時には、走行距離との関連で表示されます。

トリップコンピューターに表示する単位 (km/miles) を選択することができます。「単位の変更」(p. 147) の項を参照してください。

走行可能距離

トリップコンピューターに、現在の燃料残量で走行可能なおおよその距離が表示されます。

走行可能距離の項目が「—」を表示した場合、走行可能距離は残っていないことを示しています。

- この場合、できる限りすみやかに、給油してください。

30 km 前から現在までの平均燃費と、現在の燃料残量に基づいて、走行可能距離を算出します。

注意

車両走行状況の変動により、若干の誤差が生じる場合があります。

一般的に、経済的な走行を心がけると、走行距離を伸ばすことができます。燃費への影響についての詳細は、ボルボ社の環境フィロソフィー (p. 21) を参照してください。

デジタル速度表示²⁹

この速度は、メインメーター・パネルとは反対の単位 (kmh/mph) で表示されます。mph を設定している場合は、トリップコンピューターには速度が km/h で表示されます。逆の設定の場合は、表示も逆になります。

単位の変更

距離および速度の単位 (km/miles) は、メニューシステム MY CAR で変更できます。MY CAR (p. 137) を参照してください。

注意

これらの単位は、トリップコンピューターだけでなくボルボのナビゲーションシステム*でも変更されます。

関連情報

- トリップコンピューター (p. 138)
- トリップコンピューター - アナログ式コンパインド・メーター・パネル (p. 139)
- トリップコンピューター - 液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル (p. 143)
- トリップコンピューター - 走行統計* (p. 148)

²⁹ "Digital" コンパインド・メーター・パネル装備車のみ。

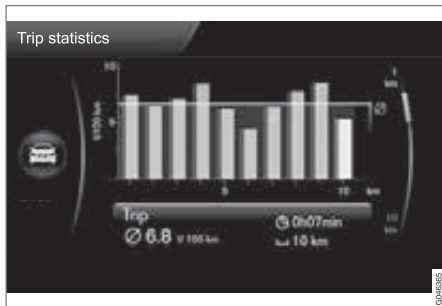


04 計器およびコントロール装置

トリップコンピューター - 走行統計*

平均燃費や平均速度などを含む、今までの走行に関する情報が保存されます。この情報はセンターコンソールの画面の棒グラフで確認できます。

機能



旅程情報 ³⁰

各バーは、選択した尺度に応じて走行した距離 1 km または 10 km を表します。一番右のバーは現在走行中の 1 キロメートルまたは 10 km の値を示します。

TUNE ノブを使うと各バーの縮尺を 1 km と 10 km の間で切り替えることができます。選択した縮尺に応じて右端のカーソルの位置が上下に変化します。

操作

メニューシステム **MY CAR** で、さまざまな設定を行うことができます。MY CAR (p. 137)を参照し、**旅程情報**を確認してください。

「車が 4h 以上 OFF ならリセット」オプションをハイライトすると、走行を終了し、車両が停止してから 4 時間が経過すると、すべての統計が自動的に削除されます。次回エンジンを始動すると、走行統計がゼロから始まります。

- **車が 4h 以上 OFF ならリセット - ENTER** を選択してボックスをハイライトし、**EXIT** を選択してメニューを終了します。

4 時間が経過する前に次の走行サイクルを始める場合には、「**新しいトリップの開始**」オプションを使用して現在のデータを手動で削除することが必要です。

- **新しいトリップの開始 - ENTER** を使用すると今までの統計をすべて削除し、**EXIT** を選択するとメニューを終了することができます。

エコガイド (p. 94) についての情報もご覧下さい。

関連情報

- トリップコンピューター (p. 138)
- トリップコンピューター - アナログ式コンパインド・メーター・パネル (p. 139)
- トリップコンピューター - 液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル (p. 143)

- トリップコンピューター - 補足情報 (p. 147)

³⁰ 図は概略図です。レイアウトはソフトウェアのアップデートおよび市場により異なる場合があります。

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。

05

エアコンディショナー





05 エアコンディショナー

エアコンディショナーご使用にあたって

車両には、オートマチック・エアコンディショナーが装備されています。車内の冷暖房と除湿をコントロールします。

エアコンディショナーシステムには次の2種類のシステムがあります。

- エレクトロニック・テンパレチャャー・コントロール (ETC) (p. 157)
- オートマチック・エアコンディショナー (ECC) (p. 156)

注意

エアコンディショナーシステム (AC) (p. 161) をオフにすることもできますが、最適な車内環境を維持し、またウインドが曇ることを防ぐため、つねにオンの状態にしてください。

注意事項

- 冷暖房効果を上げるため、冷暖房をご使用の際は、パワーウインドを閉めてください。
- グローバルオープニング機能 (p. 201) は、すべてのパワーウインドを同時に開閉します。気温が高く、空気を素早く取り入れたい場合などに使用できます。
- 車内への外気取入口は、ボンネットとウインドスクリーンの間のグリル部分にあります。この部分に溜った氷や雪は、必ず取り除いてください。
- 気温が高いときは、空気中の水分がエアコンディショナーの内部で凝結して、凝結水が車

両の下へ流れ出る場合があります。これは異常ではありません。

- フル加速などのためにエンジンの全出力が必要な場合、エアコンディショナーが一時的にオフになることがあります。その間、車内温度が上がったように感じる場合があります。
- ウインドスクリーン内側の曇りをとる際は、デフロスター機能 (p. 161) 使用してください。ウインドスクリーンの内側を曇りにくくするため、ウインド内側をガラスクリーナーで清掃してください。

Start/Stop*装備の車両

エンジンが自動停止 (p. 309) した場合には、エアコンディショナーのファンの速度 (p. 159) など一部の機器で機能が一時的に制限される場合があります。

ECO*装備の車両

ECO (p. 318) 機能がオンのときには、エアコンディショナー (p. 161) など、一部の機器で機能が一時的に制限または解除される場合があります。

注意

ECO 機能をオンにすると、エアコンディショナーシステムの設定のいくつかのパラメーターが変更され、一部の電力消費機器の機能が制限されます。一部の設定は手動でリセットできますが、すべての機能を回復させるには、ECO 機能をオフにする必要があります。

関連情報

- 実際の温度 (p. 151)
- センサー - エアコンディショナー (p. 151)
- メニュー設定 - エアコンディショナー (p. 153)
- 車内のエアディストリビューション (p. 154)
- エア・クオリティ (p. 151)
- フロントシートヒーター* (p. 158)
- リアシートヒーター* (p. 158)



実際の温度

車内で選択する温度は、その時点での車内および車両付近の周辺温度、気流速度、湿度、日射量などによる体感温度に対応します。

システムには車内のどちら側に日光が当たっているかを感知するソーラーセンサー (p. 151) が備わっています。左右両側を同じ温度に設定しても、左右の空気吹出口から流れる空気の温度が異なる場合があります¹。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 150)
- 車内の温度コントロール (p. 160)

センサー - エアコンディショナー

エアコンディショナーシステムは、複数のセンサーを使用して車内の温度 (p. 151) を調節します。

- ソーラーセンサーは、ダッシュボード上部に装着されています。
- 車内温度センサーは、エアコンディショナーコントロールパネルの下に装着されています。
- 外気温センサーは、ドアミラーに装着されています。



注意

センサーが衣服などで覆われることがないように注意してください。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 150)

エア・クオリティ

車内の内装は接触アレルギーや喘息を持つ方にも快適な設計です。

- クリーンエアフィルター (p. 152)
- 車内の素材 (p. 153)
- クリーン・ゾーン・インテリア・パッケージ (CZIP) (p. 152)*
- インテリア・エア・クオリティ・システム (IAQS) (p. 153)*

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 150)

¹ ECC 装着車のみ。



05 エアコンディショナー

エア・クオリティ - クリーンエアフィルター

車内に入る空気は、クリーンエアフィルターを通過して浄化されます。

このフィルターは、定期的に交換することが必要です。推奨交換間隔は、バルボメンテナンスサービスプログラムに従ってください。埃や塵などの多い場所を走行する場合は、さらに頻繁な交換が必要です。

注意

クリーンエアフィルターには、数種類のタイプがあります。適切なクリーンエアフィルターを装着してください。

関連情報

- エア・クオリティ (p. 151)

エア・クオリティ - クリーン・ゾーン・インテリア・パッケージ (GZIP)*

CZIP は、アレルギー源や喘息を引き起こす物質を車内から除去する一連の機能で構成されています。

次の事項が含まれています。

- 拡張ファン機能は、リモートコントロールキーでロック解除したときにファンを作動させます。ファンにより、車内に新鮮な空気を導入します。この機能は必要に応じて作動し、一定時間が経過した後か、いずれかのドアを開けたときに解除されます。ファンの作動時間は、必要性の減少に応じ、車両製造後 4 年間を経過するまでの間に徐々に短くなります。
- エア・クオリティ・システム IAQS (p. 153) は、車内の空気から、微粒子、炭化水素、窒素酸化物、地表オゾンなどの有害物質を除去するフルオートマチックシステムです。

注意

CZIP 装着車の CZIP 標準を保持するには、IAQS エアフィルターを 15,000 km 毎、あるいは 1 年に 1 回 (どちらか早い方) 交換してください。これは、最大 75,000 km、5 年間に限ります。CZIP を装着していない車両、あるいは CZIP 標準を保持する希望がない場合は、IAQS エアフィルターを通常の定期点検時に交換してください。

詳しくは、CZIP のパンフレットをご覧ください。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 150)
- エア・クオリティ (p. 151)



エア・クオリティ - IAQS*

エア・クオリティ・システム (IAQS) は、車内の空気から埃などの微粒子やガスを分離して、臭いや空気の汚れを低減します。

外気が汚れている場合、炭化水素、亜酸化窒素、地表オゾンの取り込みを遮断するために空気取入口が閉じられます。空気は車内を再循環します。

この機能は、メニューシステム MY CAR で作動可能状態/非作動状態にすることができます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 137) を参照してください。

注意

車内の空気を清浄に保つため、エアクオリティセンサーは常時作動させてください。

寒冷気候では、曇りを防止するために自動リサーキュレーションは制限されています。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 150)
- エア・クオリティ (p. 151)
- エア・クオリティ - クリーン・ゾーン・インテリア・パッケージ (CZIP)* (p. 152)

エア・クオリティ - 素材

これらの素材は、車内に埃を発生させにくく、清掃しやすいように開発されたものです。

車内およびカーゴスペースのカーペットは、簡単に取り外して清掃することができます。ボロボロ推奨のクリーナーとカーケア用品を使用して、車内を清掃 (p. 423) してください。

関連情報

- エア・クオリティ (p. 151)

メニュー設定 - エアコンディショナー

エアコンディショナーの機能のうち4つについては、センターコンソールを使用して、起動/解除または出荷時の設定から変更することができます。

- オートマチック・エアコンディショナー* (p. 160) 作動中のファン速度
- リサーキュレーションタイマー (p. 162)
- リアウインドデフロスター (p. 131) の自動始動
- インテリア・エア・クオリティ・システム* (p. 153)

エアコンディショナーシステムの機能は、MY CAR のメニューシステムにより、初期設定にリセットすることができます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 137) を参照してください。

関連情報

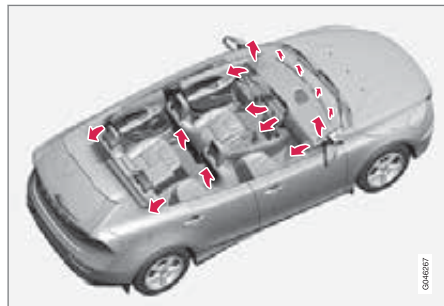
- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 150)



05 エアコンディショナー

車内のエアディストリビューション

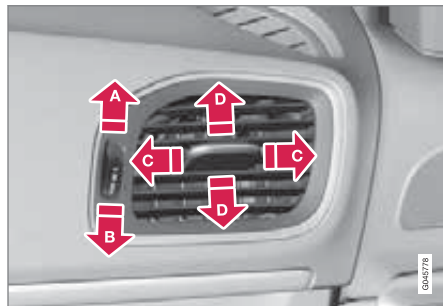
外気は、車内数箇所の空気吹出口に分配されます。



エアディストリビューションは、**AUTO** モード*で自動的に制御されます。

必要に応じて手動でも操作できます。エアディストリビューションの一覧表(p. 163)を参照してください。

ダッシュボードの空気吹出口



- A** 開ける
- B** 閉める
- C** 左右方向のエアフロー
- D** 上下方向のエアフロー

曇りを取り除く際は、空気吹出口の吹き出し方向をパワーウィンド側に向けます。

i 注意

小さなお子様は、風に敏感ですのでご注意ください。体調を崩すおそれがあります。

エアディストリビューション



- 1** エアディストリビューション - ウィンドスクリーンデフロスター
- 2** エアディストリビューション - ダッシュボードの空気吹出口
- 3** エアディストリビューション - フロアベンチレーション

ここには、3 個のボタンがあります。ボタンを押すと対応したアイコンが画面に表示され(次図参照)、アイコン前方に表示される矢印により、選択されているエアディストリビューションが提示されます。詳しくは、エアディストリビューションの一覧表(p. 163)を参照してください。



選択されているエアディストリビューションがセンターコンソールの画面に表示されます。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 150)
- 自動調節 (p. 160)
- エアディストリビューション - リサーキュレーション (p. 162)



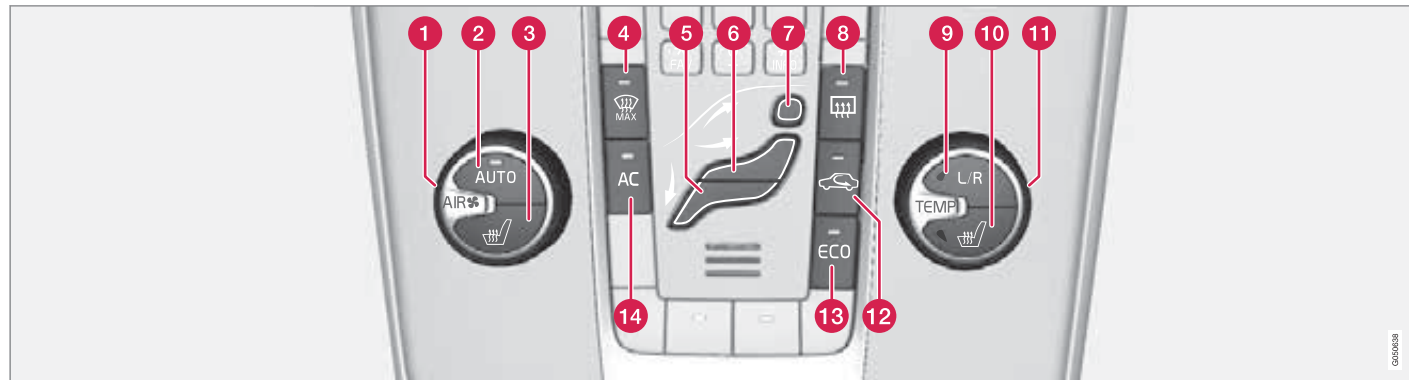
05 エアコンディショナー

オートマチック・エアコンディショナー - ECC*

ECC(オートマチック・エアコンディショナー)
は、選択した車内温度を維持します。運転席側

と助手席側でそれぞれ異なる温度を設定すること
が可能です。

自動機能は、温度、エアコンディショナー、ファ
ン速度、リサーキュレーション、エアディスト
リビューションを自動で調節します。



- ① ファン (p. 159)
- ② **AUTO** - オートマチック・エア・コンディショ
ナー (p. 160)
- ③ 電気式フロントシートヒーター (p. 158)、
左側
- ④ ヒーテッドウインドスクリーン*および最大
デフロスター (p. 161)
- ⑤ エアディストリビューション (p. 154) - フ
ロアベンチレーション
- ⑥ エアディストリビューション - ダッシュ
ボードの空気吹出口

- ⑦ エアディストリビューション - ウインドス
クリーンデフロスター
- ⑧ 熱線入りリアウインド/ドアミラー (p. 131)
- ⑨ 左右の温度調節 (p. 160) 用設定
- ⑩ 電気式フロントシートヒーター (p. 158)、
右側
- ⑪ 温度コントロール (p. 160)
- ⑫ リサーキュレーション (p. 162)

- ⑬ ECO* (p. 318)

- ⑭ **AC** - エアコンディショナーオン/オフ
(p. 161)

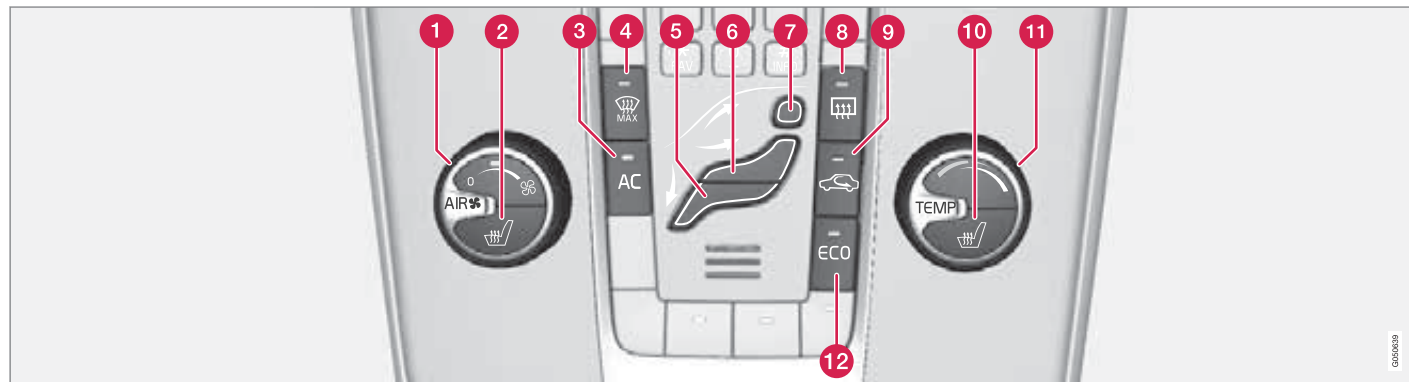
関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって
(p. 150)



エレクトロニック・テンパレチャー・コントロール - ETC

車内の環境をETC(エレクトロニック・テンパレチャー・コントロール)で手動調節します。



- ① ファン (p. 159)
- ② 電気式フロントシートヒーター(p. 158)、左側
- ③ AC - エアコンディショナーオン/オフ (p. 161)
- ④ ヒーテッドウインドスクリーンおよび最大デフロスター*
- ⑤ エアディストリビューション(p. 154) - フロアベンチレーション
- ⑥ エアディストリビューション - ダッシュボードの空気吹出口
- ⑦ エアディストリビューション - ウインドスクリーンデフロスター
- ⑧ 熱線入りリアウインド/ドアミラー (p. 131)
- ⑨ リサーキュレーション (p. 162)
- ⑩ 電気式フロントシートヒーター(p. 158)、右側
- ⑪ 温度コントロール (p. 160)
- ⑫ ECO* (p. 318)

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 150)



05 エアコンディショナー

フロントシートヒーター*

フロントシートヒーターはヒーターレベルを3段階に調節できます。寒い日でも快適に過ごすことができます。



現在のヒーターレベルは、センターコンソールの画面に表示されています。



ボタンを押すたびに、機能が切り替わります。

- ヒーターレベル「強」 - センターコンソールの画面にオレンジ色のランプが3個表示されます(前図参照)。
- ヒーターレベル「中」 - 画面にオレンジ色のランプが2個表示されます。

- ヒーターレベル「弱」 - 画面にオレンジ色のランプが1個表示されます。
- ヒーターがオフになります。ランプはすべて消灯します。

警告

感覚が麻痺しているために温度上昇が感知できない人や、ヒートッドシートの操作ができない人は、ヒートッドシートに着座しないでください。火傷を負うおそれがあります。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 150)
- リアシートヒーター* (p. 158)

リアシートヒーター*

リアシート の外側シートではヒーターレベルを3段階に調節できます。寒い日でも快適に過ごすことができます。



現在のヒーターレベルは、ブッシュボタンのランプに表示されます。

ボタンを押すたびに、機能が切り替わります。

- ヒーターレベル「強」 - ランプが3個表示されます。
- ヒーターレベル「中」 - ランプが2個表示されます。
- ヒーターレベル「弱」 - ランプが1個表示されます。
- ヒーターがオフになります。ランプはすべて消灯します。



警告

感覚が麻痺しているために温度上昇が感知できない人や、ヒートシートが操作できない人は、ヒートシートに着座しないでください。火傷を負うおそれがあります。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 150)
- フロントシートヒーター* (p. 158)

ファン

ファンはウインドの曇りを防ぐため、つねに作動させてください。

注意

ファンが完全に停止していて、エアコンディショナーがオフのときは、ウインドガラス内側が曇るおそれがあります。

ECC*



ノブを回して、ファン速度を調節します。**AUTO** が解除されます。**AUTO** を選択している場合には、ファン速度は自動で (p. 160) 調整されます。前回設定されていたファン速度は

解除されます。

ETC



ノブを回して、ファンスピードを調節します。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 150)
- オートマチック・エアコンディショナー - ECC* (p. 156)

- エレクトロニック・テンパレチャー・コントロール - ETC (p. 157)



05 エアコンディショナー

自動調節

自動調節は、電子制御フルオートマチック・エアコンディショナー(p. 156)でのみ使用できます。



この自動機能は、温度(p. 160)、エアコンディショナー(p. 161)、ファンスピード(p. 159)、リサーキュレーション(p. 162)、エアディストリビューション(p. 154)を

自動的に調節します。

これらの機能のいずれかを手動に切り替えても、それ以外の機能は自動的にコントロールされ続けます。**AUTO** を押すと、手動設定はすべて解除されます。画面に **オートエアコン** が表示されます。

自動モードのファン速度はメニューシステム MY CAR で設定することができます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 137)を参照してください。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 150)

車内の温度コントロール

エンジンを始動すると、前回の温度設定が再開します。

注意

希望する温度より高い温度または低い温度にセットしても、希望した温度に達するまでの時間が早まることはありません。

ECC*



各サイドの現在の温度がセンターコンソールの画面に表示されます。



運転席側と助手席側の温度を、別々に調節することができます。**L/R** ボタンを繰り返し押して、左、右、両側の設定を選択してください。ノブを使って温度を設定します。各サイ

ド用に選択された温度がセンターコンソールの画面に表示されます。

ETC



車内の温度はノブで調節できます。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 150)
- 実際の温度 (p. 151)
- エレクトロニック・テンパレチャー・コントロール - ETC (p. 157)
- オートマチック・エアコンディショナー - ECC* (p. 156)



エアコンディショナー

エアコンディショナーは、必要に応じて冷房や除湿を行います。



AC ボタン内の LED が点灯している場合には、冷暖房はシステムにより自動制御されています。

AC ボタン内の LED が消灯している場合には、冷暖房は解除されています。それ以外の機能は、引き続き自動制御されています。最大デフロスター機能 (p. 161) をオンにすると、エアコンディショナーが自動的に作動し、最大設定で除湿を行います。

ウインドスクリーンの曇りおよび霜の除去

ヒートッドウインドスクリーン*と最大デフロスターを使用すると、ウインドスクリーンやパワウインドの曇りや霜を素早く除去できます。



選択されている設定がセンターコンソールの画面に表示されます。

1 ヒートッドウインドスクリーン*

2 最大デフロスター



この機能は、ボタンの LED が点灯しているときに作動します。

ボタンを押すたびに、機能が切り替わります。

ヒートッドウインドスクリーン非装備の車両用：

- ・ ウインドへの送風 - 画面にシンボル (2) が表示されます。
- ・ 機能がオフになります。シンボルが消灯します。

ヒートッドウインドスクリーン装備の車両用：

- ・ ウインドスクリーンヒーターの起動² - 画面にシンボル (1) が表示されます。
- ・ ウインドスクリーンヒーターの起動² とウインドへの送風 - 画面にシンボル (1) および (2) が表示されます。
- ・ 機能がオフになります。シンボルが消灯します。



注意

ヒートッドウインドスクリーンおよび赤外線ウインド (p. 19) は、トランスポンダーやその他の通信機器の性能に影響を及ぼすことがあります。



注意

ウインドスクリーンの各側の端にある三角部分には電熱機能がないため、他の部分よりも除氷に時間がかかることがあります。

² ヒートッドウインドスクリーンを作動すると、コンパスはオフになります。



05 エアコンディショナー



注意

エンジンが自動停止 (p. 309) すると、ヒートドウィンドスクリーンは利用できなくなります。

車内の除湿効果を最大にするため、この機能がアクティブになると、次の操作も実施されます：

- エアコンディショナーが自動的に作動します。
- 車内のリサーキュレーションシステムとエア・クオリティ・システムが自動的に停止します。

注意

ファンが最高速度で作動すると、ノイズレベルが増加します。

デフロスターをオフにすると、エアコンディショナーは元の設定に戻ります。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 150)

エアディストリビューション - リサーキュレーション

リサーキュレーションを選択するといやな臭いや排気ガスなどが車内へ侵入するのを防ぐことができます。内気循環になり、外気が取り込まれません。



リサーキュレーション作動中は、ボタン内のオレンジ色の LED が点灯します。

重要

リサーキュレーションを長時間続けると、ウインドの内側が曇るおそれがあります。

タイマー

タイマー機能を作動させると、手動で作動させたリサーキュレーションモードが解除されます。解除までの時間は、外気温により異なります。ウインドに霜や曇りが付きにくくなり、汚れた空気が車内を循環し続けるおそれが少なくなります。

この機能は、メニューシステム MY CAR で作動可能状態/非作動状態にすることができます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 137) を参照してください。

注意

最大デフロスターを選択しているときは、リサーキュレーションは作動しません。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 150)
- 車内のエアディストリビューション (p. 154)
- エアディストリビューション - 一覧表 (p. 163)



エアディストリビューション – 一覧表

3つのボタンを使用してエアの送風方向

(p. 154)を選択します。

	エアディストリビューション	用途
	大量の熱風がウインドに向けて送風されます。	霜や曇りを早くとる場合。
	デフロスターベントを介してウインドスクリーンおよびパワーウインドにエアを送風。空気吹出口から送風。	気温が低く湿度が高い環境のときに、霜や曇りを防ぎます (ファンが低速の場合を除く)。
	ウインドに向けて送風、およびダッシュボードの空気吹出口から送風。	気温が高く乾燥した環境のときに、車内を快適な状態に保ちます。
	ダッシュボードの空気吹出口から、上半身に送風。	気温が高いとき、冷房効果を高めます。



05 エアコンディショナー



	エアディストリビューション	用途
	フロアおよびウインドに向けて送風。ダッシュボードの空気吹出口から送風。	冷寒時、または湿度の高い環境のときに、車内を快適な状態に保ちます。
	フロアおよびダッシュボードの空気吹出口に送風。	快晴で涼しい外気温の場合。
	フロアに送風。ダッシュボードの空気吹出口およびウインドに向けて送風。	足元を暖房または冷房する場合。
	ウインドに向けて送風、ダッシュボードの空気吹出口から送風、およびフロアに送風。	高温の乾燥した気候のときにフロア付近を冷房する、または寒冷時に車内の上部を暖房する場合。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって
(p. 150)
- エアディストリビューション - リサーキュレーション (p. 162)



エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター*

プリコンディショニングを行うと、出発前に車両のヒーター、エンジンおよび車内の準備を整えておくことができるため、走行中の摩耗やエネルギー消費を低減することができます。車両を暖機することで、走行距離も延長できます。

このヒーターは、直接 (p. 166) またはタイマー (p. 167) で起動することができます。

外気温が 15 °C 以上あるときは、ヒーターは作動しません。外気温が -5 °C 以下のときは、ヒーターは最長 50 分間作動します。

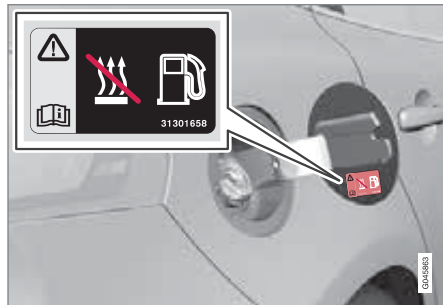
警告

フューエルドリブンヒーターは屋内で使用しないでください。見えないところで排気ガスが発生しています。

注意

フューエルドリブンヒーターが作動すると、車両の下から煙が出る場合がありますが、これは異常ではありません。

燃料の補給



燃料給油口フラップの警告表示

警告

燃料がこぼれると、引火するおそれがあります。燃料を補給する前に、フューエルドリブンヒーターのスイッチを必ずオフにしてください。

コンパインド・メーター・パネルでヒーターがオフになっていることを確認してください。ヒーターが作動している場合には、ヒーターのシンボルが表示されます。

坂道での駐車

急な坂道に駐車するときは、フューエルドリブンヒーターに燃料が供給されるように、車両前部が坂の下側を向くようにしてください。

バッテリーおよび燃料

バッテリーの充電量が低い場合、あるいは燃料残量が少ない場合、ヒーターが自動的に停止して、ディスプレイにメッセージが表示されます。ステアリングホイールの方向指示器レバー (p. 134) の **OK** ボタンを 1 回押して、メッセージを確認してください。

重要

近距離を走行するときにヒーターを繰り返し使用すると、メインバッテリーの充電レベルが低下するおそれがあります。この場合、ヒーターが停止したり、作動不能になったりする可能性があります。最悪の場合、エンジンが始動しなくなることもあります。

定期的にはヒーターを使用する場合は、ヒーターを作動させた時間と同じ時間、車両を走行するようにしてください。メインバッテリーを十分な充電状態に保つことができます。ヒーターは 1 回につき最長 50 分間使用されます。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* – メッセージ (p. 168)
- アディショナルヒーター* (p. 169)



05 エアコンディショナー

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - ダイレクトスタート

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーターは、直接始動することができます。

ダイレクトスタート操作方法

- インフォメーション・ディスプレイ
- リモートコントロールキー*
- 携帯*

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター (p. 165) をダイレクトスタートすると、ヒーターが 50 分間作動します。

エンジン冷却水の温度が適切な温度に達すると、車内の暖房を開始します。

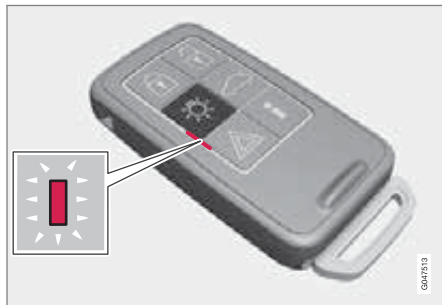
注意

ヒーター作動中でも、エンジンを始動して走行することができます。

インフォメーション・ディスプレイからのダイレクトスタート

1. **OK** を押し、メニューにアクセスします。
2. コントロールダイヤルを使用して **ヒーター** までスクロールし、**OK** で選択します。
3. ヒーターを作動させるには、次のメニューで **直接スタート** までスクロールし、**OK** で選択します。
4. **RESET** を押しとメニューを終了します。

リモートコントロールキーでダイレクトスタートを起動*



PCC*付きリモートコントロールキーのインジケータランプ

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーターは、リモートコントロールキーを使用して作動させることができます。

- ー アプローチライト用のボタン  を 2 秒間押し続けます。

非常点滅表示灯は、合図の内容に応じて点滅パターンが異なります。

- 5 回短く点滅した後、約 3 秒間点灯する - 信号が車両に届き、ヒーターの作動が開始された。
- 5 回短く点滅する - 信号は車両に届いたが、ヒーターの作動は開始されていない。
- 非常点滅表示灯が消灯したまま - 信号が車両に届いていない。

ヒーターが作動しているときにインフォメーションボタン  を押すと、インジケータランプがその状態を車両のロック状況 (p. 190) と共に表示します。状態を確認している間、インジケータランプは早い間隔で 2 回ずつ点滅し、ヒーターが作動するとランプは点灯したままになります。

ヒーター作動中は、トリップコンピューターにも状態が表示されます。

携帯電話でダイレクトスタートを起動*

Volvo On Call* モバイルアプリを利用すると、選択した設定の起動や情報の管理を携帯電話で行うことができます。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - タイマー (p. 167)
- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - 即時停止 (p. 167)
- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - メッセージ (p. 168)



エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - 即時停止

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーターはインフォメーション・ディスプレイから直接オフにすることができます。

1. **OK** を押し、メニューにアクセスします。
2. コントロールダイヤルを使用して **ヒーター** までスクロールし、**OK** で選択します。
3. ヒーターをオフにするには、次のメニューで **停止** までスクロールして、**OK** を選択します。
4. **RESET** を押すとメニューを終了します。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - ダイレクトスタート (p. 166)
- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - タイマー (p. 167)
- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - メッセージ (p. 168)

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - タイマー

エンジンおよび車内ヒーター (p. 165) のタイマーは車両の時計に接続しています。

タイマーには2つの異なる時刻を設定できます。タイマーに表示する時刻とは、エンジンが暖機され始動できる状態になる時刻を意味します。車両の電子システムが、外気温に基づいてヒーターを作動させる時間を決定します。

注意

車両の時計をリセットすると、プログラムされたタイマーの時刻はすべて消去されます。

調節

1. **OK** を押し、メニューにアクセスします。
2. コントロールダイヤル (p. 134) を使用して、**ヒーター** までスクロールし、**OK** で選択します。
3. コントロールダイヤルを使用して2つあるタイマーのいずれかを選択し、**OK** で確定します。
4. **OK** を軽く押すと、点灯している時刻表示に移動します。
5. 希望する時刻が表示するまで、コントロールダイヤルを回します。

6. **OK** を軽く押すと、点灯している分表示に移動します。
7. 希望する分が表示するまで、コントロールダイヤルを回します。
8. **OK**³ を押して、設定を確定します。
9. **RESET** を使ってメニュー構成の前の画面に戻ります。
10. 別の時間を選択する (ステップ2の続き) か、**RESET** を押してメニューを終了します。

始動

1. **OK** を押し、メニューにアクセスします。
2. コントロールダイヤルを使用して **ヒーター** までスクロールし、**OK** で選択します。
3. コントロールダイヤルを使用して2つあるタイマーのいずれかを選択し、**OK** で起動します。
4. **RESET** を押すとメニューを終了します。

機能オフ

タイマーで起動したヒーターを、設定時間の途中で停止させることができます。次の手順に従ってください：

1. **OK** を押し、メニューにアクセスします。

³ もう一度 **OK** を押すと、タイマーが起動します。



05 エアコンディショナー



2. コントロールダイヤルを使用して **ヒーター** までスクロールし、**OK** で選択します。
 - ＞ タイマーが、設定はされているが起動していない場合は、時計のアイコンが設定されている時間の隣に表示されます。
 3. コントロールダイヤルを使用して2つあるタイマーのいずれかを選択し、**OK** で確定します。
 4. 次の手順でタイマーを解除してください：
 - **OK** をしばらく押したままにします、もしくは
 - **OK** を軽く押して、メニューを続行します。その後タイマーの停止を選択し、**OK** で確定します。
 5. **RESET** を押すとメニューを終了します。
- タイマーで起動させたヒーターを (p. 166) 機能をオフにすることができます。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - メッセージ (p. 168)

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - メッセージ

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター (p. 165) に関するシンボルおよびメッセージは、コンパインド・メーター・パネルがアナログ式 (p. 90) か液晶デジタル式 (p. 91) かによって異なります。



ヒーターが起動すると、インフォメーション・ディスプレイ内のヒーターのシンボルが点灯します。

いずれかのタイマーが起動すると、インフォメーション・ディスプレイ内の起動したタイマーのシンボルが点灯し、同時にセットされている時間がシンボルの横に表示されます。



アナログ式コンパインド・メーター・パネルで起動済みのタイマーを示すシンボル。



デジタル式コンパインド・メーター・パネルで起動済みのタイマーを示すシンボル。

以下の表に、表示する表示・警告灯とディスプレイテキストがまとめられています。

シンボル	メッセージ	意味
		ヒーターが起動し、作動しています。 ヒーターのタイマーは、イグニッションスイッチからリモートコントロールキーが取り出され、車両から離れた後で作動します。設定された時間にエンジンと車内用のヒーターがオンになります。
	燃料式ヒーター停止 バッテリー節電モード*	エンジンを始動しやすくするため、車両の電子機器によりヒーターが停止されました。



シンボル	メッセージ	意味
	燃料式ヒーター停止 燃料レベル低下	燃料レベルが低い ため、ヒーターを設定 することができません。 これは、エンジンの始 動と、約 50 km の走行 を可能にするためで す。
	燃料式ヒーターサービスが必要です	ヒーターが作動して いません。サービス 工場に修理を依頼し てください。ボルボ 指定のサービス工場 にご連絡ください。

メッセージはしばらくすると自動的に消えます。または、方向指示器レバー(p. 134)の OK ボタンを押すと消えます。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - ダイレクトスタート (p. 166)
- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - タイマー (p. 167)

アディショナルヒーター*

寒冷地⁴ で販売されるディーゼルエンジン搭載車両は、エンジンを作動温度に到達させ、車内を十分に暖房するためにアディショナルヒーターが必要な場合があります。

そのような場合、車両には次のいずれかが装備されています。

- 電気アディショナルヒーター(p. 170)、または
- フューエルドリブンアディショナルヒーター(p. 169)⁵

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* (p. 165)

フューエルドリブンアディショナルヒーター*

車両には、電気式(p. 170)またはフューエルドリブンアディショナルヒーター(p. 169)が装備されています。

アディショナルヒーターは、エンジン回転中に追加の暖房が必要になると自動的に作動します。

車内の温度が設定温度に達したとき、またはエンジンを停止したときに、自動的に停止します。

注意

補助ヒーターが作動すると、車両の下から煙が出る場合がありますが、これは異常ではありません。

オートモード/シャットダウン

必要に応じて、アディショナルヒーターの自動始動手順をオフにすることができます。

注意

ボルボでは、短距離の運転のときには、フューエルドリブンアディショナルヒーターをオフにしておくことをお勧めします。

⁴ 関連地域に関しては、ボルボ指定ディーラーにお問い合わせください。

⁵ パーキングヒーター(p. 165)が装備されている車両。



05 エアコンディショナー



1. エンジンを開始する前に：キー位置 **I** (p. 106) を選択してください。
2. **OK** を押し、メニューにアクセスします。
3. コントロールダイヤルを使用して **補助ヒーター**⁶ または **設定**⁷ までスクロールし、**OK** で選択します。
4. コントロールダイヤルを使用してオプション **ON** または **OFF** のいずれかを選択し、**OK** で確定します。
5. **RESET** を押すとメニューを終了します。



注意

メニューオプションは、キー位置 **I** のときにしか、表示されません。そのため、調整が必要であれば、エンジンを始動する前に実行してください。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* (p. 165)

電気アディショナルヒーター*

車両には、フューエルドリブン (p. 169) または電気アディショナルヒーター (p. 169) が装備されています。

ヒーターは手動で制御できませんが、その代わりに、外気温 9 °C 未満でエンジンが始動されると自動的に起動し、車内の温度が設定された温度に達すると自動的にオフになります。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* (p. 165)

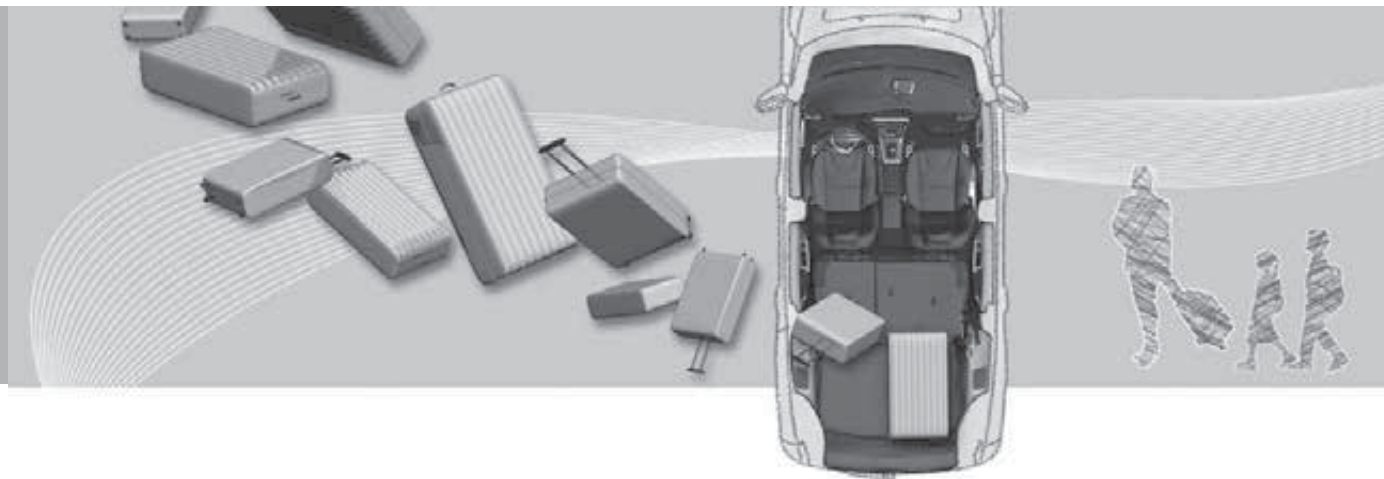
⁶ アナログ式コンパインド・メーター・パネル。

⁷ 液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル。

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。

06

荷物の積み込みおよび収納

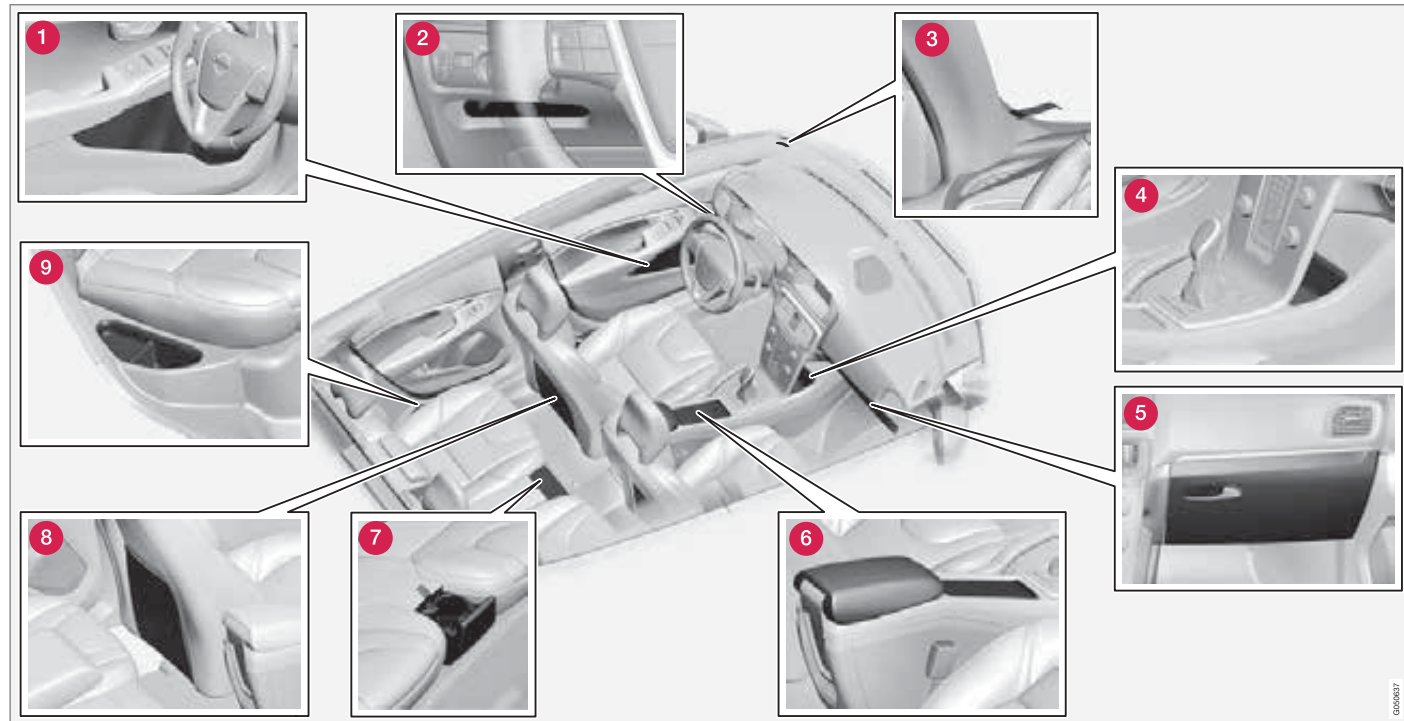




06 荷物の積み込みおよび収納

収納スペース

車内の収納スペースの概要。



036627



- ① ドアパネルの収納ボックス¹
- ② 収納ボックス、運転席側 (p. 174)
- ③ チケットクリップ
- ④ 小物入れ
- ⑤ グローブボックス (p. 175)
- ⑥ 小物入れ、カップホルダー (p. 174)
- ⑦ リアシートのカップホルダー*
- ⑧ 収納ポケット²
- ⑨ 収納ボックス、リアシート

警告

携帯電話やカメラ、アクセサリ用リモートコントロールなど固定されていない物体は、グローブボックスや収納ポケットに収納しておいてください。急ブレーキをかけたときや衝突事故の際に、乗員がケガをするおそれがあります。

¹ 運転席側にアイスクレーパーホルダー装備。

² 布製の内装には該当しません。



06 荷物の積み込みおよび収納

収納ボックス、運転席側

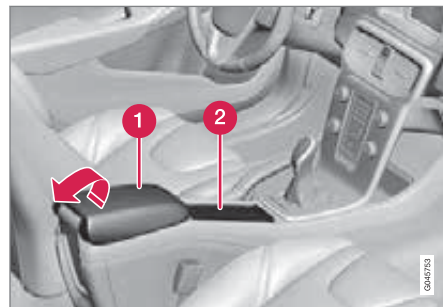
この収納ボックス (p. 172) は運転席側のライディングパネル下、左側にあります。

警告

尖っている物体や突き出している物体を車内に保管しないでください。

トンネルコンソール

トンネルコンソールはフロントシートの間にあります。



- ① 収納ボックス (CD などの収納用) およびアームレスト下の USB*/AUX 端子
- ② 運転席および助手席用カップホルダーを含みます。(灰皿およびシガレットライター (p. 175) を指定した場合は、フロントシート用の 12V 電源ソケット (p. 176) がシガレットライターに、カップホルダーが取り外し可能な灰皿にそれぞれ変更されます。)

関連情報

- 収納スペース (p. 172)
- トンネルコンソール - アームレスト (p. 174)

トンネルコンソール - アームレスト

トンネルコンソールはフロントシートの間にあります。

閉じているときには、トンネルコンソールのアームレストを前後に調節できます*。

関連情報

- トンネルコンソール - 12V 電源ソケット (p. 176)
- トンネルコンソール - シガレットライターおよび灰皿* (p. 175)



トンネルコンソール - シガレットライターおよび灰皿*

取り外し可能な灰皿はアームレスト下のカップホルダーに取り付けられています。シガレットライターは、フロントシート用 12V 電源ソケット (p. 176) の場所に取り付けられています。

トンネルコンソール (p. 174) の灰皿はまっすぐ持ち上げて取り外します。

ライターノブ自体を押し込みます。ライターが加熱されると、自動的に引き戻されます。ライターノブを引き出し、加熱されたヒーターコイルでタバコに火をつけます。

関連情報

- 収納スペース (p. 172)

グローブボックス

グローブボックスは助手席側にあります。

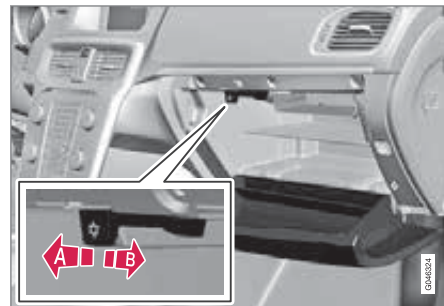
オーナーズマニュアル、地図などを収納することができます。リッドの内側に、ペンなどのホルダーもあります。グローブボックスの ロック* (p. 202) には、キーブレード (p. 192) を使用します。

関連情報

- 収納スペース (p. 172)
- グローブボックス - 冷却 (p. 175)

グローブボックス - 冷却

グローブボックス (p. 175) は冷却エリア³ としても使用できます。



- A** 冷却を始めるには、レバーを車内に向けていっぱいまで動かします。
- B** 冷却を OFF にするにはレバーを前方にいっぱいまで動かします。

エアコンディショナーシステムが作動しているとき (キー位置 **II** (p. 106))、またはエンジンが作動しているときは、冷却が作動しています。

³ ECC 装備の車両にのみ該当。



06 荷物の積み込みおよび収納

フロアマット*

フロアマットはゴミや泥などを収集します。ボルボでは、専用開発したフロアマットをご用意しています。

警告

各シートではフロアマットを1枚だけ使用してください。また、運転席のマットがペダルの横や下に引っかかることがないように、出発前に、マットがピンに確実に固定されていることを確認してください。

関連情報

- 内装の清掃 (p. 423)

メイクアップミラー

メイクアップミラーはサンバイザーの裏側にあります。



ランプ付きメイクアップミラー

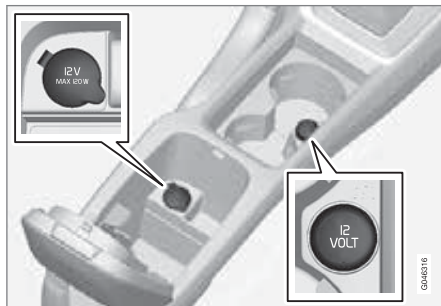
カバーを開けると、ランプが点灯します。

関連情報

- ランプ交換 - メイクアップミラーランプ (p. 400)

トンネルコンソール - 12V 電源ソケット

電源ソケット (12V) はトンネルコンソールの収納ボックス内のカップホルダーの横にあります⁴。



トンネルコンソールの 12V 電源ソケット (フロントシート)

この電源ソケットは画面やミュージックプレーヤー、携帯電話など、12V 電源用に設計されているさまざまなアクセサリに使用することができます。電源ソケットを使用する際は、リモートコントロールキーをキー位置 **I** (p. 106) またはそれ以上に回しておく必要があります。

警告

ソケットを使用していないときは、つねにカバーをしておいてください。

⁴ 灰皿およびシガレットライターを指定した場合は、カップホルダーとその横の 12 V 電源ソケットはありません。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



注意

ディスプレイやミュージックプレーヤー、携帯電話などのオプション装備品やアクセサリが車内の 12V 電源ソケットに接続されたままになっていると、リモートコントロールキーが取り外されている場合や車両がロックされている場合でも、事前に設定された時間にエンジン及車内ヒーターが起動する際に* 起動することがあります。

このため、使用していないオプション装備品やアクセサリは、電源ソケットから外すようにしてください。バッテリーが放電するおそれがあります。

重要

いずれのソケットも最大 10A (120W) まで供給できます。

注意

緊急パンクリペアーキット用 (p. 366) コンプレッサーはボルボによりテストされ、承認されています。ボルボ推奨緊急パンクリペアーキット (TMK) の使用に関しては。

関連情報

- トンネルコンソール - シガレットライターおよび灰皿* (p. 175)
- 12V 電源ソケット - カーゴスペース (p. 180)

荷物の積み込み

最大許容重量は、車両重量により異なります。

最大許容重量は、車両重量により異なります。乗員および車両に装着されているアクセサリの総重量の分だけ、最大許容重量は小さくなります。

重量についての詳細は、重量 (p. 430) を参照してください。



テールゲートはライティングパネル上のボタン、またはリモートコントロールキーにより開くことができます。ロック/ロック解除 - テールゲート (p. 202) を参照してください。

警告

車両の走行性能は、搭載荷物の重量や荷物を積む位置の影響を受けます。

荷物の積み込みに関する注意事項

- 荷物は、リアシートのバックレストにもたれかかるように置いてください。

リアシートのバックレストのいずれかを折り畳む際には、荷物によってフロントシートの WHIPS システムの機能に支障が出ないように十分ご注意ください。WHIPS - 着座姿勢 (p. 67) を参照してください。

- 荷物を中央に置いてください。
- 重い荷物は、できるだけ低い位置に載せてください。倒したバックレストに重い荷物を置くことは避けてください。
- 尖った部分がある荷物は、内張りを傷付けないように柔らかい物で覆ってください。
- 荷物はストラップなどを使用して、荷物固定用アイレットに確実に固定してください。

警告

固定されていない 20 kg の荷物は、時速 50 km/h での前面衝突時には 1,000 kg の衝撃に相当します。

警告

荷物を高く積み上げると、インフレータブルカーテンの保護効果が損なわれるおそれがあります。

- バックレストよりも高い位置に、荷物を積み上げないでください。



06 荷物の積み込みおよび収納



警告

荷物は、必ず確実に固定してください。急ブレーキをかけたときに荷物が投げ出されて、乗員が大ケガをするおそれがあります。

尖った部分がある荷物は、柔らかい物で覆ってください。

長い荷物の積み降ろしは、必ずエンジンを停止してパーキングブレーキをかけてから行ってください。荷物がギヤセクターレバーに当たってギヤが入ると、車両が動き出すおそれがあります。

関連情報

- 荷物固定用アイレット (p. 179)
- カーゴネット (p. 181)
- 荷物の積み込み - 長い荷物 (p. 178)
- ルーフの荷物 (p. 178)

荷物の積み込み - 長い荷物

カーゴスペースに荷物を積み込みやすくするため、リアシートバックレストを倒すことができます。助手席シートバックレストを前方に倒して長い荷物を載せることもできます。

助手席シートを倒す

(p. 108)を参照してください。

リアシートバックレストを倒す

(p. 111)を参照してください。

関連情報

- 荷物の積み込み (p. 177)

ルーフの荷物

ルーフに荷物を積載するためのロードキャリアには、ボルボ開発のものが推奨されます。車両への損傷を防ぎ、走行中の安全を最大限に確保するためです。

ロードキャリアを取り付けるときは、付属の取付説明書に従ってください。

- ロードキャリアは必ずアルミニウム製レールの上に取り付けてください。
- ロードキャリアおよび荷物の固定状態をときどき点検してください。荷物はリテーニングストラップなどを使用して、確実に固定してください。
- ロードキャリア全体に重量が均等に配分されるように、荷物を載せてください。重い荷物は、下になるように載せてください。
- 荷物のサイズが大きすぎると空気抵抗が増えて、燃費が悪くなります。
- 安全運転を心がけてください。急発進、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。

警告

ルーフ上に荷物を積載して走行するときは、車両の重心が変わり走行安定性が悪くなりますのでご注意ください。

ルーフ最大許容荷重(ロードキャリアおよびスペースボックスなどを含む)については、重量 (p. 430)を参照してください。

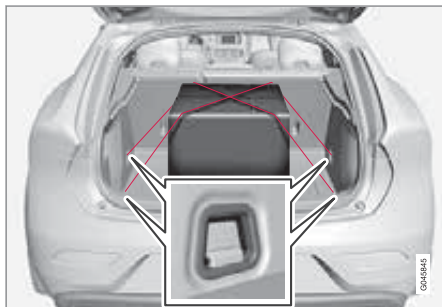
関連情報

- 荷物の積み込み (p. 177)



荷物固定用アイレット

荷物固定アイレットは、カーゴスペース内の荷物固定地点として、ストラップを固定するために使用されます。



警告

硬い物や尖った物、重い物が確実に固定されていない場合には、急ブレーキの際に飛び出してケガの原因となるおそれがあります。

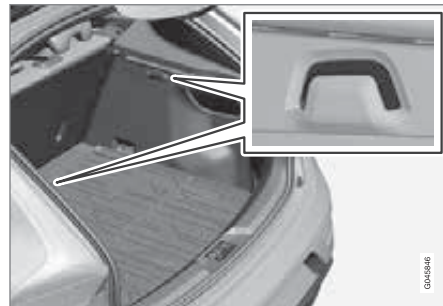
大きい物や重い物は、シートベルトまたはストラップベルトで必ず確実に固定してください。

関連情報

- 荷物の積み込み (p. 177)

荷物の積み込み - バッグホルダー

バッグホルダーは、買い物袋などの固定に使用します。袋が倒れたり、袋の中の物がカーゴスペース内に散乱したりするのを防ぎます。ホルダーの最大耐荷重は 3 kg です。



バッグホルダー

関連情報

- 荷物の積み込み (p. 177)
- 荷物の積み込み - 折りたたみ式バッグホルダー* (p. 179)

荷物の積み込み - 折りたたみ式バッグホルダー*

フロア内の折りたたみ式のバッグホルダーを使用すると、買い物袋などが固定でき、袋が倒れたり、中の物がカーゴスペース内に散乱したりするのを防ぐことができます。ホルダーは 3 箇所開きます。



折りたたみ式バッグホルダー

調整ポジション 2 箇所に設定できるほか、サービスポジションと呼ばれる、完全に展開した位置にも設定できます。またフロアコンベインションタイプも 2 つあります。1 つはフロア下のタブ内に調整ポジションがあるものと、もう 1 つはプラスチックレール内に調整ポジションがあるものです。下図のように立てると、フロア下のタブの調整ポジションが見えます。

最大耐荷重は中央のホルダーが 3 kg、外側のホルダーが 10 kg です。



06 荷物の積み込みおよび収納



跳ね上げ



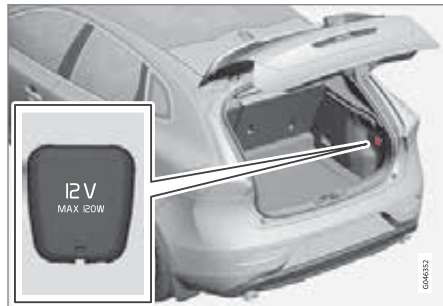
- 1 上部フロアのハンドル*を持ち上げ、フロアをたたむように引き上げます。
- 2 フロアを適切な位置まで前方に動かし、調整用溝に入れます。
3. サービスポジションでは、フロアがリアシートの手前、最前の位置になり、中央のプラスチック製サポートに差し込みます。

関連情報

- 荷物の積み込み (p. 177)
- 荷物の積み込み - バッグホルダー (p. 179)

12V 電源ソケット - カゴスペース

この電源ソケットはディスプレイやミュージックプレーヤー、携帯電話など、12V 電源用に設計されているさまざまなアクセサリに使用することができます。



電源ソケットを使用するときは、カバーを開けます。

- リモートコントロールキーがイグニッションスイッチに挿入されていないときでも、電源ソケットは使用することができます。

重要

最大 10 A (120 W) まで供給できます。

注意

エンジンがオフのときに電源ソケットを使用すると、車両のバッテリーが放電してしまうおそれがありますので、ご注意ください。

注意

緊急パンクリペアーキット用コンプレッサーはボルボによりテストされ、承認されています。ボルボ推奨の緊急パンクリペアーキット (TMK) の使用については、緊急パンクリペアーキット* (p. 366) を参照してください。

関連情報

- トンネルコンソール - 12V 電源ソケット (p. 176)



カーゴネット

カーゴネットは、急ブレーキの際などに荷物が座席に投げ出されることを防ぎます。



カーゴネットは、4つのマウンティングポイントに取り付けます。

安全のため、カーゴネットをつねに正しく取り付け、固定してください。このネットは強靱なナイロン繊維でできており、フロントシートバックレストの背後に固定されます。

警告

ラゲッジコンパートメント内の荷は確実に固定する必要があります。また、正しく装着されたセーフティネットを使用してください。

取り付け

注意

セーフティネットは、リアドアのいずれかから装着すると、容易に装着できます。

警告

セーフティネットの上部固定地点が正しく取り付けられており、ブーラストラップが正しく固定されていることを確認する必要があります。損傷のあるナットは使用しないでください。

1. カーゴネットを広げ、分割された上部ロッドが広げた位置でロックされていることを確認してください。
2. ロッドの片端をルーフマウンティングに引っかけます。このとき、アンカーストラップのロックが手前を向くようにしてください。

3. ロッドのもう一方の端を、反対側のルーフマウンティングに引っかけます。バネの付いた伸縮式固定フックにより、容易に固定できます。ロッドの固定フックを注意深く前方に押し、各ルーフマウンティングのエンドボジション前方に合わせてください。





06 荷物の積み込みおよび収納



- カーゴネットのアンカーストラップをシートのスライドレール後部にあるアイボルトに引っかけます。バックレストを起こし、シートを若干前方に動かすと取り付けやすくなります。

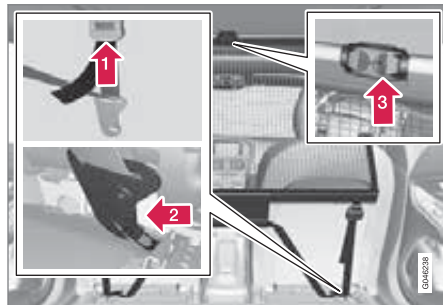
シート/バックレストを元の位置に戻す際、シート/バックレストをネットに強く押し付けられないように注意してください。シート/バックレストがネットに軽く触れる程度に調整してください。

重要

シート/バックレストを後方に移動してセーフティネットに強く当てると、ネットやルーフマウンティングが損傷を受けるおそれがあります。

- アンカーストラップを使用して、カーゴネットを張ります。

取り外しおよび保管



カーゴネットは簡単に取り外して、折りたたむことができます。

- アンカーストラップのロックにあるボタンを押してストラップをずらし、ネットをゆるめます。

- キャッチを押し込んで、アンカーストラップの両方のフックを外します。

- ルーフマウンティングのリアエンドポジションにあるロッドを後ろに引いてルーフマウンティングからロッドを外します。ロッドを任意の方向に押して、ロッド内のフックが嵌合するようにしてください。これで反対側のフックが外れます。

最後にルーフマウンティングから残りのルーフマウンティングフックを取り外します。

- ロッドを中央で折り曲げ、ネットを巻き取ります。

ネットを保管袋に入れます。

折り畳んだカーゴネットはカーゴスペースの専用バッグに入れて保管します。



関連情報

- 荷物の積み込み (p. 177)
- 荷物固定用アイレット (p. 179)

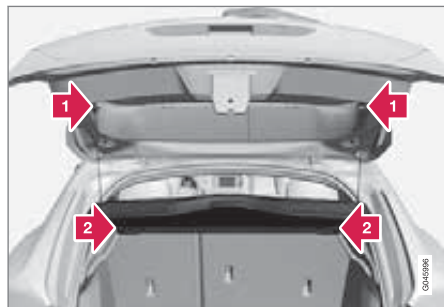
GM40289



ハットシェルフ

ハットシェルフは取り外し、さらなるカーゴスペースを作ることができます。

ハットシェルフの取り外し



- 1▶ 両側でハットシェルフリフティングアイを外します。
- 2▶ ハットシェルフ前端のフックを外し、取り外します。

関連情報

- 荷物の積み込み (p. 177)
- 荷物の積み込み - 長い荷物 (p. 178)

07



ロックおよびアラーム





リモートコントロールキー

リモートコントロールキーは、特に、車両のロック/ロック解除および始動に使用されます。

キーには、基本バージョンのリモートコントロールキー、PCC*なしのリモートコントロールキー、PCC*付きのリモートコントロールキーの3種類があります。

機能	基本 ^A	PCCなし ^A	PCC ^B 付き
ロック/ロック解除 および脱着式キー ブレード	X	X	X
キーレスロック/ ロック解除		X	X
キーレスエンジン 始動		X	X
インフォメーション ボタンおよびイ ンジゲーターラン プ			X

A 5 ボタンキー

B 6 ボタンキー

詳細情報

- 基本リモートコントロールキー - 基本バージョンのキーです。機能については、リモ

ートコントロールキー - 機能 (p. 188)を参照してください。

- PCC なしのリモートコントロールキー - キーレスドライブ* (p. 195) とキーレスロック (p. 196) およびロック解除 (p. 197) 対応。
- PCC 付きリモートコントロールキー - インフォメーションボタンおよびインジゲーターランプも搭載されています。詳しくは、独自機能 (p. 190) をお読みください。

すべてのリモートコントロールキーには、金属製の脱着式キーブレード (p. 192) が付いています。リモートコントロールキーが識別できるように、外から見える部分のデザインには、2種類あります。

リモートコントロールキーは追加注文することができます。ただし、車両に付属しているもの以外のタイプはできません。車両 1 台に対してプログラムおよび使用可能なキーは 6 個までです。

車両には、リモートコントロールキーが 2 個搭載されています。

警告

車内にお子様が残る場合：

運転者が車両から離れる場合は、リモートコントロールキーを必ず抜いて、パワーウィンドの電源をオフにしてください。

リモートコントロールキー - 紛失

リモートコントロールキー (p. 185) を紛失した場合は、サービス工場で新しいキーを注文できます。ボルボ指定のサービス工場のご利用をお勧めします。

残りのリモートコントロールキーをボルボのサービス工場へお持ちになしてください。不正に使用されることを防ぐため、紛失したリモートコントロールキーのコード番号を車両のシステムから消去する必要があります。現在車両に登録されているキーの数は、メニューシステム MY CAR で確認できます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 137) を参照してください。

関連情報

- リモートコントロールキー - 機能 (p. 188)
- リモートコントロールキー - 作動範囲 (p. 190)



07 ロックおよびアラーム

リモートコントロールキー - パーソナライズ*

リモートコントロールキーのキーメモリーを使用すると、車両の一部の設定を運転者ごとに個別に変更することができます。

キーメモリー機能は運転席パワーシート (p. 109) との組み合わせで搭載することができます。

ドアミラー (p. 130)、運転席シート、操舵力 (p. 289)、コンパインド・メーター・パネルのテーマ、コントラストおよびカラーモード (p. 91) の設定はキーメモリーに保存することができます (車両の装備レベルに応じて異なります)。

この機能¹は、メニューシステム MY CAR で起動/解除できます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 137) を参照してください。

この機能が作動している場合、設定は自動的にキーメモリーに関連付けられます。したがって、設定が変更されると、特定のリモートコントロールキーのメモリーに変更が自動的に保存されます。

設定の保存

メニューシステム MY CAR でキーメモリー機能が作動していることを確認してください。

設定を保存し、リモートコントロールキーのキーメモリーを使用するには、次の手順に従ってください。

1. メモリーに設定²を保存するリモートコントロールキーを使用して、車両をロック解除します。
2. シートおよびドアミラーなどを好みの位置に調節します。
3. 使用中のリモートコントロールキーのメモリーに設定が保存されます。

次回、同じリモートコントロールキーで車両をロック解除すると、キーメモリーに保存されている位置に自動的に調節されます (そのリモートコントロールキーの前回使用時に降に位置が変更されていた場合)。

非常停止

シートが不意に動き出した場合は、シート用設定ボタンまたはメモリーボタンいずれか1つを押すと停止します。

停止後、リモートコントロールキーのロック解除ボタンを押すと、シートはキーメモリーに記憶されている位置まで再び移動します。運転席ドアを、必ず開けておかなければなりません。

警告

挟まれるおそれがあります。お子様にシートの操作をさせないでください。シートの調節は、シートの前後や下になにも物がない状態で行ってください。リアシートの乗員が挟まれないように注意してください。

設定の変更

複数の人が各自リモートコントロールキーを持って車両に近づくと、最初に運転席ドアを開けた人の設定に合わせて、シートやドアミラーなどの位置が調節されます。

A さんがリモートコントロールキー A で運転席ドアを開けた後、B さんがリモートコントロールキー B で運転する場合、次の方法で設定を変更することができます。

- 運転席ドア側に立つか、運転席に座った状態で、B さんが自分のリモートコントロールキーのロック解除ボタンを押します。
- シート設定ボタン1〜3の、3つのメモリーの1つを選択します。
- シートおよびドアミラーを手動で調節します。

関連情報

- リモートコントロールキー - 機能 (p. 188)
- PCC 付きリモートコントロールキー* - 独自機能 (p. 190)

¹ MY CAR のカーキーメモリー。

² この設定により、パワーシートのメモリー機能に保存されている設定に影響が出ることはありません。

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



ロック/ロック解除 - インジケーター

リモートコントロールキー(p. 185)を使用して車両をロック/ロック解除すると、方向指示器が点滅して正常に作動したことを知らせます。

- ロック作動 - 1 回点滅し、ドアミラーが格納³ されます。
- ロック解除 - 2 回点滅し、ドアミラーが展開³ します。

注意

リモートコントロールキーを車内に残したままロックしないよう、ご注意ください。

ロック時には、すべてのドアが閉じすべてのロックが作動したときにのみ、その旨が確認できます。確認表示は最後まで開いていたドアが閉じたときに実施されます。

機能の選択

ロック作動/解除をライトで表示する方法に関しては、メニューシステム MY CAR で別の方法に変更することができます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 137)を参照してください。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 195)
- ロックインジケーター (p. 187)
- アラーム表示灯 (p. 208)

ロックインジケーター

ウインドスクリーン近くの LED が点滅している場合には、車両はロックされています。



アラームインジケーター(p. 208)と同じ LED

注意

このインジケーターはアラームが装備されていない車両にも装備されています。

関連情報

- ロック/ロック解除 - インジケーター (p. 187)

リモートコントロールキー - 電子式イモビライザー

電子式イモビライザーは、侵入者が車両を始動(p. 297)するのを防ぐ盗難防止システムです。

各リモートコントロールキー(p. 185)には、固有のコードが使用されています。正しいコードのリモートコントロールキーを使用しなければ、エンジンを始動することができません。

コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに表示するメッセージのうち、以下のメッセージは電子式イモビライザーに関連しています。

³ 格納式パワードアミラー装備の車両のみ。



07 ロックおよびアラーム

11

メッセージ	意味
キーを挿入して下さい	リモートコントロールキーの読み取りエラー。キーをイグニッションスイッチから取り出し、もう一度挿入し直して、再度エンジンの始動を試みてください。
キーが見つけられません ^A	始動時のリモートコントロールキーの読み取りエラー。再度エンジンの始動を試みてください。 エラーが解消しない場合には：リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込み、再度、エンジンの始動を試みてください。
イモビライザー 再始動して下さい	始動中のイモビライザーのエラー。エラーが解消しない場合には：ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

^A キーレスドライブ機能が装備された車両にのみ該当。

関連情報

- 追跡システム搭載の遠隔操作式イモビライザー* (p. 188)
- キーレスドライブ* (p. 195)

追跡システム搭載の遠隔操作式イモビライザー*

追跡システム搭載の遠隔操作式イモビライザー⁴が装備されている場合、車両を追跡して位置を特定することができ、イモビライザーを遠隔操作してエンジンを停止することができます。

このシステムの起動に関するお問い合わせやご相談は、最寄りのボルボディーラーにご連絡ください。

関連情報

- リモートコントロールキー (p. 185)
- リモートコントロールキー - 電子式イモビライザー (p. 187)

リモートコントロールキー - 機能

リモートコントロールキーには、ドアのロック/ロック解除機能などがあります。

機能



基本バージョンのリモートコントロールキー

- ロック作動
- ドアロック解除
- アプローチライト点灯
- テールゲート
- パニックアラーム機能

⁴ 特定市場のみ。使用には Volvo On Call*が必要。

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



PCC* (Personal Car Communicator) 付きリモートコントロールキー

- i** インフォメーションボタン - 機能については、PCC 付きリモートコントロールキー* - 独自機能 (p. 190) を参照してください。

ボタン機能

- 🔒 ロック** - ドアおよびテールゲートをロックして、アラームをセットします。ロック/ロック解除 - 車外から (p. 199) を参照してください。

ボタンを押したままにすると、すべてのウインドが同時に閉まります。詳しくは、グローバルオープニング (p. 201) を参照してください。

⚠ 警告

リモートコントロールキーを使用してウインドを閉める場合は、乗員の手などを挟まないように注意してください。

- 🔓 ロック解除 (p. 199)** - ドアおよびテールゲートをロック解除して、アラームを解除します。

ボタンを押したままにすると、すべてのウインドが同時に開きます。詳しくは、グローバルオープニング (p. 201) を参照してください。

この機能は、すべてのドアを同時にロック解除する設定から、ボタンを 1 回押すと運転席のドアロックのみが解除され、10 秒以内に再度押すと残りすべてのドアがロック解除される設定に変更することができます。

この機能は、メニューシステム MY CAR で変更できます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 137) を参照してください。

- 💡 アブローチライト点灯 (p. 122)** - 車両から少し離れた場所からライトを点灯させることができます。

- 🚗 テールゲート (p. 202)** - テールゲートのみのロックとアラームを解除します。

- ⚠ パニックアラーム機能** - 緊急時に注意を促すための機能です。

ボタンを 3 秒以上押し続けるか、3 秒以内に続けて 2 回押すと、方向指示器およびホーンが作動します。

アラームが作動してから 5 秒以上経過後、再び同じボタンを押すと停止させることができます。または、約 3 分が経過すると自動的に停止します。

関連情報

- リモートコントロールキー (p. 185)



07 ロックおよびアラーム

リモートコントロールキー - 作動範囲

リモートコントロールキー(基本バージョン)の機能の作動範囲は、車両から約 20 m 以内です。

ボタンが押されたことを車両が認識しない場合には、車両に近寄ってからもう一度試行してください。

注意

周囲の電波、建物、地形などによって、リモートコントロールキーの機能が妨げられる場合があります。車両は、つねにキーブレード(p. 193)でロック/ロック解除できます。

エンジン作動中や、キーが **I** または **II** (p. 105)にあるときにリモートコントロールキーが車両から持ち出された場合、すべてのドアが閉じられると、コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに警告メッセージが表示され、同時に警告音が鳴ります。

リモートコントロールキーを再び車内に戻して以下のいずれかを行うと、警告メッセージの表示が消えて、警告音も停止します。

- リモートコントロールキーがイグニッションスイッチに挿入される。
- 車速が 30 km/h を超える。
- **OK** ボタンを押す。

関連情報

- リモートコントロールキー (p. 185)
- リモートコントロールキー - 機能 (p. 188)

PCC 付きリモートコントロールキー* - 独自機能

PCC* 付きリモートコントロールキーはインフォメーションボタンおよびインジケータランプを搭載し、基本バージョンのリモートコントロールキー(p. 185)よりも機能が強化されています。



PCC 付きリモートコントロールキー

- 1** インフォメーションボタン
- 2** インジケータランプ

インフォメーションボタンを使用すると、インジケータランプを介して車両から情報を得ることができます。



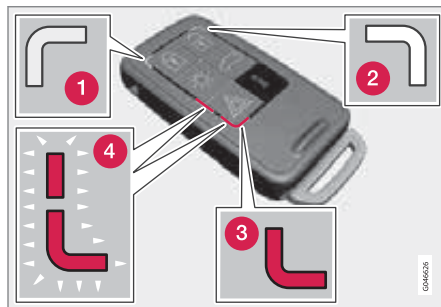
インフォメーションボタンの使用方法

- ー インフォメーションボタン  を押します。
- ＞ すべてのインジケータランプが約7秒間点滅し、PCC周囲のランプが回ります。この間、車両から情報が読み取られます。この間に別のボタンを押すと、読み取りは中断されます。

注意

インフォメーションボタン  をいろいろな場所で繰り返し押しても(7秒経過後、およびPCC周囲のランプが回った後でも)、インジケータランプが1つも点灯しない場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

インジケータランプは、次の図のような情報を表示します。



- ① 緑のランプが点灯 - 車両はロックされています。
- ② 黄色のランプが点灯 - 車両はロック解除されています。
- ③ 赤いランプが点灯 - 車両がロックされた後、アラームが作動しています。
- ④ 両方のインジケータランプの赤いランプが交互に点滅 - 過去5分以内に、アラームが作動しました。

関連情報

- PCC 付きリモートコントロールキー* - 作動範囲 (p. 191)

PCC 付きリモートコントロールキー* - 作動範囲

PCC(Personal Car Communicator)付きリモートコントロールキーの作動範囲は、ドアおよびテールゲートをロック解除するときに車両から約20 m以内で、その他の機能は約100 m以内です。ボタンが押されたことを車両が認識しない場合には、車両に近寄ってからもう一度試行してください。

注意

周囲の電波、建物、地形などによって、インフォメーションボタンの機能が妨げられる場合があります。

作動範囲外

車両からの距離が遠過ぎるためにリモートコントロールキーが情報を読み取れない場合は、車両の状態に関する情報は更新されず、リモートコントロールキーの周囲のランプは回りません。

同じ車両に複数のリモートコントロールキーが使用された場合、直前にロック/ロック解除した際に使用されたリモートコントロールキーにのみ正しい状態が表示されます。



注意

インフォメーションボタン  をいろいろな場所で繰り返し押ししても(7秒経過後、およびPCC周囲のランプが回った後でも)、インジケータランプが1つも点灯しない場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

関連情報

- キーレスドライブ* - 作動範囲 (p. 195)
- リモートコントロールキー - 作動範囲 (p. 190)

脱着式キーブレード

リモートコントロールキーには金属製の脱着式キーブレードが付いており、一部機能の起動や実行に使用できます。

キーブレードは特別なコード番号を使用していますので、新しいキーを注文される場合は、ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。

キーブレードの機能

脱着式キーブレードを使用して：

- リモートコントロールキーでセントラルロックを作動できない場合、左側フロントドアを手動で開ける (p. 193) ことができます。
- リアドアの手動チャイルドロックを作動/解除 (p. 206) できます。
- 電源障害が発生した場合などには、右側フロントドアおよびリアドアを手動でロックすることができます。
- グローブボックスロック*が開きます。
- 助手席側エアバッグ(PACOS*)を作動可能状態/非作動状態にすることができます。

関連情報

- 手動ドアロック (p. 200)
- ロック/ロック解除 - グローブボックス (p. 202)
- 助手席エアバッグ - 作動/解除* (p. 62)

脱着式キーブレード - 取り外し/取り付け

脱着式キーブレード (p. 192) の取り外し/取り付けは次の手順で行います。

キーブレードを取り外す



- 1 スプリングキャッチを横にスライドさせます。
- 2 同時にキーブレードを、まっすぐ引きだします。

キーブレードを元に戻す

注意しながらキーブレードをリモートコントロールキー (p. 185) に取り付けます。

- 1 リモートコントロールキーのキーブレード差し込み溝を上に向けて持ち、キーブレードを差し込みます。
- 2 キーブレードを軽く押し込み固定します。所定の位置に固定されると、カチッと音がします。



関連情報

- 脱着式キーブレード - ドアロック解除 (p. 193)
- チャイルドロック - 手動による作動 (p. 206)
- 助手席エアバッグ - 作動/解除* (p. 62)

脱着式キーブレード - ドアロック解除

リモートコントロールキーでセントラルロックを作動できない場合(リモートコントロールキーの電池 (p. 193) が消耗した場合など)は、脱着式キーブレードを使用することができません。

次のようにすると左側フロントドアを開けることができます。

1. 左側フロントドアハンドルのロックシリンダーにキーブレードを差し込み、ロック解除します。詳しくは、キーレスドライブ* - キーブレードによるロック解除 (p. 197) を参照してください。

注意

キーブレードを使用してドアをロック解除し、その後ドアを開けると、アラームが作動します。

2. イグニッションスイッチにリモートコントロールキーを差し込み、アラームを解除します。

キーレスドライブ装備車については、キーレスドライブ* - キーブレードによるロック解除 (p. 197) を参照してください。

関連情報

- 脱着式キーブレード (p. 192)
- リモートコントロールキー (p. 185)

リモートコントロールキー/PCG - 電池の交換

リモートコントロールキーの電池⁶ は交換が必要になることがあります。

以下の場合には、リモートコントロールキーの電池を交換する必要があります。

- インフォメーションシンボルが点灯し、コンパインド・メーター・パネルのディスプレイに **キー電池切れ** **メッセージ**を参照して下さい が表示された場合

および/または

- 車両から 20 m 以内の距離でリモートコントロールキーから繰り返し信号を送っても、ロックが反応しなくなった場合。

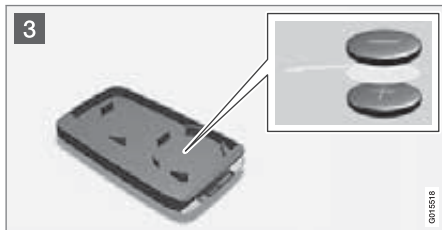


⁶ PCG 付きリモートコントロールキーには、電池が 2 個使用されています。



07 ロックおよびアラーム

◀



開ける

- 1 **1** スプリングキャッチを横にスライドさせます。
- 2 **2** 同時にキーブレードを、まっすぐ引き抜きます。
- 2 **3** スプリングキャッチの後側にある穴に 3 mm のマイナスドライバーを差し込み、十分注意してこじり、リモートコントロールキーのカバーを開けます。

i 注意

カバーを開けたときに電池が落下しないように、リモートコントロールキーのボタン面を上に向けてください。

! 重要

新しいバッテリーやその端子表面を手で触れないでください。機能が低下するおそれがあります。

電池の交換

i 注意

ボルボでは、リモートコントロールキー/PCCのバッテリーには、UN Manual of Test and Criteria, Part III, sub-section 38.3 の適合品を使用することをお薦めしています。工場出荷時のバッテリーまたはボルボ指定のサービス工場で交換されたバッテリーは、上記の基準を満たしています。

- 3 **3** カバー内側の電池の + および - 極が、どの方向に入っているかよく注意してください。

リモートコントロールキー(電池 1 個)

1. 注意して、電池を取り外します。
2. + 側を下に向けて、新しい電池を取り付けます。

PCC*付きリモートコントロールキー(電池 2 個)

1. 注意して、電池を取り外します。
2. + 側を上に向けて、新しい電池を 1 個入れます。
3. 白いプラスチックタブを間に入れ、+ 側を下に向けて 2 個目の新しい電池を取り付けます。

電池タイプ

名称 CR2430 (3 V) の電池を使用してください。

閉める

1. カバーを元の位置に戻します。
2. リモートコントロールキーのキーブレード差し込み溝を上に向けて持ち、キーブレードを差し込みます。
3. キーブレードを軽く押し込み固定します。所定の位置に固定されると、カチッと音がします。

! 重要

使用済みのバッテリーは、環境に優しい方法で処分してください。

関連情報

- リモートコントロールキー (p. 185)
- リモートコントロールキー - 機能 (p. 188)



キーレスドライブ*

キーレスドライブ装備車には、キーを使わずに操作できる始動およびロックシステムが搭載されています。

キーレス始動およびロックシステムが装備されている場合、リモートコントロールキー (p. 185) をイグニッションスイッチ⁷に挿入することなく、車両を始動、ロックおよびロック解除することができます。リモートコントロールキーはポケットの中に携帯しておくだけで機能します。両手に荷物を持っている場合などでも、ドアを開けることができるため便利です。

車両のリモートコントロールキーの両方にキーレスドライブ機能が付いています。予備のリモートコントロールキーを注文することもできます。

車両の電気系統は、リモートコントロールキーを使用して、3種類のレベル - キー位置 **0**、**I** および **II** (p. 106) - のいずれかに設定することができます。

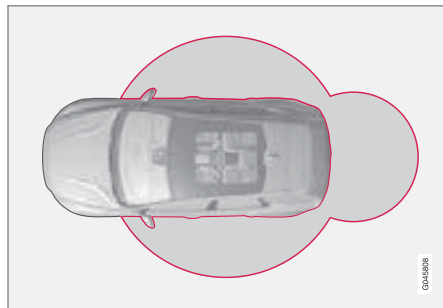
関連情報

- キーレスドライブ* - 作動範囲 (p. 195)
- キーレスドライブ* - リモートコントロールキーの安全な取り扱い (p. 196)
- キーレスドライブ* - リモートコントロールキー機能への干渉 (p. 196)

キーレスドライブ* - 作動範囲⁹

リモートコントロールキーのボタンを押さずにドアやテールゲートを自動的にロック解除するには、リモートコントロールキーがドアハンドルまたはテールゲートから約 1.5 m 以内の範囲になければなりません。

ドアをロック/ロック解除する際はリモートコントロールキーを携帯しておく必要があります。車両の反対側のドアから、リモートコントロールキーでロック/ロック解除することはできません。



前図の赤で囲まれた部分は、システムのアンテナがカバーする範囲を示しています。

エンジン作動中や、キーが **I** または **II** (p. 106) にあるときにリモートコントロールキーが車両からすべて持ち出された場合、いず

れかのドアが開閉されると、コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに警告メッセージが表示され、同時に警告音が鳴ります。

リモートコントロールキーが車内に戻されると警告メッセージが消え、次のいずれかにより警告音も止みます。

- いずれかのドアを開閉する。
- リモートコントロールキーがイグニッションロックに挿入される。
- 方向指示器レバー上の **OK** ボタン。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 195)
- キーレスドライブ* - アンテナ位置 (p. 198)

⁷ 基本リモートコントロールキーには適用されません。

⁹ キーレススタートの車両には該当しません



07 ロックおよびアラーム

キーレスドライブ* - リモートコントロールキーの安全な取り扱い

すべてのリモートコントロールキーの取り扱いには、十分注意してください。

リモートコントロールキー¹⁰の1つが車内に残されている場合、車両に登録されているもう1つのリモートコントロールキーで車両がロックなどされることのないように、キーレスドライブ機能が解除されます。この機能は何者かが不正に車内に入ることを防ぎます。

機能が解除されたキーは、次回もう一方のリモートコントロールキーで車両をロック解除したときに機能を回復します。

重要

PCC 付きリモートコントロールキーは車内に放置しないでください。車内に何者かが侵入してリモートコントロールキーを持ち去った場合、イグニッションスイッチのリモートコントロールキーを押して、**START/STOP ENGINE** ボタンを押すことにより、車両を始動することができます。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 195)

キーレスドライブ* - リモートコントロールキー機能への干渉

電磁場および電磁遮蔽は、リモートコントロールキーのキーレスドライブ機能(p. 195)を妨げるおそれがあります。

注意

キーレスドライブ機能装備のリモートコントロールキーを携帯電話や金属の物体の近く(10~15 cm 以内)に置いたり、保管したりしないでください。

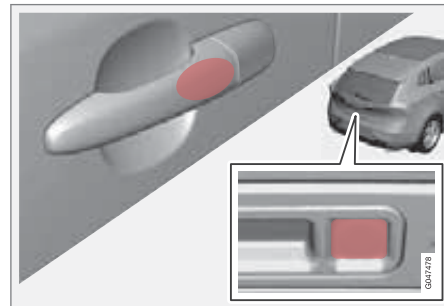
干渉が発生した場合、リモートコントロールキーおよびキーブレードを基本バージョンのリモートコントロールキー(p. 185)のように使用してください。

関連情報

- リモートコントロールキー/PCC - 電池の交換 (p. 193)
- キーレスドライブ* - リモートコントロールキーの安全な取り扱い (p. 196)
- キーレスドライブ* - 作動範囲 (p. 195)

キーレスドライブ* - ロック

キーレスドライブ装備の車両の外側ドアハンドルには感圧性のある領域があり、テールゲートのラバー加工されたプレッシャープレート¹の隣にはラバー加工されたボタンがあります。



ドアハンドルのひとつを握るか、テールゲートの2つラバー加工ボタンの小さい方を押して、ドアおよびテールゲートをロックします。ウィンドスクリーンのロックインジケーター(p. 187)が点滅を開始し、正しくロックが行われたことを示します。

すべてのドアおよびテールゲートが閉まっている状態でロックボタンを押さないと、ドアおよびテールゲートはロックされません。

¹⁰ PCC(パーソナル・カー・コミュニケーター)付きリモートコントロールキーに適用されます。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



注意

オートマチックトランスミッション車の場合は、ギヤセクターレバーを **P** 位置にしないと、車両のロックまたはアラームのセットをすることができません。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 195)
- アラーム表示灯 (p. 208)

キーレスドライブ* - ロック解除¹²

ドアハンドルを手で握るか、テールゲートのラバー加工されたプレッシャープレートを押すと、ロックが解除されます。通常通り、ドアまたはテールゲートを開けてください。

注意

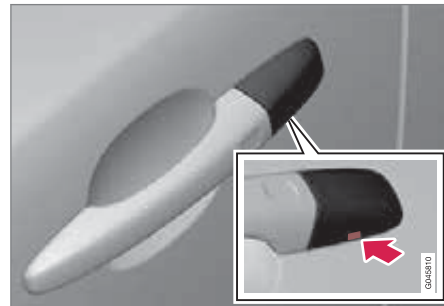
ドアハンドルは通常、ハンドルを握る手を感じますが、厚手の手袋をはめているときや、非常に速い動作で操作を行った場合には、もう一度やり直すか、手袋を外すことが必要となる場合があります。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 195)
- キーレスドライブ* - ロック (p. 196)

キーレスドライブ* - キーブレードによるロック解除

リモートコントロールキーでセントラルロックを解除できない場合(リモートコントロールキーの電池が消耗した場合など)は、リモートコントロールキーの脱着式キーブレード(p. 192)を使用して左側フロントドアをロック解除することができます。



キーブレード用の穴。カバーの固定をゆるめるために使用します。

ロックシリンダーにアクセスするには、ドアハンドルのプラスチックカバーを取り外す必要があります。これはキーブレードを使用して行ってください。

¹² キーレススタート機能付きのリモートコントロールキーには該当しません。



07 ロックおよびアラーム



1. キーブレードをドアハンドルのプラスチックカバー下側の穴に約 1 cm まっすぐ押し入れます。こじらないでください。
 > ブレードが穴の中にまっすぐ押し上げられると、プラスチックカバーが外れます。
2. キーブレードをロックシリンダーに差し込み、ドアのロックを解除します。
3. ロックを解除したら、プラスチックカバーを元通りに取り付けます。

i 注意

キーブレードを使用して左側フロントドアのロックを解除して開けると、アラーム (p. 207) が発動します。アラームは、リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込むと解除されます。アラーム - リモートコントロールキーが使用できない (p. 209)。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 195)
- 脱着式キーブレード - 取り外し/取り付け (p. 192)

キーレスドライブ* - ロック設定

キーレスドライブ装備車のロック設定を変更するには、メニューシステム MY CAR でロック解除するドアを指定します。

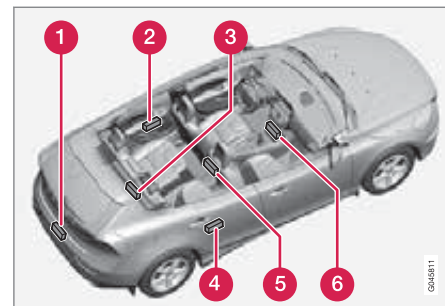
メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 137) を参照してください。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 195)

キーレスドライブ* - アンテナ位置

キーレスドライブ装備車には、車両のさまざまな場所に多くのアンテナが装備されています。



- ① リアバンパー、中央
- ② 左リアドアハンドル
- ③ カーゴスペース中央奥のフロア下部
- ④ 右リアドアハンドル
- ⑤ センターコンソール、後部下側
- ⑥ センターコンソール、前部下側



警告

心臓ペースメーカーをご使用のお客様は、ペースメーカーからキーレスシステムのアンテナまでの距離が 22 cm 以内にならないようにしてください。ペースメーカーとキーレスシステムが、相互に干渉するおそれがあります。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 195)

ロック/ロック解除 - 車外から

車外からのロック/ロック解除はリモートコントロールキー (p. 188) を使用します。リモートコントロールキーで、車外からすべてのドアおよびテールゲート、燃料給油口フ랩をロック/ロック解除することができます。ロック解除の順序を変更することもできます。

ロック作動手順を開始するには、運転席ドアが閉じている必要があります。それ以外のドアやテールゲートが開いている場合には、それらが閉じた時点で、ロックが作動し、アラームがセットされます。キーレスロックシステム* 装備車の場合、すべてのドアとテールゲートが閉じている必要があります。キーレスドライブ* - ロック (p. 196) およびキーレスドライブ* - ロック解除 (p. 197) を参照してください。

注意

リモートコントロールキーを車内に残したままロックしないよう、ご注意ください。

リモートコントロールキーでロック/ロック解除できない場合は、電池が消耗している場合があります。脱着式キーブレード (p. 192) で左側フロントドアをロック/ロック解除してください。

注意

キーブレードで車両のロックを解除した後ドアを開くと、アラームが作動しますのでご注意ください。リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込むとアラームが停止します。

警告

リモートコントロールキーで外側からドアをロックすると、内側からはドアを開けることができなくなります。車内に残った人が閉じ込められるおそれがありますので、ご注意ください。詳しくは、デッドロック* (p. 204) を参照してください。

オートリロック機能

ドアまたはテールゲートは、ロック解除後 2 分以内に開けないと自動的に再ロックされます。これはロックのかけ忘れを防ぐための機能です。アラーム装備車の場合は、アラーム (p. 207) を参照してください。

関連情報

- ロック/ロック解除 - 車内から (p. 200)
- リモートコントロールキー - 機能 (p. 188)



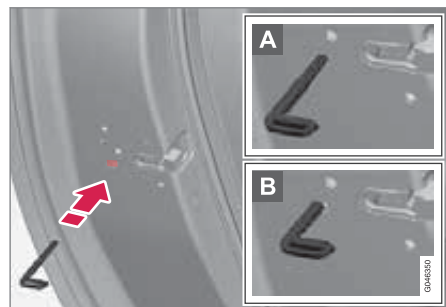
07 ロックおよびアラーム

手動ドアロック

電源障害が発生した場合などには、手動で車両をロックすることが必要となります。

左側フロントドアは、ロックシリンダーと脱着式キーブレード(p. 197)を使ってロックすることができます。

他のドアにはロックシリンダーはありませんが、代わりに各ドアの端にロックスイッチがあります。これはキーブレードを使用して押し込む必要があります。これを押し込むと機械的にロック/ブロックされ、外側からは開けることができなくなります。この場合でもドアは内側から開けることができます。



手動ドアロック。これはチャイルドロック(p. 206)とは異なります。

- 脱着式キーブレード(p. 192)をリモートコントロールキーから取り外します。キーブレードをロックの穴に差し込み、キーを奥まで約 12 mm 押し込みます。

A ドアは、外側からも内側からも開けることができます。

B ドアは外側からは開かなくなります。
A 位置に戻すには、内側ドアハンドルを開くことが必要です。

ドアはリモートコントロールキー(p. 185)のロック解除ボタンか、運転席側ドアのセントラルロックボタンでもロック解除できます。

注意

- ドアのロックリセットは、そのドアのみに作動します。すべてのドアが同時に作動するわけではありません。
- 手動チャイルドロック(p. 206)を作動しているリアドアを手動でロックすると、車外からも車内からも開けることができなくなります。この方法でロックされたドアは、リモートコントロールキーまたはセントラルロックボタンでのみロック解除できます。

関連情報

- リモートコントロールキー/PCC - 電池の交換 (p. 193)

ロック/ロック解除 - 車内から

ロック/ロック解除には、運転席ドアのセントラルロックボタンを使用します。すべてのドアとテールゲート(p. 202)を同時にロック/ロック解除することができます。



セントラルロック

- ボタンの片方  を押すとロックされ、もう片方  を押すとロック解除されます。

ロックボタン内のランプ

運転席ドア用のセントラルロックボタン内のランプが点灯しているときは、全ドアがロックされていることを示します。

セントラルロックボタンが運転席ドアのみにあり、他のドアにはボタンがない場合：

- ランプが点灯している場合には、すべてのドアがロックされています。



セントラルロックボタンが、両側のフロントドアにあり、電動ロックボタンが各リアドアにある場合：

- ランプが点灯している場合には、そのドアがロックされていることを示します。すべてのランプが点灯している場合には、すべてのドアがロックされています。

ドアロック解除

ドアは2通りの方法で、内側からロック解除することができます：

- セントラルロックボタン を押します。長押しすると、すべてのパワーウィンド*も同時に開きます。(グローバルオープニング (p. 201) のセクションも参照してください。)
- ドアハンドルを引いてドアを開けてください。1つの動作で、ドアがロック解除され、開きます。

ロック

- セントラルロックを作動させるには、両側のフロントドアが閉じている必要があります。セントラルロックボタン を押します。ドアはすべてロックされます。リアドアのいずれかが開いている場合には、ドアを閉じるとロックされます。

長押しすると、すべてのパワーウィンドも同時に閉じます。(グローバルオープニング (p. 201) のセクションも参照してください。)

オートロック

ドアおよびテールゲートは、車両が動き出すと自動的にロックすることができます。

この機能は、メニューシステム MY CAR で起動/解除できます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 137) を参照してください。

関連情報

- ロック/ロック解除 - 車外から (p. 199)
- アラーム (p. 207)

グローバルオープニング

グローバルオープニング機能は、すべてのパワーウィンドを同時に開閉し、例えば気温の高いときに、車内に外気を素早く入れるためなどに使用することができます。



セントラルロックボタン

シンボルを長押しすると、すべてのパワーウィンドが同時に開きます。 ボタンで同じ操作を行うと、すべてのウィンドが同時に閉まります。

関連情報

- ロック/ロック解除 - 車内から (p. 200)
- パワーウィンド (p. 128)



07 ロックおよびアラーム

ロック/ロック解除 - グローブボックス

グローブボックス (p. 175) は、リモートコントロールキー (p. 185) の脱着式キーブレードでのみロック/ロック解除できます。

キーブレードについては、脱着式キーブレード - 取り外し/取り付け (p. 192) を参照してください。



グローブボックスのロック：

- 1 キーブレードをグローブボックスのロックシリンダーに差し込みます。
 - 2 キーブレードを時計回りに 90 度回します。ロックされているときは、キーホールが水平位置になります。
 - 3 キーブレードを抜き取ります。
- ロック解除は逆の手順で行います。

関連情報

- リモートコントロールキー - 機能 (p. 188)

ロック/ロック解除 - テールゲート

テールゲートを開く、またはロック/ロック解除するにはいくつかの方法があります。

手動で開く



電気接点付きラバープレート

テールゲートは電動ロックで閉まったままとなります。開ける：

1. アウターハンドルの下に 2 つあるラバー加工されたプレッシャープレートのうち、幅の広い方を軽く押してください。ロックがリリースされます。
2. テールゲートを完全に開くには、外側ハンドルを持ち上げます。



重要

- テールゲートのロックを解除するのにほとんど力はいりません。ラバー加工されたプレッシャーシートを軽く押してください。
- テールゲートを開ける際には、ラバー加工されたプレッシャーシートは持ち上げないでください。ハンドルを使用してください。強い力がかかると、ラバー加工されたプレッシャーシート部分の電気接点が損傷を受ける場合があります。

リモートコントロールキーによるロック解除



リモートコントロールキー(p. 185)の ボタンを使用して、テールゲートのアラームを解除*し、テールゲートのロックを解除することができます。

メーター・パネルのロックインジケーター(p. 187)の点滅が停止し、すべてのドア/テールゲートのロックが解除され、アラーム*のレベルセンサー、ムーブメントセンサー、テールゲートオープンセンサーが解除されていることを示します。

ドアはロックされた状態で、ドアのアラームは作動します。

リモートコントロールキーを使うと、テールゲートは2通りの方法で開くことができます。

1 回押す - テールゲートがロック解除されますが、開きません。アウターハンドルの下側のラバー加工されたプレッシャープレートを軽く押し、テールゲートを開けます。2分以内にテールゲートが開かれないと、ロックが再び作動し、アラームも再びセットされます。

2 回押す - テールゲートがロック解除され、ロックが解放されて、テールゲートが数センチ開きます。外側のハンドルを持ち上げて、開けます。しかし、降雨、低温、霜、雪などにより、テールゲートが開かない場合があります。

注意

- 2 回押して、または車内から、トランクリッド/テールゲートをロック解除した場合、トランクリッド/テールゲートが開いているため、オートリロック機能は作動しません。手で閉じることが必要です。
- トランクリッド/テールゲートを閉じて、ロックは解除されたままで、アラームもセットされません。リモートコントロールキーのロックボタン でロックし直し、アラームをセットしてください。

車内からドアを開ける



1 テールゲートのロック解除



07 ロックおよびアラーム



テールゲートを開けるには：

- ライティングパネルのボタン(1)を押します。
 - ＞ ロックが解除され、テールゲートが数センチ開きます。

リモートコントロールキーによるロック

- リモートコントロールキー(p. 188)の  ボタンを押します。
 - ＞ メーター・パネルのロックインジケータが点滅を始め、車両がロックされ、アラーム*が起動されたことを示します。

関連情報

- ロック/ロック解除 - 車内から (p. 200)
- ロック/ロック解除 - 車外から (p. 199)

ロック/ロック解除 - 燃料給油口フラップ

燃料給油口フラップはリモートコントロールキー(p. 185)のロック解除ボタン  でロック解除します。

燃料給油口フラップは、リモートコントロールキーのロックボタン  で車両をロックするまでロック解除されたままになります。走行中に車両をロックした場合や車内のボタンでロックした場合、燃料給油口フラップはロック解除されたままになります。

燃料給油口フラップのロック作動は、キーレスシステムおよびセントラルロックシステムのロック作動または解除に連動しています。

関連情報

- 燃料給油口フラップ - 開閉 (p. 328)
- 燃料給油口フラップ - 手動 (p. 328)

デッドロック*

デッドロック¹³ を使用するとすべてのドアハンドルが機械的に解除されるため、内側からドアを開けることができなくなります。

デッドロック機能は、リモートコントロールキー(p. 185)で起動します。ドアがロックされてから約 10 秒後に作動します。

注意

遅延時間内にドアが開けられた場合には、手順が中断され、アラームは解除されます。

デッドロック機能が作動している場合、車両をロック解除するには、必ずリモートコントロールキーを使用する必要があります。脱着式キーブレード(p. 192)を使用して、左フロントドアをロック解除することもできます。

警告

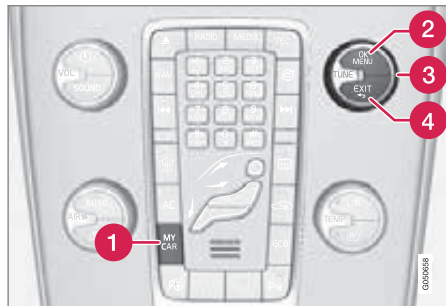
車内に人が閉じ込められる危険を防止するため、デッドロック機能を解除しない限り、車内に人を残して車両から離れないでください。

¹³ アラームと併用のみ。

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



一時的に解除する



選択されているメニューオプションに、+ シンボルが表示されます。

- 1 MY CAR
- 2 OK MENU
- 3 TUNE ノブコントロールスイッチ
- 4 EXIT

車内に人を残したまま車外からドアをロックする場合、一時的にデッドロック機能を解除することができます。この操作はメニューシステム MY CAR で行います。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 137)を参照してください。

MY CAR では、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

- **1 回有効** - コンパインド・メーター・パネルは、今回のみ車両がロックされたときに **ロックおよびアラーム ガード** 機能低下 およびデッ

ドロックがオフになることを示します。(アラームのムーブメントセンサーおよびチルトセンサー*も同時にオフになるため注意してください。)

次のエンジン始動時に、システムがゼロにリセットされてコンパインド・メーター・パネルに **ロックおよびアラーム フラグード** のメッセージが表示され、デッドロック機能、およびアラームのムーブメントセンサーおよびチルトセンサーが、再び作動状態になります。

- **終了確認**：エンジンを停止するたびに、毎回、運転者は質問 **エンジンを再び始動するまでに Reduced Guard を有効にしますか？** に答える必要があります。

デッドロック機能を解除する場合

- **OK/MENU** を押して車両をロックします。(アラームシステムのムーブメントセンサーとチルトセンサー*も同時にオフになるため注意してください。)
- > 次回エンジンを始動すると、システムがリセットされてコンパインド・メーター・パネルに **ロックおよびアラーム フラグード** のメッセージが表示され、デッドロック機能、およびアラームのムーブメントセンサーおよびチルトセンサーが、再び作動状態になります。

ロックシステムを変更しない場合

- **EXIT** を押して車両をロックします。

注意

- 車両がロックされているときは、アラームが有効になっていますのでご注意ください。
- いずれかのドアを車内から開けた場合、アラームが作動します。

関連情報

- キーレスドライブ* - キーブレードによるロック解除 (p. 197)



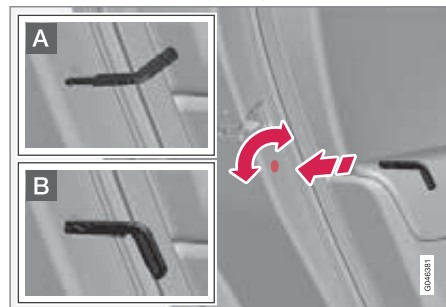
07 ロックおよびアラーム

チャイルドロック - 手動による作動

チャイルドロックは、お子様が内側からリアドアを開けるのを防止します。

チャイルドロック用コントロールは左右リアドアの後端にあり、ドアが開いているときにのみ操作できます。

チャイルドロックの作動/解除



チャイルドロックがかかった状態。これは手動ドアロック (p. 200) とは異なります。

- 脱着式キーブレード (p. 192) でノブを回してください。

A ドアは内側から開かなくなります。

B ドアは、外側からも内側からも開けることができます。

注意

- ドアのノブコントロールは、そのドアのみに作動します。両方のリアドアに同時に作動するわけではありません。
- パワー・チャイルドロック装着車には、手動チャイルドロックは装着されていません。

関連情報

- チャイルドロック - 電動ロック* (p. 206)
- ロック/ロック解除 - 車内から (p. 200)

チャイルドロック - 電動ロック*

チャイルドロックは、お子様が内側からリアドアを開けるのを防止します。

作動

パワー・チャイルドロックは、キー位置 (p. 105) を **0** 以上にすると作動/解除できます。エンジンを停止してからドアを開いていない場合は、2 分が経過するまで作動/解除できます。



運転席ドアのコントロールパネル

- エンジンを始動するか、キーを **0** 以外の位置に回してください。
- 運転席ドアのコントロールパネルのボタンを押します。
 > インフォメーション・ディスプレイに **リチャイルドロック 作動** のメッセージが表示され、ボタンのライトが点灯すると、ロックが作動しています。

パワー・チャイルドロックが作動しているとき:



- リアパワーウインドは、運転席ドアのコントロールパネルスイッチでのみ開けることができます。
- リアドアは内側から開けられません。

エンジンを切ると、その時点での設定が保存されます。すなわち、エンジン停止時にチャイルドロックが作動していれば、次回エンジンを始動したときにも作動したままとなります。

関連情報

- チャイルドロック - 手動による作動 (p. 206)
- ロック/ロック解除 - 車内から (p. 200)

アラーム

アラームは、何者かが車内へ侵入した際などに鳴る警報装置です。

作動可能状態のアラームは、次のようなときに作動します：

- ドア、ボンネット、またはテールゲートが開けられたとき
 - 車内の動きを感知したとき(ムーブメントセンサー*装着車の場合)
 - 車両が持ち上げられたり、けん引されたとき(チルトセンサー*装着車の場合)
 - バッテリーケーブルの接続が外されたとき
 - サイレンの接続を切断しようとしたとき
- アラームシステムに不具合があると、コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイにメッセージが表示されます。ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

注意

車内でなんらかの動きが検知されると、ムーブメントセンサーによりアラームが作動します。気流も動きとして感知されます。このため、ウインドが開いたままになっている場合や車内ヒーターが作動している場合には、アラームが作動するおそれがあります。

こうした状況を避けるには：車から離れる場合には、ウインドを閉じてください。車に一体化されている車内ヒーター(またはポータブル電気ヒーター)を使用する場合には、空気吹出口からの気流が車内上方に向かうことがないように気流を調整してください。または、低アラームレベルを使用する方法もあります。アラームの機能解除 (p. 210)。

注意

アラームシステムの部品は、絶対にご自身で修理や改造をしないでください。保険が適用されなくなる場合があります。

アラームのセット

- リモートコントロールキーのロックボタンを押します。

アラームを非作動状態にする

- リモートコントロールキーのロック解除ボタンを押します。



作動したアラームの停止

- リモートコントロールキーのロック解除ボタンを押すか、リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込みます。

関連情報

- アラーム - 自動再セット (p. 208)
- アラーム - リモートコントロールキーが使用できない (p. 209)

アラーム表示灯

アラームインジケータはアラームシステム (p. 207) の状態を示します。



ロックインジケータ (p. 187) と同じ LED。

ダッシュボードにある赤い LED が、アラームシステムの状態を表示します：

- LED 消灯 - アラームが解除されています。
- LED が 2 秒に 1 回点滅 - アラームがセットされています。
- アラームを解除後 (および、イグニッションスイッチにリモートコントロールキーを差し込み、I 位置にするまでの間)、LED が速く点滅 - アラームが作動しました。

アラーム - 自動再セット

アラームの自動再セットは、アラーム (p. 207) をセットし忘れた状態で、車両が放置されるのを防ぐ機能です。

リモートコントロールキー (p. 185) で車両をロック解除 (およびアラーム解除) してから 2 分以内にドアまたはテールゲートを開けなかった場合、アラームは自動的に再びセットされます。同時に車両もロックされます。

関連情報

- アラーム - 自動セット (p. 209)



アラーム - 自動セット

国によっては、運転席ドアがいったん開いてから閉まった後に車両がロックされなかった場合には、一定時間が経過した後にアラーム (p. 207) がセットされます。

関連情報

- アラームシグナル (p. 209)

アラーム - リモートコントロールキーが使用できない

アラーム (p. 207) をリモートコントロールキーで解除できない場合 (リモートコントロールキーの電池 (p. 193) が消耗した場合など) は、次の手順で車両のロックとアラームを解除して、エンジンを始動することができます。

1. 脱着式キーブレード (p. 197) を使用して、左側フロントドアを開けます。
 - ＞ アラームが作動すると、方向指示器が点滅し、サイレンが鳴ります。



2. リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込みます。
 - ＞ アラームが解除されます。

アラームシグナル

アラーム (p. 207) が発動すると、サイレンが鳴り、すべての方向指示器が点滅します。

- サイレンは、30 秒間 またはアラームを解除するまで鳴ります。サイレンには独自のバッテリーが接続されており、車両のバッテリーと関係なく機能します。
- すべての方向指示器が 5 分間、またはアラームを解除するまで点滅します。



07 ロックおよびアラーム

アラームの機能解除

ムーブメントセンサーおよびチルトセンサーを一時的に解除して盗難防止を解除します。

車内に犬を残すときや、列車やフェリーで車両を搬送する場合などは、アラームが誤作動しないように、ムーブメントセンサーおよびチルトセンサーを一時的に解除してください。

この手順は、デッドロックの一時解除と同じです。デッドロック* (p. 204)を参照してください。

関連情報

- アラーム (p. 207)
- アラーム表示灯 (p. 208)

型式認定 - リモートコントロールキーシステム

リモートコントロールキーの型式認定が表内に記載されています。

ロックシステム、標準

国/地域	
EU、中国	

キーレスロックシステム(キーレスドライブ)

国/地域	
EU	
韓国	

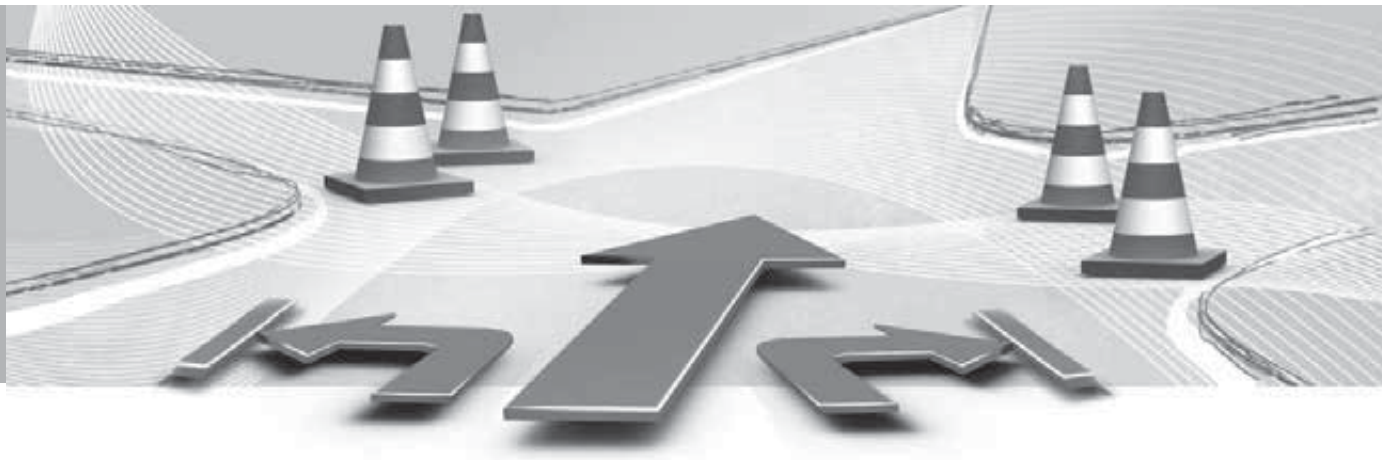
国/地域	
中国	
香港	

関連情報

- リモートコントロールキー (p. 185)

08

運転者サポート





08 運転者サポート

エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 概要

スタビリティ・システム ESC (Electronic Stability Control) は、横滑りの回避を支援し、車両のトラクションを向上させます。



ESC システムの作動中は、ブレーキペダルを踏むと振動音が聞こえます。アクセルペダルを踏み込むと、通常よりゆっくり加速します。

警告

スタビリティ・システム ESC は補助機能であり、あらゆる状況のすべての道路条件に対応できるわけではありません。

安全運転を行い、適用されている交通法規や規則に従う責任は、つねに運転者にあります。

ESC システムは以下の機能で構成されています。

- アクティブ・ヨー・コントロール
- スピンコントロール
- トラクション・コントロール・システム
- エンジン・ドラッグ・コントロール(EDC)
- コーナー・トラクション・コントロール(CTC)
- ドライバー・ステアリング・リコメンデーション(DSR)
- トレーラー・スタビリティ・アシスト*(TSA)

アクティブ・ヨー・コントロール

この機能は、個々の車輪の回転と制動力をコントロールして、車両を安定させます。

スピンコントロール

駆動輪が路面でスリップした場合には、安定性とトラクションを保つために、この機能によりエンジン出力が減少されます。

トラクション・コントロール・システム

この機能は、低速走行時に作動し、アクセルを踏んだときに駆動輪の片側が空転すると、その車輪の駆動力を空転していない側の車輪に伝えます。

エンジン・ドラッグ・コントロール(EDC)

EDC(Engine Drag Control)は、滑りやすい路面を低めのギヤで走行中にエンジンブレーキをかけた場合や、シフトダウンした場合などに、不意なホイールロックを防止します。

走行中の不意なホイールロックは、運転者が車両の制御を失う原因の一つとなります。

コーナー・トラクション・コントロール(CTC)

アーチ形になった高速道路の入り口などで、他の車両の速度に迅速に追いつけるように、CTC(Corner Traction Control) はアンダーステアを補正し、内側のホイールをスピンさせずに通常以上の加速を可能にします。

ドライバー・ステアリング・リコメンデーション(DSR)

DSR (Driver Steering Recommendation) はトラクションが減少した場合や、ABS システムが作動した場合に、運転者が正しい方向へ車両を操舵するのをサポートします。

DSR 機能の主な役割は、車両がスリップしたときに運転者が正しい方向に操舵するのをサポートすることです。

DSR は、利用可能な最大限のトラクションを維持/達成し、車両が安定するように、操舵すべき方向に向かってステアリングホイールにわずかなトルクを与えることで作動します。

トレーラー・スタビリティ・アシスト*(TSA)¹

トレーラー・スタビリティ・アシスト (p. 340) は、トレーラーが蛇行を始めた場合に車両とトレーラーを安定させる機能です。詳しくは、トレーラーなどのけん引 (p. 334)を参照してください。



注意

運転者が **Sport** モードを選択すると、この機能は解除されます。

¹ Trailer Stability Assist はボルボ純正トウバーの取り付けに含まれます。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



関連情報

- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 操作 (p. 213)
- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - シンボルおよびメッセージ (p. 214)

エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 操作

レベルの選択 - Sport モード

ESC はつねに起動しています。解除することはできません。



しかし、運転者が **Sport** モードを選択すると、よりアクティブな運転が可能になります。

Sport モードでは、システムがアクセルペダルやステアリングホイールの動き、さらにコー

ナリングをモニターし、通常よりもアクティブに運転しているとシステムが判断すると、一定範囲内で後輪の意図的なスキッドを許容します。スキッドが一定レベルを超えると、システムが介入し、車両を安定させます。

例えば、運転者がアクセルペダルから足を放して、意図的なスキッドを止めると、ESC システムが介入して、車両を安定させます。

Sport モードでは、車両が動けなくなった場合や、砂や深い雪など滑りやすい表面を走行している際にも、最大のトラクションが得られるようになります。

以下の通りに進んで、**Sport** モードを選択します：

Sport モードはメニューシステム MY CAR で選択されます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 137) を参照してください。



Sport モードは、このシンボルがコンパインド・メーター・パネルに点灯することで表示されます。この表示は、運転者が機能の選択を解除するまで、またはエンジンを停止するまで続きます。次のエンジン始動後には、ESC システムは通常モードに戻ります。

関連情報

- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 概要 (p. 212)
- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - シンボルおよびメッセージ (p. 214)
- MY CAR (p. 137)



08 運転者サポート

エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - シンボルおよびメッセージ

一覧表

シンボル	メッセージ	意味/対処
	ESC 一時 OFF	ブレーキディスクが高温になり過ぎて、ESC システムが一時的に制限されたことを示します。ブレーキ温度が正常に戻ると、機能は自動的に作動状態に戻ります。
	ESC サービスが必要 す	ESC システムが解除されています。 - 安全な場所に停車して、エンジンを一度停止し、その後再始動してください。 - メッセージが残る場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。
 および 	メッセージ	コンパインド・メーター・パネルにメッセージが表示されています。お読みください。
	2 秒間点灯します。	エンジン始動時のシステムチェック
	点滅灯	ESC システムが起動中です。
	点灯状態	Sport モードが起動されました。 注意： このモードの場合、ESC システムは解除されていません。一部制限されているだけです。

**関連情報**

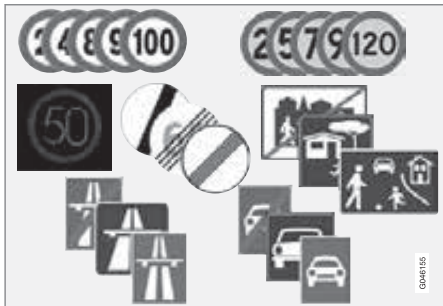
- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 概要 (p. 212)
- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 操作 (p. 213)



08 運転者サポート

ロード・サイン・インフォメーション (RSI)

ロード・サイン・インフォメーション (RSI - Road Sign Information) は、通過した道路標識を運転者に知らせる補助機能です。



読み取り可能な速度関連²の標識の例

ロード・サイン・インフォメーションの機能は、高速道路や幹線道路の起点/終点時の速度や、追い越禁止などの情報を運転者に知らせます。高速道路や公道に関する標識と制限速度の標識の両方を通過した場合は、RSIは制限速度のシンボルを表示します。

警告

RSIはあらゆる状況で作動するわけではなく、補助機能に過ぎません。

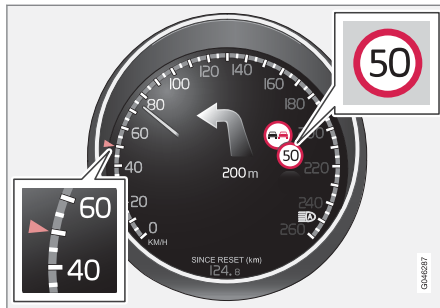
安全運転を行い、適用されている交通法規や規則に従う責任は、つねに運転者にあります。

関連情報

- ロード・サイン・インフォメーション (RSI)*
- 操作 (p. 216)
- ロード・サイン・インフォメーション (RSI)*
- 制限事項 (p. 218)

ロード・サイン・インフォメーション (RSI)* - 操作

ロード・サイン・インフォメーション (RSI - Road Sign Information) は、通過した道路標識を運転者に知らせる補助機能です。この機能の仕組みについては、以下で説明されています。



記録されている速度情報³

RSIが制限速度と共に道路標識を記録している場合、この標識がコンパインド・メーター・パネルにシンボルで表示されます。



現在の制限速度に関するシンボルと共に、該当する場合には、追い越しが禁止されていることを示す標識が表示されることもあります。

² コンパインド・メーター・パネルに表示される道路標識は市場によって異なります。図は例の一部です。

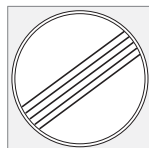
³ コンパインド・メーター・パネルに表示される道路標識は市場によって異なります。図は例の一部です。



制限区間または高速道路の終点

RSI が速度制限の終点や他の速度関連の情報(高速道路の終点など)に関連した標識を感知すると、対応する道路標識がコンパインド・メーター・パネルに 約 10 秒間表示されます。

そのような標識の例は:



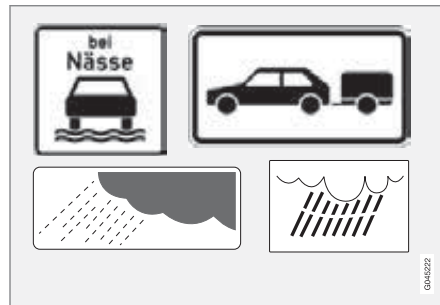
全制限の終点



高速道路の終点

その後、次の速度関連の標識を検知するまでロード・サイン・インフォメーションは非表示になります。

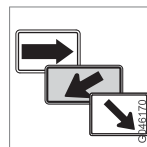
付加的標識



付加的標識の例³

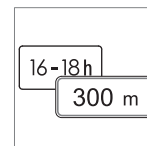
場合によっては、同一道路上であっても、異なる制限速度標識が掲示されている場合があります。このような場合には、付加的標識が表示されることで、複数の制限速度が適用されていることがわかります。また、現在通行中の箇所は、雨や霧発生時には特に事故が発生しやすい場所であることもあります。

雨に関連した付加的標識はウインドスクリーンワイパーが作動しているときにのみ、表示されます。



市場によっては、出口に適用される速度が矢印を含む付加的標識で表示されます。

この種の付加的標識を含む速度標識は、運転者が方向指示器を使用している場合にのみ表示されます。



制限速度の中には、特定の距離の走行後、または特定の時間帯のみ適用されるものがあります。このような状況では、制限速度を示すシンボルの下に付加的標識でドライバーの注意

を促します。

付加情報の表示



コンパインド・メーター・パネルの速度シンボルの下にある空フレームの付加的標識のシンボルは、RSI が現在の制限速度の補足となる付加的標識を検知したことを示しています。

ロード・サイン・インフォメーション - On/Off



³ コンパインド・メーター・パネルに表示される道路標識は市場によって異なります。図は例の一部です。



08 運転者サポート



コンパインド・メーター・パネルの速度シンボルを非表示にすることができます。

RSI 機能を解除するには:

- メニューシステム **MY CAR** (MY CAR (p. 137) 参照) で機能を検索し、**ロード・サイン・インフォメーション** (Road Sign Information On) のチェックマークを外して、**EXIT** で終了します。

速度警告オン/オフ



適用されている制限速度を 5 km/h 以上上回ったときに、警告が発せられるよう選択することができます。警告は、適用されている制限速度を上回ったときに、制限時速を示すシンボルが一時的に点滅することで発せられます。

速度警告を起動するには:

- メニューシステム **MY CAR** (MY CAR (p. 137) 参照) で機能を検索し、**速度アラート** (Speed Alert) にチェックマークを付けて、**EXIT** で終了します。

関連情報

- ロード・サイン・インフォメーション (RSI) (p. 216)
- ロード・サイン・インフォメーション (RSI)* - 制限事項 (p. 218)
- MY CAR (p. 137)

ロード・サイン・インフォメーション (RSI)* - 制限事項

ロード・サイン・インフォメーション (RSI - Road Sign Information) は、通過した道路標識を運転者に知らせる補助機能です。この機能には次のような制限があります。

RSI 機能のカメラセンサーには人間の目と同様に限界があります。詳しくは、カメラセンサー制限事項 (p. 260) を参照してください。

市町村や地域の名前の標識など、全般的な制限速度に関する情報を間接的に示す標識は、RSI 機能では記録されません。

また、次のような標識には機能しないことがあります:

- 色があせた標識
- カーブに設置された標識
- 向きが変えられた標識や損傷のある標識
- 隠れている標識や取り付け位置に問題がある標識
- 霜や雪、泥で完全にまたは部分的に覆われている標識

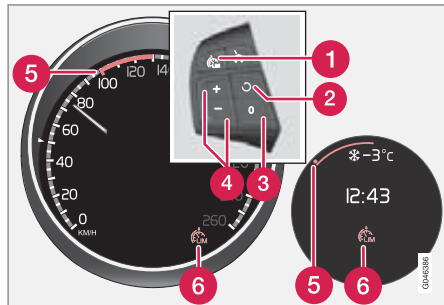
関連情報

- ロード・サイン・インフォメーション (RSI) (p. 216)
- ロード・サイン・インフォメーション (RSI)* - 操作 (p. 216)



速度リミッター*

速度リミッター(Speed Limiter)は、クルーズコントロールが逆になったものとみなすことができます。運転者がアクセルペダルで速度を調節しますが、速度リミッターにより、事前に選択/設定した速度を不用意に上回ることがないようにします。



ステアリングホイールキーパッドおよびコンパインド・メーター・パネル(デジタルおよびアナログ)

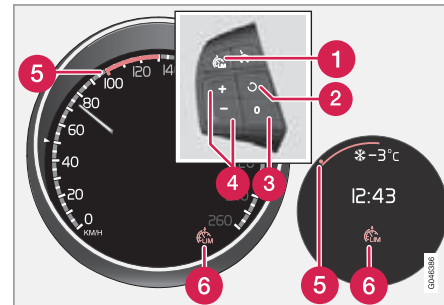
- ① 速度リミッター - ON /OFF
- ② スタンバイモードが終了し、設定された速度に戻ります。
- ③ スタンバイモード
- ④ 作動および上限速度調整
- ⑤ 選択した速度
- ⑥ 速度リミッターがアクティブ

関連情報

- 速度リミッター* - 開始する (p. 219)
- 速度リミッター - 一時的解除およびスタンバイモード* (p. 221)
- 速度リミッター* - 速度超過時のアラーム (p. 222)
- 速度リミッター* - 解除 (p. 222)

速度リミッター* - 開始する

速度リミッター(Speed Limiter)は、クルーズコントロールが逆になったものとみなすことができます。運転者がアクセルペダルで速度を調節しますが、速度リミッターにより、事前に選択/設定した速度を不用意に上回ることがないようにします。



ステアリングホイールキーパッドおよびコンパインド・メーター・パネル(デジタルおよびアナログ)

- ① 速度リミッター - ON /OFF
- ② スタンバイモードが終了し、設定された速度に戻ります。
- ③ スタンバイモード
- ④ 作動および上限速度調整
- ⑤ 選択した速度
- ⑥ 速度リミッターがアクティブ



08 運転者サポート



オンにして起動する

速度リミッターが作動している場合、コンパインド・メーター・パネルにそのシンボル(6)と設定した上限速度の横にマーク(5)が表示されます。

上限速度を選択し、メモリーに保存する作業は、走行中でも、静止している際にも実施できます。

走行中

1. ステアリングホイールの  ボタンを押して、速度リミッターをオンにします。
 - ＞ コンパインド・メーター・パネルに速度リミッターのシンボル(6)が点灯します。
2. 車両が設定したい上限速度で走行している間に：コンパインド・メーター・パネルの設定したい上限速度の横にマーク(5)が表示するまで、ステアリングホイール上の  または  ボタンを押します。
 - ＞ 速度リミッターがアクティブになり、設定した上限速度がメモリーに記録されます。

静止時

1. ステアリングホイールの  ボタンを押して、速度リミッターをオンにします。

2. コンパインド・メーター・パネルの設定した上限速度の横にマーク(5)が表示されるまで、 ボタンでスクロールします。

＞ 速度リミッターがアクティブになり、設定した上限速度がメモリーに記録されます。

関連情報

- 速度リミッター* (p. 219)

速度リミッター* - 速度変更

記憶されている速度の変更

設定した上限速度は、 または  ボタンを短く押す、または長押しすることにより変更できます。

+/- 5 km/h 調整するには：

- 短く押すと、押すたびに +/- 5 km/h ずつ変化します。

+/- 1 km/h 調整するには：

- ボタンを長押しし、コンパインド・メーター・パネルのマークが設定したい上限速度の横に来たら手を放します。

最後に押したときの速度がメモリーに記憶されます。

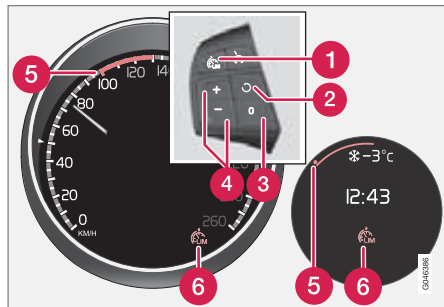
関連情報

- 速度リミッター* (p. 219)



速度リミッター – 一時的解除およびスタンバイモード*

速度リミッター(Speed Limiter)は、クルーズコントロールが逆になったものとみなすことができます。運転者がアクセルペダルで速度を調節しますが、速度リミッターにより、事前に選択/設定した速度を不用意に上回ることがないようにします。



ステアリングホイールキーパッドおよびメーター・パネル(デジタルおよびアナログ)

- ① 速度リミッター – ON /OFF
- ② スタンバイモードが終了し、設定された速度に戻ります。
- ③ スタンバイモード
- ④ 作動および上限速度調整
- ⑤ 選択した速度
- ⑥ 速度リミッターがアクティブ

一時的解除 – スタンバイモード

一時的に速度リミッターを解除し、スタンバイモードにするには：

- ① 0 を押します。
 - › コンパインド・メーター・パネル上のマーク (5) の色が緑色から白色(デジタル)または白色から灰色(アナログ)に変わり、運転者は一時的に設定されている上限速度を上回ることができます。

② を 1 回押すと速度リミッターが再起動します。マーク (5) の色が白色から緑色(デジタル)または灰色から白色(アナログ)に変わり、車両の上限速度がまた制限されるようになります。

アクセルペダルによる一時的解除

速度リミッターはアクセルペダルによってもスタンバイモードにできます。すなわち急速に加速し、危険な状況から脱出できます：

- アクセルペダルを奥まで踏み込みます。
 - › コンパインド・メーター・パネルには記録された上限速度が色付きのマーク (5) で表示され、運転者は設定上限速度を一時的に上回ることができます。マーク (5) はこの間、緑から白(デジタル)または白からグレー(アナログ)に変わります。

速度リミッターは、アクセルペダルを解放すると自動的に再起動し、車速が選択/設定されている上限速度まで減少して、マーク (5) は白から緑(デジタル)またはグレーから白(アナログ)に変わり、車両の上限速度がまた制限されるようになります。

関連情報

- 速度リミッター* (p. 219)



08 運転者サポート

速度リミッター* - 速度超過時のアラーム

速度リミッター(Speed Limiter)は、クルーズコントロールの逆の機能とみなすことができます。運転者がアクセルペダルで速度を調節しますが、速度リミッターが事前に選択/設定した速度を不意に上回るのを防ぎます。

急なこう配では、速度リミッターのエンジンブレーキだけでは不十分で、選択した上限速度を超過する場合があります。こうした状態では、確認音が鳴り、運転者に注意を喚起します。この信号は、運転者が減速し、選択した上限速度以下となるまで作動します。

注意

アラームは、直前の 30 秒間に  または  のボタンが押されず、速度が 3 km/h 以上超過してから 5 秒たった場合のみ発せられます。

関連情報

- 速度リミッター* (p. 219)

速度リミッター* - 解除

速度リミッター(Speed Limiter)は、クルーズコントロールが逆になったものとみなすことができます。運転者がアクセルペダルで速度を調節しますが、速度リミッターにより、事前に選択/設定した速度を不意に上回ることがないようにします。

速度リミッターを解除するには：

- ステアリングホイールの  ボタンを押します。
- コンパインド・メーター・パネルの (p. 219) 速度リミッターのシンボルと設定速度のマークが消えます。設定し、保存した速度はメモリーから消去されるため、 ボタンを押しても再開できません。

運転者はアクセルペダルを使用して、制限なく速度を選択できるようになります。

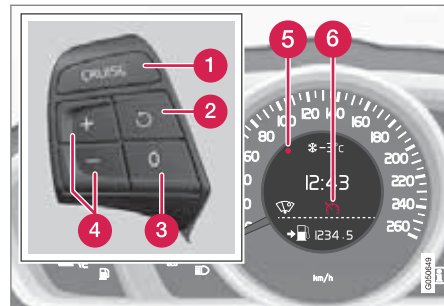
関連情報

- 速度リミッター* (p. 219)

クルーズコントロール*

クルーズコントロール(CC - Cruise Control)は、運転者が一定の速度を維持するのをサポートします。このため、車の流れが一定な高速道路やまっすぐな道が長く続くときに、よりリラックスした運転が楽しめます。

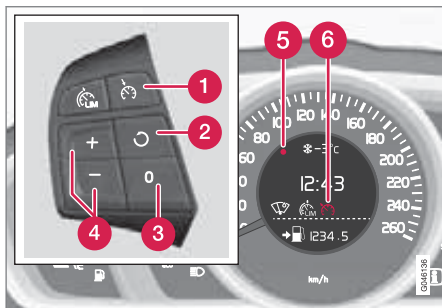
概要



速度リミッター⁴ 非装備の車両のステアリングホイールのボタンとコンパインド・メーター・パネル

⁴ 各市場に適用される最新情報は、ボルボディーラーにお問い合わせください。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



速度リミッター⁴ **装備**の車両のステアリングホイールのボタンとコンパインド・メーター・パネル

- ① クルーズコントロール - オン/オフ
- ② スタンバイモードが終了し、設定された速度に戻ります。
- ③ スタンバイモード
- ④ 作動および速度調整
- ⑤ 設定速度(グレー表示 = スタンバイモード)
- ⑥ クルーズコントロールアクティブ - シンボルが白く点灯(グレー表示 = スタンバイモード)。

警告

交通状況によく注意をはらい、クルーズコントロールが車間距離や速度を正しく維持できないときは、運転者が車を制御してください。

安全運転の責任は、つねに運転者にあります。

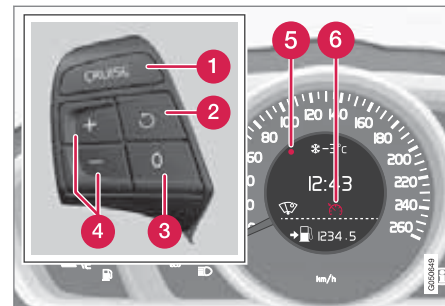
関連情報

- クルーズコントロール* - 速度の管理 (p. 223)
- クルーズコントロール*の一時的解除およびスタンバイモード (p. 225)
- クルーズコントロール* - 設定速度の再開 (p. 226)
- クルーズコントロール* - 解除 (p. 227)
- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 227)

クルーズコントロール* - 速度の管理

作動、速度の設定または設定速度の変更が可能です。

作動/速度設定



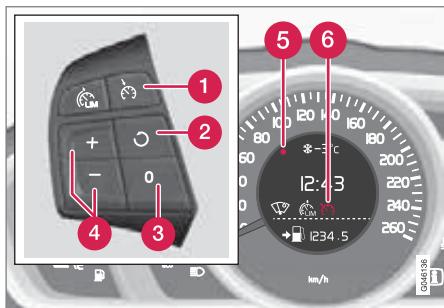
速度リミッター⁵ **非装備**の車両のステアリングホイールボタンとインフォメーション・ディスプレイ

⁴ 各市場に適用される最新情報は、ボルボディーラーにお問い合わせください。

⁵ 各市場に適用される最新情報は、ボルボディーラーにお問い合わせください。



08 運転者サポート



速度リミッター⁵ 装備の車両のステアリングホイールボタンとインフォメーション・ディスプレイ

クルーズコントロールを作動可能状態にするには：

- ステアリングホイールの **CRUISE** (速度リミッター**非装備**) または  (速度リミッター**装備**) ボタンを押します。
- コンパインド・メーター・パネルのクルーズコントロールシンボル (6) が点灯します - クルーズコントロールはスタンバイモードです。

クルーズコントロールを作動させるには：

- 設定したい車速に達したらステアリングホイールのボタン  または  を押します。

＞ その時点の速度がメモリーに記憶され、コンパインド・メーター・パネルのマーク (5) が選択速度で点灯し、シンボル (6) がグレーから白に変わります - 車両は記憶された速度になります。

注意

クルーズコントロールは、車速が 30 km/h 未満のときは使用できません。

記憶されている速度の変更

記憶されている速度を変更するには、 または  ボタンを押します。

- 短く押すと、+/- 5 km/h ずつ変化します。
- または
- ボタンを押したままにし、設定したい速度に達したら手を放します。

 /  ボタンを押す前にアクセルペダルによって車速が上昇した場合、記憶されるのは、ボタンが押された時点での車速です。最後に押したときの速度がメモリーに記憶されます。

追いつきのときなど、アクセルペダルを踏んで一時的に加速しても、クルーズコントロールの設定には影響しません。アクセルペダルを離すと、車速はクルーズコントロールでセットした速度に戻ります。

注意

クルーズコントロール用のボタンのいずれかを数分間押したままにすると、クルーズコントロールがブロックされ無効になります。クルーズコントロールを再起動するには、一旦停車し、エンジンを再始動することが必要です。

関連情報

- クルーズコントロール* (p. 222)

⁵ 各市場に適用される最新情報は、ボルボディーラーにお問い合わせください。

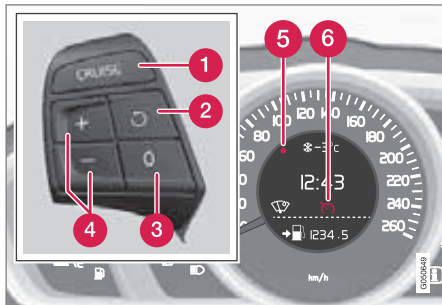
* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



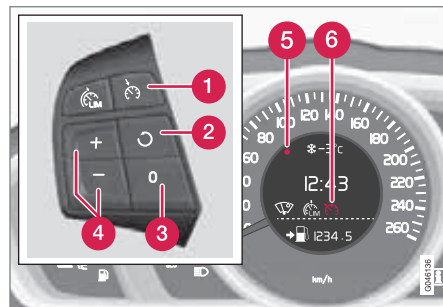
クルーズコントロール*の一時的解除およびスタンバイモード

この機能は一時的に解除し、スタンバイモードにすることができます。

一時的解除 - スタンバイモード



速度リミッター⁶ **非装備**の車両のステアリングホイールボタンとインフォメーション・ディスプレイ



速度リミッター⁶ **装備**の車両のステアリングホイールボタンとインフォメーション・ディスプレイ

一時的にクルーズコントロールを解除し、スタンバイモードにするには：

- **0** を押します。
- コンバインド・メーター・パネルのマーク (5) およびシンボル (6) の色が白からグレーに変わり、クルーズコントロールは一時的に解除されます。

運転者の介入によるスタンバイモード

次のような場合には、クルーズコントロールが一時的に解除され、自動的にスタンバイモードになります：

- フットブレーキが使用された
- クラッチペダルが踏み込まれている
- セレクターレバーを **N** 位置にしたとき

- 運転者が、記憶されている速度よりも速い速度を 1 分間以上維持した。

このような場合、運転者は車速をご自分で制御しなければなりません。

追いつきのときなど、アクセルペダルを踏んで一時的に加速しても、設定には影響しません。アクセルペダルを離すと、車速はクルーズコントロールで設定した速度に戻ります。

自動スタンバイモード

次のような場合には、クルーズコントロールが一時的に解除され、スタンバイモードになります：

- タイヤのグリップ力が失われたとき
- エンジン回転数が低過ぎるとき
- 車速が約 30 km/h 以下になった

このような場合、運転者は車速をご自分で制御しなければなりません。

関連情報

- クルーズコントロール* (p. 222)
- クルーズコントロール* - 速度の管理 (p. 223)
- クルーズコントロール* - 設定速度の再開 (p. 226)
- クルーズコントロール* - 解除 (p. 227)

⁶ 各市場に適用される最新情報は、ボルボディーラーにお問い合わせください。

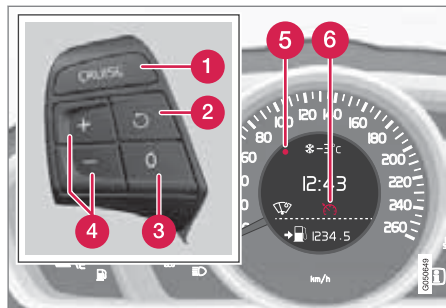


08 運転者サポート

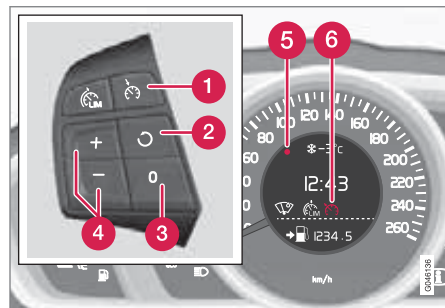
クルーズコントロール* - 設定速度の再開

クルーズコントロール(p. 222) (CC - Cruise Control) は一定速度を維持した走行をサポートします。

一時的解除およびスタンバイモード (p. 225) の後に、設定速度を再開することが可能です。



速度リミッター⁷ **非装備**の車両のステアリングホイールのボタンとインフォメーション・ディスプレイ



速度リミッター⁷ **装備**の車両のステアリングホイールのボタンとインフォメーション・ディスプレイ

クルーズコントロールをスタンバイモードから再開するには：

- ステアリングホイールの  ボタンを押します。
- ＞ コンバインド・メーター・パネルのマーク (5) およびシンボル(6)の色がグレーから白に変わり、車両は最後に記憶された速度になります。

注意

 を選択して再開すると、急加速する場合があります。

関連情報

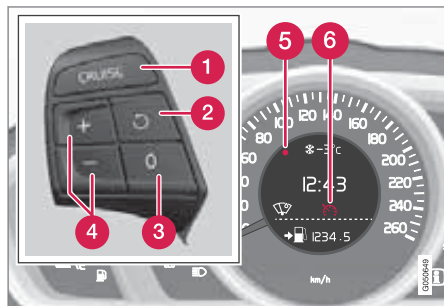
- クルーズコントロール* (p. 222)
- クルーズコントロール* - 速度の管理 (p. 223)
- クルーズコントロール*の一時的解除およびスタンバイモード (p. 225)
- クルーズコントロール* - 解除 (p. 227)

⁷ 各市場に適用される最新情報は、ボルボディーラーにお問い合わせください。

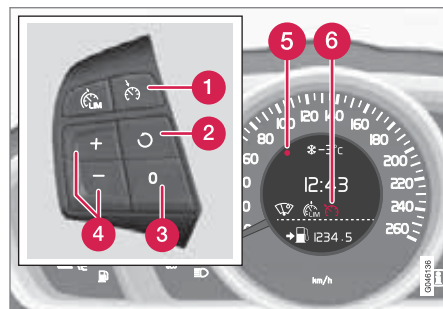


クルーズコントロール* - 解除

ここでは解除方法が説明されています。



速度リミッター⁸ **非装備**の車両のステアリングホイールのボタンとインフォメーション・ディスプレイ



速度リミッター⁸ **装備**の車両のステアリングホイールのボタンとインフォメーション・ディスプレイ

クルーズコントロールは、ステアリングホイールのボタン(1)を押すか、エンジンを停止するとオフになります。記憶されている速度はメモリーから消去され、 ボタンを押しても再開できません。

関連情報

- ・ クルーズコントロール* (p. 222)
- ・ クルーズコントロール* - 速度の管理 (p. 223)
- ・ クルーズコントロール*の一時的解除およびスタンバイモード (p. 225)
- ・ クルーズコントロール* - 設定速度の再開 (p. 226)

アダプティブクルーズコントロール (ACC)*

アダプティブクルーズコントロール (ACC - Adaptive Cruise Control) は、運転者が一定の速度を維持し、前方を走行している車両との車間時間をあらかじめ選択した時間に維持するのに役立ちます。

アダプティブクルーズコントロールは、交通量が安定した高速道路や長い直線の幹線道路を長時間走行する際に、よりリラックスした走行を可能にします。

希望の速度(p. 231)と車間時間を設定することができます。レーダーセンサーが、前方に自車よりも低速で走行する車両を検知すると、自車の車速を自動的にその車両に合わせます。前方の車両がいなくなると、車両は選択されていた速度に戻ります。

アダプティブクルーズコントロールが解除されている、またはスタンバイモードのときに、前方の車両に異常に接近すると、代わりに 車間警告機能 (p. 243) が車間距離が短いことを警告します。

⁸ 各市場に適用される最新情報は、ボルボディーラーにお問い合わせください。



08 運転者サポート



警告

交通状況によく注意をはらい、アダプティブクルーズコントロールが車間距離や速度を正しく維持できないときは、運転者が車両を制御してください。

アダプティブクルーズコントロールは、運転状況、交通、天候、路面の状態などにより使用できない場合があります。

オーナーズマニュアル内のアダプティブクルーズコントロールに関するセクションすべてに目を通してください。この機能を使用するにあたって注意すべき制限事項が記載されています。

アダプティブクルーズコントロールを使用しているときでも、車間距離や速度を正しく維持する責任は運転者にあります。

重要

アダプティブクルーズコントロール・コンポーネントのメンテナンスは、必ずボルボ指定のサービス工場でのみ行ってください。

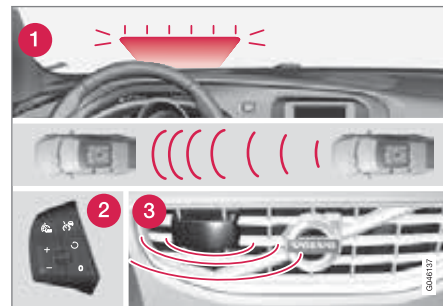
オートマチックトランスミッション

オートマチックトランスミッション車には、アダプティブクルーズコントロールに拡張機能の渋滞アシスタント(p. 234)が追加されています。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール* - 機能 (p. 228)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 230)
- アダプティブクルーズコントロール* - 速度の管理 (p. 231)
- アダプティブクルーズコントロール* - 車間時間設定 (p. 232)
- アダプティブクルーズコントロール* - 一時的解除およびスタンバイモード (p. 233)
- アダプティブクルーズコントロール* - 追い越し (p. 234)
- アダプティブクルーズコントロール* - 解除 (p. 234)
- アダプティブクルーズコントロール* - 渋滞アシスタント (p. 234)
- アダプティブクルーズコントロール* - クルーズコントロール機能に切り替える (p. 236)
- レーダーセンサー (p. 237)
- レーダーセンサー - 制限事項 (p. 238)
- アダプティブクルーズコントロール* - 故障点検および対処 (p. 240)
- アダプティブクルーズコントロール* - シンボルおよびメッセージ (p. 241)

アダプティブクルーズコントロール* - 機能



機能の概要⁹

- 1 運転者にブレーキ操作を促す警告灯
- 2 ステアリングホイール(p. 112)のキーパッド
- 3 レーダーセンサー(p. 237)

アダプティブクルーズコントロールは、クルーズコントロール・システムおよび車間距離測定システムで構成されています。

⁹ 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



警告

アダプティブクルーズコントロールは、衝突を回避するシステムではありません。システムが前方を走行する車両を検知しない場合は、運転者が車両を操作しなければなりません。

アダプティブクルーズコントロールは、人や動物には反応しません。また、自転車やオートバイなどの小型車両にも対応していません。さらに、対向車、低速で走行している車両、または静止している車両に対して、ブレーキを作動させることもありません。

アダプティブクルーズコントロールは、市街地走行中、混雑した道路状況下での走行時、ジャンクション走行時、滑りやすい路面走行時、水溜りが多い路面や雪や泥に覆われている路面走行時、激しい雨や雪の中の走行時、視界が悪いとき、曲がりくねった道路走行中などは使用しないでください。

前方を走行している車両との距離は、主にレーダーセンサーにより測定されます。クルーズコントロール機能は、アクセルおよびブレーキにより速度を制御します。アダプティブクルーズコントロールがブレーキを作動させるとき、低い音が出る場合がありますが、異常ではありません。

警告

アダプティブクルーズコントロールがブレーキを作動させるときは、ブレーキペダルが動きます。挟まれるおそれがあるので、ブレーキペダルの下に足を置かないでください。

アダプティブクルーズコントロールは、同じ車線上を走行する前方車両との車間時間 (p. 232) を設定に従って維持することを目的としています。レーダーセンサーが前方の車両を検知できない場合、車両は運転者の設定した速度を維持します。前方を走行している車両が設定速度を超えた場合にも、運転者の設定した速度を維持して走行します。

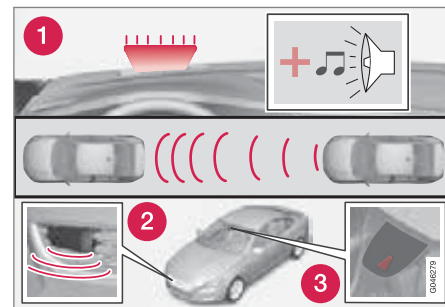
アダプティブクルーズコントロールは、速度をスムーズに制御します。急ブレーキが必要な状況では、必ずご自分でブレーキをかけてください。速度差が大きく異なる場合や、前方の車両が急ブレーキをかけた場合などです。レーダーセンサーには制限がある (p. 238) ため、不意にブレーキがかかったり、あるいは全くブレーキがかからないことがあります。

アダプティブクルーズコントロールを起動すると、車速が 30 km/h¹⁰ から 200 km/h までの別の車両に追従して走行できるようになります。車速が 30 km/h 未満になった場合や、エンジン回転数が異常に低くなると、クルーズコントロールはスタンバイモードとなり、オートブレーキ

が作動しなくなります。前方車両と安全な距離が保てるよう、ご自分で慎重に車両を制御してください。

運転者にブレーキ操作を促す警告灯

アダプティブクルーズコントロールのブレーキ能力は、車両のブレーキ能力の約 40% に相当します。



1. 衝突警告システム警告灯および警告音¹¹

アダプティブクルーズコントロールのブレーキ能力以上のブレーキを必要とするときに、運転者がブレーキをかけない場合は、衝突警告システム (p. 253) の警告灯と警告音が作動して、ただちに運転者の介入が必要なことを警告します。

¹⁰ 渋滞アシスタント (p. 234) (オートマチックトランスミッション装備車) は、0~200 km/h の速度域で作動します。

¹¹ 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。



08 運転者サポート

注意

陽射しが強いつきや、運転者がサングラスを着用しているときは、警告灯が見えにくい場合があります。ご注意ください。

警告

アダプティブクルーズコントロールは、レーダーセンサーが感知した車両に対してのみ警告を発します。したがって、警告が発動しない場合や、遅れて発動する場合があります。警告が出なくても、必要に応じてブレーキをかけてください。

急な坂道や重い荷物を積載しての走行

アダプティブクルーズコントロールは主に、平坦な路面走行時用に設計されています。重い荷物を積載したり、トレーラーをけん引しながら急な下り坂を走行する場合には、前方の車両と適切な距離を保つことがむずかしい場合があります。このような場合には、特に注意をはらい、いつでも減速できるようにしてください。

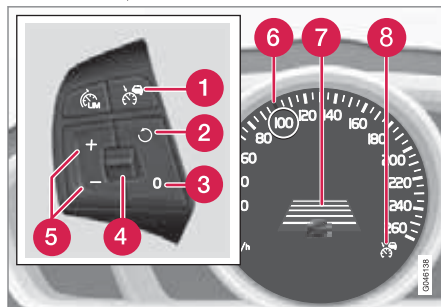
関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 227)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 230)
- クルーズコントロール* (p. 222)

アダプティブクルーズコントロール* - 概要

アダプティブクルーズコントロール (p. 227) とステアリングホイールのキーパッドの操作は、速度リミッター (p. 219)¹² の有無によって異なります。

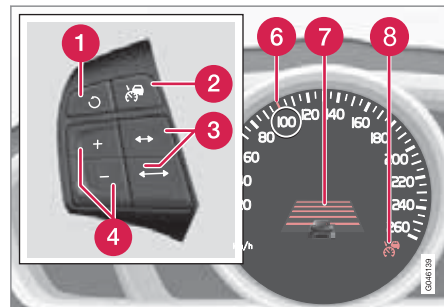
アダプティブクルーズコントロール、速度リミッター装備



- クルーズコントロール - オン/オフ
- スタンバイモードが終了し、設定された速度に戻ります。
- スタンバイモード
- 車間時間 - 増加/減少
- 作動および速度調整

- 記録されている速度の緑色のシンボル (白色 = スタンバイモード)
- 車間時間
- シンボルが緑色であれば ACC が作動しています (白色 = スタンバイモード)

アダプティブクルーズコントロール、速度リミッター非装備



- スタンバイモードが終了し、設定された速度に戻ります。
- クルーズコントロール - オン/オフまたはスタンバイモード
- 車間時間 - 増加/減少
- 作動および速度調整
- (未使用)

¹² 各市場に適用される最新情報は、ボルボディーラーにお問い合わせください。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



- ⑥ 記録されている速度の緑色のシンボル(白色 = スタンバイモード)
- ⑦ 車間時間
- ⑧ シンボルが緑色であれば ACC が作動しています(白色 = スタンバイモード)

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 227)
- アダプティブクルーズコントロール* - 速度の管理 (p. 231)
- アダプティブクルーズコントロール* - 車間時間設定 (p. 232)
- アダプティブクルーズコントロール* - 一時的解除およびスタンバイモード (p. 233)
- クルーズコントロール* (p. 222)

アダプティブクルーズコントロール* - 速度の管理

ACC を作動可能状態にするには:

- ステアリングホイールの  ボタンを押します。コンパインド・メーター・パネルに同様のシンボル(8)が白く点灯し、アダプティブクルーズコントロールがスタンバイモード(p. 233)になっていることがわかります。

ACC を作動させるには:

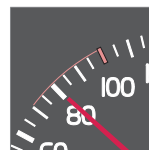
- 設定したい車速に達したらステアリングホイールのボタン  または  を押します。
- 現在の速度がメモリーに記憶され、コンパインド・メーター・パネル上の記憶された速度の周りに「拡大鏡」(6)が数秒間表示されます。シンボルは白から緑に変わります。



このシンボルが白から緑に変わると、ACC がアクティブになり、車両は記憶された速度を維持します。



シンボルに別車両の画像が表示されている場合のみ、先行車との車間距離が ACC により制御されます。



同時に速度範囲がマークされます:

- 緑のシンボルがついた高い速度があらかじめプログラミングされている速度です
- 低い方の速度が先行車両の速度です。

記憶されている速度の変更

記憶されている速度は、 または  ボタンを軽く押す、または長押しすることにより変更できます。

+/- 5 km/h 調整するには:

- 短く押すと、押すたびに +/- 5 km/h ずつ変化します。

+/- 1 km/h 調整するには:

- ボタンを長押しし、コンパインド・メーター・パネルのマークが目標速度の横に来たら手を放します。

最後に押したときの速度がメモリーに記憶されます。

 ボタンを押す前にアクセルペダルによって車速が上昇した場合、記憶されるのは、ボタンが押された時点での車速です。

追い越しのときなど、アクセルペダルを踏んで一時的に加速しても、設定には影響しません。アクセルペダルを離すと、車速はクルーズコントロールで設定した速度に戻ります。



注意

アダプティブクルーズコントロール用のボタンのいずれかを数分間押したままにすると、アダプティブクルーズコントロールがブロックされ無効になります。アダプティブクルーズコントロールを再起動するには、一度停車し、エンジンを再始動することが必要です。

状況によっては再起動できないことがあります。その場合、コンバインド・メーター・パネル(p. 241)に **アダプティブクルーズコントロールは利用できません** と表示されます。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 227)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 230)
- クルーズコントロール* (p. 222)

アダプティブクルーズコントロール* - 車間時間設定



先行車両との車間時間は増減させることができ、1～5本の横線によってコンバインド・メーター・パネルに表示することができます。線の数が多いほど、車間時間が長くなります。

横線が1本であれば、前方の車両まで約1秒であることを示し、横線が5本あれば、約3秒であることを示します。

車間時間を設定/変更するには：

- ステアリングホイールボタンセットのコントロールダイヤルを回します(または、速度リミッター非装備の車両では  /  ボタンを使用します)。

低速走行時、車間距離が短いときは、アダプティブクルーズコントロールが車間時間を若干増やします。

前方を走行している車両の後をスムーズかつ快適に走行できるように、状況によりアダプティブクルーズコントロールが、車間時間を大幅に変更する場合があります。

車間時間が短いと、走行中に万が一不測の事態が発生した場合、運転者が回避操作を行う反応時間が短くなることに注意してください。

車間警告機能 (p. 243) の作動中も同じシンボルが表示されます。

注意

各地の交通法規で許可されている車間時間のみを使用してください。

アダプティブクルーズコントロールを作動させても、反応しないように感じられる場合には、前方の車両との車間時間によって、車両の加速が妨げられていることが原因かもしれません。

車速が高くなるほど、一定車間時間に相当する計算上の距離(単位：m)が長くなります。

詳しくは、速度の取り扱い方(p. 231)を確認してください。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 227)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 230)
- クルーズコントロール* (p. 222)



アダプティブクルーズコントロール* - 一時的解除およびスタンバイモード

アダプティブクルーズコントロールは一時的に解除し、スタンバイモードにすることができません。

一時的解除/スタンバイモード、速度リミッター装備

一時的にアダプティブクルーズコントロールを解除し、スタンバイモードにするには：

- ステアリングホイールの  ボタンを押します。



このシンボルと保存されている速度のシンボルが緑から白に変わります。

一時的解除/スタンバイモード、速度リミッター非装備

一時的にアダプティブクルーズコントロールを解除し、スタンバイモードにするには：

- ステアリングホイールの  ボタンを押します。

運転者の介入によるスタンバイモード

次のような場合には、アダプティブクルーズコントロールが一時的に解除され、自動的にスタンバイモードになります：

- フットブレーキが使用された
- クラッチペダルが1分以上踏み込まれたままになった¹³

- ギヤセレクターレバーが **N** 位置に動かされた(オートマチックトランスミッション)
- 運転者が、記憶されている速度よりも速い速度を1分間以上維持した。

このような場合、運転者は車速をご自分で制御しなければなりません。

追い越しのときなど、アクセルペダルを踏んで一時的に加速しても、設定には影響しません。アクセルペダルを離すと、車速はクルーズコントロールで設定した速度に戻ります。

詳しくは、速度の管理(p. 231)および追い越し(p. 234)のセクションを参照してください。

自動スタンバイモード

アダプティブクルーズコントロールは、他のシステム(スタビリティ・システム ESC(p. 212)など)に依存します。これらのシステムのいずれかが作動を停止した場合、アダプティブクルーズコントロールは自動的に解除されます。

クルーズコントロールが自動的に解除されると、警告音が鳴り、コンパインド・メーター・パネルに **アダプティブクルーズ コントロールはキャンセルされました** メッセージが表示されます。運転者はただちに必要な運転操作を行い、前方を走行する車両との車間距離を維持してください。

次のようなときに、自動的に解除されます：

- 運転者がドアを開けたとき
- 運転者がシートベルトを外したとき

- エンジン回転数が低過ぎるとき
- 車速が 30 km/h¹⁴ 以下になったとき
- タイヤのグリップ力が失われたとき
- ブレーキ温度が高温になったとき
- レーダーセンサーが雪や激しい雨などでブロックされているとき(レーダー波が遮られているとき)

シンボル、メッセージ、その意味についての詳細は、ディスプレイのシンボルおよびメッセージ(p. 241)のセクションを参照してください。

セットした速度に戻る

アダプティブクルーズコントロールがスタンバイモードであれば、ステアリングホイールの  ボタンを軽く押すと、クルーズコントロールが再開されます。車速は、メモリーに記録されている速度に設定されます。



注意

 を選択して再開すると、急加速する場合があります。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 227)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 230)
- クルーズコントロール* (p. 222)

¹³ いったんクラッチを切って、別のギヤにシフトする場合には、スタンバイモードになりません。

¹⁴ 渋滞アシスタント装備車には適用されません。静止するまで作動します。



08 運転者サポート

アダプティブクルーズコントロール* - 追い越し

ACCは追い越し時にも役立ちます。

車両が先行車の後を追っているときに運転者が方向指示器¹⁵を出して追い越しの意図を示すと、アダプティブクルーズコントロールは先行車両の方向への加速を補助します。

この機能は、車速が 70 km/h 以上で作動します。

詳しくは、前方車両との車間時間 (p. 232) を確認してください。

詳しくは、速度の管理 (p. 231) を確認してください。

警告

状況により、警告距離を設定していても、警告が出るタイミングが遅いと感ずる場合があります。(例えば、前方を走行している車両と自車の速度差が大きい時や、前方の車両が急ブレーキをかけたときなど。)

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 227)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 230)
- クルーズコントロール* (p. 222)

アダプティブクルーズコントロール* - 解除

速度リミッター装備のキーパッド

アダプティブクルーズコントロールはステアリングホイールの  ボタンを軽く押すと解除されます。設定速度が消去され、 ボタンを押しても再開できなくなります。

速度リミッター非装備のキーパッド

ステアリングホイールの  ボタンを軽く押すと、アダプティブクルーズコントロールはスタンバイモードになります。もう一度短く押すと、解除されます。設定速度が消去され、 ボタンを押しても再開できなくなります。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 227)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 230)
- クルーズコントロール* (p. 222)

アダプティブクルーズコントロール* - 渋滞アシスタント

車速が 30 km/h 未満の場合はアダプティブクルーズコントロールの拡張機能の渋滞アシスタントが機能します。

オートマチックトランスミッション車のアダプティブクルーズコントロールには、渋滞アシスタント ("Queue Assist" と呼ばれる場合もあります) が装備されています。

渋滞アシスタントには、次のような機能があります：

- 拡張速度範囲 - 30 km/h 未満および静止時
- 追従対象車両の変更
- 静止時にはオートブレーキは停止

アダプティブクルーズコントロールでセットできる最低速度は 30 km/h であることにご注意ください。クルーズコントロールは静止するまで別の車両に追従できますが、最低速度未満の速度を選択することは**できません**。

詳しくは、速度の管理 (p. 227) および前方車両との車間時間 (p. 232) を確認してください。

¹⁵ 左ハンドル車では左側の、右ハンドル車では右側の方向指示器のみです。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



対応速度範囲の拡張

注意

運転席ドアを閉め、運転者がシートベルトを着用するまで、クルーズコントロールは起動できません。

オートマチックトランスミッション車では、アダプティブクルーズコントロールにより 0～200 km/h の範囲で別の車両に追従できます。

注意

妥当な距離で先行する車両がないと、クルーズコントロールを 30 km/h 未満で起動することはできません。

渋滞時や赤信号など、停止する時間が約 3 秒以内であれば、自動的に走行が再開します。前方車両が動き出すまでにそれ以上の時間がかかる場合には、クルーズコントロールはオートブレーキによりスタンバイモード (p. 233) になります。ドライバーは以下の方法のいずれかでクルーズコントロールを再開する必要があります。

- ステアリングホイールの  ボタンを押します。

または

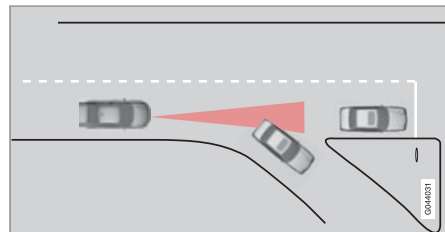
- アクセルペダルを踏み込みます。
- これにより、クルーズコントロールによる前方の車両の追従が再開されます。

注意

渋滞アシスタントは最大 4 分間車両を静止させておくことができます。それ以上経過すると、ブレーキが解除されます。

以下の「静止時のオートブレーキの終了」の項を参照してください。

追従対象車両の変更



追従対象となっている先行車両が突然曲がった場合、前方の車両が停止していることに突然気づく場合があります。

アダプティブクルーズコントロールにより 30 km/h 未満の速度で別の車両に追従している間は、追従対象車両が走行車両から静止車両に変わった場合、クルーズコントロールにより減速されます。

警告

アダプティブクルーズコントロールにより 30 km/h を超える速度で前方車両に追従している際に、対象車両が前方車両から静止車両に変わった場合は、クルーズコントロールは静止車両を無視して、保存されている速度を選択します。

- 運転者は注意を怠らず、必要に応じてブレーキをかけてください。

追従対象車両の変更による自動スタンバイモード

アダプティブクルーズコントロールが解除され、スタンバイモードになります：

- 速度が 5 km/h 未満で、追従の対象となる物体が静止している車両か、別の物体 (例、減速帯) がクルーズコントロールによって判断できない場合。
- 速度が 5 km/h 未満で、前方の車両が曲がり、クルーズコントロールが追従する車両がなくなった場合。

静止時のオートブレーキの終了

次のような状況では、渋滞アシスタントは静止時のオートブレーキを停止します。

- 運転者がドアを開けたとき
- 運転者がシートベルトを外したとき

このため、ブレーキが解除され、車両が動き出す場合があります。運転者はご自分でブレーキをかけ、適切な位置を保ってください。



08 運転者サポート



重要

渋滞アシスタントは最大 4 分間車両を静止させておくことができます。それ以上経過すると、ブレーキが解除されます。

何段階かの段階を追って運転者に注意が促されます。注意を促す信号は回を重ねるごとに強くなります。

1. ピーンという可聴アラームとテキストメッセージ
2. コンバインド・メーター・パネル内の警告灯も点滅し始めます。
3. 断続的な強いブレーキがかかります。
シンボル、メッセージ、その意味についての詳細は、シンボルおよびディスプレイのメッセージ (p. 241) のセクションを参照してください。

このような状態においても、渋滞アシスタントがフットブレーキを解除し、スタンバイモードになります：

- 運転者がブレーキペダルに足を載せたとき
- ギヤセクターレバーが **P**、**N** または **R** 位置に入ったとき
- 運転者がクルーズコントロールをスタンバイモードにしたとき
- パーキングブレーキを作動したとき

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 227)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 230)
- クルーズコントロール* (p. 222)

アダプティブクルーズコントロール* - クルーズコントロール機能に切り替える

ACC から CC への切り替え

アクティブなクルーズコントロールのシンボルはコンバインド・メーター・パネルに表示されます。

CC Cruise Control	ACC Adaptive Cruise Control
クルーズコントロール	アダプティブクルーズコントロール

ボタンを 1 回押すとアダプティブクルーズコントロール (p. 227) のアダプティブな部分(車間距離を保つシステム)が解除されます。この場合、車両は設定/記憶された速度を維持します。

- ステアリングホイールの ボタンを押したままにすると、コンバインド・メーター・パネルのシンボルが から に変わります。
- これによりクルーズコントロール(CC)が起動します。



警告

ACC から CC に切り替えると、車両は自動的にはブレーキを作動させません。設定した速度を保つだけです。

CC から ACC に戻す

 ボタンを 1～2 回押してクルーズコントロール(CC)を解除します。次回システムをオンにすると、アダプティブクルーズコントロール(ACC)が作動します。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 227)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 230)
- アダプティブクルーズコントロール* - 一時的解除およびスタンバイモード (p. 233)
- クルーズコントロール* (p. 222)

レーダーセンサー

レーダーセンサーの役割は、同じ方向に同じ車線を走行している乗用車や大型車を感知することです。

レーダーセンサーは以下の機能に使用されます。

- 車間警告機能*
- アダプティブクルーズコントロール*
- オートブレーキ機能および歩行者検知機能付衝突警告システム*

重要

車両のグリルに目に見える損傷がある場合、もしくはレーダーセンサーへの損傷が疑われる場合には、

- ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

グリル、レーダーセンサーまたはそのブラケットが損傷を受けたり、ゆるんだりすると、この機能は全く機能しなくなるか、機能不良を起こす場合があります。

レーダーセンサーは、絶対に改造しないでください。改造して使用することは、違法行為です。

関連情報

- レーダーセンサー - 制限事項 (p. 238)
- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 227)

- 衝突警告システム* (p. 253)
- 車間警告機能* (p. 243)



08 運転者サポート

レーダーセンサー - 制限事項

レーダーセンサー(p. 237)には、検知範囲などによる制限があります。

以下の場合、アダプティブクルーズコントロールの先行車検知能力が著しく低下します。

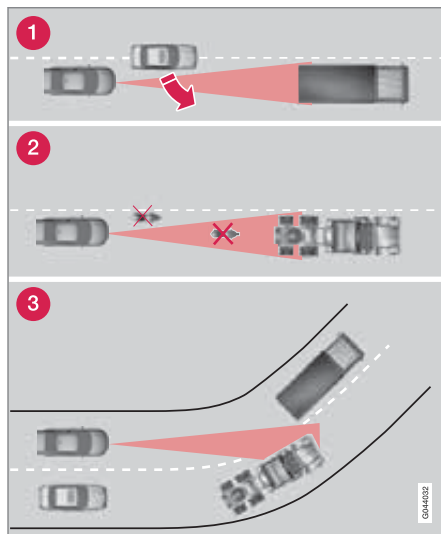
- 前方の車両の速度が自車の速度と大きく異なる。
- 激しい雨や泥、またはその他の障害物がレーダーセンサーの前方を塞いで、レーダーセンサーが遮られる。

注意

レーダーセンサーの前面は、つねにきれいにしておいてください。

検知範囲

レーダーセンサーの視界には限界があります。状況によっては別の車両を検知したり、検知が遅れたりする場合があります。



ACCの視野

- ① レーダーセンサーは、自車と前方を走行している車両との間に割り込んで来る車両など、至近距離の車両を検知するのに時間がかかります。
- ② オートバイなどの小型車や、車線の中央を走行していない車両を検知しない場合があります。
- ③ カーブで、感知していた車両とは異なる車両を検知したり、感知中の車両を見失う場合があります。

警告

交通状況によく注意をはらい、アダプティブクルーズコントロールが車間距離や速度を正しく維持できないときは、運転者が車両を制御してください。

アダプティブクルーズコントロールは、運転状況、交通、天候、路面の状態などにより使用できない場合があります。

オーナーズマニュアル内のアダプティブクルーズコントロールに関するセクションすべてに目を通してください。この機能を使用するにあたって注意すべき制限事項が記載されています。

アダプティブクルーズコントロールを使用しているときでも、車間距離や速度を正しく維持する責任は運転者にあります。

警告

グリルの前に、補助ランプなどのアクセサリ類を絶対に取り付けしないでください。

**警告**

アダプティブクルーズコントロールは、衝突を回避するシステムではありません。システムが前方を走行する車両を感知しない場合は、運転者が車両を操作しなければなりません。

アダプティブクルーズコントロールは、人や動物には反応しません。また、自転車やオートバイなどの小型車両にも対応していません。さらに、対向車、低速で走行している車両、または静止している車両に対して、ブレーキを作動させることもありません。

アダプティブクルーズコントロールは、市街地走行中、混雑した交通状況、ジャンクション走行時、滑りやすい路面走行時、水溜りが多い路面や雪や泥に覆われている路面走行時、激しい雨や雪の中の走行時、視界が悪いとき、曲がりくねった道路走行中などは使用しないでください。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 227)
- 衝突警告システム* (p. 253)
- 車間警告機能* (p. 243)

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



08 運転者サポート

アダプティブクルーズコントロール* - 故障点検および対処

コンパインド・メーター・パネルに **レーダーが遮られて います マニュアル参照** というメッセージが

表示された場合、アダプティブクルーズコントロールのレーダーセンサー(p. 237)が前方に他の車両を検知できないことを意味しています。

このメッセージは、車間警告機能(p. 243)またはオートブレーキ機能付衝突警告システム

(p. 253)のいずれも作動していないことを示しています。

以下の表には、表示メッセージの考えられる原因と、その対処法の例が記載されています。

原因	対処
グリル内のレーダーセンサー前面が泥、氷、雪などに覆われている。	グリル内のレーダーセンサー前面の、泥、氷、雪などをきれいに取り除いてください。
激しい雨や雪で、レーダーシグナルが遮られている。	対処なし。激しい雨や雪のときは、レーダーが機能しない場合があります。
路面から跳ね上がる水や雪により、レーダーシグナルが遮られている。	対処なし。水溜りの多い道や雪道では、レーダーが機能しない場合があります。
レーダーセンサー前面を清掃した後もメッセージが消えない。	しばらくお待ちください。障害が解消されたことをレーダーが感知するまで、数分間かかる場合があります。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 227)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 230)
- クルーズコントロール* (p. 222)

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



アダプティブクルーズコントロール* - シンボルおよびメッセージ

アダプティブクルーズコントロールがシンボルとメッセージ、またはどちらか一方を表示する

場合があります。例を以下に示します。必要に応じて表示される推奨事項に従ってください。

シンボル ^A	メッセージ	意味
	シンボルが白色	アダプティブクルーズコントロールはスタンバイモード(p. 233)になっています。
	シンボルが緑色	車両はセットされている速度を維持します。
		標準クルーズコントロールが手動で選択されています。
	クルーズコントロールを ON するには ESC をノーマルに設定 して下さい	アダプティブクルーズコントロールは、 ESC が通常モードに設定されるまで起動できません。スタビリティシステム(p. 212)を参照してください。
	アダプティブクルーズ コントロールは キャンセルされました	アダプティブクルーズコントロールが解除されています。運転者はご自分で車速を調節してください。
	アダプティブクルーズ コントロールは 利用できません	アダプティブクルーズコントロールが作動できません。 次のような原因が考えられます： - ブレーキ温度が高温になったとき - レーダーセンサーが雪や雨などで遮られている。 故障点検については、故障点検および対処(p. 240)のセクションを参照してください。

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



08 運転者サポート



シンボル ^A	メッセージ	意味
	レーダーが遮られて います マニュアル参照	アダプティブクルーズコントロールが一時的に解除されています。 激しい雨や泥などをレーダーセンサー前面に受けているため、レーダーセンサーが遮られ他の車両を検知することができません。 この場合、通常のクルーズコントロール (p. 222) (CC) に切り替えることができます。ディスプレイテキストにより適切な代替措置に関する情報が得られます。 詳しくは、レーダーセンサーの制限事項 (p. 238) を確認してください。
	アダプティブクルーズコントロール サービスが必要です	アダプティブクルーズコントロールが解除されています。 ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。
	ブレーキを踏んで 車両を停止状態に して下さい + 可聴アラーム + コンパインド・メーター・パネル内の警告灯 + 断続的ブレーキ (渋滞アシスタント装備の場合のみ)	車両が静止しており、アダプティブクルーズコントロールがフットブレーキを解除します。このため、車両が動き出すおそれがあります。 運転者をご自分でブレーキを操作することが必要です。運転者がブレーキペダルを踏みか、アクセルペダルを操作するまでメッセージが表示されたままとなり、アラーム音が鳴ります。
	30 km/h 未満 先行車両が必要です (渋滞アシスタント装備の場合のみ)	前方の起動距離内に車両がなく、30 km/h 未満で走行している際にアダプティブクルーズコントロールを起動しよう则表示されます。

A シンボルは概略図です。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)*
(p. 227)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 230)
- クルーズコントロール* (p. 222)

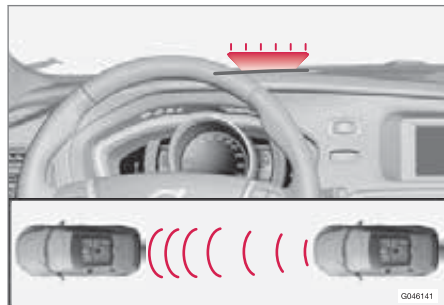
* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



車間警告機能*

車間警告機能 (Distance Alert) は、先行車との車間時間が短くなりすぎた場合に運転者に警告するシステムです。

車間警告機能は、車速が 30 km/h 以上で作動し、同じ方向に走行している前方車両のみに反応します。対向車、低速で走行している車両、または停止している車両に対して、車間情報は表示しません。



オレンジ色警告灯¹⁶

前方を走行している車両との間隔が、設定車間時間を下回ると、ウインドスクリーンのオレンジ色の警告灯が点灯したままとなります。

注意

アダプティブクルーズコントロール作動中は、車間警告機能は解除されます。

警告

車間警告機能は、前方の車両との距離が、プリセットされた値より短くなったときにのみ反応します。自車の車速とは関係しません。

操作

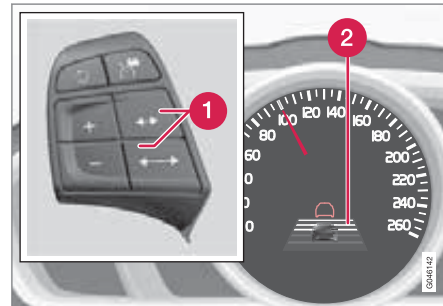


センターコンソールのボタンを押して、システムをオン/オフします。ボタンの LED が点灯しているとき、システムは作動しています。

選択した装備の組み合わせによっては、センターコンソールにボタンを配置するスペースがない場合があります。その場合、この機能は車

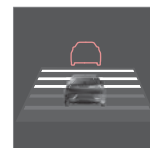
両のメニューシステム MY CAR (p. 137) で制御します。メニューシステムでは、距離警告 機能を検索してください。

車間時間の設定



車間時間のコントロールおよびシンボル

- ① 車間時間 - 増加/減少
- ② 車間時間 - 0n



先行車両との車間時間は増減させることができ、1~5 本の横線によってコンパインド・メーター・パネルに表示することができます。線の数が多いほど、車間時間が長くなります。横線が 1 本であれば、前方の車両まで約 1 秒であることを示し、横線が 5 本あれば、約 3 秒であることを示します。

¹⁶ 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。



08 運転者サポート



アダプティブクルーズコントロール(p. 227)作動中も、同じシンボルが表示されます。

注意

車速が高くなるほど、一定車間時間に相当する計算上の距離(単位:メートル)が長くなります。

設定された車間時間は、アダプティブクルーズコントロール(p. 228)機能も使用します。

各地の交通法規で許可されている車間時間のみを使用してください。

関連情報

- 車間警告機能* - 制限事項 (p. 244)
- 車間警告機能* - シンボルおよびメッセージ (p. 245)

車間警告機能* - 制限事項

この機能は、アダプティブクルーズコントロール(p. 227)およびオートブレーキ機能付衝突警告システム(p. 253)と同じセンサーを使用します。機能には制限があります。

注意

陽射しが強いときや光の反射があるとき、光の明暗が著しく変わるとき、あるいは運転者がサングラスを着用しているときは、ウインドスクリーンの警告灯が見えにくい場合がありますのでご注意ください。

悪天候下での走行時や曲がりくねった道路では、前方を走行している車両を検知するレーダーセンサーの性能が低下します。

また、レーダーセンサーの感知能力は、車両の大きさ(オートバイなど)にも左右されます。場合によっては設定よりも短い車間距離で警告灯が点灯したり、警告灯が全く点灯しなかったりすることがあります。

極端に高速で走行すると、センサー視野の限界により、設定より短い距離で警告灯が点灯する場合があります。

レーダーセンサーの制限事項についての詳細は、レーダーセンサー - 制限事項 (p. 238)および衝突警告システム* - 操作 (p. 257)を参照してください。

関連情報

- 車間警告機能* (p. 243)
- 車間警告機能* - シンボルおよびメッセージ (p. 245)



車間警告機能* - シンボルおよびメッセージ

この機能が制限 (p. 244) されている場合には、シンボルとメッセージがコンパインド・メーター・パネルに表示されます。

シンボル ^A	メッセージ	意味
	レーダーが遮られて います マニュアル参照	車間警告機能が一時的に解除されています。 雨が激しく降っている場合や、泥などがレーダーセンサーの前にたまると、レーダーセンサー (p. 237) が遮られ他の車両を感知することができません。 詳しくは、レーダーセンサー - 制限事項 (p. 238) を参照してください。
	衝突警告システム サービスが 必要です	車間警告機能およびオートブレーキ機能付衝突警告システム (p. 258) が、完全に、または部分的に解除されています。 メッセージが残る場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

A シンボルは概略図です。



08 運転者サポート

City Safety™

City Safety™ は、渋滞時の走行などで、前方の交通状況の変化や注意不足などによる衝突事故を回避するための補助機能です。

City Safety™ 機能は、50 km/h までの速度域で作動し、前方の車両と衝突する危険が差し迫っているにも関わらず、運転者がブレーキやステアリングにより早急に対応しない場合に、車両に自動的にブレーキをかけて運転者を補助します。

City Safety™ は、運転者がブレーキをかけ遅れたときに作動します。そのため、あらゆる状況で運転者の補助となるわけではありません。

不必要な介入を避けるため、City Safety™ は直前まで作動しないように設計されています。

City Safety™ が装備されているからといって、運転スタイルを変更しないでください。ブレーキの作動を City Safety™ のみに頼っていると、いずれ衝突事故が発生します。

City Safety™ が作動したことがわかるのは、通常、衝突寸前になったときのみです。

車両に オートブレーキ機能付衝突警告システム* (p. 253) が装備されている場合は、この2つのシステムは互いに補完し合います。

重要

City Safety™ コンポーネントのメンテナンスおよび交換は、ボルボ指定のサービス工場にお任せください。

警告

City Safety™ は、走行状況や交通、天候、路面の状態などにより作動しない場合があります。

City Safety™ は、自車の進行方向と異なる方向に走行している車両、小型車両やオートバイ、人間や動物に対しては反応しません。

City Safety™ は速度差が 15 km/h 未満のときに衝突を回避できます。速度差がこれ以上になると、衝突時の速度を減少させる効果のみとなります。最大のブレーキ力を得るには、運転者がブレーキペダルを踏むことが必要です。

必要なときは City Safety™ の作動を待たず、すみやかにブレーキをかけてください。走行中に適切な車間距離や速度を維持することは運転者の責任です。

- City Safety™ - レーザーセンサー (p. 250)
- City Safety™ - シンボルおよびメッセージ (p. 252)

関連情報

- City Safety™ - 制限事項 (p. 248)
- City Safety™ - 機能 (p. 247)
- City Safety™ - 操作 (p. 247)

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



City Safety™ - 機能

City Safety™はウインドスクリーン上端に装着されたレーザーセンサー(p. 250)により、車両前方の交通を感知します。衝突の危険性が差し迫ると、City Safety™が自動的にブレーキをかけます。これは、急ブレーキと感じられる場合があります。



レーザーセンサーの送信/受信ウインド¹⁷

前方の車両との速度差が4~15 km/hであれば、City Safety™により衝突が完全に回避できます。

City Safety™により、短時間で鋭くブレーキがかけられ、通常の状況であれば、前方の車両のすぐ手前で車を停止させることができます。多くのドライバーにとっては、これは通常の運転スタイルの範囲内ではないため、不快に感じられる場合があります。

速度差が15 km/hを超える場合、City Safety™だけでは衝突を回避できないおそれがあります。フルブレーキをかけるためには、運転者がブレーキを踏む必要があります。フルブレーキをかけると、速度差が15 km/hより大きくても衝突が回避できる可能性があります。

この機能が作動してブレーキがかかると、その間、コンパインド・メーター・パネルにメッセージ(p. 252)が表示されます。

注意

City Safety™によりブレーキが作動する際には、ブレーキランプが点灯します。

関連情報

- City Safety™ (p. 246)
- City Safety™ - 操作 (p. 247)
- City Safety™ - 制限事項 (p. 248)

City Safety™ - 操作

City Safety™ は、渋滞時の走行などで、前方の交通状況の変化や注意不足などによる衝突事故を回避するための補助機能です。

オン/オフ

注意

City Safety™機能は、エンジンが始動すると自動的に作動します。

葉が茂った枝などがボンネットやウインドスクリーンにかかるようなオフロード走行時などには、City Safety™ を解除することをお薦めします。

City Safety™ はメニューシステム **MY CAR** (p. 137) で制御されます。エンジン始動後、この機能は以下の方法で解除することができます。

- **MY CAR** で **運転支援システム** を検索し、**ティーマーセーフティ** で **オフ** を選択してください。

ただし、次回エンジンを始動すると、機能は再び作動状態となります。エンジンを停止したときに機能が作動していたか解除されていたかは関係ありません。

¹⁷ 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。



08 運転者サポート



警告

City Safety™を手動で解除した際も、レーザーセンサー(p. 250)はレーザー光線を発します。

City Safety™ を再びオンにするには：

- 解除時と同じ手順ですが、 を選択します。

関連情報

- City Safety™ (p. 246)
- City Safety™ - 制限事項 (p. 248)
- City Safety™ - シンボルおよびメッセージ (p. 252)

City Safety™ - 制限事項

City Safety™センサーは、昼夜を問わず前方の車両を検知するように設計されています。

ただし、機能には制限があります。

大雪や激しい降雨、濃霧、風塵、吹雪などでセンサーの機能が制限されると、City Safety™は通常通り機能しない場合や、全く機能しなくなる場合があります。ウインドスクリーンの曇り、汚れ、氷や雪により、機能が妨害される場合もあります。

積荷が突き出していることを示す布/テープなどの垂れ下がる物体や、補助ライトやブルバーなどボンネットより高い位置にあるアクセサリによって機能が制限されます。

City Safety™内のセンサーからのレーザー光線は、ライトの反射状況を測定するものです。センサーは反射作用の低い物体は検知できません。車両後部には通常ナンバープレートやリフレクターがあるため、光を十分に反射させることができます。

路面が滑りやすいときには制動距離が長くなるため、City Safety™が衝突を回避する能力が低下する場合があります。そのような状況では、ABS¹⁸ および ESC¹⁹ システムが、安定性を保ちながら、可能な範囲でもっとも優れた制動力を発揮します。

車両後退中は、City Safety™は一時的に解除されます。

City Safety™は4 km/h未満の低速では作動しません。駐車時など、非常に低速で前方の車両に接近している状況でこのシステムが作動しないのはそのためです。

運転者の操作がつねに優先されます。そのため、衝突が回避できない状態でも、運転者が明確にステアリングを操作したり、アクセルペダルを操作したりしているときには、City Safety™は介入しません。

City Safety™により静止している物体との衝突が回避された場合には、車両は、最大1.5秒間静止したままとなります。移動している前方車両のために車両にブレーキがかかった場合には、前方の車両が維持している車速と同じ速度に減速します。

マニュアルトランスミッション装備の車両では、City Safety™により、車両が静止状態になると、事前に運転者がクラッチペダルを踏み込まない限り、エンジンが停止します。

¹⁸ Anti-lock Braking System - アンチロックブレーキシステム

¹⁹ Electronic Stability Control - エレクトロニック・スタビリティ・コントロール



注意

- レーザーセンサー(p. 250)前面のウインドスクリーン表面に氷や雪や汚れがないことを確認してください。センサー位置については、City Safety™ - 機能 (p. 247)の図を参照してください。
- レーザーセンサー装着部のウインドスクリーンに、異物を貼り付けたり取り付けたたりしないでください。
- ボンネットから氷や雪を取り除いてください。雪や氷の高さが5 cmを超えないようにしてください。

故障点検および対処

コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイにメッセージ(p. 252)の**ウインドスクリーンセンサーが 遮られています** **マニュアル参照**が表示される場合、レーザーセンサーが遮られ前方車両を検出できないことを示しています。City Safety™が機能していないことを表します。

レーザーセンサーが遮られている場合でも、**ウインドスクリーンセンサーが 遮られています** **マニュアル参照**メッセージが表示されない場合もあります。運転者はレーザーセンサー前のエリアがつねにきれいであるように、注意してください。

以下の表は、表示するメッセージの考えられる原因と、対処方の例を示しています。

原因	対処
レーザーセンサー装着部のウインドスクリーン表面が汚れているか、氷または雪が付着している。	センサー装着部のウインドスクリーン表面の泥や氷、雪などをきれいに取り除いてください。
レーザーセンサーの視界が妨害されている。	妨害している物体を取り除いてください。

重要

レーザーセンサーの「窓」の前面のウインドスクリーンに、ひび割れやスクラッチ、飛び石による傷があり、その面積が約0.5 x 3.0 mm(またはそれ以上)の場合はウインドスクリーンの交換をサービス工場に依頼してください。ボルボ指定のサービス工場の利用を推奨します。センサー位置については、City Safety™ - 機能 (p. 247)の図を参照してください。

処置を講じないと、City Safety™の性能が十分発揮されなくなるおそれがあります。

City Safety™の故障や機能低下を防ぐために、さらに以下が該当します。

- ボルボは、レーザーセンサーの前のエリアにあるひび割れ、スクラッチ、飛び石による傷は**修復せず**に、ウインドスクリーン全体を交換することをお勧めします。
- ウインドスクリーンを交換する前にボルボ指定のサービス工場に連絡して、適切なウインドスクリーンが注文され、取り付けられるようにしてください。
- ウインドスクリーンワイパーを交換する際は、ボルボ社が承認している(または同等の)製品を使用してください。



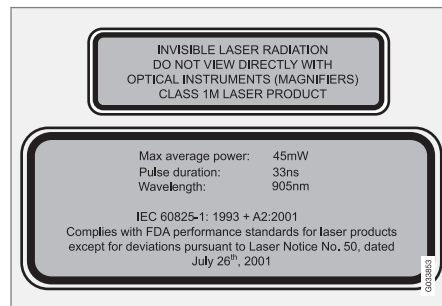
関連情報

- City Safety™ (p. 246)
- City Safety™ - 機能 (p. 247)
- City Safety™ - 操作 (p. 247)

City Safety™ - レーザーセンサー

City Safety™ 機能にはレーザー光線を放出するセンサーが使用されています。故障やレーザーセンサーへのサービスが必要な場合には、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。レーザーセンサーを操作する際は、指定の指示説明を遵守することが不可欠です。

次の 2 つの表示ラベルはレーザーセンサーに関するものです。



図の上のラベルは、レーザー光線の等級を説明するものです。

- レーザー光線 - 光学機器を使用してレーザー光線をのぞきこまないでください。クラス 1M レーザー製品。

図の下ラベルは、レーザー光線の物理的データを説明するものです。

- IEC 60825-1:1993 + A2:2001。
2001 年 7 月 26 日付けの Laser Notice No.

50 に準じた例外を除き、FDA（米国食品医薬品局）のレーザー製品性能基準に準拠。

レーザーセンサーの放射線データ

以下の表はレーザーセンサーの物理的データを特定しています。

最大パルスエネルギー	2.64 μJ
最大平均出力	45 mW
パルス幅	33 ns
発散角 (水平 × 垂直)	28° × 12°



警告

これらの指示を遵守しない場合、目にケガをするおそれがあります。

- レーザーセンサーから 100mm 以内の距離で、拡大鏡、顕微鏡、対物レンズなど、拡大機能のある光学機器を使ってレーザーセンサーをのぞき込んではいけません。(センサーは拡散性不可視レーザー光線を放出しています。)
- レーザーセンサースペアパーツのテスト、修理、取り外し、調節、交換は、資格のあるサービス工場で行う必要があります。ボルボ指定のサービス工場にお任せください。
- 有害な放射線に曝されることがないように、ここで指定されている以外の調整やメンテナンスは一切行わないでください。
- 修理者は、レーザーセンサー用に作成されたサービス工場インフォメーションを遵守しなければなりません。
- レーザーセンサーを取り外さないでください(これにはレンズの取り外しも含まれます)。取り外したレーザーセンサーは IEC 60825-1 の基準に基づいて、レーザークラス 3B に該当します。レーザークラス 3B は、目に安全ではありません。障害を与える危険があります。
- レーザーセンサーをウインドスクリーンから取り外す際には、その前にセン

サーのコネクターを外す必要があります。

- レーザーセンサーをウインドスクリーンに装着する際は、必ず装着が終わってから、センサーのコネクターを接続してください。
- レーザーセンサーは、リモートコントロールキーがキー位置 **II** (p. 106) の場合、エンジンが停止していてもレーザー光線を発します。

関連情報

- City Safety™ (p. 246)



08 運転者サポート

City Safety™ – シンボルおよびメッセージ

City Safety (p. 246)™システムによるオートブレーキ作動時に、コンパインド・メーター・

パネルにシンボル(p. 252)が1つ以上点灯し、ディスプレイテキストが表示されることがあります。ディスプレイテキストは、方向指示器レバーの **OK** ボタンを押して、確認できます。

シンボル ^A	メッセージ	意味/対処
	シティセーフティによる オートブレーキ	City Safety™によりブレーキが自動的に作動しています/作動しました。
	ウインドスクリーンセンサーが 遮られています マニュアル参照	障害物があるため、レーザーセンサーが一時的に機能していません。 センサーをブロックしている障害物を取り除き、センサー前面のウインドスクリーンをきれいにしてください。 レーザーセンサーの制限について確認してください。
	シティセーフティ サービスが必要です	City Safety™が機能していません。 メッセージが残る場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

^A シンボルは概略図です。

関連情報

- City Safety™ (p. 246)
- City Safety™ – 機能 (p. 247)



衝突警告システム*

「オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システム」は、歩行者やサイクリスト、自車の前方で停止している車両、あるいは同じ方向に走行している車両に衝突する危険があるときに運転者をサポートする機能です。

オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムは、運転者がブレーキをかけ遅れたときに作動します。そのため、あらゆる状況で運転者の補助となるわけではありません。

不必要な介入を避けるため、オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムは直前まで作動しないように設計されています。

オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムは、衝突を防止する、または衝突速度を低減することができます。

オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムが装備されているからといって、運転スタイルを変更しないでください。ブレーキの作動をオートブレーキ機能付衝突警告システムのみに頼っていると、いざれ衝突事故につながる可能性があります。

2 段階のシステムレベル

車両の装備に応じて、オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムには以下の2つのタイプがあります。

レベル 1

障害物があっても、運転者への警告²⁰には、可視信号や警告音のみが使用されます。オートブレーキは作動しないため、運転者はご自分でブレーキをかける必要があります。

レベル 2

障害物があれば、可視信号や警告音によって、運転者に警告が発せられます。適切な時間内に運転者が反応しなければ、ブレーキが自動的に作動します。



重要

オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムの内部コンポーネントのメンテナンスは、サービス工場で行う必要があります。ボルボ指定のサービス工場をお勧めします。

関連情報

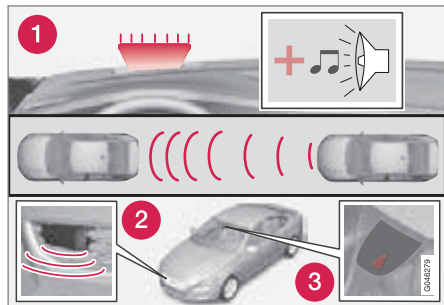
- 衝突警告システム* - 機能 (p. 254)
- 衝突警告システム* - 歩行者の検知 (p. 256)
- 衝突警告システム* - サイクリストの検知 (p. 255)
- 衝突警告システム* - 操作 (p. 257)

- 衝突警告システム* - 制限事項 (p. 259)
- 衝突警告システム* - カメラセンサー制限事項 (p. 260)
- 衝突警告システム* - シンボルおよびメッセージ (p. 261)

²⁰ 「レベル 1」の場合、サイクリスト用の警告はありません。



衝突警告システム* - 機能



機能の概要²¹

- ① 衝突の危険を知らせる警告音および警告灯
- ② レーダーセンサー²²
- ③ カメラセンサー

オートブレーキ機能付衝突警告システムでは、次の順に3段階の介入が行われます。

1. 衝突警告システム
2. ブレーキサポート²²
3. オートブレーキ²²

衝突警告システムと City Safety™ (p. 246) は互いに補完し合います。

1 - 衝突警告システム

まず運転者に衝突事故が切迫していることが警告されます。

衝突警告システムは、歩行者、サイクリスト、自車の前方で停止している車両、または同じ方向に走行している車両を検知できます。

歩行者やサイクリスト、車両との衝突の危険がある場合には、赤の警告灯(1)が点滅し、警告音が鳴って運転者に注意を促します。

2 - ブレーキサポート

警告の後にもさらに衝突の危険が増した場合は、衝突警告システムによりブレーキサポートが作動します。

すなわち、穏やかにブレーキを作動させることで、急ブレーキの準備をします。このとき、わずかな衝撃を感じる場合があります。

運転者が素早くブレーキペダルを踏むと、フルブレーキがかかります。

システムがブレーキだけでは衝突を回避するのに不十分だと判断すると、ブレーキサポートも運転者の制動を補助します。

3 - オートブレーキ

オートブレーキ機能は最後に作動します。

この時点でも運転者が事故を回避するための行動を開始せず、衝突の危険が切迫した場合には、運転者がブレーキをかけるかどうかに関係な

く、オートブレーキ機能が作動します。この場合、衝突時の速度を減少させるためにフルブレーキがかかります。もしくは、衝突を避けるのに十分であれば、制動力が制限されます。サイクリストに対しては、警告およびフルブレーキ介入が大きく遅れたり、同時に作動することがあります。

²¹ 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。

²² システムレベル 2 のみ。



警告

衝突警告システムは、走行状況や交通、天候、路面の状態などにより作動しない場合があります。衝突警告システムは、自車の進行方向とは異なる方向に走行している車両や自転車、または動物には反応しません。

衝突の危険が高くなったときにのみ、警告が出ます。この「機能」の項と「作動限界」の項には、機能の限界が説明されています。オートブレーキ機能付衝突警告システムを使用する前に必ずお読みください。

歩行者および自転車に対する警告およびブレーキ介入は、车速が 80 km/h を超えると解除されます。

歩行者および自転車に対する警告およびブレーキ介入は、街灯が点灯していても、暗がりやトンネル内では作動しません。

オートブレーキ機能により、衝突事故を回避、または衝突速度を低下させることができます。ブレーキの全性能が十分に利用できるように、たとえ車両にオートブレーキがかかっている場合でも、運転者はブレーキペダルを踏み込むようにしてください。

衝突警告システムが作動するまで待つことは絶対にしないでください。オートブレーキ付衝突警告システムが使用されているときでも、適切な距離と速度を維持する責任はつねに運転者にあります。

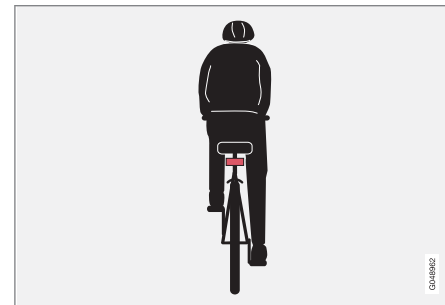
関連情報

- 衝突警告システム* (p. 253)

衝突警告システム* - サイクリストの検知



システムは、同じ方向に進むサイクリストを後ろから捉えます。



システムがサイクリストだと認識できる最適な例 - 体と自転車の輪郭、真後ろおよび車両の中央ラインから



08 運転者サポート



システムが最大限の性能を発揮するためには、サイクリスト検知機能が自転車と乗る人の体の輪郭に関するできるだけ明瞭な情報を得ることが必要です。すなわち、自転車、頭部、両腕、両肩、両脚、胴体に加え、人間のような動きのパターンが検知できることを意味します。

自転車と乗る人の体の大部分がシステムのカメラの視界に入っていない場合には、サイクリストを検知することができません。

- システムは、大人用の自転車に大人が乗っている場合にサイクリストを検知することができます。
- システムは、同じ方向に進むサイクリストを真後ろからのみ検知することができます。斜め方向や横方向からは検知できません。
- その自転車には可視性の高い認定された²³後方反射板が高さ 70 cm 以上の位置に取り付けられていることが必要です。
- 車両の左右サイドから伸ばした仮想上のライン上を進むサイクリストは、遅れて検知されたり、全く検知されないことがあります。
- 夜明けや夕暮れには、人間の目と同様にシステムがサイクリストを検知できる能力が低下します。
- 街灯が点灯していても、暗がりやトンネルの走行中は、システムのサイクリスト検知機能が解除されます。
- サイクリスト検知機能の効果を最大限に発揮させるためには、City Safety™ 機能を起

動する必要があります。City Safety™ (p. 246)を参照してください。

警告

オートブレーキ機能およびサイクリスト検知機能付衝突警告システムは、運転操作を補助するものです。

この機能には次のような制限があります：

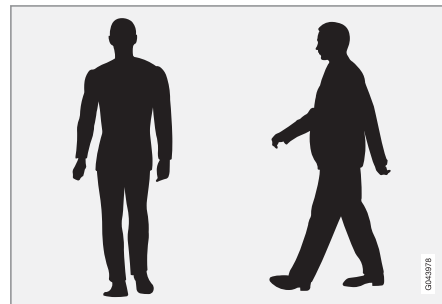
- あらゆる状況ですべてのサイクリストを検知できるわけではありません。例えば、一部が隠れているサイクリストなどは検知できません。
- 身体の輪郭がはっきりわからないような服装の人が乗っているサイクリスト、あるいは側面から接近するサイクリストは検知できません。
- 後部に赤い反射板がついていない自転車は検知できません。
- 大きい荷物などを積んでいる自転車は検知できません。

車両を適切に運転し、速度に応じて安全な距離を保つことは、つねに運転者の責任です。

関連情報

- 衝突警告システム* (p. 253)

衝突警告システム* - 歩行者の検知



体型が明確で、システムが歩行者であると認識できる最適な例

システムが最大限の性能を発揮するためには、歩行者を検知するシステム機能が、体型に関しできるだけ明瞭な情報を得ることが必要です。すなわち、頭部、両腕、両肩、両脚、胴体に加え、人間のような動きのパターンが検知できることを意味します。

体の大部分がカメラから見えない場合には、システムは歩行者を検知することができません。

²³ 反射板は市場の交通当局の推奨および条件を満たしている必要があります。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



- 歩行者が検知されるには、全身が見え、身長が 80 cm 以上であることが必要です。
- カメラセンサーが夜明けや夕暮れに歩行者を検知できる能力は、人間の目と同様に限界があります。
- 暗闇やトンネル走行中は、街灯が点灯している場合でも、カメラセンサーの歩行者検知機能が解除されます。

警告

「オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システム」は、運転操作を補助するものです。この機能はあらゆる状況でどのような歩行者でも検知できるわけではありません。例えば、以下のような場合は検知できません。

- 体の一部が隠れている歩行者、体の輪郭がわかりにくい衣服を着用している歩行者、または身長が 80 cm 未満の歩行者。
 - 大きな荷物などを運んでいる歩行者。
- 車両を適切に運転し、速度に応じて安全な距離を保つことは、つねに運転者の責任です。

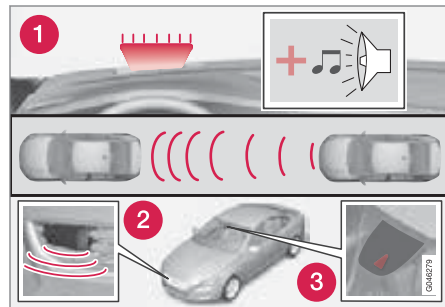
関連情報

- 衝突警告システム* (p. 253)

衝突警告システム* - 操作

衝突警告システムは、センターコンソールの画面およびメニューシステム **MY CAR** から設定します。MY CAR (p. 137) を参照してください。

警告信号オン/オフ



1. 衝突の危険があるときの警告音および警告灯²⁴

衝突警告システムの警告音と警告灯はオンまたはオフに設定できます。

エンジンを停止したときの設定は記憶され、次回エンジンを始動したときに同じ設定になります。

注意

ブレーキサポートおよびオートブレーキ機能は、つねに作動可能状態になっています。非作動状態にすることはできません。

衝突警告システムは、センターコンソールの画面およびメニューシステム **MY CAR** を使用して設定します。(p. 137) を参照してください。

警告灯と警告音

衝突警告システムの警告灯および警告音が作動可能状態の場合、エンジンを始動させるたびに、警告灯(前の図の(1))の別々の光点を短く点灯させることにより警告灯がテストされます。

エンジンの始動後、警告灯と警告音はオフになります。

- メニューシステム **MY CAR** (p. 137) の **運転支援システム** で **衝突警告** を検索し、機能のチェックを外します。

警告音

エンジンの始動後、警告音は単独でオン/オフにすることができます。

- メニューシステム **MY CAR** (p. 137) の **衝突警告** で **警告音** を検索し、オンまたはオフを選択します。

その後、衝突警告システムは警告灯のみで表示されるようになります。

²⁴ 図は略図です。車両モデルおよび詳細は実際と異なる場合があります。



08 運転者サポート



警告距離の設定

警告距離は、警告灯が点灯して警告音が鳴るまでの距離設定です。

- メニューシステム **MY CAR** (p. 137) の **衝突警告** で **車間警告** を検索し、**長く**、**ノーマル**、または **短く** を選択します。

警告距離の設定によって、システムの感度が変化します。警告距離が **長く** のときは、警告が早く出ます。最初に **長く** を選択し、警告が出る回数が多く感じる場合は、警告距離を **ノーマル** に変更してください。

警告距離 **短く** は、ダイナミックな運転を行うときなど、例外的な場合にのみ使用してください。

注意

アダプティブクルーズコントロールを使用しているときは、衝突警告システムが解除されている場合でも、警告灯および警告音がクルーズコントロールにより作動します。

衝突警告システムは運転者に衝突の危険を警告しますが、運転者の反応時間を短くすることはできません。

衝突警告システムが効果を発揮できるよう、つねに車間警告システム (p. 243) の車間時間を 4-5 にセットして走行してください。

注意

状況により、警告距離**長く**を設定していても、警告が出るタイミングが遅いと感じる場合があります。(例えば、前方を走行している車両と自車の速度差が大きいつきや、前方の車両が急ブレーキをかけたときなど。)

警告

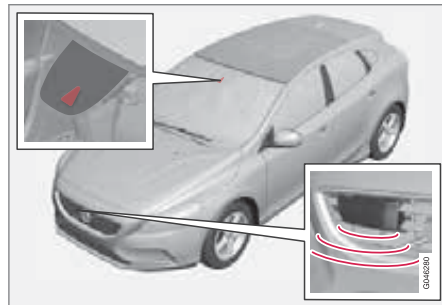
どのような自動システムであっても、あらゆる状況で 100% 適切に機能するという保証はありません。このため、けっして他者や車両を対象にオートブレーキ機能付衝突警告システムをテストしないでください。重大な物損事故や人身事故、場合によっては死亡事故が発生するおそれがあります。

設定の確認

必要な設定は、センターコンソール画面で設定できます。

- メニューシステム **MY CAR** (p. 137) の **運転支援システム** で **衝突警告** を検索します。

メンテナンス



カメラおよびレーダーセンサー²⁵

センサーが正しく機能するように泥や氷、雪などをきれいに取り除き、洗車用洗剤と水で定期的に洗浄してください。

注意

センサーが泥、氷、雪などに覆われているときは、センサーの機能が低下し、誤作動する場合があります。

関連情報

- 衝突警告システム* (p. 253)

²⁵ 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



衝突警告システム* - 制限事項

機能には制限があります。例えば、このシステムは車速が約 4 km/h に達するまでは作動しません。

陽射しが強いとき、光の反射があるとき、運転者がサングラスを着用しているとき、運転者が前方をまっすぐ見ていないときなどは、衝突警告システムの警告灯が見えにくい場合があります。このため、警告音はつねに作動状態にしてください。

路面が滑りやすいときには、ブレーキ距離は長くなるため、衝突を回避する能力が低下する場合があります。そのような状況では、ABS および ESC (p. 212) システムが、安定性を保ちながら、可能な範囲でもっとも優れた制動力を発揮します。

注意

陽射しの強いときなどに車内の温度が上昇すると、衝突警告灯が一時的に非作動となる場合があります。このような場合は、メニューシステムで解除されていても警告音が発動します。

- 前方を走行する車両との距離が近いときや、ステアリングホイールやペダルの動きが大きいとき(スポーティなドライビングスタイルのとき)は、警告が出ない場合があります。

警告

交通状況や外部の影響によって、レーダーまたはカメラセンサーが前方の歩行者、サイクリスト、車両を正しく検知できない場合には、警告やブレーキの介入が遅れたり全く作動しない場合があります。

センサーシステムが歩行者やサイクリスト²⁶を検知できる範囲には限りがあります。このシステムは、50 km/h までの速度域で歩行者やサイクリストに対する効果的な警告およびブレーキ介入を行うことができます。停止車両や低速の車両に対する警告およびブレーキ介入は、70 km/h までの速度域で効果を発揮します。

夜間や視界が悪いときには、停止している車両、あるいは低速で走行している車両に対する警告が出ない場合があります。

歩行者およびサイクリストに対する警告およびブレーキ介入は、車速が 80 km/h を超えると解除されます。

衝突警告システムは、アダプティブクルーズコントロール (p. 227) と同じレーダーセンサーを使用します。

警告が出る回数が多過ぎる、または警告が多く感じる場合は、警告距離を短くします。そうすると、システムが警告を発するのが遅くなり、

警告の回数が減少します。「衝突警告システム - 操作」(p. 257)を参照してください。

リバースギヤが作動すると、オートブレーキ機能付衝突警告システムは一時的に解除されます。

オートブレーキ機能付衝突警告システムは 4 km/h 未満の低速では作動しません。駐車時など、非常に低速で前方の車両に接近している状況でこのシステムが作動しないのはそのためです。

運転者が活発に運転を行っている状況では、衝突警告の発動がわずかに遅延されます。これは、不要な警告を最小限に抑えるためです。

オートブレーキにより静止している物体との衝突が回避された場合には、車両は、最大 1.5 秒間静止したままとなります。移動している前方車両のために車両にブレーキがかかった場合には、前方の車両が維持している車速と同じ速度に減速します。

マニュアルトランスミッション装備の車両では、オートブレーキにより車両が静止状態になると、事前にドライバークラッチペダルを踏み込まない限り、エンジンが停止します。

関連情報

- 衝突警告システム* (p. 253)

²⁶ 自転車に対しては、警告およびフルブレーキ介入が大きく遅れたり、同時に作動することがあります。



08 運転者サポート

衝突警告システム* - カメラセンサー制限事項

この機能は車両のカメラセンサーを使用します。カメラセンサーには一定の制限があります。

車両のカメラセンサーは、オートブレーキ機能付衝突警告システムだけでなく、以下の諸機能によっても使用されます。

- アクティブハイビーム (p. 116)
- ロード・サイン・インフォメーション (p. 216)
- Driver Alert Control - DAC (p. 263)
- レーン・キーピング・エイド (p. 266)

注意

カメラセンサー前方のウインドスクリーン表面に付着した氷、雪、曇り、汚れなどはよく取り除き、きれいな状態を保ってください。

カメラセンサー前方のウインドスクリーンに、なにも貼り付けたり、取り付けたりしないでください。カメラの効力に支障が出て、カメラを使用している各システムが作動しなくなる原因となります。

カメラセンサーは、人間の目と同様に限界があります。例えば、暗闇、大雪や大雨、濃霧では、反応が鈍くなる場合があります。このような状況の下では、カメラに依存するシステムの機能

が大幅に低下するか、一時的に解除される場合があります。

前方から強い光が射し込んでいるとき、路面からの反射光があるとき、路面に雪や氷があるとき、路面が汚れているとき、車線マーキングが見えにくいときなども、カメラセンサーの機能(例えば、車線のスキャンや他車を感知する機能)が著しく低下するおそれがあります。

カメラセンサーの視野には限界があります。このため、状況によっては歩行者、サイクリスト、車両が検知されないか、検知が遅れる場合があります。

気温が非常に高いときは、カメラの機能を保護するために、エンジン始動後約 15 分間、カメラが一時的にオフになる場合があります。

故障点検および対処

コンバインド・メーター・パネルに **ウインドスクリーンセンサーが 遮られています** **マニュアル参照** メッセージが表示される場合は、カメラセンサーが遮られているため、車両前方の歩行者、サイクリスト、他の車両、または路面標識を検知できないことを意味します。

この場合、オートブレーキ機能付衝突警告システムのほかに、自動ハイ/ロービーム切り替えやロード・サイン・インフォメーション、Driver Alert Control、レーン・キーピング・エイドの諸機能も完全には機能しないことを意味します。

以下の表は、表示するメッセージの考えられる原因と、対処方の例を示しています。

原因	対処
カメラセンサー前面のウインドスクリーン表面が汚れているか、氷または雪が付着している。	カメラ前方のウインドスクリーン表面の泥や氷、雪などをきれいに取り除いてください。
濃霧や激しい雨、雪などが原因で、カメラが正しく機能していない。	対処なし。激しい雨や雪のときは、カメラが機能しない場合があります。
カメラ前方のウインドスクリーン表面を清掃した後でもメッセージが消えない。	しばらくお待ちください。障害が解消されたことをカメラが感知するまで、数分間かかる場合があります。
ウインドスクリーンの内側とカメラの間に汚れが付着した。	ボルボ指定のサービス工場で、ウインドスクリーン内側のカメラカバーを清掃してください。

関連情報

- 衝突警告システム* (p. 253)

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



衝突警告システム* - シンボルおよびメッセージ

シンボル ^A	メッセージ	意味/対処
	衝突警告システム OFF	衝突警告システムが解除されています。 エンジンを始動したときに表示されます。 約 5 秒後、または OK ボタンを 1 回押すと、メッセージが消えます。
	衝突警告システムは 利用できません	衝突警告システムを作動できません。 運転者がシステムを起動するときに表示されます。 約 5 秒後、または OK ボタンを 1 回押すと、メッセージが消えます。
	オートブレーキが 作動しました	オートブレーキが作動しました。 OK ボタンを 1 回押すと、メッセージが消えます。
	ウインドスクリーンセンサーが 遮られています マニュアル参照	カメラセンサー (p. 260) が一時的に解除されています。 雪、氷、泥がウインドスクリーンに付着しているときなどに表示されます。 • カメラセンサー前面のウインドスクリーン表面を清掃してください。
	レーダーが遮られています マニュアル参照	オートブレーキ機能付衝突警告システムが、一時的に解除されています。 雨が激しく降っている場合や、泥などがレーダーセンサーの前にたまると、レーダーセンサー (p. 238) が遮られ他の車両を感知することができません。
	衝突警告システム サービスが必要です	オートブレーキ機能付衝突警告システムが、完全または部分的に解除されています。 • メッセージが残る場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

^A シンボルは概略図です - 車両モデルによって異なる場合があります。



関連情報

- 衝突警告システム* (p. 253)



ドライバー・アラート・システム - DAC*

Driver Alert System は、運転者の運転操作能力が低下している場合、または不注意により走行車線を逸脱した場合、運転者を補助するように設計されています。

Driver Alert System には異なる機能があり、これらの機能は同時にまたは個別に作動させることができます。

- ドライバー・アラート・コントロール - DAC (p. 264)
- レーン・キープ・エイド (p. 268)

オンになっている機能はスタンバイモードにセットされており、車速が 65 km/h を超えると自動的に作動します。

この機能は、車速が約 60 km/h を下回ると再び解除されます。

この機能もカメラを使用し、走行車線の両側の車線マークを感知することにより機能します。

警告

Driver Alert System はあらゆる状況で作動するわけではなく、補助機能に過ぎません。

安全運転の責任は、つねに運転者にあります。

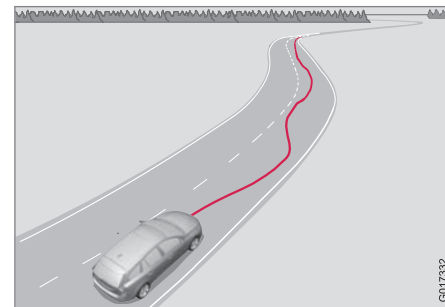
関連情報

- Driver Alert Control (DAC)* (p. 263)
- レーン・キープ・エイド* (p. 266)

Driver Alert Control (DAC)*

DAC 集中力の低下や居眠りが現れるなど、運転者の運転が不安定になると運転者の注意を促す機能です。

DAC は、主に幹線道路で徐々に運転能力が低下する場合を想定しています。



走行している車線の両側の車線マークをカメラが感知し、運転者がステアリングホイールを操作する動きと比較します。車両が車線マークに合わせて走行していない場合、運転者に警告を与えます。

運転者が疲労していても、運転能力に影響が出ない場合もあります。このような場合、運転者に警告を与えない場合があります。そのため、疲労の兆候が現れたら、DAC の警告の有無に関わらず、必ず停車して休憩するようにしてください。



08 運転者サポート



注意

この機能があっても、長時間続けて運転することは避けてください。運転者は定期的に休憩し、十分休んでから運転してください。

作動限界

状況により、運転能力が低下していなくてもシステムが警告を発する場合があります。例えば：

- 強い横風が吹いているとき
- わだちが多い路面を走行しているとき

DAC は、市街地走行を意図したものではありません。

注意

カメラセンサーには制限があります。衝突警告システム* - カメラセンサー制限事項 (p. 260) を参照してください。

関連情報

- ドライバー・アラート・システム - DAC* (p. 263)
- Driver Alert Control (DAC)* - 操作 (p. 264)
- Driver Alert Control (DAC)* - シンボルおよびメッセージ (p. 265)
- レーン・キーピング・エイド* (p. 266)

Driver Alert Control (DAC)* - 操作

センターコンソール画面のメニューシステムから設定します。

オン/オフ

Driver Alert 機能は、メニューシステム **MY CAR** (p. 137) を使用してスタンバイモードに設定することができます。

- チェックマークあり - 機能オン
- チェックマークなし - 機能オフ

機能

Driver Alert は車速が 65 km/h 以上になると作動し、60 km/h 以上である限り作動し続けます。



走行が不安定になると警告音が鳴り、ディスプレイテキスト (p. 265) の **ドライバー・アラート・コントロール 休憩してください** が表示されて、ドライバーに注意

を促します。同時に、コンパインド・メーター・パネルに関連のシンボルが点灯します。それでも運転能力が向上しない場合、しばらくすると再警告されます。

警告表示はオフにすることができます。

- 左側レバースイッチの **OK** ボタンを押してください。

警告

警告は必ず真剣に受け止め、対処してください。眠気に襲われている運転者は、自分のコンディションを自覚していない場合が多く見受けられます。

警告が出た、または運転者が疲労を感じた場合は、すみやかに安全な方法で停車し、休憩してください。

研究調査により、疲労時の運転は飲酒運転と同様の危険があることがわかっています。

関連情報

- ドライバー・アラート・システム - DAC* (p. 263)
- Driver Alert Control (DAC)* (p. 263)



Driver Alert Control (DAC)* - シンボルおよびメッセージ

ドライバー・アラート・コントロール - DAC
(p. 263)は、さまざまな状況で、コンパインド・

メーター・パネルまたはセンターコンソールの画面にシンボルとディスプレイテキストを表示することがあります。

下に一部の例を挙げています。

シンボル ^A	メッセージ	意味
	ドライバー・アラートコントロール 休憩してください	車両の運転が不安定になっています。運転者は、警告音およびディスプレイテキストで警告を受けます。
	カメラセンサーが一時解除されています。 マニュアル参照	カメラセンサーが一時解除されています。 雪、氷、泥がウインドスクリーンに付着しているときなどに表示されます。 カメラセンサー前面のウインドスクリーン表面を清掃してください。 カメラセンサーの制限事項については、衝突警告システム* - カメラセンサー制限事項 (p. 260)を参照してください。
	ドライバー・アラートコントロール サービスが必要です	システムが解除されています。 メッセージが残る場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

^A シンボルは概略図です。

関連情報

- ドライバー・アラート・システム - DAC*
(p. 263)
- Driver Alert Control (DAC)* - 操作
(p. 264)
- レーン・キープアシスト・システム (p. 266)

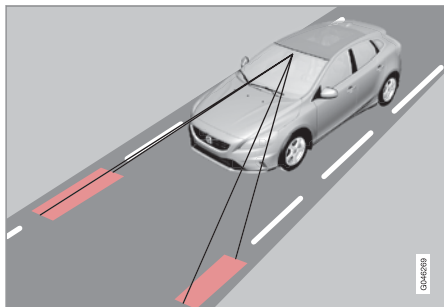


08 運転者サポート

レーン・キーピング・エイド*

レーン・キーピング・エイドは *Driver Alert System* の機能のひとつです。LKA (Lane Keeping Aid) と呼ばれることもあります。

この機能は、特定の状況で偶発的に車線から逸脱する危険を低減するために、**高速道路や同様の主要道路**で使用することが想定されています。



カメラが道路/車線の境界線を検知します。車両が境界線を越えそうになると、レーン・キーピング・エイドは軽度の操舵力を駆使して、自動的にステアリング操作を行い、車両を車線内に戻します。

車両が境界線に到達する、または境界線を越えると、レーン・キーピング・エイドはステアリングホイールを振動させて運転者に警告も与えます。

警告

LKA は、運転者を補助する機能に過ぎません。走行状況や交通、天候、路面の状態などにより作動しない場合があります。

安全運転を行い、適用されている法律や交通規則に従う責任は、つねに運転者にあります。

関連情報

- レーン・キーピング・エイド - 機能 (p. 266)
- レーン・キーピング・エイド - 作動 (p. 268)
- レーン・キーピング・エイド - 制限事項 (p. 268)
- レーン・キーピング・エイド - シンボルおよびメッセージ (p. 270)
- ドライバー・アラート・システム - DAC* (p. 263)

レーン・キーピング・エイド - 機能

オフおよびオン

レーン・キーピング・エイドは、車線境界線がはっきりと視認できる道路で速度が 65-200 km/h のときに作動します。車線の幅が 2.6 m 未満の狭い道路では、この機能は一時的に解除されます。



センターコンソールのボタンを押して、機能をオン/オフにします。ボタンの LED が点灯しているとき、システムは作動しています。

選択した装備の組み合わせによっては、センターコンソールにオン/オフボタンを配置するスペースがない場合があります。その場合、この機能は車両のメニューシステム **MY CAR** (p. 137) で制御します。次の手順に従ってください：

- **車線内走行維持補助** を検索し、オンまたはオフを選択します。

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。

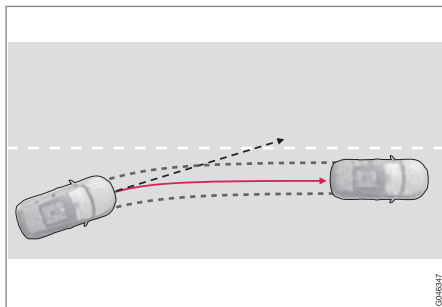


さらに、**MY CAR** では以下が選択できます：

- ステアリングホイールの振動による警告：**バイブレーションのみ** - オンまたはオフ。
- アクティブステアリング：**ハンドルアシストのみ** - オンまたはオフ。
- ステアリングホイール内の振動とアクティブステアリングの両方による警告：**全機能** - オンまたはオフ。

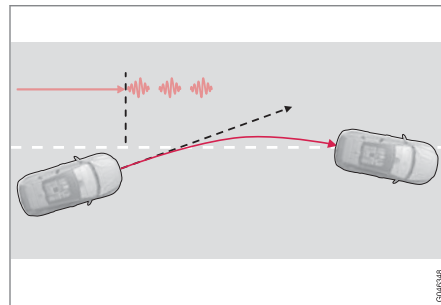
アクティブステアリング

レーン・キープینگ・エイドは、車両を車線境界線の内側に維持するように努めます。



LKA が介入し、反対方向に操舵しようとし、運転者が方向指示器を操作することなく車両が車線マークの左右いずれかのラインに接近すると、車両が元に戻るようガイドされます。

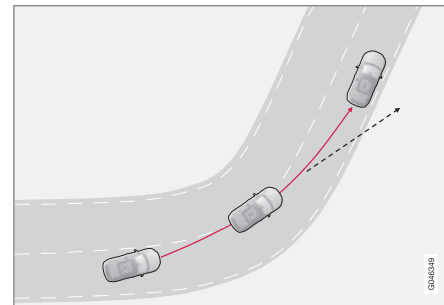
ステアリングホイールの振動による警告



LKA が操舵し、ステアリングホイールを振動させて警告します²⁷。

車両が境界線を越えると、レーン・キープینگ・エイドはステアリングホイールを振動させて運転者に警告も与えます。わずかなステアリングトルクの作動で車両が能動的に操舵されたとしても、この警告は発せられます。

ダイナミックコーナリング



急な内向きカーブでは、LKA は作動しません。

状況により、レーン・キープینگ・エイドは、ステアリング操作やステアリングホイール振動による警告を行うことなく、境界線からのみ出しを容認することがあります。まっすぐ前方が見渡せ、隣の車線を使用してダイナミックコーナリングを行う場合などが、これに該当します。

関連情報

- レーン・キープینگ・エイド* (p. 266)

²⁷ この図は、サイドラインを越えた時の3回のパルス振動を示しています。



08 運転者サポート

レーン・キーピング・エイド - 作動

レーン・キーピング・エイドには、さまざまな状況でわかりやすいグラフィックが追加されます。下に一部の例を挙げています。

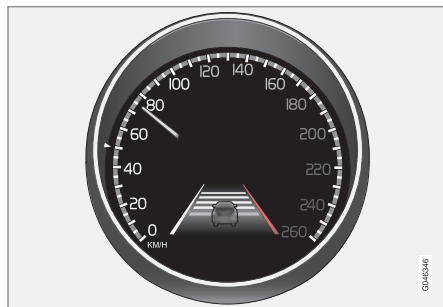
注意

方向指示器が作動している間、LKA は一時的に解除されます。



LKA が以下のようなサイドラインを「検知」する。レーン・キーピング・エイドが作動中に境界線を検知/認識すると、LKA シンボルが白い線でこれを表示します。

- 灰色の境界線 - レーン・キーピング・エイドが車両の当該側の線を検知していません。



LKA が右側で作動

レーン・キーピング・エイドが介入して、当該側の境界線から離れるように操舵します。この状況は以下のように表示されます。

- 当該側：赤線

関連情報

- レーン・キーピング・エイド* (p. 266)

レーン・キーピング・エイド - 制限事項

- レーン・キーピング・エイドのカメラセンサーは人間の目と同様に制限があります。詳しくは、衝突警告システム* - カメラセンサー制限事項 (p. 260) および (p. 258) を参照してください。

注意

非常に過酷な状況では、LKA により運転者を正しくサポートすることが困難場合があります。このような場合には、LKA をオフにすることをお勧めします。

そのような状況の例は：

- 道路工事中
- 冬季特有の道路状態
- 路面の状態が悪いとき
- 著しくスポーティーな走行スタイル
- 悪天候で視界が悪くなっているとき

運転者の手はステアリングホイールに

レーン・キーピング・エイドが作動するためには、運転者がステアリングホイールを握っている必要があります。LKA は手がステアリングホイールに接触しているかをモニターし続けます。手の接触が検知されないと、運転者にステアリング操作を自発的に行うように促すディスプレイテキストが表示されます。

運転者がリクエストに従ってステアリング操作を開始しないと、レーン・キーピング・エイド



がスタンバイモードになり、運転者が車両の操舵を再開するまでこのモードのままとなります。

関連情報

- レーン・キープ・エイド* (p. 266)



08 運転者サポート

レーン・キーピング・エイド - シンボル およびメッセージ

LKA 機能がない場合、または中断された場合は、
コンパインド・メーター・パネルにシンボルと

説明のメッセージが表示されることがあります。
該当する場合は、その指示に従ってください。

メッセージの例：

シンボル ^A	メッセージ	意味
	ウインド・スクリーンセンサーが 遮られています マニュアル参照	カメラセンサーが一時解除されています。 雪、氷、泥がウインドスクリーンに付着しているときなどに表示されます。 カメラセンサー前面のウインドスクリーン表面を清掃してください。 カメラセンサーの制限事項については、衝突警告システム* - カメラセンサー制限事項（p. 260）および（p. 258）を参照してください。
	レーンキーピングエイド サービスが必要です	システムが解除されています。 メッセージが残る場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。
	レーンキーピングエイド 中断されました	LKA はスタンバイモードに設定されています。機能が再度オンになったら、LKA シンボルの線で表示されます。

^A 表の記号は略図です。実際にコンパインド・メーター・パネルに表示されるシンボルは、多少異なることがあります。

関連情報

- レーン・キーピング・エイド*（p. 266）



パークアシスト*

パークアシストは、駐車をする際のサポートとして使用してください。確認音およびセンターコンソールの画面に表示されるシンボルが、障害物との距離を示します。

パークアシストの音量は、継続的な警告音が聞こえている間に、センターコンソールの **VOL** ノブまたは車両のメニューシステム **MY CAR** で調節することが可能です。MY CAR (p. 137) を参照してください。

パークアシストには、2 種類のタイプがあります：

- リアのみ
- フロントおよびリア

注意

トウバーが車両の電気系統に組み込まれている場合には、トウバーの突き出し部分も駐車スペースの計算時に考慮されるようになります。

警告

- パークアシストは駐車時の補助システムに過ぎず、車両の操作の責任はつねに運転者にあります。
- このセンサーには死角があり、すべての物体を感知することはできません。
- 車両のそばに人間やペットなどがいる場合がありますので、十分にご注意ください。

関連情報

- パークアシスト* - センサーの清掃 (p. 274)
- パークアシスト* - 機能 (p. 271)
- パークアシストシステム* - フロント (p. 273)
- パークアシスト* - 異常表示 (p. 274)
- パークアシスト* - リア (p. 272)
- パークアシスト・カメラ (p. 275)
- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 279)

パークアシスト* - 機能

エンジンを始動するとパークアシストが自動的に起動し、スイッチのオン/オフライトが点灯します。ボタンでパークアシストを解除すると、LED は消灯します。



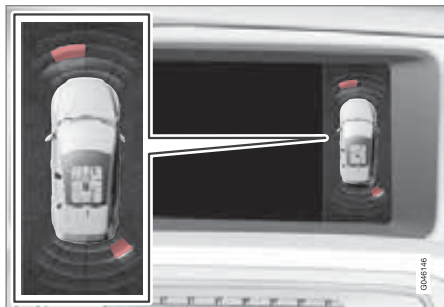
パークアシストおよび CTA[®] 用センサーの ON/OFF

センターコンソールの画面に、車両と障害物の位置関係が表示されます。

28 左右からの交通の警告については、CTA (クロス・トラフィック・アラート) (p. 287) を参照



08 運転者サポート



表示画面ビュー - 左フロントと右リアの障害物を示します。

4つのセンサーの内、どれが障害物を検知しているかシンボルで表示します。シンボルの表示が車両に近ければ近いほど、車両と検知された障害物の距離が短いことを示します。

車両前後の障害物に近づくと、確認音の間隔が短くなります。オーディオユニットからのサウンドなどは、自動的にミュート(消音)になります。

センサーと障害物の距離が 30 cm 以内になると、確認音が連続した音に変わり、アクティブなセンサーに一番近いフィールドが着色表示されます。車両の前後両方で、連続音が鳴る距離内に障害物が検知された場合には、ラウドスピーカーから交互に音が聞こえます。

重要

チェーンや光沢のある細いボール、低い柵などの物体が「信号遮蔽」領域に入ってきたために、センサーがこれらの物体を一時的に検知せず、本来なら途切れのないトーンに変わるはずのパルス音が、不意に停止する場合があります。

センサーはプラットフォームなどの高い物体を検知することはできません。

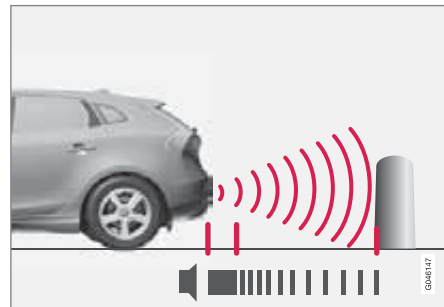
- このような場合には、十分注意をはらいながら車両を非常にゆっくりと操作、移動するか、駐車操作を中止してください。一時的にセンサーが最適に機能していないため、車両やその他を損傷させるおそれが高くなります。

関連情報

- パークアシスト* (p. 271)
- パークアシスト* - センサーの清掃 (p. 274)
- パークアシストシステム* - フロント (p. 273)
- パークアシスト* - 異常表示 (p. 274)
- パークアシスト* - リア (p. 272)
- パークアシスト・カメラ (p. 275)
- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 279)

パークアシスト* - リア

パークアシストは、駐車をする際のサポートとして使用してください。確認音およびセンターコンソールの画面に表示されるシンボルが、障害物との距離を示します。



車両後方の有効距離は、約 1.5 m です。確認音は、リアスピーカーから発信されます。

リアパークアシストは、リバースギヤにシフトしたときに作動します。

トレーラーなどをけん引バーに接続した状態で後退する際には、リアパークアシストが自動的に解除されます。センサーがトレーラーに反応するためです。



注意

ボルボ純正トレーラーケーブルを使用せずに、トウバーにトレーラーまたはバイクキャリアを取り付けて後退する際には、センサーがトレーラーやバイクキャリアに反応しないように、パークアシストを手動で解除することが必要になる場合があります。

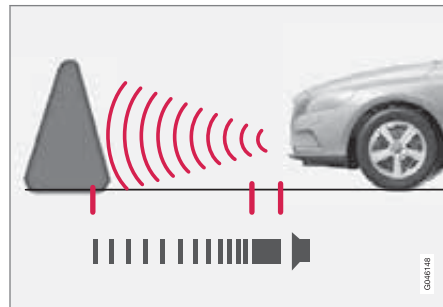
関連情報

- パークアシスト* (p. 271)
- パークアシスト* - センサーの清掃 (p. 274)
- パークアシスト* - 機能 (p. 271)
- パークアシストシステム* - フロント (p. 273)
- パークアシスト* - 異常表示 (p. 274)
- パークアシスト・カメラ (p. 275)
- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 279)

パークアシストシステム* - フロント

パークアシストは、駐車をする際の補助として使用してください。確認音およびセンターコンソールの画面に表示されるシンボルが、障害物との距離を示します。

エンジンを始動するとパークアシストが自動的に起動し、スイッチのオン/オフライトが点灯します。ボタンでパーク・シストを解除すると、LED は消灯します。



車両前方の有効距離は、約 0.8 m です。確認音は、フロントスピーカーから発信されます。

フロントパークアシストは、車速が約 10 km/h 以下のときに作動します。システムが起動していることを示すため、ボタンの LED が点灯します。速度が 10 km/h 以下になると、再び作動します。

重要

補助ランプなど装着時：センサーの邪魔にならないように注意してください。補助ランプを障害物として検知して、誤作動する場合があります。

関連情報

- パークアシスト* (p. 271)
- パークアシスト* - センサーの清掃 (p. 274)
- パークアシスト* - 機能 (p. 271)
- パークアシスト* - 異常表示 (p. 274)
- パークアシスト* - リア (p. 272)
- パークアシスト・カメラ (p. 275)
- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 279)



08 運転者サポート

パークアシスト* - 異常表示

パークアシストは、駐車をする際の補助として使用してください。確認音およびセンターコンソールの画面に表示されるシンボルが、障害物との距離を示します。

 コンバインド・メーター・パネルのインフォメーションシンボルが常時点灯し、テキストメッセージ **パーキングアシストシステム サービスが必要です** が表示された場合は、パーク・アシストが解除されています。

！ 重要

状況によっては、外部サウンドソースがシステムと同じ超音波周波数を放出しているために、パーキングセンサーから誤認の警報信号が発せられることがあります。

例えば、車のホーン、濡れたアスファルトの路面でのタイヤの音、エアブレーキ、およびオートパイの排気音などです。

関連情報

- パークアシスト* (p. 271)
- パークアシスト* - センサーの清掃 (p. 274)
- パークアシスト* - 機能 (p. 271)
- パークアシストシステム* - フロント (p. 273)
- パークアシスト* - リア (p. 272)
- パークアシスト・カメラ (p. 275)

- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 279)

パークアシスト* - センサーの清掃

パークアシストは、駐車をする際の補助として使用してください。確認音およびセンターコンソールの画面に表示されるシンボルが、障害物との距離を示します。

センサーを正しく機能させるため、水とカーシャンプー(洗車洗剤)で洗浄してください。



センサーの位置(フロント)



センサーの位置(リア)

注意

センサーが泥、氷、雪などに覆われているときは、センサーの機能が低下し、誤作動する場合があります。

関連情報

- パークアシスト* (p. 271)
- パークアシスト* - 機能 (p. 271)
- パークアシストシステム* - フロント (p. 273)
- パークアシスト* - 異常表示 (p. 274)
- パークアシスト* - リア (p. 272)
- パークアシスト・カメラ (p. 275)
- パークアシスト・パイロット(PAP)* (p. 279)

パークアシスト・カメラ

パーキングカメラは、リバースギヤを選択したときに起動する補助システムです。

このカメラからの画像は、センターコンソールの画面に表示されます。

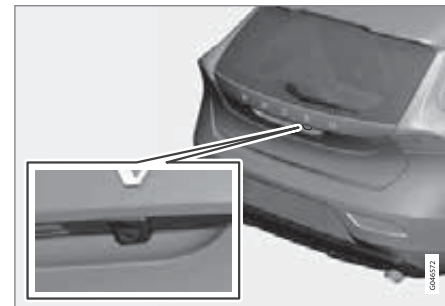
注意

トウバーが車両の電気系統に組み込まれている場合には、トウバーの突き出し部分も駐車スペースの計算時に考慮されるようになります。

警告

- パーキングカメラは補助装置であり、後退中の運転者の責任にとって代わるものではありません。
- カメラには死角があり、すべての物体を感知することはできません。
- 車両のそばに人間やペットなどがいる場合がありますので、十分にご注意ください。

機能と操作



カメラはテールゲート開閉用ハンドルの隣にあります。

カメラにより、車両後方の様子や、側面から現れるものを見ることができます。

カメラは、車両後方の広いエリアや、バンパーやトウバーの一部も表示します。

画面上の物体はわずかに傾いているように見えますが、これは異常ではありません。

注意

ディスプレイ画面上の物体は、画面上の見かけより、車両に接近している可能性があります。

別の画像が表示されている場合には、パーキングカメラシステムが自動的に切り替わり、カメラ画像が画面に表示されます。



08 運転者サポート



リバースギヤを選択すると、その時点でのステアリングホイールの角度に合わせ、後輪の予想進路が画面に2本の実線で表示されます。このため、縦列駐車や狭い場所への後退、トレーラーのけん引が容易になります。車両のおおよその輪郭も点線で表示されます。パークアシストのラインはオフにすることができます。設定(p. 278)のセクションを参照してください。

車両にパークアシストセンサー* (p. 271)も装備されている場合、検知された障害物との距離を示すために、センサーからの情報が色分けされてグラフィック表示されます。後述の「リバースセンサー装備車」を参照してください。

このカメラは、リバースギヤが解除された後約5秒間、もしくは、車速が前進で10 km/h、後進で35 km/hを超えるまで起動したままとなります。

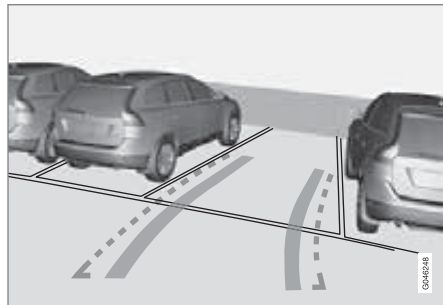
周囲の明るさ

カメラの画像は、周囲の明るさに応じて自動的に調整されます。このため、画質と輝度は若干変化します。明りが乏しい状況では、画質がわずかに悪くなることがあります。

注意

もっとも効率的に作動するように、カメラのレンズに泥や雪、氷が付着していないように気をつけてください。これは、暗いときには特に重要です。

ガイドライン



パークアシストのラインが、運転者に表示される際の例

画面上のガイドラインは、車体後方の地面に引かれたように画面に表示され、ステアリング角に応じて変化します。運転者は、車両が旋回しているときでも、車両の進行方向を確認することができます。

注意

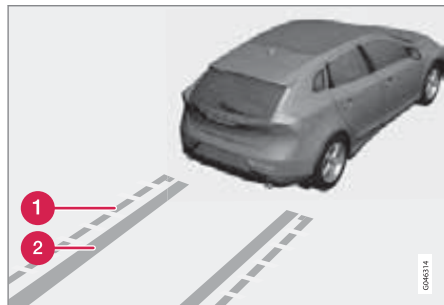
- 車両に電氣的に接続されていないトレーラーをけん引中に後退する際には、ディスプレイに表示される線は**車**の経路で、トレーラーの経路ではありません。
- トレーラーが車両の電気カルシステムに電氣的に接続されている場合には、画面には線は表示されません。
- ボルボ純正トレーラーケーブルを使用してトレーラーをけん引するときには、パーキングカメラは自動的に非作動状態になります。

重要

ディスプレイに表示されるのは、車両後方の様子のみであることにご注意ください。後退時には、車両の側面や前方にも注意をはらってください。



境界線



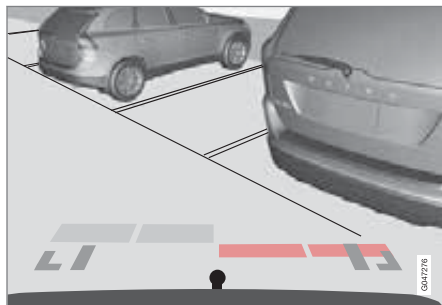
システム内の他のライン

- ① 車両軌道ガイドライン
- ② 後輪軌道ガイドライン

点線(1)フレームは、バンパー後方約 1.5 m のゾーンを示します。また、ドアミラーや車両の角など、車のもっとも突き出た部分の限界も示します(車両の旋回時も同様)。

サイドラインの間に表示される幅広の後輪軌道ガイドライン(2)は、後輪が通過する場所を示し、障害物がない場合には、バンパーから約 3.2 m 後方まで続きます。

リバースセンサー装備車*



色付きのフィールド(センサー毎に 1 つずつで計 4 箇所)は、距離を示します。

車両にパークアシストセンサー(p. 271)も装備されている場合、障害物を検知したセンサーごとに領域が色分けされて表示されます。

障害物までの距離が減少すると、着色表示の色も薄黄色から黄色、オレンジ色を介して赤色へと変化します。

カラー/ペイント	距離(m)
薄い黄色	0.7-1.5
黄色	0.5-0.7
オレンジ	0.3-0.5
赤色	0-0.3

関連情報

- ・ パークアシスト・カメラ - 設定 (p. 278)
- ・ パークアシスト・カメラ - 制限事項 (p. 279)
- ・ パークアシスト* (p. 271)
- ・ パークアシスト・パイロット(PAP)* (p. 279)



パークアシスト・カメラ - 設定

オフのカメラをオンにする

リバースギヤが選択されているときにカメラ機能をオフにした場合、以下の方法でオンにすることができます。



メインソースメニュー²⁹

1. **EXIT** を1または2回長押しして、メインソースメニューにアクセスします。
2. **TUNE** を使用して「カメラ」オプションを選択し、**OK/MENU** を押します。
3. 以下のメニューで次の操作を行います。 - **TUNE** を使用して目的のカメラ画像を選択し、**OK/MENU** を押します。画面に現在のカメラ画像が表示されます。

オプション*

フロントカメラオプション装備車には、クライメートパネルに **CAM** ボタンがあります。



ボタンの場所は、他の装備のオプションに応じて異なることがあります。

- **CAM** を押してカメラをオンにします。画面に現在のカメラ画像が表示されます。
- リアカメラとフロントカメラの画像を切り替える方法：
- **CAM** を押すか、または **TUNE** を回します。

設定を変更する

初期設定では、リバースギヤを選択したときにカメラが起動します。

パーキングカメラの設定は、画面にカメラの画像が表示されているときに変更することができます。

1. カメラの画像が表示されているときに、**OK/MENU** を押します。画面にさまざまなオプションのメニューが表示されます。
2. **TUNE** を使用して、目的のオプションにします。
3. **OK/MENU** を1回押してオプションをハイライト表示し、**EXIT** を押して終了します。

トウバー

カメラはトレーラーけん引時にも便利です。トレーラー方向へのトウバーの予想軌跡に対応するパークアシストのラインを、後輪軌道ガイドラインと同様に、画面に表示することができます。

後輪軌道ガイドラインの表示またはトウバーの軌跡の表示は切り替えることができます。両方を同時に表示することはできません。

1. カメラ画像が表示されているときに **OK/MENU** を押します。
2. **TUNE** を使用して、**トウバー軌道ガイドライン** オプションを選択します。
3. **OK/MENU** を1回押してオプションをハイライト表示し、**EXIT** を押して終了します。

²⁹ メニューシステムについては、付録 Sensus Infotainment を参照してください。

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



ズーム

正確な操作が必要な場合、カメラ画像を拡大表示することができます。

- **CAM** を押すか、**TUNE** を回します。繰り返し押す/回すと、通常ビューに戻ります。

利用可能なオプションが他にもある場合、ループで表示されます。目的のカメラ画像が表示されるまで、押して/回してください。

関連情報

- パークアシスト・カメラ (p. 275)
- パークアシスト・カメラ - 制限事項 (p. 279)
- パークアシスト* (p. 271)
- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 279)

パークアシスト・カメラ - 制限事項

注意

サイクルキャリアなどアクセサリを車両の後ろに取り付けるとカメラの視界を遮るおそれがあります。

注意事項

画面上では隠れている部分が比較的小さく見えていても、実際に視界から隠れているのは、相当大きな領域である場合がありますのでご注意ください。障害物の実際の大きさは、車両がかなり接近するまでわからない場合があります。

- カメラのレンズの泥や氷、雪などをきれいに取り除いてください。
- カメラレンズは、ぬるま湯と洗車用洗剤で定期的に洗浄してください。レンズを傷つけないように注意してください。

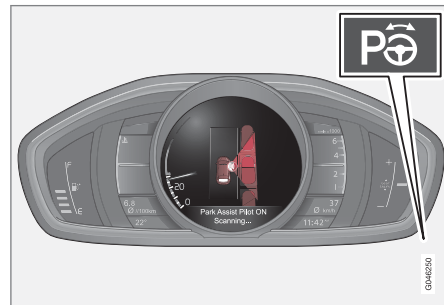
関連情報

- パークアシスト・カメラ (p. 275)
- パークアシスト・カメラ - 設定 (p. 278)
- パークアシスト* (p. 271)
- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 279)

パークアシスト・パイロット (PAP)*

パークアシスト・パイロット (PAP - Park Assist Pilot) は、まず十分なスペースがあるかを確認し、その後ステアリングホイールを操作して、運転者が車両を一定のスペースに駐車する作業をサポートします。

コンバインド・メーター・パネルはエレメントの実行時にシンボル、画像およびテキストを表示します。



オン/オフボタンはセンターコンソール上にあります。

注意

トウバーが車両の電気系統に組み込まれている場合には、トウバーの突き出し部分も駐車スペースの計算時に考慮されるようになります。



08 運転者サポート



警告

PAP はあらゆる状況で作動するわけではなく、補助機能に過ぎません。

車両を安全に運転し、駐車中、周囲の状況や接近または通過する他の道路使用者に注意をはらう最終責任はつねに運転者にあります。

関連情報

- パークアシスト・パイロット (PAP)* - 機能 (p. 280)
- パークアシスト・パイロット (PAP)* - 操作 (p. 281)
- パークアシスト・パイロット (PAP)* - 制限事項 (p. 282)
- パークアシスト・パイロット (PAP)* - シンボルおよびメッセージ (p. 284)
- パークアシスト・カメラ (p. 275)

パークアシスト・パイロット (PAP)* - 機能

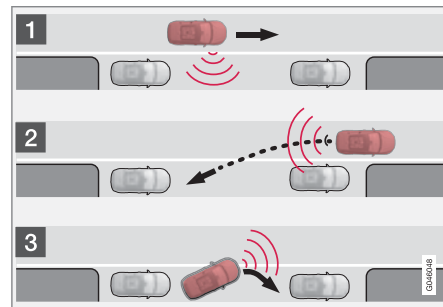
コンパインド・メーター・パネルはエレメントの実行時にシンボル、画像およびテキストを表示します。

注意

PAP 機能により、スペースの計測が行われ、ステアリングホイールが操作されます。運転者はコンパインド・メーター・パネルの指示に従ってギヤを選択(前進/後進)し、速度とブレーキを制御するだけで済みます。

エンジンが始動し、以下の条件が満たされると、PAP が起動します。

- PAP 機能の作動中に ABS³⁰ または ESC³¹ 機能が介入してはならない。これらの機能は急勾配や滑りやすい路面などで起動することがあります。詳しくは、フットブレーキ (p. 321) およびスタビリティ・システム ESC (p. 212) のセクションを参照してください。
- トレーラーが車両に接続されていない。
- 車速が 50 km/h 未満である。



PAP の原理

PAP 機能は以下の手順で駐車を行います。

1. システムが駐車スペースを探し、スペースを計測します。計測中の車速は 30 km/h 未満でなければなりません。
2. 後退中に、車両は駐車スペースに入るように操舵されます。
3. 車両を前後に動かして、駐車スペースの中に配置します。

関連情報

- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 279)
- パークアシスト・カメラ (p. 275)

³⁰ Anti-lock Braking System - アンチロックブレーキシステム

³¹ Electronic Stability Control - エレクトロニック・スタビリティ・コントロール (ESC)

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



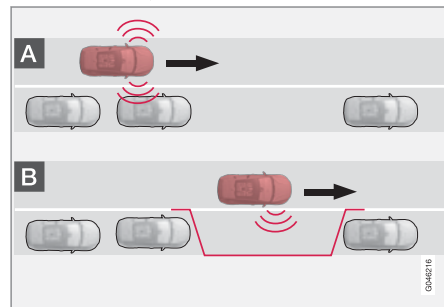
パークアシスト・パイロット(PAP)* - 操作

PAP が作動すると、画像とディスプレイテキスト画像とディスプレイテキスト(p. 284)の両方を使用した、シンプルでわかりやすい指示がコンパインド・メーター・パネルに表示されます。

注意

駐車中にステアリングホイールを操作する際、ステアリングホイールの位置によっては、メーター・パネルの指示が見えなくなることがありますのでご注意ください。

1 - 探索と測定値の確認



PAP 機能が駐車スペースを探し、十分なスペースがあるか確認します。次の手順に従ってください：



1. ボタンを押して PAP を起動します。車速が 30 km/h を超えないように走行してください。

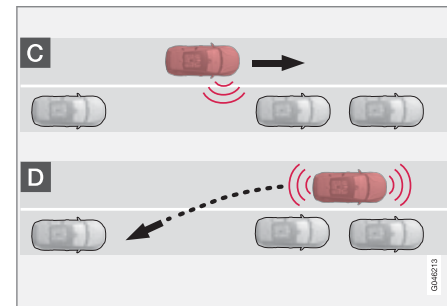
2. コンパインド・メーター・パネルを確認し、画像とテキストの指示があれば停車できるように準備してください。
3. 画像とテキストにより指示があれば、停車してください。

注意

PAP は車両の助手席側にある駐車スペースを探し、指示を表示して、車両を案内します。しかし、必要であれば、運転席側の路上に駐車させることもできます。

- 運転席側の方向指示器を作動させてください。これで道路の運転席側に駐車できるようになります。

2 - 後退する



後退中に PAP が操舵を行い、車両を駐車スペースに誘導します。次の手順に従ってください：

1. 車両後方になにもないことを確認し、リバースギヤを作動させてください。
2. ステアリングホイールを握らずゆっくり、慎重に後退します。車速は約 7 km/h 以内に保ってください。
3. コンパインド・メーター・パネルを確認し、画像とテキストの指示があれば停車できるように準備してください。



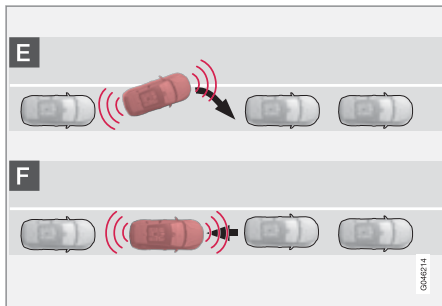
08 運転者サポート



注意

- PAP 機能が作動している間は、ステアリングホイールに手を触れないでください。
- ステアリングホイールの動きが妨げられず、自由に回転できるようにしてください。
- 最適な結果を得るためには、ステアリングホイールが回転し終わるのを待ってから、前進/後進を始めてください。

3 - まっすぐにする



車両が駐車スペースに収まったら、まっすぐにして停車する必要があります。

1. 1 速ギヤか **D** 位置にし、ステアリングホイールが動きを止めるまで待ち、その後ゆっくり前進してください。
2. 画像とディスプレイテキストにより指示があれば、停車してください。

3. リバースギヤを選択し、画像とディスプレイテキストにより停車するよう指示されるまで、ゆっくり車両を後退させてください。

駐車が完了すると、この機能は自動的にオフになり、画像とディスプレイテキストにより、駐車が完了したことが表示されます。運転者が車両の位置を修正が必要になる場合があります。車両が正しく駐車されているか判断できるのは、運転者のみです。

重要

パークアシストがセンサーを使用するときと比べ、パークアシスト・パイロットがセンサーを使用するときには、警告距離が短くなります。

関連情報

- パークアシスト・パイロット (PAP)*
(p. 279)
- パークアシスト・カメラ (p. 275)

パークアシスト・パイロット (PAP)* - 制限事項

PAP 手順が停止するのは：



- 車速が高過ぎるとき (7 km/h 以上)
- 運転者がステアリングホイールに触れたとき
- ABS³² または ESC³³ 機能がオンになったとき (滑りやすい路面でホイールがグリップを失ったときなど)

PAP 手順が停止するとディスプレイテキストが表示されます。

注意

センサーが泥、氷、雪などに覆われているときは、センサーの機能が低下し、誤作動する場合があります。

重要

状況によっては、PAP が駐車スペースを見つけることができない場合があります。システムが使用するのと同じ超音波周波数を発信している外部サウンドソースによって、センサーが干渉を受けることがその理由の一つとして考えられます。

例えば、車のホーン、濡れたアスファルトの路面でのタイヤの音、エアブレーキ、およびオートバイの排気音などです。

注意事項

パークアシスト・パイロットは、補助機能に過ぎず、失敗のない全自動の機能ではないことを忘れないでください。従って、運転者はいつでも介入できるように準備しててください。以下のような詳細にも注意をはらっておくことが必要です：

- PAP は既に駐車されている車両を基準に機能します。車両が適切に駐車されていない場合、タイヤやホイールリムが路肩に当たって損傷する場合がありますのでご注意ください。
- PAP は、カーブなどのない、まっすぐな道路上に駐車することを念頭に設計されています。このため、PAP がスペースを計測する際には車両が駐車スペースに対し平行であるように注意してください。
- 細い道では、操縦に十分なスペースがないため、駐車スペースを見つけることができない場合があります。このような状況では、駐車したい場所のすぐそばを走行して、システムを補助してください。
- 駐車しようとしている間、車両前部が他の車両が通行している車道に突き出す場合がありますのでご注意ください。
- センサーの検知エリアより高い場所にある物体は、駐車を行うための操縦方法の計算時には考慮されません。このため、PAP が予想するよりも早く駐車スペースに進入しよう

とする場合があります。したがって、このような駐車区画への駐車は避けてください。

- PAP が選択したスペースが駐車に適しているか判断する責任は運転者にあります。
- PAP の機能に影響するおそれがあるため、必ずタイヤ空気圧が適切で、承認されているタイヤ³⁴ を使用してください。
- 激しい降雨や雪の中では、駐車スペースの計算が正しく実行できない場合があります。
- スノーチェーンやスペアタイヤ装着時には、PAP を使用しないでください。
- 積荷が車両から突き出している場合には、PAP を使用しないでください。

重要

タイヤの全周が異なる、他の承認されたホイールリムと交換する場合は、PAP システムのパラメータを変更する必要があることがあります。ボルボ指定のサービス工場にご相談ください。

³² Anti-lock Braking System - アンチロックブレーキシステム

³³ Electronic Stability Control - エレクトロニック・スタビリティ・コントロール

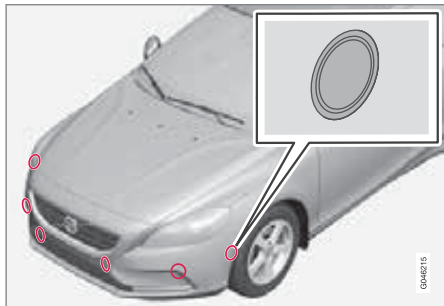
³⁴ 「承認されているタイヤ」とは、納車時に装着されていたのと同じメーカーの、同じタイプのタイヤを指します。



08 運転者サポート



メンテナンス



PAP センサーはバンパーに取り付けられています³⁵ - フロントに 6 個とリアに 4 個あります。

PAP 機能が正しく作動するためには、洗車洗剤と水でセンサーを定期的に洗浄することが必要です (p. 274)。洗浄が必要なセンサーは、パークアシスト (p. 271) が使用するのと同じセンサーです。

関連情報

- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 279)
- パークアシスト・カメラ (p. 275)

パークアシスト・パイロット (PAP)* - シンボルおよびメッセージ

コンバインド・メーター・パネルには、さまざまなシンボルと内容が異なるテキストの組み合わせが表示されます。適切な処置についての明瞭なアドバイスが表示される場合もあります。

パークアシスト・パイロットが解除されていることを示すメッセージが表示された場合は、ボルボ指定のサービス工場に連絡してください。

関連情報

- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 279)
- パークアシスト・カメラ (p. 275)

BLIS (ブラインド・スポット・インフォメーション・システム)

BLIS (Blind Spot Information System) は、交通量の多い複数車線の道路で運転者をサポートする機能です。

BLIS は次のような車両の存在を警告して運転者をサポートします。

- 死角に入っている車両
- 右側および左側の車線を走行しながら急接近する車両



警告

BLIS は補助機能です。あらゆる状況で機能するとは限りません。

BLIS は、安全運転やルームミラーやドアミラーの使用に代わるものではありません。

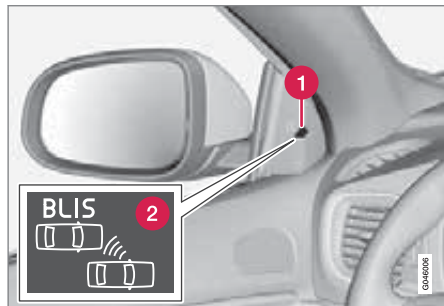
BLIS は運転者の責任および注意に代わるものではありません。安全を確認して車線変更を行うのはつねに運転者の責任です。

³⁵ 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



概要



BLIS ランプの場所³⁶

- ① インジケーターランプ
- ② BLIS 表示

注意

他の車両を感知した側のインジケーターランプが点灯します。車両が両側から追い越されている場合は、左右のインジケーターランプが点灯します。

メンテナンス

BLIS 機能のセンサーは、車両の各隅のリアフェンダー/バンパーの内側にあります。



この表面はきれいな状態に保ってください。左側も同様です。

- もっとも効率的に作動するように、センサー前面の領域はつねにきれいにしておいてください。

関連情報

- BLIS - 操作 (p. 285)
- BLIS および CTA - シンボルおよびメッセージ (p. 289)
- CTA* (p. 287)

BLIS - 操作

BLIS (Blind Spot Information System) は、交通量の多い複数車線の道路で運転者をサポートする機能です。

BLIS の起動/解除

BLIS はエンジンが始動すると起動します。これは、ドアパネルのインジケーターランプが 1 回点滅することで確認できます。



オン/オフボタン

BLIS 機能は、センターコンソールの BLIS ボタンを押すことで解除/起動できます。

選択した装備の組み合わせによっては、センターコンソールにボタンを配置するスペースがない場合があります。その場合、この機能は車両のメニューシステム MY CAR³⁷ で処理します。

³⁶ 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なる場合があります。

³⁷ メニューシステムについては、MY CAR (p. 137)。



08 運転者サポート



- **設定 → カー設定 → BLIS** で **On** または **Off** を選択します。

BLIS が解除/起動されると、ボタン内の LED が消灯/点灯し、コンパインド・メーター・パネルにディスプレイテキストが表示されて、変更が確認できます。起動時には、ドアパネルのインジケーターランプが 1 回点滅します。

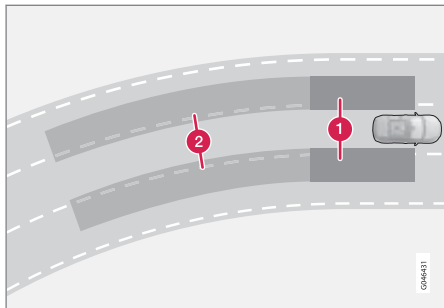
メッセージを消去するには：

- 左側レバースイッチの **OK** ボタンを押してください。

または

- 約 5 秒経過すると、メッセージが消えます。

BLIS の作動



BLIS の原理: 1. 死角内のゾーン。2. 急速に接近する車両用のゾーン。

BLIS の機能は、車速が約 10 km/h になると作動します。

このシステムは、次の場合に反応するように設計されています：

- 自車が他車によって追い越される
- 他車が自車に急速に接近している

BLIS がゾーン 1 内に車両を検出する、あるいはゾーン 2 内に急接近する車両を検出すると、ドアパネルの BLIS ランプが常時点灯します。この状況でドライバーが警告が発せられている側の方向指示器を出すと、BLIS ランプが常時点灯から強い点滅に変わります。



警告

BLIS は、急カーブでは作動しません。

BLIS は、後退時には作動しません。

制限事項

- 泥、氷、雪がセンサーを覆っていると機能が低下し、警告を発することができなくなります。その場合、BLIS は危険を検知できません。
- センサーがある領域に物体やテープ、ラベルなどを貼り付けないでください。
- 車両の電気系統にトレーラーが接続されると、BLIS が解除されます。



重要

BLIS および CTA 機能コンポーネントの修理またはバンパーの塗装修理はサービス工場で行う必要があります。ボルト指定のサービス工場にお任せください。

関連情報

- BLIS (ブラインド・スポット・インフォメーション・システム) (p. 284)
- BLIS および CTA - シンボルおよびメッセージ (p. 289)



CTA*

BLIS 機能 CTA (Cross Traffic Alert) は、後退中に横方向の交通を警告して運転者をサポートします。CTA は BLIS (p. 284) の補助機能です。

CTA の起動/解除

CTA はエンジンが始動すると起動します。これは、ドアパネルのインジケータランプが 1 回点滅することで確認できます。



パークアシストおよび CTA 用センサーのオン/オフ

パークアシスト (p. 271) が搭載されている車両では、パークアシストのオン/オフボタンで CTA 機能を単独で作動/解除することができます。

パークアシストのボタンがない車両では、メニューシステム **MY CAR** (p. 137) で CTA 機能を操作することができます。次の手順に従ってください。

- **BLIS** で **Cross Traffic Alert** を検索し、チェックマークを外します。CTA 機能が解除されます。

ただし、CTA 機能が解除された後も BLIS 機能は作動し続けます。

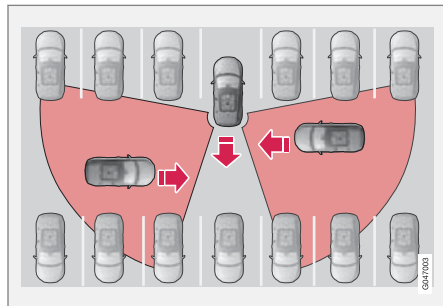
警告

CTA は補助機能です。あらゆる状況で機能するとは限りません。

CTA は、安全運転やルームミラーやドアミラーの使用に代わるものではありません。

CTA は運転者の責任および注意に代わるものではありません。安全を確認して後退を行うのはつねに運転者の責任です。

CTA 作動時



CTA - の原理

駐車位置から後退で出る場合など、後退中に横方向の通行を監視することで、BLIS 機能を補完します。

CTA はもともと車両を検知するようにデザインされていますが、条件が整っている場合には、サイクリストや歩行者など、小さめの対象物も検知できる場合があります。

CTA は後退中にのみアクティブになり、トランスミッションでリバースが選択されると自動的に起動します。

- 横方向から接近してくるものを CTA が感知すると、警告音が聞こえます。この警告音は、接近してくるものの方向に応じて、左または右のスピーカーから聞こえてきます。
- CTA は BLIS ランプも点灯させて、警告を発します。
- 画面の PAS グラフィック (p. 271) のアイコンが点灯してさらなる警告を発します。

制限事項

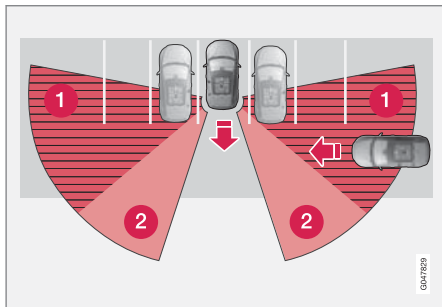
CTA の機能にはある程度の制限があり、すべての状況で正しく動作するとは限りません。例えば、障害物 (他の駐車車両など) がある場合、CTA センサーが障害物を透視することは不可能です。

最初から CTA の「視野」が制限されて接近中の車両を直前まで検知できない状況としては、以下のような例が考えられます。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



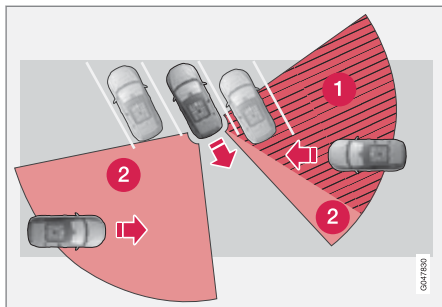
08 運転者サポート



車両が駐車スペースの奥に駐車されている

① CTA の死角。

② CTA の検知/「視認」可能範囲。



角度のある駐車スペースでは、CTA の一方側は完全に死角になる可能性があります。

ただし、運転者が車両をゆっくり後退させると、車両と障害物との角度が変化して死角が急速に小さくなります。

その他の制限事項の例：

- 泥、氷、雪がセンサーを覆っていると機能が低下し、警告を発することができなくなります。その場合、CTA は危険を検知できません。
- 車両の電気系統にトレーラーが接続されると、CTA が解除されます。

！ 重要

BLIS および CTA 機能コンポーネントの修理またはバンパーの塗装修理はサービス工場で行う必要があります。ボルボ指定のサービス工場にお任せください。

メンテナンス

BLIS および CTA 機能のセンサーは、車両の各隅のリアフェンダー/バンパーの内側にあります。



この表面はきれいな状態に保ってください。左側も同様です。

- もっとも効率的に作動するように、センサー前面の領域はつねにきれいにしておいてください。
- センサーがある領域に物体やテープ、ラベルなどを貼り付けないでください。

関連情報

- BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム) (p. 284)
- BLIS および CTA - シンボルおよびメッセージ (p. 289)



BLIS および CTA - シンボルおよびメッセージ

BLIS (Blind Spot Information System)

(p. 284)およびCTA (p. 287)の機能に不具合が生じたり、機能が中断した場合は、コンパインド・メーター・パネルにシンボルと説明のメッセージが表示されます。表示された指示に従ってください。

メッセージの例：

メッセージ	意味
CTA OFF	CTA は手動で解除されています。BLIS は作動しています。
BLIS およ び CTA OFF トレーあり	車両の電気系統にトレーラーが接続されたために、BLIS および CTA が一時的に無効になっています。
BLIS およ び CTA サービスが 必要です	BLIS および CTA が作動していません。 メッセージが残る場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

ディスプレイテキストは、方向指示器レバーの **OK** ボタンを押して、確認できます。

関連情報

- BLIS (ブラインド・スポット・インフォメーション・システム) (p. 284)
- CTA* (p. 287)

ステアリングホイール操舵力の調節

速度感応式パワーステアリングは、車速が上がるとステアリングを重くしてハンドル操作をしやすくします。

高速道路では、ステアリングはさらに重く感じられます。駐車時や低速走行時はステアリングホイールが軽くなり、ハンドル操作が容易にできます。

ステアリングホイール操舵力は、路面反応性やステアリング感度といった好みに合わせて、メニューシステム **MY CAR** (p. 137) で3段階から選択できます。

- メニューシステムで、**ステアリングの重さレベル**を検索し、**低**、**中**、または **高** を選択します。

走行中はこのメニューにアクセスすることはできません。

注意

状況により、パワーステアリングの温度が上がりすぎて、一時的に冷却が必要になることがあります。この間、パワーステアリングのアシスト力が低下するため、ステアリングホイールを回すときに、通常よりも少し重く感じられることがあります。

ステアリングのアシスト力が一時的に低下すると、コンパインド・メーター・パネルにメッセージが表示されます。

関連情報

- MY CAR (p. 137)



レーダーシステムの型式認定が表内に記載されています。

- レーダーセンサー (p. 237)

CE Delphi Electronics &
Safety はここに L2C0038TR およ
び L2C0049TR は指令 1999/5/EC
の本質的要件とその他の関連する
要件を満たしていることを宣言し
ます。この適合宣言については、必
要であれば、Delphi Electronics &
Safety/One Corporate Center/
Kokomo, Indiana 46904-9005 USA
にお問い合わせください。

09

運転操作の要領





09 運転操作の要領

09

アルコールロック*

アルコールロックは、アルコールの影響下にあるドライバーが車両を運転できないようにする機能です。ドライバーは呼気検査により、アルコールの影響下でないことを実証するまで、エンジンを始動することができません。アルコールロックは、各市場での飲酒運転に関する法規で規定されている制限値を基に較正されます。

警告

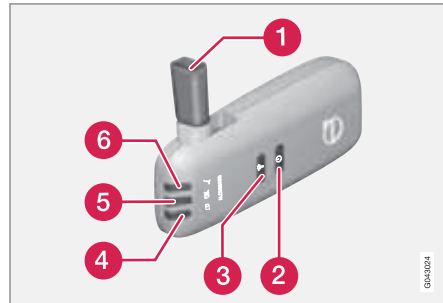
アルコールロックは援助機能に過ぎず、ドライバーの責任を免除するものではありません。酔っていない状態で安全に車両を運転する責任は、つねにドライバーにあります。

関連情報

- アルコールロック* - 機能および操作 (p. 292)
- アルコールロック* - 保管 (p. 293)
- アルコールロック* - エンジン始動前 (p. 293)
- アルコールロック* - 注意事項 (p. 295)
- アルコールロック* - シンボルおよびメッセージ (p. 296)

アルコールロック* - 機能および操作

機能



- 1 呼気検査用ノズル
- 2 電源ボタン
- 3 送信ボタン
- 4 バッテリーの状況を示すランプ
- 5 呼気検査の結果を表示するランプ
- 6 ランプにより呼気検査の準備が整ったことがわかります。

操作 バッテリー

アルコールロックインジケータランプ(4)により、バッテリーの状況がわかります：

インジケータランプ(4)	バッテリーの状況
緑色に点滅	充電中
緑色	充電完了
黄色	ほぼ充電完了
赤色	放電 - ホルダー内のチャージャーを取り付けるか、グローブボックスからの電源ケーブルを接続してください。

注意

アルコールロックを専用ホルダーに収納してください。内蔵バッテリーをつねに充電しておくことができ、車を開けたときにアルコールロックが自動的にオンになります。

関連情報

- アルコールロック* (p. 292)
- アルコールロック* - 保管 (p. 293)
- アルコールロック* - エンジン始動前 (p. 293)
- アルコールロック* - 注意事項 (p. 295)
- アルコールロック* - シンボルおよびメッセージ (p. 296)



アルコールロック* - 保管

アルコールロックを専用ホルダーに収納してください。ハンドヘルドユニットは、ホルダー内で軽く押して放すと飛び出し、ホルダーから取り外すことができます。



ハンドヘルドユニットの保管と充電ステーション

- 嵌合するまで押し込んで、ハンドヘルドユニットをホルダーに戻してください。
- ハンドヘルドユニットはホルダー内に保管してください。確実に保護できるだけでなく、バッテリーの充電状態を保つことができます。

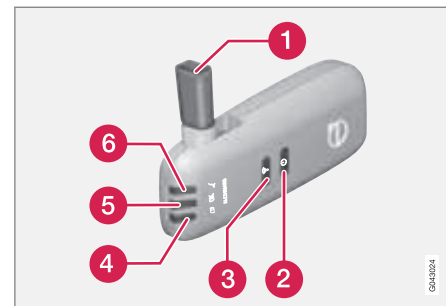
関連情報

- アルコールロック* (p. 292)
- アルコールロック* - 機能および操作 (p. 292)
- アルコールロック* - エンジン始動前 (p. 293)

- アルコールロック* - 注意事項 (p. 295)
- アルコールロック* - シンボルおよびメッセージ (p. 296)

アルコールロック* - エンジン始動前

車両のドアを開けると、アルコールロックが自動的にオンになり、呼気検査の準備をします。



- 1 呼気検査用ノズル
 - 2 電源ボタン
 - 3 送信ボタン
 - 4 バッテリーの状況を示すランプ
 - 5 呼気検査の結果を表示するランプ
 - 6 ランプにより呼気検査の準備が整ったことがわかります。
1. インジケーターランプ(6)が緑になると、アルコールロックの準備が整っています。
 2. アルコールロックをホルダーから外してください。ロックを解除した時点でアルコールロックが車外にあった場合には、電源ボタン(2)でまず起動することが必要です。



09 運転操作の要領



3. ノズル(1)を広げ、大きく息を吸い込んで、クリック音が聞こえるまで約5秒間、一定の圧力で息を吹き込んでください。結果は、以下の**呼気検査後の結果**一覧表に記載されている通りとなります。
4. メッセージが表示されない場合には、車両への送信に不具合があったことを示します。この場合は送信ボタン(3)を押して、手動で結果を送信してください。
5. ノズルを折りたたみ、アルコールロックをホルダーに収納してください。
6. 検査に合格した場合には、5分以内にエンジンを始動してください。それ以上経過すると、もう一度検査を受ける必要があります。

呼気検査後の結果

インジケータランプ (5)+ ディスプレイテキスト	意味
緑色のランプ + 7ルコガート テスト適合	エンジンを始動してください。アルコールは検出されませんでした。
黄色のランプ + 7ルコガート テスト適合	エンジンが始動できます。0.1パーミル以上のアルコールが検出されましたが、法的制限値には達していません ^A 。
赤色のランプ + テスト不適合 1分後再試行して下さい	エンジンは始動できません。検出されたアルコールの量が制限値を上回っています ^A 。

^A 制限値は国によって異なります。国の制限値を確認してください。アルコールロック* - 注意事項 (p. 295) も参照してください。



注意

一定時間運転した後は、30分以内であれば、新たに呼気検査をしなくてもエンジンを再始動することができます。

関連情報

- アルコールロック* (p. 292)
- アルコールロック* - 機能および操作 (p. 292)
- アルコールロック* - 保管 (p. 293)
- アルコールロック* - 注意事項 (p. 295)
- アルコールロック* - シンボルおよびメッセージ (p. 296)



アルコールロック* - 注意事項

装置が正しく機能し、できるだけ正確な測定値が得られるように、以下にご注意ください。

- 呼気検査の前の約5分間は飲食を避けてください。
- 過度のウインドスクリーン洗浄を避けてください。ウォッシャー液に含まれるアルコール成分により、測定結果に誤差が出るおそれがあります。

ドライバーの交代

運転者を交代する場合には、新しい呼気検査が正しく実施できるように、電源ボタン(2)と送信ボタン(3)を同時に約3秒間押したままにしてください。これで、車両は始動阻止モードに戻り、エンジンを始動する前に、呼気検査に合格することが必要になります。

較正とサービス

アルコールロックは12カ月ごとにサービス工場¹で点検および較正を受けることが必要です。

再較正の期限の30日前になると、コンパインド・メーター・パネルに **アルコール・キャリブレーション 必要** **アルコール参照** メッセージが表示されます。30日以内に較正が実施されない場合には、エンジンを通常通り始動できなくなります。その際は、バイパス機能を使用しないと始動できません。「緊急時」の項を参照してください。

送信ボタン(3)を1度押すと、メッセージが消えます。押さなかった場合には、約2分後に自動

的に消えますが、エンジンを始動するたびに再表示されます。メッセージを完全に消去するには、サービス工場¹で較正を受けることが必要です。

冷寒時または高温時

気温が低いほど、アルコールロックの使用準備にかかる時間が長くなります。

温度(℃)	最大加熱時間(秒)
+10～+85	10
-5～+10	60
-40～-5	180

-20℃未満、または+60℃以上では、アルコールロックは追加電源を必要とします。コンパインド・メーター・パネルに **アルコール 電源ケーブルを接続して下さい** と表示されます。この場合、グローブボックスの電源ケーブルを接続し、インジケータランプ(6)が緑色に変わるまでお待ちください。

極寒時にはアルコールロックを屋内に持つていくと、必要な加熱時間が短くなります。

緊急時

緊急時、またはアルコールロックが故障している場合には、アルコールロックをバイパスして車両を運転することができます。

注意

バイパスによる起動はすべてメモリーに記録、保存されます。データの記録 (p. 18) を参照してください。

バイパス機能がオンになると、走行中ずっと、コンパインド・メーター・パネルに **アルコール バイパス可能です** と表示され、サービス工場¹でのリセットが必要になります。

エンジンを始動せずに、その他の手順をすべて実施すると、バイパス機能をテストできますが、エラーメッセージはログに記録されません。車両をロックするとエラーメッセージは消えます。

アルコールロックが取り付けられている場合には、バイパスオプションとして、バイパスまたは緊急機能が選択されています。この設定は後日サービス工場¹で変更できます。

バイパス機能の作動

- 左側レバースイッチ **OK** ボタンと非常点滅表示灯を同時に約5秒間押したままにします。コンパインド・メーター・パネルに **バイパス作動 1分間お待ち下さい** と表示され、その後 **アルコール バイパス可能です** と表示されます。この後、エンジンを始動することができます。

¹ ボルボ指定のサービス工場にお任せください。



09 運転操作の要領



この機能は数回起動することができます。走行中に表示するエラーメッセージは、サービス工場¹でのみ消去できます。

緊急機能の作動

- 左側レバースイッチ **OK** ボタンと非常点滅表示灯を同時に約5秒間押したままにします。コンパインド・メーター・パネルに **7ℓ** **コールド** **パイプ** **可能です** と表示され、エンジンが始動できるようになります。

この機能は一度だけ使用できます。その後は、サービス工場¹でのリセットが必要となります。

関連情報

- アルコールロック* (p. 292)
- アルコールロック* - 機能および操作 (p. 292)
- アルコールロック* - 保管 (p. 293)
- アルコールロック* - エンジン始動前 (p. 293)
- アルコールロック* - シンボルおよびメッセージ (p. 296)

アルコールロック* - シンボルおよびメッセージ

前述のエンジン始動前アルコールロックの機能 (p. 293) に関するメッセージの他に、次のようなメッセージが表示されることもあります。

ディスプレイテキスト	意味/対処
7ℓ コールド 再始動可能です	エンジンを切ってから30分以内であれば、新たにテストを受けなくても、エンジンを始動することが可能です。
7ℓ コールド サービスが必要です	サービス工場 ^A にご連絡ください。
7ℓ コールド 信号が未受信です	送信時に不具合が発生しました。ボタン(3)を手で押して、手動で送信するか、改めて呼気検査を受けてください。
7ℓ コールド 再試行して下さい	検査時に不具合が発生しました。改めて呼気検査を受けてください。
7ℓ コールド もっと長く吹きかけて下さい	吹き込み時間が短すぎます。もう少し長く息を吹き込んでください。

ディスプレイテキスト	意味/対処
7ℓ コールド もっと強く吹きかけて下さい	吹き込みが強すぎます。もう少し穏やかに息を吹き込んでください。
7ℓ コールド もっと弱く吹きかけて下さい	吹き込みが弱すぎます。もう少し強く息を吹き込んでください。
7ℓ コールド 予熱中 お待ち下さい	加熱が完了していません。 7ℓ コールド 5秒間息を吹きかけて下さい が表示するまでお待ちください。

^A ボルボ指定のサービス工場にお任せください。

関連情報

- アルコールロック* (p. 292)
- アルコールロック* - 機能および操作 (p. 292)
- アルコールロック* - 保管 (p. 293)
- アルコールロック* - エンジン始動前 (p. 293)
- アルコールロック* - 注意事項 (p. 295)

¹ ボルボ指定のサービス工場にお任せください。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



エンジンの始動

エンジンは、リモートコントロールキーおよび **START/STOP ENGINE** ボタンで始動、停止します。



リモートコントロールキーが外された/挿入されたイグニッションスイッチと **START/STOP ENGINE** ボタン

重要

リモートコントロールキーを不適切な向きで差し込まないでください。脱着式キーブレードが付いた側を持つようにしてください。以下を参照してください。脱着式キーブレード - 取り外し/取り付け (p. 192)

1. リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに挿入し、エンドポジションまで押し込みます。車両にアルコールロック*が装備されている場合には、呼吸検査に合格するまで、エンジンを始動することができません。アルコールロックについては、アルコールロック* (p. 292)を参照してください。
2. クラッチペダルをいっぱい踏み込みます²。(オートマチックトランスミッション車の場合は、ブレーキペダルを踏み込みます。)
3. **START/STOP ENGINE** ボタンを押して放します。

スターターモーターはエンジンが始動するか、オーバーヒート保護機能が作動するまで作動します。

重要

3回始動を試みてもエンジンが始動しない場合には、3分待ってからもう一度試行してください。バッテリーが回復すると、始動できる可能性が高くなります。

警告

車両から離れる際には、必ずリモートコントロールキーをイグニッションスイッチから取り出してください。また車内にお子様を残す場合は特に、キー位置が **0** になっていることを確認してください。機能については、キー位置 (p. 105)を参照してください。

注意

冷寒時、エンジン始動後のエンジン回転数が、通常よりも若干高くなる場合があります。これは、エミッションシステムをできるだけすみやかに正常な作動温度にして有害な排気ガスを抑え、環境を保護するためです。

キーレスドライブ*

ガソリンエンジンまたはディーゼルエンジンのキーレス (p. 195) 始動では、ステップ 2~3 に従ってください。

² 車両が動いているときは、**START/STOP ENGINE** ボタンを押すだけでエンジンが始動します。



09 運転操作の要領



注意

エンジンを始動するには、キーレスドライブ機能内蔵のリモートコントロールキーが車内またはカーゴスペース内にあることが前提です。

警告

走行中やけん引中は、リモートコントロールキーを車両から**絶対**に取り出さないでください。

関連情報

- キー位置 (p. 105)

エンジンを切る

エンジンを切る場合は **START/STOP ENGINE** ボタンを使用します。

エンジンを OFF にするには：

- **START/STOP ENGINE** ボタンを押すと、エンジンが停止します。
- オートマチックトランスミッション装備の車両でギヤセクターレバーが **P** 位置でない場合や、車両が静止していない場合には、**START/STOP ENGINE** ボタンを 2 度押すか、エンジンが停止するまで押したままにしてください。

関連情報

- キー位置 (p. 105)

ステアリングホイールロック

ステアリングホイールロックは、盗難時などに車両の操舵を困難にします。

機能

- エンジンが停止した後、運転席ドアが開くと、ステアリングホイールロックが作動します。
- リモートコントロールキーがイグニッションスイッチ³内にある状態で、**START/STOP ENGINE** ボタンを押すと、ステアリングホイールロックは解除します。

ステアリングホイールロックが作動または解除されるときには、機械的なノイズが聞こえる場合があります。

関連情報

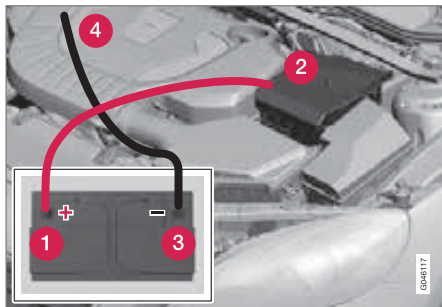
- エンジンの始動 (p. 297)
- キー位置 (p. 105)
- ステアリングホイール (p. 112)

³ キーレスドライブ装備の車両では、リモートコントロールキーが車内にあることが必要です。



ジャンプスタート

メインバッテリー (p. 404) が放電した場合は、他のバッテリーにジャンパーケーブルなどを接続してエンジンを始動することができます。



車両をジャンプスタートする際には、短絡などの損傷を防ぐため、次の手順を厳守してください：

1. 車両の電気系統をキー位置 **0** にします。
キー位置 (p. 105) を参照してください。
2. 電気を供給する側のバッテリーが 12V であることを確認してください。
3. 電気を供給する側のバッテリーが他車に取り付けられている場合には、その車両のエンジンを切り、2 台の車が接触していないことを確認してください。
4. 赤いリード線の一方のクランプを電気を供給する側のバッテリーのプラス端子 (1) に接続します。
5. 自車のバッテリーのフロントカバーのクリップを開けて、カバーを取り外します。
6. 赤いリード線の他方のクランプを車両のプラス端子 (2) に接続します。
7. 黒いリード線の一方のクランプを電気を供給する側のバッテリーのマイナス端子 (3) に接続します。
8. 黒いジャンパーケーブルの反対側のクランプをアースポイント (右側エンジンマウンティング上部、アウターボルト頭部 (4)) に接続します。
9. 始動時に火花が発生することを防ぐため、ジャンパーケーブルのクランプは確実に接続してください。
10. 「電気を供給する側の車両」のエンジンを始動し、アイドリングよりも若干高い回転数 (約 1,500 rpm) で数分間回転させます。
11. バッテリーが放電した車両のエンジンを始動させます。



重要

エンジンルーム内の部品と短絡しないように、ジャンパーケーブルは慎重に接続してください。



重要

始動を試みている場合には、この接続を使用しないでください。火花が散るおそれがあります。

12. リード線を逆の順序で外します。すなわち、先に黒いジャンパーケーブルを外し、次に赤いジャンパーケーブルを外してください。
 > 黒いリード線のクランプがバッテリーのプラス端子や、赤いリード線のクランプに接触しないよう注意してください。



警告

- バッテリーからは、非常に引火性の高い、酸素と水素の混合ガスが発生します。ジャンパーケーブルを正しく接続しないと、火花が発生し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- バッテリー液には、腐食性の強い希硫酸が使用されており、触れると重度のヤケドを負うおそれがあります。
- 電解液が目、皮膚または衣服に付着した場合は、ただちに大量の水で洗い流してください。目に入った場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

関連情報

- エンジンの始動 (p. 297)



09 運転操作の要領

09

トランスミッション

マニュアルとオートマチックの2つのトランスミッションタイプがあります。

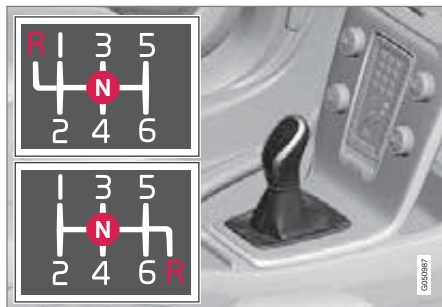
- マニュアルトランスミッション (p. 300)
- オートマチックトランスミッション - Geartronic(ギヤトロニック) (p. 301)および Powershift (パワーシフト) (p. 305)

！ 重要

ドライブシステムのコンポーネントへの損傷を防止するために、トランスミッションの作動温度が点検されます。オーバーヒートのおそれがある場合には、コンパインド・インストルメント・パネルの警告灯が点灯し、テキストメッセージが表示されます。この場合、指示に従ってください。

マニュアルトランスミッション

トランスミッションの機能はギヤレシオを速度と必要な出力に応じて変化させます。



ギヤシフトパターン

6速トランスミッションには2つのバージョンがあり、リバースギヤの位置が異なります。セレクトーレバーに実際のギヤシフトパターンが刻まれていますのでご覧ください。

- ギヤチェンジをしている間は、クラッチペダルを奥まで踏み込みます。
- ギヤチェンジをしているとき以外は、クラッチペダルから足を離してください。

⚠ 警告

坂道に駐車する際には、必ずパーキングブレーキを使用してください。ギヤに入れておくだけでは、不十分な場合があります。

リバースギヤインヒビター

リバースギヤインヒビターは、前進時に誤ってリバースギヤにシフトしないように、誤操作を防止します。

- セレクトーレバーに印刷されているギヤシフトパターンに従います。ギヤセレクトーレバーを **R** 位置に動かす際には、ニュートラルポジション **N** から始めてください。
- リバースギヤへのシフトは、車両が完全に停止してから実施してください。

関連情報

- トランスミッションフルード - グレードおよび容量 (p. 439)
- トランスミッション (p. 300)



ギヤシフトインジケーター*

ギヤシフトインジケーターは、最良の燃費を得るために適切なギヤチェンジのタイミングを表示します。

環境に優しい走行を心がける上で大切な点は、適切なギヤで走行し、十分な時間をかけてギヤを変更することです。

モデルによっては補助として GSI (Gear Shift Indicator) インジケーターがついているものもあります。これは最良の燃費を得るためにいつギヤチェンジを行えばよいか表示する機能です。しかし、パフォーマンスマンや振動のない走行といった特性を考慮すると、高めのエンジン回転数でギヤ変更を行う方がよい場合があります。

マニュアルトランスミッション



マニュアルトランスミッション用ギヤシフトインジケーター同時に点灯するのはマーカー1つだけです。通常の走行時にのみ、中央で点灯します。

ギヤチェンジが推奨されるときには、図で赤く示されている部分で、シフトアップでは「+」が、シフトダウンでは「-」が点灯します。

オートマチックトランスミッション



液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル、ギヤシフトインジケーターあり。

フレーム内に表示されている数字は、現在のギヤを示しています。



アナログ式コンバインド・メーター・パネルでは、中央にギヤポジションとインジケーター矢印が表示されます。

関連情報

- マニュアルトランスミッション (p. 300)
- オートマチックトランスミッション - Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 301)

オートマチックトランスミッション - Geartronic(ギヤトロニック)*

Geartronic(ギヤトロニック)搭載のオートマチックトランスミッションは、オートマチックトランスミッション - Powershift (パワースhift) (p. 305)とは異なり、エンジンからトランスミッションへ動力を伝達する油圧式トルクコンバーターを使用しています。オートマチックとマニュアルの2つのギヤモードがあります。



D: オートマチックギヤポジション +/-: マニュアルギヤポジション S: スポーツモード* 4

ギヤセクターレバーの位置が、コンバインド・メーター・パネルに次のように表示されます：P、R、N、D、S*、1、2、3など。

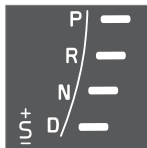
4 ギヤセクターレバーのギヤシフトパターンは、エンジンオプションによって異なります。



09 運転操作の要領



ギヤポジション



オートマチックギヤポジションはコンパインド・メーター・パネルの右側に表示されます。(一度に点灯するのは、現在のギヤセクターレバーのポジションを示すマーカー1つだけです。)

スポーツモードのシンボル「**S**」は、このモードがアクティブのときにオレンジ色で表示されます。

P - パーキングポジション

エンジンを始動するときまたは駐車するときは、**P**位置を選択してください。

ギヤセクターレバーを **P** 位置から動かすときには、ブレーキペダルを踏む必要があります。また、リモートコントロールキーは **I** または **II** 位置にしておく必要があります。

P 位置では、トランスミッションが機械的にロック状態になります。駐車するときには、パーキングブレーキもかけてください。パーキングブレーキ (p. 324) を参照してください。

注意

車両をロックしてアラームをセットするには、ギヤセクターレバーが **P** 位置であることが条件になります。

重要

車両が必ず停止してから、**P** 位置に入れてください。

警告

坂道に駐車する際には、必ずパーキングブレーキをかけてください。状況によっては、オートマチックトランスミッション車の **P** 位置に入れておくだけでは、不十分な場合があります。

R - リバース

車両が必ず停止してから、**R** 位置に入れてください。

N - ニュートラル

トランスミッションが、どのギヤにも入っていない状態です。エンジンを始動することができます。ギヤセクターレバーが **N** 位置にあり、車両が停止しているときは、パーキングブレーキをかけてください。

ギヤセクターレバーを **N** から他の位置に動かす場合は、リモートコントロールキーのキー位置を **II** にしてブレーキペダルを踏みながら動かします。

D - ドライブ

D 位置は、通常走行時に使用する位置です。加速に応じて、すべての前進ギヤ間で自動的にシフトアップ、シフトダウンが行われます。ギヤセクターレバーを **R** 位置から **D** 位置に動か

すときは、必ず車両が停止してから行ってください。

Geartronic(ギヤトロニック) - マニュアルギヤポジション(+/-)

Geartronic(ギヤトロニック)オートマチックトランスミッションは、手動でギヤチェンジすることもできます。アクセルペダルを放すと、エンジンブレーキがかかります。

レバーを **D** から横の「**+/-**」に動かすとマニュアルギヤポジションになります。コンパインド・メーター・パネルのシンボル「**+/-**」の色が白からオレンジに変わり、選択されたギヤに対応する数字 **1**、**2**、**3** がボックス内に表示されます。

- レバーを前方 **+**(プラス側)に移動するとギヤが一段シフトアップし、レバーを放すと「**+**」と「**-**」の間の中立位置に戻ります。

または:

- レバーを「**-**」(マイナス)側に引いて放すと、ギヤが1つシフトダウンします。

マニュアルギヤシフトモード「**+/-**」は、走行中いつでも選択することができます。

Geartronic(ギヤトロニック)は、選択しているギヤの速度設定範囲を車速が下回ると、自動的にシフトダウンしてノッキングやストールを防ぎます。

オートマチックモードに戻るには:

- レバーを **D** のエンドポジションまで横方向に動かします。



注意

スポーツプログラムを装備したトランスミッションの場合、セクターレバーを「+/-」位置で前後に動かした後にのみ、マニュアル選択になります。コンバインド・メーター・パネルの表示が、Sから選択されたギヤポジション(1、2、3など)に変わります。

パドル*

ギヤセクターレバーを使用するマニュアルギヤチェンジに加えて、ステアリングホイールに「パドル」と呼ばれるコントロールがあります。

ステアリングホイールのパドルを使用してギヤチェンジを行うには、まずこれを作動可能状態にする必要があります。これは、パドルのひとつをステアリングホイール側に引いて行います。コンバインド・メーター・パネルの表示が「D」から現在のギヤを表す数字へと変わります。

ギヤを一段変更するには：

- パドルのひとつを後方(ステアリングホイール側)に引いて放します。



両方のステアリングホイールパドル

①「-」：ひとつ下のギヤを選択します。

②「+」：ひとつ上のギヤを選択します。

エンジン回転速度が許容範囲内の場合、パドルを引くとギヤチェンジが実行されます。

ギヤチェンジの度に、コンバインド・メーター・パネルの数字が変わり、現在のギヤを表示します。

注意

自動解除

ステアリングホイールのパドルが使用されていないとこの機能はしばらくしてから解除されます。コンバインド・メーター・パネルの表示が現在のギヤの表示から「D」に戻ります。

エンジンブレーキの使用中は例外です。エンジンブレーキの使用中はパドルは作動可能です。

手動解除

ステアリングホイールパドルシフターは手で解除することもできます。

- 両側のパドルをステアリングホイール方向に引いたまま保持し、コンバインド・メーター・パネルの表示が現在のギヤの数字から「D」に変わった時点で手を離します。

スポーツモード*でもパドルをギヤセクターと共に使用することができます。その場合、パドルは解除されずつねに作動します。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



09 運転操作の要領



Geartronic(ギヤトロニック) - スポーツモード(S)



スポーツモードでは車両がスポーティな反応を示すようになり、エンジン回転数が高めになります。同時に、アクセルの反応が敏感になります。

アクティブなドライビングでは低めのギヤを優先し、シフトアップのタイミングを遅らせます。

スポーツモードを作動させるには：

- ギヤセレクターレバーを **D** 位置から横の「**+S-**」に動かします。コンパインド・メーター・パネルの表示が **D** から **S** に変わります。

スポーツモードは、走行中いつでも選択することができます。

Geartronic(ギヤトロニック) - ウィンターモード

滑りやすい路面では、手動で3速ギヤを選択すると、発進しやすくなる場合があります。

- ブレーキペダルを踏み、ギヤセレクターレバーを **D** から「**+/-**」(エンドポジション)に動かします。コンパインド・メーター・パネルの表示が、**D** から **1⁵** に変わります。
- ギヤレバーを前方「**+**」(プラス)側に2回押して、3速ギヤを選択します。コンパインド・メーター・パネルの表示が、**1** から **3** に変わります。
- ブレーキペダルを放して、注意してアクセルを踏みます。

「ウィンターモード」は、低いエンジン回転で駆動輪のエンジンパワーを抑えて発進します。

キックダウン

アクセルペダルをフロアの奥まで(通常、フルアクセルと思う位置よりもさらに深く)踏み込むと、自動的に低いギヤにシフトダウンします。これをキックダウンと呼びます。

アクセルペダルをキックダウン位置から戻すと、トランスミッションは再び自動的にシフトアップします。

キックダウンは追い越しなど、最大加速が必要なときに使用してください。

安全機能

エンジンのオーバーレブを防止するために、トランスミッションコントロールプログラムには、ダウンシフトインヒビターが装備されており、キックダウン機能を制限しています。

Geartronic(ギヤトロニック)は、エンジン回転数が高いために、エンジンに損傷を与えるおそれがあるようなダウンシフト/キックダウンは許可しません。エンジン回転速度が高い状態では、この方法でシフトダウンしても、なにも起こりません。もともとギヤがかみ合ったままとなります。

キックダウンすると、エンジン回転速度に応じて、ギヤ位置が1つ以上シフトダウンします。車速がそのギヤでの最高速度に達すると、エン

ジンを損傷させないように自動的にシフトアップします。

けん引

車両をけん引する必要がある場合 - けん引(p. 341)のセクションの重要情報を参照してください。

関連情報

- トランスミッションフルード - グレードおよび容量 (p. 439)
- トランスミッション (p. 300)
- オートマチックトランスミッション - Powershift(パワーシフト)* (p. 305)

⁵ スポーツモード*が搭載されている場合、最初に「**S**」が表示されます。



オートマチックトランスミッション – Powershift(パワーシフト)*

Powershift(パワーシフト)オートマチックトランスミッションはエンジンからの駆動力をデュアルクラッチディスクで駆動輪に送ります。一方、Geartronic(ギヤトロニック)は油圧トルクコンバーターを使用します。



D: オートマチックギヤポジション +/- マニュアルギヤポジション S: スポーツモード* 6

Powershift(パワーシフト)トランスミッションは、Geartronic(ギヤトロニック)オートマチックトランスミッションと同様に操作します。コントロールや機能も同様です。

例外の1つは「Geartronic(ギヤトロニック) – ウィンターモード」(p. 301)です。

- Powershift(パワーシフト)では、手動で**2速**を選択すると滑りやすい路面で発進するこ

とができます(Geartronic(ギヤトロニック)では3速です)。

けん引

Powershift(パワーシフト)トランスミッション装備のモデルはけん引しないでください。エンジンが回転していないと、トランスミッションに十分な潤滑が提供されません。どうしてもけん引(p. 341)が必要な場合には、できるだけ距離を短くし、超低速でけん引してください。

車両に Powershift(パワーシフト)または Geartronic(ギヤトロニック)トランスミッションが装備されているか不確かな場合は、ボンネット下のトランスミッションラベルの表示で確認できます(タイプ表示(p. 427))。"MPS6"と記されているれば、Powershift(パワーシフト)トランスミッションであり、それ以外の場合は、Geartronic(ギヤトロニック)オートマチックトランスミッションです。

けん引(p. 341)の重要情報も参照してください。

注意事項

トランスミッションのデュアルクラッチにはオーバーロードプロテクションが装備されており、長時間上り坂でアクセルペダルを使用して車両を静止状態に保っていた場合など、クラッチの温度が極度に上昇すると起動します。

トランスミッションが過熱すると車両が揺れ、振動が発生します。また警告灯が点灯し、コンパインド・メーター・パネルにメッセージが表示されます。トランスミッションは上り坂での渋滞を低速(10 km/h 以下)で走行した場合や、トラレーラーをけん引している場合などにも過熱することがあります。トランスミッションは、フットブレーキを使用して車両を静止させ、エンジンをアイドリング速度で回転させると、通常の温度に戻ります。

上り坂の渋滞を低速走行する場合には、段階的に走行することで過熱を防止することができます。

- ブレーキペダルを踏んで車両を静止させ、先行車との間に適度な距離ができるまでお待ちください。少し前進したら、ブレーキペダルを踏み直して、またしばらく待機してください。

重要

上り坂で車両を静止した状態に保つには、フットブレーキを使用してください。アクセルペダルでバランスをとることはしないでください。トランスミッションが加熱する場合があります。

6 ギヤセレクトレバーのギヤシフトパターンは、エンジンオプションによって異なります。



09 運転操作の要領



ディスプレイテキストと処置

場合によっては、シンボルが点灯すると共にコンパインド・メーター・パネルにディスプレイテキストが表示されます。

シンボル	メッセージ	走行特性	対処
	トランスミッション高温 ブレーキを踏んで下さい	一定のエンジン回転数で、同一速度を維持することができません。	トランスミッションがオーバーヒートしています。フットブレーキを使用して、車両を停止してください。 ^A
	トランスミッション高温 安全に停車しエンジンは かけたままにしてください	車両のトラクションが著しく低下しています。	トランスミッションがオーバーヒートしています。ただちに安全に駐車してください。 ^A
	トランスミッション冷却中 エンジンは かけたままにしてください	トランスミッションがオーバーヒートしています。運転しないでください。	トランスミッションがオーバーヒートしています。できるだけ速く冷却するには：ギヤセレクトレーバーを N または P 位置にして、メッセージが消えるまでエンジンをアイドリングさせてください。

^A できるだけ速く冷却するには：ギヤセレクトレーバーを **N** または **P** 位置にして、メッセージが消えるまでエンジンをアイドリングさせてください。

表には、トランスミッションがオーバーヒートした場合に、その度合いに応じて講じることができる3つの手段が記されています。ディスプレイテキストと並行して、車両のエレクトロニクスも一時的に異なった走行特性を採用していることにご留意ください。該当する場合には、ディスプレイテキストの指示に従ってください。

注意

表の例は車両の不具合を示すものではなく、コンポーネントのいずれかへの損傷を防止するために、安全機能が意図的に起動されたことを示します。

警告

テキスト **トランスミッション高温 安全に停車しエンジンは かけたままにしてください** と組み合わせられた警告表示を無視すると、トランスミッション内が非常に高温になり、クラッチの故障を防止するためにエンジンとトランスミッションの間のパワートランスミッションが一時的に停止する場合があります。この場合、車両は駆動力を失い、トランスミッションの温度が適度に低下するまで、静止したままとなります。



オートマチックトランスミッションに関する処置のメッセージについては、メッセージ (p. 135)を参照してください。

ディスプレイテキストは、処置が実施されるか、インジケーターレバーの **OK** ボタンを1回押すと自動的に消去されます。

関連情報

- オートマチックトランスミッション – Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 301)
- トランスミッションフルード – グレードおよび容量 (p. 439)

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



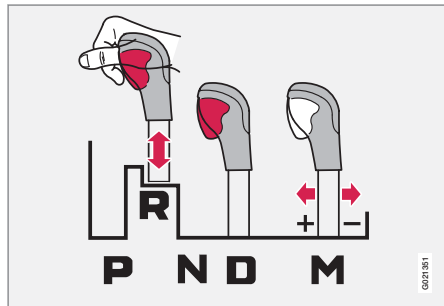
09 運転操作の要領

09

ギヤセレクトーインヒター

ギヤセレクトーインヒターには、メカニカル式とオートマチック式の2つのタイプがあります。

メカニカルギヤセレクトーインヒター



ギヤセレクトーレバーは、**N** 位置と **D** 位置の間で前後に自由に動かすことができます。それ以外の位置はロックされており、レバーにあるインヒターボタンを押してロックラッチを解除します。

インヒターボタンを押すと、レバーは **P** 位置、**R** 位置、**N** 位置、**D** 位置の間で前後に自由に動かすことができます。

オートマチックギヤセレクトーインヒター

オートマチックトランスミッションは、特殊なセーフティシステムを備えています：

パーキングポジション(P)

エンジン作動、車両停止：

- ギヤセレクトーレバーを他の位置に動かす場合は、ブレーキペダルを踏みながら動かします。

エレクトリックギヤインヒター - シフトロックパーキングポジション(P)

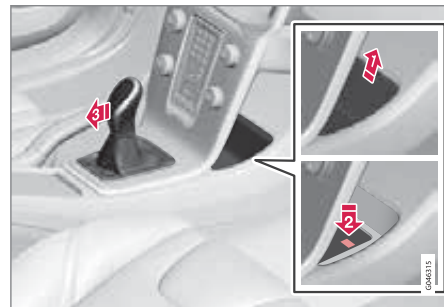
ギヤセレクトーレバーを **P** 位置から他の位置に動かす場合は、ブレーキペダルを踏みます。リモートコントロールキーは **II** 位置にしておく必要があります。

シフトロック - ニュートラル(N)

ギヤセレクトーレバーが **N** 位置で、車両が約3秒以上停止（エンジン回転とは関係なく）している場合、レバーは固定されます。

ギヤセレクトーレバーを **N** 位置から他の位置に動かす場合は、ブレーキペダルを踏みます。リモートコントロールキーはキー位置 **II** でなければなりません(p. 105)。

オートマチックギヤセレクトーインヒターを解除する



バッテリーの放電などが原因で車両を運転できない場合、車両を移動させるためには、ギヤセレクトーレバーを **P** 位置から動かすことが必要です。

- センターコンソール後方の収納ボックスインサートを持ち上げ、収納ボックスの底部にあるパネ式ボタンを確認します。
- ボタンを押し、そのまま保持します。
- ギヤセレクトーレバーを **P** 位置から動かし、ボタンから指を離します。
- 収納ボックスインサートを元通りに取り付けます。



関連情報

- オートマチックトランスミッション – Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 301)
- オートマチックトランスミッション – Powershift(パワーシフト)* (p. 305)

坂道発進支援機能 – (HSA)*

上り坂で走行または後退を始める前に、フットブレーキを放すことができます。HSA (Hill Start Assist)機能は、坂道発進時に車両が後退するのを防止します。

この機能では、足をブレーキペダルからアクセルペダルへ動かす間の数秒間、ブレーキシステム内の圧力が保持されます。

一時的に保持されるブレーキ効果は、数秒経過するか、ドライバーが加速すると、解除します。

関連情報

- エンジンの始動 (p. 297)

Start/Stop*

エンジンとトランスミッションの組み合わせによって、交通渋滞で静止した場合や信号待ちで停止した場合に作動する Start/Stop 機能が装備されています。この機能の働きにより、渋滞や信号待ちのときにはエンジンが自動的に一時停止し、走行が再開できるようになったらエンジンが自動的に再始動します。

環境への配慮は、ボルボ・カー・コーポレーションの全活動を導くコア・バリューです。この目標志向により、いくつかのエネルギー節約機能が生まれましたが、Start/Stop もその一つです。これらはすべて燃費を向上させるための課題を集大成したもので、その結果排気ガスのエミッションも抑えることができました。

Start/Stop の概要



エンジンが停止します。より静かでクリーンになります。



09 運転操作の要領



Start/Stop 機能では、適時にエンジンを自動停止させることができるため、能動的に環境に配慮した走行を心がけることができます。

マニュアルまたはオートマチック

トランスミッションがマニュアルかオートマチックかで Start/Stop 機能は異なっていますのでご注意ください。

関連情報

- Start/Stop* - 機能と操作 (p. 310)
- エンジンの始動 (p. 297)
- Start/Stop* - 設定 (p. 315)
- Start/Stop* - エンジンが自動始動しない (p. 314)
- Start/Stop* - エンジンが自動始動する (p. 313)
- Start/Stop* - エンジンが停止しない (p. 312)
- Start/Stop* - 不意の停止(マニュアルトランスミッション) (p. 314)
- Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ (p. 316)
- バッテリー - Start/Stop (p. 406)

Start/Stop* - 機能と操作

Start/Stop 機能は、キーを使用してエンジンを始動すると自動的に作動します。



Start/Stop 機能は、キーを使用してエンジンを始動すると自動的に作動します。運転者にこの機能への注意を促すために、コンパインド・メーター・パネルのオン/オフボタンのシンボルが点灯し、オン/オフボタン内のランプが点灯します。

クライメートコントロールシステムのファンを高速で使用している場合や、極端な大音量でオーディオシステムを使用している場合などでは、こうした機能が一時的に軽減される場合がありますが、照明やラジオなど車両の通常のシステムは、エンジン自動停止中でも通常通り機能します。

エンジンの自動停止

エンジンの自動停止が機能するためには、以下の条件が整っている必要があります。

条件	M/ A*
クラッチペダルを踏んで、セレクターレバーをニュートラル位置に動かして、クラッチペダルから足を離してください。エンジンが自動的に停止します。	M
フットブレーキを使用して車両を停止し、足をペダルに乗せたままにしてください。エンジンが自動停止します。	A

A M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション。



ECO 機能が作動している場合、車両が完全に静止する前にエンジンが自動停止することがあります。



エンジンが自動停止したことの確認と運転者へのリマインダーとしてコンパインド・メーター・パネルにある Start/Stop 機能のシンボルが点灯します。

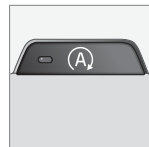


エンジンの自動始動

条件	M/ A*
セレクトレバーがニュートラル位置にあるときに：	M
1. クラッチペダルを踏み込むか、アクセルペダルを踏んでください。エンジンが始動します。 2. 適切なギヤに入れ、走行してください。	
フットブレーキをゆるめてください。エンジンが自動始動し、走行を再開することができます。	A
フットブレーキを踏んだまま、アクセルペダルを踏み込んでください。エンジンが自動始動します。	A
下り坂走行時には、以下のオプションも利用できます： フットブレーキをゆるめ、車両を発進させてください。通常の歩行速度を上回ると、エンジンが始動します。	M + A

A M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション。

Start/Stop 機能の解除



状況によっては、自動 Start/Stop 機能を一時的にオフにした方がよい場合があります。これは、このボタンを押すことで実行できます。



機能が解除されると、コンパインド・メーター・パネルのシンボル Start/Stop とボタンのランプが消灯します。



Start/Stop 機能は、ボタンを押して再起動するか、次回キーを使ってエンジンが始動されるまで解除されたままとなります。

スタートアシスタンス HSA

上り坂で停止している場合に、フットブレーキを放すとエンジンを自動始動することができます。HSA (p. 309) (Hill Start Assist) 機能が車両が後退するのを防ぎます。

HSA 機能は、エンジンが自動停止した状態から走行を再開する際に、足をブレーキペダルからアクセルペダルへ動かす間の数秒間、ブレーキシステム内の圧力を保持する機能です。一時的に保持されるブレーキ効果は、数秒経過するか、運転者が加速すると解除されます。

関連情報

- Start/Stop* (p. 309)
- エンジンの始動 (p. 297)
- Start/Stop* - 設定 (p. 315)
- Start/Stop* - エンジンが自動始動しない (p. 314)
- Start/Stop* - エンジンが自動始動する (p. 313)
- Start/Stop* - エンジンが停止しない (p. 312)
- Start/Stop* - 不意の停止 (マニュアルトランスミッション) (p. 314)
- Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ (p. 316)
- バッテリー - Start/Stop (p. 406)



09 運転操作の要領

09

Start/Stop* - エンジンが停止しない

Start/Stop 機能が起動していても、エンジンは必ずしも自動的に停止するとは限りません。

次の場合にはエンジンは自動停止しません。

条件	M/A A
キーで始動した後、または直前の自動停止の後、車速が約 8 km/h に達していないとき。	M + A
運転者がシートベルトのバックルを外したとき	M + A
バッテリーの容量が最低許容レベルを下回っているとき	M + A
エンジンが通常の作動温度に達していないとき	M + A
外気温が氷点前後または約 30 °C を超えているとき。	M + A
ウインドスクリーンの電熱機能が作動しているとき	M + A
車内の環境が事前に設定されている値 ^B とは異なっているとき。これは、ベンチレーションファンが高速で回転していることでわかります。	M + A
車両が後退している場合	M + A

条件	M/A A
メインバッテリーの温度が氷点下か、高すぎるかのどちらかです。	M + A
運転者がより大きくステアリングホイールを操作したとき	M + A
エキゾーストシステムの粒子フィルターがいっぱいになったとき。一時的に非作動になった Start/Stop 機能は、自動クリーニングサイクルが実行されるとすぐに再起動されます (ディーゼル微粒子除去フィルター (DPF) (p. 332) 参照)。	M + A
道路の勾配が非常に急である場合	M + A
車両の電気系統にトレーラーが電気的に接続されている場合	M + A
ボンネットが開いている場合 ^C 。	M + A
トランスミッションが通常の作動温度に達していないとき。	A
大気圧が海拔 1500~2500 m に相当する気圧以下であるとき。大気圧は周囲の気象条件により変化します。	A

条件	M/A A
アダプティブクルーズコントロール渋滞アシスタントが起動している場合	A
ギヤセレクトレーバーが D 位置から S 位置 ^D または「+/-」に動かされたとき	A

A M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション

B ECC 装備の車両

C 一部のエンジンのみ。

D スポーツモード

関連情報

- Start/Stop* (p. 309)
- Start/Stop* - 機能と操作 (p. 310)
- エンジンの始動 (p. 297)
- Start/Stop* - 設定 (p. 315)
- Start/Stop* - エンジンが自動始動しない (p. 314)
- Start/Stop* - エンジンが自動始動する (p. 313)
- Start/Stop* - 不意の停止 (マニュアルトランスミッション) (p. 314)
- Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ (p. 316)
- バッテリー - Start/Stop (p. 406)



Start/Stop* - エンジンが自動始動する

運転者が走行を継続する意思がなくても、自動停止したエンジンが再始動する場合があります。

以下のような状況では、運転者がクラッチペダルを踏み込んでいない場合(マニュアルトランスミッション)や、ブレーキペダルから足を離した場合(オートマチックトランスミッション)に、エンジンが自動始動します：

条件	M/A A
ウインドが曇ったとき	M + A
車内の環境が事前に設定されている値 ^B と異なっているとき	M + A
一時的に電流消費量が増加しているときや、バッテリー容量が最低許容レベルを下回ったとき。	M + A
ブレーキペダルを繰返し踏み込んだとき	M + A
ボンネットが開いているとき ^C 。	M + A
車両が動き始めたとき、または、車両が完全に静止することなく自動停止した場合に速度が少し上昇したとき。	M + A

条件	M/A A
ギヤセクターレバーが D または N 位置のときに運転席ベルトロックが外されたとき	A
ステアリングホイールの操作 ^C	A
ギヤセクターレバーが D 位置から S 位置 ^D 、 R または「+/-」に動かされたとき。	A
ギヤセクターレバーが D 位置のときに運転席ドアが開かれたとき。 「ピーン」という音とディスプレイテキストにより、Start/Stop 機能がアクティブであることがわかります。	A

A M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション

B ECC 装備の車両

C 一部のエンジンのみ。

D スポーツモード

警告

エンジンが自動停止した際には、ボンネットを開けないでください。エンジンが突然自動始動する場合があります。ボンネットを開ける前に、**START/STOP ENGINE** ボタンを使用して通常通りエンジンを OFF にしてください。

関連情報

- Start/Stop* - 機能と操作 (p. 310)
- エンジンの始動 (p. 297)
- Start/Stop* - 設定 (p. 315)
- Start/Stop* - エンジンが自動始動しない (p. 314)
- Start/Stop* - エンジンが停止しない (p. 312)
- Start/Stop* - 不意の停止(マニュアルトランスミッション) (p. 314)
- Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ (p. 316)
- バッテリー - Start/Stop (p. 406)
- Start/Stop* (p. 309)



09 運転操作の要領

09

Start/Stop* - エンジンが自動始動しない

エンジンは、自動停止の後、自動始動しないことがあります。

以下の状況では、自動停止後もエンジンが自動始動しません：

条件	M/ A ^A
クラッチを切らずにギヤがかみ合っているとき。自動始動を実施するには、セレクトレバーをニュートラル位置に入れるようディスプレイテキストが表示されます。	M
運転者がシートベルトを着用しておらず、ギヤセレクトレバーがP位置で運転席ドアが開いているとき。この場合通常のエンジン始動手順を実施する必要があります。	A

^A M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション

関連情報

- Start/Stop* (p. 309)
- Start/Stop* - 機能と操作 (p. 310)
- エンジンの始動 (p. 297)
- Start/Stop* - 設定 (p. 315)
- Start/Stop* - エンジンが自動始動する (p. 313)

- Start/Stop* - エンジンが停止しない (p. 312)
- Start/Stop* - 不意の停止(マニュアルトランスミッション) (p. 314)
- Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ (p. 316)
- バッテリー - Start/Stop (p. 406)

Start/Stop* - 不意の停止(マニュアルトランスミッション)

始動に失敗し、エンジンが停止した場合には、以下の手順に従ってください。

- クラッチペダルをもう一度踏み込んでください。エンジンが自動的に始動します。
- 場合によっては、セレクトレバーをニュートラル位置にすることが必要です。この場合、コンパインド・メーター・パネルには、テキスト **ギヤをニュートラルにする** が表示されます。

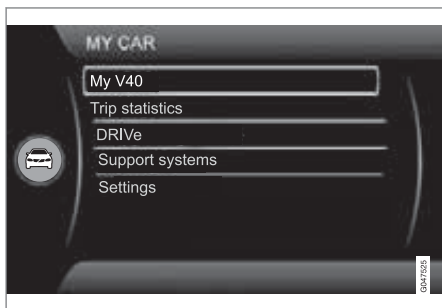
関連情報

- Start/Stop* (p. 309)
- Start/Stop* - 機能と操作 (p. 310)
- エンジンの始動 (p. 297)
- Start/Stop* - 設定 (p. 315)
- Start/Stop* - エンジンが自動始動しない (p. 314)
- Start/Stop* - エンジンが自動始動する (p. 313)
- Start/Stop* - エンジンが停止しない (p. 312)
- Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ (p. 316)
- バッテリー - Start/Stop (p. 406)



Start/Stop* - 設定

車両のメニューシステム MY CAR (p. 137) には、ボルボの Start-Stop システムの情報と、省エネ走行のための推奨事項が含まれています。



- バッテリー - Start/Stop (p. 406)

関連情報

- Start/Stop* (p. 309)
- Start/Stop* - 機能と操作 (p. 310)
- エンジンの始動 (p. 297)
- Start/Stop* - エンジンが自動始動しない (p. 314)
- Start/Stop* - エンジンが自動始動する (p. 313)
- Start/Stop* - エンジンが停止しない (p. 312)
- Start/Stop* - 不意の停止 (マニュアルトランスミッション) (p. 314)
- Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ (p. 316)

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



09 運転操作の要領

09

Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ

Start/Stop 機能は、コンバインド・メーター・パネルにディスプレイテキストを表示することができます。

ディスプレイテキスト

 このインジケータランプとともに、Start/Stop 機能によりコンバインド・メーター・パネルにディスプレイテキストが表示する場合があります。このような場合に

は、実施すべき推奨手順があります。いくつかの例が以下の表に示されています。

シンボル	メッセージ	情報/処置	M/A ^A
	オートスタート/ストップ サービスが必要です	Start/Stop が機能していません。ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。	M + A
	オートスタート エンジン回転中 + 警告音	エンジンが自動停止した状態およびギヤセクターレバーが D 位置の状態で運転席ドアを開けると作動します。	A
	スタートボタンを押して下さい	エンジンは自動始動しません - 通常通り START/STOP ENGINE ボタンで始動してください。	M + A
	クラッチペダルを踏んで 始動して下さい	エンジンは自動始動する準備が整っており、クラッチペダルが踏み込まれるのを待っています。	M
	ブレーキとクラッチを踏んで 始動して下さい	エンジンは自動始動する準備が整っており、ブレーキまたはクラッチペダルが踏み込まれるのを待っています。	M
	ギヤをニュートラルに 入れて始動して下さい	クラッチを解除せずにギヤがかみ合っています。ギヤを解除して、セクターレバーをニュートラル位置に入れてください。	M



シンボル	メッセージ	情報/処置	M/A ^A
	ポジションをP またはNに入れてから始動して下さい	Start/Stop 機能は解除されています。ギヤセクターレバーを N または P 位置にし、 START/STOP ENGINE ボタンを押して、通常通りにエンジンを始動してください。	A
	スタートボタンを押して下さい	エンジンは自動始動しません。 START/STOP ENGINE ボタンを押し、ギヤセクターレバーを P または N 位置にしてエンジンを通常通り始動してください。	A

A M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション

処置を実施してもメッセージが消えない場合には、サービス工場にご連絡ください。ボルボ指定のサービス工場を推奨します。

関連情報

- Start/Stop* (p. 309)
- Start/Stop* - 機能と操作 (p. 310)
- エンジンの始動 (p. 297)
- Start/Stop* - 設定 (p. 315)
- Start/Stop* - エンジンが自動始動しない (p. 314)
- Start/Stop* - エンジンが自動始動する (p. 313)
- Start/Stop* - エンジンが停止しない (p. 312)
- Start/Stop* - 不意の停止(マニュアルトランスミッション) (p. 314)
- バッテリー - Start/Stop (p. 406)



09 運転操作の要領

09

ECO*

ECO⁷ はオートマチックトランスミッション車向けの画期的な機能で、燃料消費量を、運転スタイルに応じて、最大 5 % 削減できます。この機能を使用すると、運転者は環境に優しい運転を一層積極的に行うことができます。

概要



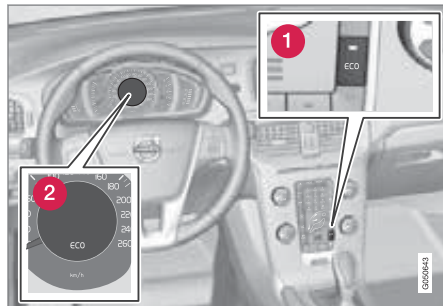
ECO 機能をオンにすると、以下の点に変化が生じます。

- トランスミッションでのシフトポイント
- エンジンマネジメントおよびアクセルペダルのレスポンス
- Start/Stop 機能 - 車両が完全に静止する前にエンジンが自動停止できる。
- Eco Coast 機能がオンになる - エンジンブレーキが解除される。
- エアコンディショナーシステムの設定 - 一部の電力消費機器が解除されるか、または出力制限付きで動作する。

注意

ECO 機能をオンにすると、エアコンディショナーシステムの設定のいくつかのパラメーターが変更され、一部の電力消費機器の機能が制限されます。一部の設定は手動でリセットできますが、すべての機能を回復させるには、ECO 機能をオフにする必要があります。

ECO - 操作



① ECO ON/OFF

② ECO シンボル

エンジンを切ると、ECO 機能は解除されます。したがって、エンジンの始動後、毎回動作させる必要があります。一部のエンジンは例外ですが、この機能が作動しているときには、コンパインド・メーター・パネルの ECO シンボルと

ECO ボタンのランプの点灯で簡単に確認することができます。

ECO 機能オンまたはオフ



ECO 機能が解除されると、コンパインド・メーター・パネルの ECO シンボルと ECO ボタンのランプが消灯します。この機能は、ECO ボタンをもう一度押すまでオフのままになります。

Eco Coast - 機能

Eco Coast サブ機能では、エンジンブレーキが解除され、代わりに車両の運動エネルギーを惰性走行に使用して、惰性走行の距離を伸ばします。運転者がアクセルペダルから足を離すと、トランスミッションとエンジンの接続が自動的に切り離され、エンジン回転数は最小限の燃料消費でアイドリング回転数まで低下します。

この機能は、前方の交差点や赤信号まで惰性走行するときなど、減速が予想されている状況での使用が想定されています。

Eco Coast は先を見越した運転を可能にし、運転者はいわゆる「Pulse & Glide」技術を用いて、ブレーキの使用を最小限に抑えることができます。

オン/オフの組み合わせ

⁷ V40 CROSS COUNTRY AWD には装備不可。



Eco Coast と一時的な ECO 機能解除を組み合わせた場合も、全体として燃料消費量の低減に役立ちます。したがって：

- Eco Coast オン:エンジンブレーキなしで長距離の惰性走行 = 低燃料消費

および

- ECO 機能解除:エンジンブレーキ使用で短距離の惰性走行 = 最小燃料消費

注意

ただし、最適な低燃費を実現するために、使用距離が短い場合には Eco Coast の使用を避けてください。

Eco Coast の起動

以下の条件が満たされているときに、アクセルペダルから完全に足を離すと、機能が起動します。

- ECO ボタンがオン
- ギヤセレクターレバーが **D** 位置
- 速度が約 65-140 km/h の範囲内
- 下り坂の場合、勾配が約 6%以下

Eco Coast の解除

状況により、Eco Coast 機能を解除する方が望ましい場合があります。例えば、以下のような状況が該当します。

- 急勾配の下り坂 - エンジンブレーキの使用が必要になるため。
- 追い越し操作が迫っている場合 - 可能な限り安全に追い越しを完了できるようにするため。

Eco Coast の解除とエンジンブレーキの使用再開は、以下の手順で行うことができます。

- **ECO** ボタンを押してください。
- セレクターレバーをマニュアル「**S+/-**」位置にします。
- ステアリングホイールパドルシフターを使用して、ギヤチェンジを行います。
- アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏み込みます。

Eco Coast - 制限事項

以下の場合、この機能は使用できません。

- クルーズコントロールが作動している
- 下り坂で勾配が約 6%を超えている
- ステアリングホイールパドルシフター*を使用して、マニュアルギヤチェンジを行った
- エンジンとトランスミッションの両方、またはどちらか一方が通常作動温度ではない
- ギヤセレクターレバーを **D**-から「**S+/-**」位置に動かした
- 速度が約 65-140 km/h の範囲から外れている

さらに詳しい情報と設定



車両のメニューシステム **MY CAR** には、ECO コンセプトに関する詳細情報が含まれています。MY CAR (p. 137)を参照してください。

関連情報

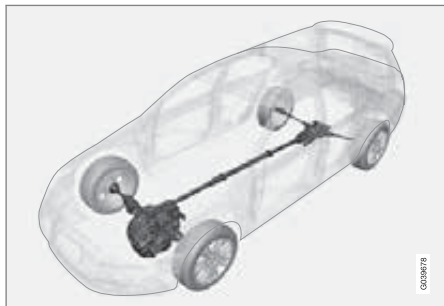
- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 150)



09 運転操作の要領

全輪駆動⁸(AWD)*

全輪駆動(AWD - All Wheel Drive)は、4つのホイールすべてに駆動力がかかることを意味します。全輪駆動(AWD)システムは、常時作動しています。



AWD の原理⁹

駆動力は前輪と後輪の間で、自動的に配分されます。電子制御式のクラッチシステムにより、路面状況に応じて最適なグリップ力が得られるように駆動力が配分されます。このため、トラクションが最適化され、ホイールスピンが抑制されます。通常の走行状況では、駆動力の大半が前輪に分配されます。

AWD システムにより、降雨時、降雪時、路面凍結時の走行安定性が向上します。

関連情報

- Hill Descent Control (HDC) (p. 320)

⁸ V40 CROSS COUNTRY

⁹ 図は概略図です。詳細は、市場や車両モデルにより異なっている場合があります。

Hill Descent Control (HDC)¹¹

HDC は、エンジンブレーキに例えることができます。下り坂を走行中にアクセルペダルから足を離すと、通常はエンジンの回転抵抗で減速します(エンジンブレーキ)。しかし、道路の勾配が急になり、車両の積載重量が大きくなると、エンジンブレーキにもかかわらず、車両の慣性速度は上昇します。HDC 機能は自動的にフットブレーキをかけてこの状況を補正します。

HDC の概要

この機能により、急な下り坂でも、フットブレーキを使わず、アクセルペダルの操作だけで、加速/減速させることができます。アクセルペダルの感度が低下し、一定範囲ではペダルを奥まで作動させても、エンジン回転速度を調整することしかできないため、ペダルがより厳密に操作できます。ブレーキシステムが自動的に作動し、車両を一定の低い速度に保つため、ドライバーはステアリングに神経を集中させることができます。

HDC は、路面の起伏が激しく、スリップしやすい箇所がある急な坂で走行する場合、特に効果を発揮します(例えば、トレーラーに積んだボートが斜面から進水させるときなど)。

警告

HDC はあらゆる状況で作動するわけではなく、補助機能に過ぎません。安全運転の責任は、つねに運転者にあります。

機能



HDC オン/オフ

HDC のオン/オフは、センターコンソールのスイッチの1つを使用して切り替えます。機能をオンにすると、スイッチ内のランプが点灯します。

 HDC が正常に作動している場合、コンバインド・メーター・パネルのシンボルが点灯し、ディスプレイテキスト **Hill Descent Control ON** が表示されます。



この機能が作動するのは、1 速ギヤおよびリバースギヤのときだけです。オートマチックトランスミッション車の場合は、**1** 位置が選択されていなければなりません(コンパインド・メーター・パネルに数字 **1** が表示されます。オートマチックトランスミッション - Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 301)を参照してください。

注意

オートマチックトランスミッション車の場合、**D** 位置では、HDC は作動できません。

操作

HDC 機能が作動すると車両にエンジンブレーキがかかり、約 10 km/h 以下の速度で走行ようになります(後退時は約 7 km/h 以下)。アクセルペダルを踏むと、そのとき選択されているギヤの速度範囲内で加速することができます。アクセルペダルを離すとただちにブレーキがかかり、坂の勾配に関係なく、前進速度は約 10 km/h、後退速度は約 7 km/h まで減速し、ブレーキペダルを必要としません。

HDC 機能が作動すると、ブレーキランプが自動的に点灯します。運転者は、フットブレーキを踏めばいつでも減速または停車をすることができます。

HDC は、以下のような場合に解除されます：

- センターコンソールの On/Off ボタンを使用した場合。
- マニュアルトランスミッション車で、**1** 速より高いギヤに入っている場合。
- オートマチックトランスミッション車で、**1** 速より高いギヤに入っている場合、またはギヤセクターレバーを **D** 位置に動かした場合。

機能は、いつでも解除することができます。勾配の急な下り坂を走行中に解除した場合、解除は即時ではなく徐々に行われます。

注意

HDC がオンであれば、アクセルペダルを起動してからエンジンが反応するまで時間がかかるように感じられます。

関連情報

- 全輪駆動(AWD)* (p. 320)

フットブレーキ

フットブレーキは、走行速度を減速するために使用します。

車両には、2つのブレーキ回路があります。一方のブレーキ回路が損傷すると、ブレーキペダルのストロークが長くなり、通常よりも強い力でペダルを踏み込まなければ正常な制動効果が得られない状態になります。

ブレーキサーボは、ブレーキペダルの踏力を補助する働きをします。

警告

ブレーキサーボは、エンジン作動時にのみ作動します。

エンジンが停止しているときにブレーキペダルを踏むと、エンジン回転時と比べてペダルが硬く感じられ、車両の制動にいつもより大きな力が必要とします。

起伏の激しい地域や、重い荷物を積載して走行するときは、エンジンブレーキを使用してください。長い下り坂を走行するときは、上りのときと同じギヤを使用すると、エンジンブレーキをもっとも効率的に活用することができます。

重い荷物を積載したときについては、エンジンオイル - 過酷な走行条件 (p. 435)を参照してください。

¹¹ HDC は、V40 CROSS COUNTRY AWD のみに装備可能です。



09 運転操作の要領



ブレーキディスクのクリーニング

ブレーキディスクやパッドに泥や水分が付着すると、ブレーキが効くまでの時間が長くなるおそれがあります。これを防止するには、ブレーキパッドをきれいに保つ必要があります。

長期間駐車する前および洗車の後には、濡れた路面でのマニュアルクリーニングをお薦めします。これは、走行中短時間軽くブレーキをかけることで実施してください。

メンテナンス

車両の信頼性と安全性を可能な限り確保するため、メンテナンスノート(整備手帳)に記載されているボルボのメンテナンスサービス間隔に従って点検整備を実施してください。

重要

ブレーキ系統構成部品の摩耗状況を定期的に点検してください。

手順に関する情報をサービス工場にお問い合わせいただくか、サービス工場に点検を依頼してください。ボルボ指定のサービス工場をお薦めします。

コンパインド・メーター・パネル内のシンボル

シンボル	意味
	警告灯が点灯したままの場合は、ブレーキフルードレベルを点検してください。ブレーキフルードレベルが低いときは補充し、ブレーキフルードが減った原因を点検してください。
	エンジン始動時に2秒間点灯します。これは自動機能点検です。

警告

 と  が両方同時に点灯している場合は、ブレーキシステムに不具合があるおそれがあります。

リザーバータンクのブレーキフルードレベルがこの時点で正常であれば、最寄りのサービス工場まで慎重に走行し、ブレーキ系統の点検を受けてください。点検は、ボルボ指定のサービス工場にお任せください。

ブレーキフルードレベルがリザーバータンクの **MIN** マークより低い場合は、ブレーキフルードを補充するまで絶対に運転しないでください。

ブレーキフルードが減った原因を点検してください。

関連情報

- パーキングブレーキ (p. 324)
- フットブレーキ - アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅表示灯 (p. 323)
- フットブレーキ - エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス (p. 323)
- フットブレーキ - アンチロックブレーキシステム (p. 323)



フットブレーキ - アンチロックブレーキシステム

アンチロックブレーキシステム ABS (Anti-lock Braking System) は、ブレーキ時にホイールがロックされるのを防ぎます。

この機能は、操舵が可能な状態を保ち、ハンドル操作で衝突を回避できるようにします。ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動が感じられる場合がありますが、これは異常ではありません。

エンジン始動後、ブレーキペダルから足を放したときに、ABS の自己診断機能が短時間作動します。車速が約 10 km/h に達したときに、再度 ABS の自己診断機能が作動する場合があります。このとき、ブレーキペダルに振動が感じられる場合があります。

関連情報

- フットブレーキ (p. 321)
- パーキングブレーキ (p. 324)
- フットブレーキ - アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅表示灯 (p. 323)
- フットブレーキ - エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス (p. 323)

フットブレーキ - アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅表示灯

アダプティブブレーキランプは、急ブレーキをかけた際、後続車にそれを知らせて注意を促すためのものです。このライトは通常のブレーキランプ(点灯)と異なり、点滅を繰り返します。

アダプティブブレーキランプは、ABS 作動時に車速が 50 km/h を超えた場合、または/あるいは急ブレーキをかけた際に作動します。車速が 10 km/h になると、ブレーキランプが点滅から通常の点灯に戻ります。同時に、非常点滅表示灯が作動し、運転者が加速して車速が 20 km/h 以上になるかボタンで解除するまで点滅を続けます。

関連情報

- フットブレーキ (p. 321)
- パーキングブレーキ (p. 324)
- フットブレーキ - エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス (p. 323)
- フットブレーキ - アンチロックブレーキシステム (p. 323)

フットブレーキ - エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス

エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス EBA (Emergency Brake Assist) は、ブレーキ力を強めて制動距離を縮めます。

EBA は、運転者のブレーキ操作の傾向を感知して必要に応じてブレーキ力を強めます。ブレーキ圧力は、ABS システムが作動するレベルまで増大します。EBA 機能は、ブレーキペダルの踏力が弱まると一時停止します。

注意

EBA 機能が作動し、フルブレーキ効果を発揮している間は、ブレーキペダルが通常よりも少し奥に入りますが、ブレーキペダルは離さずに踏み続けてください。ブレーキペダルを離すと、ブレーキの作動が止まります。

関連情報

- フットブレーキ (p. 321)
- パーキングブレーキ (p. 324)
- フットブレーキ - アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅表示灯 (p. 323)
- フットブレーキ - アンチロックブレーキシステム (p. 323)



09 運転操作の要領

09

パーキングブレーキ

パーキングブレーキは、ホイールを機械的にロック/ブロックし、運転席に誰もいないときに車両を静止させます。

警告

坂道に駐車する際には、必ずパーキングブレーキを作動させてください。状況によっては、ギヤ(オートマチックトランスミッション車の場合は **P**)に入れておくだけでは、不十分な場合があります。



コンパインド・メーター・パネルの警告灯

パーキングブレーキの作動

1. フットブレーキペダルを踏み込みます。

2. パーキングブレーキレバーを確実に引きま
す。
 > コンパインド・メーター・パネルの警告
 灯が点灯します。

注意

 - コンパインド・メーター・パネル
 の警告灯は、パーキングブレーキのかけ具合
 (強弱)に関係なく点灯します。

3. フットブレーキペダルをゆるめて、車両が静
止したままであることを確認します。
 4. 車両が動く場合は、パーキングブレーキレ
バーをさらに強く引くが必要です。
- ・ 駐車時には必ずギヤを1速ギヤ(マニュアル
トランスミッション)または **P** 位置(オート
マチックトランスミッション)に入れてくだ
さい。

坂道での駐車

上り坂で駐車する場合：

- ・ ステアリングホイールを**車道側**に若干回し
ます。

下り坂で駐車する場合：

- ・ ステアリングホイールを**歩道側**に若干回し
ます。

パーキングブレーキの解除

1. フットブレーキペダルを踏み込みます。

2. レバーを若干持ち上げ、ボタンを押しながら
レバーを解放し、ボタンから手を離します。
 > コンパインド・メーター・パネルの警告
 灯が消灯します。

運転者がパーキングブレーキを解除し忘れたま
ま車速が 10 km/h を超えると、警告灯が点灯し、
お知らせ音が鳴り、コンパインド・メーター・
パネルにメッセージが表示されて運転者の注意
を促します。

関連情報

- ・ フットブレーキ (p. 321)



水溜りでの運転

冠水した道路を走行することもあります。その際は、十分な注意が必要です。

約 30 cm までの水溜りであれば、10 km/h 以下の速度で通過できる場合があります。水が流れているような場所を通過するときは、特に慎重に運転してください。

水溜りを走行するときは、低速を維持し、車両を停止させないでください。水溜り通過後、ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキの効き具合を確認してください。ブレーキ装置が濡れたり泥が付着すると、ブレーキが効くまでの時間が長くなるおそれがあります。

- 水溜りなどを走行した後は、エレクトリックエンジンブロックヒーターおよびトレーラーカップリングの電装品コネクターを清掃してください。
- ドアシルに届くほどの深い水溜りに、長い間停車しないでください。電気装置の故障の原因となるおそれがあります。

重要

エアフィルターに水が入ると、エンジンが損傷するおそれがあります。

水深 30 cm 以上の水溜りを走行すると、トランスミッション内部に水が入るおそれがあります。システム内のフルードを混濁させて、システムの耐用年数が短くなるおそれがあります。

コンポーネント、エンジン、トランスミッション、ターボチャージャー、ディファレンシャル、またはその内部コンポーネントが洪水、静水ロック、またはオイル不足により損傷した場合、保証は適用されません。

深い水溜りの中でストールしたときは、エンジンを再始動しないでください。車両をけん引して、水溜りから外に出して、ボルボ指定のサービス工場に搬送してください。エンジン故障の危険があります。

関連情報

- 車両の回収 (p. 344)
- けん引 (p. 341)

オーバーヒート

起伏の激しい地域や気温が高いときなど特殊な条件では、エンジンやドライブシステムがオーバーヒートする場合があります。特に重い荷物を積載しているときは、ご注意ください。

トレーラーけん引時にオーバーヒートが発生した場合の情報は、トレーラーなどのけん引 (p. 334) を参照してください。

- 気温の高い状況下で走行するときは、グリルの前に補助ライトなどを取り付けないでください。
- エンジンのクーリングシステムの温度が異常に高くなると、コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに警告灯が点灯して、ディスプレイテキスト **エンジン高温 安全に停車して下さい** が表示されます。安全な場所に停車して、エンジンを数分間アイドリングさせて温度を下げてください。
- ディスプレイテキスト **エンジン高温 エンジン** を停止して下さい または **クーラントレベル低下 安全に停車して下さい** が表示された場合は、停車してエンジンを止めてください。
- トランスミッションのオーバーヒートのおそれがある場合には、内蔵の保護機能が作動し、コンパインド・メーター・パネルの警告灯が点灯し、ディスプレイテキスト **トランスミッション高温 減速して下さい または トランスミッション高温 安全に停車し 冷却するまで待機** が表示されます。表示された指示に従って減速し、安全な場所に停車して、エンジンを数分



09 運転操作の要領



09

間アイドリングさせ、トランスミッションの温度を下げてください。

- 車両がオーバーヒートすると、冷暖房が一時的に停止する場合があります。
- 長時間過酷な条件下で走行した後は、停車直後にエンジンを停止しないでください。

注意

エンジン停止後も、エンジンクーリングファンがしばらく回転を続ける場合がありますが、これは異常ではありません。

関連情報

- トレーラーを使用した走行 - マニュアルトランスミッション (p. 335)
- トレーラーを使用した走行 - オートマチックトランスミッション (p. 335)

テールゲートを開けたままの走行

テールゲートを開けたまま走行する際は、有害な排気ガスがカーゴスペースから車内へ入ることがあります。

警告

テールゲートを開けたまま、走行しないでください。テールゲート開口部から、有害な排気ガスを車内に引き込んでしまうおそれがあります。

関連情報

- 荷物の積み込み (p. 177)

過負荷 - メインバッテリー

車内のさまざまな電気機器により、バッテリーにさまざまな負荷が加わります。エンジン停止時のキー位置 **II** は避けるようにしてください。代わりに、**I** モードを使用すると、電力の消費を抑えることができます。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 106) を参照してください。

電気系統に負担をかけるような、各種アクセサリにも注意してください。エンジンを停止しているときに、電力を大量に消費するような機能を使用しないでください。そのような機能の例は：

- ベンチレーションファン
- ヘッドライト
- ウインドスクリーンワイパー
- オーディオシステム(ハイボリューム)

バッテリー電圧が低下すると、インフォメーション・ディスプレイに**バッテリー電圧低下 パワースーブモード**のメッセージが表示されます。バッテリーの負担を軽減するために節電機能が働いて、ベンチレーションファンやオーディオシステムなど、一部の機能を解除または制限します。

- この場合には、エンジンを始動し、走行するなど、エンジンを最低 15 分回転させたままにして、バッテリーを充電してください。バッテリーは、車両が静止したままエンジンをアイドリングさせるよりも、走行時の方が効率よく充電できます。

関連情報

- メインバッテリー - 一般 (p. 404)



長距離走行の前に

長距離走行の前には、以下の点検を行いましう。

- エンジンの作動状態や燃料消費量(p. 445)が正常かどうか確認してください。
- 燃料、オイル、その他のフルードなどが漏れていないか確認してください。
- すべてのバルブ(電球)の機能、およびタイヤのトレッドの深さを点検してください。
- 一部の国では、三角警告板(停止表示板)(p. 357)の装備が法律により義務付けられています。

関連情報

- エンジンオイル - 点検および補充 (p. 388)
- スペアタイヤ* (p. 352)
- ランプ交換 - 一般 (p. 394)

冬季の運転

冬季の運転では、安全に走行するためいくつかの点検を行うことが重要です。

注意事項:

冷寒時は、特に次の点に注意してください:

- 50%以上のグリコールを含んだエンジンクーラント(p. 438)を使用してください。このクーラントは約 -35℃までエンジンを凍結から保護します。不凍効果を最大限に発揮させるため、異なる種類のクーラントを混合しないでください。
- 凝結水が発生しないように、燃料タンクを満タンにしてください。
- エンジンオイルの粘度は非常に重要です。粘度の低いオイル(やわらかいオイル)を使用すると冷寒時にエンジンが始動しやすくなり、またエンジンが暖機されるまでの燃料消費量が低減されます。適切なオイルについての詳細は、エンジンオイル - 過酷な走行条件 (p. 435)を参照してください。

重要

過酷な条件下で走行するときや、気温が高いときは、粘度の低いオイルは絶対に使用しないでください。

- バッテリーの状態および充電レベルを、必ず点検してください。冷寒時はバッテリーに大きな負担がかかり、容量が低下します。
- リザーバータンクの凍結を防ぐため、不凍性のウォッシャー液(p. 403)を使用してください。

降雪や路面凍結のおそれがあるときは、ロードホールディングを最適化するため、ボルボ社では全輪へのウインタータイヤの装着をお薦めします。

注意

一部の国では、ウインタータイヤの使用が法律によって義務付けられています。一部の国では、スタッドタイヤの使用が禁止されています。

スリップしやすい路面での運転

スリップしやすい路面での運転を体験してください。安全で、なおかつスリップしやすい場所を選んで運転し、車両がどのような動きをするか体験してください。



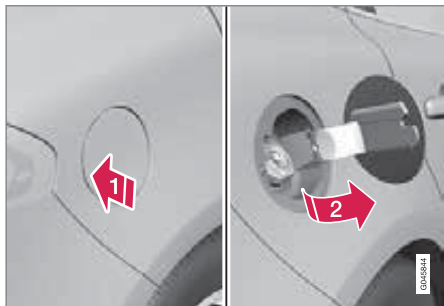
09 運転操作の要領

09

燃料給油口フラップ - 開閉

燃料給油口フラップは次のように開閉します。

燃料給油口フラップの開閉



- 1** ハッチの後ろ側を軽く押して、燃料給油口フラップを開けます。
- 2** フラップを外します。

燃料補給が終わったらフラップを閉じます。

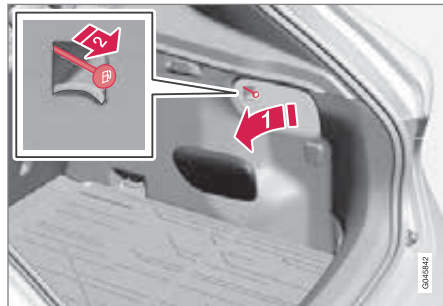
燃料給油口フラップのロック/ロック解除については、ロック/ロック解除 - 燃料給油口フラップ (p. 204) を参照してください。また、燃料給油口フラップのロック機能は、キーレスシステムおよびセントラルロックシステムのロック/ロック解除に合わせて作動します。

関連情報

- 適切な給油方法 (p. 328)

燃料給油口フラップ - 手動

燃料給油口フラップを外側から開けることができなければ、手動で開けることができます。



- 1** カーゴスペースのサイドハッチを開き、取り外します(燃料給油口フラップと同じ側)。
- 2** ラインをまっすぐ後ろ向きに引きます。フラップは外側から開けることができます。

！ 重要

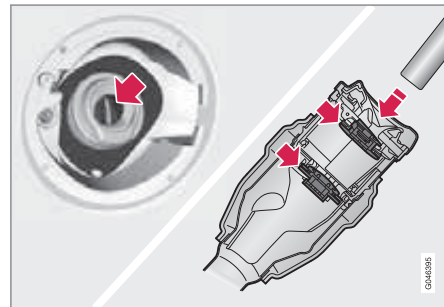
ワイヤーはそっと引いてください。ハッチロックを解除するのに、ほとんど力は要りません。

関連情報

- ロック/ロック解除 - 燃料給油口フラップ (p. 204)
- 適切な給油方法 (p. 328)

適切な給油方法

燃料タンクには、給油キャップのない燃料給油口システムが取り付けられています。給油は次の手順で行います。



- 燃料給油口フラップ (p. 328) を開けます。燃料給油口フラップ - 手動 (p. 328) も参照してください。
- ポンプのノズルを燃料給油口に差し込みます。注意を払ってノズルを**しっかり**フィルターパイプに挿入してください。フィルターパイプは、開く2つのカバーで構成されています。必ず両方のカバーの奥までノズルを押し入れてから、燃料の補給を開始してください。
- 燃料タンクに燃料を入れ過ぎないようにご注意ください。給油機が自動停止した時点で、給油をやめてください。



注意

過度に給油すると、気温の高いときはタンク内の燃料が膨張して漏れ出すおそれがあります。

注意

燃料がこぼれないように、燃料補給完了後約5～8秒待ってからノズルを外すようにしてください。

関連情報

- 燃料容器での給油 (p. 332)

燃料 - 取り扱い

エンジン出力が低下したり燃費が悪化するおそれがありますので、ボルボ社が指定するグレードに満たない燃料は使用しないでください。

警告

燃料の蒸気を吸い込んだり、燃料の飛沫が目に入ったりしないように、つねに注意してください。

万が一、燃料の飛沫が目に入った場合、コンタクトレンズを使用している際はコンタクトレンズを取り出して、十分な流水で最低15分間目を濯いだ後、医師による診察を受けてください。

燃料は絶対に誤飲しないでください。ガソリンやディーゼル燃料は毒性が非常に強く、飲み込んだ場合、永久的な障害、あるいは死にいたるおそれがあります。万が一、燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

警告

地面にこぼれた燃料が、引火するおそれがあります。

燃料を補給する前に、フューエルドリブンヒーターのスイッチを必ずオフにしてください。(該当車両)

絶対に電源の入った携帯電話を携帯して燃料を補給しないでください。受発信の際の微弱な電流から出る火花により燃料蒸気に引火して、火災やヤケドを負うおそれがあります。

重要

異なるタイプの燃料を混合した場合や、推奨されていない燃料を使用した場合には、ボルボの保証およびその他のサービス契約はすべて無効になります。これは、どのエンジンにも当てはまります。

注意

悪天候、トレーラーをけん引しながらあるいは標高の高い地域での走行、不適切な燃料の使用などが組み合わせると、車両が本来の性能を発揮できない場合があります。

関連情報

- 経済走行 (p. 333)



09 運転操作の要領

09

燃料 - ガソリン

燃料にガソリンが使用されます。

大手メーカーのガソリンのみを使用してください。品質が疑われるような燃料は、絶対に使用しないでください。ガソリンは EN 228 規格に適合している必要があります(入手可能な場合)。

- 通常の走行条件では、95 RON を使用することができます。
- 性能を最適化し、燃料消費量を最小限に抑えるため、98 RON の使用をお薦めします。

外気温が+38℃以上の天候下で走行する場合は、性能を最適化して燃費をよくするため、できるだけ高いオクタン価のガソリンを使用してください。

! 重要

- 触媒コンバーターが損なわれないよう、必ず無鉛ガソリンを使用してください。
- エタノール含有量が体積パーセントで 10 %以下の燃料が使用できます。
- 金属添加物の含まれている燃料は使用しないでください。
- ボルボ社が推奨していない燃料添加剤は一切使用しないでください。

! 重要

- エタノール含有量が体積パーセントで 10 %以下の燃料が使用できます。
- EN 228 E10 ガソリン(体積パーセントで 10 %以下のエタノール混合)は使用が許可されています。
- E10(体積パーセントで 10 %以下のエタノール混合)を超えるエタノール(E85 など)は使用できません。
- E10 (体積パーセントで 10 %以下のエタノール混合)を超えるエタノール(E85 など)は使用できません。

関連情報

- 経済走行 (p. 333)
- 燃料 - 取り扱い (p. 329)
- 適切な給油方法 (p. 328)

燃料 - ディーゼル

燃料にディーゼルが使用されます。

大手メーカーのディーゼル燃料のみを使用してください。品質が疑われるような燃料は、絶対に使用しないでください。ディーゼルエンジンは、燃料の汚染(金属や大量の硫黄など)に敏感です。

冷寒時(-6℃~-40℃)は、ディーゼル燃料の中にパラフィンが析出して、着火不良の原因となることがあります。氷点前後で使用できる寒冷地仕様の特殊ディーゼル燃料が、大手燃料メーカーにより販売されています。このタイプの燃料は低温時でも粘度が低く、パラフィンが析出するおそれが少なくなっています。

タンク内の燃料の量が多ければ、凝結水発生のリスクが軽減できます。給油時はフューエルフィルターパイプの周囲が汚れていないか点検してください。塗装面に燃料をこぼさないように注意してください。塗装面にこぼれた燃料は、洗剤と水を使用して洗い流してください。



❗ 重要

次のようなディーゼル燃料は、絶対に使用しないでください：

- 特殊な燃料添加剤
- 船舶用ディーゼル燃料
- 暖房用の油
- FAME¹³ (Fatty Acid Methyl Ester) および植物油

これらの燃料はボルボ社の推奨基準に達しておらず、摩耗を早め、エンジンが損傷する原因になります。不正な燃料を使用したことが原因で発生した損傷には、ボルボ社の保証は適用されません。

空タンク

ディーゼルエンジン車では、燃料系統のデザインにより、車両の燃料がなくなると、給油後エンジンを再始動するために、サービス工場でタンクのエア抜きが必要となる場合があります。

燃料切れでエンジンが停止した場合には、フューエルシステムを点検する必要があります。燃料タンクに軽油を満たした後、エンジンを再始動する前に、これを実施してください。

1. リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに挿入し、奥まで押し込みます。キー位置 (p. 105) を参照してください。
2. ブレーキやクラッチペダルを踏み込まずに **START** ボタンを押してください。

3. 約 1 分間待ちます。
4. エンジンを始動します。ブレーキとクラッチペダルの両方、またはどちらか一方を踏み込み、もう一度 **START** ボタンを押します。

❗ 注意

燃料切れが発生した場合には、燃料を補給する前に：

- できる限り平坦な地面に停車してください。車両が傾いていると、燃料供給部分にエアポケットができる可能性が高くなります。

フューエルフィルターのドレーン(凝結水を排出させる)

フューエルフィルターは、燃料から凝結水を分離します。凝結水は、エンジンの不具合の原因となることがあります。

メンテナンスノート(整備手帳)に指定されている間隔に従って、フューエルフィルターから凝結水を排出してください。また、不純な燃料が補給されたおそれがある場合も排出してください。ボルボメンテナンスサービスプログラム (p. 380) を参照してください。

❗ 重要

フューエルフィルター内の水を除去する働きをする特殊添加剤もあります。

関連情報

- ディーゼル微粒子除去フィルター (DPF) (p. 332)
- 燃料 - 取り扱い (p. 329)
- 経済走行 (p. 333)

¹³ ディーゼル燃料には、一定量の FAME が含まれていることがありますが、それ以上加えないでください。



09 運転操作の要領

09

触媒コンバーター

触媒コンバーターは、排気ガスを浄化する働きがあります。短時間で暖機できるように、エンジンの近くの排気系統に装着されています。

触媒コンバーターは、モノリスタイプ(セラミックまたは金属製)です。表面に金属(白金、ロジウムおよびパラジウム)が吸着されており、これらの金属が触媒として作用し、排気ガス中の有害物質の化学反応(酸化・還元)を促進します。

ラムダソンド™ ヒーター付き酸素センサー

ラムダソンドは有害な排気ガスを低減し、燃焼効率を向上させるためのエンジンコントロールシステムの一部です。詳しくは、燃料消費量およびCO₂排出量 (p. 445)を参照してください。

酸素センサーが排気ガスに含まれる酸素の濃度を絶えずモニターします。その結果をエンジンの燃料噴射をコントロールする電子装置に送ります。空燃比は継続的に調節されます。調節機能は、効率のよい燃焼のために最適な条件を生み出すだけでなく、三元触媒コンバーターと共に、有害物質(炭化水素、一酸化炭素、窒素酸化物)の排出量を低減する働きをします。

関連情報

- 経済走行 (p. 333)
- 燃料 - ガソリン (p. 330)
- 燃料 - ディーゼル (p. 330)

燃料容器での給油

燃料容器から給油する (p. 328) 際には、カーゴスペースのフロアハッチの下にある漏斗を使用してください。

! 重要

車内での予備燃料容器の保管については、国ごとに法律が異なります。適用される法律や規則を確認してください。

注意をはらって、漏斗を**確実に**フィルターパイプに挿入してください。フィルターパイプは、開く2つのカバーで構成されています。必ず両方のカバーの奥まで漏斗を押し入れてから、燃料の補給を始めてください。

関連情報

- ロック/ロック解除 - 燃料給油口フラップ (p. 204)
- 燃料給油口フラップ - 手動 (p. 328)

ディーゼル微粒子除去フィルター(DPF)

ディーゼルエンジン搭載車は、より効率のよいエミッションコントロールのため、ディーゼル微粒子除去フィルターが装着されています。

通常の走行時、排気ガス中の粒子状物質はフィルターに集められます。いわゆる「再生」が開始されると、フィルターに吸着した微粒子が燃焼され、フィルターが空になります。再生を開始するためには、エンジンが通常の作動温度に達している必要があります。

フィルターの再生は自動で行われ、通常10～20分かかります。平均速度が低い場合、再生時間が多少長くなる場合があります。再生中は、燃料消費量が若干増える場合があります。

冷寒時の再生煤フィルター

低温時に短距離を頻繁に運転する場合には、エンジンは通常の作動温度に到達しません。このため、ディーゼル微粒子除去フィルターの再生が実施されず、フィルターは空になりません。

フィルターの約80%まで黒煙の微粒子が詰まると、コンパインド・メーター・パネルに黄色の三角警告灯が点灯し、インフォメーション・ディスプレイに**ディーゼル微粒子フィルターが一杯です。マニュアルを参照して下さい**メッセージが表示されます。

エンジンが通常の作動温度に達するまで(可能であれば高速道路や主要幹線で)走行して、フィルターの再生を開始させます。約20分以上、走行を続けてください。



注意

再生中は、以下のような状況が発生する場合があります。すなわち、

- 一時的にエンジン出力のわずかな減少が感じられる
- 燃費が一時的に上昇する
- 焦げたような臭いがする。

再生が完了すると、警告メッセージは自動的に消えます。

冷寒時にパーキングヒーター*を使用すると、エンジンをより早く正常な作動温度にすることができます。

重要

フィルターに微粒子が詰まると、エンジンの始動が困難になる場合や、フィルターが機能しなくなる場合があります。この結果、フィルターの交換が必要になる場合があります。

関連情報

- 燃料 - ディーゼル (p. 330)
- 経済走行 (p. 333)

経済走行

先を見越して、走行状況とスピードをその時々
の交通状況に合わせてスムーズに運転することが、
経済走行につながります。

- ECO Guide*(p. 94) を使用してください。
車両がどれくらい効率的に運転されているかを確認できます。
- 燃費をもっとも低く抑えるには、
ECO*(p. 318)¹⁴ をオンにしてください。燃費をさらに減らすことができます。
- 冬季以外は、ウインタータイヤを使用しないでください。
- 走行条件に合わせ、できるだけ高いギヤで走行してください。エンジン回転が低ければ、燃料消費も小さくなります。ギヤシフトインジケーター(p. 301)¹⁵ を使用してください。
- 不必要な突然の加速や急ブレーキは避けてください。
- 高速走行では、燃料消費量が増加します。速度が速くなると、空気抵抗が大きくなります。
- エンジンが作動温度に達するまでアイドリングを続けるより、すみやかに発進し、できるだけ負荷がかからないように運転してください。エンジンは、冷えているときの方が暖まっているときよりも多くの燃料を消費します。

- 正しいタイヤ空気圧で走行し、空気圧は定期的に点検してください。最適な効果を得るために、ECO タイヤプレッシャーを選択してください。タイヤ - 承認された空気圧 (p. 446) を参照してください。
- 使用するタイヤにより、燃費が変わります。適切なタイヤに関する情報は、ディーラーにお問い合わせください。
- 不必要な荷物は車両から取り出してください。荷物が重いほど、燃料消費も多くなります。
- 他の道路使用者に支障がない限り、エンジンブレーキを有効に使用して減速してください。
- ルーフ上にスキーボックスや荷物などを載せて走行すると、燃料消費量が増加します。使用していないロードキャリアは取り外してください。
- 不必要に、パワーウインドを開けて走行しないでください。

詳しくは、ボルボ社の環境フィロソフィー (p. 21) および燃料消費量および CO2 排出量 (p. 445) を参照してください。

¹⁴ オートマチックトランスミッション

¹⁵ マニュアルトランスミッション



警告

下り坂走行時などであっても、車が動いている間はけっしてエンジンを停止しないでください。パワーステアリングやブレーキサーボといった重要なシステムが作動しなくなります。

トレーラーなどのけん引

トレーラーを使用した走行では、トローイングブラケットやトレーラー、トレーラー内の荷物の配置など、考慮すべき重要なポイントがいくつかあります。

最大許容重量は、車両重量により異なります。乗員およびトウバーなど車両に装着されているアクセサリーの総重量の分だけ、最大許容重量が小さくなります。詳しくは、重量（p. 430）を参照してください。

ボルボ指定のサービス工場でトローイングブラケットを取り付けた場合は、トレーラーけん引に必要な装備が整っています。

- 認定されたタイプのトローイングブラケットをご使用ください。
- トウバーを後付けする場合は、トレーラーけん引のために必要な装備が整っているか、ボルボ指定のディーラーで確認してください。
- トウボールにかかる荷重が最大荷重を超えないように、トレーラー内の重量を配分してください。
- タイヤの空気圧は、定員乗車時の推奨空気圧に調節してください。タイヤ空気圧については、タイヤ - 承認された空気圧（p. 446）を参照してください。
- トレーラーなどのけん引時は、エンジンに通常の場合よりも大きい負担がかかります。
- 新車は、重いトレーラーなどのけん引をひかえてください。少なくとも 1000 km 走行するまで、お待ちください。

- 長い急な下り坂では、ブレーキに通常よりも大きな負担がかかります。シフトダウンして、速度を調節してください。
- 安全のため、トレーラーけん引中の車両用の速度規制を上回らないようにしてください。速度と重量に関する規則を厳守してください。
- トレーラーをけん引して勾配の急な長い坂道を上るときは、低速で走行してください。
- 道路の勾配が 12% を超える場合は、トレーラーなどのけん引を行わないでください。

トレーラーケーブル

車両のトローイングブラケットのコネクターが 13 ピンコネクターで、トレーラーのコネクターが 7 ピンコネクターの場合は、アダプターが必要です。ボルボ社が認可したアダプターを使用してください。ケーブルが地面にふれていないことを確認してください。

トレーラーの方向指示器とブレーキランプ

トレーラーの方向指示器が故障している場合は、コンパインド・メーター・パネル上の方向指示器用表示灯が通常よりも高速で点滅し、インフォメーション・ディスプレイにテキスト **トレーラー方向指示器故障** が表示されます。

トレーラーのブレーキランプのいずれかに不具合が生じると、**トレーラーストップランプ故障** というテキストが表示されます。

オートレベライザー*

車両の搭載重量に関係なく（ただし、最大許容重量以下）、走行中にリアサスペンションが適正な



高さに調節されます。停車時は、リアサスペンションが少し下がりますが、これは異常ではありません。

トレーラーの重量

ボルボ社の最大許容トレーラー重量については、けん引重量およびトウボール荷重 (p. 431) を参照してください。

注意

このマニュアルに記載されたトレーラーの最大許容重量は、ボルボ社が指定した重量です。トレーラーけん引時の最大許容速度は 100 km/h です。各国の法律によって、トレーラーの重量や速度にさらなる制限が加えられる場合があります。トウバーによっては、車両が実際にけん引できる重量よりも大きい最大許容荷重が認定されているものもあります。

警告

けん引に関する重量の注意事項を厳守してください。緊急回避操作や急ブレーキ時に、車両が操縦不能となるおそれがあります。

関連情報

- トーイングブラケット (p. 336)
- ランプ交換 - 一般 (p. 394)

トレーラーを使用した走行 - マニュアルトランスミッション

気温が高いときに丘陵地帯をトレーラーなどをけん引 (p. 334) して走行すると、オーバーヒートのおそれがあります。

- エンジン回転速度が 4,500 rpm (ディーゼルエンジンでは 3,500 rpm) を超えない範囲で走行してください。エンジンオイルの温度が異常に高くなるおそれがあります。

ディーゼルエンジン 5 気筒

- オーバーヒートのおそれがある場合には、クーラントの循環を最適に保つためのエンジンの最適回転速度は、2,300-3,000 rpm です。

関連情報

- マニュアルトランスミッション (p. 300)

トレーラーを使用した走行 - オートマチックトランスミッション

起伏の激しい地域や気温が高いときにトレーラーをけん引して走行すると、車両がオーバーヒートするおそれがあります。

- オートマチックトランスミッションは、負荷とエンジン回転速度に合った適切なギヤを選択します。
- オーバーヒートが発生した場合、コンパインド・メーター・パネルに警告灯が点灯し、インフォメーション・ディスプレイにテキストメッセージが表示されます。指示に従ってください。

急勾配の坂

- オートマチックトランスミッションをエンジンに無理な負担がかかるような高いギヤに選択しないでください。つねに高いギヤでエンジン回転速度を低めに保つことがよいとは限りません。

重要

Powershift (パワーシフト) (p. 305) オートマチックトランスミッション装備の車両でトレーラーをけん引して低速走行する際の特長情報も参照してください。

坂道での駐車

1. フットブレーキを踏みます。
2. パーキングブレーキをかけます。



09 運転操作の要領



3. ギヤセクターレバーを **P** 位置に入れます。
4. フットブレーキを離します。
 - トレーラーなどをけん引して駐車するときは、ギヤセクターレバーを **P** 位置に入れてください。必ずパーキングブレーキをかけてください。
 - トレーラーを接続した状態でやむをえず坂道に駐車する場合は、必ず輪止めを使用してください。

坂道発進：

1. フットブレーキを踏みます。
2. ギヤセクターレバードライブポジション **D** に入れます。
3. パーキングブレーキを解除します。
4. フットブレーキを離し、走行を開始します。

関連情報

- オートマチックトランスミッション - Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 301)
- オートマチックトランスミッション - Powershift(パワーシフト)* (p. 305)

トーイングブラケット

トーイングブラケットは車両にトレーラーを連結して走行できるようにするためのものです。

脱着式トウバー装着車では、脱着セクションの取り付け指示に注意深く従ってください。脱着式トウバー* - 取り付け/取り外し (p. 338) を参照してください。

警告

ボルボ純正脱着式トウバー装着車の場合：

- 指示に従って慎重に取り付けてください。
- 走行前に、脱着式セクションを必ずキースでロックしてください。
- インジケーターウインドが緑になっていることを確認してください。

重要な点検

- トウバーのトウボールはつねに清掃し、定期的にグリースを塗ってください。

警告

脱着式トウバーの可動部分は、絶対に潤滑したり、オイルを塗布したりしないでください。安全性を脅かすおそれがあります。



注意

振動ダンパー付きのヒッチを使用する際にはトウボールは絶対にグリースを塗らないでください。

関連情報

- トレーラーなどのけん引 (p. 334)
- 脱着式トウバー* - 仕様 (p. 337)
- 脱着式トウバー* - 保管 (p. 337)



脱着式トウバー* - 保管

脱着式トウバーはカーゴスペースに保管してください。



脱着式トウバーの保管場所

！ 重要

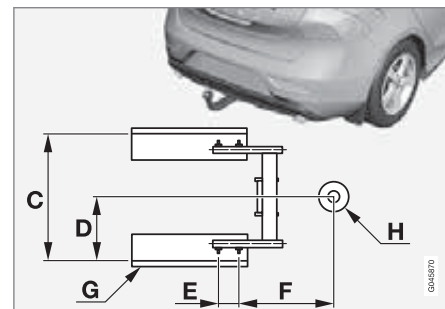
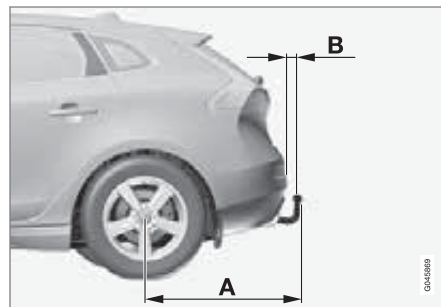
脱着式トウバーは、使用後に必ず取り外して車両の所定位置に保管してください。

関連情報

- 脱着式トウバー* - 仕様 (p. 337)
- 脱着式トウバー* - 取り付け/取り外し (p. 338)
- トレーラーなどのけん引 (p. 334)

脱着式トウバー* - 仕様

脱着式トウバーの仕様



マウンティングポイントの寸法 (mm)

A	887
B	73
C	881
D	441
E	109
F	306
G	サイドメンバー
H	ボールセンター



09 運転操作の要領



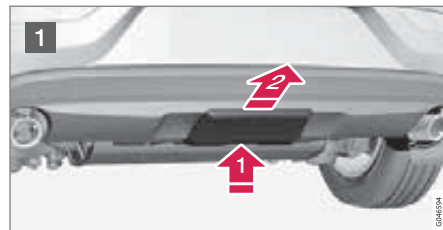
関連情報

- 脱着式トウバー* - 取り付け/取り外し (p. 338)
- 脱着式トウバー* - 保管 (p. 337)
- トレーラーなどのけん引 (p. 334)

脱着式トウバー* - 取り付け/取り外し

脱着式トウバーの取り付け/取り外しは次のように行います。

取り付け



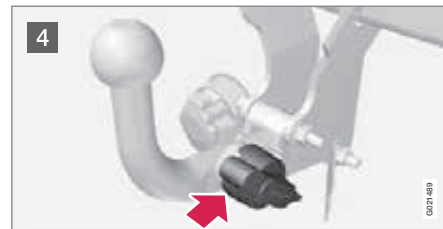
- 1 最初にキャッチ  を押し、プロテクティブカバーをまっすぐ後方  に引いて取り外します。



- 2 キーを右に回して、ロック解除位置になっていることを確認します。



- 3 インジケータウインドが赤になっていることを確認します。



- 4 カチッと音がするまで、トウボールセクションを差し込みます。



- 5 インジケーターウインドが緑になっていることを確認します。



- 6 ロック位置までキーを左に回します。ロックからキーを抜きます。



- 7 トウボールセクションを上下および後方に引いて、確実に固定されているか確認します。

警告

トウボールが正しく装着されていない場合は、必ず一度取り外してから、前項の指示に従って装着し直してください。

重要

トウボールのボール部分にのみグリースを塗り、トウバーの他の部分は、必ずきれいで乾燥した状態に保ってください。



- 8 セーフティケーブル

警告

トレーラーのセーフティケーブルは必ず適切なブラケットに接続してください。

脱着式トウバーの取り外し



- 1 キーを差し込んで右に回し、ロックを解除します。



09 運転操作の要領

09



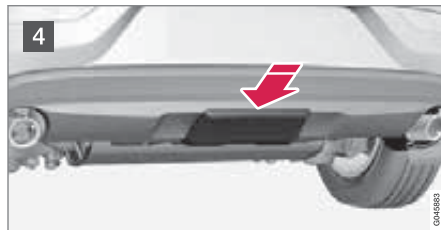
- 2 ロッキングホイール **1** を押し込み、カチッと音がするまで左に **2** 回します。



- 3 ロッキングホイールを下に向けて、止まるまで回します。この位置で保持したまま、トウボールを後方に引き上げます。

警告

脱着式トウボールを車両内に保管する場合は、確実に固定してください。脱着式トウバー* - 保管 (p. 337) を参照してください。



- 4 プロテクティブカバーをカチッと音がするまで押し込みます。

関連情報

- 脱着式トウバー* - 保管 (p. 337)
- 脱着式トウバー* - 仕様 (p. 337)
- トレーラーなどのけん引 (p. 334)

トレーラー・スタビリティ・アシスト¹⁶ TSA¹⁶

トレーラー・スタビリティ・アシスト TSA (Trailer Stability Assist) 機能は、車両とトレーラーが蛇行を始めた場合に安定化を図るものです。

TSA 機能はスタビリティ・システム (p. 212) ESC¹⁷ に含まれています。

機能

蛇行は、どのような車両とトレーラーの組み合わせでも発生します。通常、蛇行は高速走行時に発生します。しかし、トレーラーに過剰な負荷がかかっている場合や、積荷の配分が不適切 (後に偏っている) な場合、低めの走行速度 (70~90 km/h) でも、発生するおそれがあります。

蛇行が発生する要因として、次のようなものがあります。

- トレーラーをけん引している車両が、強い突風を横から受けた場合。
- 起伏のある道や、穴の上を走行した場合。
- 急なハンドル操作。

操作

いったん蛇行が発生してしまうと抑制するのは非常にむずかしく、抑制できない場合もあります。こうなると車両およびトレーラーの運転操作が困難になり、別車線にはみ出したり、車道を逸脱するおそれがあります。



トレーラー・スタビリティ・アシスト機能は、車両の動き(特に横方向の動き)を連続的に監視します。蛇行を検知すると前輪の左右個別にブレーキをかけ、車両およびトレーラーの安定化を図ります。多くの場合、この段階で車両の制御が回復します。

TSA の初期制御で回復しない場合は、車両およびトレーラーのすべての車輪にブレーキをかけ、エンジン出力を低下させます。蛇行が徐々に解除され、車両およびトレーラーが安定すると、TSA システムは停止します。運転者は車両を再び完全に制御できるようになります。詳しくは、エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 概要 (p. 212)を参照してください。

その他

TSA システムは、65～160 km/h の速度域で作動します。

① 注意

ドライバーが **Sport** モードを選択すると、TSA 機能が解除されます(エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 概要 (p. 212)を参照してください)。

運転者が蛇行を修正しようとして、ハンドルを激しく操作すると、TSA が作動しない場合があります。蛇行を引き起こしているのが、トレー

ラーか運転者か、TSA では判断できないためです。



TSA が作動しているときには、コンパインド・メーター・パネルのシンボル **ESC**¹⁷ が点滅します。

関連情報

- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 概要 (p. 212)

けん引

けん引では、けん引ロープを使用して1台の車両をもう1台の車両がけん引します。

けん引を行う前に、必ず法律で定められている制限速度などを確認してください。

- イグニッションスイッチにリモートコントロールキーを差し込み、**START/STOP ENGINE** ボタンを長押ししてステアリングホイールロック (p. 298) のロックを解除します。キー位置 **II** (p. 106) が有効になります。
- けん引中は、リモートコントロールキーを絶対に抜かないでください。
- けん引車の速度が低下した場合には、不必要な急な引きを避けるために、ブレーキペダルを軽く踏み、ロープが張った状態を保ちます。
- 足は必ずブレーキペダルに置いて、いつでも踏める状態にしてください。

¹⁶ ボルボ純正トウバーの取り付けに含まれます。

¹⁷ Electronic Stability Control



09 運転操作の要領



警告

- けん引を開始する前に、ステアリングホイールロックが解除されていることを確認してください。
- リモートコントロールキーを必ず **II** 位置にしてください。**I** 位置では、全エアバッグが非作動状態になります。
- けん引中は、リモートコントロールキーをイグニッションスイッチから絶対に抜かないでください。

警告

エンジンが OFF になっているとブレーキサーボやパワーステアリングが機能しません。ブレーキペダルを踏み込むには約 5 倍の力が必要となり、ステアリングも通常よりかなり重く感じられます。

マニュアルトランスミッション

けん引を始める前に：

- ギヤセクターレバーをニュートラルに入れ、パーキングブレーキを解除します。

オートマチックトランスミッション Geartronic(ギヤトロニック)

重要

必ず車両の前進方向にのみ、けん引してください。

- オートマチックトランスミッション車はけん引時の走行速度 80 km/h 以下、けん引距離 80 km 以内を厳守してください。現地の交通法規で許可されている速度を遵守してください。

けん引を始める前に：

- ギヤセクターレバーを **N** に入れ、パーキングブレーキを解除します。

オートマチックトランスミッション Powershift(パワーシフト)

Powershift(パワーシフト)トランスミッション装備モデルはけん引しないでください。どうしてもけん引が必要な場合には、できるだけ距離を短くし、超低速でけん引してください。

車両に Powershift(パワーシフト)トランスミッションが装備されているか不確かな場合は、ボンネット下のトランスミッションラベルに記載されているタイプの表示(p. 427)を確認できます。”MPS6”と記されていれば、Powershift(パワーシフト)トランスミッションであることを意味し、それ以外の場合は、

Geartronic(ギヤトロニック)オートマチックトランスミッションです。

重要

けん引は避けてください。

- ただし、危険な場所から車両を移動する場合など、低速による短距離のけん引は可能です。走行速度 10 km/h 以下、けん引距離 10 km 以内。必ず車両の前進方向にのみ、けん引してください。
- 10 km 以上移動する必要がある場合には、駆動輪を浮かせた状態で輸送することが必要です。専門のレッカーサービスにご依頼ください。

けん引を始める前に：

- ギヤセクターレバーを **N** に入れ、パーキングブレーキを解除します。

ジャンプスタート

けん引によって、エンジンを始動させないでください。バッテリーが放電し、エンジンが始動しない場合は、他車のバッテリーを使用してください。ジャンプスタート (p. 299)を参照してください。

重要

エンジンをけん引始動しようとする、触媒コンバーターに損傷が発生するおそれがあります。



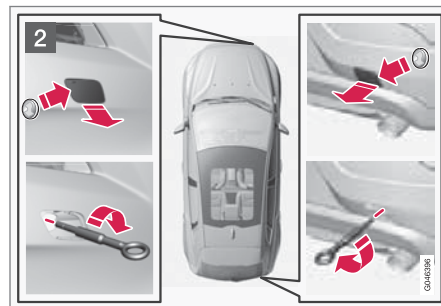
関連情報

- けん引フック (p. 343)

けん引フック

けん引フックは、フロントまたはリアバンパーの右側にある、カバーがついたネジ式のソケットに取り付けます。

けん引フックの取り付け



- 1 カーゴスペースのフロアハッチ下にある収納場所から、けん引フックを取り出します。

注意

フォームブロック内のけん引フック/ホイールレンチを取り出すには：

- **バージョン1:** ホイールレンチにアクセスするには、緊急パンクリペアーキット (ポイント5)用のコンプレッサーユニットを持ち上げてください。シーラントのボトル (ポイント6)を引き出すと、けん引フックに手が届きます。
- **バージョン2:** けん引フックにアクセスするには、緊急パンクリペアーキット (ポイント5)用のコンプレッサーユニットを持ち上げてください。ホイールレンチはジャッキの下にあります。



09 運転操作の要領



2 けん引フック取付け部のカバーには2種類あり、それぞれ次のように開く必要があります。

- コインなどを溝に差し込んで、リアバンパーの溝を開き、注意深く外向きに回してください。その後、カバー全体を外側に曲げ、取り外してください。
- フロントバンパーの溝には、片側または角に印が付いています。この印を指で押しながら、反対側/角を引き出します。カバーは軸の周りを回転するように開き、取り外すことができます。

けん引フックを、フランジが当たるまでねじ込みます。ホイールレンチを使用するなどして、けん引フックを確実に取り付けてください。

使用後はけん引フックを外してください。
けん引フックを元の位置に戻してください。
最後にカバーを忘れずにバンパーに付け直してください。

重要

けん引フックは、路面での車両のけん引専用です。溝に落ちた車両の引き上げなどには**使用しないでください**。けん引が必要な場合は、レッカーサービスに連絡して救援を求めてください。

関連情報

- けん引 (p. 341)
- 車両の回収 (p. 344)

車両の回収

車両の回収とは他の車両によって自車を輸送することを指します。

車両の回収が必要な場合は、レッカーサービスに連絡して救援を求めてください。

レッカー車の平台へ車両を引き上げるときには、けん引フックを使用できる場合があります。車両の位置と最低地上高により、使用の可否が決まります。レッカー車のスロープの傾斜が急すぎる場合、または車両下の最低地上高が十分でない場合、けん引フックで車両の引き上げを試みると、車両が損傷するおそれがあります。必要に応じ、レッカー車のリフト装置を使用して車両を持ち上げてください。

重要

車両をけん引する場合は、必ず車両の前進方向にのみ、けん引してください。

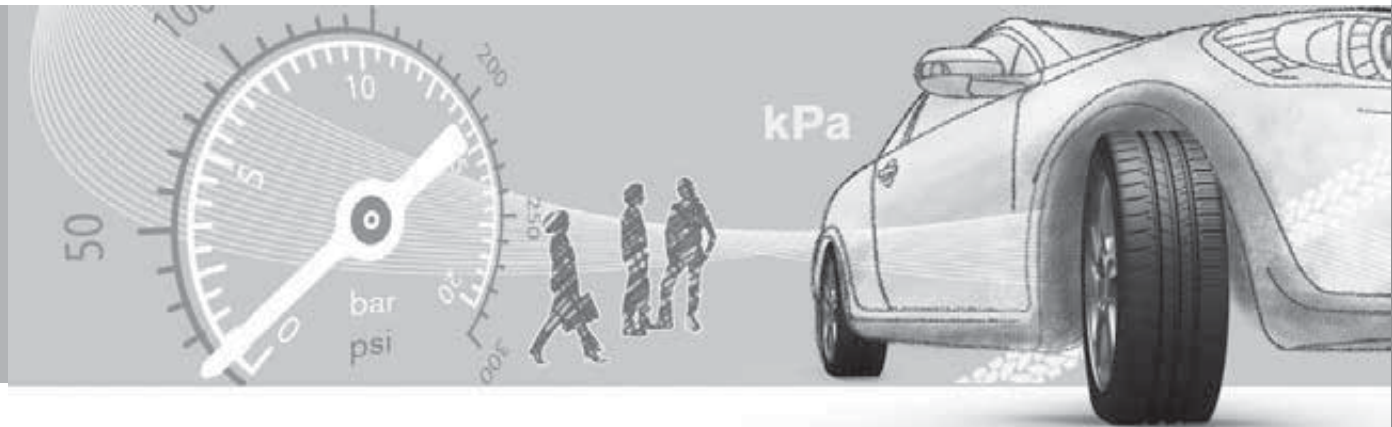
- フロントサスペンションが高い全輪駆動車(AWD)は、70 km/h 以上の速度でけん引しないでください。50 km 以下の速度でけん引してください。

関連情報

- けん引 (p. 341)

10

ホイールおよびタイヤ



タイヤ - メンテナンス

特にタイヤには、路面のグリップ力を提供し、振動を抑制し、ホイールを磨耗から保護する機能があります。

走行特性

タイヤは、車両の走行特性に大きく影響します。タイヤの種類、寸法、タイヤ空気圧、速度記号は、車両の性能に大きな意味を持ちます。

タイヤの耐用年数

製造日から6年以上経過したタイヤは、摩耗していなくても必ず専門家による点検が必要です。ほとんど使用されていない場合や、一切使用されていない場合でも、タイヤは経年劣化し、変質します。そのため、機能が劣化します。これは、将来使用するために保管しておくタイヤすべてに当てはまります。亀裂や変色などがあるタイヤは、絶対に使用しないでください。

新しいタイヤ



タイヤは消耗品です。製造後数年が経過すると、タイヤはしだいに硬くなり、接地性が悪くなります(経年劣化)。タイヤを交換するときは、できるだけ製造年が新しいタイヤと交換してください。特に、ウインタータイヤの場合は重要です。最後の4桁の数字は、そのタイヤの製造週と製造年を表しています。これはタイヤのDOTマーク(Department of Transportation)と呼ばれ、例えば1510のように表示されます。図中のタイヤは2010年第15週に製造されたものです。

サマータイヤおよびウインタータイヤ

サマータイヤとウインタータイヤを交換するときなどは、タイヤをどこから取り外したかわかるように、例えば、左前輪なら「左前」、右後輪なら「右後」のように、各タイヤに必ずマークを付けてください。

摩耗とメンテナンス

タイヤ空気圧(p. 348)が適切であれば、タイヤは均一に磨耗します。タイヤの寿命および摩耗は、運転スタイル、タイヤ空気圧、気候および路面状況などに影響されます。前輪と後輪のタイヤをローテーションすると、タイヤの片減りや不均一なタイヤの摩耗(p. 347)を防ぐことができます。初回は約5,000 km走行後、その後は10,000 km走行毎に実施してください。タイヤについてご不明な点は、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。タイヤごとに摩耗の度合いが著しく異なる場合(トレッドの深さの差が1 mm)には、一番摩耗が少ないタイヤを必ず後輪に装着してください。

アンダーステア時は、車両後部が片側に横滑りするよりまっすぐ前進するため、オーバーステア時より修正しやすいのが普通です。後輪が横滑りすると、車両の制御を完全に失う可能性がありますので、後輪が前輪より早くグリップ力を失うことがないようにすることが重要です。

タイヤを保管するときは、横に寝かせるか吊るすかをしてください。立てかけた状態で保管しないでください。



警告

タイヤが損傷していると、車両を制御できなくなるおそれがあります。

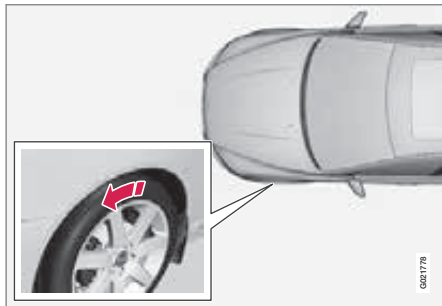
関連情報

- タイヤ - 寸法 (p. 349)
- タイヤ - 速度記号 (p. 350)
- タイヤ - 回転方向 (p. 347)



タイヤ - 回転方向

トレッドパターンが一方向にのみ回転するようにデザインされているタイヤは、サイドウォール部にタイヤの回転方向が矢印で表示されています。



矢印は、タイヤの前進回転方向を示します。

タイヤの使用期間中、前進時の回転方向がつねに同じになるように装着してください。タイヤは前後の入れ替えはできませんが、絶対に左右を入れ替えないでください。タイヤが正しく装着されていない場合、降雨時などでブレーキ性能が低下する原因になります。摩耗が少ない(トレッド溝が深い)タイヤをリアに装着すると、スリップしにくくなります。

注意

4 輪とも同じタイプ、同じサイズで、同じメーカーのものを装着するよう徹底してください。

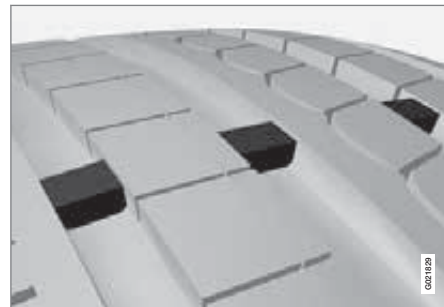
タイヤ空気圧一覧表に記載されている推奨のタイヤ空気圧 (p. 348) を使用してください。

関連情報

- タイヤ - 寸法 (p. 349)
- タイヤ - 速度記号 (p. 350)
- タイヤ - メンテナンス (p. 346)
- タイヤ - トレッド磨耗インジケーター (p. 347)

タイヤ - トレッド磨耗インジケーター

トレッド磨耗インジケーターはタイヤのトレッドの状態を示します。



タイヤの摩耗インジケーター

トレッド面の溝の中には、一箇所、帯状に盛り上がった部分があり、これがタイヤの摩耗インジケーターとなっています。タイヤの側面に TWI (Tread Wear Indicator) の文字が表示されています。トレッドの溝の深さが 1.6 mm 以下になると、トレッド磨耗インジケーターが露出します。すみやかに新しいタイヤと交換してください。摩耗したタイヤは、雨や雪で濡れた路面などでグリップ力が非常に悪くなり、スリップの原因になります。

関連情報

- タイヤ - 速度記号 (p. 350)
- タイヤ - 空気圧 (p. 348)
- タイヤ - 回転方向 (p. 347)

タイヤ - 空気圧

タイヤの空気圧はそれぞれ異なる場合があります。空気圧の測定単位はバール(bar)です。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧は毎月点検する必要があります。空気圧の点検はタイヤが冷えた状態で行ってください。「冷えたタイヤ」とは、外気温と同じ温度のタイヤを指します。タイヤは数 km 走行しただけで暖まり、内部の空気圧が上がります。タイヤ空気圧が不十分であれば、燃料消費が増加し、タイヤの寿命が短くなり、車両のロードホールディング性能に悪影響を及ぼします。タイヤ空気圧が低過ぎると、走行中にタイヤが過熱して損傷するおそれがあります。タイヤ空気圧は、走行快適性やロードノイズ、およびハンドル操作性などに影響します。

注意

タイヤ空気圧は時間と共に低下しますが、これは異常ではありません。タイヤ空気圧は、外気温によっても変化します。

タイヤ空気圧表示ラベル



運転席側ドアピラー(フレームとリアドアの間)にタイヤ空気圧表示ラベルがあり、異なる荷重および走行速度におけるタイヤの適正空気圧が表示されています。これはタイヤ空気圧一覧表にも記載されています。

車両の推奨タイヤサイズに適した空気圧と、燃費向上につながる ECO プレッシャーの情報は、印刷版オーナーズマニュアルに記載されています。

注意

タイヤの空気圧は、温度によって変化します。

刷版オーナーズマニュアルの「タイヤ空気圧」を参照してください。

関連情報

- タイヤ - 速度記号 (p. 350)
- タイヤ - 回転方向 (p. 347)
- タイヤ - メンテナンス (p. 346)
- タイヤ - トレッド磨耗インジケーター (p. 347)

燃費、ECO プレッシャー

160 km/h 未満の車速で最適な燃費を確保するために、ECO プレッシャーが推奨されています(最大荷重および軽荷重の両方に適用されます。印



ホイールおよびホイールリム寸法

ホイールおよびリムの寸法は以下の表内の例のように設計されています。

車両全体が認定されています。つまり、この車両で使用されるホイール(ホイールリム)およびタイヤの組み合わせが認定されています。

ホイール(リム)には、7Jx16x50 のようにホイールサイズが記されています。

7	ホイールリム幅(単位: インチ)
J	リムフランジプロファイル
16	ホイールリム径(単位: インチ)
50	オフセット(単位: mm、ホイールの中央から、ホイールのハブとの接触面までの距離)

関連情報

- ホイールナット (p. 350)

タイヤ - 寸法

車両のホイール、タイヤ、リムの寸法は指定されています。以下の表の例を参照してください。

車両全体が認定されています。すなわち、ホイールとタイヤの特定の組み合わせのみが承認されています。

タイヤの規格は、タイヤの側面に表示されています。表示例: 215/55R16 97W

205	タイヤ幅 (mm)
50	断面の高さと幅の比を、百分率で表した値(扁平率)
R	ラジアルタイヤ表示
17	ホイールリム径(単位: インチ)
93	最大許容タイヤ負荷能力の指数、ロードインデックス (p. 349) (LI)
W	制限速度を示す速度記号、速度記号 (p. 350) (SS)。(この場合は 270 km/h _e)

関連情報

- タイヤ - 空気圧 (p. 348)
- タイヤ - 回転方向 (p. 347)
- タイヤ - トレッド磨耗インジケータ (p. 347)

タイヤ - ロードインデックス

ロードインデックスはタイヤの耐荷重を示す指標です。

各タイヤには最大負荷能力を示すロードインデックス (LI) が指定されています。タイヤの最大積載重量は、車両の重量により異なります。

関連情報

- タイヤ - 寸法 (p. 349)
- タイヤ - 速度記号 (p. 350)
- タイヤ - 空気圧 (p. 348)
- タイヤ - トレッド磨耗インジケータ (p. 347)



10 ホイールおよびタイヤ

タイヤ - 速度記号

タイヤには、それぞれ走行が可能な最高速度が指定されており、速度記号(SS - Speed Symbol)が付いています。

タイヤの速度記号は、少なくとも車両の最高速度に対応している必要があります。最低速度記号が以下の速度記号一覧表に記載されています。ただし、ウインタータイヤ (p. 351) だけは(メタルスタッドの有無に関わらず)例外です。それ以下の速度記号のものを使用してもかまいません。そのようなタイヤを装着する場合、そのタイヤの速度記号を超える速度で走行しないでください。(例えば、速度記号 Q のタイヤの最高速度は 160 km/h です。)車両の制限速度は、道路交通法規に準じます。タイヤの速度記号により決定されるものではありませんので、ご注意ください。

i 注意

制限速度が一覧表に示されています。

Q	160 km/h(ウインタータイヤのみ)
T	190 km/h
H	210 km/h
V	240 km/h

W	270 km/h
Y	300 km/h

⚠ 警告

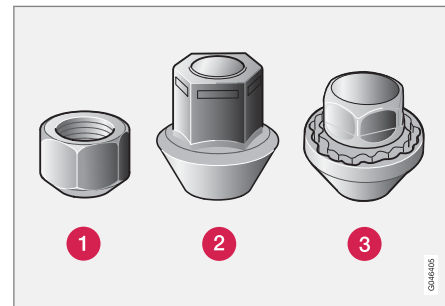
車両には、ロードインデックス (p. 349) (LILI) および速度記号 (SS) が同じか、それ以上のタイヤを装着してください。ロードインデックスや速度記号が低すぎるタイヤを使用すると、タイヤがオーバーヒートするおそれがあります。

関連情報

- タイヤ - 寸法 (p. 349)
- タイヤ - 空気圧 (p. 348)
- タイヤ - 回転方向 (p. 347)

ホイールナット

ホイールナットはホイールをハブに固定するために使用されます。各種揃っています。



- 1 標準ホイールナット
- 2 バルジエイコーンホイールナット
- 3 ロックホイールナット

締め付けトルク

- タイプ1 ホイールナット(スチール製ホイール) : 110 Nm
- タイプ2 ホイールナット(アルミ製ホイール) : 130 Nm
- タイプ3 ロックホイールナット(スチール/アルミ製ホイール) : 110 Nm

ボルボ社の認定を受けた、ボルボ純正品、または純正アクセサリパーツのみを使用してください。トルクレンチを使用して、締め付けトルクを確認してください。



ロックホイールナット*

ロックホイールナットは、アルミホイールおよびスチールホイールの両方に使用することができます。カーゴスペースのフロア下には、ロックホイールナット用スリーブを収納するスペースがあります。

関連情報

- ホイールおよびホイールリム寸法 (p. 349)

ウインタータイヤ

ウインタータイヤは冬季の道路条件に適したタイヤです。

ウインタータイヤ

ウインタータイヤは、ボルボ社が推奨するタイヤサイズを装着してください。タイヤサイズは、エンジンタイプにより異なります。ウインタータイヤで走行する際には、必ず全輪に正しいタイプのタイヤを装着してください。

注意

もっとも適したホイールリムとタイヤタイプに関しては、ボルボディーラーにご相談ください。

スタッド付きタイヤ

スタッド付きのウインタータイヤ装着車は、スタッドがタイヤに適正にはまるように、500～1000 km の距離を穏やかに慣らし走行してください。タイヤ(特にスタッド)の耐用年数を長くすることができます。

注意

スタッド付きタイヤの使用に関する規則は、国により異なります。

トレッド溝の深さ

冬期は、凍った路面、道路の雪、低い気温などが原因で、暖かい季節よりもタイヤに大きな負担がかかります。ボルボ社は、溝の深さが 4 mm

以上のウインタータイヤの使用をお勧めします。

タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンは、前輪のみに装着してください(AWD(全輪駆動)車も同様です)。タイヤチェーンを装着しているときは、絶対に 50 km/h を超える速度で走行しないでください。タイヤチェーンおよびタイヤの両方が著しく摩耗します。また、タイヤチェーンを装着したまま、雪のない道路を走行しないでください。

警告

ボルボ純正タイヤチェーン、または車両モデル、タイヤサイズ、ホイールリムサイズに適合した同等品を使用してください。ご不明な点があれば、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。不適切なチェーンを使用すると、車両への深刻な損傷や事故の原因となります。

関連情報

- ホイールの交換 - ホイールを取り外す (p. 353)

スペアタイヤ*

スペアタイヤ(テンポラリースペアタイヤ)は、正規のタイヤがパンクしたときに一時的に使用します。

スペアタイヤは応急用です。すみやかに正規のタイヤに交換してください。テンポラリースペアタイヤを装着すると、車両の走行特性が変わる場合がありますのでご注意ください。このスペアタイヤは通常のホイールより小さくなっています。このため、車両の地上高が低くなります。高めの縁石に注意し、自動洗車機は使用しないでください。フロントアクスルにスペアタイヤが取り付けられている場合には、同時にタイヤチェーンを装着することはできません。全輪駆動の車両では、リアアクスルの駆動を解除することができます。スペアタイヤは修理しないでください。スペアタイヤの正しい空気圧はタイヤ空気圧一覧表に記載されています。タイヤ - 空気圧 (p. 348)。

重要

- テンポラリースペアタイヤ装着時の最高許容速度は、80 km/h です。
- 同時に 2 本以上、「テンポラリースペアタイヤ」を装着して走行しないでください。

関連情報

- ホイールの交換 - ホイールを取り外す (p. 353)
- ホイールの交換 - スペアタイヤ*取り付け (p. 355)
- ホイールの交換 - スペアタイヤ*の取り出し (p. 352)
- ジャッキ (p. 358)
- 三角警告板(停止表示板) (p. 357)
- ホイールナット (p. 350)

ホイールの交換 - スペアタイヤ*の取り出し

スペアタイヤ*、ジャッキ*、ホイールレンチ*は、カーゴスペースフロアの下にあります。



1. カーゴスペースフロアの後端を持ち上げます(カーゴスペースのフロアがつながっているモデルでは、カーゴスペースフロアのハンドルを握り、持ち上げるようにフロアの後部を前方に動かします)。
2. 収納ボックス*を引き出します(カーゴスペースのフロアがつながっているモデルのみ)。
3. 下側のフロアを引き上げます(カーゴスペースのフロアがつながっているモデルのみ)。
4. 取り付け用スクリューを外し、ジャッキとツールが入ったフォームブロックを取り出します。



5. スペアタイヤの向こう側の端をつかみ、引き上げます。スペアタイヤを若干前方に押し、収納ボックスから引き上げます。
6. ホイールレンチ、ジャッキ、けん引フックをフォームブロックから取り出します。

注意

けん引フックを取り出すには、まずジャッキを取り出す必要があります。

関連情報

- ホイールの交換 - ホイールを取り外す (p. 353)
- ホイールの交換 - スペアタイヤ*取り付け (p. 355)
- ジャッキ (p. 358)
- スペアタイヤ* (p. 352)
- 三角警告板(停止表示板) (p. 357)
- ホイールナット (p. 350)

ホイールの交換 - ホイールを取り外す

車両のホイールは、例えばウインターホイールやウインタータイヤに交換が可能です。

やむをえず交通量の多い場所でタイヤ交換する場合は、三角警告板(停止表示板)を設置してください。車両およびジャッキ*が、水平で固い地面の上にあることを確認してください。

1. パーキングブレーキ をかけて、ギヤをリバースに入れます。オートマチックトランスミッション車の場合は、ギヤセクターレバーを **P** 位置に入れます。

警告

ジャッキが損傷していないか、すべてのネジ山がよく潤滑されているか、泥などが付着していないか確認してください。

注意

ボルボ社は、車両搭載ジャッキ*のみの使用を推奨しています。ジャッキを使用できる車種名が、ジャッキのラベルに記されています。

ラベルには、指定リフト位置におけるジャッキの最大リフト力も記されています。

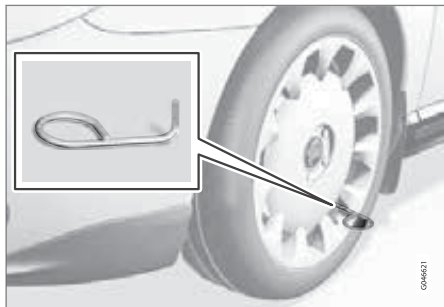
2. 取り付けるホイール(サマータイヤ、ウインタータイヤまたはスペアホイール)とツールを取り出します。スペアホイールを取り付ける場合、パンクしたホイール用のビニール袋と手袋の入ったパッケージがスペアホイールの場所にあります。
3. 地面に接しているタイヤの前後に輪止めをします。例えば、重い木片や、大きな石などで代用しても構いません。



10 ホイールおよびタイヤ



4. スチールホイール装着車には、脱着式のホイールカバーが付いています。取り外しツールをフルホイールカバーに引っ掛け、引っ張って外します。ホイールカバーは手で取り外すこともできます。



5. 次図のようにけん引フックをホイールレンチ*につなぎ合わせてください。



ホイールレンチとけん引フック



重要

けん引フックは、ホイールボルトレンチの奥まで必ず完全にねじ込んでください。

6. 適切なツールを使用して、ホイールナットからプラスチックキャップを取り外します。



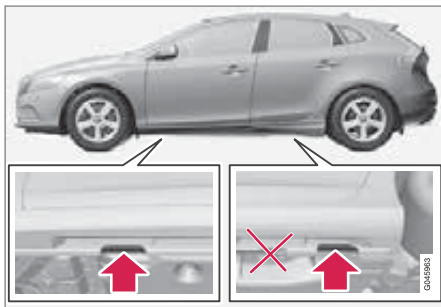
7. ホイールレンチを使用して、ホイールナットを反時計回りに $\frac{1}{2}$ ～1回転ゆるめます。



⚠ 警告

地面とジャッキの間、およびジャッキポイントとジャッキの間に、なにも挟まないでください。

8. ジャッキポイントは、車両の両側に2箇所ずつあります。



⚠ 重要

ジャッキの下の地面が平坦かつ水平で、安定していることを確認してください。

9. ボディワークのフランジがジャッキの頭部の刻み目に当たるようにジャッキを巻き上げます。
- 10.パンクしたタイヤが地面から離れるまで、車体をジャッキアップします。ホイールナットを取り外し、ホイールを外します。

⚠ 警告

ジャッキで車を持ち上げているときは、絶対に車の下に入らないでください。

車両をジャッキで持ち上げる前に、乗員は全員車の外に出てください。交通量の多い場所でタイヤを交換せざるを得ない場合、乗員は安全な場所に退避しておく必要があります。

ⓘ 注意

車両に標準装備されているジャッキは、パンクしたタイヤを交換するときや、サマータイヤとウインタータイヤを取り換える際など、短時間の使用を念頭に設計されています。車両を持ち上げる際には、そのモデル専用のジャッキのみをご使用ください。ジャッキをより頻繁に使用する場合や、タイヤ交換で要する時間より長く使用する場合には、修理工場用のジャッキの使用をお勧めします。この場合、そのジャッキに添付の取扱指示に従ってください。

関連情報

- ホイールの交換 - スペアタイヤ*取り付け (p. 355)
- ホイールの交換 - スペアタイヤ*の取り出し (p. 352)
- スペアタイヤ* (p. 352)
- 三角警告板(停止表示板) (p. 357)
- ホイールナット (p. 350)

ホイールの交換 - スペアタイヤ*取り付け

スペアタイヤの取り付けは正しい順序に従って行うことが重要です。

取り付け

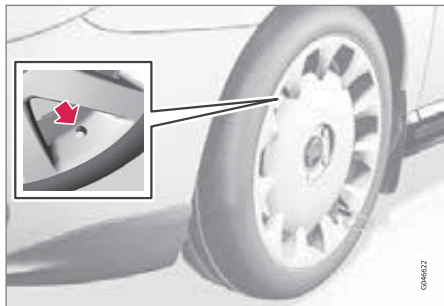
1. ホイールとハブの接合面をきれいにします。
2. タイヤを取り付けます。ホイールナットを確実に締め付けます。
3. タイヤが回らなくなる位置まで車体を下げます。



4. ホイールナットを、対角線順に締め付けます。ホイールナットは必ず正しいトルクで締め付けてください。トルクレンチを使用して、締め付けトルクを確認してください。

11

5.

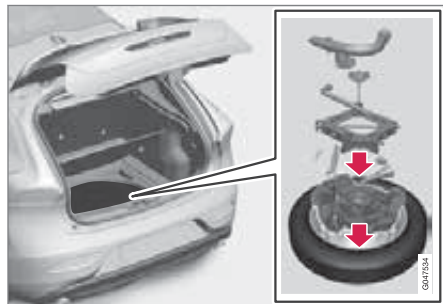


ホイールカバーを取り外した場合には付け直してください。

i 注意

ホイールカバーを取り付ける際には、ホイールカバーのバルブ用の穴が、必ずホイールリムのバルブ上にかぶさるようにしてください。

ジャッキ*およびツールの収納



使用後は、ツールおよびジャッキをフォームブロックに入れて正しい位置に戻してください。

- けん引フックをホイールナットレンチから外します。
- 使用したツールはすべて、以下の順序でフォームブロックの個々のコンパートメントに戻してください。
 - けん引フック/漏斗/トルクスレンチ/ホイールナットロック用のソケット/ホイールカバー用ツール
 - ジャッキ(フォームブロックの所定位置にうまく収まるように適切な高さまで調整する必要があります。ハンドルを脚部の上にし、フォームブロックの溝に押し込みます。)
 - ソケットレンチ(ジャッキの上)

- スペアタイヤを使用した場合、パンクしたタイヤは手袋と一緒にパッケージに入っているビニール袋に入れることができます。フォームブロックを収納ボックスに戻し、取り付けスクリューを収納ボックスのフロアに締め付けてください。

スペアタイヤが使用されていない場合には、フォームブロックをスペアタイヤ内に入れ、スペアタイヤを収納ボックスに戻します。取り付けスクリューを収納ボックスのフロアに締め付けます。

- 脱着式トウバーを戻します。

i 注意

- タイヤに空気を充填した後は、砂利や土によるバルブの損傷を防ぐため、必ずダストキャップを取り付けてください。
- 必ずプラスチック製ダストキャップを使用してください。金属製のダストキャップは腐食して締めにくくなることがあります。

! 重要

ツールおよびジャッキ*を使用しないときは、車両のカーゴスペースの所定位置に収納してください。



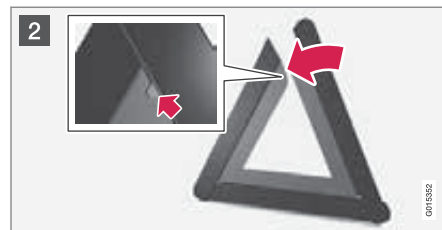
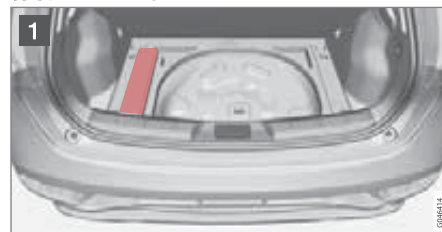
関連情報

- ホイールの交換 - スペアタイヤ*の取り出し (p. 352)
- ホイールの交換 - ホイールを取り外す (p. 353)
- スペアタイヤ* (p. 352)
- 三角警告板(停止表示板) (p. 357)
- ホイールナット (p. 350)

三角警告板(停止表示板)

三角警告板は他の道路利用者に停止車両の存在を知らせるために使用します。

保管および収納



- 1 フロアハッチを持ち上げ(もしくは、フロアがジョイント式のモデルでは、カーゴスペースフロアの後部を押して下側のフロアを持ち上げ)、三角警告板(停止表示板)を取り出します。

- 2 ケースから三角警告板を取り出して広げ、2箇所の開いている端を合わせて組み立てます。

- 3 三角警告板のサポートレッグを広げます。

三角警告板の使用に関する規則を厳守してください。三角警告板は、通行の邪魔にならない所定の位置に置いてください。

使用後は、三角警告板をケースに収納して、カーゴスペースに確実に固定してください。

関連情報

- スペアタイヤ* (p. 352)

ジャッキ

ジャッキはタイヤの交換などで車両を持ち上げる際に使用します。

車両搭載のジャッキは、パンクしたスペアタイヤ交換用としてのみ使用してください。ジャッキのネジ部には、グリースをよく塗っておいてください。

関連情報

- 三角警告板(停止表示板) (p. 357)
- 緊急パンクリペアーキット* (p. 366)

救急用品キット*

救急箱には救急用品キットが入っています。



救急用品キットが入ったケースはカーゴスペースの左側にあります。

タイヤ・プレッシャー・モニタリング¹

タイヤ・プレッシャー・モニタリングは、1つ以上のタイヤの空気圧が著しく低下したときに、運転者に警告するシステムです。一部の市場では、タイヤ・プレッシャー・モニタリングの装備が法律で義務づけられています。

タイヤ・プレッシャー・モニタリングには、TPMS (Tyre Pressure Monitoring System) と TM (Tyre Monitor) の2つのシステムがあります。車両にどちらのシステムが装備されているか不確かな場合、メニューシステム **MY CAR** を開いて、車両の設定を検索してください。

- タイヤ圧** メニューの場合は、TPMS が装備されています。タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 概要 (p. 359) を参照してください。
- タイヤ監視** メニューの場合は、TM が装備されています。タイヤ・プレッシャー・モニタリング (TM)* (p. 364) を参照してください。

TPMS システムが機能している場合でも、タイヤのメンテナンスは実施してください。

重要

TPMS システムに不具合が発生した場合、コンパインド・メーター・パネルの警告灯  が約1分間点滅した後、点灯に変わります。コンパインド・メーター・パネルにはメッセージも表示されます。

¹ 一部の市場での基準。

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



関連情報

- タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 概要 (p. 359)
- タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 調節 (再校正) (p. 360)
- タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 低すぎるタイヤ空気圧の修正 (p. 363)
- タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 起動/解除 (p. 362)
- タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 推奨事項 (p. 362)
- タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - ランプフラットタイヤ* (p. 363)
- タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 状態 (p. 361)

タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)*⁹ - 概要

タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS) (Tyre Pressure Monitoring System)* は、1つ以上のタイヤの空気圧が著しく低下したときに、運転者に警告するシステムです。

タイヤ・プレッシャー・モニターは、個々のホイールのエアバルブ内にあるセンサーで検知します。約 30 km/h で走行しているときに、システムがタイヤ空気圧を検出します。空気圧が高すぎると、コンパインド・メーター・パネルの警告灯  が点灯し、以下のメッセージのいずれかが表示されます。

- **タイヤ空気圧低下 フロント右タイヤを点検 して下さい**
- **タイヤ空気圧低下 フロント左タイヤを点検 して下さい**
- **タイヤ空気圧低下 リア右タイヤを点検 して下さい**
- **タイヤ空気圧低下 リア左タイヤを点検 して下さい**
- **タイヤ空気圧不足 フロント右タイヤを点検 して下さい**
- **タイヤ空気圧不足 フロント左タイヤを点検 して下さい**
- **タイヤ空気圧不足 リア右タイヤを点検 して下さい**
- **タイヤ空気圧不足 リア左タイヤを点検 して下さい**
- **タイヤ空気圧モニター サービスが必要です**

TPMS センサーが装着されていないホイールを使用している場合、またはセンサーが故障してい

る場合は、**タイヤ空気圧モニター サービスが必要です** が表示されます。

タイヤ交換後は、必ずシステムを点検し、交換したホイールでシステムが正しく機能しているか確認してください。

適正なタイヤ空気圧については、タイヤ - 空気圧 (p. 348) を参照してください。

TPMS システムが機能している場合でも、タイヤのメンテナンスは実施してください。

重要

TPMS システムに不具合が発生した場合、コンパインド・メーター・パネルの警告灯  が約 1 分間点滅した後、点灯に変わります。コンパインド・メーター・パネルにはメッセージも表示されます。

関連情報

- タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 調節 (再校正) (p. 360)
- タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 低すぎるタイヤ空気圧の修正 (p. 363)
- タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 起動/解除 (p. 362)
- タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 推奨事項 (p. 362)

⁹ 一部の市場での基準。



10 ホイールおよびタイヤ

- タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - ランプフラットタイヤ* (p. 363)
- タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)* - 状態 (p. 361)

タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)*¹⁶ - 調節 (再校正)

タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS) (Tyre Pressure Monitoring System)* は、1 つ以上のタイヤの空気圧が著しく低下したときに、運転者に警告するシステムです。

TPMS は、例えば重い荷物を載せるときなどに、ボルボの推奨タイヤ空気圧 (p. 348) に調整することができます。



注意

校正を開始するときは、車両が静止している必要があります。

設定は、センターコンソールのコントロールで行います。MY CAR (p. 137) を参照してください。

1. 運転席側ドアピラー (フロントドアとリアドアの間) のタイヤ空気圧表示ラベルに従って、タイヤを適切な空気圧に調節します。
2. エンジンを始動します。
3. メニューシステム **MY CAR** を選択して、タイヤ空気圧のメニューを開きます。
4. **タイヤ空気圧の測定** を選択して、**OK** を押します。

5. 30 km/h 以上の速度で 10 分以上走行します。

＞ 運転者による初期化の後、校正は自動的に行われます。校正が完了しても、システムからの確認通知はありません。

関連情報

- タイヤ・プレッシャー・モニタリング* (p. 358)
- タイヤ - 空気圧 (p. 348)

¹⁶ 一部の市場での基準。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)*¹⁸ - 状態

タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS) (Tyre Pressure Monitoring System)* は、1 つ以上のタイヤの空気圧が著しく低下したときに、運転者に警告するシステムです。

システムおよびタイヤの状態

システムとタイヤの現在の状態を点検することができます。MY CAR (p. 137)を参照してください。

1. メニューシステム **MY CAR** を選択して、タイヤ・モニタリングのメニューを開きます。
2. **タイヤ圧**を選択します。

状態は以下のようにタイヤごとに色分けされます。

- すべて緑色: システムは正常に作動しています。タイヤ空気圧はすべてのタイヤで推奨レベルを少し上回っている状態です。
- 黄色のホイール: 該当するタイヤの空気圧が低すぎます。
- 赤色のホイール: 該当するタイヤの空気圧が著しく低下しています。
- 全ホイール灰色: システムは一時的に使用できない状態です。システムをアクティブな状態に戻すには、30 km/h を超える速度で車両を数分間走行させることが必要になる場合があります。

- 全ホイール灰色およびメッセージ **タイヤ空気圧モニター サービスが必要です**: システムにエラーが発生しました。ボルボディーラーまたはサービス工場にご連絡ください。

警告メッセージの消去

タイヤ空気圧メッセージが表示され、TPMS 警告灯が点灯した場合:

1. タイヤプレッシャーゲージを使用して、表示されたタイヤの空気圧を点検します。
2. 運転席側ドアピラー(フロントドアとリアドアの間)のタイヤ空気圧表示ラベルに従って、タイヤを適切な空気圧に調節します。
3. 警告メッセージを消去するには、状況により、30 km/h を超える速度で車両を数分間走行させることが必要になる場合があります。その時点で、TPMS 警告灯も消灯します。



注意

- TPMS システムは、タイヤ温度および外気温の両方に基づいて、補正空気圧値を使用します。このため、タイヤ空気圧は、運転席側ドアピラー(フロントドアとリアドアの間)のタイヤ空気圧表示ラベルに記載されている推奨空気圧と多少異なることがあります。したがって、タイヤ空気圧低下メッセージを消去するには、タイヤの空気圧を少し高めに調節する必要があります。
- タイヤ空気圧を正しく調節するには、タイヤが冷えた状態で空気圧を点検する必要があります。「タイヤが冷えた状態」とは、タイヤが外気温と同じ温度である状態です(車両の停止から約3時間後)。数キロ走行するだけでタイヤ温度が上昇し、タイヤ空気圧も上昇します。



警告

- タイヤ空気圧が正しくないと、タイヤに不具合が発生し、運転者が車両を制御できなくなるおそれがあります。
- システムはタイヤの突然の損傷を事前に予測することはできません。

関連情報

- タイヤ・プレッシャー・モニタリング* (p. 358)

¹⁸ 一部の市場での基準。



10 ホイールおよびタイヤ

タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)*²⁰ - 起動/解除

タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS) (Tyre Pressure Monitoring System)* は、1つ以上のタイヤの空気圧が著しく低下したときに、運転者に警告するシステムです。

注意

タイヤ・プレッシャー・モニタリングをオン/オフにするときには、車両が静止している必要があります。

設定は、センターコンソールのコントロールで行います。MY CAR (p. 137)を参照してください。

1. エンジンを始動します。
2. メニューシステム **MY CAR** を選択して、タイヤ空気圧のメニューを開きます。
3. **タイヤ圧** を選択して、**OK** を押します。
 - システムが作動すると、ディスプレイに **X** が表示されて、システムが解除されるとこのオプションが消えます²¹。

関連情報

- タイヤ・プレッシャー・モニタリング* (p. 358)

タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)*²³ - 推奨事項

タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS) (Tyre Pressure Monitoring System)* は、1つ以上のタイヤの空気圧が著しく低下したときに、運転者に警告するシステムです。

- ボルボ社は、車両の4輪すべて(ウインタータイヤを含む)に TPMS センサー付きのホイールの使用をお勧めします。
- ホイール間でのセンサーの入れ替えは、避けてください。
- スペアタイヤに TPMS センサーは装備されていません。
- スペアタイヤ、または TPMS センサー非装備のホイールを使用すると、コンパインド・メーター・パネルにエラーメッセージ **空気圧モニターが正常に機能していません** が表示されます。
- ホイールを交換した場合、または TPMS センサーを別のホイールに移した場合、シール、ナットおよびバルブコアを交換する必要があります。
- TPMS センサーを取り付けた場合、車両を15分以上オフにしてください。これを怠ると、コンパインド・メーター・パネルにエラーメッセージが表示されます。

警告

TPMS 装着のタイヤに空気を充填する際は、バルブを傷付けないように、エアーポンプのノズルをバルブにまっすぐ当ててください。

注意

- タイヤに空気を充填した後は、砂利や土によるバルブの損傷を防ぐため、必ずダストキャップを取り付けてください。
- 必ずプラスチック製ダストキャップを使用してください。金属製のダストキャップは腐食して締めにくくなることがあります。

注意

タイヤのサイズを変更する場合、TPMS システムを設定し直す必要があります。詳しくはボルボディーラーにお問い合わせください。

関連情報

- タイヤ・プレッシャー・モニタリング* (p. 358)

²⁰ 一部の市場での基準。

²¹ 一部の市場のみ。

²³ 一部の市場での基準。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)*²⁵ - ランフラットタイヤ*

SST(Self Supporting run flat Tires)*が選択されている場合、車両には TPMS (p. 358) も装備されています。

このタイプのタイヤは、サイドウォールが特別に強化されており、タイヤから全部または一部の空気が抜けても、ある程度走行が持続できます。このタイヤは、特殊なリムに取り付けられています(このリムに、標準のタイヤを取り付けることもできます)。

SST タイヤのタイヤ空気圧が減少すると、コンバインド・メーター・パネルに黄色い TPMS ランプが点灯して、インフォメーション・ディスプレイにメッセージが表示されます。この場合は、80 km/h 以下に減速してください。すみやかにタイヤを交換することが必要です。

どのタイヤに問題があるか、見た目では判断できない場合がありますので、慎重に運転してください。どのタイヤに問題があるか判断するため、4 輪すべてのタイヤを点検してください。

警告

必ず、SST タイヤに関する知識がある人が装着してください。

SST タイヤは、必ず TPMS と合わせて装着する必要があります。

タイヤ空気圧の低下に関するエラーメッセージが表示されたら、80 km/h 以上の高速走行は避けてください。

タイヤを交換するまでに走行できる最大距離は 80 km です。

急ブレーキや急旋回は避けてください。

SST タイヤが損傷したりパンクした場合は、交換が必要です。

関連情報

- タイヤ・プレッシャー・モニタリング* (p. 358)

タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS)*²⁷ - 低すぎるタイヤ空気圧の修正

タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム (TPMS) (Tyre Pressure Monitoring System)²⁸ は、1 個または複数のタイヤの空気圧が低下しすぎたときに運転者に警告し、空気圧の低下したタイヤを示します。最初の警告ではランプが黄色に点灯します。すみやかに停車して、タイヤ空気圧を点検してください。ランプが赤色に点灯した場合、すみやかに停車して、タイヤ空気圧を修正してください。

ディスプレイにタイヤ空気圧が低下と表示された場合:

1. 指摘されたタイヤの空気圧を点検します。
2. 必要なタイヤ空気圧になるまで、タイヤに空気を充填します。
3. 車両を 30 km/h 以上の速度で、数分間走行します。その後メッセージが消えたことを確認してください。

関連情報

- タイヤ・プレッシャー・モニタリング* (p. 358)

²⁵ 一部の市場での基準。

²⁷ 一部の市場での基準。

²⁸ オプション、一部の市場のみ。

タイヤ・プレッシャー・モニタリング (TM)*30

TM (Tyre Monitor) システムはタイヤの回転速度を感知して、タイヤ空気圧が正しいかを特定します。空気圧が低すぎる場合、タイヤの直径が変化するため、回転速度にも変化が生じます。タイヤどうしを比較することにより、システムは空気圧の低すぎるタイヤの有無を特定することができます。

メッセージ

タイヤ空気圧が高すぎると、コンパインド・メーター・パネルの警告灯 (U) が点灯し、以下のメッセージのいずれかが表示されます。

- **タイヤ空気圧低下 フロント右タイヤを点検 して下さい**
- **タイヤ空気圧低下 フロント左タイヤを点検 して下さい**
- **タイヤ空気圧低下 リア右タイヤを点検 して下さい**
- **タイヤ空気圧低下 リア左タイヤを点検 して下さい**
- **タイヤ空気圧低下 タイヤを点検して下さい**
- **タイヤ空気圧モニター サービスが必要です**

重要

TM システムに不具合が発生した場合、コンパインド・メーター・パネルの警告灯 (U) が約 1 分間点滅した後、点灯に変わります。コンパインド・メーター・パネルにはメッセージも表示されます。

TPMS システムが機能している場合でも、タイヤのメンテナンスは実施してください。

TM 再校正

TM が正しく機能するためには、タイヤ空気圧の基準値を決定する必要があります。この作業は、タイヤ交換またはタイヤ空気圧の変更のたびにに行う必要があります。

再校正

設定は、センターコンソールのコントロールで行います。MY CAR (p. 137) を参照してください。

1. イグニッションをオフにします。
2. 運転席側ドアピラー(フロントドアとリアドアの間)のタイヤ空気圧表示ラベルに従ってタイヤを目標の空気圧に調節し、イグニッションを II 位置にします。キー位置 (p. 105) を参照してください。
3. メニューシステム **MY CAR** を選択して、タイヤ空気圧のメニューを開きます。

4. **タイヤ空気圧の測定** を選択して、**OK** を押します。
5. 車両を始動して走行させます。
 - ＞ 再校正は車両の走行中に行われ、いつでも中断することができます。再校正の実施中にエンジンを停止した場合、次の走行時に再開されます。

ステップ 1~5 を終わると、TM の再校正が完了し、新しい基準値が適用されます。新しい基準値は上記の手順を再度行うまで使用されます。

注意

TM システムは、タイヤ空気圧を変更する場合、またはタイヤ交換のたびに校正し直す必要があります。新しい基準値が記憶されない、システムは正しく機能できません。

注意

- タイヤに空気を充填した後は、砂利や土によるバルブの損傷を防ぐため、必ずダストキャップを取り付けてください。
- 必ずプラスチック製ダストキャップを使用してください。金属製のダストキャップは腐食して締めにくくなる場合があります。

30 一部の市場での基準。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



システムおよびタイヤの状態

システムとタイヤの現在の状態を点検することができます。MY CAR (p. 137)を参照してください。

1. メニューシステム **MY CAR** を選択して、タイヤ・モニタリングのメニューを開きます。
2. **タイヤ監視**を選択します。

状態は以下のようにタイヤごとに色分けされます。

- すべて緑色:システムは正常に作動しています。タイヤ空気圧はすべてのタイヤで推奨レベルを少し上回っている状態です。
- 黄色のホイール:該当するタイヤの空気圧が低すぎます。
- 全ホイール黄色:複数のタイヤの空気圧が低すぎる状態です。
- 全ホイール灰色:システムは一時的に使用できない状態です。システムをアクティブな状態に戻すには、30 km/h を超える速度で車両を数分間走行させることが必要になる場合があります。
- 全ホイール灰色およびメッセージ **タイヤ空気圧モニター サービスが必要です**:システムにエラーが発生しました。ボルボディーラーまたはサービス工場にご連絡ください。

警告メッセージの消去

タイヤ空気圧メッセージが表示され、TPI 警告灯が点灯した場合:

1. タイヤプレッシャーゲージを使用して、表示されたタイヤの空気圧を点検します。
2. 運転席側ドアピラー(フロントドアとリアドアの間)のタイヤ空気圧表示ラベルに従って、タイヤを適切な空気圧に調節します。
3. TM システムを再校正します。



注意

- TM システムは、タイヤ温度および外気温の両方に基づいて、補正空気圧値を使用します。このため、タイヤ空気圧は、運転席側ドアピラー(フロントドアとリアドアの間)のタイヤ空気圧表示ラベルに記載されている推奨空気圧と多少異なることがあります。したがって、タイヤ空気圧低下メッセージを消去するには、タイヤの空気圧を少し高めに調節する必要があります。
- タイヤ空気圧を正しく調節するには、タイヤが冷えた状態で空気圧を点検する必要があります。「タイヤが冷えた状態」とは、タイヤが外気温と同じ温度である状態です(車両の停止から約3時間後)。数キロ走行するだけでタイヤ温度が上昇し、タイヤ空気圧も上昇します。



警告

- タイヤ空気圧が正しくないと、タイヤに不具合が発生し、運転者が車両を制御できなくなるおそれがあります。
- システムはタイヤの突然の損傷を事前に予測することはできません。

緊急パンクリペアーキット*

パンクの応急処置には、緊急パンクリペアーキット* (TMK - テンポラリー・モービリティ・キット) を使用して、パンクの穴を塞ぎ、空気圧を点検および調整します。車両の推奨タイヤサイズに適した空気圧は、印刷版オーナーズマニュアルに記載されています。

緊急パンクリペアーキットには、コンプレッサーとシーリングリキッドボトルが入っています。このキットは応急修理用です。シーリングリキッドの容器は、使用期限が切れる前、またはリペアーキット使用後に、必ず新しいものと交換してください。シーリングリキッドは、トレッド部のパンクした箇所を効果的にシールします。

注意

緊急パンクリペアーキットは、タイヤのトレッド部のパンクした部分をシールすることのみを目的としています。

緊急パンクリペアーキットは、タイヤのサイドウォール部のパンク修理には使用しないでください。大きな亀裂、ヒビ割れなどの修理に、緊急パンクリペアーキットを使用しないでください。コンプレッサーを車両の 12V 電源ソケットに接続します。パンクしたタイヤにもっとも近いソケットを使用します。

注意

緊急パンクリペアーキット用コンプレッサーはボルボによりテストされ、承認されています。

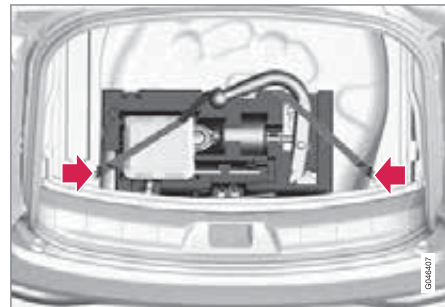
関連情報

- 緊急パンクリペアーキット* - 操作 (p. 368)
- 緊急パンクリペアー* - 再点検 (p. 370)
- 緊急パンクリペアーキット* - 概要 (p. 368)

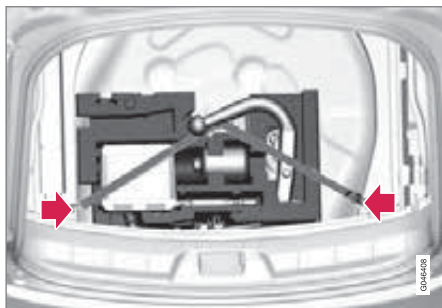
緊急パンクリペアーキット* - 位置

パンクの応急処置には、緊急パンクリペアーキット (TMK - テンポラリー・モービリティ・キット) を使用して、パンクの穴を塞ぎ、空気圧を点検および調整します。車両の推奨タイヤサイズに適した空気圧は、印刷版オーナーズマニュアルに記載されています。

緊急パンクリペアーキットの収納場所



バージョン 1



バージョン 2

交通量の多い場所でタイヤの修理を行う場合は、三角警告板(停止表示板)を置いてください。三角警告板(停止表示板)と緊急パンクリペアーキットは、カーゴスペースフロアの下にあります。

1. カーゴスペースフロアの後端を持ち上げます(カーゴスペースのフロアがつながっているモデルでは、カーゴスペースフロアのハンドルを握り、持ち上げるようにフロアの後部を前方に動かします)。
2. 収納ボックス(オプション)を引き出します(カーゴスペースのフロアがつながっているモデルのみ)。
3. 下側のフロアを引き上げます(カーゴスペースのフロアがつながっているモデルのみ)。

4. 左側の TMK コンプレッサーユニットにかかったベルトの伸縮部分をフックから外します。
5. TMK コンプレッサーをまっすぐ引き上げます。
6. シーラントのボトルを取り出すには、フォームブロックから取り出せるように左側に押してください。

注意

フォームブロック内のけん引フック/ホイールレンチを取り出すには：

- **バージョン 1:** ホイールレンチにアクセスするには、緊急パンクリペアーキット(ポイント 5)用のコンプレッサーユニットを持ち上げてください。シーラントのボトル(ポイント 6)を引き出すと、けん引フックに手が届きます。
- **バージョン 2:** けん引フックにアクセスするには、緊急パンクリペアーキット(ポイント 5)用のコンプレッサーユニットを持ち上げてください。ホイールレンチはジャッキの下にあります。

使用後はベルトを左側のフックに引っかけてください。

バージョン 1: ベルトはフォームブロックの(上方ではなく)後ろで引いておく必要があります。

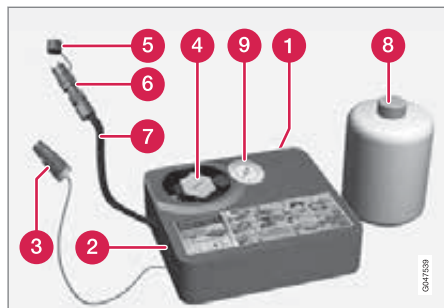
バージョン 2: ベルトはフォームブロック後部のフォークにかかっていなければなりません。

関連情報

- 緊急パンクリペアーキット* - 概要 (p. 368)
- 緊急パンクリペアーキット* - シーリングリキッド (p. 372)
- 緊急パンクリペアーキット* (p. 366)

緊急パンクリペアーキット* - 概要

パンクの応急処置には、緊急パンクリペアーキット (TMK - テンポラリー・モービリティ・キット) を使用して、パンクの穴を塞ぎ、空気圧を点検および調整します。車両の推奨タイヤサイズに適した空気圧は、印刷版オーナーズマニュアルに記載されています。



- ① 制限速度の表示ラベル
- ② スイッチ
- ③ ケーブル
- ④ ボトルホルダー（オレンジ色キャップ）
- ⑤ プロテクティブキャップ
- ⑥ プレッシャーリリーフバルブ
- ⑦ エアーホース

⑧ シーラント入りボトル

⑨ プレッシャーゲージ

関連情報

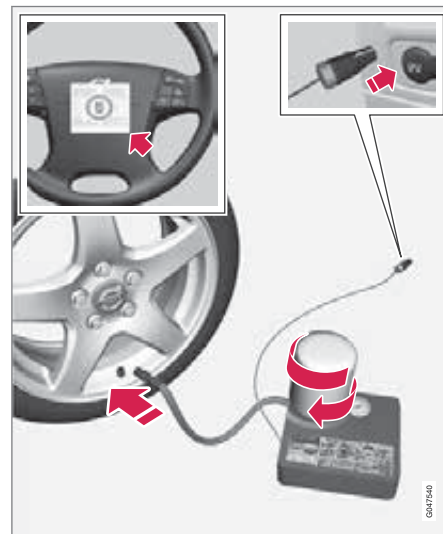
- 緊急パンクリペアーキット* - 位置 (p. 366)
- 緊急パンクリペアーキット* - シーリングリキッド (p. 372)
- 緊急パンクリペアーキット* (p. 366)
- 緊急パンクリペアー* - コンポーネントの後片付け (p. 372)

緊急パンクリペアーキット* - 操作

パンクの応急処置には、緊急パンクリペアーキット* (TMK - テンポラリー・モービリティ・キット) を使用して、パンクの穴を塞ぎ、空気圧を点検および調整します。

運転席側ドアピラーにタイヤ空気圧表示ラベルがあり、車両の推奨タイヤサイズに適したタイヤ空気圧が表示されています。

緊急パンクリペアーキット



パーツの機能については、緊急パンクリペアーキットを参照してください。



1. 制限速度の表示ラベル(コンプレッサーの片側にあります)を外して、ステアリングホイール部の運転者の見やすい位置に貼ります。

警告

緊急パンクリペアーキット使用後は、絶対に80 km/h 以上の速度で走行しないでください。応急修理をしたタイヤは、ボルボ指定のサービス工場で点検を受けてください(最高許容走行距離: 200 km)。専門知識のあるスタッフが、そのタイヤは修理可能か、あるいは新しいタイヤと交換する必要があるか判断します。

警告

シーリングリキッドが皮膚に触れると、炎症を起こすおそれがあります。皮膚に付いた場合は、ただちに水と石鹸で十分に洗い流してください。

2. スイッチが **0** 位置にあることを確認し、ケーブルおよびエアースホースを取り出します。

注意

ご使用の前にボトルのシールを開けないでください。ボトルを締め込むと、シールが自動的に開封されます。

3. オレンジ色のキャップをはずして、ボトルのふたをはずします。
4. ホルダーにボトルを取り付けます。

警告

使用後は、ボトルをホルダーから外さないでください。ボトルには、液漏れを防ぐためのリバースキャッチが付いています。

5. ホイールのダストキャップを外し、エアバルブのネジ山下部まで、エアースホースのバルブを接続します。
6. ケーブルを車両の12V電源ソケットに接続して、エンジンを始動します。

警告

エンジン作動中、お子様だけを車内に残したまま、車両から絶対に離れないでください。

7. スイッチを **I** 位置にします。

警告

コンプレッサーでタイヤに空気を充填している間は、タイヤの横に立たないでください。タイヤにヒビ割れ、ふくらみなどの異常が認められた場合は、ただちにコンプレッサーを停止してください。このような場合は、走行しないでください。タイヤ販売店、またはボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

注意

コンプレッサーが作動すると圧力は6 bar程度まで上昇しますが、約30秒後に圧力は低下します。

8. 7分間タイヤに空気を充填します。

重要

オーバーヒートのおそれがあります。コンプレッサーを10分以上連続して使用しないでください。



10 ホイールおよびタイヤ

10

- コンプレッサーのスイッチを切り、プレッシャーゲージの圧力を確認します。タイヤ空気圧が 1.8 ～ 3.5 バールであれば正常です。(タイヤ空気圧が高過ぎる場合は、プレッシャーリリーフバルブを使用して圧力を下げます。)

警告

タイヤ空気圧が 1.8 バール以下の場合、タイヤのパンク穴が大き過ぎることを意味します。このような場合は、走行しないでください。タイヤ販売店、またはボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

- コンプレッサーのスイッチを切り、12V 電源ソケットからケーブルを外します。
- タイヤのエアーバルブからエアーホースを外し、バルブキャップを取り付けます。
- シーリングリキッドでパンク穴が確実に塞がれるように、すみやかに 80 km/h 以下の速度で約 3 km 走行します。

関連情報

- 緊急パンクリペアーキット* (p. 366)
- 緊急パンクリペアー* - 再点検 (p. 370)
- 緊急パンクリペアーキット* - 概要 (p. 368)
- 緊急パンクリペアー* - コンポーネントの後片付け (p. 372)

緊急パンクリペアー* - 再点検

パンクの応急処置 (p. 366) には、緊急パンクリペアーキット (p. 368)* (TMK - テンボラリー・モビリティ・キット) を使用して、パンクの穴を塞ぎ、空気圧を点検および調整します。

空気圧の点検

- タイヤリペアーキットをもう一度接続します。
- プレッシャーゲージの圧力を読み取ります。
 - タイヤ空気圧が 1.3 バール以下の場合、タイヤのパンク穴が十分にシールされていません。このような場合は、走行しないでください。タイヤ販売店にご連絡ください。
 - タイヤ空気圧が 1.3 バールを超えている場合は、タイヤ空気圧表の適正な空気圧に達するまで、空気を注入する必要があります。タイヤ空気圧表は印刷版オーナーズマニュアルに記載されています (1 バール = 100 kPa)。タイヤ空気圧が高過ぎる場合は、リリーフバルブを使用して圧力を下げます。

警告

使用後は、ボトルをホルダーから外さないでください。ボトルには、液漏れを防ぐためのリバースキャッチが付いています。

- コンプレッサーがオフになっていることを確認してください。エアーホースおよびケーブルの接続を外します。ダストキャップを元通りに取り付けます。
- ホースをボックスに戻し、ボトルはそのままの場所に置いておきます。TMK はカーゴスペースに入れてください。

注意

- タイヤに空気を充填した後は、砂利や土によるバルブの損傷を防ぐため、必ずダストキャップを取り付けてください。
- 必ずプラスチック製ダストキャップを使用してください。金属製のダストキャップは腐食して締めにくくなることがあります。

注意

シーリングリキッド容器およびホースを使用した後は、必ず新品と交換してください。交換は、ボルボ指定のサービス工場に依頼してください。



警告

タイヤ空気圧は、定期的に点検してください。

最寄りのボルボ指定のサービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換または修理してください。サービス工場に、シーリングリキッドでタイヤを修理したことを伝えてください。

警告

緊急パンクリペアーキット使用後は、絶対に 80 km/h 以上の速度で走行しないでください。応急修理をしたタイヤは、ボルボ指定のサービス工場で点検を受けてください(最高許容走行距離: 200 km)。専門知識のあるスタッフが、そのタイヤは修理可能か、あるいは新しいタイヤと交換する必要があるか判断します。

関連情報

- 緊急パンクリペアーキット* - 操作 (p. 368)
- 緊急パンクリペアー* - コンポーネントの後片付け (p. 372)

緊急パンクリペアーキット*による空気注入

車両の正規のタイヤは、緊急パンクリペアーキットに入っているコンプレッサーを使用して空気を入れることができます。

1. コンプレッサーのスイッチをオフにします。スイッチが **0** 位置にあることを確認し、ケーブルおよびエアーホースを取り出します。
2. ホイールのダストキャップを外し、エアーバルブのネジ山下部まで、エアーホースのバルブを接続します。

警告

車の排気ガスを吸入すると、生命に関わるおそれがあります。ガレージなどの密閉された場所や、十分な換気設備のない場所では、絶対にエンジンを始動しないでください。

警告

エンジン作動中、お子様だけを車内に残したまま、車両から絶対に離れないでください。

3. ケーブルを車両の 12V 電源ソケットに接続して、エンジンを始動します。
4. スイッチを **1** 位置にして、コンプレッサーを起動させます。

重要

オーバーヒートのおそれがあります。コンプレッサーを 10 分以上連続して使用しないでください。

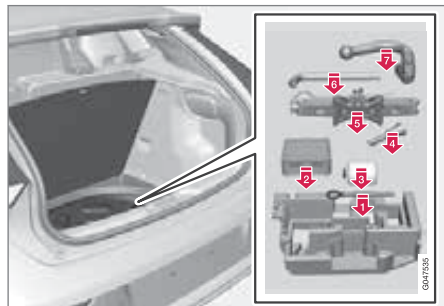
5. 印刷版オーナーズマニュアルのタイヤ空気圧表に記載されている数値まで、タイヤに空気を注入します(タイヤ空気圧が高過ぎる場合は、プレッシャーリリーフバルブを使用して圧力を下げます)。
6. コンプレッサーを止めます。エアーホースおよびケーブルの接続を外します。
7. ダストキャップを元通りに取り付けます。

関連情報

- 緊急パンクリペアーキット* (p. 366)
- 緊急パンクリペアーキット* - 概要 (p. 368)

緊急パンクリペアー* - コンポーネントの後片付け

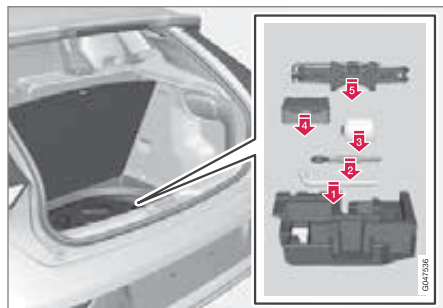
緊急パンクリペアーキットの使用後、コンポーネントをフォームブロックの中に戻す必要があります。



バージョン 1

コンポーネントは以下の順序でフォームブロックに収納します：

1. けん引フック/ソケットレンチ
2. ボトル(横から押し入れる)
3. TMK キット
4. 漏斗
5. ジャッキ
6. トルクスレンチ
7. トウバー



バージョン 2

コンポーネントは以下の順序でフォームブロックに収納します：

1. ソケットレンチ
2. けん引フック
3. ボトル
4. TMK キット
5. ジャッキ

関連情報

- 緊急パンクリペアーキット* (p. 366)
- 緊急パンクリペアーキット* - 操作 (p. 368)
- 緊急パンクリペアー* - 再点検 (p. 370)
- 緊急パンクリペアーキット* - 概要 (p. 368)

緊急パンクリペアーキット* - シーリンググリキッド

緊急パンクリペアーキット (p. 368) の容器 (ボトル) には、シーリング材が入っています。これは交換が可能です。

シーリンググリキッドの容器は、使用期限が切れる前に交換してください。取り外した容器は、危険ゴミとして廃棄してください。

警告

ボトルには、1.2 エタノールおよびナチュラールラバーテックスが入っています。

誤飲すると危険です。皮膚に触れると、アレルギー反応を起こすおそれがあります。

皮膚に触れたり、目に入らないようにご注意ください。

お子様の手の届かない場所に保管してください。

関連情報

- 緊急パンクリペアーキット* (p. 366)
- 緊急パンクリペアーキット* - 位置 (p. 366)



型式認定 - タイヤ・プレッシャー・モニタリング (TPMS)

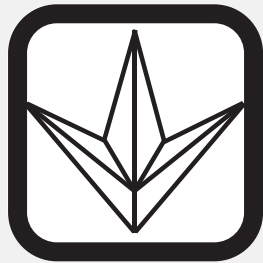
タイヤ・プレッシャー・モニタリング・システム TPMS (Tyre Pressure Monitoring System)*

のセンサーの型式認定は表内に記載されています。



10 ホイールおよびタイヤ

◀◀

国/地域	
ブラジル	 025050
ウクライナ	 025051



国/地域	
イスラエル	שם הדגם (Hebrew: Model name) S180052050 שם היצרן וכתובתו (Hebrew: Manufacturer and address) Continental AG Siemensstraße 12 93055 Regensburg 0051154

10



10 ホイールおよびタイヤ

◀◀

適合宣言 (Declaration of Conformity)

国/地域	
EU 諸国 :	輸出国 : ドイツ 製造元 : Continental Automotive GmbH 機種 : TPMS ユニット 0051353



国/地域	
チェコ共和国 :	Continental tímto prohlašuje, že tento Radio Transmitter je ve shodě se základními požadavky a dalšími příslušnými ustanoveními směrnice 1999/5/ES.
デンマーク :	Undertegnede Continental erklærer herved, at følgende udstyr Radio Transmitter overholder de væsentlige krav og øvrige relevante krav i direktiv 1999/5/EF.
ドイツ :	Hiermit erklärt Continental, dass sich das Gerät Radio Transmitter in Übereinstimmung mit den grundlegenden Anforderungen und den übrigen einschlägigen Bestimmungen der Richtlinie 1999/5/EG befindet.
エストニア :	Käesolevaga kinnitab Continental seadme Radio Transmitter vastavust direktiivi 1999/5/EÜ põhinõuetele ja nimetatud direktiivist tulenevatele teistele asjakohastele sätetele.
UK	Hereby, Continental declares that this Radio Transmitter is in compliance with the essential requirements and other relevant provisions of Directive 1999/5/EC.
スペイン :	Por medio de la presente Continental declara que el Radio Transmitter cumple con los requisitos esenciales y cualesquiera otras disposiciones aplicables o exigibles de la Directiva 1999/5/CE.
ギリシャ :	ΜΕ ΤΗΝ ΠΑΡΟΥΣΑ Continental ΔΗΛΩΝΕΙ ΟΤΙ Radio Transmitter ΣΥΜΜΟΡΦΩΝΕΤΑΙ ΠΡΟΣ ΤΙΣ ΟΥΣΙΩΔΕΙΣ ΑΠΑΙΤΗΣΕΙΣ ΚΑΙ ΤΙΣ ΛΟΙΠΕΣ ΣΧΕΤΙΚΕΣ ΔΙΑΤΑΞΕΙΣ ΤΗΣ ΟΔΗΓΙΑΣ 1999/5/EK.
フランス :	Par la présente Continental déclare que l'appareil Radio Transmitter est conforme aux exigences essentielles et aux autres dispositions pertinentes de la directive 1999/5/CE.
イタリア :	Con la presente Continental dichiara che questo Radio Transmitter è conforme ai requisiti essenziali ed alle altre disposizioni pertinenti stabilite dalla direttiva 1999/5/CE.
ラトヴィア :	Ar šo Continental deklarē, ka Radio Transmitter atbilst Direktīvas 1999/5/EK būtiskajām prasībām un citiem ar to saistītajiem noteikumiem.
リトアニア :	Šiuo Continental deklaruoja, kad šis Radio Transmitter atitinka esminius reikalavimus ir kitas 1999/5/EB Direktyvos nuostatas.
オランダ :	Hierbij verklaart Continental dat het toestel Radio Transmitter in overeenstemming is met de essentiële eisen en de andere relevante bepalingen van richtlijn 1999/5/EG.



10 ホイールおよびタイヤ



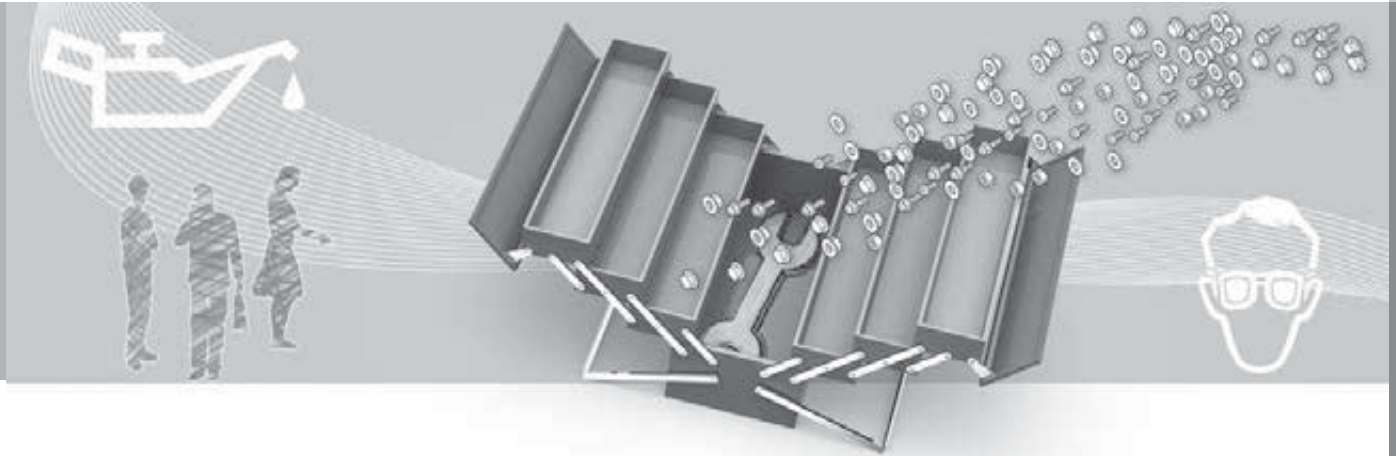
国/地域	
マルタ :	Hawnhekk, Continental, jiddikjara li dan Radio Transmitter jikkonforma mal-htigijiet essenzjali u ma provvedimenti oħrajn relevanti li hemm fid-Dirrettiva 1999/5/EC.
ハンガリー :	Alulírott, Continental nyilatkozom, hogy a Radio Transmitter megfelel a vonatkozó alapvető követelményeknek és az 1999/5/EC irányelv egyéb előírásainak.
ポーランド :	Niniejszym Continental oświadcza, że Radio Transmitter jest zgodny z zasadniczymi wymogami oraz pozostałymi stosownymi postanowieniami Dyrektywy 1999/5/EC.
ポルトガル :	Continental declara que este Radio Transmitter está conforme com os requisitos essenciais e outras disposições da Directiva 1999/5/CE.
スロヴェニア :	Continental izjavlja, da je ta Radio Transmitter v skladu z bistvenimi zahtevami in ostalimi relevantnimi določili direktive 1999/5/ES.
スロヴァキア :	Continental týmto vyhlasuje, že Radio Transmitter spĺňa základné požiadavky a všetky príslušné ustanovenia Smernice 1999/5/ES.
フィンランド :	Continental vakuuttaa täten että Radio Transmitter tyyppinen laite on direktiivin 1999/5/EY oleellisten vaatimusten ja sitä koskevien direktiivin muiden ehtojen mukainen.
スウェーデン :	Härmed intygar Continental att denna Radio Transmitter står i överensstämmelse med de väsentliga egenskapskrav och övriga relevanta bestämmelser som framgår av direktiv 1999/5/EG.
アイスランド :	Hér með lýsir Continental yfir því að Radio Transmitter er í samræmi við grunnkröfur og aðrar kröfur, sem gerðar eru í tilskipun 1999/5/EC.
ノルウェー :	Continental erklærer herved at utstyret Radio Transmitter er i samsvar med de grunnleggende krav og øvrige relevante krav i direktiv 1999/5/EF.

関連情報

- タイヤ・プレッシャー・モニタリング*
(p. 358)

11

保守点検





11 保守点検

ボルボメンテナンスサービスプログラム

信頼できる安全性能を維持するため、メンテナンスノート(整備手帳)に記載されているボルボメンテナンスサービスプログラムに従って、点検整備を実施してください。

点検整備は、ボルボ指定のサービス工場にお任せください。ボルボ指定のサービス工場にはボルボ車を熟知したメカニックがおり、専用工具やサービス資料も完備していますので、クオリティの高い点検整備をご提供することができます。

重要

ボルボ社の保証が適用されるためには、メンテナンスノート(整備手帳)の指示に従った点検を実施する必要があります。

関連情報

- エアコンディショナーシステム - トラブルシューティングと修理 (p. 394)

サービスと修理の予約^{*1}

インターネット接続車両では、サービス、修理、予約情報を直接管理できます。

この方法を利用すると、車内からサービスおよびサービス工場への入庫を直接予約できるため便利です。ご利用のディーラーに車両情報が送信され、ディーラーはサービス工場への入庫準備を行うことができます。ディーラーはお客様に連絡して、入庫予約の日時を決定します。一部の市場では、予約日時が近づくと、システムからお客様に予約情報が通知され、入庫予定日になると、ナビゲーションシステム²がサービス工場までお客様を案内することもできます。

サービスを使用する前に

Volvo ID およびマイプロフィール

- Volvo ID を登録します。詳しい情報および Volvo ID の作成方法については、Volvo ID (p. 20) を参照してください。
- ポータルサイト My Volvo にログインして、お客様のプロフィールに移動し、以下を行います。
 - 車両がお客様のプロフィールに接続されていることを確認します。
 - お客様の連絡先が正しいことを確認します。
 - サービスおよび修理の件で連絡するボルボディーラーを選択します。

- 希望する連絡方法(SMS または電話)を選択します。予約情報は必ず車両とお客様にメールで送信されます。

車両から予約する場合の必須条件

- 車両との間で予約情報をやりとりするには、車両がインターネットに接続されている必要があります。車両をインターネットに接続する方法については、付録「センサス・インフォテイメント」を参照してください。
- 予約情報はお客様がご契約の電話回線で送信されるため、情報の送信について許可が求められます。質問は1回だけです。その後、選択した接続に対して時間制限付きで適用されます。
- サービスを機能させるとともに、システムが車両の画面を介して通信できるようにするには、通知/ポップアップメッセージを許可する必要があります。MY CAR ソースの通常ビューで、OK/MENU を押し、サービス & 修理 → ディスプレイ通知の順に選択します。

サービスの使用

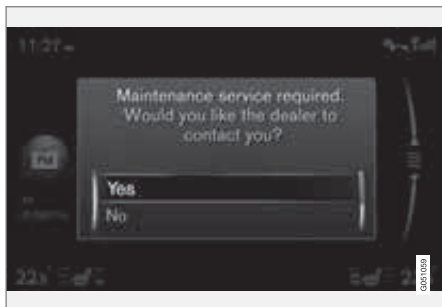
OK/MENU、サービス & 修理 の順に押すと、MY CAR の通常ビューからすべてのメニューおよび設定にアクセスできます。

サービスの予定が近づいた場合、また、車両の修理が必要になった場合(一部の状況のみ)、その情報がコンパインド・メーター・パネル(p. 90)で通知され、画面にポップアップメニューの形で表示されます。

¹ 特定市場に適用

² Sensus Navigation に適用されます。

* オプション/アクセサリの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



画面のサービスメッセージ

画面のポップアップメニューに表示される回答選択肢の意味：

- **はい** - 予約照会がディーラーに送信され、後からディーラーがお客様に予約日程案を連絡します。コンパインド・メーター・パネルのサービスランプおよびサービスメッセージが消えます。
- **いいえ** - 今後、画面にポップアップメッセージは表示されなくなります。コンパインド・メーター・パネルのメッセージは残ります。この選択肢を選択した後も、車内から手動予約を行うことができます。以下を参照してください。
- **延期** - 次回の車両始動時にポップアップメニューが表示されます。

サービスまたは修理の手動予約¹

1. センターコンソールの **MY CAR** ボタンを押して、**サービス & 修理 → ディーラー情報 → サービスまたは修理** をリクエストを選択します。
 > 車両データが自動的にお客様のディーラーに送信されます。
2. ディーラーが車両に予約日程案を送信します。
3. 予約日程案を受け入れるか、新しい予約日程案を要求します。

予約を受け入れると、予約情報が車両に保存されます。「My bookings」を参照してください。車両は予約に関するメッセージを画面に表示して、お客様と自動的にやりとりし、サービス工場への入庫までお客様を案内します。

サービス工場への入庫は、My Volvo 経由でも予約することができます。「My bookings」に移動し、「Update」(更新)を選択して、My Volvo から予約にアクセスしてください。

My bookings¹

車両の画面に予約情報を表示します。予約日程案を受け入れるか、新しい予約日程案を要求します。

- **サービス & 修理 → マイ予約** の順に選択します。

ディーラーに電話する¹

車両に接続されている Bluetooth® 電話を使用して、ディーラーに電話することができます。電話の接続については、付録「センサス・インフォテイメント」を参照してください。

- **サービス & 修理 → ディーラー情報 → ディーラーヘコール** の順に選択します。

ナビゲーションシステム^{1,2}の使用

ご利用のサービス工場を目的地または中継地としてナビゲーションシステムに入力してください。

- **サービス & 修理 → ディーラー情報 → 目的地をひとつ設定** の順に選択します。
- **サービス & 修理 → ディーラー情報 → 経由地として追加** の順に選択します。

車両データの送信¹

車両データは本社のボルボデータベース(ご利用のディーラーではない)に送信され、ボルボディーラーは車両の識別番号(VIN³)を使用してそのデータベースから車両情報を読み出します。車台番号は車両のメンテナンスノート(整備手帳)に印刷されています。また、ウインドスクリーンの左下隅にも表示されています。

- **サービス & 修理 → 車両データを送信** の順に選択します。

¹ 特定市場に適用

² Sensus Navigation に適用されます。

³ 車台番号



11 保守点検



予約情報および車両データ

車内からサービスの予約を行うときには、予約情報と車両データが送信されます。車両データは、以下の項目に関する多くの信号で構成されます。

- サービス要件
- 機能の状態
- フルードレベル
- 走行距離(距離)
- 車台番号(VIN³)
- 車両のソフトウェアバージョン

関連情報

- Volvo ID (p. 20)

³ 車台番号



車両リフトアップ

車両をリフトする場合は、ジャッキまたはリフティングアームを車両のアンダーボディの取り付けポイントに正しく取り付けることが重要です。



注意

ボルボ社は、車両搭載ジャッキのみの使用を推奨しています。ボルボ純正以外のジャッキを使用する場合には、ジャッキに添付されている指示に従ってください。



11 保守点検

11



車両付属ジャッキ用のジャッキポイント(矢印)とリフティングポイント(赤印)

車両をフロントガレージジャッキで持ち上げる場合、車両下のもっとも内側のリフティングポイント2箇所のいずれか1つの下に配置する必要があります。車両をリアガレージジャッキで持ち上げる場合、リフティングポイントのいずれか1つの下に配置する必要があります。車両がガレージジャッキから外れないように、注意してジャッキを配置してください。必ずアクスルスタンドなどを使用してください。

車両を2柱リフトで持ち上げる場合、フロントおよびリアリフティングアームを外側のリフティングポイント(ジャッキポイント)の下に配置することができます。別の方法として、フロントでは内側のリフティングポイントを使用することもできます。

関連情報

- ホイールの交換 - ホイールを取り外す (p. 353)

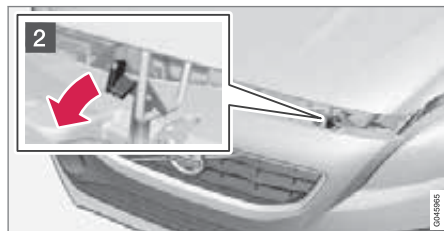


ボンネット - 開閉

ボンネットは、車内のハンドルを時計回りに回し、グリル横のロックを左に移動すると開きます。



ボンネットを開くためのハンドルは、左側にあります。



- 1 ハンドルを 20～25 度時計回りに回します。
キャッチが解除されると、音がします。
- 2 キャッチを左に押して、ボンネットを開けます。
(キャッチフックは、ヘッドライトとグリルの間にあります。図参照。)

警告

ボンネットを閉めたときは、完全にロックしているか確認してください。

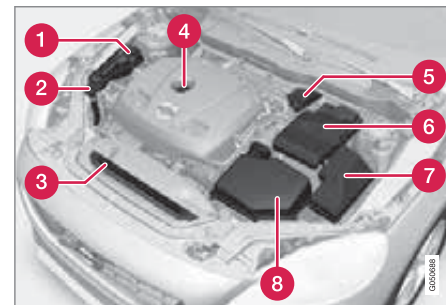
関連情報

- エンジンルーム - 点検 (p. 387)
- エンジンルーム - 概要 (p. 385)

エンジンルーム - 概要

通常の点検ポイントを示しています。

エンジンルーム (4 気筒 2.0 L)



エンジンタイプにより、エンジンルームの外観が図と異なる場合があります。

- 1 エキスパンションタンク (冷却水)
- 2 ウォッシャー液リザーバタンク
- 3 ラジエーター
- 4 エンジンオイルの充填
- 5 ブレーキおよびクラッチフルード用リザーバタンク (運転席側に配置)
- 6 バッテリー
- 7 リレーおよびヒューズボックス
- 8 エアフィルター



11 保守点検

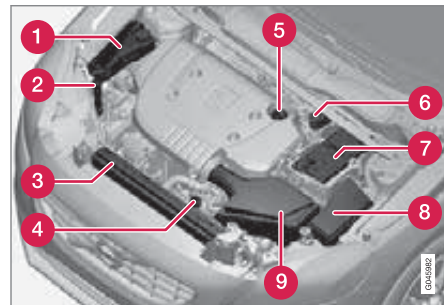


⚠ 警告

イグニッションシステムには、高電圧がかかります、出力も大きくなっています。イグニッションシステムの電圧は非常に高く危険です。エンジンルーム内で作業をする場合には、車両の電気系統を必ずキー位置 **0** にしてください。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 106) を参照してください。

車両の電気系統がキー位置 **II** のとき、あるいはエンジンが高温のときには、スパークプラグやイグニッションコイルにふれないでください。

エンジンルーム (4 気筒 2.0 L 以外)



エンジンタイプにより、エンジンルームの外観が図と異なる場合があります。

- ① エキスパンションタンク (冷却水)
- ② ウォッシャー液リザーバタンク
- ③ ラジエーター
- ④ エンジンオイルレベルゲージ⁴
- ⑤ エンジンオイルの充填
- ⑥ ブレーキおよびクラッチフルード用リザーバタンク (運転席側に配置)
- ⑦ バッテリー
- ⑧ リレーおよびヒューズボックス
- ⑨ エアフィルター

⚠ 警告

イグニッションシステムには、高電圧がかかります、出力も大きくなっています。イグニッションシステムの電圧は非常に高く危険です。エンジンルーム内で作業をする場合には、車両の電気系統を必ずキー位置 **0** にしてください。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 106) を参照してください。

車両の電気系統がキー位置 **II** のとき、あるいはエンジンが高温のときには、スパークプラグやイグニッションコイルにふれないでください。

関連情報

- ボンネット - 開閉 (p. 385)
- エンジンルーム - 点検 (p. 387)

⁴ 電子式オイルレベルセンサー付きエンジンには、オイルレベルゲージがありません (5 気筒ディーゼル)。



エンジンルーム - 点検

オイルおよびフルードには定期的な点検が必要なものがあります。

定期点検

次に挙げるオイルおよびフルードは、定期的(燃料補給時など)に点検してください：

- クーラント
- エンジンオイル
- ウォッシャー液

警告

ラジエーターファン(エンジンルームのフロント部分、ラジエーター後ろに配置)は、エンジンを停止した後しばらくしてからでも自動的に回転を開始する場合がありますのでご注意ください。

エンジンの洗浄は必ずサービス工場で実施してもらうようにしてください。ボルボ指定のサービス工場のご利用をお薦めします。エンジンが高温のときは、火災につながるおそれがあります。

関連情報

- ボンネット - 開閉 (p. 385)
- エンジンルーム - 概要 (p. 385)
- クーラント - レベル (p. 392)
- エンジンオイル - 点検および補充 (p. 388)
- ウォッシャー液 - 補充 (p. 403)

エンジンオイル - 一般

エンジンのサービスインターバルに適応するため、指定されたエンジンオイルを使用してください。



ボルボ社の推奨品：



過酷な条件下で走行する場合は、エンジンオイル - 過酷な走行条件 (p. 435)を参照してください。

重要

エンジンのサービスインターバルに適応できるように、工場で特別な合成エンジンオイルがエンジンに充填されています。このオイルは、エンジンの寿命、始動性能、燃費および環境保全を十分考慮して選定されています。

エンジンのサービスインターバルに適応するため、指定されたエンジンオイルを使用してください。オイルの補充および交換時には、指定グレードのオイル以外使用しないでください。異なるオイルを使用すると、エンジンの寿命、始動性能、燃費および環境保全に悪影響を与えます。

指定グレードおよび粘度以外のオイルを使用した場合、ボルボ社の保証も適用されなくなります。

オイル交換は、ボルボ指定のサービス工場に依頼されることをお薦めします。

ボルボでは、オイルレベル上昇/低下警告システムや油圧低下警告システムに、異なるシステムを使用しています。一部の車両には、油圧センサーが装備されています。その場合、コンパインド・メーター・パネルの油圧低下警告灯が使用されます。その他の車両には、オイルレベル



11 保守点検



センサーが使用されています。メーター・パネルの警告灯  およびディスプレイテキストでドライバーに警告します。また、両方のシステムを搭載しているモデルもあります。詳しくは、ボルボ指定のディーラーにお問い合わせください。

エンジンオイルおよびオイルフィルターの交換時期は、別冊のメンテナンスノート(整備手帳)を参照してください。

ボルボ社が指定するオイルグレードよりも高いグレードのオイルは、使用が認められています。ボルボは、過酷な状況下で走行する際には、グレードの高いオイルの使用を推奨します。エンジンオイル - 過酷な走行条件 (p. 435) を参照してください。

補充量については、エンジンオイル - グレードおよび容量 (p. 436) を参照してください。

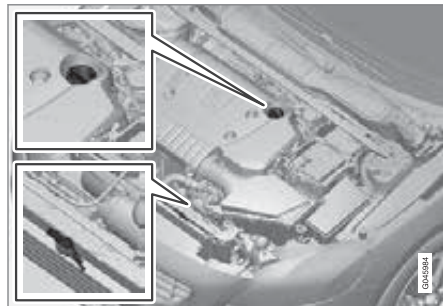
関連情報

- エンジンオイル - 点検および補充 (p. 388)

エンジンオイル - 点検および補充

オイル残量は、エンジンタイプに応じて、電子式オイルレベルセンサーで点検する場合とオイルレベルゲージで点検する場合があります。

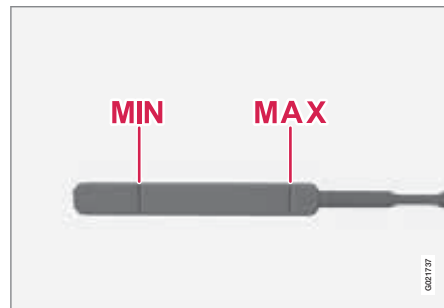
オイルレベルゲージ⁵付きエンジン



オイルレベルゲージおよびフィラーパイプ

新車の場合、最初のオイル交換時期までの期間には、オイルレベルの点検が特に重要となります。

エンジンオイルのレベルは、2 500 km 走行する毎に点検してください。正確なオイル量を点検するため、エンジン始動前の冷えた状態で点検してください。エンジンを切った直後に測定すると、正確な測定値が得られません。オイルがオイルパンに戻るための十分な時間がなかったために、レベルゲージが異常に低いレベルを示してしまいます。



オイルレベルは、**MIN** マークと **MAX** マークの間でなければなりません。

⁵ 4 気筒 2.0 L エンジンまたは 5 気筒ディーゼルエンジンは電子式オイルレベルセンサーが装備されているため適用されません。



測定と必要時の補充

1. 車両が平坦な地面に駐車されていることを確認してください。エンジン停止後、オイルがオイルパンに戻るまで5分間待つことが重要です。
2. オイルレベルゲージを抜き出し、拭いてください。
3. オイルレベルゲージをもう一度挿入します。
4. 引き抜いて、レベルを点検します。
5. レベルが **MIN** に近い場合には、0.5 リットル補充してください。レベルが明確に下回っている場合には、補充量を追加することが必要です。
6. 必要に応じて、もう一度レベルを点検します。しばらく走行した後で実施してください。手順 1~4 を繰り返します。

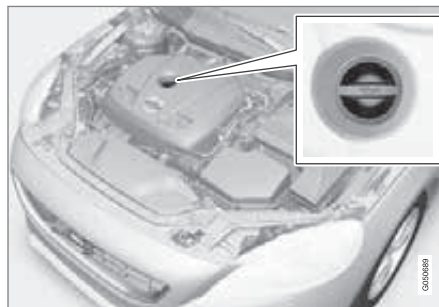
警告

エンジンオイルを補充するときは、絶対に **MAX** マークを超えないように注意してください。レベルは、**MAX** と **MIN** マークの間ではないと、エンジンが損傷するおそれがあります。

警告

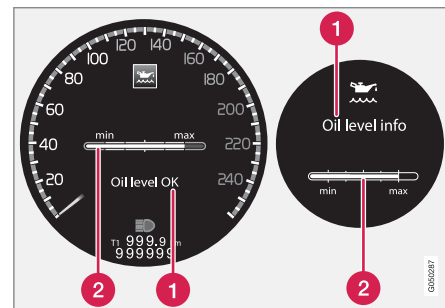
高温のエキゾーストパイプの上に、オイルをこぼさないでください。火災につながるおそれがあります。

電子式オイルレベルセンサー付きエンジン、4 気筒 2.0 L



フィラーパイプ⁶

ディスプレイにメッセージが表示されない限り、エンジンオイルレベルに関しては、何の処置も必要ありません。次図を参照してください。



ディスプレイのメッセージとグラフ左側が液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネルで、右側がアナログ式です。

① メッセージ

② エンジンオイルレベル

オイルレベルは、エンジンが停止しているときに、コントロールダイヤルの付いた電子式オイルレベルゲージを使用して点検します。メニューナビゲーション - コンバインド・メーター・パネル (p. 134) を参照してください。

警告

メッセージ **オイル点検して下さい** が表示された場合、サービス工場で点検を受けてください。ボルボ指定のサービス工場のご利用をお薦めします。オイルレベルが異常に高くなっている場合があります。

⁶ 電子式オイルレベルセンサー付きエンジンには、オイルレベルゲージがありません。



11 保守点検



重要

オイルレベルの低下が表示された場合、必ず指定された量(例：0.5 L)だけを補充してください。

注意

オイルが補充または排出されても、システムは変化を直接検知することができません。オイルレベルが正しく表示されるためには、車両を約 30 km 走行させ、その後、エンジン停止状態で水平な場所に 2 時間静止させておく必要があります。

警告

高温のエキゾーストパイプの上に、オイルをこぼさないでください。火災につながるおそれがあります。

オイルレベルの測定、4 気筒 2.0 L

オイルレベルの点検が必要であれば、以下の手順通りに実施してください。

1. キー位置 **II** にします。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 106) を参照してください。

2. 左側レバースイッチのコントロールダイヤルを**オイル**⁷位置まで回します。

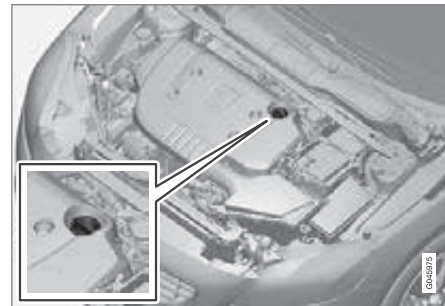
＞ これで、エンジンオイルレベルに関する情報が表示されます。

メニューナビゲーションについては、メニューナビゲーション - コンパインド・メーター・パネル (p. 134) を参照してください。

注意

オイルレベルの適切な測定条件(エンジン停止からの経過時間、車両の傾き、外気温など)が満たされていないと、メッセージ **利用できません** が表示されます。これは車両のシステムに問題があることを示すものではありません。

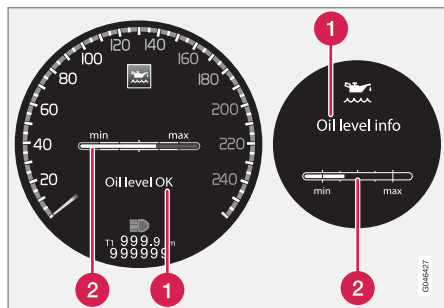
電子式オイルレベルセンサー付きエンジン、5 気筒ディーゼル



フィルターパイプ⁷

コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイにメッセージが表示されない限り、エンジンオイルレベルに関しては、何の処置も必要ありません。次図を参照してください。

⁷ 電子式オイルレベルセンサー付きエンジンには、オイルレベルゲージがありません。



ディスプレイのメッセージとグラフ左側が液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネルで、右側がアナログ式です。

① メッセージ

② エンジンオイルレベル

一部の車両では、オイルレベルは、エンジンが停止しているときに、コントロールダイヤルの付いた電子式オイルレベルゲージを使用して点検できます。

警告

メッセージ **オイル点検して下さい** が表示された場合、サービス工場で点検を受けてください。ボルボ指定のサービス工場のご利用をお勧めします。オイルレベルが異常に高くなっている場合があります。

重要

メッセージ **オイルレベル低下 0.5リットル補充して下さい** が表示されたら、オイルを 0.5 リットルのみ補充してください。

注意

オイルレベルは走行中にシステムによって検知されます。オイルが補充または排出されても、システムは変化を直接検知することができません。車両が約 30 km 走行するまで、オイルレベルの表示は正しくありません。

警告

下の図の通りにオイルレベルが (3) または (4) のように表示されている場合には、それ以上オイルを補充しないでください。オイルレベルが、**MAX** を上回ったり、**MIN** を下回ったりしないようにしてください。エンジンが損傷を受けるおそれがあります。

警告

高温のエキゾーストパイプの上に、オイルをこぼさないでください。火災につながるおそれがあります。

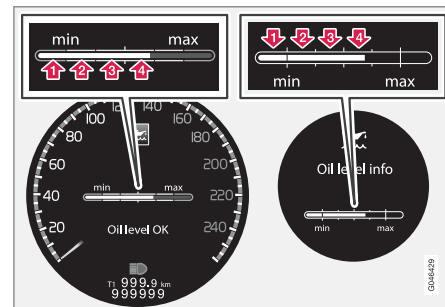
オイルレベルの測定、5 気筒ディーゼル

オイルレベルの点検が必要であれば、以下の手順通りに実施してください。

1. キー位置 **II** にします。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 106) を参照してください。
2. 左側レバースイッチのコントロールダイヤルを **オイルレベル** 位置まで回します。

＞ これで、エンジンオイルレベルに関する情報が表示されます。

メニューナビゲーションについては、メニューナビゲーション - コンバインド・メーター・パネル (p. 134) を参照してください。



数値 1~4 は補充レベルを示します。補充レベル (3) または (4) が表示されている場合には、オイルを補充しないでください。推奨補充レベルは 4 です。ディスプレイのメッセージとグラフ左側が液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネルで、右側がアナログ式です。



11 保守点検



関連情報

- エンジンオイル - 一般 (p. 387)
- キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 106)

クーラント - レベル

クーラントはエンジンを冷却して正しい動作温度を維持させます。エンジンからクーラントに伝わった熱は車内ヒーターに使用されることがあります。

クーラントレベルは、エキスパンションタンクの **MIN** と **MAX** のマークの間でなければなりません。

レベルの点検および補充



冷却水を補充するときは、容器に記載されている説明に従ってください。濃縮タイプのクーラントは、そのときの天候条件に合わせて、正しい混合比で水と混合することが重要です。絶対に水だけを補充しないでください。冷却水の混合比が不適切な場合、凍結してエンジンが損傷するおそれがあります。

警告

クーラントは、非常に高温になります。エンジンが暖まったときにクーラントを補充する場合は、エキスパンションタンクのキャップを少しずつ緩めて、タンク内の圧力を逃がしてください。

容量や水質基準に関しては、クーラント - グレードおよび容量 (p. 438) を参照してください。

冷却水を定期的に点検してください：

このレベルは、エキスパンションタンクの **MIN** と **MAX** のマークの範囲内にあれば正常です。冷却水の量が不足するとエンジンが高温になり、損傷するおそれがあります。



重要

- 塩素、塩化物、およびその他の塩類は、クーリングシステムに錆が発生する原因となります。
- ボルボ社が推奨する、防錆剤入りの冷却水(クーラント)を使用してください。
- 冷却水の混合比は、水 50%、クーラント 50%になるようにしてください。
- クーラントと混合する水は、飲料水を使用してください。水質に問題がある場合は、ボルボ社が推奨する混合済みクーラントを使用してください。
- クーラント/クーリングシステムの部品交換の際は、飲料水または混合済みクーラントでクーリングシステムを洗浄してください。
- エンジンに、十分な量の冷却水が必要です。冷却が十分ではないと、温度が異常に上昇し、シリンダーヘッドに損傷(亀裂)が発生するおそれがあります。

ブレーキおよびクラッチフルード - レベル

ブレーキおよびクラッチフルードのレベルは、リザーバータンクの **MIN** と **MAX** のマークの間でなければなりません。

レベルの点検

ブレーキフルードおよびクラッチフルードは、リザーバータンクを共用しています。レベルは、リザーバータンクの内側にある **MIN** と **MAX** マークの間でなければなりません。このレベルは、定期的に点検してください。

ブレーキフルードは必ず2年毎、または定期点検2回に付き1回交換してください。

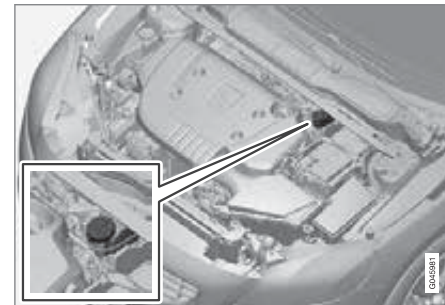
山道のような急ブレーキを頻繁に使用するような条件下や、高温多湿地域で使用する場合は、ブレーキフルードを必ず毎年交換してください。

ブレーキフルードの容量および推奨グレードについては、ブレーキフルード - グレードおよび容量 (p. 441)を参照してください。

警告

ブレーキフルードレベルがリザーバータンクの **MIN** マークより低い場合は、ブレーキフルードを補充するまで絶対に運転しないでください。ブレーキフルードが減った原因を、ボルボ指定のサービス工場で点検する必要があります。

補充



リザーバータンクの位置(運転席側)

リザーバーキャップを外して、フルードを補充します。このレベルは、必ずリザーバータンク内側の **MIN** と **MAX** のマークの範囲内になるようにしてください。

重要

キャップを忘れず元通りに取り付けてください。



11 保守点検

エアコンディショナーシステム - トラブルシューティングと修理

エアコンディショナーシステムは、必ずボルボ指定のサービス工場で点検整備および修理を行ってください。

トラブルシューティングと修理

冷暖房システムには、蛍光性の透写剤が含まれています。漏れを見つけるには、紫外線ライトを使用します。

ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

警告

冷暖房システムには、冷媒 R134a が加圧充填されています。このシステムの保守や修理は、必ずボルボ指定のサービス工場にご依頼ください。

関連情報

- ボルボメンテナンスサービスプログラム (p. 380)

ランプ交換 - 一般

バルブの場合、ランプ交換が可能です。LED およびキセノンランプの交換は、サービス工場に依頼してください。

バルブは指定 (p. 400) されています。以下のリストには、バルブの位置や、LED⁸ などの指定品を使用する光源、またはサービス工場⁹ 以外での交換には適さない光源の位置が記載されています。

- アクティブキセノンヘッドライト - ABL (キセノンランプ)
- ポジションランプ¹⁰
- フロントバンパー内または下に取り付けられているランプ¹¹
- サイド方向指示器、ドアミラー¹⁰
- アブローチライト、ドアミラー
- ルームランプおよびカーゴスペースランプ
- グローブボックスランプ
- テールランプ
- リアサイドマーカールランプ
- ハイマウントストップランプ
- ナンバープレートランプ

警告

キセノンヘッドライトが装備されている車両では、キセノンランプの交換は、サービス工場で行う必要があります。ボルボ指定のサービス工場にお任せください。キセノンランプには高電圧ユニットが使用されているため、作業には細心の注意が必要です。

警告

バルブ交換時には、車両の電気系統を必ずキー位置 **0** にしてください。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 106) を参照してください。

重要

バルブのガラス部分は、絶対に触らないでください。指などで触れると、付いた脂がバルブ点灯中に熱で蒸発してリフレクターに付着し、リフレクターが劣化します。

⁸ LED (Light Emitting Diode)

⁹ ボルボ指定のサービス工場にお任せください。

¹⁰ 特定モデルのみ。

¹¹ キセノンヘッドライト装備車向け。



注意

不具合のあるバルブを交換した後でも、エラーメッセージが消えない場合には、車両をボルボ指定のサービス工場にお持ちください。

注意

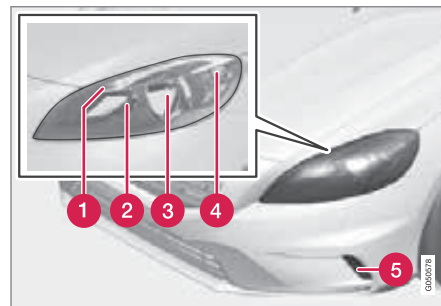
ヘッドライトやフォグランプ、リアランプなどのエクステリアランプでは、レンズの内側が一時的に曇る場合があります。これは異常ではありません。エクステリアランプは、このような曇りに耐えるように設計されています。ライトがしばらく点灯したままになると、曇りは自然に解消します。

関連情報

- ランプ - 仕様 (p. 400)
- ランプ交換 - フロントランプの位置 (p. 395)
- ランプ交換 - リアランプの位置 (p. 398)
- ランプ交換 - メイクアップミラーランプ (p. 400)

ランプ交換 - フロントランプの位置

フロントのランプの位置が示されています。



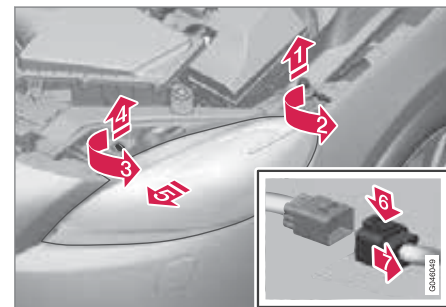
- 1 ポジションランプ/テールランプ (p. 398)
(キセノンヘッドライトではLED)
- 2 キセノンヘッドライトのハイビーム
(p. 397)/キセノンヘッドライトのエクストラハイビーム (p. 397)
- 3 ハロゲンヘッドライトのロービーム
(p. 396)/キセノンヘッドライトのキセノンランプ (p. 394)
- 4 方向指示器 (p. 398)
- 5 ハロゲンヘッドライト装備車:機能なし。キセノンヘッドライト装備車: LED ランプ

関連情報

- ランプ交換 - 一般 (p. 394)
- ランプ - 仕様 (p. 400)

ランプ交換 - ヘッドライト

ヘッドライトのすべてのバルブは、エンジンルームからヘッドライト全体を取り外して交換します。



1. 1 ボンネットストップを引き上げます。
2. 2 トルクスツール (T30 サイズ) を使用して、スクリューをゆるめます。
3. 3 ロッキングピンを反時計回りに回します。
4. 4 ロッキングピンを引き抜いてください。



11 保守点検



4. **5** ヘッドライトを交互に傾けてゆるめ、引き出します。

重要

ヘッドライトを取り付ける際には、いずれの部分にも傷を付けないよう十分注意してください。

5. **6** キャッチを押し下げます。

- 7** コネクターを外します。

レンズに傷をつけないように、ヘッドライトを柔らかい布などの上に置きます。

重要

ケーブルを引っ張らないでください。必ず、コネクターを引いてください。

6. 該当のバルブを交換します。

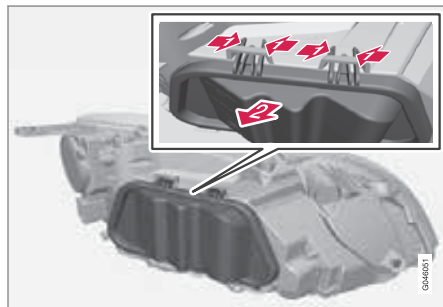
ライトやキー位置をオンにする前に必ずヘッドライトを取り付け、接点が正しく取り付けられていることを確認します。

関連情報

- ランプ交換 - 一般 (p. 394)
- ランプ交換 - フロントランプの位置 (p. 395)
- ランプ交換 - ハイ/ロービームバルブ用カバー (p. 396)
- ランプ - 仕様 (p. 400)

ランプ交換 - ハイ/ロービームバルブ用カバー

ハイ/ロービームのバルブへアクセスするには、ヘッドライトの大きい方のカバーを外します。



1. **1** フックを押し合わせます。

- 2** カバーを傾けて外します。

2. 該当のバルブを交換します。

関連情報

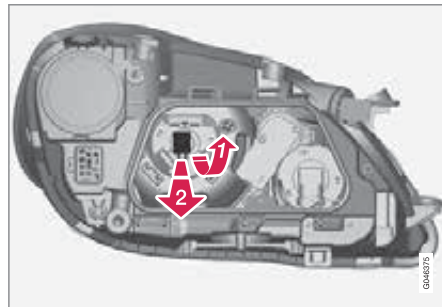
- ランプ交換 - ヘッドライト (p. 395)
- ランプ交換 - ロービーム (p. 396)
- ランプ交換 - ハイビーム (p. 397)
- ランプ交換 - エクストラハイビーム (p. 397)

ランプ交換 - ロービーム

ロービームのバルブはヘッドライトの大きい方のカバーの下に取り付けられています。

注意

ハロゲンヘッドライト装備車に適用。



1. ヘッドライト (p. 395) を外します。

2. カバー (p. 396) を外します。

3. **1** 外れるまでバルブホルダーを押し上げます。

- 2** バルブホルダーを引き抜いてください。

4. バルブを交換し、各パーツを逆の順序で元に戻します。

関連情報

- ランプ - 仕様 (p. 400)

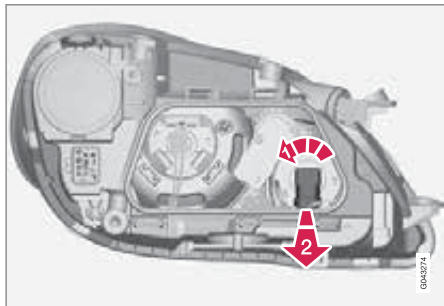


ランプ交換 - ハイビーム

ハイビームのバルブはヘッドライトの大きい方のカバーの下に取り付けられています。

i 注意

ハロゲンヘッドライト装備車に適用。



1. ヘッドライト (p. 395) を外します。
2. カバー (p. 396) を外します。
3. **1** バルブホルダーを反時計回りに回します。
4. **2** バルブホルダーを引き抜いてください。
4. バルブを交換し、各パーツを逆の順序で元に戻します。

関連情報

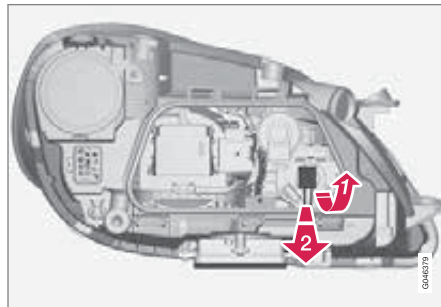
- ランプ - 仕様 (p. 400)

ランプ交換 - エクストラハイビーム

エクストラハイビームのバルブはヘッドライトの大きい方のカバーの下に取り付けられています。

i 注意

キセノンヘッドライト*装着車に適用されません。



1. ヘッドライト (p. 395) を外します。
2. カバー (p. 396) を外します。
3. **1** 外れるまでバルブホルダーを押し上げます。
4. **2** バルブホルダーを引き抜いてください。
4. バルブを交換し、各パーツを逆の順序で元に戻します。

関連情報

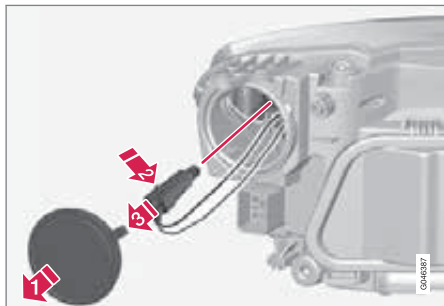
- ランプ - 仕様 (p. 400)



11 保守点検

ランプ交換 - フロント方向指示器

方向指示器のランプはヘッドライトの小さい方のカバーの下に取り付けられています。



1. ヘッドライト (p. 395) を外します。
2. **1** カバーを外します。
3. **2** キャッチを押し入れます。
3 バルブホルダーを引き抜いてください。
4. バルブを交換し、各パーツを逆の順序で元に戻します。

関連情報

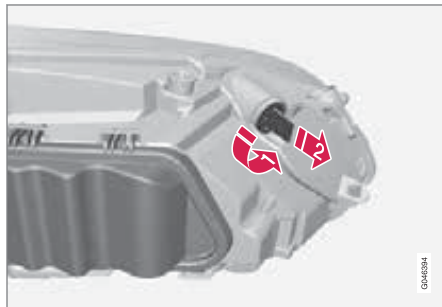
- ランプ - 仕様 (p. 400)

ランプ交換 - ポジションランプ

ポジションランプ/テールランプのバルブホルダーはヘッドライトの横にあります。

i 注意

LED ランプが使用されているため、キセノンヘッドライト*装着車には該当しません。



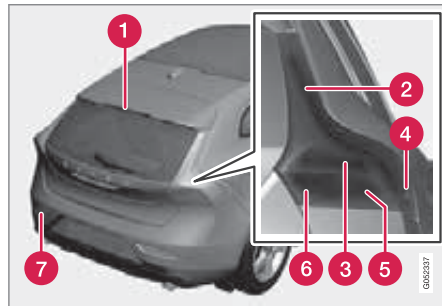
1. ヘッドライト (p. 395) を外します。
2. **1** バルブホルダーを反時計回りに回します。
2 バルブホルダーを引き抜いてください。
3. バルブを交換し、各パーツを逆の順序で元に戻します。

関連情報

- ランプ - 仕様 (p. 400)

ランプ交換 - リアランプの位置

リアのランプの位置が示されています。



- 1 ブレーキランプ (LED)
- 2 ポジションランプ/テールランプ (LED)
- 3 ブレーキランプ (p. 399)
- 4 サイドマーカーランプ (LED)
- 5 方向指示器 (p. 399)
- 6 後退灯 (p. 399)
- 7 フォグランプ (運転席側) (p. 399)

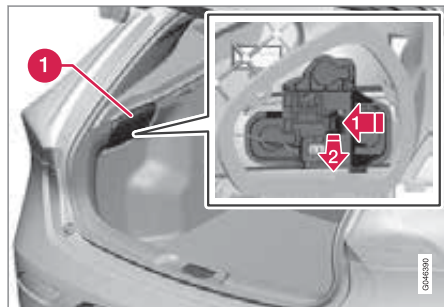
関連情報

- ランプ交換 - 一般 (p. 394)
- ランプ - 仕様 (p. 400)



ランプ交換 - リア方向指示器、ブレーキランプ、後退灯

リア方向指示器、ブレーキランプ、後退灯のランプは、カーゴスペースの内側から交換します。



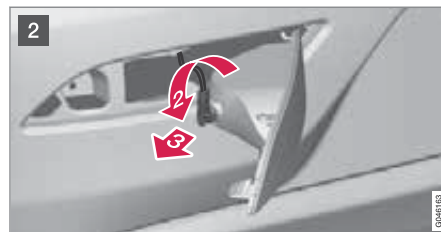
1. 不具合のあるバルブと同じ側の内装(1)内にあるハッチを外します。
2. **1** キヤッチを横方向に押します。
2 バルブホルダーを引き抜いてください。
3. 切れたバルブを押し込んで反時計回りに回し、取り外します。
4. バルブを交換し、各パーツを逆の順序で元に戻します。

関連情報

- ランプ交換 - リアランプの位置 (p. 398)
- ランプ - 仕様 (p. 400)

ランプ交換 - リアフォグランプ

フォグランプのバルブはバンパーのバルブホルダー内に取り付けられています。



1. あまり鋭くない、刃状のもの(テーブルナイフなど)を三角形の部分に約 20 mm 挿入します。
1 ラグが外れるまで、慎重にこじります。



重要

いずれのパーツも傷付けないよう注意してください。

2. **2** バルブホルダーを反時計回りに回します。
3. **3** バルブホルダーを引き抜いてください。
3. バルブを交換し、各パーツを逆の順序で元に戻します。

関連情報

- ランプ - 仕様 (p. 400)



11 保守点検

ランプ交換 - メイクアップミラーランプ

メイクアップミラーランプはランプレンズの内側に取り付けられています。



1. ランプレンズの下にドライバーを差し込み、注意して軽くこじ上げ、端のロックラグを外します。
2. 注意してランプレンズを外します。
3. ラジオペンチを使用して、バルブをまっすぐ横向きに引き出します。ペンチで強く挟まないでください。バルブのガラスが破損するおそれがあります。
4. バルブを交換し、各パーツを逆の順序で元に戻します。

関連情報

- ランプ - 仕様 (p. 400)

ランプ - 仕様

この仕様はバルブに該当します。LED およびキセノンランプの交換は、サービス工場に依頼してください。

ライト	[W] ^A	タイプ
ロービーム ^B	55	H7 LL
ハイビーム ^B	65	H9
エクストラハイビーム ^C	55	H7 LL
フロント方向指示器	21	HY21W
ポジションランプ ^B	5	W5W LL
サイド方向指示器、ドアミラー ^D	5	WY5W LL
リア方向指示器	21	PY21W LL
ブレーキランプ	21	P21W LL
後退灯	21	P21W LL
リアフォグランプ	21	H21W LL
メイクアップミラーランプ	1.2	T5 ソケット W2x4. 6d

^A ワット

^B ハロゲンライト装着車

^C キセノンヘッドライト装着車

^D 特定モデルのみ。

関連情報

- ランプ交換 - 一般 (p. 394)
- ランプ交換 - フロントランプの位置 (p. 395)
- ランプ交換 - リアランプの位置 (p. 398)
- ランプ交換 - メイクアップミラーランプ (p. 400)



ワイパーブレード

ワイパーブレードはウインドスクリーンやリアウインドの水滴を取り除きます。ウォッシャー液を同時に使用してウインドを洗浄すると良好な視界を保つことができます。

ウインドスクリーンのワイパーブレードを交換する際は、サービスポジションにしておく必要があります。

サービスポジション



サービスポジションのワイパーブレード

ワイパーブレードの交換、清掃、持ち上げなどを行うため(例えば、ウインドスクリーン上の凍結した氷を除去するため)には、必ずサービスポジションにしてください。

重要

ワイパーブレードをサービスポジションにする前に、凍結していないことを確認してください。

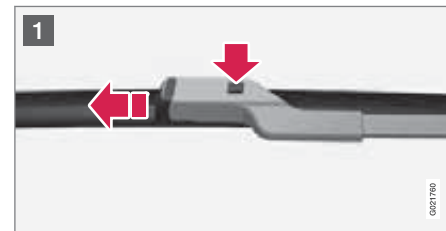
1. リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに挿入し¹²、**START/STOP ENGINE** ボタンを軽く押して車両の電気系統をキー位置 **I** にします。キー位置についての詳細は、キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 106) を参照してください。
2. **START/STOP ENGINE** ボタンをもう一度軽く押し、車両の電気系統をキー位置 **0** にセットしてください。
3. 3秒以内に右側レバースイッチを押し上げ、約1秒間その位置に保ってください。
 > ワイパーはまっすぐ立ち上がります。

START/STOP ENGINE ボタンを軽く押して車両の電気系統をキー位置 **I** にすると(もしくは、エンジンを始動すると)、ワイパーは初動位置に戻ります。

重要

サービスポジションのワイパーアームがウインドスクリーンから折り上げられている場合には、ワイパーを始動位置に戻す前に、ウインドスクリーンに戻す必要があります。これは、ボンネットの塗装に傷を付けないようにするためです。

ワイパーブレードの交換

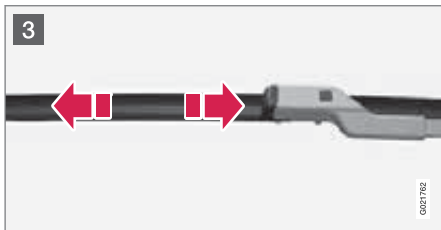


¹² キーレスドライブ機能装備車では不要です。



11 保守点検

11



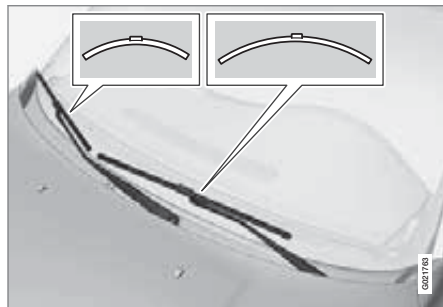
1 サービスポジションのときにはワイパーアームを折りたたんでください。ワイパーブレードのマウンティングにあるボタンを押しながら、ワイパーブレードをワイパーアームと並行方向にまっすぐ引き抜きます。

2 カチッと音がするまで、新しいワイパーブレードを差し込みます。

3 ワイパーブレードが確実に固定されているか確認します。

4. ワイパーアームをウインドスクリーンの方向に折って戻します。

START/STOP ENGINE ボタンを軽く押して車両の電気系統をキー位置 **I** にすると(もしくは、エンジンを始動すると)、ワイパーはサービスポジションから初動位置に戻ります。



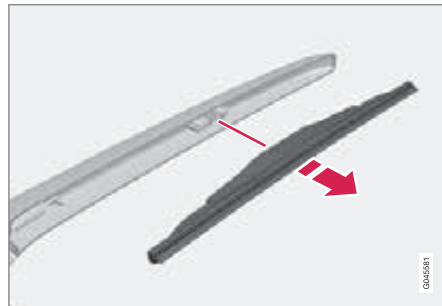
注意

ワイパーブレードは、長さが異なります。運転席側のワイパーブレードの方が、助手席側のワイパーブレードよりも長くなっています。

警告

車両にエアバッグ Pedestrian Airbag が装着されている場合には、ボルボでは、純正ワイパーアームの使用を推奨しています。ワイパーアームの部品も必ず純正部品をご使用ください。

リアウインドワイパーブレードの交換



1. ワイパーアームを起こします。
2. ワイパーブレードの内側部分(矢印の位置)をつかみます。
3. 反時計回りに回します。てこの応用でワイパーブレードの端部をワイパーアームに押し付けながら回すと、ブレードが外れやすくなります。
4. 新しいワイパーブレードを、所定位置に差し込みます。確実に取り付けられているか確認してください。
5. ワイパーアームを下げます。

清掃

ワイパーブレードおよびウインドスクリーンの清掃については、洗車 (p. 420)を参照してください。



重要

ワイパーブレードは定期的に点検してください。メンテナンスを怠ると、ワイパーブレードの耐用年数が短くなります。

関連情報

- ウォッシャー液 - 補充 (p. 403)

ウォッシャー液 - 補充

ウォッシャー液はヘッドライトとウインドの洗浄に使用します。冬季には不凍効果のあるウォッシャー液を使用してください。



ウインドスクリーンウォッシャーとヘッドライトウォッシャーは、ウォッシャー液リザーバータンクを共用しています。

重要

ボルボ純正ウォッシャー液、または推奨 pH(6~8)の同等品を適切に希釈(例：中性水と1:1の割合で希釈)して使用してください。

重要

ポンプやリザーバータンク、ホース内で凍結しないように、冬季は凍結防止効果のあるウォッシャー液を使用してください。

補充量については、ウォッシャー液 - 品質および容量 (p. 441)を参照してください。

関連情報

- ワイパーブレード (p. 401)



11 保守点検

メインバッテリー - 一般

メインバッテリーは、車両のスターターモーターとその他の電気装備の駆動に使用されます。

メインバッテリーは、従来の 12V バッテリーです。

バッテリーの耐用年数および性能は、エンジンの始動回数、車両の使用状況、運転方法、および天候など、色々な要素に影響されます。

- エンジン作動中は、絶対にバッテリーの接続を外さないでください。
- バッテリーの配線が正しく、確実に接続されているか確認してください。

次表には、メインバッテリーの仕様が記載されています。

電圧 (V)	12
冷寒始動電流 (コールドスタートキャパシティ) ^A - CCA ^B (A)	720 ^C 760 ^D または 800 ^D

寸法、L×W×H (mm)	278×175×190 ^C 278×175×190 ^D または 315×175×190 ^D
容量 (Ah)	70 ^C 70 ^D または 80 ^D

A EN 規格準拠。

B Cold Cranking Amperes。

C マニュアルトランスミッション。

D オートマチックトランスミッション。仕様はモデルに応じて異なります。

重要

Start/Stop 機能装備車のメインバッテリーを交換する場合、正しいタイプのバッテリーを取り付ける必要があります。マニュアルトランスミッション車には EFB¹³、オートマチックトランスミッション車には AGM¹⁴ を取り付けてください。

補助バッテリーを交換する場合、AGM タイプのバッテリーを取り付ける必要があります。

重要

メインバッテリーを交換する場合は、既存のバッテリーと冷間始動性能およびタイプ (バッテリーのラベルを参照) が同じバッテリーと交換してください。

注意

- バッテリー容器のサイズは、元々取り付けられていたバッテリーの寸法と同じであるようにしてください。
- バッテリーの高さは、サイズに応じて異なっています。

警告

- バッテリーからは、非常に引火性の高い、酸素と水素の混合ガスが発生します。ジャンパーケーブルを正しく接続しないと、火花が発生し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- バッテリー液には、腐食性の強い希硫酸が使用されており、触れると重度のヤケドを負うおそれがあります。
- 電解液が目、皮膚または衣服に付着した場合は、ただちに大量の水で洗い流してください。目に入った場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

¹³ Enhanced Flooded Battery

¹⁴ Absorbed Glass Mat



重要

メインバッテリーまたは補助バッテリー (p. 406) を充電する場合、必ず充電電圧制御機能付きの最新バッテリーチャージャーを使用してください。高速充電機能は使用しないでください。バッテリーが損傷するおそれがあります。

重要

以下の指示に従わないと、外付けバッテリーやバッテリーチャージャーを接続した後、インフォテインメントシステムの節電機能が一時的に解除されたり、コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイにメインバッテリーの充電状態に関するメッセージが一時的に表示されないことがあります。

- 外付けバッテリーまたはバッテリーチャージャーを接続する際、車両のメインバッテリーのマイナス端子は**絶対に使用しないでください。車両シャシのみがアースポイントとして使用できます。**

ケーブルクランプの取り付け方については、ジャンプスタート (p. 299) を参照してください。

注意

放電/充電を頻繁に繰り返すと、バッテリーの耐用年数が短くなります。

バッテリーの寿命は走行状況や気候などさまざまな要因の影響を受けます。バッテリーの始動能力は時間が経つにつれて徐々に低下しますので、長時間使用しなかった場合や、短距離の運転を繰り返した場合には、充電が必要になります。極端に気温が低い場合にも始動能力が低下します。

バッテリーを良好な状態に保つために、車両を毎週少なくとも 15 分程度運転するか、自動トリクル充電機能の付いたバッテリー充電器を接続しておかれることをお勧めします。

バッテリーはつねにフルに充電された状態にしておくと、耐用年数をもっとも長くすることができます。

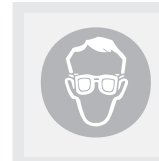
関連情報

- バッテリー - シンボル (p. 405)
- メインバッテリー - 交換 (p. 406)
- バッテリー - Start/Stop (p. 406)

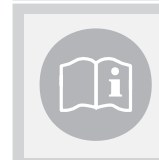
バッテリー - シンボル

バッテリーには重要な情報と警告シンボルが表示されています。

バッテリーに表示されているシンボル



安全ゴーグルを着用してください。



詳しくは、車両のオーナーズマニュアルを参照してください。



お子様の手の届かない場所に保管してください。



腐食性の強い希硫酸が入っています。



11 保守点検



火花、裸火禁止。



爆発の危険。



リサイクルに出すことが
必要です。

注意

バッテリーには鉛が含まれています。使用済みのバッテリーは、環境に配慮した適切な方法でリサイクル処理してください。

関連情報

- メインバッテリー – 一般 (p. 404)
- バッテリー – Start/Stop (p. 406)

メインバッテリー – 交換

メインバッテリーは認定サービス工場で交換してください。

メインバッテリーは、従来の 12 V バッテリーです。

ボルボではバッテリーの交換は指定のサービス工場に依頼されることを推奨します。ボルボ指定のサービス工場をご利用ください。

車両のメインバッテリーに関する詳細はジャンプスタート (p. 299) を参照してください。

バッテリー – Start/Stop

Start/Stop 機能を装備した車両には、メインバッテリーと補助バッテリーが備えられています。

Start/Stop 機能を装備した車両には、12V バッテリーが 2 個装着されています。始動時用の非常にパワフルなバッテリーと、Start/Stop 機能の始動手順を補助する補助バッテリーの 2 つです。

Start/Stop 機能については、Start/Stop* (p. 309) を参照してください。

車両のメインバッテリーに関する詳細はジャンプスタート (p. 299) を参照してください。

次表には、補助バッテリーの仕様が記載されています。

電圧 (V)	12
冷寒始動電流 (コールドスタートキャパシティ) ^A – CCA ^B (A)	120 ^C 170 ^D



寸法、L×W×H(mm)	150×90×106 ^C 150×90×130 ^D
容量(Ah)	8 ^C 10 ^D

A EN 規格準拠。

B Cold Cranking Amperes。

C マニュアルトランスミッションと Start/Stop 機能の組み合わせでは、車両が完全に静止したときにのみ自動停止します。

D その他。

重要

Start/Stop 機能装備車のメインバッテリーを交換する場合、正しいタイプのバッテリーを取り付ける必要があります。マニュアルトランスミッション車には EFB¹⁵、オートマチックトランスミッション車には AGM¹⁶ を取り付けてください。

補助バッテリーを交換する場合、AGM タイプのバッテリーを取り付ける必要があります。

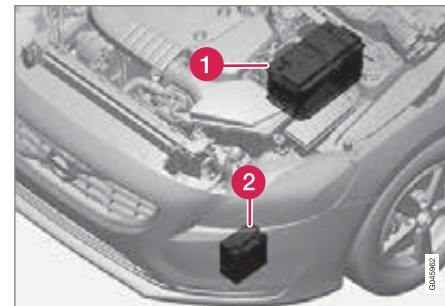
注意

- 車両の電流消費量が多いほど、オルタネーターの作動量を増やして、バッテリーの充電量を増やす必要があるため、燃料消費量の増加につながります。
- バッテリー容量が許容最低レベルを下回ると、Start/Stop 機能が解除されます。

電流消費量が多いために一時的に Start/Stop 機能が低下した場合には：

- 運転者がクラッチペダルを踏み込まなくてもエンジンが自動始動¹⁷します(マニュアルトランスミッション)。
- 運転者がブレーキペダルから足を離さなくても、エンジンが自動始動します(オートマチックトランスミッション)。

バッテリーの位置



(1)メインバッテリー¹⁸ (2)補助バッテリー

補助バッテリーは通常、始動時に使用する通常のバッテリーより頻繁に点検が必要になることはありません。ご質問や不具合があれば、サービス工場にご連絡ください。ボルボ指定のサービス工場をお勧めします。

重要

以下の指示に従わない場合には、外付けバッテリーやバッテリーチャージャーを接続した後、START/STOP 機能が一時的に機能しないことがあります。

- 外付けバッテリーまたはバッテリーチャージャーを接続する際、車両のメインバッテリーのマイナス端子は**絶対に**

¹⁵ Enhanced Flooded Battery

¹⁶ Absorbed Glass Mat

¹⁷ 自動スタートは、セレクトターレバーがニュートラル位置にあるときにしか実施されません。

¹⁸ メインバッテリーの詳細は、メインバッテリー – 一般 (p. 404) を参照してください。



11 保守点検



使用しないでください。車両シャシのみがアースポイントとして使用できます。

ケーブルクランプの取り付け方については、ジャンプスタート (p. 299)を参照してください。

注意

バッテリーが著しく放電したために表示灯などが点灯せず、通常の電気機器が原則的に全く機能しないような状態になった後、エンジンが外付けバッテリーまたはバッテリーチャージャーによって始動された場合には、Start/Stop 機能が起動します。この場合、エンジンのオートストップ機能は作動できませんが、オートストップした後、バッテリーの容量が不足しているために、Start/Stop 機能によりエンジンがオートスタートできない場合があります。

オートストップした後は、オートスタートできるように、まずバッテリーを充電することが必要です。外気温が+15℃であれば、バッテリーは少なくとも1時間充電することが必要です。外気温がそれより低い場合には、3～4時間充電してください。バッテリーの充電には、外付けバッテリーチャージャーの使用を推奨します。

それができない場合には、バッテリーの充電状況が改善されるまで、Start/Stop 機能を一時的に解除してください。

メインバッテリーの充電については、メインバッテリー - 一般 (p. 404)を参照してください。

関連情報

- バッテリー - シンボル (p. 405)

電気系統

電気系統は単極で、シャシおよびエンジンをアースとして使用します。

車両には、電圧安定化オルタネーターが装備されています。

メインバッテリーのサイズ、タイプ、性能は車両の装備および機能によって異なります。

重要

メインバッテリーを交換する場合は、既存のバッテリーと冷間始動性能およびタイプ(バッテリーのラベルを参照)が同じバッテリーと交換してください。

関連情報

- メインバッテリー - 交換 (p. 406)
- メインバッテリー - 一般 (p. 404)



ヒューズ - 一般

車両の電装品は、多くのヒューズによりショートの過負荷から保護されています。

電装品または電気機能が作動しない場合、電気回路に一時的に過剰な負荷がかかったため、ヒューズが切れたおそれがあります。同じ箇所のヒューズが繰返し切れる場合は、該当するヒューズの電気系統が故障しているおそれがあります。ボルボ指定のサービス工場で点検を受けてください。

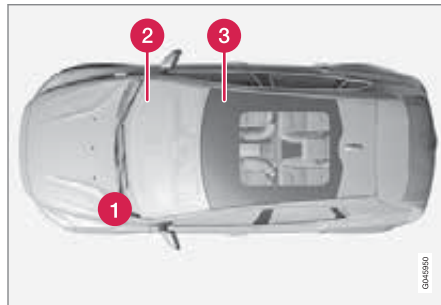
交換

1. ヒューズ表を参照して、該当するヒューズを探します。
2. ヒューズを取り外して、中央の曲がったワイヤーが焼き切れているか、側面から見て点検します。
3. 切れていたら、必ず同じ色、同じアンペアのヒューズと交換します。

警告

ヒューズを交換する際、絶対に異なるヒューズまたは高アンペアのヒューズを使用しないでください。高アンペアのヒューズを使用すると、過大な電流が流れてもヒューズが切れず、配線を損傷させて発火し、火災を起したり、電装品を損傷させるおそれがあります。

セントラルエレクトリカルユニットの場所



左ハンドル車のヒューズボックス位置。右ハンドル車の場合、グローブボックス下のヒューズボックスは左右が逆になります。

- ① エンジンルーム
- ② グローブボックス下
- ③ 右側フロントシート下

関連情報

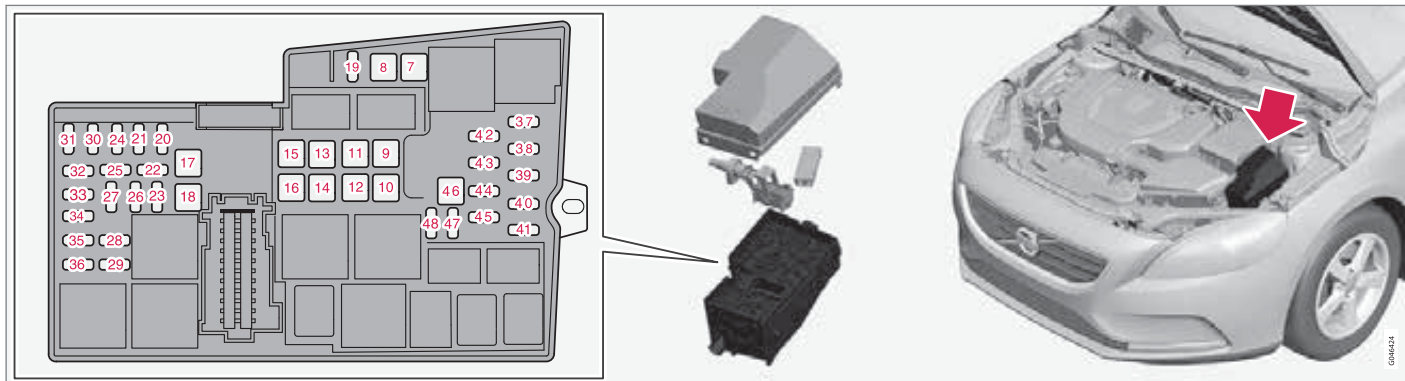
- ヒューズ - エンジンルーム内 (p. 410)
- ヒューズ - グローブボックス下 (p. 414)
- ヒューズ - 右側フロントシート下 (p. 417)



11 保守点検

ヒューズ - エンジンルーム内

エンジンルーム内のヒューズは、主にエンジンとブレーキシステムを保護します。



カバーの内側に、ヒューズを交換するときに使用するヒューズプライヤーがあります。

このヒューズボックスには、スペアヒューズを保管するスペースもあります。

ヒューズの交換

メインバッテリーのカバーと配電ユニットのカバーを外すと、ヒューズにアクセスできます。

カバーの取り外し



- 1 **1** ➡ メインバッテリーのカバーの側面に取り付けられているロックキャッチを引き出します。
- 2 ➡ カバーをまっすぐ上に引き上げます。



2 1 配電ユニットの側面に取り付けられているロックキャッチを伸ばします。

2 ロックラグ(1)が外れるまで、カバーを上方向に回転させます。



3 カバーをエンジンの方向に折り曲げて、ヒューズにアクセスしてください。

カバーの再取り付け

逆の順序で部品を元の位置に取り付けます。

位置

カバーの内側のラベルには、ヒューズの位置が表示されています。

- ヒューズ 7~18 は「JCASE」タイプですので、交換はサービス工場にご依頼ください¹⁹。
- 19~45 および 47~48 のヒューズは「Mini Fuse」タイプです。

	機能	A
7	ABS ポンプ	40
8	ABS パルプ	30
9	ヘッドライトウォッシャー*	20
10	ベンチレーションファン	40
11	—	—
12	ヒューズ用のプライマリー ヒューズ 32~36	30
13	—	—
14	ヒータッドウインドスクリーン、 右側*	40
15	—	—
16	ヒータッドウインドスクリーン、 左側*	40

	機能	A
17	パーキングヒーター*	20
18	ウインドスクリーンワイパー	20
19	セントラルエレクトロニックモ ジュール、基準電圧、補助バッテ リー	5
20	ホーン	15
21	ブレーキランプ	5
22	—	—
23	ライトスイッチ	5
24	内部リレーコイル	5
25	12V 電源ソケット、トンネルコン ソールフロント	15
26	トランスミッションコントロー ルモジュール	15
27	ソレノイドクラッチ A/C(1.6 L、 5 気筒ガソリン)	15
28	12V 電源ソケット、トンネルコン ソールリア	15
29	—	—

¹⁹ ボルボ指定のサービス工場にお任せください。



11 保守点検



	機能	A
30	エンジンコントロールモジュール(4 気筒 2.0 L、5 気筒)	5
31	パワーシート、右側*	20
32	クーリングファンリレーのリレーコイル(4 気筒 1.6 L、5 気筒ディーゼル)、ラムダソンド(4 気筒 1.6 L ガソリン)、マスエアフローセンサー(1.6 L ディーゼル、5 気筒ディーゼル)、バイパスバルブ、EGR 冷却(1.6 L ディーゼル)、バイパスソレノイド EGR 冷却(5 気筒ディーゼル)、レギュレーターバルブ、燃料流量(5 気筒ディーゼル)、レギュレーターバルブ、フューエルプレッシャー(5 気筒ディーゼル)	10
	ラムダソンド(4 気筒 2.0 L)、クーリングファン用リレーのリレーコイル(4 気筒 2.0 L)	15
	クーリングファンリレーのリレーコイル(5 気筒ガソリン)、ラムダソンド(5 気筒ガソリン)	20

	機能	A
33	オイルポンプオートマチックトランスミッション(5 気筒)、マスエアフローセンサー(1.6 L ガソリン、5 気筒ガソリン)、EVAP バルブ(1.6 L ガソリン)、バルブ(4 気筒 2.0 L、5 気筒ガソリン)、ソレノイド(5 気筒ガソリン)、クランクケースベンチレーションヒーター(5 気筒ガソリン)、コントロールモーターターボ(1.6 L ディーゼル)、レギュレーターバルブ、燃料流量(1.6 L ディーゼル)、コントロールモジュールラジエーターローラーカバー(1.6 L ディーゼル)、ソレノイドピストン冷却(5 気筒ディーゼル)、ターボコントロールバルブ(5 気筒ディーゼル)、オイルレベルセンサー(5 気筒ディーゼル)、コンプレッサー A/C(4 気筒 2.0 L 5 気筒ディーゼル)、オイルポンプ(4 気筒 2.0 L)、エアコンディショナーシステム用クーリングバルブ(4 気筒 2.0 L ディーゼル)、Start/Stop 機能用リレーのリレーコイル	10

	機能	A
34	バルブ(1.6 L ガソリン)、ソレノイド(1.6 L ガソリン)、インジェクター(5 気筒ガソリン)、ラムダソンド(5 気筒ディーゼル)、クランクケースベンチレーションヒーター(5 気筒ディーゼル)	10
	バルブ(4 気筒 2.0 L ディーゼル)、EVAP バルブ(4 気筒 2.0 L ガソリン)、クランクケースベンチレーションヒーター(4 気筒 2.0 L ガソリン)、エンジンコントロールモジュール(4 気筒 2.0 L)、マスエアフローセンサー(4 気筒 2.0 L)、サーモスタット(4 気筒 2.0 L ガソリン)、EGR 用クーリングポンプ(4 気筒 2.0 L ディーゼル)、グローコントロールモジュール(4 気筒 2.0 L ディーゼル)	15
35	イグニッションコイル(1.6 L、5 気筒ガソリン)	10
	イグニッションコイル(4 気筒 2.0 L ガソリン)、ディーゼルフィルターヒーター(1.6 L、5 気筒ディーゼル)、グローコントロールモジュール(5 気筒ディーゼル)	15
	ディーゼルフィルターヒーター(4 気筒 2.0 L ディーゼル)	25



	機能	A
36	エンジンコントロールモジュール (1.6 L)	10
	エンジンコントロールモジュール (4 気筒 2.0L、5 気筒)、スロットルユニット (5 気筒ガソリン)	15
37	ABS	5
38	エンジンコントロールモジュール、トランスミッションコントロールモジュール、エアバッグ	7.5
39	ライト高さコントロール*	10
40	電気制御サーボ	5
41	セントラルエレクトロニックモジュール	15
42	—	—
43	—	—
44	衝突警告システム	5
45	アクセルペダルセンサー	5
46	充電ポイント、補助バッテリー	—

	機能	A
47	—	—
48	クーラントポンプ (利用できるパーキングヒーターがない場合)	10

関連情報

- ヒューズ - グローブボックス下 (p. 414)
- ヒューズ - 右側フロントシート下 (p. 417)



11 保守点検

ヒューズ - グローブボックス下

グローブボックスの下にあるヒューズは、主にエアバッグおよびルームランプの機能などを保護します。



エンジンルーム内のヒューズボックス用カバーの内側に、ヒューズを交換するとき使用するヒューズブライヤーがあります。

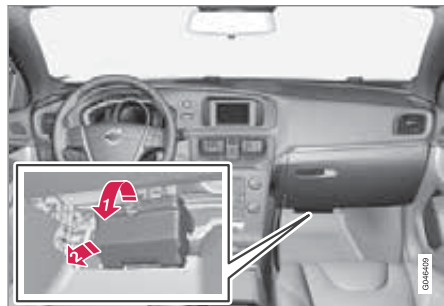
エンジンルーム内のヒューズボックスには、スペアヒューズを保管するスペースもあります。

ヒューズの交換

ヒューズボックスからプロテクションカバーが取り除かれると、ヒューズにアクセスできます。



カバーの取り外し

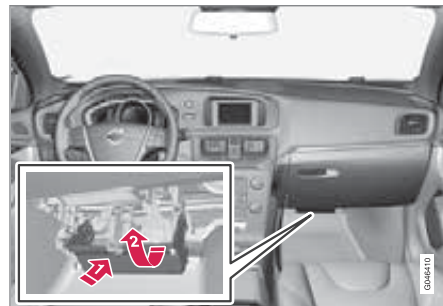


- 1 窪みをつかんで、カバーの下端のロックングラグがヒューズボックスから外れるまで引きます。
- 2 カバーを外します。

注意

配電ユニットからカバー上端のロックングラグを外すには、かなり大きな張力が必要となります。

カバーの取り付け



- 1 下側ラグを取り付けます。
- 2 上側ラグが噛み合うまでカバーを上向きに回します。

注意

上部ロックングラグが、配電ユニットの溝にしっかりとまっていることを確認してください。

位置

これらのヒューズは「Mini Fuse」タイプです。

	機能	A
56	フューエルポンプ	20
57	—	—

	機能	A
58	リアウインドワイパー	15
59	ルーフコンソールのディスプレイ (助手席のエアバッグ表示灯/シートベルトリマインダー)	5
60	ルームランプ、フロント読書灯およびルームランプ用ルーフコンソールのコントロール、パワーシート*	7.5
61	電動スライドカーテン、パノラマ・ガラスルーフ*	10
62	レインセンサー*、バックミラー防眩機能*、湿気センサー*	5
63	衝突警告システム*	5
64	—	—
65	テールゲートのロック解除 ^A	10
66	—	—
67	リザーブ位置 3、定電圧	5
68	ステアリングホイールロック	15
69	コンパインド・メーター・パネル	5

* オプション/アクセサリーの詳細については、「イントロダクション」を参照してください。



11 保守点検



	機能	A
70	セントラルロックシステム、燃料給油口フラップ ^B	10
71	クライメートパネル	7.5
72	ステアリングホイールモジュール	7.5
73	サイレン*、データリンクコネクター OBDII	5
74	ハイビーム	15
75	—	—
76	後退灯	7.5
77	ウインドスクリーンワイパー ^C 、リアウインドスクリーンワイパー ^C	20
78	イモビライザー	5
79	リザーブ位置 1、定電圧	15
80	リザーブ位置 2、定電圧	20
81	ムーブメントセンサーアラーム*、リモートレシーバー	5

	機能	A
82	ウインドスクリーンワイパー ^D 、リアウインドスクリーンワイパー ^D	20
83	セントラルロックシステム、燃料給油口フラップ ^E	10
84	テールゲートのロック解除 ^F	10
85	電気アディショナルヒーター*、リアシートヒーターボタン*	7.5
86	エアバッグ、歩行者エアバッグ*	7.5
87	リザーブ位置 4、定電圧	7.5
88	—	—
89	—	—

A ヒューズ 84 も参照。

B ヒューズ 83 も参照。

C ヒューズ 82 も参照。

D ヒューズ 77 も参照。

E ヒューズ 70 も参照。

F ヒューズ 65 も参照。

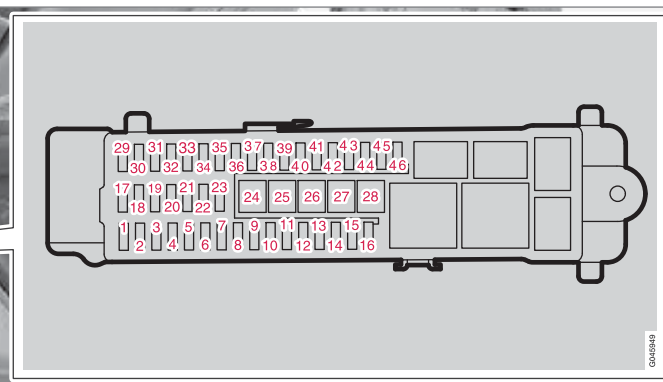
関連情報

- ヒューズ - エンジンルーム内 (p. 410)
- ヒューズ - 右側フロントシート下 (p. 417)



ヒューズ - 右側フロントシート下

右側フロントシート下にあるヒューズは、主にインフォテインメントシステムやシートヒーターを保護します。



エンジンルーム内のヒューズボックス用カバーの内側に、ヒューズを交換するときに使用するヒューズブライヤーがあります。

エンジンルーム内のヒューズボックスには、スベアヒューズを保管するスペースもあります。

位置

- ヒューズ 24～28 は「JCASE」タイプですので、交換はサービス工場にご依頼ください²⁰。
- 1～23 および 29～46 のヒューズは「Mini Fuse」タイプです。

	機能	A
①	—	—
②	キーレス*	10
③	ドアハンドル(キーレス*)	5
④	コントロールパネル、左フロントドア	25

²⁰ ボルボ指定のサービス工場にお任せください。



11 保守点検



	機能	A
5	コントロールパネル、右フロントドア	25
6	コントロールパネル、左リアドア	25
7	コントロールパネル、右リアドア	25
8	ヒューズ用のプライマリーヒューズ 12~16: インフォテイメント	25
9	パワーシート、左側*	20
10	—	—
11	内部リレーコイル	5
12	オーディオコントロールユニット(アンプ)*、診断用信号	5
13	—	—
14	テレマチックス*、Bluetooth*	5
15	オーディオコントロールモジュールまたはコントロールモジュール(センサス) ^A 、インフォテイメントコントロールモジュールまたは画面 ^A	15
16	デジタルラジオ*、TV*	7.5

	機能	A
17	カーゴスペースの 12V 電源ソケット	15
18	—	—
19	—	—
20	—	—
21	—	—
22	—	—
23	トレーラーソケット 2*	20
24	オーディオコントロールユニット(アンプ)*	30
25	—	—
26	トレーラーソケット 1*	40
27	リアウインドデフロスター	30
28	—	—
29	BLIS*	5
30	パークアシスト*	5
31	パーキングカメラ*	5

	機能	A
32	DSRC(Dedicated Short Range Communications)用コントロールモジュール	5
33	—	—
34	運転席シートヒーター	15
35	助手席シートヒーター	15
36	—	—
37	—	—
38	—	—
39	右リアシートヒーター*	15
40	左リアシートヒーター*	15
41	AWD コントロールモジュール*	15
42	—	—
43	—	—
44	—	—
45	—	—
46	—	—

A 一部モデル

**関連情報**

- ヒューズ - エンジンルーム内 (p. 410)
- ヒューズ - グローブボックス下 (p. 414)



11 保守点検

洗車

車両が汚れたらすぐに洗車してください。油水分離装置のある自動洗車機で洗車してください。カーシャンプー(洗車洗剤)を使用してください。

手洗い

- 塗装面に付着した鳥の糞は、すみやかに取り除いてください。鳥の糞に含まれている成分が塗装を急速に変色させます。変色の除去については、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。
- 車体の下面の汚れは、水でよく洗い落としてください。
- 泥を含む水がすべて洗い落されるまで車両全体をすすいでください。洗浄中に引っかき傷ができるのを防止するためです。キーシリンダーなどには直接水をかけないでください。
- 汚れが取れにくい場合は、脱脂剤を温めないで使用してください。表面が日光によって熱くなっていないように、注意してください。
- 十分な量のぬるま湯と、カーシャンプー(洗車洗剤)およびスポンジを使用して洗車してください。
- ワイパーブレードは、洗剤を入れたぬるま湯、またはカーシャンプー(洗車洗剤)で洗ってください。
- きれいで柔らかいセーム皮またはスクレーパーなどを使用して、車体から水分を拭き取ってください。直射日光によって水滴が乾いてしまわないように注意すれば、水滴に

よってシミがつく可能性が低くなります。シミができると、場合によっては磨いて取ることが必要になります。

警告

エンジンの洗浄は、サービス工場にお問い合わせください。エンジンが高温のときは、火災につながるおそれがあります。

重要

ヘッドライトに汚れが付着していると機能に影響します。定期的(燃料補給時など)にヘッドライトの清掃を行ってください。

腐食性のある洗剤は使用せず、代わりに水と傷がつかないようにスポンジで洗浄します。

注意

ヘッドライトやフォグランプ、リアランプなどのエクステリアランプでは、レンズの内側が一時的に曇る場合があります。これは異常ではありません。エクステリアランプは、このような曇りに耐えるように設計されています。ライトがしばらく点灯したままになると、曇りは自然に解消します。

ワイパーブレード

ワイパーブレードにアスファルト、埃、または融雪剤が付着していたり、ウインドスクリーン

に虫や氷などが付着していると、ワイパーブレードの耐用年数が短くなります。

清掃に関して：

- ワイパーブレードはサービスポジションにしてください。ワイパーブレード (p. 401) を参照してください。

注意

ワイパーブレードおよびウインドスクリーンは、洗剤を入れたぬるま湯、またはカーシャンプー(洗車用洗剤)で定期的に洗ってください。

強い溶剤を使用しないでください。

自動洗車機

自動洗車機を使用すると簡単に早く洗車をすることができますが、自動洗車機のブラシでは完全に洗浄できない箇所が多数あります。できるだけ、手で洗車されることをお勧めします。

注意

最初の数カ月間は、自動洗車機の使用は避け、洗車は必ず手で行ってください。新車のうちは、塗装面がまだ完全に硬化していないためです。

高圧洗浄

高圧の水をかけるときは、広い範囲を動かすような動きで、ノズルの先端をボディ面(すべての外装部品に該当)から 30 cm 以上離してください。



い。キーシリンダーなどには直接水をかけないでください。

ブレーキのテスト

警告

洗車後は、パーキングブレーキも含め、ブレーキのテストを必ず行ってください。水分や錆がブレーキパッドに悪影響を与えていないか、ブレーキの制動効果が劣っていないか確認してください。

雨や雪の中を長時間走行しているときは、ブレーキペダルを数回軽く踏むようにしてください。摩擦熱により、ブレーキライニングを温めて水分を取り除くことができます。非常に湿度が高いときや冷寒時に発進したときにも、この方法が有効です。

外装プラスチック、ラバー、およびトリムコンポーネント

カラープラスチックパーツやラバー、トリムコンポーネント(光沢のあるトリムモールディングなどを清掃および手入れするときは、ボルボ純正専用クリーナー(ボルボディーラーでお求めになれます)のご使用をお勧めします。クリーナーの使用説明書の指示に従ってください。

重要

プラスチックおよびラバー部分に、ワックスがけおよびポリッシュ加工を行わないでください。

脱脂剤をプラスチックおよびラバー部分に使用する場合がある場合は、軽くこするようにしてください。柔らかい洗浄用スポンジを使用してください。

光沢のあるトリムモールディングを、磨かないでください。表面に傷が付いたり、光沢が失われたりする場合があります。

研磨剤の入った艶出し剤は使用しないでください。

ホイール

ボルボ社が推奨するクリーナーしか使用しないでください。

特にクロームメッキされたアルミホイールの場合、強力なホイールクリーナーを使用すると、表面にキズやシミが付くおそれがあります。

関連情報

- 磨きおよびワックスがけ (p. 421)
- 内装の清掃 (p. 423)
- 撥水/防塵加工コーティング (p. 422)

磨きおよびワックスがけ

車体の塗装面の艶が失われてきたときや、特に外装を保護したいときは、磨きとワックスがけを行ってください。

新車購入後約1年間はポリッシュの必要はありませんが、ワックスがけをすることはできます。直射日光が当たる場所での磨き、またはワックスがけは避けてください。

磨きやワックスがけは、車両をよく洗い、完全に乾かしてから行ってください。車両に付着したアスファルトやタールなどは、タール用クリーナーやホワイトガソリンを使用して取り除いてください。取れにくいシミなどは、車体塗装面専用の研磨コンパウンドを使用して取り除いてください。

磨き剤で磨いてから、液体または固形ワックスを使用してワックスがけを行ってください。使用する製品に記載されている使用説明書に、必ず従ってください。磨き剤とワックスが、一緒になったタイプもあります。



11 保守点検



重要

プラスチックおよびラバー部分に、ワックスがけおよびポリッシュ加工を行わないでください。

脱脂剤をプラスチックおよびラバー部分に使用する必要がある場合は、軽くこするようにしてください。柔らかい洗浄用スポンジを使用してください。

光沢のあるトリムモルディングを、磨かないでください。表面に傷が付いたり、光沢が失われたりする場合があります。

研磨剤の入った艶出し剤は使用しないでください。

重要

ボルボ純正のペイントトリートメントしか使用しないでください。他のペイントトリートメントなどのシーリング、プロテクション、光沢シーリングなど、その他の処置によって、塗装面が損傷を受けるおそれがあります。ペイントトリートメントなどで生じた損傷は、ボルボ社の保証が適用されません。

関連情報

- 洗車 (p. 420)

撥水/防塵加工コーティング

ウインド表面には、悪天候下でも良好な視界が確保できるようにコーティングが施されています。

撥水/防塵加工コーティング*



撥水加工コーティングは、経年劣化します。

メンテナンス：

- カーワックス、脱脂剤などは、撥水加工に影響を与えるおそれがあるので、ガラス表面に絶対に使用しないでください。
- ガラス面を清掃する際は、表層に傷を付けないよう、十分に注意してください。
- 雪や氷などを取り除く際は、ガラス表面加工を傷付けないように、プラスチック製のアイスクレーパーのみを使用してください。
- 撥水効果を維持するために、ボルボ純正専用表面処理溶剤(ボルボ指定のディーラーでお求めになれます)のご使用をお薦めします。新車登録後約3年目以降は、補修加工を必ず毎年実施してください。

重要

ウインドの氷を除去するときに、金属製のアイスクレーパーを使用しないでください。ミラーの氷は、デフロスター機能を使用して除去してください。ウインド、ルームミラー、ドアミラー - ヒーター (p. 131) を参照してください。

関連情報

- 洗車 (p. 420)



防錆

ボルボ車には、工場で入念な防錆処置が施されています。車体各部は、亜鉛メッキ処理されたシートメタルが使用されています。車体下部は防錆剤で保護されています。車体メンバー、ビーム類、およびサイドドアなどには、浸透性の防錆剤で薄いコーティングが施されています。

点検とメンテナンス

泥や路面の塩分が錆の原因となる場合がありますので、車両はつねにきれいにしておいてください。防錆処置は定期的に点検し、必要に応じて補修を行ってください。

車両には、約 12 年を限度とした防錆処置が施されています。その後は、3 年毎の防錆処置が必要となります。車両にさらなる処置が必要であれば、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。

関連情報

- 塗装の損傷 (p. 424)

内装の清掃

ボルボ社が推奨するクリーナーおよびカーケア製品のみを使用してください。定期的に清掃してください。汚れがついた場合はすぐに対処することが重要です。洗浄剤を使用する前に、掃除機をかけてください。

重要

- 濃い色のジーンズやスウェードなど、衣類の素材によっては、色落ちして内装を変色させるおそれがありますのでご注意ください。内装が変色した場合、すみやかに内装の汚れた箇所を清掃して、適切に対処することが重要です。
- 車内の清掃には、強力な溶剤(ウォッシュャー液、ガソリン、ホワイต์ガソリンなど)を絶対に使用しないでください。内装やその他のインテリア用品を損傷するおそれがあります。
- 電気ボタンおよびコントロールのあるコンポーネントには、絶対に洗浄剤を直接吹き付けしないでください。代わりに、洗浄剤で湿らせた布を使用して、コンポーネントを拭いてください。
- 清掃時に尖った物やマジックテープなどを使用しないでください。内装布地に損傷を与えるおそれがあります。

布地内装および天井内装

ボルボ社は、布地内装および天井内装のお手入れのために、総合的な布地手入れ用品をご用意しています。説明書の指示通りに使用すると、内装の状態を良好に保つことができます。布地

手入れ用品は、ボルボディーラーでお求めになります。

レザー製内装

ボルボ車のレザー製内装は、本来の外観が長続きするように処理されています。

レザー製内装は、時間の経過とともに変化して美しい風合いが生まれる、天然皮革の製品です。レザー特有の色や性質を保つためには、定期的な清掃とトリートメントが必要です。ボルボ社は、レザー製内装の清掃およびトリートメントのために、ボルボレザーケアキットという総合的なお手入れ用品をご用意しています。説明書の指示通りに使用すると、レザー表面の保護コーティングを良好な状態に保つことができます。

レザー特有の柔らかさと感触を保つため、年に 1~4 回清掃を行い、保護クリームを使用してお手入れされることをお勧めします(必要に応じて、お手入れの回数を増やしてください)。ボルボレザーケアキットは、ボルボディーラーでお求めになります。

レザーステアリングホイール

レザーは呼吸します。レザー製ステアリングホイールにビニールのカバーをかけないでください。レザーステアリングホイールの清掃には、ボルボレザーケアキットをお勧めします。

プラスチック製、金属製および木製インテリアパーツ

マイクロファイバークロス(ボルボ指定のディーラーにお問い合わせください)などのご



11 保守点検



使用をお薦めします。マイクロファイバークロスを湿らせ、内装各部を拭いて清掃してください。

汚れをとるために、強く擦ったり、削らないでください。強いシミ抜き溶剤は、絶対に使用しないでください。取れにくい汚れには、ボルボ純正専用クリーナー(ボルボ指定のディーラーでお求めになれます)のご使用をお薦めします。

シートベルト

水および中性洗剤を使用してください。ボルボ純正テキスタイル専用クリーナーもご使用いただけます。シートベルトは、完全に乾かしてから巻き戻してください。

フロアマット

フロアカーペットを清掃するときは、フロアマットやカーゴスペースのマットを取り外してください。埃や汚れは、掃除機で吸い取ってください。各フロアマットはピンで固定されています。

フロアマットを各ピンの部分でつかみ、まっすぐに持ち上げて取り外してください。

フロアマットを所定位置に装着する際には、各ピンの場所を押してください。



警告

各シートではフロアマットを1枚だけ使用してください。また、運転席のマットがペダルの横や下に引っかかることがないように、出発前に、マットがピンに確実に固定されていることを確認してください。

フロアマットにシミができた場合には、掃除機をかけて掃除した後、特殊テキスタイルクリーナーをご使用ください。フロアマットの清掃には、ボルボディーラーが推奨する洗剤をご利用ください。

関連情報

- 洗車 (p. 420)

塗装の損傷

塗装は車両を錆から守るために重要な役割を果たしていますので、定期的に点検してください。塗装面にもっとも多く見られる損傷は、飛石による傷、引っかかり傷、フェンダーやドア、バンパーの傷などです。

塗装面の小さな損傷の補修

塗装面に傷が付いた場合は、錆が発生しないようにただちに補修してください。

用意する物

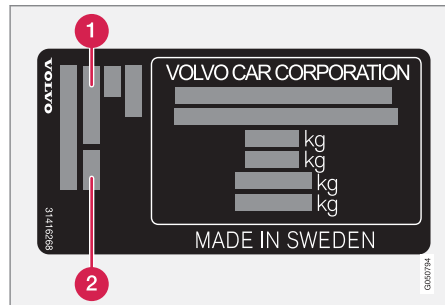
- プライマー²¹ – プラスチック塗料を施したバンパーなどには、スプレー缶に入った特殊な癒着性プライマーが利用できます。
- 下塗りとクリアコート – スプレー缶入りやタッチアップペンタイプ²²のものが利用できます。
- マスキングテープ
- 目の細かいサンドペーパー²¹。

²¹ 必要時。

²² タッチアップペンのパッケージに含まれていたインストラクションに従ってください。



カラーコード

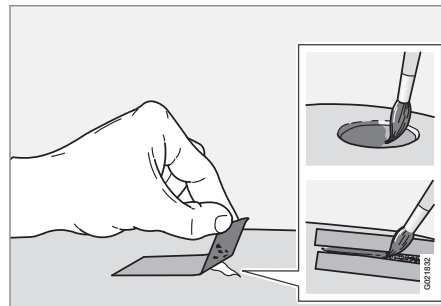


① エクステリアカラーコード

② 準エクステリアカラーコード

必ず正しい色の塗料を使用してください。製品ラベルの位置については、タイプの表示 (p. 427) を参照してください。

小石などによる傷や引っかき傷など塗装面の小さな損傷の修理



塗装面の補修は、車体をよく洗って乾燥させ、気温が 15 °C 以上のときに行ってください。

1. 損傷のある表面にマスキングテープを貼ります。剥がれかけた塗装の薄片が取り除けるようにテープを剥がします。

損傷が金属部分に達している場合には、プライマーを使って補修してください。損傷がプラスチック部分に達している場合には、癒着性プライマーを使用するとよりよい結果が得られます。スプレー缶の蓋にスプレーを吹きかけて、薄くブラシで伸ばします。

2. 塗装の前に、非常に目の細かい研磨材を使用して、必要な場所だけ慎重に研磨します (端が一樣ではない場合など)。表面をよく洗浄して、乾くまでお待ちください。

3. プライマーをよく混ぜて、細い筆かマッチ棒などで損傷部分に塗ります。プライマーが乾いたら、下塗りとクリアコートで仕上げます。
4. 引っかき傷の場合も小石による傷と同様に補修しますが、必要に応じてマスキングテープを使用して、傷のない部分を保護します。

注意

小石などによる傷で、金属部分に達しておらず、塗装に損傷のない部分が残っている場合には、清掃後すぐ下塗りとクリアコートで処理してください。

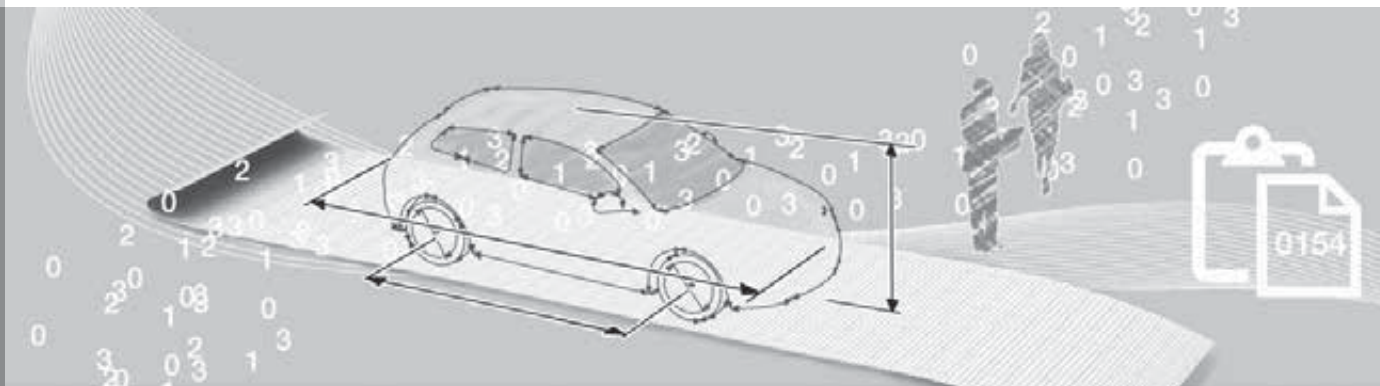
関連情報

- 防錆 (p. 423)

12

01 10
00 11

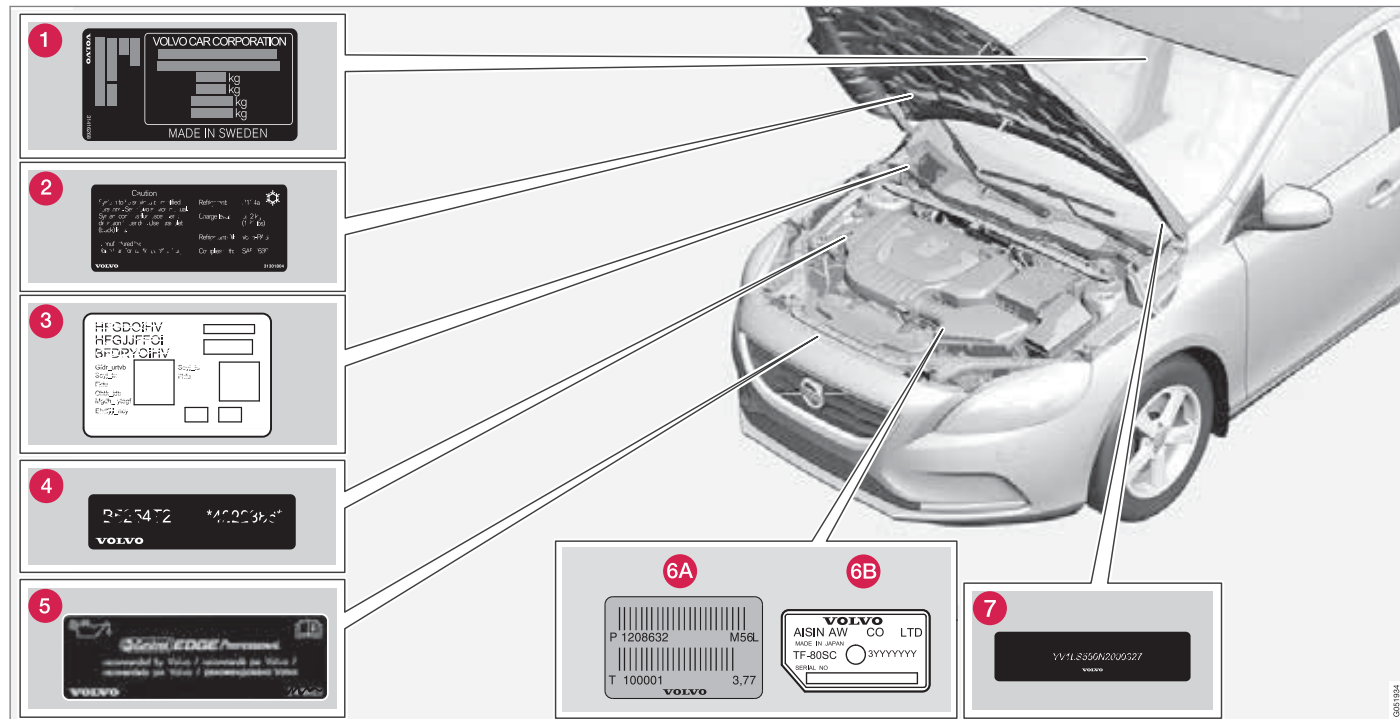
仕様



タイプの表示

タイプの表示や車両識別番号など、車両固有の情報は車両のラベルに記載されています。

ラベルの位置



001934



ボルボ指定のディーラーに車両についてのお問い合わせや、パーツあるいはアクセサリのご注文をいただくときは、車両のシャシ(車台)番号(VIN)およびエンジンタイプをお知らせください。

- ① タイプの表示、車台番号、許容最大重量、エクステリアカラーコードおよび型式指定番号。表示ラベルはドアピラーに貼付されています。右リアドアを開けたときに確認できます。
- ② A/C システム用ラベル
- ③ パーキングヒーターラベル
- ④ エンジンコードとエンジンシリアル番号
- ⑤ エンジンオイル用ラベル
- ⑥ トランスミッションタイプおよびシリアルナンバー
 - A マニュアルトランスミッション
 - B オートマチックトランスミッション
- ⑦ 車台番号(VIN)

実際の車両の各諸元値は、車検証記載の数値を参照してください。



注意

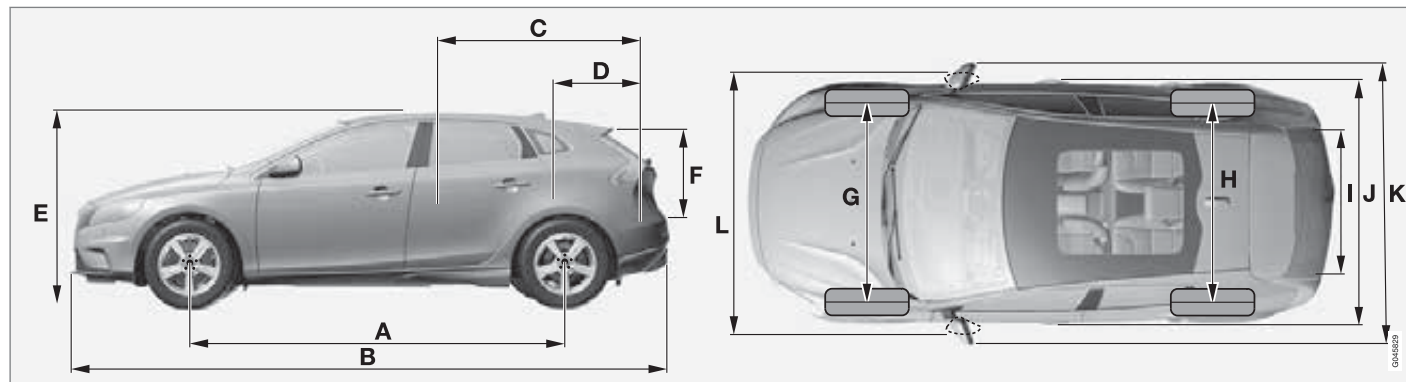
オーナーズマニュアルに掲載されている表示ラベルは、車両の表示ラベルと若干異なっている場合があります。ラベル掲載の目的は、ラベルの概観と車両に貼られている位置を示すことです。お客様の車両に当てはまる情報は、車両内の各ラベルをご確認ください。

関連情報

- 重量 (p. 430)
- エンジンの仕様 (p. 434)

寸法

車両の全長や高さなどの寸法が表内に記載されています。



V40 CROSS COUNTRY

	寸法	mm
A	ホイールベース	2646
B	全長	4370
C	荷室の長さ(フロア上の寸法、バックレストを倒した状態)	1508
D	荷室の長さ(フロア上の寸法)	684

	寸法	mm
E	全高	1458
F	荷室の高さ	532
G	トレッド(フロント)	1552 ^A 1547 ^B
H	トレッド(リア)	1540 ^A 1535 ^B

	寸法	mm
I	荷室の幅(フロア上の寸法)	960
J	全幅	1783 (1802 ^C)
K	全幅(ドアミラーを含む)	2041
L	全幅(格納式ドアミラーを含む)	1857

A オフセット 50 mm

B オフセット 52.5 mm

C キーレスドライブ*装備

12 仕様

重量

最大車両総重量などは車両のラベルに記載されています。

車両重量には、運転者、燃料タンク (90%給油状態)、全フルードが含まれます。

乗員やアクセサリーの重量、トウボール荷重 (p. 431) (トレーラーけん引時) によって積載量は左右します。これらは車両重量には含まれていません。

最大許容重量 = 車両総重量 - 車両重量

注意

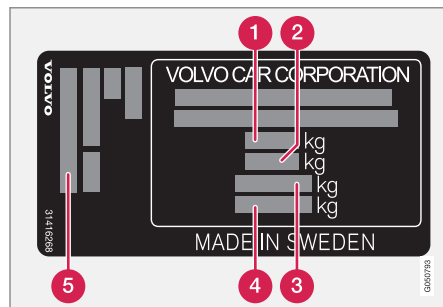
本書に記載の車両重量は、追加装備やアクセサリーのない、標準装備の車両に当てはまります。すなわち、最大許容重量は、追加されたアクセサリーの重量だけ、減少します。

最大許容重量を減少させるアクセサリーの例としては、キネティック (Kintetic)、モメントム (Momentum)、およびスナムム (Summum) の各レベルのオプション装備、さらに、トウバー、ロードキャリア、スペースボックス、オーディオシステム、補助ライト、GPS、フューエルドリブンエンジンブロックヒーター、スチールガードネット、カーペット、ラゲッジカバー、パワーシートなどがあります。

車両重量を確実に知るための方法は、実際に量ってみることです。

警告

車両走行性能は、搭載荷物の重量や、荷物を積む位置に影響を受けます。



ラベルの位置については、タイプの表示 (p. 427) を参照してください。

- ① 最大車両総重量
- ② 最大けん引重量 (車両+トレーラー)
- ③ 最大許容前軸荷重
- ④ 最大許容後軸荷重
- ⑤ 装備レベル

最大荷重：車検証をご覧ください。

最大ルーフ荷量：75 kg

関連情報

- けん引重量およびトウボール荷重 (p. 431)

けん引重量およびトウボール荷重

トレーラーを使用して走行する際のけん引重量
およびトウボール荷重が表内に記載されていま
す。

最大重量、ブレーキ付きトレーラー

V40CC ^A エンジン	エンジンコード ^B	トランスミッション	最大重量、ブレーキ付きトレーラー(kg)	最大トウボール荷重(kg)
T4	B4164T	マニュアル、B6	1300	75
T4	B4164T	オートマチック、MPS6	1500	75
T4	B5204T8	オートマチック、TF-80SD	1500	75
T4 AWD	B5204T8	オートマチック、TF-80SD	1500	75
T5	B5204T9	オートマチック、TF-80SD	1500	75
T5 AWD	B5204T9	オートマチック、TF-80SD	1500	75
T5 AWD	B5254T12	オートマチック、TF-80SD	1500	75
T5 AWD	B4204T11	オートマチック、TG-81SC	1500	75
D2	D4162T	マニュアル、B6	1300	75
D2	D4162T	オートマチック、MPS6	1300	75
D3	D5204T6	マニュアル、M66	1500	75
D3	D5204T6	オートマチック、TF-80SD	1500	75
D4	D4204T14	マニュアル、M66	1500	75
D4	D4204T14	オートマチック、TG-81SC	1500	75

A V40 CROSS COUNTRY

B エンジンコード、コンポーネントおよびシリアルナンバーは、エンジンに打刻されています。タイプの表示 (p. 427) を参照してください。

12 仕様



最大重量、ブレーキなしトレーラー

V40CC ^A エンジン	エンジンコード ^B	トランスミッション	最大重量、ブレーキなしトレーラー (kg)	最大トウボール荷重 (kg)
T4	B4164T	マニュアル、B6	650	50
T4	B4164T	オートマチック、MPS6	700	50
T4	B5204T8	オートマチック、TF-80SD	700	50
T4 AWD	B5204T8	オートマチック、TF-80SD	700	50
T5	B5204T9	オートマチック、TF-80SD	700	50
T5 AWD	B5204T9	オートマチック、TF-80SD	750	50
T5 AWD	B5254T12	オートマチック、TF-80SD	750	50
T5 AWD	B4204T11	オートマチック、TG-81SC	750	50
D2	D4162T	マニュアル、B6	650	50
D2	D4162T	オートマチック、MPS6	700	50
D3	D5204T6	マニュアル、M66	700	50
D3	D5204T6	オートマチック、TF-80SD	750	50
D4	D4204T14	マニュアル、M66	700	50
D4	D4204T14	オートマチック、TG-81SC	700	50

^A V40 CROSS COUNTRY

^B エンジンコード、コンポーネントおよびシリアルナンバーは、エンジンに打刻されています。タイプの表示 (p. 427) を参照してください。

関連情報

- 重量 (p. 430)
- トレーラーなどのけん引 (p. 334)
- トレーラー・スタビリティ・アシスト - TSA
(p. 340)

12 仕様

エンジンの仕様

各エンジンタイプの仕様(出力など)が表内に記載されています。



注意

搭載されているエンジンの仕様は市場毎に異なっていますので、あらかじめご了承ください。

V40CCA エンジン	エンジン コード ^B	最高出力 (kW/rpm)	最高出力 (hp/rpm)	最大トルク (Nm/rpm)	気筒数	シリンダー 内径 (mm)	シリンダー 行程 (mm)	総排気量 (リットル)	圧縮比
T4	B4164T	132/5700	180/5700	240/1600-5000	4	79	81.4	1.596	10.0 : 1
T4	B5204T8	132/5000	180/5000	300/2700-4000	5	81.0	77	1.984	10.5 : 1
T5	B5204T9	157/6000	213/6000	300/2700-5000	5	81.0	77	1.984	10.5 : 1
T5	B5254T12	187/5400	254/5400	360/1800-4200	5	83	92.3	2.497	9.5 : 1
T5	B4204T11	180/5500	245/5500	350/1500-4800	4	82.0	93.2	1.969	10.8 : 1
D2	D4162T	84/3600	115/3600	270/1750-2500	4	75	88.3	1.560	16.0 : 1
D3	D5204T6	110/3500	150/3500	350/1500-2750	5	81.0	77	1.984	16.5 : 1
D4	D4204T14	140/4250	190/4250	400/1750-2500	4	82.0	93.2	1.969	15.8 : 1

^A V40 CROSS COUNTRY

^B エンジンコード、コンポーネントおよびシリアルナンバーは、エンジンに打刻されています。タイプの表示 (p. 427)を参照してください。

関連情報

- クーラント - グレードおよび容量
(p. 438)
- エンジンオイル - グレードおよび容量
(p. 436)

エンジンオイル - 過酷な走行条件

過酷な走行条件では、通常よりも油温が上昇したり、オイル消費量が増加する場合があります。以下に過酷な走行条件をいくつか挙げます。

次のような状況で長時間走行する場合は、通常よりも頻繁にオイルレベルを点検(p. 388)してください。

- キャラバンやトレーラーけん引時
- 山道走行時
- 高速走行時
- 外気温が-30℃以下、または+40℃以上の環境で走行する場合。

前述の項目は、低温で短距離を走行する際にも当てはまります。

過酷な条件下で走行する場合は、100%化学合成オイルの使用を推奨しています。エンジンにさらなる保護を提供します。

ボルボ社の推奨品：



重要

エンジンのサービスインターバルに適応できるように、工場で特別な合成エンジンオイルがエンジンに充填されています。このオイルは、エンジンの寿命、始動性能、燃費および環境保全を十分考慮して選定されています。

エンジンのサービスインターバルに適応するため、指定されたエンジンオイルを使用してください。オイルの補充および交換時には、指定グレードのオイル以外使用しないでください。異なるオイルを使用すると、エンジンの寿命、始動性能、燃費および環境保全に悪影響を与えます。

指定グレードおよび粘度以外のオイルを使用した場合、ボルボ社の保証も適用されなくなります。

オイル交換は、ボルボ指定のサービス工場に依頼されることをお勧めします。

関連情報

- エンジンオイル - グレードおよび容量 (p. 436)
- エンジンオイル - 一般 (p. 387)

エンジンオイル - グレードおよび容量

各エンジンタイプに対する推奨のエンジンオイルグレードおよび容量が表内に記載されています。

ボルボ社の推奨品：



V40CC ^A エンジン	エンジンコード ^B	オイルグレード	オイルフィルターを含む容量 (リットル)
T4	B4164T	承認され、工場で充填されているオイル： オイルグレード WSS-M2C925-A サービス用オプション： オイルグレード：ACEA A5/B5 粘度：SAE 5W-30	約 4.1
D2	D4162T	オイルグレード：ACEA A5/B5 粘度：SAE 0W-30	約 3.8
D3	D5204T6	オイルグレード：ACEA A5/B5 粘度：SAE 0W-30	約 5.9

V40CC ^A エンジン	エンジンコード ^B	オイルグレード	オイルフィルターを含む容量 (リットル)
T4	B5204T8	オイルグレード : ACEA A5/B5 粘度 : SAE 5W-30	約 5.5
T5	B5204T9		約 5.5
T5	B5254T12		約 5.5
T5	B4204T11	カストロール エッジ Professional V 0W-20 または VCC RBS0-2AE 0w20	約 5.4
D4	D4204T14		約 5.2

^A V40 CROSS COUNTRY

^B エンジンコード、コンポーネントおよびシリアルナンバーは、エンジンに打刻されています。タイプの表示 (p. 427) を参照してください。

関連情報

- エンジンオイル - 過酷な走行条件
(p. 435)
- エンジンオイル - 点検および補充
(p. 388)

クーラント - グレードおよび容量

各エンジンタイプに対する認定のクーラント容量が表内に記載されています。

指定グレード： ボルボ純正クーラントと水を50%ずつ混ぜたもの²。パッケージ参照。

V40CC ^A エンジン ^B		容量 (リットル)
T4	B4164T	7.0
D2	D4162T	10.0
D3	D5204T6	8.0
T4	B5204T8	8.0
T5	B5204T9	
T5	B5254T12	
T5	B4204T11	7.5 (7.8 ^C)
D4	D4204T14	8.0 (8.4 ^C)

^A V40 CROSS COUNTRY

^B エンジンコード、コンポーネントおよびシリアルナンバーは、エンジンに打刻されています。タイプの表示 (p. 427) を参照してください。

^C フューエルドリブンヒーター装備車に適用されます。

関連情報

- クーラント - レベル (p. 392)

² 水質は、基準 STD 1285.1 を満たしていなければなりません。

トランスミッションフルード - グレードおよび容量

各トランスミッションタイプの指定トランスミッションフルードおよび容量が表に記載されています。

マニュアルトランスミッション

マニュアルトランスミッション	容量(リットル)	指定されたトランスミッションフルード
B6	約 1.6	BOT 350M3
M66	約 1.9 (約 1.45 ^A)	

A D4204T14 エンジンに適用されます。

オートマチックトランスミッション

オートマチックトランスミッション	容量(リットル)	指定されたトランスミッションフルード
TF-80SD	約 7.0	AW1
TG-81SC	約 6.6 ^A 約 7.5 ^B	AW1
MPS6	約 7.3	BOT 341

A ガソリンエンジン

B ディーゼルエンジン

**注意**

MPS6 の場合、特定のサービス間隔でオイル交換を行う必要があります。

その他のトランスミッションの場合、通常の走行条件では、トランスミッションオイルを交換する必要はありません。ただし、過酷な走行条件下では、交換が必要になる場合があります。

関連情報

- エンジンオイル – 過酷な走行条件 (p. 435)
- タイプの表示 (p. 427)

ブレーキフルード - グレードおよび容量

油圧式ブレーキシステムにはブレーキフルードが使用されています。ブレーキフルードは、ブレーキペダルからマスターブレーキシリンダーを通過して1つ以上のスレーブシリンダーへ油圧を伝達します。この油圧がメカニカルブレーキに作用します。

指定グレード： DOT 4

容量： 0.6 リットル

関連情報

- ブレーキおよびクラッチフルード - レベル (p. 393)

ウォッシャー液 - 品質および容量

ウォッシャー液は、ウインドスクリーンおよびリアウインドのワイパーと一緒に使用します。車両のウインドおよびヘッドライトを洗浄し、走行中の良好な視界を保ちます。

指定グレード： ボルボ純正ウォッシャー液 - 寒冷時の氷点下の気温でも凍結から保護します。

量：

- ヘッドライトウォッシャー**付**の車両：5.5 リットル。
- ヘッドライトウォッシャー**なし**の車両：3.2 リットル。

関連情報

- ウォッシャー液 - 補充 (p. 403)
- ワイパーブレード (p. 401)
- ワイパー/ウォッシャー (p. 126)

燃料タンク - 容量

各エンジンタイプに対する認定の燃料タンクの
容量が表内に記載されています。

V40CC ^A エンジン	容量(リットル)	指定グレード
T4 (B4164T)	約 62	燃料 - ガソリン (p. 330)
T4 (B5204T8)		
T5 (B5204T9)		
T4 AWD (B5204T8)	約 57	
T5 AWD (B5204T9)		
T5 AWD (B5254T12)		
T5 AWD (B4204T11)		
D2 (D4162T)	約 52	燃料 - ディーゼル (p. 330)
D3 (D5204T6)	約 60	
D4 (D4204T14)	約 62	

^A V40 CROSS COUNTRY

関連情報

- 適切な給油方法 (p. 328)
- エンジンの仕様 (p. 434)

エアコンディショナー、フルード - 容量 およびグレード

エアコンディショナーシステムに使用するフルードの指定グレードおよび容量が表に記載されています。

コンプレッサーオイル

V40CC ^A エンジン	エンジンコード ^B	容量	指定グレード
T4	B4164T	150 ml	PAG オイル
D2	D4162T	110 ml	
T5	B4204T11	60 ml	
D4	D4204T14		
T4	B5204T8	110 ml	
T5	B5204T9		
T5	B5254T12		
D3	D5204T6		

^A V40 CROSS COUNTRY

^B エンジンコード、コンポーネントおよびシリアルナンバーは、エンジンに打刻されています。タイプの表示 (p. 427)を参照してください。



クーラント

V40CC ^A エンジン	エンジンコード ^B	体重	指定グレード
T5	B4204T11	625 g	R134a
D4	D4204T14		
その他のエンジン		650 g	

^A V40 CROSS COUNTRY

^B エンジンコード、コンポーネントおよびシリアルナンバーは、エンジンに打刻されています。タイプの表示 (p. 427) を参照してください。



警告

冷暖房システムには、冷媒 R134a が加圧充填されています。このシステムの保守や修理は、必ずボルボ指定のサービス工場にご依頼ください。

関連情報

- エアコンディショナーシステム - トラブルシューティングと修理 (p. 394)

燃料消費量および CO2 排出量

燃料消費費と CO2 排出量は、さまざまな原因で悪化することがあります。

その例としては：

- 車両に追加装備がある場合は、車両の重量に影響します。
- ドライバーの走行スタイル。
- モデルの基本バージョンに標準装備されているホイールより大きいホイールをユーザーが指定した場合には、抵抗が増加します。
- 高速で走行すると風抵抗が増加します。
- 燃料の品質、道路および交通の状況、天候、車両の状態。

前述の例を組み合わせるだけでも、燃費は大きく向上します。

オクタン価 91 RON のガソリンを使用すると燃費が悪化して、エンジン出力が低下します。

注意

悪天候、トレーラーをけん引しながらあるいは標高の高い地域での走行、不適切な燃料の使用などが組み合わせると、車両が本来の性能を発揮できない場合があります。

関連情報

- 経済走行 (p. 333)
- 燃料 - ガソリン (p. 330)
- 燃料 - ディーゼル (p. 330)

タイヤ - 承認された空気圧

各エンジンタイプに対する認定のタイヤ空気圧
が表内に記載されています。

V40CC ^A エンジン	タイヤサイズ	速度 (km/h)	重量、1～3 名乗車		最大荷重		ECO プレッシャー ^B
			フロント (kPa) ^C	リア (kPa)	フロント (kPa)	リア (kPa)	フロント/リア (kPa)
すべて	205/60 R16	0 - 160	240	230	260	260	260
	225/50 R17	160 +	260	240	280	280	-
	225/45 R18						
	225/40 R19						
テンボラリースペアタイヤ		80 以下	420	420	420	420	-

A V40 CROSS COUNTRY

B 経済走行

C 国によっては、SI 単位であるパスカル(pascal、Pa)の他に、バール(bar)が使用されます。1bar = 100kPa。

注意

提供されているエンジンとタイヤ、またその組み合わせは、市場により異なっており、ご利用いただけないものもございますので、あらかじめご了承ください。

関連情報

- タイヤ - 寸法 (p. 349)
- タイヤ - 空気圧 (p. 348)
- タイプの表示 (p. 427)

あ

アクティブ・ヨー・コントロール.....	212
アクティブキセノンヘッドライト.....	118
アクティブハイビーム.....	116
アクティブベンディングランプ (ABL).....	118
アダプティブクルーズコントロール.....	227
一時的解除.....	233
追い越し.....	234
解除する.....	234
概要.....	230
機能.....	228
クルーズコントロール機能の変更.....	236
故障診断.....	240
車間時間の設定.....	232
スタンバイモード.....	233
設定した速度.....	231
レーダーセンサー.....	237
アディショナルヒーター	
電気式.....	169, 170
フェーエルドリブン.....	169
アプローチライト.....	122, 189
アラーム.....	207, 208, 209
アラームインジケーター.....	208
アラームシグナル.....	209
アラームの機能解除.....	210
アラームの点検.....	191
自動再ロック.....	208

自動作動.....	209
リモートコントロールキーが作動しな い.....	209
アルコールロック.....	292
アレルギーおよび喘息を誘発する物質....	152

い

イモビライザー.....	187
インジケーター・シンボル.....	91, 93, 95
インジケーターランプ、PCC.....	191
インストルメントの概要	
左ハンドル車.....	84
右ハンドル車.....	87
インターネット接続車両	
サービスと修理の予約.....	380
インテリア・エア・クオリティ・システム (IAQS)	
空気清浄.....	153
インテリア・シアター・ライト.....	122
インテリアライト	
オートマチック.....	121
インフォメーション・ディスプレイ....	90, 91
インフォメーションボタン、PCC....	190, 191
インフレーターブルカーテン.....	65, 68

う

ウインタータイヤ.....	351
ウインド/ルームミラー/ドアミラー.....	422
ウインドスクリーン	
ヒーター.....	131, 161
ウインドスクリーンウォッシャー.....	127
ウォッシャー	
ウインドスクリーン.....	127
ウォッシャー液、補充.....	403
リアウインド.....	127
ウォッシャー液	
容量.....	441
ウォッシャー液、補充.....	403

え

エア・クオリティ・システム IAQS.....	153
エアコンディショナー.....	161
温度コントロール.....	160
概要.....	150
実際の温度.....	151
自動調節.....	160
センサー.....	151
パーソナル選択.....	153
エアディストリビューション.....	154
一覧表.....	163

リサーキュレーション.....	162
エアディストリビューション、フルード	
容量およびグレード.....	443
エアバッグ.....	60
運転席側.....	60, 68
作動/非作動、PACOS.....	62
助手席側.....	60, 62, 68
エアバッグシステム.....	59
警告灯.....	58
エコガイド.....	94
エコラベル、PSC、オーナーズマニュアル..	23
エラーメッセージ	
アダプティブクルーズコントロール... 241	
ドライバー・アラート・コントロール. 265	
メッセージおよびシンボル参照.....	241
LKA.....	270
エレクトロニック・テンパレチャャー・コン	
トロール - ETC.....	157
エンジン	
オーバーヒート.....	334
解除する.....	298
始動.....	297
START/STOP.....	309
エンジンオイル.....	387, 435
過酷な走行条件.....	435
グレードおよび容量.....	436
フィルター.....	387
エンジンオイルレベルの点検.....	387

エンジン高温.....	334
エンジンドラッグコントロール.....	212
エンジンの仕様.....	434
エンジンブレーキ、自動.....	320
エンジンブロックヒーター.....	165
エンジンブロックヒーターおよび車内	
ヒーター	
即時停止.....	167
タイマー.....	167
ダイレクトスタート.....	166
メッセージ.....	168
エンジンルーム	
オイル.....	387
概要.....	385
クーラント.....	392
エンジンを切る.....	298

お

オイル、エンジンオイル参照.....	435, 436
オイルレベルゲージ.....	389, 390
オイルレベル低下.....	387
オートブレーキ機能付衝突警告システム..	253
オートマチックトランスミッション. 301, 305	
けん引.....	342
トレーラー.....	335

マニュアルギヤポジション(ギヤトロ	
ニック).....	302
オートリロック機能.....	199
オーナーズマニュアル、エコラベル.....	23
オーバーヒート.....	334
お子様	
ギヤシフトインジケーター.....	78
車内の位置.....	78
セーフティ.....	64, 73
チャイルドシートおよびサイドエア	
バッグ.....	64
チャイルドロック.....	73
温度	

実際の温度.....	151
温度コントロール.....	160

か

カーキーメモリー.....	186
カーゴスペース	
カーゴネット.....	181
固定ポイント.....	179
荷物の積み込み.....	177
パーセルシェルフ.....	183
ライト.....	121
外気温計.....	99
外寸.....	429

回転方向.....	347
各種計器および操作ボタン.....	84, 87
ガソリンのグレード.....	330
型式認定	
タイヤ・プレッシャー・モニタリング.....	373
リモートコントロールキーシステム.....	210
レーダーシステム.....	290
カメラセンサー.....	248, 260
カメラセンサーの故障診断.....	249
カラーコード、塗装.....	425
カラーコード、ペイント.....	425
ガラス	
ラミネーテッド/強化.....	23
ガラスルーフ、電動スライドカーテン.....	132
間欠ワイパー.....	126

き

キー.....	185, 187
キー位置.....	105
キーブレード.....	192, 193
キーブレードでロック解除.....	197
キーレス - ロック.....	196
キーレス - ロック解除.....	197

キーレス始動(キーレスドライブ)...	195, 196, 197, 198, 297
キーレスドライブ..	195, 196, 197, 198, 297
ギヤシフトインジケーター.....	301
ギヤセクターインヒビター.....	308
ギヤセクターインヒビター、機械的に解除.....	308
ギヤセクターインヒビターの解除.....	308
ギヤトロニック.....	302
救急.....	358
救急用品キット.....	358
給油.....	204, 332
燃料給油口フラップ.....	328
燃料給油口フラップ、手動で開く.....	328
燃料給油口フラップ、ロック.....	204
燃料容器による補給.....	332
補充.....	328
緊急パンクリペアーキット.....	366
位置.....	366
概要.....	368
コンポーネントの収納.....	372
再点検.....	370
シーラント.....	372
対処.....	368
タイヤに空気を充填する.....	371

く

空気清浄

車内.....	151, 152, 153
素材.....	153

クーラント

容量およびグレード.....	438
クーラント、点検および補充.....	392
クーリングシステム.....	325
オーバーヒート.....	325

曇り

ウインドの手入れ.....	150
ヘッドライト内の凝結水.....	420
クラクション.....	113

クリーンエアフィルター

クリーン・ゾーン・インテリア・パッケージ(CZIP).....	152

クルーズコントロール

一時的解除.....	225
解除する.....	227
設定した速度.....	223
セットした速度に戻る.....	226
グローバルオープニング機能.....	150, 201

グローブボックス

クーリング.....	175
ロック.....	202

け

計器

スピードメーター.....	90, 91
タコメーター.....	90, 91
燃料計.....	90, 91

警告音

衝突警告システム.....	257
警告灯.....	91, 93, 97
アダプティブクルーズコントロール... ..	228
エアバッグ - SRS.....	97
警告.....	97
シートベルトリマインダー.....	57, 97
充電不良.....	97
衝突警告システム.....	257
スタビリティ&トラクション・コント	
ロール・システム.....	212
パーキングブレーキ作動.....	97
ブレーキ系統の不具合.....	97
油圧低下.....	97
経済走行.....	333
けん引.....	341
けん引フック.....	343
けん引重量およびトウボール荷重.....	431
けん引フック.....	343

こ

小石などによる傷および引っかかり傷.....	424
高圧ヘッドライトウォッシャー.....	127
コーナー・トラクション・コントロール..	212
コンパインド・メーター・パネル.....	90, 91
コンパス.....	133
較正.....	133

さ

サービスと修理の予約.....	380
サービスプログラム.....	380
サービスポジション.....	401
サイクリストの検知.....	255
再生.....	332
最大ルーフ荷量.....	430
サイドエアバッグ SIPS.....	63, 68
座席、シート参照.....	107
三角警告板(停止表示板).....	357

し

シート.....	107
パワーシート.....	109

ヒーター.....	158
フロントシートのバックレストを倒す.....	108
ヘッドレスト、リア.....	110
リアシートバックレストを倒す.....	111
シートのメモリー機能.....	109
シートベルト.....	54
シートベルトテンショナー.....	57
シートベルトリマインダー.....	57
着用.....	55
妊婦の方.....	56
外す.....	56
リアシート.....	57
シートベルトテンショナー.....	57, 68
シートベルトリマインダー.....	57
シーラント.....	372
システム	
作動.....	68
自動洗車機.....	420
シミや汚れ.....	423
車間警告機能.....	243
シンボルおよびメッセージ.....	245
制限事項.....	244
車間時間の設定.....	243
車線保持アシスタント	
操作.....	268
ジャッキ.....	358
車内小物入れなど.....	172

車内ヒーター.....	165
車両重量.....	430
車両総重量.....	430
車両通行帯ヘッドライト照射パターン.....	123
アクティブペンディングランプ.....	123
ハロゲンヘッドライト.....	123
車両の回収.....	344
ジャンプスタート.....	299
渋滞アシスタント.....	234
収納スペース	
運転席側.....	174
グローブボックス.....	175
トンネルコンソール.....	174
重量	
車両重量.....	430
出力.....	434
衝突、衝突事故を参照.....	69
衝突警告システム.....	253, 254
一般的制限事項.....	259
機能.....	254
操作.....	257
歩行者検知.....	256
レーダーセンサー.....	237, 247
衝突事故.....	69
照明スイッチ類.....	113
触媒コンバーター.....	332

けん引.....	342
シンボルおよびメッセージ	
アダプティブクルーズコントロール... ..	241
オートブレーキ機能付衝突警告システ ム.....	252, 261
ドライバー・アラート・コントロール.....	265
LKA.....	270
シンボルマーク	
警告灯.....	91, 93
表示灯および警告灯.....	91, 93, 95

す

推奨チャイルドシート	
一覧表.....	74
スキッド.....	327
煤フィルター.....	332
煤フィルターがいっぱい.....	332
スタビリティ・システム.....	212
スタビリティ&トラクション・コントロー ル・システム.....	212
ステアリングフォース、車速感応式.....	289
ステアリングフォースレベル、ステアリン グフォース参照.....	289
ステアリングホイール.....	112
キーパッド.....	112

ステアリングホイールの調節.....	112
ステアリングホイールのキーパッド.....	112
ステアリングホイールの調節.....	112
ステアリングホイールロック.....	298
スピンコントロール.....	212
スペアタイヤ.....	352
取り出し.....	352
取り付け.....	355
滑りやすい路面での運転.....	327
寸法.....	429

せ

清掃	
シートベルト.....	424
自動洗車機.....	420
洗車.....	420
内装.....	423
リム.....	421
セーフティモード.....	69
始動の試行.....	70
車両の移動.....	71
セーフティロック	
お子様.....	73
洗車.....	420
全輪駆動(AWD).....	320

そ

走行.....	327
クーリングシステム.....	325
テールゲートを開けたまま走行.....	326
トレーラーなどのけん引.....	334
走行可能なパンクチャータイヤ.....	363
走行中にご注意いただきたいこと.....	327
走行統計.....	148
走行特性の最適化.....	289
速度記号、タイヤ.....	350
速度リミッター.....	219
一時的解除.....	221
機能オフ.....	222
速度超過時のアラーム.....	222
はじめに.....	219, 220

た

タイプの表示.....	427
タイヤ	
ウインタータイヤ.....	351
回転方向.....	347
空気圧.....	348, 446
仕様.....	446
タイヤ・プレッシャー・モニタリン グ.....	358, 359, 361, 364

トレッド溝の深さ.....	351
トレッド磨耗インジケータ.....	347
パンク修理.....	366
メンテナンス.....	346
タイヤ・プレッシャー・モニタリング.....	358, 359, 361, 364
タイヤ空気圧表示ラベル.....	348
タイヤ交換.....	352
タイヤサイズ.....	349
タイヤの磨耗インジケータ.....	347
タイヤプレッシャーモニター	
解除する.....	362
アラームのセット.....	362
推奨.....	362
調節.....	360
低タイヤ空気圧.....	363
ランフラットタイヤ (SST).....	363
脱着式トウバー	
保管.....	337

ち

チャイルドシート.....	73
推奨.....	74
タイプ.....	80
チャイルドシート用のアッパーマウン ティングポイント.....	82

チャイルドシート用 ISOFIX 対応ア タッチメントシステム.....	79
ISOFIX 対応アタッチメント付きチャイ ルドシートのサイズ等級.....	79
チャイルドロック.....	206

て

ディーゼル.....	330
空タンク.....	331
ディーゼル微粒子除去フィルター.....	332
ディスプレイ照度.....	114
テールゲート	
ロック/ロック解除.....	202
デッドロック.....	204
一時的解除.....	205
解除.....	204
デフロスター.....	161
電気系統.....	408
電源ソケット.....	176
カーゴスペース.....	180
電子制御フルオートマチック・エアコン	
ディショナー - ECC.....	156
電動格納式ドアミラー.....	131

と

ドアミラー.....	130
ドアミラーのリセット.....	130
冬季の運転.....	327
トウパー	
脱着式、アタッチメント.....	338
脱着式、取り外し.....	339
トウパー、トーイングブラケット参照.....	336
トウパー脱着式	
取り付け/取り外し.....	338, 339
道路標識情報.....	216
制限事項.....	218
操作.....	216
トーイングブラケット.....	336, 337
仕様.....	337
時計、調節.....	100
塗装	
カラーコード.....	425
塗装面の損傷と補修.....	424
ドライバー・アラート・コントロール.....	263
操作.....	264
ドライバー・アラート・システム - DAC.....	263
トラクション・コントロール.....	212
トラブルシューティング	
アダプティブクルーズコントロール... ..	240
トランスボンダー.....	19

トランスミッション.....	300
オートマチック.....	301, 305
マニュアル.....	300
トランスミッションフルード	
容量およびグレード.....	439
トリップコンピューター.....	138, 143, 147, 148
アナログ・インストルメント・パネル.....	139
トリップメーター、リセット.. ..	141, 142, 145, 146
トリップメーター(走行距離計).....	99
トレーラー.....	334
ケーブル.....	334
蛇行.....	340
トレーラーなどのけん引.....	334
トレーラー・スタビリティ・アシスト.....	212, 340
トレーラーなどのけん引	
けん引重量.....	431
トウボール荷重.....	431
トレッド溝の深さ.....	351
トンネルコンソール.....	174
12V 電源ソケット.....	176
アームレスト.....	174
シガレットライターおよび灰皿.....	175
トンネルの検出.....	115

な

内装.....	423

に

二酸化炭素の排出.....	445
日常の手入れ.....	420
レザー製内装.....	423
荷物の固定(荷物の積み込み).....	179
荷物の積み込み	
カーゴスペース.....	177, 179
概要.....	177, 179
固定ポイント.....	179
長い荷物.....	178
ルーフの荷物.....	178

ね

熱を反射するウインドスクリーン.....	19
燃料タンク	
容量.....	442

は

パーキングブレーキ.....	324

パークアシスト.....	271
機能.....	271
パークアシストセンサー.....	274
不具合インジケータ.....	274
リア.....	272
パークアシスト・カメラ.....	275
設定.....	278
パークアシスト・パイロット(PAP).....	279
機能.....	280
シンボルおよびメッセージ.....	284
制限事項.....	282
操作.....	281
パークアシスト・パイロット(PAP).....	279
パーセルシェルフ.....	183
ハイ/ロービーム、ライト参照.....	115
ハイビーム、自動起動.....	116
バイブレーションダンパー.....	336
バッグホルダー.....	179
折りたたみ式.....	179
バックレスト.....	108
フロントシートを倒す.....	108
撥水/防塵加工コーティング.....	422
撥水加工コーティング、清掃.....	422
バッテリー.....	404
警告灯.....	405
ジャンプスタート.....	299
バッテリー上のシンボル.....	405

メンテナンス.....	404
リモートコントロールキー/PCC.....	193
パニックアラーム機能.....	189
パネルライト.....	114
パノラマ・ガラスルーフ用電動ローラーブ ラインド.....	132
バルブ、ランプ参照.....	395
パワーウインド.....	128
パワーウインドのリセット.....	129
パワーガイド.....	94
パワーシート.....	109
パワーシフトトランスミッション... 305, 342	
ハンドブレーキ.....	324

ひ

ヒーター	
ウインドスクリーン.....	131
シート.....	158
リアウインド.....	131
ルームミラー/ドアミラー.....	131
非常装備	
救急用品キット.....	358
三角警告板(停止表示板).....	357
非常点滅表示灯.....	119
ヒューズ.....	409

エンジンルーム.....	410
概要.....	409
グローブボックス下.....	414
交換.....	409
右側フロントシート下.....	417
ヒューズボックス.....	409
表示ラベル.....	427
ヒル・ディセント・コントロール.....	320

ふ

ファン	
ECC.....	159
ETC.....	159
フォグランプ	
リア.....	118
フットブレーキ.....	321, 323
フューエル.....	329, 330
燃費.....	348, 445
フューエルフィルター.....	331
フューエルドリブンヒーター	
タイマー.....	167
フルード、容量... 438, 439, 441, 442, 443	
フルードおよびオイル... 438, 439, 441, 443	
ブレーキ.....	321, 323
アダプティブブレーキランプ.....	119
アンチロックブレーキシステム、ABS.. 323	

コンパインド・メーター・パネル内の シンボル.....	322
ハンドブレーキ.....	324
ブレーキ系統.....	321, 323
ブレーキフルードの補充.....	393
ブレーキランプ.....	119
EBA (エマージェンシー・ブレーキ・ア シスタンス)	323
ブレーキおよびクラッチフルード.....	393
ブレーキフルード	
グレードおよび容量.....	441
ブレーキランプ.....	119
フロアマット.....	176
フロントシート	
ヘッドレスト.....	108
フロントワイパー.....	126
レインセンサー.....	126

へ

ヘッドライト.....	395
ヘッドライト光軸補正.....	114
ヘッドライト制御.....	113
ヘッドライト内の凝結水.....	420
ヘッドライトパターン、調整.....	123

ヘッドレスト	
下げる.....	110
フロントシート.....	108
リアセンターシート.....	110
ベンチレーション.....	154

ほ

ホイール	
スペアタイヤ.....	352
清掃.....	421
タイヤチェーン.....	351
取り外し.....	353
ホイールおよびタイヤ.....	352
ホイールナット.....	350
ロック可能.....	350
方向指示器.....	120
防錆.....	423
ホームセーフライト点灯時間.....	122
ホーン.....	113
歩行者エアバッグ.....	71
移動.....	72
収納.....	72
歩行者保護.....	253
ポジション/パーキングランプ.....	115

保守

防錆.....	423
ボンネット、開ける.....	385

ま

マニュアルギヤポジション(ギヤトロニッ ク).....	302
マニュアルトランスミッション.....	300
けん引.....	342
トレーラー.....	335
GSI - ギヤセレクトターレバーアシスタ ンス	301

み

磨き.....	421
水溜りでの運転.....	325

む

むち打ち症、WHIPS.....	66

め

メイクアップミラー.....	121, 176
メインバッテリー.....	326, 404
過負荷.....	326
メーター・パネル照度、ライト参照.....	114
メッセージおよびシンボル	
アダプティブクルーズコントロール... 241	
エンジンブロックヒーターおよび車内 ヒーター.....	168
オートブレーキ機能付衝突警告システ ム.....	252, 261
ドライバー・アラート・コントロール LKA.....	270
メッセージ.....	136
インフォメーション・ディスプレイ... 135	
メニュー	
コンパインド・メーター・パネル.....	134
メニュー概要、アナログ.....	135
メニュー概要、デジタル.....	135

ら

ライト.....	394
アクティブキセノンヘッドライト.....	118
アプローチライト.....	122, 189
コントロール.....	121

自動点灯機能、車内.....	121
車内.....	121
ディスプレイ照度.....	114
トンネルの検出.....	115
ハイ/ロービーム.....	115
バルブ、仕様.....	400
ヘッドライト光軸補正.....	114
ホームセーフライト.....	122
ポジション/パーキングランプ.....	115
メーター・パネルランプ.....	114
リアフォグランプ.....	118
ラベル.....	427
ラミネーテッドガラス.....	23
ランプ、照明を参照.....	394
ランプ、バルブ交換.....	395
ハイビーム(アクティブキセノンヘッ ドライト装備車).....	397
方向指示器、フロント.....	398
ポジション/パーキングランプ.....	398
メイクアップミラー.....	400
リアバルブホルダー：方向指示器、ブ レーキランプおよび後退灯.....	399
リアフォグランプ.....	399
ロービーム(ハロゲンヘッドライト装 備車).....	396
ハイビーム(ハロゲンヘッドライト ウオッシャー装備車).....	397
ランフラットタイヤ(SST).....	363

り

リアウインド	
ヒーター.....	131
リアシート	
ヒーター.....	158
リアシートバックレスト、倒す.....	111
リアバルブ	
位置.....	398
リセット、トリップメーター.. 141, 142,	
145, 146	
リバースギヤインヒビター.....	300
リム、寸法.....	349
リモートコントロールイモビライザー.... 188	
リモートコントロールキー.... 185, 186, 187	
機能.....	188
作動範囲.....	190, 195
損失.....	185
脱着式キーブレード.....	192, 193
電池の交換.....	193
リモートコントロールキーシステム、型式 認定.....	210
リレー/ヒューズボックス、ヒューズ参照. 409	

る

ルーフ荷重、最大重量.....	430

ルームミラー.....	132
自動防眩機能.....	132
ルームミラー/ドアミラー	
コンパス.....	133
電動格納式.....	131
ドア.....	130
ヒーター.....	131
ルームミラー.....	132
ルームランプ、ライト参照.....	121

れ

冷暖房システム	
修理.....	394
冷媒.....	394
レインセンサー.....	126
レーザースセンサー.....	250
レーダーセンサー.....	228
制限事項.....	237, 238
レーン・キーピング・エイド - LKA.....	266
レザー製内装、清掃方法.....	423

ろ

ロードインデックス.....	349

ロック	
手動ロック.....	200
ロック.....	199
ロック解除.....	199, 200
ロック/ロック解除	
車内から.....	200
テールゲート.....	202
ロックインジケータ.....	187
ロック解除	
車外から.....	199
車内から.....	201
ロック確認.....	187
ロックホイールナット.....	350

わ

ワイパー/ウォッシャー.....	126
ワイパーブレード.....	401
交換.....	401
交換、リアウインド.....	402
サービスポジション.....	401
清掃.....	402
ワックスがけ.....	421

A

ACC(アダプティブクルーズコントロール).....	227
AWD(全輪駆動).....	320

B

BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム).....	284, 285
BLISのエラーメッセージ.....	289
BLISのメッセージ.....	289

C

City Safety™.....	246
CO ₂ エミッション.....	445
CTA.....	287
CZIP(クリーン・ゾーン・インテリア・パッケージ).....	152

E

ECC(オートマチック・エア・コンディショナー).....	156
Eco Cruise.....	318

ECO プレッシャー..... 348, 446
ETC(エレクトロニック・テンパレチャー・
コントロール)..... 157

F

FSC(環境ラベル)..... 23

G

GSI(ギヤセクターレバーアシスタンス)..... 301

H

HDC..... 320
Hill Start Assist..... 309

I

IAQS(インテリア・エア・クオリティ・シ
ステム)..... 153

L

LKA(レーン・キーピング・エイド)..... 266

M

MY CAR..... 137

P

PACOS..... 62

PAP(アクティブパーキングアシスト)..... 279

PCC(パーソナル・カー・コミュニケーター)

機能..... 188

作動範囲..... 191

PCC 付きリモートコントロールキー

作動範囲..... 191

Personal Car Communicator..... 191

S

Sensus..... 104

SIPS エアバッグ..... 63

Start/Stop..... 309

エンジンが停止しない..... 312

機能と操作..... 310

T

TPMS(タイヤ・プレッシャー・モニタリン
グ・システム)..... 358, 359, 361

TSA(トレーラー・スタビリティ・アシス
ト)..... 212, 340

V

Volvo ID..... 20

Volvo Sensus..... 104

W

WHIPS

後部衝撃吸収リクライニング機構.. 66, 68

チャイルドシート/ブースタークッ

ション..... 67

着座姿勢..... 67



メモ



メモ



メモ



メモ

